TIBCO WebFOCUS®

InfoAssist 利用ガイド

バージョン8.2.07
February 2022
DN4501749.0321

Copyright © 2022. TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.

目次

1. InfoAssist の概要 15

InfoAssist のハイライト 15

InfoAssist へのアクセス 16

WebFOCUS 開始ページからの InfoAssist へのアクセス 16

App Studio からの InfoAssist へのアクセス 17

その他の InfoAssist バージョン 17

InfoAssist Basic 17

InfoAssist Basic へのアクセス 19

InfoMini 19

2. InfoAssist インターフェースのナビゲート 21

InfoAssist アプリケーションウィンドウ 22

アプリケーションメインメニュー 23

InfoAssist オプションへのアクセス 27

開始 28

ヘルプ 28

InfoAssist ユーザ設定の変更 28

表示 29

レイアウト 30

フォーマット 30

環境とスタイル 31

グローバル設定の変更 32

クイックアクセスツールバー 32

リボン 35

リボンの使用 35

ホームタブ 37

挿入タブ 38

フォーマットタブ 39

データタブ 40

スライサタブ 41

レイアウトタブ 42
表示タブ 43
フィールドタブ 44
シリーズタブ 45
リソースパネルの理解 46
データウィンドウの使用 50
データウィンドウを使用したレポートへのフィールド追加 52
パスの適用による無関係フィールドの無効化 55
クエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用 57
フィールドコンテナの使用 59
レポートのフィールドコンテナ 59
グラフおよびビジュアライゼーションのフィールドコンテナ 60
実行時データ選択用のパラメータの追加 64
クエリウィンドウでのコンテキストメニューオプションの使用 68
動的グループ 74
キャンバスの理解 77
キャンバスでのクエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用 79
出力オプションの理解 79
ナビゲーションタスクバーの使用 81
ステータスバーの使用 83
3. レポートの作成とカスタマイズ 85
レポートの作成 85
レポート出力タイプの選択 87
プロシジャの設定機能の使用 88
WebFOCUS 開始ページで使用するサムネールの作成 93
レポートのスタイル設定 95
フィールドフォーマットの変更 106
カスタムレポート機能の活用 111
カスタムレポート出力の作成 118
4. グラフの作成とカスタマイズ 127

グラフによるデータの視覚化 128
インサイトによる動的グラフの分析 128
インサイトでのグラフ操作 132
フィールドの検索 137
フィールドの集計演算子の変更 137
インサイトでのフィルタの設定 139
フィルタのタイプ 140
フィルタの追加 143
フィルタの削除 144
オプションツールバーの使用 144
フォンモードでのインサイトの使用 149
フォンモードでのオプションの使用 150
フィルタ 151
全般的な操作性 152
グラフタイプの選択 152
棒グラフ 153
棒グラフのタイプ 154
円グラフ 155
円グラフのタイプ 156
折れ線グラフ 156
折れ線グラフのタイプ 157
面グラフ 158
面グラフのタイプ 159
散布図 160
複数軸グラフ 160
XY プロットグラフ 161
XY プロットグラフタイプ 162
3D グラフ 162
3D グラフのタイプ 163
株価グラフ 164

株価グラフのタイプ....164
その他のグラフ....165
HTML5 グラフ....166
複合グラフ....166
マップ....167
グラフの作成....168
グラフ出力....172
ビニング....173
ヒストグラムでの値のビニング....177
グラフフォーマットツールへのアクセス....180
ライブプレビューの使用....180
シリーズのフォーマット設定....181
関連するダイアログボックス....182
シリーズフォーマットダイアログボックス....182
タイトルの編集ダイアログボックス....185
条件付きスタイルルールダイアログボックス....186
シリーズ要素のコンテキストメニュー....187
シリーズプロパティの使用....190
シリーズタブでのシリーズの強化....191
シリーズタブでのグラフのフォーマット設定....193
データラベルのフォーマット設定....201
関連するダイアログボックス....202
ラベルフォーマットダイアログボックス....202
スタイルダイアログボックス....210
線スタイルダイアログボックス....211
データラベル要素のコンテキストメニュー....212
データラベルプロパティの使用....212
凡例のフォーマット設定....213
凡例フォーマットダイアログボックス....213
凡例要素のコンテキストメニュー....216

凡例プロパティの使用 216
罫線のフォーマット設定 218
罫線のフォーマットダイアログボックス 219
罫線要素のコンテキストメニュー 221
罫線プロパティの使用 222
軸ラベルのフォーマット設定 228
軸のフォーマットダイアログボックス 229
軸 2 オプション 235
軸要素のコンテキストメニュー 236
軸プロパティの使用 237
フレームおよび背景のフォーマット設定 240
フレームと背景ダイアログボックス 241
フレームと背景のコンテキストメニュー 249
フレームと背景のプロパティの使用 250
メータグラフのフォーマット設定 251
メータフォーマットダイアログボックス 252
メータ要素のコンテキストメニュー 255
メータプロパティの使用 255
ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定 260
その他のフォーマット機能の使用 263

5. ドキュメントの作成とカスタマイズ 269

ドキュメントデザインビューへのアクセス 269
ドキュメントの作成 273
複数データソースからのレポートの挿入 273
新規レポートの挿入 274
新規グラフの挿入 274
既存レポートの挿入 275
単一レポートからのドキュメントの作成 276
テキストとイメージの挿入 276
ドキュメント内のコンポーネントの編集 277

6. ビジュアライゼーションの作成とカスタマイズ 287
ビジュアルの作成 287
ビジュアルタイプの変更 289
ビジュアルの選択 289
リスト 293
棒グラフ 295
折れ線グラフ 298
面グラフ 300
円グラフ 302
リンググラフ 304
散布図 306
バブルグラフ 307
マトリックスマーカーグラフ 309
ツリーマップ 310
メータ 311
ヒートマップ 313
マトリックスグラフ 314
ビジュアライゼーションのインタラクティブ操作 315
ビジュアルの最小化と最大化 322
ビジュアルの名前変更 323
クリッピングによる複数ディメンション値のグループ化 324
ビジュアルの実データの表示 330
ビジュアライゼーションモードでのマルチドリルダウンの使用 333
複数 Y 軸の比較ビジュアルの作成 334
ビジュアライゼーションのカスタマイズ 336
軸ラベルのフォーマット設定 336
軸のフォーマットダイアログボックス 337
軸プロパティの使用 342
データラベルのフォーマット設定 346
凡例のフォーマット設定 347

シリーズのフォーマット設定.....347
ビジュアル内のデータに使用するフォーマット設定および表示ツール.....348
ハンドルによるビジュアルの配置.....351
ストーリーボードの使用.....353
ビジュアライゼーションのアニメーション化.....355
実行時のビジュアライゼーションの使用.....356
実行時のフィルタ設定.....356
実行時のデータ表示.....359
実行時ツールバーオプションの使用.....359
7. レポートおよびグラフのナビゲート.....361
オートドリルダウンの使用.....361
オートリンク機能によるコンテンツのリンク.....365
オートリンクにオプションパラメータを使用したドリルダウン結果の強化.....367
マルチドリルダウンの使用.....374
8. レポート、グラフ、ビジュアライゼーションのスタイル設定.....385
レポートのカスタマイズ.....385
レポートスタイルダイアログボックスの使用.....388
色ダイアログボックスの使用.....389
レポートグループのレポートオプションの使用.....390
レポート機能の有効化.....393
グラフ機能の有効化.....394
グラフへのラベルの追加.....396
インタラクティブオプションの使用.....396
ページ設定のカスタマイズ.....399
9. マップ作成による傾向の特定.....401
マップの略歴.....401
InfoAssist と ESRI の統合.....403
ESRI On Premise 環境の構成.....405
InfoAssist でのマップの作成とカスタマイズ.....408
カスタム地理的役割の追加.....426

Leaflet マップの追加地域の有効化 433
デフォルト地域 435
10. データの操作 437
グラフのミッシングデータ 437
データソースの追加と切り替え 438
データのソース設定 439
TIBCO WebFOCUS での一時項目の作成 440
一時項目の選択 440
一時項目 (DEFINE) 441
一時項目 (COMPUTE) 442
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) でのフィールドタイトルの使用 443
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスでのテキストエリアの幅の調整 446
マスターファイルから独立した一時項目の作成 448
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) のミッシング値表示の有効化 448
データの結合と混合 449
JOIN 449
データの混合 450
フィルタによるデータ表示のカスタマイズ 453
フィルタの設定および解除 463
プロンプト機能による実行時のフィールド情報の選択 463
出力フォーマット 464
HTML5 467
追加の出力タイプの有効化 467
ユーザ選択 467
11. HOLD ファイルの作成 469
HOLD ファイルの用途 469
HOLD ファイルの格納 470
レポートおよびグラフの出力フォーマット 470
HOLD ファイルの作成 471

TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド.....479
HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成 480
12. 複数ページのドキュメントの作成 481
複数ページのドキュメントの作成 481
複数ページの Analytic Document ダッシュボードの作成 483
ページメニューのナビゲート 484
キャッシュオプションの使用 486
InfoAssist でのキャッシュの有効化 486
13. インタラクティブコンテンツの作成 487
Analytic Document の概要 487
InfoAssist での Analytic Document の有効化 495
インタラクティブコンテンツの作成 496
インタラクティブレポート..... 496
レポートでの Analytic Document オプションの構成.....496
全般タブ.....497
メニューオプションタブ.....498
色タブ.....499
詳細タブ.....501
レポートでのページナビゲーションの使用.....501
Analytic Document へのコメントの追加..... 504
インタラクティブグラフ..... 508
インタラクティブダッシュボード..... 509
入力フォーム.....510
ターゲットレポート.....510
ターゲットとソースとしての複数レポートの使用.....512
インタラクティブコンテンツの操作 520
インタラクティブコンテンツの使用に関する注意事項..... 530
フルスクリーンモードでのコンテンツの実行..... 534
オプションメニューを使用した一般的なタスクの実行..... 536
レポートの Analytic Document オプション.....540

デザイナスタイルレポートのセルメニューオプション.....540
レガシーレポートのセルメニューオプション.....541
レポートでの列タイトルメニューの使用.....542
レポートでのソートフィールドインジケータの使用.....548
グラフの Analytic Document オプション.....549
グラフ/集約ツールを使用したグラフの操作.....549
レガシースタイルのグラフオプション.....550
グラフ/集約ツールを使用したコンテンツの作成.....553

14. スライサの使用 557

スライサの作成 557
スライサによるフィルタの適用 561
スライサの連鎖.....562
スライサの編集ダイアログボックス 566
全般タブ.....567
最大レコード数タブ.....568
グループタブ.....568

15. InfoMini アプリケーションの作成 571

InfoMini アプリケーションの概要 571
InfoMini ボタンの使用.....572
InfoMini レイアウトの理解.....573
インタラクティブモード.....573
編集モード.....573
リボン.....574
ホームタブ.....574
挿入タブ.....575
フォーマットタブ.....575
データタブ.....575
スライサタブ.....576
レイアウトタブ.....576
フィールドタブ.....576

シリーズタブ....577
InfoMini アプリケーションの作成 577
A. リボンのコマンドリファレンス 579
レポートのリボンコマンド 579
ホームタブ.... 579
フォーマットタブ.... 582
データタブ.... 584
スライサタブ.... 585
レイアウトタブ.... 586
表示タブ.... 588
フィールドタブ.... 590
グラフのリボンコマンド 596
ホームタブ.... 596
フォーマットタブ.... 598
データタブ.... 604
スライサタブ.... 605
レイアウトタブ.... 606
表示タブ.... 608
フィールドタブ.... 610
シリーズタブ.... 613
ドキュメントのリボンコマンド 615
ホームタブ.... 615
挿入タブ.... 618
フォーマットタブ.... 619
データタブ.... 621
スライサタブ.... 623
レイアウトタブ.... 624
表示タブ.... 626
フィールドタブ.... 628
シリーズタブ.... 632

ビジュアライゼーションのリボンコマンド 634
ホームタブ 634
フォーマットタブ 637
表示タブ 639
フィールドタブ 640
シリーズタブ 641

B. InfoAssist 警告メッセージの理解 643

InfoAssist 警告メッセージ 643
未サポートの構文およびオブジェクト 645

Legal and Third-Party Notices 647

1

InfoAssist の概要

InfoAssist は、ビジネスユーザが複雑なレポートを作成して的確な分析を行うために要求される、使い勝手のよい最新の adhoc レポート機能を提供します。

InfoAssist は、企業がこれまで抱えていた adhoc レポートの問題点を解決するため、使い勝手がよく、信頼性の高いソリューションを目指して開発されました。

InfoAssist には、次のバージョンがあります。

- **InfoAssist**　レポート作成ツールの完全バージョンです。
- **InfoAssist Basic**　レポートアシスタントおよびグラフアシスタントの既存ユーザに提供される、InfoAssist の機能の一部が制限されたバージョンです。
- **InfoMini**　InfoAssist レポートから作成され、実行時に InfoAssist 機能の一部が組み込まれるアプリケーションです。

トピックス

- InfoAssist のハイライト
- InfoAssist へのアクセス
- その他の InfoAssist バージョン

InfoAssist のハイライト

InfoAssist は、TIBCO WebFOCUS の Web ベースの adhoc レポートツールです。

InfoAssist を使用して、次の作業をすばやく簡単に行うことができます。

- IT 技術を要さずに、あらゆる企業情報ソースから、複雑なレポート、グラフ、ビジュアライゼーション、ドキュメントを作成する。
- レポートの作成などの作業を、マウスを数回クリックするだけで完了する。
- データに内在する意味を明確にするための動的なビジュアライゼーションを作成する。
- マップを作成してデータの傾向やパターンを特定する。
- レポートからグラフ、またはグラフからレポートへとクリック 1 回で変換する。

- データを複数の視点から表示可能な高度なオプションを使用して、いくつものレポートとグラフを同時に分析する。
- マルチディメンションソースを含め、企業情報ソースを参照する。
- さまざまなフォーマットでデータを出力する (例、HTML、HTML5 (グラフのみ)、 Analytic Document、PDF、Analytic PDF、Excel、PowerPoint)。

InfoAssist は、AJAX (asynchronous JavaScript and XML) 技術を活用したリッチインターネットアプリケーションです。最新鋭の機能を、Microsoft Windows と同様のインターフェースで提供しています。極めて直観的な操作が可能であることから、ユーザは adhoc レポート機能の技術的複雑さから解放されると同時に、ビジネス上の情報ニーズを満たすために不可欠な機能には、すべて無制限にアクセスすることができます。

InfoAssist は、強力な adhoc レポートツールであり、レポートとグラフの設計および展開をすばやく効率的に行えます。このツールは、双方向的でカスタマイズが可能な WYSIWYG (What You See Is What You Get) 開発環境を採用しています。ユーザは開発中いつでも即座に、レポートやグラフが適切に作成されているかどうかを確認することができます。

注意：InfoAssist で作成されたレポートを直接編集する場合、プロシジャ上部の内部コメントの削除や変更は行わないでください。これらのコメントまたはプロシジャの内容を変更すると、このレポートを InfoAssist で開いた際に、予期できない結果が生じる可能性があります。また、ユーザによってテキストエディタで追加された WebFOCUS 構文は、ファイルを InfoAssist で開いた際に変更され、コメントが削除される場合があります。一般に、プロシジャを直接編集することは、推奨されません。

InfoAssist へのアクセス

ここでは、InfoAssist の各バージョンにすばやくアクセスする方法について説明します。InfoAssist は、WebFOCUS 開始ページおよび App Studio からアクセスすることができます。

WebFOCUS 開始ページからの InfoAssist へのアクセス

WebFOCUS にログインした後、既存のコンテンツを編集するオプションを選択するか、新しいファイルを作成するオプションを選択して InfoAssist にアクセスすることができます。

手順　WebFOCUS 開始ページから InfoAssist にアクセスするには

1. WebFOCUS にログインします。
2. WebFOCUS 開始ページで、[InfoAssist] タブをクリックします。
3. アクションバーで、[グラフ]、[ビジュアライゼーション]、[レポート]、または [ドキュメント] をクリックします。

注意：利用可能なすべてのオプションを表示するには、[その他] をクリックする必要があります。

4. [開く] ダイアログボックスから、データソースとして使用するマスターファイルを選択します。
5. [開く] をクリックします。

   InfoAssist が選択したモードで開きます。

注意：レガシーホームページからも InfoAssist のモードを起動することができます。レガシーホームページには、WebFOCUS 開始ページ右上の [ユーザ] メニューからアクセスできます。レガシーホームページにアクセス後、任意のフォルダを右クリックして InfoAssist モードを起動します。

App Studio からの InfoAssist へのアクセス

App Studio では、グラフを作成、編集する際のグラフキャンバスで、InfoAssist のグラフィカルユーザインターフェース (GUI) が使用されます。詳細は、App Studio のオンラインヘルプを参照してください。

その他の InfoAssist バージョン

ここでは、その他の InfoAssist バージョンについて説明します。

InfoAssist Basic

InfoAssist Basic は、レガシーレポートツールと同等の機能を提供する最新の Web ベースのツールです。InfoAssist Basic は InfoAssist の機能を多数備えていますが、レガシーツールと同様の操作でレポートやグラフを作成、編集することができます。

InfoAssist Basic は、高度でかつ操作が簡単な adhoc レポートツールです。このツールには、複雑なレポートを作成し、的確な分析を行うための動的な機能が用意されています。

InfoAssist Basic を使用して、カスタムレポートの作成、レポートのソート、列の見出しおよびフォーマットの変更、ページ見出しおよび脚注の追加、レポートの外観の向上、マトリックスレポートの作成、作業の確認やテストを行えます。

InfoAssist Basic には、InfoAssist で使用可能な次の機能は含まれていません。

- 全般機能
  - ドキュメントの作成
  - ライブプレビュー

- InfoMini
- スライサ
- キューブブラウザ
- グラフからレポートへの変換

- [ホーム] タブ
  - グラフ
  - レポート
  - ファイル
- [フォーマット] タブ
  - [対象] グループ
  - テーブル
  - 参照線
  - フレームと背景
  - メータ
  - [マップ] グラフタイプ - [グラフ] グループ
  - 凡例詳細オプションの凡例フォーマット - [塗りつぶし]、[境界スタイル] タブ
- [フィールド] タブ
  - ソート
- [シリーズ] タブ
  - データラベルの位置
  - スムース
  - マーカー
  - 展開
  - 非表示
- 出力タイプ
  - PowerPoint

- Analytic PDF
- Analytic Document
- Excel
- ユーザ選択

InfoAssist Basic へのアクセス

InfoAssist Basic にアクセスするには、[WebFOCUS ログイン] ページで有効な認証情報を入力し、[ログイン] をクリックします。InfoAssist Basic には、InfoAssist の完全バージョンとは異なる固有のライセンスコードが使用されます。

InfoMini

レポートを作成する際に、InfoMini をアクティブにするオプションが提供されます。InfoMini をアクティブにした状態でレポートを実行すると、InfoMini アプリケーションが起動します。InfoMini アプリケーションには、完全な InfoAssist レポートで使用可能な機能の一部が組み込まれます。レポートを作成する際に、InfoMini アプリケーションの実行時にユーザに提供する機能の制限や拡張を行えます。

InfoAssist から InfoMini アプリケーションを実行した場合、アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きます。

2

InfoAssist インターフェースのナビゲート

InfoAssist には、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを作成するための、高度で柔軟なドキュメント環境が用意されています。

アプリケーションウィンドウには、直観的な操作が可能なメニューやツールバー、レポート設計の機能エリアごとに分類された特別グループにアクセスできる多目的リボン、出力を選択するタスクバー、出力を指定するステータスバーがあります。

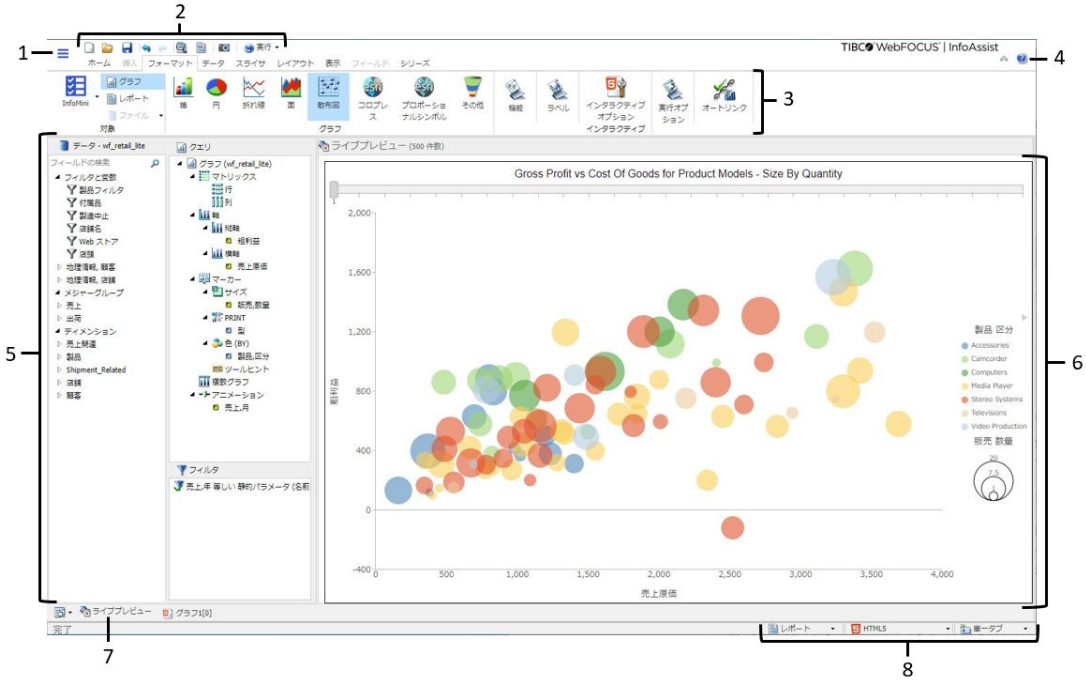
また、アプリケーションには、データの選択とソートのためのリソースエリアに加え、レポートデザイン、レポート出力のプレビュー、実際のレポート出力など、さまざまな目的で使用される結果エリアも用意されています。

トピックス

- InfoAssist アプリケーションウィンドウ
- アプリケーションメインメニュー
- クイックアクセスツールバー
- リボン
- ホームタブ
- 挿入タブ
- フォーマットタブ
- データタブ
- スライサタブ
- レイアウトタブ
- 表示タブ
- フィールドタブ
- シリーズタブ
- リソースパネルの理解
- キャンバスの理解
- ナビゲーションタスクバーの使用
- ステータスバーの使用

InfoAssist アプリケーションウィンドウ

下図は、InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントを示しています。



以下は、上図のインターフェースで注釈が付けられた主要コンポーネントの説明です。

1. **アプリケーションメインメニュー**　アプリケーションメニューを開いて、プロシジャ関連のコマンドを表示します。
2. **クイックアクセスツールバー**　このツールバーには、よく使用するコマンドが常時表示されます。たとえば、[新規作成]、[開く]、[保存]、[元に戻す]、[やり直し]、[プロシジャの表示]、[実行]、[プレビュー]、[SQL トレース]、[SQL プレビュートレース] コマンドがあります。詳細は、32 ページの「クイックアクセスツールバー」を参照してください。
3. **リボン**　レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションの作成に必要なコマンドが表示されます。[ヘルプ] メニューも表示されます。詳細は、35 ページの「リボン」を参照してください。
4. **ヘルプ**　InfoAssist のオンラインヘルプを新しいブラウザウィンドウで開きます。
5. **リソースパネル**　[データ] ウィンドウ、[クエリ] ウィンドウ、[フィルタ] ウィンドウを表示します。

6. **キャンバス**　レポートの結果を表示します。[ライブプレビュー] デザインビューのキャンバスには、作業中のファイルのプレビューが表示されます。

   作業中のファイルのタイプに応じて、キャンバスの外観が異なります。たとえば、ドキュメントの作成時は、キャンバスの作業エリア周囲にルーラが表示されます。このルーラは、ドキュメント上に複数のコンポーネントを正確に配置する際に役立ちます。

7. **ナビゲーションタスクバー**　インタラクティブコンテンツに、すばやくアクセスして表示を変更するためのグループとアイコンを表示します。詳細は、81 ページの 「 ナビゲーションタスクバーの使用 」 を参照してください。

8. **ステータスバー**　出力フォーマットボタンをクリックして、現在選択されているフォーマットを確認したり、出力ターゲットボタンをクリックして、現在選択されている出力先 (新規ウィンドウや新規タブ) を確認したりすることができます。詳細は、83 ページの 「 ステータスバーの使用 」 を参照してください。

アプリケーションメインメニュー

InfoAssist インターフェース左上のハンバーガーメニューボタンをクリックします。  をクリックしてアプリケーションメインメニューを開きます。

アプリケーションメインメニューから次のコマンドを実行することができます。

- **新規作成**　InfoAssist のスプラッシュスクリーンを開き、新しいレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションの作成を開始することができます。[新規作成] コマンドの実際の機能は、現在の InfoAssist セッションによって異なります。

  InfoAssist からレポートオブジェクトを開き、[新規作成] をクリックすると、レポートオブジェクトから新しいレポートが生成されます。レポートオブジェクトから作成するレポートタイプを選択するよう要求されます。

  InfoAssist の新しいセッションを開始し、[新規作成] をクリックすると、新しいレポートが作成されます。データソースを選択するよう要求されます。

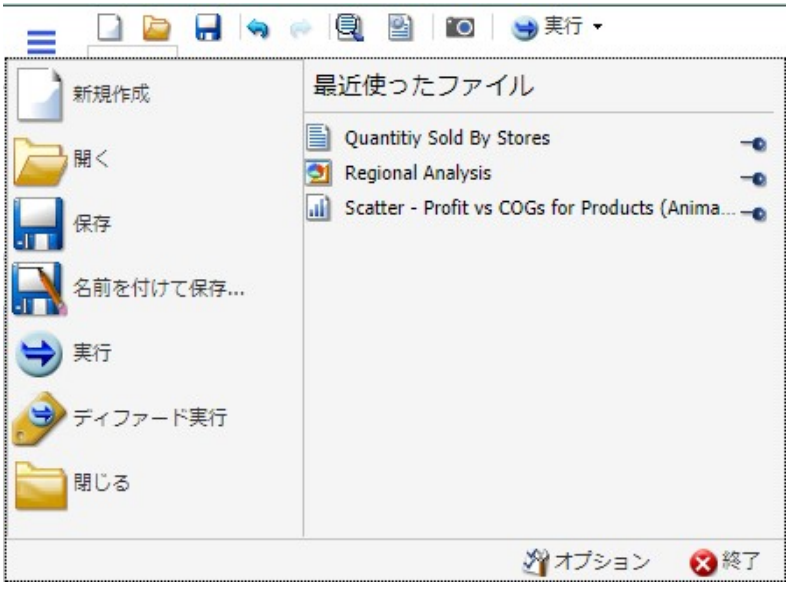
- **開く**　既存のレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを開きます。

- **保存**　レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを保存します。

- **名前を付けて保存**　レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを新しい名前で保存します。

  注意：[名前を付けて保存] ダイアログボックスで読み取り専用/書き込み不可のプロシジャ (.fex) を保存する際は、デフォルト設定でリソースツリーの最初の書き込み可能フォルダが選択されます。

- **実行**　レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを実行します。
- **ディファード実行**　別の作業を継続しながら、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションをバックグランドで実行します。
- **閉じる**　現在のインタラクティブレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを閉じます。
- **最近使ったファイル**　最近使ったレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーション、およびメニューにピン留めされたファイルを表示します。下図は、InfoAssist アプリケーションメインメニューの [最近使ったファイル] エリアを示しています。



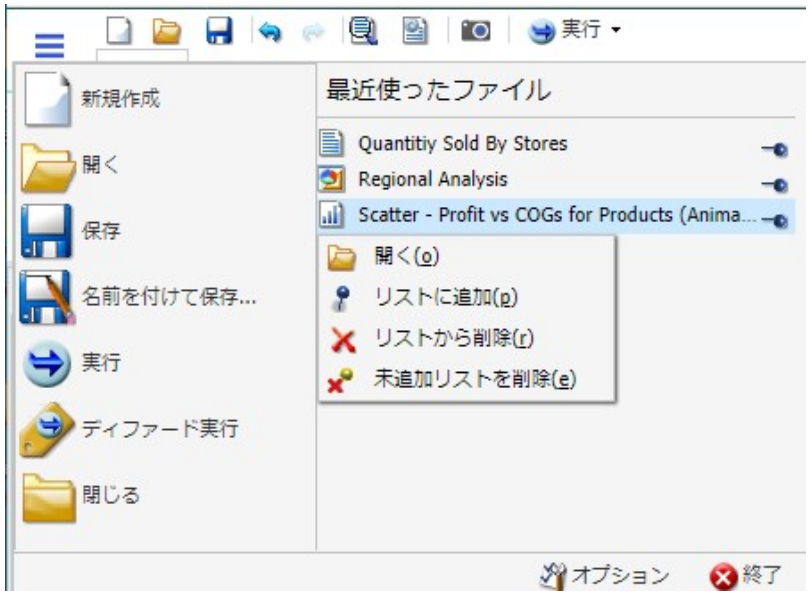
ピン留めされたレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションは、青色のピン アイコンで表されます。ピンで固定されたファイルは、リストの上部にアルファベット順で表示されます。

最近使ったレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションは、横向きの青色ピン アイコンで表されます。最近使ったファイルは、作成された順序で区切り線の下に表示され、最新のファイルが最上位に配置されます。

重要なレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションをアプリケーションメインメニューの [最近使ったファイル] エリアの最上位にピン留めしておくと、これらのファイルにすばやくアクセスできます。最近使ったレポートを、ピンで固定されたレポートに変更するには、横向きの青色ピンアイコンをクリックします。青色ピンのアイコンが直立した状態になり、レポートが [最近使ったファイル] ウィンドウの固定レポートエリアに移動します。レポートは、固定が解除されるまで、この位置に表示されます。

固定を解除するには、青色のピンのアイコンをクリックします。青色のピンが横向きになり、レポートが区切り線の下に移動します。

下図のように、[最近使ったファイル] に表示された項目を右クリックして、コンテキストメニューを開くこともできます。



メニューのオプションには次のものがあります。

- **開く**　選択したレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを開きます。
- **リストに追加**　最近使ったレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションをピン留めし、区切り線の上のピン留めレポートリストに移動します。
- **リストから削除**　ピン留めされたレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを、ピン留めレポートリストから除外します。
- **未追加リストを削除**　[最近使ったファイル] リストから、ピン留めされていないレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションをすべて削除します。

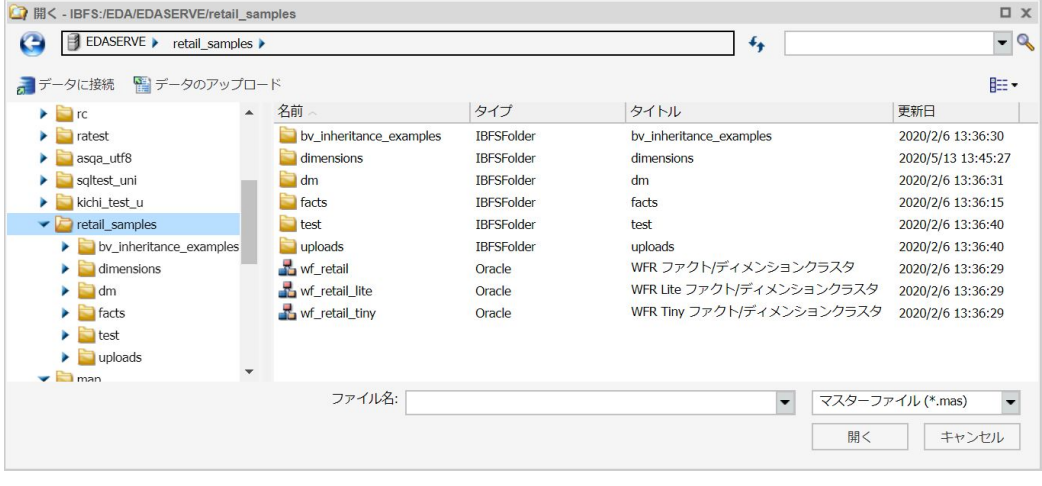
- **オプション** [オプション] ダイアログボックスを開き、ユーザ設定をカスタマイズします。詳細は、28 ページの 「 InfoAssist ユーザ設定の変更 」 を参照してください。
- **終了** アプリケーションを終了します。

参照 開くダイアログボックス

[開く] ダイアログボックスは、InfoAssist を起動する際に表示されます。このダイアログボックスは、JOIN 機能を使用してデータを結合または混合する際にも表示されます。このダイアログボックスを使用して、次のことを行えます。

- レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションの作成に使用するデータソースを選択する。
- データソースの結合および混合に使用するデータソースを選択する。
- 既存データベースへの接続およびシノニムの作成に使用するデータアダプタを構成する。
- ユーザデータをアップロードする。

下図は、[開く] ダイアログボックスを示しています。



[開く] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

データに接続

メタデータツールを開き、既存データベースへの接続およびシノニムの作成に使用するデータアダプタを構成することができます。

データのアップロード

アップロードツールを開き、ユーザがアクセス権限を所有するマシンからユーザデータをアップロードすることができます。このデータを WebFOCUS でのレポート作成に使用することができます。

開く

選択したマスターファイルを開きます。

InfoAssist オプションへのアクセス

InfoAssist アプリケーションウィンドウで、[メインメニュー] ボタンをクリックして InfoAssist アプリケーションメインメニューを開き、プロシジャ関連のコマンドを表示します。[新規作成] をクリックすると、下図のようにスプラッシュスクリーンに利用可能なオプションがすべて表示されます。



利用可能なオプションは、[開始] および [ヘルプ] に分類されています。

注意：InfoAssist を起動した場合、このスプラッシュスクリーンに、アプリケーションが InfoAssist Basic であることが示された上で、利用可能なオプションが表示されます。

開始

InfoAssist には、次の開始オプションがあります。

- **レポートの作成** [開く] ダイアログボックスを開いて、レポートに使用するデータソースを選択することができます。
- **グラフの作成** [開く] ダイアログボックスを開いて、グラフに使用するデータソースを選択することができます。
- **ドキュメントの作成** [開く] ダイアログボックスを開いて、ドキュメントに使用するデータソースを選択することができます。
- **ビジュアライゼーションの作成** [開く] ダイアログボックスを開いて、ビジュアライゼーションに使用するデータソースを選択することができます。
- **既存のレポート/グラフを取り込む** [開く] ダイアログボックスを開いて、既存のレポートまたはグラフを選択することができます。
- **デフォルトオプションの変更** [オプション] ウィンドウを開き、ユーザの好みに合わせてデフォルト設定を変更することができます。
- **アプリケーションを閉じる** アプリケーションを終了します。

ヘルプ

[ヘルプ] オプションは、新しいユーザにヘルプを提供します。InfoAssist を開く際には、次の [ヘルプ] オプションが利用できます。

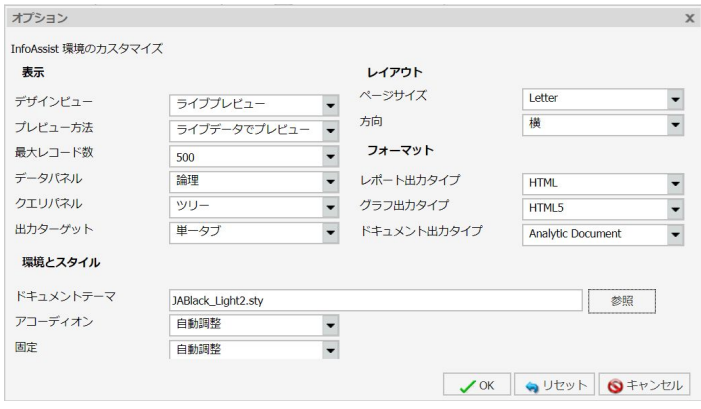
- **InfoAssist のヘルプ** InfoAssist のオンラインヘルプウィンドウを開きます。
- **オンラインフォーラム** 新しいブラウザウィンドウで Focal Point Web サイトを開きます。

InfoAssist ユーザ設定の変更

デフォルトのユーザ設定を変更して、レポートを作成、出力する際の InfoAssist の動作をカスタマイズすることができます。BI Portal から継承されるアプリケーションテーマを使用して、すべてのメニューとダイアログボックスを含む InfoAssist のインターフェースをカスタマイズします。

インターフェースの設定とは別に、ドキュメントテーマを選択することで、レポートのスタイルを設定することができます。InfoAssist アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックします。

下図のように、[オプション] ダイアログボックスが開き、InfoAssist アプリケーションの動作をカスタマイズすることができます。



注意：[オプション] ダイアログボックスでデフォルトの選択を変更した場合、それらの変更は、InfoAssist を次回起動した際に有効になります。

オプションで使用不可のものがある場合は、管理者に問い合わせてください。

ドキュメントテーマは、リボンから選択することもできます。[ホーム] タブに移動し、[レポート] グループの [テーマ] をクリックします。詳細は、37 ページの 「 ホームタブ 」 を参照してください。

表示

[表示] エリアでは、作業で使用するデザインビュー、出力をプレビュー表示する際のデータタイプ、取得するレコードの最大数、データパネルおよびクエリパネルの外観、使用する出力ターゲットを設定します。

- **デザインビュー** [ライブプレビュー] と [クエリ] から選択することができます。[ライブプレビュー] を選択すると、[プレビュー方法] ドロップダウンメニューが有効になります。デフォルト値は [ライブプレビュー] です。
- **プレビュー方法** [ライブデータでプレビュー] と [サンプルデータでプレビュー] から選択することができます。このメニューは、[デザインビュー] ドロップダウンメニューから [ライブプレビュー] を選択した場合に有効になります。デフォルト値は [ライブデータでプレビュー] です。

- **最大レコード数** [すべて]、[1]、[10]、[50]、[500] から選択するか、テキストボックスに数値を直接入力します。デフォルト値は [500] です。
- **データパネル** [論理]、[リスト]、[構造] から選択することができます。デフォルト値は [論理] です。
- **クエリパネル** [縦横]、[縦]、[ツリー] から選択することができます。デフォルト値は [ツリー] です。
- **出力ターゲット** [単一タブ]、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。デフォルト値は [単一タブ] です。

レイアウト

[レイアウト] エリアでは、レポートおよびグラフの印刷方法を設定します。

- **ページサイズ** [A4]、[A3]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal] から選択することができます。デフォルト値は [Letter] です。
- **方向** [縦] と [横] から選択することができます。デフォルト値は [縦] です。

フォーマット

[フォーマット] エリアでは、レポート、グラフ、ドキュメントの出力タイプを設定します。

- **レポート出力タイプ** [HTML]、[PDF]、[PowerPoint (PPTX)]、[Excel (XLSX)]、[Excel (XLSX FORMULA)]、[Excel (EXL2K)]、[Excel Formula (EXL2K FORMULA)]、[Excel (CSV)]、[Analytic Document] から選択することができます。デフォルト値は [HTML] です。
- **グラフ出力タイプ** [HTML]、[HTML5]、[PDF]、[PowerPoint (PPTX)]、[Excel (XLSX)]、[Excel (EXL2K)]、[Analytic Document] から選択することができます。デフォルト値は [HTML5] です。
- **ドキュメント出力タイプ** [HTML]、[PDF]、[PowerPoint (PPTX)]、[Excel (XLSX)]、[Excel (XLSX FORMULA)]、[Excel (EXL2K)]、[Excel Formula (EXL2K FORMULA]、[Analytic Document] から選択することができます。デフォルト値は [Analytic Document] です。

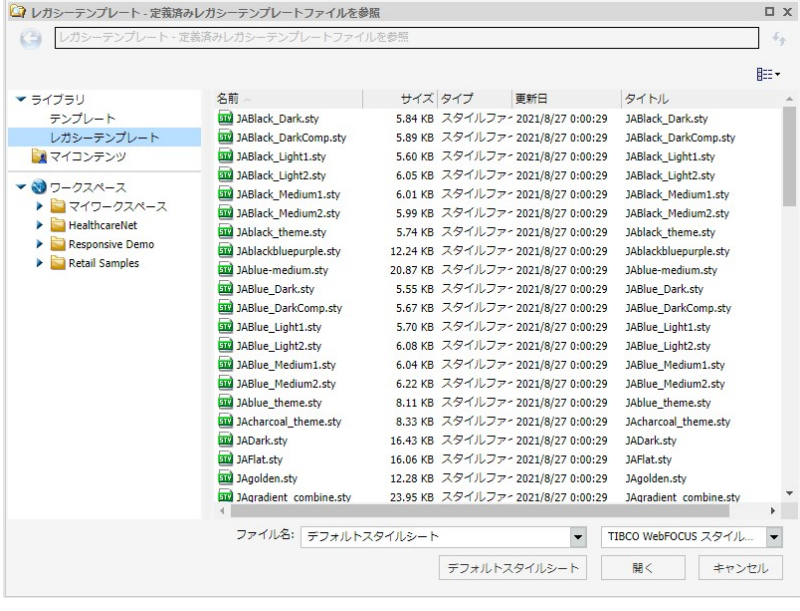
環境とスタイル

[環境とスタイル] エリアでは、ドキュメントテーマを指定して、レポートおよびグラフに適用するスタイルを設定します。[参照] ボタンをクリックして [テンプレート - 定義済みテンプレートファイルを参照] ダイアログボックスを開き、既存の WebFOCUS スタイルシートを検索することができます。デフォルトスタイルシートは Warm.sty ですが、使用可能な他のテーマを選択することもできます (Dark.sty または Flat.sty)。

注意：スタイルシートは、WebFOCUS インストールディレクトリ下の次のディレクトリに格納されています。

drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥IBI_HTML¥ibi_themes

また、下図のように、[ライブラリ] 下の [レガシーテンプレート] セクションに移動して、他のテーマのリポジトリにアクセスすることもできます。



InfoAssist に表示される配色および色合いは、選択したテーマに基づいて決定されます。[テンプレート] セクションのデフォルトテンプレートはすべての言語に適用されますが、[レガシーテンプレート] セクションの一部のテンプレートは 1 つの言語のみに適用されます (例、JA=Japanese)。

注意：レポートモードでの作業時にテーマを切り替えると、プロシジャからカスタムスタイル設定がすべて削除されます。

- **アコーディオン** [自動調整] または [レガシー] から選択できます。強化されたアコーディオンレポートフォーマットでは、ウィンドウおよびポータルページコンテナ内の自動調整、レスポンシブ動作が可能です。[レガシー] オプションのアコーディオンレポートは、ウィンドウまたはコンテナとは関係なくツリー構造で開きます。デフォルト値は [自動調整] です。
- **固定** [固定] オプションを使用すると、レポートのデータ表示領域でスクロール範囲を設定することができます。これにより、列見出しおよび見出しと脚注が固定され、コンテナ内でデータをスクロールすることができます。スクロール範囲は、レポート実行時のコンテナのサイズに収まるよう自動的に設定されます。

グローバル設定の変更

InfoAssist のグローバル設定は、WebFOCUS 開始ページからアクセスする管理コンソールで変更できます。詳細は、『TIBCO WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

注意：グローバル設定で [PowerPoint (PPT)] (PowerPoint 2000) と [PowerPoint (PPTX)] (PowerPoint 2007) の両方の表示を有効にした場合、InfoAssist の [フォーマット] タブのデフォルト選択フォーマットが、[PowerPoint (PPTX)] でなく、[PowerPoint (PPT)] になります。

クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーには、よく使用する機能にアクセスするためのコマンドが配置されています。クイックアクセスツールバーは、アプリケーションメインメニューの右側にあり、選択したオプションに関係なく、常に画面に表示されます。

- **レポート、グラフ、ドキュメント、またはビジュアライゼーションの新規作成** InfoAssist のスプラッシュスクリーンを開き、新しいレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションの作成を開始することができます。
- **既存のレポート/グラフを取り込む** [開く] ダイアログボックスを開いて、既存のレポートまたはグラフを選択することができます。
- **保存** レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを保存します。
- **元に戻すとやり直し** [元に戻す] アイコンをクリックして、最後の操作を元に戻します。[やり直し] アイコンをクリックして、最後の操作をやり直します。

[元に戻す] アイコンは、元に戻す操作が存在する場合に有効 (青色) になります。それ以外の場合は、無効 (灰色) になります。[やり直し] アイコンは、やり直す操作が存在する場合に有効 (青色) になります。それ以外の場合は、無効 (灰色) になります。

たとえば、レポートにデータベースフィールドを追加すると、[元に戻す] アイコンが青色に変わります。ここで、[元に戻す] アイコンをクリックして、レポートからデータベースフィールドを削除します。[元に戻す] アイコンは灰色に、[やり直し] アイコンは青色に変わります。フィールドをレポートに戻すには、青色の [やり直し] アイコンをクリックします。

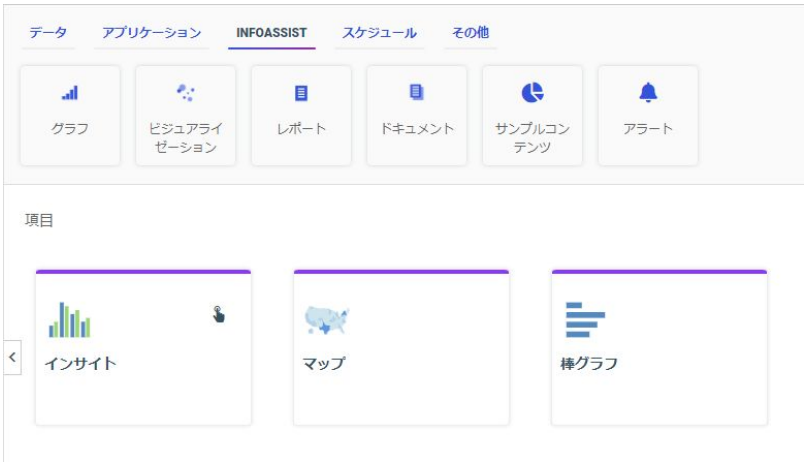
また、操作を元に戻すには Ctrl+Z、やり直すには Ctrl+Y を押すこともできます。

セッションごとに、最大で 25 個の操作を元に戻してやり直すことができます。InfoAssist では、レポートを切り替えた場合でも、「元に戻す」、「やり直し」操作のリストが保持されます。

アプリケーションウィンドウにダイアログボックスが開いている場合は、[元に戻す] アイコンと [やり直し] アイコンを使用することはできません。[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じると、アイコンは使用可能になります。[元に戻す] または [やり直し] を一度クリックするだけで、ダイアログボックスで実行したすべての操作を元に戻す、またはやり直すことができます。

- **プロシジャの表示**　レポートのコードを表示します。
- **プロシジャの設定**　[プロシジャの設定] ボタンをクリックして、プロシジャに追加する項目を指定、制御します。[プロシジャの設定] ダイアログボックスには、さまざまな SET コマンドが表示されます。これらは、レポート、グラフ、ドキュメントの外観やコンテンツをユーザのニーズに合わせてカスタマイズする際に利用できます。詳細は、88 ページの「 プロシジャの設定機能の使用 」 を参照してください。
- **サムネールの作成**　InfoAssist では、BI Portal で使用するサムネールイメージを作成、保存することができます。サムネールイメージを作成すると、ファイルを開かずにレポートやグラフのスナップショットを確認することができます。InfoAssist でサムネールイメージを作成するには、クイックアクセスツールバーの [サムネールの作成] アイコンをクリックします。

サムネールイメージの作成は、InfoAssist のレポートモードおよびグラフモードで行えます。サムネールイメージは、[ライブプレビュー] デザインビューに表示される実際のレポートまたはグラフの縮小版 (220 x 160px) として表現したものです。サムネールを作成し、レポートまたはグラフを保存すると、下図のように、WebFOCUS 開始ページのワークスペースエリアに、サムネールイメージが表示されます。



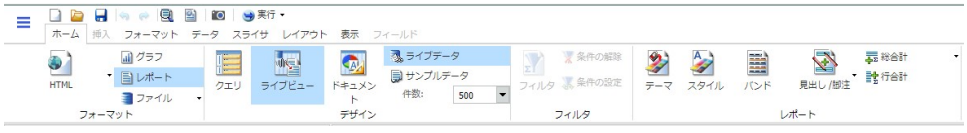
注意：サムネールイメージは、リポジトリに保存した際にプロシジャの一部として保存されます。詳細は、93 ページの 「 レポートまたはグラフのサムネールイメージを作成するには 」 を参照してください。

- **実行** [実行] ボタンをクリックして、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを即時実行します。下向き矢印をクリックして [実行] メニューを開くと、次の追加オプションが表示されます。
  - **プレビュー** [ホーム] タブの [デザイン] グループで設定された最大レコード数を限度として、選択したフォーマットでレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションを実行します。
  - **デフォルトパラメータ値で実行** デフォルトパラメータ値を使用してレポートまたはグラフを実行します。パラメータが定義されている場合、デフォルト値は、そのパラメータで定義されている最初のデータフィールドになります。パラメータが定義されていない場合、レポートまたはグラフは通常どおり実行されます。
  - **SQL トレース** リクエストの SQL コマンドを返します。
  - **SQL プレビュートレース** 実行したライブプレビューの SQL コマンドを返します。

リボン

リボンは、InfoAssist アプリケーションウィンドウ上部に横方向に表示され、複数のボタンがグループ別に分類された矩形領域です。

下図は、[ホーム] タブを選択した場合のリボンを示しています。



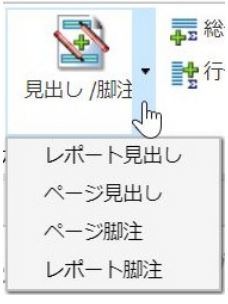
状況依存型のリボンは、現在作業中のファイルのタイプに応じて変化します。たとえば、グラフモードでは、リボンは 9 つのタブで構成されます。一方、ビジュアライゼーションモードでは、リボンは 5 つのタブで構成されます。各タブに表示される一連の InfoAssist 機能は、論理的に関係するコントロールとコマンドをグループ別に分類したものであり、それぞれがグラフィカルなアイコンで識別されます。

リボンの使用

リボンに表示される矢印ボタンには、2 つのタイプがあります。1 つ目のタイプは、クリックしたときにメニューを開くボタンです。このタイプのボタンの例として、[方向] ボタンがあります。下図のように、[方向] ボタンをクリックすると、オプションを選択するメニューが開きます。



2 つ目のタイプは、分割ボタンです。分割ボタンの左側をクリックすると、デフォルトのアクションが実行されます。分割ボタン右側の下向き矢印をクリックすると、オプションのメニューが開きます。分割ボタンの例として、[見出し/脚注] ボタンがあります。下図は、その画面を示しています。



[見出し/脚注] ボタンの左側をクリックすると、[見出しと脚注] ダイアログボックスが開きます。右側の下向き矢印をクリックすると、オプションを選択するメニューが開きます。

オプションによっては、ダイアログボックスが開いて、追加のコマンドやオプションのリストが表示される場合があります。

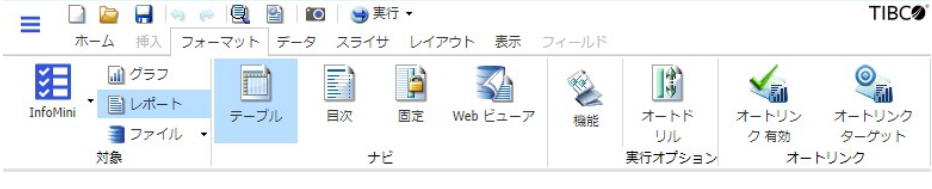
リボンにはコントロールおよびコマンドがすべて表示されますが、モニタやアプリケーションウィンドウのサイズにより、アイコンおよびグループのサイズが異なります。

下図の例では、[機能] グループが展開され、そのグループのアイコンがすべて表示されています。



アプリケーションウィンドウのサイズを小さくすると、使用可能な領域サイズに基づいて、一部のグループが単一アイコン表示に切り替わります。

下図では、[フォーマット] タブの [機能] グループが単一アイコン表示に切り替わっています。



グループが単一アイコン表示に切り替わると、個々のアイコンは、それぞれ使用可能な状態で一時的に画面に表示されなくなります。単一表示に切り替わったグループアイコンをクリックすると、そのグループが標準のフルサイズに戻り、個々のアイコンがすべて表示されます。

単一アイコン表示のグループを展開すると、隣接するグループが単一アイコン表示に切り替わり、選択したグループの展開に必要な領域が確保されます。

メニューまたはダイアログボックスのアイコン、ボタン、オプションが灰色で表示されている場合、その機能を作業中のレポートで使用することはできません。機能の中には、レポートのみ、グラフのみ、ドキュメントのみ、ビジュアライゼーションのみで使用できるものがあります。

状況によっては、あるオプションを選択すると、そのオプションに適合しない他のオプションが無効になります。その場合、選択できないオプションは灰色で表示されます。InfoAssist レポートの作成や変更を行う際に、状況に適合しないオプションは自動的に無効 (灰色表示) になります。

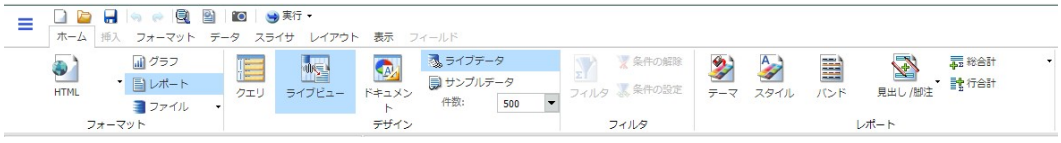
注意：特定のオプションにアクセスできない場合は、管理者に問い合わせてください。

ホームタブ

[ホーム] タブには、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションの作成時によく使用するコマンドおよびオプションが配置されています。以下は、各モードの [ホーム] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[フォーマット]、[デザイン]、[フィルタ]、[レポート] グループのオプションを使用して、レポートの出力フォーマットの変更や、スタイルの設定を行えます。
- グラフモードでは、[フォーマット]、[デザイン]、[フィルタ]、[レポート] グループのオプションを使用して、グラフのテーマの変更や、見出しおよび脚注の追加を行えます。
- ドキュメントモードでは、[フォーマット] および [デザイン] グループのオプションのみを使用できます。これらのオプションを使用して、ドキュメントモードでプレビュー表示するデータの切り替えや、出力フォーマットの変更を行えます。
- ビジュアライゼーションモードでは、[クリップボード]、[データ]、[ビジュアル]、[ストーリーボード] グループのオプションを使用して、さまざまな基本機能 (例、コピーと貼り付け) を実行できます。また、[ホーム] タブを使用してビジュアルのタイプを変更することもできます。

下図は、[ホーム] タブを示しています。[ホーム] タブに表示されるオプションおよびグループは、InfoAssist で作業中のモードに応じて異なります。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 29 ページの 「 表示 」
- 118 ページの 「 カスタムレポート出力の作成 」
- 385 ページの 「 レポート、グラフ、ビジュアライゼーションのスタイル設定 」
- 453 ページの 「 フィルタによるデータ表示のカスタマイズ 」

ビジュアライゼーションの関連情報

- 315 ページの 「 ビジュアライゼーションのインタラクティブ操作 」
- 353 ページの 「 ストーリーボードの使用 」
- 437 ページの 「 データの操作 」
- 449 ページの 「 JOIN 」

挿入タブ

[挿入] タブには、ドキュメントモードのキャンバスにレポート、グラフ、既存レポート、テキスト、イメージ、Analytic Document フォームコントロール (入力フォーム) を追加するオプションが配置されています。入力フォームを追加するオプションは、インタラクティブコンテンツ出力の場合にのみ表示されます。

下図は、その画面を示しています。



注意：[挿入] タブは、ドキュメントモードでのみ使用できます。

ドキュメントの関連情報

- 269 ページの 「 ドキュメントの作成とカスタマイズ 」
- 269 ページの 「 ドキュメントデザインビューへのアクセス 」
- 273 ページの 「 ドキュメントの作成 」

フォーマットタブ

[フォーマット] タブには、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションのフォーマットを設定するオプションが配置されています。使用するモードに応じてオプションが異なりますが、たとえば、グラフタイプの選択、オートリンク機能の有効化、レポートへのナビゲート機能の追加などの操作を実行することができます。

以下は、各モードの [フォーマット] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[フォーマット] タブは [対象]、[ナビ]、[機能]、[実行オプション]、[オートリンク] グループで構成されます。 これらのオプションを使用して、オートドリルダウン機能やレポートナビゲート機能など、レポートに関連する多数の操作を実行することができます。
- グラフモードでは、[フォーマット] タブは [対象]、[グラフ]、[機能]、[ラベル]、[インタラクティブ]、[実行オプション]、[オートリンク] グループで構成されます。これらのオプションを使用して、グラフタイプの変更やインタラクティブオプションの追加など、グラフに関連する多数の操作を実行することができます。
- ドキュメントモードでは、[フォーマット] タブでレポートモードまたはグラフモードへの切り替えを行えます。また、レポートモードやグラフモードと同様に、InfoMini を有効にすることもできます。
- ビジュアライゼーションモードでは、[フォーマット] タブは [レポート]、[機能]、[ラベル]、[インタラクティブ] グループで構成されます。これらのオプションを使用して、ビジュアライゼーションのフォーマットを設定することができます。また、罫線やラベルのコマンドなどを使用することもできます。

下図は、[フォーマット] タブを示しています。[フォーマット] タブに表示されるオプションおよびグループは、InfoAssist で作業中のモードに応じて異なります。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 95 ページの 「 レポートのスタイル設定 」
- 181 ページの 「 シリーズのフォーマット設定 」
- 201 ページの 「 データラベルのフォーマット設定 」
- 213 ページの 「 凡例のフォーマット設定 」
- 282 ページの 「 レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには 」
- 283 ページの 「 グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには 」
- 361 ページの 「 オートドリルダウンの使用 」
- 365 ページの 「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」

ビジュアライゼーションの関連情報

- 315 ページの 「 ビジュアライゼーションのインタラクティブ操作 」
- 336 ページの 「 ビジュアライゼーションのカスタマイズ 」

データタブ

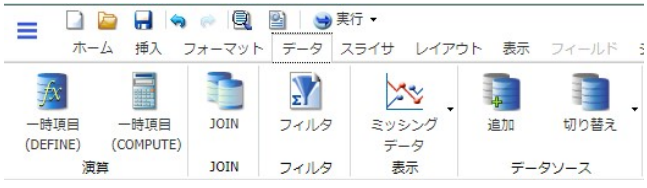
[データ] タブには、データを操作するオプションや、データ表示の詳細を設定するオプションが配置されています。たとえば、JOIN 機能にアクセスしたり、一時項目 (DEFINE) や一時項目 (COMPUTE) を作成したりできます。[データ] タブは、レポートモード、グラフモード、ドキュメントモードで使用することができます。ビジュアライゼーションモードでは使用できません。

以下は、各モードの [データ] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[データ] タブは [演算]、[JOIN]、[フィルタ]、[表示]、[データソース] グループで構成されます。レポートを作成する際に、複数のデータソースを結合したり、一時項目 (DEFINE) や一時項目 (COMPUTE) を作成したりできます。データにフィルタを適用することもできます。
- グラフモードでは、[データ] タブは [演算]、[JOIN]、[フィルタ]、[表示]、[データソース] グループで構成されます。グラフを作成する際に、これらのオプションを使用してデータソースの結合、一時項目 (DEFINE) や一時項目 (COMPUTE) の作成、データのフィルタ設定を行えます。

- ドキュメントモードでは、[データ] タブは [演算]、[JOIN]、[フィルタ]、[表示]、[データソース] グループで構成されます。ドキュメントを作成する際に、一時項目 (DEFINE) を作成したり、複数のデータソースを結合したりできます。また、データソースを追加したり、データソースを切り替えたりすることもできます。

下図は、[データ] タブを示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 440 ページの 「 TIBCO WebFOCUS での一時項目の作成 」
- 449 ページの 「 JOIN 」
- 453 ページの 「 フィルタによるデータ表示のカスタマイズ 」

スライサタブ

[スライサ] タブでは、スライサを作成、編集することができます。スライサは、レポート、グラフ、ドキュメントで使用可能な動的フィルタです。

注意：ビジュアライゼーションモードでは、[スライサ] タブは表示されません。

[スライサ] タブの機能は、レポート、グラフ、ドキュメントで共通しています。スライサ機能を使用して次のことを行えます。

- レポート、グラフ、ドキュメントにスライサを追加して動的フィルタを作成する。
- 最大レコード数を設定してデータ表示を制限する。
- 複数のスライサのグループを作成してデータをフィルタする。
- 既存のスライサにフィールドを追加する。
- スライサをクリアして既存スライサの選択値をすべて解除する。

下図は、[スライサ] タブを示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 557 ページの 「 スライサの使用 」
- 561 ページの 「 スライサによるフィルタの適用 」
- 566 ページの 「 スライサの編集ダイアログボックス 」

注意：スライサ機能は、InfoAssist の完全版のみで使用可能です。この機能は、InfoAssist Basic では使用できません。

レイアウトタブ

[レイアウト] タブには、ページの表示方法やレイアウトを設定するオプションが表示されます。たとえば、ページの方向を指定するオプションや、[自動調整] オプションがあります。[自動調整] 機能を有効にすると、各フィールド値の最大長さに合わせてレポートの列幅が自動的に調整されます。

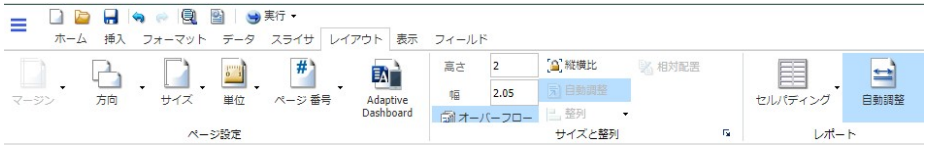
[レイアウト] タブは、レポートモード、グラフモード、ドキュメントモードで使用することができます。

注意：ビジュアライゼーションモードでは、[レイアウト] タブは表示されません。

以下は、各モードの [レイアウト] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[レイアウト] タブは [ページ設定] および [レポート] グループで構成されます。これらのオプションを使用して、レポートのサイズや方向を変更することができます。ページ番号を追加することもできます。
- グラフモードでは、[レイアウト] タブは [ページ設定] および [サイズと整列] グループで構成されます。これらのオプションを使用して、グラフのサイズや方向を変更することができます。また、グラフの高さと幅を設定したり、自動サイズ調整機能を有効にしたりすることもできます。

下図は、[レイアウト] タブを示しています。[レイアウト] タブに表示されるオプションおよびグループは、InfoAssist で作業中のモードに応じて異なります。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 385 ページの 「 レポートのカスタマイズ 」
- 399 ページの 「 ページ設定のカスタマイズ 」

表示タブ

[表示] タブには、デザインビューを切り替えるオプションや、データの表示形式を変更するオプションが配置されています。たとえば、[表示] タブのオプションを使用して、データの表示形式 (例、構造表示、リスト表示) を制御します。[表示] タブは、InfoAssist のすべてのモードで使用できます。

以下は、各モードの [表示] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[表示] タブは [デザイン]、[表示]、[データ]、[クエリ]、[ウィンドウ]、[レポート] グループで構成されます。レポートを作成する際に、データの表示形式を変更したり、別のモード (例、ドキュメント) に切り替えたりできます。
- グラフモードでは、[表示] タブは [デザイン]、[表示]、[データ]、[クエリ]、[ウィンドウ]、[レポート] グループで構成されます。グラフを作成する際に、グラフの出力先を変更したり、別のレポートやグラフに切り替えたりできます。
- ドキュメントモードでは、[表示] タブは [デザイン]、[表示]、[データ]、[クエリ]、[ウィンドウ]、[レポート] グループで構成されます。ドキュメントを作成する際に、[データ] ウィンドウおよび [クエリ] ウィンドウのデータ表示形式を変更することができます。
- ビジュアライゼーションモードでは、[表示] タブは [表示]、[データ]、[レポート] グループで構成されます。ビジュアライゼーションを作成する際に、これらのオプションを使用してリソースパネルの表示と非表示を切り替えることができます。また、データの表示形式を [論理]、[リスト]、[構造] のいずれかに変更することもできます。

下図は、[表示] タブを示しています。[表示] タブに表示されるオプションおよびグループは、InfoAssist で作業中のモードに応じて異なります。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 79 ページの 「 キャンバスでのクエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用 」

フィールドタブ

[フィールド] タブは、[クエリ] ウィンドウまたはキャンバスでフィールドのいずれかを選択した場合に有効になります。[フィールド] タブで選択可能なオプションは、選択したデータタイプによって異なります。数値フィールドと数値以外のフィールドでは、有効なオプションは異なります。[フィールド] タブには、[フィルタ]、[ソート]、[区切り]、[スタイル]、[フォーマット]、[表示]、[リンク] グループが表示されます。

以下は、各モードの [フィールド] タブで使用可能な機能の概要です。

- レポートモードでは、[フィールド] タブのオプションを使用して、レポートへのフィルタの適用や、スタイルの設定を行えます。また、[条件スタイル] および [WITHIN] 機能を使用して、レポートをカスタマイズして強化することもできます。
- グラフモードでは、[フィールド] タブのオプションを使用して、グラフ上の特定のフィールド値やグループ値を非表示にすることができます。また、フィルタオプションを使用して、グラフに表示する情報を制限することもできます。
- ドキュメントモードでは、[フィールド] タブのオプションを使用して、フィルタを設定したり、[条件スタイル] 機能を使用したりできます。また、フィールドを非表示にすることも、集計を追加することもできます。
- ビジュアライゼーションモードでは、[フィールド] タブのオプションを使用して、フィルタやソートを設定したり、マルチドリルダウン機能にアクセスしたりできます。また、フィールドを非表示にすることも、集計を追加することもできます。

下図は、[フィールド] タブを示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 102 ページの 「 レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (定数の使用) 」
- 104 ページの 「 レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (フィールドの使用) 」
- 106 ページの 「 フィールドフォーマットの変更 」
- 117 ページの 「 WITHIN 機能にアクセスするには 」

ビジュアライゼーションの関連情報

- 356 ページの 「 実行時のフィルタ設定 」

シリーズタブ

[シリーズ] タブは、[選択]、[スタイル]、[プロパティ]、[折れ線]、[円] グループで構成され、グラフに適用するオプションが配置されています。[シリーズ] タブは、ドキュメントモード、グラフモード、ビジュアライゼーションモードで使用できます。レポートモードでは使用できません。

以下は、各モードの [シリーズ] タブで使用可能な機能の概要です。

- グラフモードでは、[シリーズ] タブを使用して、傾向線やデータラベルなどの機能をグラフに追加することができます。複数のシリーズが使用されている場合、特定のシリーズを選択し、そのシリーズにのみ適用するオプションを指定することができます。
- ドキュメントモードでは、[シリーズ] タブは、ドキュメント上の埋め込みグラフを選択した際に表示されます。[シリーズ] タブのオプションを使用して、データにマーカー、スムージング効果、傾向線を追加することができます。
- ビジュアライゼーションモードでは、シリーズの切り替え、選択したシリーズのスタイル設定、その他のプロパティや線の追加を行えます。

下図は、[シリーズ] タブを示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントの関連情報

- 181 ページの 「 シリーズのフォーマット設定 」
- 201 ページの 「 データラベルのフォーマット設定 」

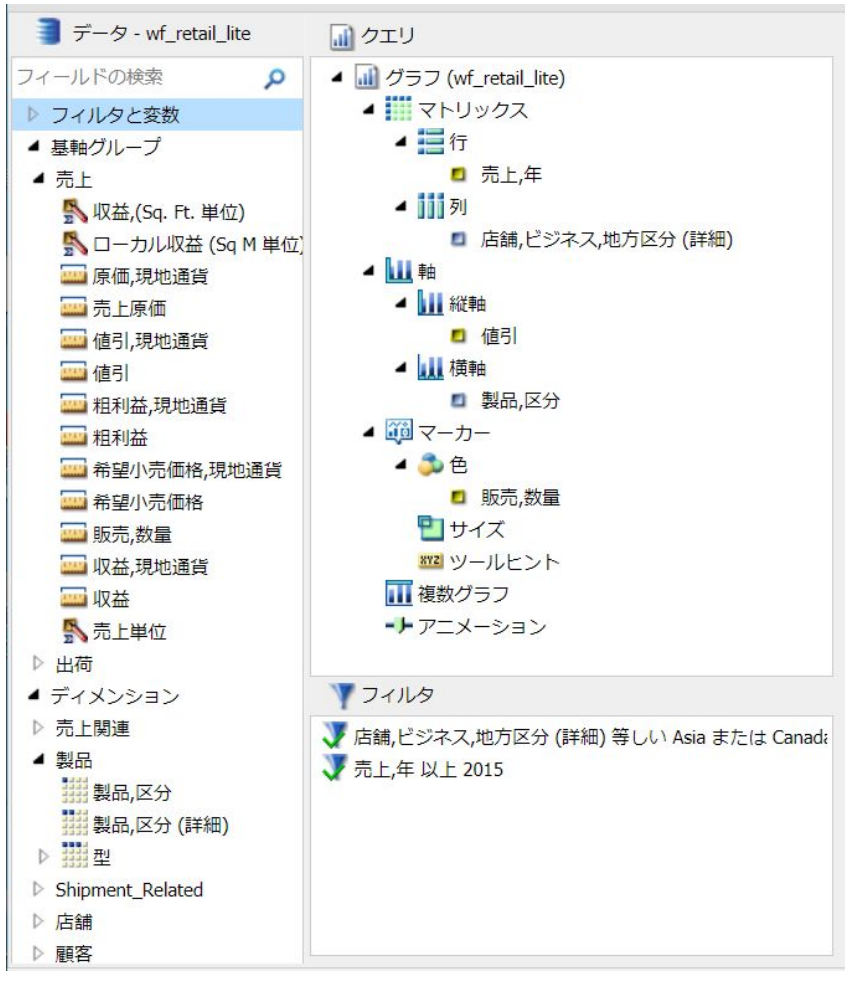
ビジュアライゼーションの関連情報

- 336 ページの 「 軸ラベルのフォーマット設定 」
- 351 ページの 「 ハンドルによるビジュアルの配置 」

リソースパネルの理解

リソースパネルは、[データ] ウィンドウ、[クエリ] ウィンドウ、[フィルタ] ウィンドウで構成されます。リソースパネルの表示位置は InfoAssist インターフェースの左側で、初期状態ではリソースパネルが表示されるよう設定されています。[ホーム] タブおよび [表示] タブのオプションを使用して、リソースパネルの表示方法をカスタマイズすることができます。たとえば、[表示] タブの [デザイン] グループで [クエリ] をクリックすると、[クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウがキャンバス全体に拡張されます。

下図は、グラフを作成する際のリソースパネルのデフォルト表示を示しています。[データ] ウィンドウの横に [クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウが配置されています。



[データ] ウィンドウには、フィールドすべてが表示されます。このウィンドウは、常に表示されます。

リソースパネルのサイズは、手動で調整することができます。サイズを調整するには、これら 2 つのパネルの境界上にマウスポインタを置きます。マウスポインタが左右矢印に変わったところで、境界をドラッグします。

参照

フィールドイメージリスト

リソースパネルでは、各フィールドに、イメージが関連付けられています。下表は、各イメージとその説明です。

注意：このアイコンリストは、使用中のデータベースのタイプによって異なります。

アイコン	タイプ
	BLOB
	一時項目 (日付)
	一時項目 (数値)
	その他の一時項目
	一時項目 (テキスト)
	キューブのプロパティ
	日付または日付時間フィールド
	ディメンションフィールド (スタンドアロンまたはドリルダウン可能)
	ディメンションフィールド (ドリルダウン可能、第 2 レベル)
	ディメンションフィールド (ドリルダウン可能、第 3 レベル) **注意：**ディメンションフィールドのレベルには 17 段階あります。レベル 0 は、一部のデータベースでのみ使用されます。
	地理的役割ディメンションフィールド (スタンドアロンまたはドリルダウン可能)

アイコン	タイプ
	地理的役割ディメンションフィールド (ドリルダウン可能、第 2 レベル)
	地理的役割ディメンションフィールド (ドリルダウン可能、第 3 レベル) **注意：**ディメンションフィールドのレベルには 17 段階あります。レベル 0 は、一部のデータベースでのみ使用されます。
	フィルタ (じょうご形状)
	地理位置情報
	インデックスフィールド
	キーフィールド
	メジャー
	数値フィールド
	テキストまたは文字フィールド

参照

フィルタウィンドウ

[フィルタ] ウィンドウには、選択したレポートで作成済みのフィルタがすべて表示されます。

フィルタについての詳細は、44 ページの「 フィールドタブ 」 および 40 ページの「 データタブ 」 を参照してください。

注意：[フィルタ] ウィンドウには、フィルタ条件が適用されているか (有効なフィルタ)、条件が解除されているか (無効なフィルタ) に関係なく、作成済みのフィルタがすべて表示されます。

データウィンドウの使用

[データ] ウィンドウには、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションの作成に使用可能なデータフィールドのリストが表示されます。[データ] ウィンドウのデフォルトデータ構造では、データがフィールドタイプ別 (例、メジャーフィールド、ディメンションフィールド) に表示されます。この構造の例は、InfoAssist に同梱されている Retail サンプルデータベースで確認することができます。このサンプルデータベースはキューブデータベース構造で、メジャーグループ、メジャーフィールド、ディメンション階層、ディメンション、フィールド、属性で構成されています。

[データ] ウィンドウには、データフィールドのリストがさまざまな形式で表示されます。これらのデータフィールドは、メタデータで定義された構造に基づいて分類表示されます。たとえば、メジャーとディメンションのみで構成されている場合もあれば、複数のドリルダウンレベルを表すフィールド群が含まれている場合もあります。また、これらのフィールドタイプを組み合わせた構造で表示される場合もあります。

これらのフィールドの順序および階層は、メタデータの構造によって決定されます。InfoAssist では、この階層は、選択したマスターファイルで定義されている構造に基づいて表示されます。特定のフィールドタイプについての詳細は、48 ページの「 フィールドイメージリスト 」 を参照してください。

ビジネスビュープラス (BV+) データソース (定義済みターゲット階層または構造に基づいて構築) を使用する場合、[データ] ウィンドウはデフォルト設定で [構造] 表示形式に設定されます。ビジネスビュープラス (BV+) データソースを使用する場合、[論理] 表示形式は無効になります。これらの表示形式オプションは、[表示] タブの [データ] グループにあります。

注意：ビジネスビュープラス (BV+) データソースを開いた際に、通常のコンポーネント (例、メジャー、ディメンション、フィルタ) にはアクセスできますが、値はサポートされません。

[データ] ウィンドウでフォルダおよびコンテンツを特定する際に、フォルダをダブルクリックすることで、コンテンツの展開表示と折りたたみ表示を切り替えることができます。この操作は、データソース階層に基づくフォルダに適用されます。フィールドの下に別のフィールドが存在する場合、この上位フィールドには適用されません。

注意：フォルダ名の横の矢印をクリックして、フォルダの展開と折りたたみを切り替えることもできます。

[データ] ウィンドウのフィールドの初期表示を制御するには、管理コンソールの [InfoAssist のプロパティ] ページの [データソースツリーを展開する] チェックボックスを使用します。たとえば、データソースに多数のフィールドが存在する場合、[データ] ウィンドウのフィールドリストを折りたたみ状態にし、表示するフィールド数を制限したい場合は、管理者に依頼してこのチェックボックスをオフにします。[データ] ウィンドウのすべての項目が折りたたみ状態になり、最上位のカテゴリレベルのみが表示されます。

デフォルト設定では、データベース構造のフィールドは [論理] 表示形式で表示されます。[表示] タブのコマンドを使用して、[データ] ウィンドウに表示されるデータフィールドの分類方法を変更することができます。これらのコマンドにより、データフィールドが [論理]、[リスト]、[構造] 表示形式のいずれかで表示されます。これら 3 つの表示モードには、各フィールドを [タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] として表示するオプションがあります。[リスト] 表示には、各フィールドの [エイリアス] と [フォーマット] を表示するオプションもあります。

[データ] ウィンドウでは、フィールドリスト検索機能を使用して、ツリーまたはリスト内で特定のフィールドを検索することができます。ツリー表示で検索を実行すると、表示されている属性のみが検索されます。

リスト表示で検索を実行すると、すべての属性が同時に検索されます。

注意：その他のオプションとして、[名前]、[タイトル]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[説明]、[参照] を選択して検索を実行することもできます。

InfoAssist の検索処理は、検索条件を入力すると同時に開始されます。入力する文字数が少ないと、返されるフィールド数が多くなります。文字をさらに入力して検索条件を限定すると、返されるフィールド数が絞り込まれます。

検索条件を入力した後、検索をキャンセルするには、フィールドリスト検索ツールの X アイコンをクリックします。

注意：X アイコンは、[フィールドの検索] ボックスに検索条件を入力した場合にのみ表示されます。

下図は、各フィールドの [タイトル] を表示するデフォルト設定の [論理] 表示を示しています。



データウィンドウを使用したレポートへのフィールド追加

レポートにフィールドを追加するには、いくつかの方法があります。[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナまたは [フィルタ] ウィンドウにフィールドを追加するには、[データ] ウィンドウのフィールドをドラッグ、ダブルクリック、または右クリックします。 [クエリ] ウィンドウに配置された既存のデータフィールドを新しいデータフィールドに置換する場合、[データ] ウィンドウから新しいフィールドをドラッグし、[クエリ] ウィンドウの既存フィールドの上にドロップすることができます。また、[クエリ] ウィンドウの特定のフィールドコンテナからフィールドをドラッグし、別のフィールドコンテナのフィールド上にドロップしてフィールドを置換することもできます。ドラッグしたフィールドをドロップ先のフィールド上に移動すると、既存のフィールドがこの新しいフィールドで置換されることを示す点線が表示されます。マウスボタンを離して、新しいデータフィールドの配置を確定します。

注意：[データ] ウィンドウのフィールドを [クエリ] ウィンドウ、[フィルタ] ウィンドウ、またはキャンバスにドラッグする際に、そのフィールドの名前を示すツールヒントが表示されます。

[クエリ] ウィンドウに配置した複数のフィールドの順序を変更する場合、ドラッグしたフィールドの移動先を示す実線が表示されます。また、[データ] ウィンドウのデータフィールドを [クエリ] ウィンドウの複数フィールドの間にドラッグする際や、空のフィールドコンテナにドラッグする際にも実線が表示されます。さらに、実線が表示された状態でデータフィールドをフィールドコンテナ上に直接ドロップすると、そのフィールドコンテナにデータフィールドが配置されます。

[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナに複数のフィールドを追加した後、フィールドを別のフィールドの上側または下側にドラッグして、フィールドの順序を変更することができます。

ドラッグ　この方法でほとんどの操作を実行することができます。[データ] ウィンドウからフィールドをドラッグし、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナまたは [フィルタ] ウィンドウにドロップすることができます。

[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにフィールドをドロップする際の領域を広げるには、[クエリ] デザインビューを選択し、[表示] タブの [クエリ] グループで [縦横表示] または [縦表示] をクリックします。

[クエリ] デザインビューを選択するには、[ホーム] タブまたは [表示] タブの [デザイン] グループで [クエリ] をクリックします。これにより、[クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウが拡張されます。

複数選択　[ライブプレビュー]、[クエリ]、[ドキュメント] のすべてのデザインビューでは、複数のフィールドを選択してレポートに追加することができます。複数のフィールドを選択してレポートに追加するには、キーボードの Ctrl キーを押しながら、フィールドを選択します。選択したフィールドは、キャンバスにドラッグすることも、[クエリ] フィールドコンテナに追加することもできます。

ダブルクリック　[データ] ウィンドウでフィールドをダブルクリックして、[クエリ] ウィンドウの適切なフィールドコンテナにフィールドを自動的に追加することができます。

- [データ] ウィンドウでメジャーフィールドをダブルクリックすると、[SUM] フィールドコンテナにフィールドが自動的に追加されます。
- [データ] ウィンドウでディメンションフィールドをダブルクリックすると、レポートの場合は [BY] フィールドコンテナにフィールドが追加されます。グラフの場合は [X 軸] フィールドコンテナにフィールドが追加されます。

レポートの場合、[ACROSS] (列ラベル) フィールドコンテナにフィールドを自動的に追加することはできません。グラフの場合、[凡例] (シリーズ) フィールドコンテナおよび [複数グラフ] フィールドコンテナにフィールドを自動的に追加することはできません。

右クリック　[データ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナまたは [フィルタ] ウィンドウにフィールドを追加することができます。レポートの場合、右クリックで選択可能なコンテキストメニューオプションは次のとおりです。

- **ACROSS**　ディメンションフィールド
- **クエリに追加**　[クエリ] ウィンドウでデータの追加が可能なフィールドコンテナのリストを表示します。
- **グループの作成**　選択したフィールドのデータタイプに基づいて、複数の要素で構成されたグループを作成することができます。
- **X 軸**　ディメンションフィールド
- **複数レポート/グラフ**　ドキュメントモードでのみ使用できます。
- **シリーズ**　ディメンションフィールド
- **フィルタ**　すべてのタイプのフィールド
- **スライサ**　すべてのタイプのフィールド
- **ソート**　[BY] フィールドコンテナにフィールドを追加します。すべてのタイプのフィールドで使用できます。
- **SUM**　メジャーフィールド
- **ビンの作成**　選択したメジャーにビンを作成できます。ビンは、ビニング機能に使用されます。詳細は、173 ページの 「 ビニング 」 を参照してください。

メジャーは、粗利益や売上原価など、集計が可能な数値です。集計が可能な数値はすべてメジャーです。製品番号や自動車の燃費など、集計が不可能な数値はメジャーとして扱われません。その代わり、これらの数値はメジャーを分析するためのディメンションフィールドとして同様に使用することができます。ユーザ自身でデータの内容を理解し、各数値フィールドが集計可能であるかどうかを判断する必要があります。複数のメジャーが互いに関連する場合、これらのメジャーをメジャーグループに分類することができます。たとえば、粗利益や売上原価は、売上メジャーグループの一部にすることができます。

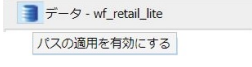
ディメンションは、データを分類するカテゴリです。ディメンションを使用して、メジャーを分析、比較することができます。通常、メジャー以外のフィールドはすべてディメンションです。一般に、製品名などの文字フィールドです。複数のディメンションを階層に分類することで、階層内のフィールド間の関係を定義することができます。たとえば、地理ディメンション階層に、大陸、国、州、市などのディメンションを含めることができます。また、ディメンション階層に属さないディメンションフィールドを定義することもできます。

パスの適用による無関係フィールドの無効化

[パスの適用] は、データソース内のフィールド関係に基づいて、[データ] ウィンドウツリーのフィールドへのアクセスを制御する機能です。[パスの適用] 機能が有効な場合、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにフィールドを追加すると、利用可能なフィールドが更新され、関係のあるファクトテーブルのフィールドのみが選択可能になります。無関係のファクトテーブルに存在するフィールドは、アクセス不可になります。

バージョン 8.2.04 以降では、すべての InfoAssist ユーザが [パスの適用] 機能を使用することができます。デフォルト設定では、オフに設定されています。サイトの要件に応じてデフォルト設定を変更するには、管理コンソールの [InfoAssist のプロパティ] セクションを使用します。

リソースツリーの [データ] ウィンドウタイトルバー左端の [パスの適用を有効にする] ボタンをクリックして、[パスの適用] 機能を任意のプロシジャに対して有効にすることができます。下図は、このボタンを示しています。



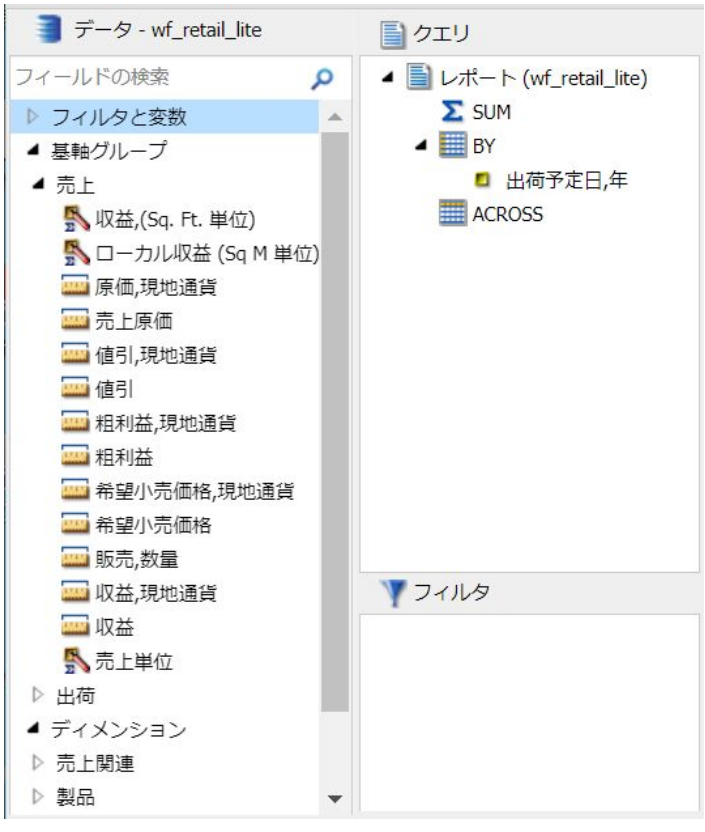
[パスの適用を有効にする] ボタンをオフにすることで、この機能を任意のプロシジャに対して無効にすることができます。

シノニムでは、フィールドの関係が単一パスで記述されることも、複数パスで記述されることもあります。[パスの適用] 機能を有効にした場合、すでに選択したフィールドの検索パスの一部としてアクセスできないフィールド (無関係フィールド) は、灰色で表示され、選択不可になります。次の例では、同一のデータソースで [パスの適用] 機能を無効にした場合と、有効にした場合について説明します。

WF_Retail データソースでは、出荷情報は売上情報に直接関係しないため、これらの両方を単一リクエストで使用することはできません。

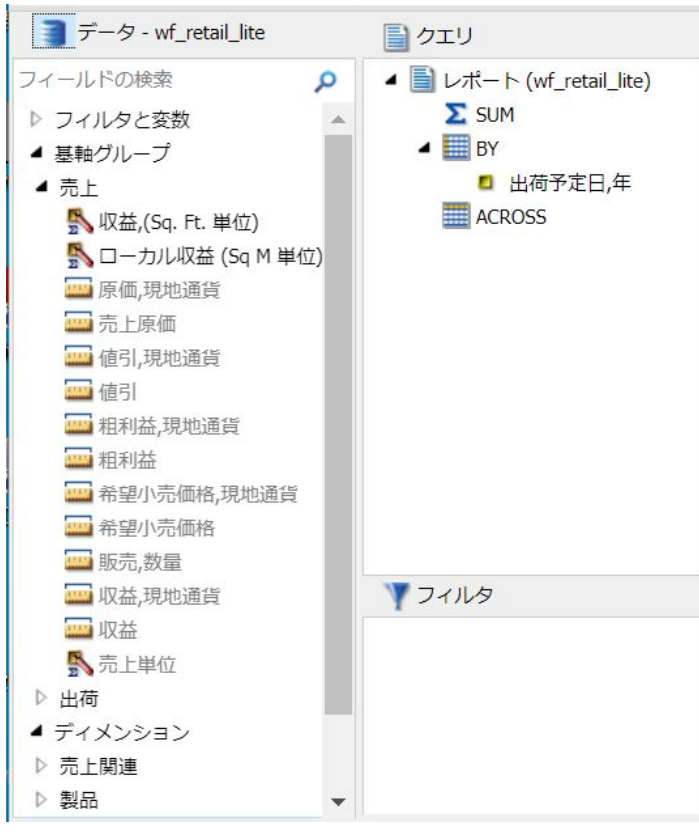
下図のように、[パスの適用] 機能を無効にした場合、[出荷予定日] フィールドと [収益] フィールドをフィールドコンテナに追加することはできますが、これらのフィールドはファクトテーブルで直接的な関連性がないため、このリクエストから有効な結果は生成されません。

[パスの適用] 機能を無効にした場合



下図のように、[パスの適用] 機能を有効にした場合、[出荷予定日] フィールドをフィールドコンテナに追加した時点で、売上に関連するメジャーがすべて灰色表示 (選択不可) になり、無効なリクエストの作成が防止されます。

[パスの適用] 機能を有効にした場合



クエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用

[クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウは、[データ] ウィンドウの右側に表示される縦長の領域です。ただし、[クエリ] デザインビューに切り替えると、両方のウィンドウがキャンバス全体に拡張されます。レポートおよびグラフを作成する際は、[クエリ] ウィンドウにさまざまなフィールドコンテナが表示されます。

注意：[SUM]、[BY]、[ACROSS] フィールドコンテナ (レポートの場合)、あるいは [メジャー (SUM)] または [X 軸] フィールドコンテナ (グラフの場合) に複数の項目が存在する場合、[クエリ] ウィンドウで項目を上下にドラッグすることで、レポートまたはグラフのフィールド表示順序を変更することができます。フィールドをドラッグして順序を変更する際に、フィールドの配置位置のガイドとして、インジケータラインが表示されます。この線の色は、テーマに基づいて決定されます。フィールドの順序を変更すると、変更後の順序に基づいて [ライブプレビュー] ウィンドウの表示が更新されます。

レポート　すべてのレポートの [クエリ] ウィンドウには、[SUM]、[BY]、[ACROSS] フィールドコンテナが表示されます。

- [SUM] フィールドコンテナ Σ を使用して、数値メジャーフィールドを集計または表示します。コンテキストメニューには、レポート内のフィールドに適用される [SUM] (デフォルト)、[PRINT]、[件数]、[リスト] オプションが表示されます。
- [BY] フィールドコンテナは、ディメンションフィールドを縦方向にソートし、レポート出力の行ごとにラベルを生成する際に使用します。ディメンションフィールドは通常、数値以外または日付フィールドです。
- [ACROSS] フィールドコンテナは、ディメンションフィールドを横方向にソートし、レポート出力の列ごとにラベルを生成する際に使用します。

グラフ　ほとんどのグラフの [クエリ] ウィンドウには、[メジャー (SUM)]、[X 軸]、[凡例 (シリーズ)]、[複数グラフ]、[複数レポート/グラフ] フィールドコンテナが表示されます。より多くのディメンションフィールドを使用する複雑なグラフの場合は、それ以外のフィールドコンテナが表示されます。

- **メジャー (SUM)**　このフィールドコンテナは、数値メジャーフィールド値の集計と表示に使用されます。
- **位置**　このフィールドコンテナは、位置フィールドの表示に使用されます。このフィールドコンテナは、マップを作成する場合にのみ表示されます。
- **X 軸**　このフィールドコンテナは、グラフ出力のディメンションフィールドをソートするために使用されます。
- **凡例 (シリーズ)**　このフィールドコンテナは、ディメンションフィールド値を、色分けされた値として表示するために使用されます (折れ線グラフ、棒グラフ、面グラフ、散布図)。これらの値は、グラフ下部の凡例で色分け表示されたディメンション値に対応します。[凡例] (シリーズ) の機能は、レポートの [ACROSS] フィールドと類似しています。
- **複数グラフ**　複数のグラフを作成する際に、このフィールドコンテナで最上位のソートフィールドを作成し、改ページとして機能させることができます。[複数グラフ] フィールドコンテナに追加したソートフィールドの値はグラフにプロットされませんが、各ソートフィールド値に対応するグラフがそれぞれ個別に作成されます。
- **複数レポート/グラフ**　このフィールドコンテナは、共通ソートグループでソートして整列する場合に使用します (ドキュメントの場合のみ)。

円グラフの [クエリ] ウィンドウには、[メジャー (SUM)]、[円項目]、[カテゴリ]、[複数グラフ]、[複数レポート/グラフ] フィールドコンテナが表示されます。

- **メジャー (SUM)** このフィールドコンテナは、円グラフの数値メジャーフィールド値の集計と表示に使用されます。
- **円項目** このフィールドコンテナは、ディメンションフィールド値を、色分けされた円項目として表示するために使用されます。これらの値は、グラフ下部の凡例で色分け表示されたディメンション値に対応します。[円項目] フィールドコンテナは、他のグラフタイプの [凡例 (シリーズ)] フィールドコンテナと同等です。
- **複数グラフ** 複数のグラフを作成する際に、このフィールドコンテナで最上位のソートフィールドを作成し、改ページとして機能させることができます。[複数グラフ] フィールドコンテナに追加したソートフィールドの値はグラフにプロットされませんが、各ソートフィールド値に対応するグラフがそれぞれ個別に作成されます。
- **カテゴリ** このフィールドコンテナは、グラフ出力のディメンションフィールドをソートするために使用されます。[カテゴリ] フィールドコンテナは、他のグラフタイプの [X 軸] フィールドコンテナと同等です。
- **複数レポート/グラフ** このフィールドコンテナは、共通ソートグループでソートして整列する場合に使用します (ドキュメントの場合のみ)。

フィールドコンテナの使用

各フィールドコンテナには、それぞれのフィールドコンテナの機能に応じたフィールドを配置します。たとえば、グラフモードおよびビジュアライゼーションモードで [色] フィールドコンテナにフィールドを追加し、そのフィールドの値に基づいてデータを色分けすることができます。

レポートで使用可能なフィールドコンテナは、グラフおよびビジュアライゼーションで使用可能なフィールドコンテナと異なります。このセクションには、フィールドコンテナを使用する際の参考情報として、すべてのフィールドコンテナの一覧および概要が記載されています。

レポートのフィールドコンテナ

次のフィールドコンテナは、レポートの作成時に表示されます。

ACROSS
このフィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを配置すると、そのフィールドが横方向のソートフィールドになり、レポート最上部に列見出しとして表示されます。

BY
レポートのソートフィールドを指定します。

注意：複数の BY ソートフィールドの表示順を変更するには、[クエリ] ウィンドウでソートフィールドをドラッグして順序を変更します。

SUM

このフィールドコンテナに数値 (メジャー) フィールドを追加すると、そのフィールドの数値合計が表示されます。

グラフおよびビジュアライゼーションのフィールドコンテナ

次のフィールドコンテナは、グラフおよびビジュアライゼーションの作成時に表示されます。

アニメーション

スライダコントロールで操作する時間変化アニメーションを表示することができます。スライダバーでコントロールを左右に動かすと、グラフにアニメーション効果が反映されます。スライダコントロールの再生ボタンをクリックして、アニメーションを開始または停止することができます。再生ボタンをクリックすると、停止オプションが有効になります。アニメーションの進行を停止してデータを分析するには、停止ボタンをクリックします。スライダコントロールは、1 つのソートフィールドのみに限定され、月や年などの時間に関連したフィールドにする必要があります。このフィールドコンテナは、多くのグラフタイプに表示されます。

BY

このフィールドコンテナを使用して、複数のカテゴリ値が格納されているフィールドを指定し、データをカテゴリ別に分類します。たとえば、メータグラフを作成する場合、このフィールドコンテナに追加したフィールドが BY フィールドになり、その BY フィールド値ごとにそれぞれ異なるメータグラフが作成されます。

カテゴリ

グラフ上のデータをカテゴリ別に表示します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なタグクラウドグラフに表示されます。

カテゴリ軸

このフィールドコンテナを使用して、カテゴリデータが格納されているフィールドを指定します。これらのカテゴリは、3D グラフのカテゴリ (グループ) 軸に表示されます。[カテゴリ軸] のデータに対して、もう一方の軸である [シリーズ軸] のデータがプロットされます。

終値

株価グラフの終値を示す数値フィールドを指定します。このフィールド以外に、[始値]、[高値]、[安値] フィールドの値が必要です。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な株価グラフに表示されます。

境界色
このフィールドコンテナに追加したフィールドのデータセットに基づいて、さまざまな色を適用します。[色] フィールドコンテナに数値フィールドを追加すると、凡例がヒートスケールとして表示されます。[色] フィールドコンテナに文字フィールドまたは日付フィールド (メジャー以外のフィールド) を配置すると、凡例が色マーカーとして表示されます。凡例の表示方法を変更するには、[色] フィールドコンテナを右クリックし、[色 (BY)] を選択します。

列
ビジュアライゼーションのマトリックスグラフで列データを表示するフィールドを指定します。メジャーフィールドがサポートされます。列データは、グラフ最上部の X 軸上に表示されます。このフィールドコンテナは、さまざまなグラフおよびビジュアライゼーションに表示されます。

PRINT
このフィールドコンテナにデータフィールドを追加して、グラフに詳細データを表示します。たとえば、散布図の [PRINT] フィールドコンテナに [売上,四半期] フィールドを追加すると、四半期ごとのデータポイントが表示され、プロットされるデータポイントが 4 倍になります。また、[PRINT] フィールドコンテナで指定したフィールドは、プロットされた各ポイントのツールヒントにも表示されます。

位置
マップに使用する位置情報フィールドを指定します。

注意：位置情報フィールドは、[データ] ウィンドウでは位置情報アイコン をクリックします。

グループ
データをカテゴリ (グループ) に分類するためのフィールドを指定します。たとえば、このデータフィールドで、ツリーマップをグループ化する方法を制御します。

高値
株価グラフの高値を示す数値フィールドを指定します。このフィールド以外に、[始値]、[安値]、[終値] フィールドが必要です。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な株価グラフに表示されます。

横軸
選択したフィールドのデータを X 軸上に表示します。このフィールドコンテナは、さまざまなグラフおよびビジュアライゼーションに表示されます。

注意：横軸には最大で 3 つのフィールドを指定することができます。

緯度
緯度データが格納されている位置情報フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、Leaflet バブルマップに表示されます。

経度
経度データが格納されている位置情報フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、Leaflet バブルマップに表示されます。

凡例 (シリーズ)
グラフの凡例に使用するフィールドを追加します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な多くのグラフに表示されます。

安値
株価グラフの安値を示す数値フィールドを指定します。このフィールド以外に、[始値]、[高値]、[終値] フィールドが必要です。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な株価グラフに表示されます。

下限
下限値を設定する数値 (メジャー) フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なボックスプロットに表示されます。

下位四分位点
下位四分位値を設定する数値 (メジャー) フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なボックスプロットに表示されます。

メジャー
このフィールドコンテナを使用して、円グラフの主要素として表示するメジャーを指定します。円グラフで [メジャー] メトリックとともに [色] フィールドコンテナを使用すると、選択したフィールドに基づいてセクションが作成されます。このフィールドコンテナは、メータグラフでも使用されます。

メジャー (SUM)
データを集計する数値フィールド (メジャーフィールド) を指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な多くのグラフに表示されます。

中央値
中央値を設定する数値フィールド (メジャーフィールド) を指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なボックスプロットに表示されます。

複数グラフ
このフィールドコンテナに追加したフィールドに基づいて、複数のグラフを作成します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な多くのグラフタイプ (例、ヒートマップ) に表示されます。

始値
株価グラフの始値を示す数値フィールドを指定します。このフィールド以外に、[高値]、[安値]、[終値] フィールドが必要です。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な株価グラフに表示されます。

行
ビジュアライゼーションのマトリックスグラフで行データを表示するフィールドを指定します。メジャーフィールドがサポートされます。行データは、グラフ左側の Y 軸上に表示されます。このフィールドコンテナは、さまざまなグラフおよびビジュアライゼーションに表示されます。

シリーズ軸
このフィールドコンテナを使用して、[カテゴリ軸] のデータに対してプロットするシリーズを指定します。このフィールドコンテナは、3D 棒グラフに表示されます。

サイズ
マーカーなどのデータポイントのサイズを制御します。

サイズ (SUM)
グラフに表示されるデータのサイズを制御する数値 (メジャー) フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なタグクラウドグラフに表示されます。

円項目
このフィールドコンテナで指定したフィールドのデータ値に基づいて、グラフの円項目 (スライス) のサイズが制御されます。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な円グラフおよびじょうごグラフに表示されます。

ツールヒント
このフィールドコンテナにフィールドを追加すると、グラフまたはビジュアライゼーションのツールヒントに追加情報が表示されます。

上限
上限値を設定する数値フィールド (メジャーフィールド) を指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なボックスプロットに表示されます。

上位四分位点
上位四分位値を設定する数値フィールド (メジャーフィールド) を指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なボックスプロットに表示されます。

縦軸
選択したフィールドのデータを Y 軸上に表示します。このフィールドコンテナは、さまざまなグラフおよびビジュアライゼーションに表示されます。

X 軸
特定のグラフタイプの X 軸に表示するフィールドを指定します。たとえば、極グラフがあります。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な多くのグラフに表示されます。

Y1 メジャー (SUM)
1 つ目の Y 軸に表示するメジャー (数値) フィールドを指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能なパレートグラフおよび 2 極グラフに表示されます。

Y2 メジャー
このフィールドコンテナを使用して、2 つ目の Y 軸に表示するメジャーを指定します。このフィールドコンテナは、[その他] グラフカテゴリから選択可能な 2 極グラフに表示されます。

実行時データ選択用のパラメータの追加

レポートまたはグラフに新しいパラメータを追加して、実行時に選択するパラメータオプションを作成することができます。これにより、実行時にパラメータ値を動的に選択し、さまざまなシナリオでデータを表示できるため、オンデマンドの動的なレポートまたはグラフの作成が可能になります。

追加した各パラメータはフィールドコンテナとして表示され、このフィールドコンテナに 1 つまたは複数のメジャーおよびディメンションを追加することができます。新しいパラメータを作成するには、フィールドコンテナを右クリックし、[新規パラメータ] を選択します。これにより、番号付きのパラメータが作成されます (例、パラメータ 1)。複数のパラメータが定義されている場合、連続した番号が割り当てられます。

パラメータを追加した後、パラメータのプロンプトを定義するには、[パラメータ n] フィールドコンテナを右クリックし、[パラメータのプロンプト] を選択します。ここで、n はパラメータを追加した際に割り当てられた番号を表します。新しいパラメータのプロンプトは、実行時に [クエリ] ウィンドウに表示されます。これにより、各パラメータに含めるデータフィールドを分類する際に、各パラメータの識別が容易になります。たとえば、1 つのパラメータに売上関連のデータフィールドを多数追加する場合、パラメータの名前を「売上」に変更して、これらのデータフィールドを要約するタイトルにします。パラメータ名は、レポートまたはグラフを実行する前に変更することをお勧めします。これにより、パラメータの識別が容易になります。

レポートまたはグラフにパラメータ値を挿入するには、パラメータフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。データフィールドを追加するには、[データ] ウィンドウでフィールドを選択し、作成したパラメータフィールドコンテナにドラッグします。

注意：[データ] ウィンドウでデータフィールドをダブルクリックすると、そのデータフィールドは、[クエリ] ウィンドウのパラメータフィールドコンテナではなく、デフォルトのフィールドコンテナに追加されます。たとえば、レポートの場合、wf_retail データソースの [値引] データフィールドをダブルクリックすると、そのフィールドは [SUM] フィールドコンテナに追加されます (作成したパラメータフィールドコンテナの外側)。[クエリ] ウィンドウで別のフィールドコンテナに配置されているデータフィールドをパラメータとして扱いたい場合は、そのフィールドをパラメータフィールドコンテナにドラッグすることができます。

また、特定のパラメータフィールドコンテナに配置されている複数のデータフィールドをドラッグして順序を変更し、実行時に表示する並び順にすることもできます。

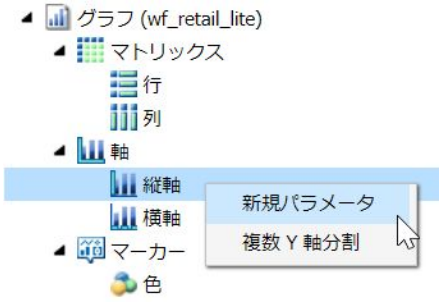
[複数グラフ] フィールドコンテナを除き、任意のフィールドコンテナでパラメータを指定することができます。パラメータを定義し、関連するデータフィールドを選択した後、そのレポートまたはグラフを実行します。各パラメータのドロップダウンリストを使用して、パラメータリストから別の値を選択し、レポートまたはグラフに表示されるデータを動的に変更することができます。別のシナリオをロードするには、値を選択した後に [実行] をクリックします。

下図では、[クエリ] ウィンドウで複数のパラメータが定義され、それぞれにデータフィールドが指定されています。



手順　パラメータを追加するには

1. 新しいレポートまたはグラフを作成するか、既存のレポートまたはグラフを開きます。
2. 下図のように、フィールドコンテナを右クリックし、[新規パラメータ] を選択して、新しいパラメータを追加します。



新しいパラメータフィールドコンテナが追加されます。

3. 新しいパラメータフィールドコンテナに、実行時にパラメータリストに表示するデータフィールドを追加します。
4. 必要に応じて、パラメータを右クリックして [パラメータのプロンプト] を選択し、パラメータの名前を変更します。

   この操作は必須ではありませんが、名前を変更することにより、定義するパラメータ数が多い場合にパラメータが区別しやすくなります。

   注意：パラメータのプロンプトを定義する場合、プロンプト文字列にブランクを含めることができます。先頭文字を一重引用符 (') にすることはできません。また、アンパサンド (&)、ピリオド (.)、セミコロン (;)、括弧 ( ) もパラメータのプロンプトに使用することはできません。
5. 必要に応じて、実行時にデータ値を選択可能にするフィールドコンテナに、1 つまたは複数のパラメータおよび関連するデータフィールドを追加します。
6. クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

下図のように、実行時に表示されるパラメータドロップダウンリストを使用して、さまざまな視点でデータを表示することができます。



注意：特定のパラメータ値を選択せずに、デフォルトパラメータ値を使用してレポートまたはグラフを実行することもできます。クイックアクセスツールバーの [実行] ボタン横の下向き矢印をクリックし、[デフォルトパラメータ値で実行] を選択します。

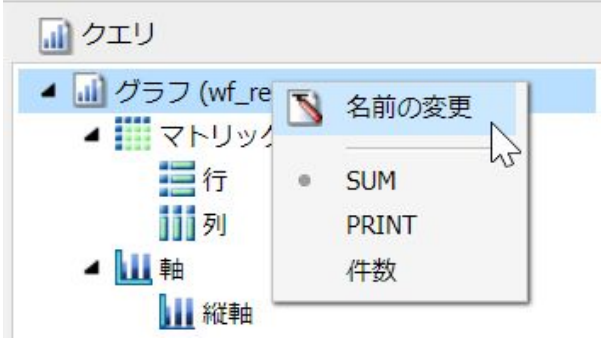
実行時には、次のナビゲーションアイコンが表示されます。

アイコン	説明
	**フィルタパネルを閉じる**　このオプションをクリックして、フィルタパネルを非表示にし、右側のレポートまたはグラフの表示領域を拡張します。
	**フィルタ値のリセット**　このオプションをクリックして、選択したフィルタ値をリセットし、パラメータが最初に設定された際のデフォルト値に戻します。
	**フィルタ値付き実行**　このオプションをクリックして、選択したパラメータ値に基づいてレポートまたはグラフを実行します。
	**フィルタパネルの表示**　このオプションをクリックして、レポートまたはグラフを表示した状態でフィルタパネルを表示します。フィルタパネルを表示した後、フィルタパネルを非表示にするには、[フィルタパネルを閉じる] をクリックします。

クエリウィンドウでのコンテキストメニューオプションの使用

[クエリ] ウィンドウでは、任意のフィールドを右クリックし、コンテキストメニューからオプションのいずれかを選択することができます。選択可能なオプションは、フィールドが格納されているフィールドコンテナのタイプと、作成するレポートのタイプによって異なります。

[クエリ] ウィンドウでは、コンポーネント (コンテンツタイプ) の名前を変更することもできます。下図のように、コンポーネントを右クリックして [名前の変更] を選択し、タイトルを変更することができます。



この方法で [クエリ] ウィンドウに表示されるタイトルをカスタマイズすることができます。また、Excel フォーマットを使用する場合、ここで指定した名前が、実行時に生成される Excel ブックのワークシート名として使用されます。

注意

- HTML フォーマットのレポートまたはグラフを作成する際は、レポートまたはグラフコンポーネントのコンテキストメニューから、[SUM]、[PRINT]、[件数]、[リスト] 集計オプションにアクセスすることもできます。
- ドキュメントモードで既存のプロシジャ (-INCLUDE コンポーネント) を挿入した際に、挿入されたプロシジャ (コンポーネント) のタイトルを変更することができます。ただし、これが影響するのは入力フォームのみです。挿入したプロシジャのタイトルは、Excel ドキュメントに出力した場合のタブタイトルには表示されません。

関連情報

- 59 ページの 「 フィールドコンテナの使用 」
- 69 ページの 「 クエリウィンドウおよびフィルタウィンドウでの右クリックフィールドオプション 」

参照

クエリウィンドウおよびフィルタウィンドウでの右クリックフィールドオプション

下表は、[クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウで、選択したフィールドを右クリックして利用可能なフィールドオプションの一覧を示しています。

オプション	説明
列数	[列数] ダイアログボックスを開き、複数のグラフを表示する列数を指定することができます。このオプションは、[複数グラフ] フィールドコンテナでのみ使用できます。
集計関数	レポートで選択した数値フィールドに、集計タイプ値を割り当てるオプションを選択するメニューがあります。
区切り	メニューを開き、改ページおよび中間合計を有効にするオプション、ページ番号をリセットするオプションを選択することができます。このオプションは、レポートで使用される任意のメジャーまたはディメンションで選択できます。
色 (BY)	[色] フィールドコンテナを [色 (BY)] フィールドコンテナに切り替えます。[色] フィールドコンテナにフィールドを追加した場合にも [色] フィールドコンテナが [色 (BY)] フィールドコンテナに切り替わります。[色 (BY)] フィールドコンテナを無効にして、ディメンションフィールドをメジャーフィールドに変更するこができます。このオプションは、グラフおよびビジュアライゼーションでのみ使用できます。
グループの作成	選択したフィールドのデータタイプに基づいて、複数の要素で構成されたグループを作成することができます。新しいグループを定義すると、選択した要素のみが含まれた上位フィールドが作成されます。このオプションは、数値以外のフォーマットまたは属性のディメンションフィールドでのみ使用できます。 詳細は、74 ページの 「 動的グループを作成するには 」 を参照してください。

オプション	説明
タイトルの変更	[タイトルの編集] ダイアログボックスを開きます。ここで、[タイトルを入力してください] テキストボックスに新しいタイトルを入力して、選択したフィールドのタイトルを変更することができます。このオプションは、すべてのフィールドで使用できます。 **注意：**フィールドのタイトルを変更する際は、[タイトルを入力してください] テキストボックスで複数の語句をカンマ (,) で区切ることで、複数行のタイトルを作成することができます。
ピアグラフ	ピアグラフ表示機能をオンにするメニューがあります。[オン] を選択すると、選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列が追加され、この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。このオプションは、レポートの [SUM] フィールドコンテナに追加されたフィールドで使用できます。
削除	選択したフィールドを削除します。このオプションは、すべてのフィールドコンテナに追加されたフィールドで使用できます。 **注意：**[クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウでは、複数のデータフィールドを一括選択して削除することができます。Ctrl キーを押しながら複数のデータフィールドを順に選択し、右クリックして [削除] を選択します。
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、特定のデータフィールドに対して、外部プロシジャや Web サイトへのマルチドリルダウンリンクを作成することができます。このオプションは、レポートまたはグラフで使用される任意のメジャーまたはディメンションで使用できます。

オプション	説明
フォーマットの編集	[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを開きます。ここで、フィールドタイプおよび表示オプションを編集することができます。このオプションは、レポートの [SUM] フィールドコンテナに追加されたフィールド、およびグラフまたはビジュアライゼーションのメジャーフィールドで使用できます。 **注意：**フィールドフォーマットの変更はすべて、実行時のグラフ、およびデザイン時と実行時のビジュアライゼーションのツールヒントに反映されます。
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスが開きます。ここで、WHERE ステートメントを作成して、必要なデータのみを選択し、不要なデータを除外することができます。このオプションは、[複数グラフ] フィールドコンテナに追加されたフィールドを除く、すべてのフィールドで使用できます。
地理的役割	[ロケーションタイプ] ダイアログボックスを開き、ロケーションタイプを選択することができます。 **注意：**このオプションは、Leaflet マップを作成する場合にのみ使用できます。
複数 Y 軸分割	グラフに複数のメジャーフィールドが追加されている場合、メジャーフィールドごとにグラフを分割して表示することができます。このオプションは、グラフおよびビジュアライゼーションの [縦軸] フィールドコンテナから選択できます。
新規パラメータ	レポートまたはグラフに新規パラメータを追加することができます。パラメータを追加すると、実行時にパラメータ値を選択するオプションが提示されます。新規パラメータは、レポートまたはグラフの任意のフィールドコンテナで作成することができます。 **注意：**グラフの場合、新規パラメータを追加できるのは、新しい属性構文を使用するグラフのみです。

オプション	説明
ミッシング	値が存在しないフィールドを表示または非表示にすることができます。このオプションは、レポートの [SUM] および [BY] フィールドコンテナに追加されたフィールドで使用できます。グラフの場合、このオプションは表示されますが、選択することはできません。
ソート	[ソート]、[ランキング]、[制限] メニューにアクセスすることができます。[ソート] メニューを使用して、データを昇順または降順にソートすることができます。[制限] メニューを使用して、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定します。[ランキング] メニューを使用すると、BY フィールドを選択した場合、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドが挿入されます。メジャーフィールドを選択した場合、そのフィールドが BY フィールドとしてコピーされ、BY フィールドの左に順位付けフィールドが追加されます。メジャーフィールドで順位付けを行った場合、フィールドのコピーが 2 つ作成されます。1 つは元のメジャーフィールドで、もう 1 つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。このオプションは、レポートまたはグラフで使用される任意のメジャーまたはディメンションで選択できます。
中間脚注	[中間見出しと中間脚注] ダイアログボックスを開いて、脚注の編集とスタイル設定を行えます。このオプションは、レポートの [BY] フィールドコンテナに追加されたフィールドで使用できます。
中間見出し	[中間見出しと中間脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しの編集とスタイル設定を行えます。このオプションは、レポートの [BY] フィールドコンテナに追加されたフィールドで使用できます。
空グループの非表示	データが存在しないグループがある場合に、グラフ上でそのグループを非表示にします。このオプションはデフォルト設定で有効になっていますが、選択を解除して無効にすることができます。このオプションは、グラフモードおよびビジュアライゼーションモードの [横軸] で使用できます。

オプション	説明
合計値でソート	グラフまたはビジュアライゼーションの出力を、積み上げ棒グラフの Y 軸 (横軸) の値を使用してソートすることができます。これは特に積み上げ棒グラフで実装された機能ですが、通常の棒グラフおよび折れ線グラフ、面グラフにも適用されます。この機能を使用して、データを降順で順位付けまたはソートして表示することができます。同様に、棒 (またはそれ以外の) グラフの場合、このオプションでは合計値で出力が降順にソートされます。このオプションは、デフォルトで [オフ] に設定されていますが、データのソートには [昇順] または [降順] を選択することができます。このオプションは、グラフモードおよびビジュアライゼーションモードの [横軸] で使用できます。 **注意：**グラフを横方向に回転した場合、[合計値でソート] メニューオプションは [縦軸] で表示されます。 詳細は、264 ページの「 合計値でグラフをソートするには 」 を参照してください。
条件付きスタイル設定	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。ここで、新規または既存の条件付きスタイルを追加して、指定した条件に一致した場合に、出力のフィールドに色やその他の属性を適用することができます。このオプションは、レポートではメジャーフィールドとディメンションフィールドの両方、グラフではディメンションフィールドで使用できます。
表示	選択したフィールドの表示を制御するメニューがあります。[非表示] を選択すると、選択したフィールドが、レポート出力に表示されなくなります。[表示] (デフォルト) を選択すると、選択したフィールドは、レポート出力に表示されます。このオプションは、[複数グラフ] フィールドコンテナに追加されたフィールドおよびパラメータを除く、すべてのフィールドで使用できます。

[クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウで選択可能なコンテキストメニューオプションはすべて、[フィールド] タブでも使用できます。詳細は、44 ページの「 フィールドタブ 」 を参照してください。

動的グループ

動的グループ機能を使用して、選択したフィールドのデータタイプに基づいて、複数の要素のグループを作成することができます。たとえば、wf_retail_lite データベースに、多数のテレビブランドが格納されている場合を想定します。動的グループ機能を使用して、特定のブランドの人気度に基づくグループを作成します。第 1 グループには、売上上位のブランド (例、LG、SONY) を含めます。第 2 グループには、残りのブランド (例、Panasonic、GPX、Supersonic、Tivax、Audiovox) を含めます。この方法で、売上上位のブランドを 1 つのグループに、残りのブランドを別のグループに分類することができます。

注意：[グループの作成] オプションは、数値以外のフォーマットまたは属性のディメンションフィールドでのみ使用できます。

同一セッションで、複数の独立したグループを作成することもできます。たとえば、複数の製品名が含まれたグループと、複数の地域名が含まれたグループを作成します。

注意：特定のデータ要素を分析から除外するには、フィルタ機能を使用します。

指定したグループが適用されると、この新しいグループが、[クエリ] ウィンドウで選択した元のフィールドの代わりに使用されます。グループの作成時に指定した名前が [クエリ] ウィンドウに反映されます。

動的グループを作成する過程で一時項目 (DEFINE) が作成されます。この一時項目 (DEFINE) は、同一セッションの他のレポートやグラフで使用することができます。また、動的グループではオートドリルダウンがサポートされるため、他のデータフィールドと同様に、データ階層内をドリルスルーすることもできます。詳細は、361 ページの 「 オートドリルダウンの使用 」 を参照してください。

注意

- 作成したグループを編集するには、最上位フィールドを右クリックし、[グループの編集] を選択します。
- レポートオブジェクトを作成する際は、動的グループの作成はサポートされません。

手順　動的グループを作成するには

1. [データ] ウィンドウから、1 つまたは複数のデータフィールドをレポートまたはグラフに追加します。

   注意：動的グループ機能は、数値以外のディメンションフィールドでのみ使用することができます。

2. [クエリ] ウィンドウで、動的グループを適用するデータフィールドを右クリックします。

注意：[グループの作成] オプションは、[データ] ウィンドウでのコンテキストメニューにも表示されます。

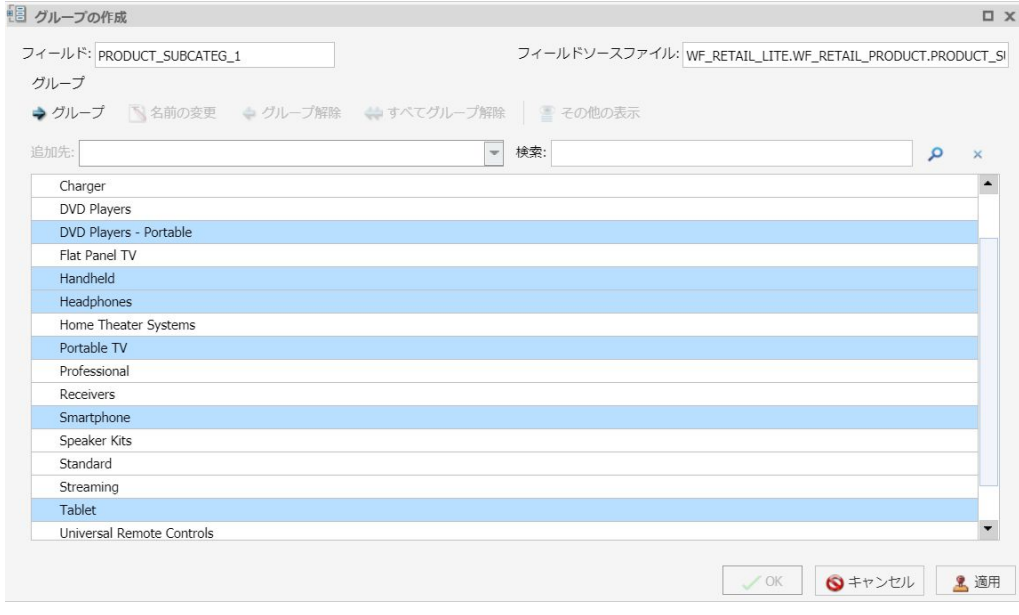
3. [グループの作成] をクリックします。

   [グループの作成] ダイアログボックスが表示されます。

4. 必要に応じて、[フィールド] テキストボックスに新しいグループの名前を入力します。

   注意：[フィールドソースファイル] テキストボックスには、完全修飾フィールド名が表示されます。このテキストボックスは、読み取り専用の属性です。この完全修飾フィールド名から、データソース名およびデータセット内でのフィールドの階層パスを識別できるため、グループの名前変更や編集を行う際に役立ちます。たとえば、「WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_PRODUCT.BRAND」と表示されます。

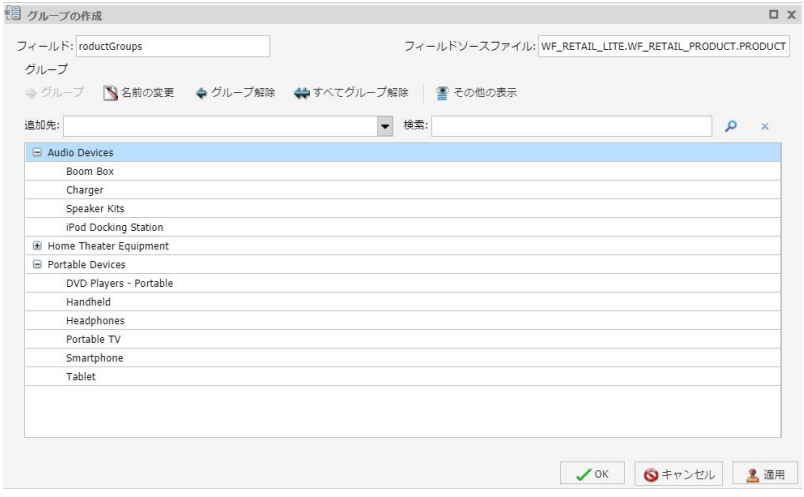
5. グループ化するデータ値を選択します。下図のように、Ctrl キーを押しながら複数の値を順に選択します。



6. [グループ] をクリックします。

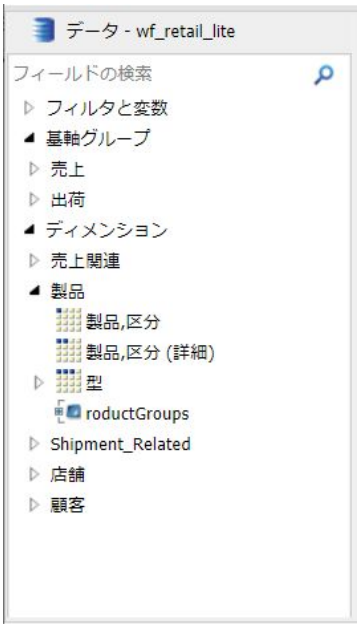
   注意：値のグループを解除するには、グループを選択し、[グループ解除] をクリックします。

7. 必要に応じて、下図のように別のグループを作成します。



8. [OK] をクリックします。

   レポート、グラフ、ビジュアライゼーションがリフレッシュされ、下図のように、グループ化されたデータが [データ] ウィンドウに表示されます。



キャンバスの理解

デフォルト設定の [ライブプレビュー] デザインビューを使用している場合、キャンバスには、作成中または編集中のレポートのプレビューが表示されます。[ライブプレビュー] デザインビューを選択するには、[ホーム] タブの [デザイン] グループで [ライブビュー] をクリックするか、[表示] タブの [デザイン] グループで [ライブビュー] をクリックします。キャンバスは常に最大領域で表示され、最小化することも、重ねて表示や並べて表示に切り替えることもできません。ただし、レポートが存在しない場合、ブランクのキャンバスが開きます。

キャンバスにはライブデータまたはサンプルデータが表示されます。

- ライブデータを表示するには、[ホーム] タブの [デザイン] グループで [ライブデータ] (デフォルト) をクリックします。

  [ライブデータ] を選択した場合、レポート内のフィールドを追加、削除、スタイル設定した際に、キャンバスで作成中のレポートのプレビューがデータソースのレコードで更新されます。

  ライブデータを使用する場合は、[件数] ドロップダウンリストで、表示する件数を設定します。より多くのレコードを表示することで、デザイン時にデータの全体像を把握することができますが、パフォーマンスが低下する可能性があります。

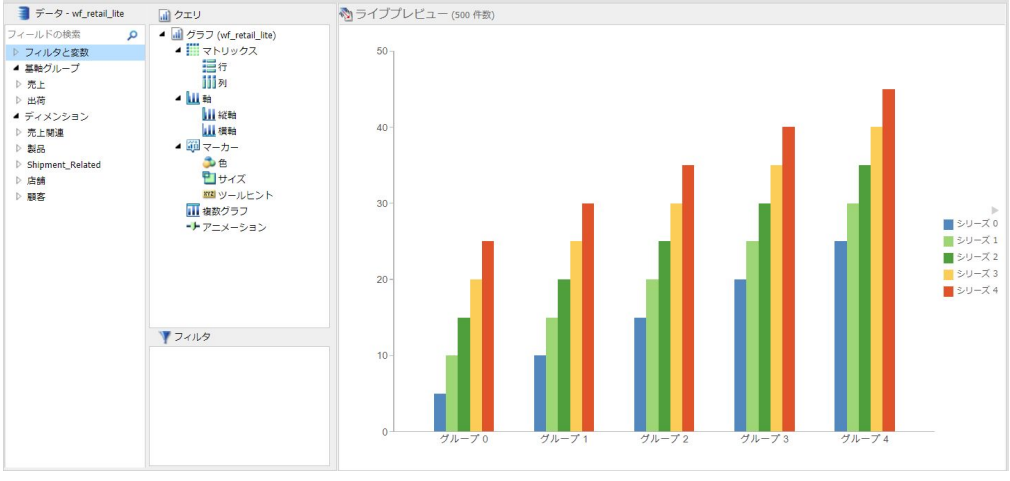
  注意：8.2.07 より前のバージョンでは、Oracle Database 12c データソースを使用してコンテンツを作成する際に、デザイン時の最大レコード数が集計前に適用されていました。バージョン 8.2.07 以降では、Oracle Database 12c を使用した最大レコード数は集計後に適用されます。

- サンプルデータを表示するには、[ホーム] タブの [デザイン] グループで [サンプルデータ] をクリックします。

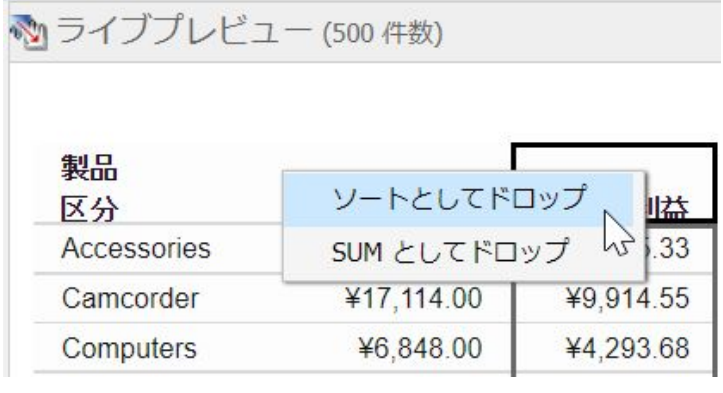
  [サンプルデータ] を選択した場合、キャンバスには、ライブデータを表示する際に使用するものと同一のフォーマットとスタイルでサンプルデータが表示されます。

レポートを実行すると、キャンバスに出力ウィンドウが表示されます。出力ウィンドウを最小化した場合、またはプレビュー表示するレポートが存在しない場合、キャンバスには何も表示されません。キャンバスのデザインビューを変更するには、[ホーム] タブまたは [表示] タブの [デザイン] グループから [クエリ] または [ライブビュー] を選択します。

下図は、グラフの作成を選択して InfoAssist を起動した直後のキャンバスを示しています。このキャンバスには、グラフのプレビューが表示されます。リソースパネルは、キャンバスの左側に表示されます。



[ライブプレビュー] デザインビューでレポートを作成する場合、レポートフィールドを左右にドラッグすることで、ユーザの好みに応じて、列の表示順序を変更することができます。レポートフィールドが数値の場合は、下図のように、[SUM としてドロップ] オプションおよび [ソートとしてドロップ] オプションが表示されます。



注意：[ソートとしてドロップ] を選択すると、個別にソートされた値が表示されます。[SUM としてドロップ] を選択すると、該当する行の値が集計されます。デフォルト設定は [SUM としてドロップ] です。

フィールドを別の位置に移動する際は、移動先の位置を示すインジケータバーが表示されます。これにより、実際に操作を行う前に、フィールドが配置される位置を確認することができます。

注意：フィールドのソート順序を変更する方法として、[クエリ] ウィンドウでフィールドコンテナ内のフィールドをドラッグすることもできます。詳細は、57 ページの「 クエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用 」 を参照してください。

フィルタを作成した場合は、そのフィルタが [フィルタ] ウィンドウに表示されます。

キャンバスでのクエリウィンドウおよびフィルタウィンドウの使用

[ホーム] タブの [デザイン] グループで [クエリ] をクリックすると、[クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウがキャンバス全体に拡張されます。

これにより、[クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウの表示領域が広がります。この機能は、作成するレポートに複数のフィルタを設定する場合や、レポートに多くのフィールドを含める場合に役立ちます。

[クエリ] ウィンドウでは、レポートとグラフのどちらを作成しているかによって、選択したフィールドの表示に使用されるフィールドコンテナタイプが異なります。

関連情報

- 453 ページの 「 フィルタによるデータ表示のカスタマイズ 」
- 59 ページの 「 フィールドコンテナの使用 」

出力オプションの理解

レポートを実行すると、出力結果がキャンバス上のタブまたは新しいブラウザウィンドウに表示されます。作成する出力結果は、次のオプションを組み合わせて、さまざまな方法で表示することができます。これらのオプションは、[表示] タブの [ウィンドウ] グループで選択します。

- 重ねて表示
- 縦に並べて表示
- 横に並べて表示
- 単一タブ
- 新規タブ
- 単一ウィンドウ

- 新規ウィンドウ
- 出力切替

出力ウィンドウとタブのオプションは、ステータスバーでも利用できます。また、出力ウィンドウの表示オプションは、ナビゲーションタスクバーで使用することもできます。

注意：レポートを実行すると、タブフォーカスは出力ウィンドウに移動するため、Tab キーを押して、選択を移動することはできません。タブフォーカスを出力ウィンドウ以外に移動するには、F6 キーを押します。

参照　出力方法オプション

選択可能な [出力方法] オプションには、次のものがあります。

- **単一タブ**　[単一タブ] を選択してレポートを実行すると、キャンバスに新しい出力ウィンドウが作成され、レポートインスタンスが生成されます。また、画面左下のナビゲーションタスクバーに出力タブが追加されます。レポートが変更されると、レポートが実行されるたびに、同一の出力ウィンドウが更新されます。このオプションがデフォルト設定で、1 つのレポートのみで作業する場合に適しています。
- **新規タブ**　[新規タブ] を選択すると、レポートが実行されるたびに、キャンバスに新しい出力ウィンドウが作成されます。また、新しいレポートインスタンスが作成され、ナビゲーションタスクバーに新しい出力タブが追加されて、レポートが保持されます。各出力タブでは、対応する出力ウィンドウの生成元のレポート出力が保持されます。ナビゲーションタスクバーで、任意の出力タブを選択して右クリックのメニューから [ビューのロード] を選択すると、[クエリデザイン] ウィンドウにロードされます。
- **単一ウィンドウ**　[単一ウィンドウ] を選択してレポートを実行すると、新しいブラウザウィンドウが開いて、レポート出力の結果が表示されます。レポートが変更されると、レポートが実行されるたびに、同一のブラウザウィンドウが更新されます。ブラウザウィンドウが閉じた状態でレポートが実行されると、再度新しいブラウザウィンドウが開いて、その後レポートが実行されるたびに、このウィンドウが更新されます。キャンバスに出力結果は表示されず、ナビゲーションタスクバーにも出力タブは追加されません。
- **新規ウィンドウ**　[新規ウィンドウ] を選択すると、レポートが実行されるたびに新しいブラウザウィンドウが開いて、レポート出力の結果が表示されます。キャンバスに出力結果は表示されず、ナビゲーションタスクバーにも出力タブは追加されません。

参照　整列オプション

選択可能な [整列] オプションには、次のものがあります。

- **重ねて表示**　複数の出力ウィンドウが存在する場合に [重ねて表示] を選択すると、これらのウィンドウがキャンバスの対角線上に重ねて表示されます。このオプションは、[新規ウィンドウ] または [単一ウィンドウ] を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。
- **縦に並べて表示**　複数の出力ウィンドウが存在する場合に [縦に並べて表示] を選択すると、これらのウィンドウがキャンバスに上下に並べて表示されます。このオプションは、[新規ウィンドウ] または [単一ウィンドウ] を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。
- **横に並べて表示**　複数の出力ウィンドウが存在する場合に [横に並べて表示] を選択すると、これらのウィンドウがキャンバスに左右に並べて表示されます。 このオプションは、[新規ウィンドウ] または [単一ウィンドウ] を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。
- **出力切替**　[出力切替] を選択すると、ドロップダウンメニューが開いて、作業中の任意のレポートを選択して、出力を表示することができます。選択したレポートは、どのウィンドウまたはタブオプションを選択したかによって、出力ウィンドウまたはブラウザウィンドウにロードされます。

参照　出力フォーマットオプション

[出力] ウィンドウに表示できるレポート出力フォーマットには、[HTML]、[HTML5]、[Analytic Document]、[PDF]、[Analytic PDF] があります。

注意：Excel および PowerPoint フォーマットは、InfoAssist 外部のウィンドウに、それぞれのソフトウェアアプリケーションで開きます。

ナビゲーションタスクバーの使用

ナビゲーションタスクバーエリアからは、作業中の出力ウィンドウと、その出力生成のためのレポートデザインすべてに、すばやくアクセスすることができます。タスクバーの [デザインビューの表示] をクリックして、[ライブプレビュー] または [クエリ] ウィンドウで最後に編集していたレポートに戻ることができます。ナビゲーションタスクバーは常に表示されます。表示位置は、アプリケーションウィンドウの下部付近、ステータスバーのすぐ上です。

ナビゲーションタスクバーには、作業中の出力ウィンドウそれぞれに対応するタブが表示されます。タブのいずれかを選択すると、その出力ウィンドウがキャンバスに表示されます。レポートを変更するたびに一意の名前で保存すると、レポートを実行して新しいウィンドウが生成される際に、タスクバーのタブとして一意の名前が表示されます。一意の名前で保存せずに、レポートの変更と実行を続行した場合は、保存済みの元のレポート名に括弧付きの番号が付けられて、複数の出力ウィンドウが区別されます。

ナビゲーションタスクバーでレポート出力を選択する際の動作は、ステータスバーまたは [表示] タブの [ウィンドウ] グループで選択した出力ウィンドウオプションに従います。詳細は、83 ページの 「 ステータスバーの使用 」 または 79 ページの 「 出力オプションの理解 」 を参照してください。

ナビゲーションタスクバーで各レポートのタブを右クリックすると、メニューに次のオプションが表示されます。

- サイズを元に戻す
- 最小化
- 最大化
- 閉じる
- 自動サイズ変更

[サイズを元に戻す]、[最小化]、[最大化]、[閉じる] は、すべてのブラウザウィンドウとソフトウェアアプリケーションで利用可能な、標準オプションです。[最小化]、[最大化] (ウィンドウが最大化されていない場合)、[サイズを元に戻す]、[閉じる] は、出力ウィンドウの右上隅にもあります。

[自動サイズ変更] オプションを使用して、フィールドを追加または削除する際に、必要に応じて、出力ウィンドウのサイズを変更することができます。

ナビゲーションタスクバーの左端にある [ウィンドウオプション] ポップアップメニューからは、作業中の出力ウィンドウをキャンバスに表示するオプションを選択することができます。選択可能な表示オプションには、[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示]、[すべて元に戻す]、[すべて最小化]、[すべて最大化]、[すべて閉じる] があります。メニューの最下部には、現在開いている出力ウィンドウの名前が表示されます。

[ウィンドウオプション] ポップアップメニューのオプションは、[表示] タブの [ウィンドウ] グループで利用可能なオプションと直接リンクしています。

ステータスバーの使用

ステータスバーの左端には、最後に実行した操作のステータスが表示されます。ステータスバーの右端には、現在開いているレポート数を示す [レポート] ボタン、選択した出力フォーマットおよび選択可能な出力フォーマットのリストを表示する [出力フォーマット] ボタン、選択した出力先 (ウィンドウまたはタブ) および選択可能な出力先リストを表示する [出力ターゲット] ボタンがあります。

下図は、ステータスバーを示しています。



[レポート] ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが開き、現在開いているレポートのいずれかを選択するオプションが表示されます。レポートはそれぞれ、レポート名、およびレポートタイプ (レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーション) を表すアイコンで識別されます。選択したレポートがアクティブになります。

出力フォーマットのボタンをクリックすると、メニューが開いて、別の出力フォーマットを選択するオプションが表示されます。これらのオプションについての詳細は、79 ページの「 出力オプションの理解 」 を参照してください。

[出力ターゲット] ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが開き、[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] のいずれかを選択するオプションが表示されます。詳細は、79 ページの 「 出力オプションの理解 」 を参照してください。

3 レポートの作成とカスタマイズ

レポートの特定エリアにスタイルを適用し、外観と機能をカスタマイズすることができます。また、オプションのさまざまなレポート機能を活用して、レポートにカスタム機能と出力フォーマットを追加することもできます。

トピックス

- レポートの作成
- レポートのスタイル設定
- フィールドフォーマットの変更
- カスタムレポート機能の活用
- カスタムレポート出力の作成

レポートの作成

WebFOCUS 開始ページおよび InfoAssist で基本レポートを作成するには、次の手順を実行します。

手順　レポートを作成するには

WebFOCUS にログイン後、WebFOCUS 開始ページの既存フォルダを選択するか、新しいフォルダを作成して、そのフォルダをレポートの格納先にすることができます。

1. InfoAssist をレポートモードで開きます。
2. フィールドをキャンバスまたは [クエリ] ウィンドウにドラッグして、レポートの作成を開始します。

下図は、レポートを示しています。

製品区分	販売数量	収益
Accessories	511,667	¥129,608,338.53
Camcorder	455,244	¥154,465,702.24
Computers	351,777	¥103,316,482.12
Media Player	771,934	¥246,073,059.36
Stereo Systems	1,114,332	¥291,294,933.52
Televisions	105,188	¥78,381,132.81
Video Production	199,749	¥58,053,276.62

手順　アプリケーションメインメニューからレポートを作成するには

1. InfoAssist インターフェースの左上で、[メインメニュー] ボタンをクリックしてアプリケーションメインメニューを開きます。
2. アプリケーションメインメニューから [新規作成] を選択します。

   InfoAssist のスプラッシュスクリーンが開きます。
3. InfoAssist のスプラッシュスクリーンで、[レポートの作成] を選択します。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。
4. [開く] ダイアログボックスで、使用するデータソースを選択し、[開く] をクリックします。

   選択したデータソースが、リソースパネルの [データ] ウィンドウに表示されます。
5. フィールドをキャンバスまたは [クエリ] ウィンドウにドラッグして、レポートの作成を開始します。

手順　クイックアクセスツールバーからレポートを作成するには

1. クイックアクセスツールバーで、[新規作成] アイコンをクリックします。

   InfoAssist のスプラッシュスクリーンが開きます。
2. InfoAssist のスプラッシュスクリーンで、[レポートの作成] を選択します。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. [開く] ダイアログボックスで、使用するデータソースを選択し、[開く] をクリックします。

選択したデータソースが、リソースパネルの [データ] ウィンドウに表示されます。

4. フィールドをキャンバスまたは [クエリ] ウィンドウにドラッグして、レポートの作成を開始します。

手順　既存のグラフからレポートを作成するには

1. InfoAssist で作成したグラフを開きます。
2. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[レポート] をクリックします。

   データがレポートとして表示されます。

   注意：レポートの作成では、[SUM] または [PRINT] フィールドコンテナに 99 個までフィールドを追加することができます。100 個目のフィールドを追加すると、リストの最後のフィールドが自動的に置き換えられます。

レポート出力タイプの選択

レポートに使用可能な出力タイプには次のものがあります。

- HTML
- Analytic Document
- PDF
- Analytic PDF
- Excel
- PowerPoint

注意：[ドキュメント] デザインビューでレポートを作成する場合は、Excel 出力タイプから [Excel] (XLSX) のみ使用できます。

[ライブプレビュー] または [クエリ] デザインビューでレポートを作成する場合は、次の Excel 出力タイプを使用できます。

- **Excel (XLSX)**　レポートを Excel 2007 以降のフォーマットで出力します。
- **Excel (EXL2K)**　レポートを Excel フォーマットで出力します。
- **Excel Formula (XLSX FORMULA)**　列合計、行合計、中間合計など、集計情報に Excel の数式を使用してレポートを出力します。レポートは、Excel 2007 以降のフォーマットで出力されます。

- **Excel Formula (EXL2K FORMULA)** 合計と演算に Excel の数式を使用してレポートを出力します。

注意：その他の出力タイプ (例、Excel Pivot、Excel (CSV)) は、WebFOCUS 管理コンソールで有効にすることができます。

プロシジャの設定機能の使用

[プロシジャの設定] 機能 (SET コマンドとも呼ばれる) を使用して、プロシジャに含める項目を指定および制御することができます。プロシジャに [プロシジャの設定] を追加する場合は、関連するチェックボックスを選択してプロシジャに設定を含めます。[プロシジャの設定] は、[レポート]、[グラフ]、[ドキュメント] モードで使用できます。

[プロシジャの設定] はクイックアクセスツールバーからアクセスできます。[プロシジャの設定] をクリックすると、下図のように [プロシジャの設定] ダイアログボックスが表示され、プロシジャに適用するオプションを選択することができます。



次のオプションがあります。

- **照合順序 (COLLATION)** バイナリまたは大文字と小文字を区別しない照合順序を設定します。[コードページ] (デフォルト設定)、[バイナリ]、[大文字と小文字を区別する]、[大文字と小文字を区別しない] のオプションがあります。この値は、デフォルト設定でプロシジャに書き込まれません。そのため、チェックボックスを選択して動作を指定する必要があります。

- **集計行 (SUMMARY LINES)** 1 つのリクエストの集計行で演算接頭語を使用するフィールドと使用しないフィールドを組み合わせることができます。[NEW] (デフォルト値)、[OLD]、[EXPLICIT] のオプションがあります。この値は、デフォルト設定でプロシジャに書き込まれません。そのため、チェックボックスを選択して動作を指定する必要があります。

- **ミッシング値 (NODATA)** レポートに表示するミッシングデータ文字を指定します。このテキストボックスには、デフォルト値のピリオド (.) が入力されています。よく使用される値には、[N/A] または [NONE] があります。また、このフィールドには 6 バイトの文字数制限が設定されています。この値は、デフォルト設定でプロシジャに書き込まれません。そのため、チェックボックスを選択して動作を指定する必要があります。

  注意：[ミッシング値] フィールドに変数 (&) を使用して、実行時に値の入力を許可することができます。一般的に、有効な値には任意の文字列またはローカル変数 (&) が含まれ、これらは自動的に表示されます。「&xx」を使用して、オートプロンプトを有効にすることができます。たとえば、「&NONE」を使用して、実行時に値を指定することができます。[ライブプレビュー] デザインビューでは、この値は「_FOC_NULL」に設定されるか、フィールド内の既存の値で定義された幅に収まる文字数に設定されます。グローバル変数 (&&) は、オートププロンプトを有効にできないため、入力しないでください。文字列とローカル変数 (&) を一緒に使用すると、FOCUS エラーが発生する場合があります (例、&&&&N& または &nn&n&)。

- **Analytic Document** Analytic Document を使用する場合は、[デザイナスタイル] または [レガシー] のフォーマットから選択できます。

- **10 進数表記 (CDN)** 通貨表示をターゲット言語で適切な方法に設定します。ラジオボタンには、[オン] と [オフ] (デフォルト値) があります。

- **HTML エンコード (HTMLENCODE)** HTML タグが実データ内に格納されている場合や DEFINE または COMPUTE コマンドを使用して作成されている場合に、これらのタグをエンコードするかどうかを制御します。ラジオボタンには、[オン] (デフォルト値) と [オフ] があります。このオプションは、デフォルト設定 (チェックボックスがオン) でプロシジャに含まれるよう設定されています (Reporting Server のデフォルト設定ではないため)。

- **空レポート (EMPTY REPORT)** TABLE リクエストで取得するレコードがゼロ件の場合の出力を制御します。ラジオボタンには、[オン] (デフォルト値) と [オフ] があります。このオプションが [オン] に設定されている場合、空のレポートが生成されます (列見出しのみでコンテンツが含まれない)。[オフ] に設定されている場合、レポートは生成されません。このオプションは、デフォルト設定 (チェックがオン) でプロシジャに含まれるよう選択されています (Reporting Server のデフォルト設定ではないため)。

注意：レポートモードでは、すべての設定が適用できます。グラフモードでは、照合順序 (COLLATION)、10 進数表記 (CDN)、空レポート (EMPTY REPORT) の設定が適用できます。ドキュメントモードでは、[プロシジャの設定] がドキュメント全体に適用されます。これらの設定は、ビジュアライゼーションモードでは現在使用できません。

手順　ミッシング値オプションを使用してプロシジャを作成するには

1. 下図のように、ディメンション、メジャー、ACROSS ソートフィールドを 1 つずつ含み、ミッシング値を表示するレポートを作成します。

		売上,月	2		3			4		
製品区分	製品区分（詳細）	出荷単位	売上単位	収益	出荷単位	売上単位	収益	出荷単位	売上単位	収益
Accessories	Charger	1,787	5,758	¥308,399.44	1,973	6,204	¥335,173.42	1,747	5,650	¥302,060.71
	Headphones	3,935	12,663	¥5,893,534.80	4,245	13,463	¥6,315,537.72	3,843	12,178	¥5,839,458.51
	Universal Remote Controls	3,034	9,833	¥3,832,289.50	3,340	10,639	¥4,174,811.49	2,985	9,581	¥3,769,288.51
Camcorder	Handheld	4,290	13,631	¥3,236,750.12	4,575	14,636	¥3,418,859.24	4,256	13,490	¥3,203,254.27
	Professional	230	729	¥3,528,160.30	242	756	¥3,613,297.60	216	748	¥3,515,077.25
	Standard	3,252	10,494	¥5,302,046.82	3,610	11,263	¥5,643,508.95	3,291	10,409	¥5,225,752.00
Computers	Smartphone	3,330	10,248	¥3,493,796.81	3,622	11,413	¥3,942,055.02	3,178	10,281	¥3,554,501.92
	Tablet	2,663	6,911	¥3,133,934.77	3,102	8,134	¥3,628,599.06	3,368	8,858	¥3,605,636.03
Media Player	Blu Ray	11,693	36,826	¥17,812,522.21	12,623	40,707	¥19,741,598.94	11,421	36,130	¥17,519,032.73
	DVD Players	2	914	¥395,140.36	.	.	.	.	.	.
	Streaming	858	2,713	¥374,818.69	1,364	4,167	¥611,384.13	1,314	3,696	¥543,772.05
Stereo Systems	Home Theater Systems	6,788	21,808	¥6,500,329.36	7,485	23,315	¥6,922,251.63	6,599	21,120	¥6,295,003.54
	Receivers	2,611	8,174	¥4,249,219.54	2,767	8,730	¥4,596,802.58	2,477	8,085	¥4,265,955.15
	Speaker Kits	4,206	13,233	¥8,235,995.08	4,542	14,332	¥8,872,934.16	4,020	13,117	¥8,043,816.04
	iPod Docking Station	5,184	16,609	¥3,139,079.47	5,863	18,348	¥3,475,114.85	5,147	16,636	¥3,131,420.79
Televisions	Flat Panel TV	1,592	5,249	¥5,905,664.96	1,709	5,427	¥6,107,649.48	1,561	4,982	¥5,607,227.52
Video Production	Video Editing	3,468	10,760	¥4,442,431.60	3,744	11,881	¥4,879,025.80	3,317	10,774	¥4,385,222.92

   注意：ハイライト表示された領域では、ミッシング値がデフォルト設定のピリオド (.) で表示されています。

2. クイックアクセスツールバーの [プロシジャの設定] をクリックします。
3. [ミッシング値] チェックボックスをクリックします。
4. [ミッシング値] テキストボックスに、レポート内のミッシング値の表示に使用する文字を入力します (例、NONE)。

   注意：デフォルト設定では、ピリオド (.) に設定されています。[N/A] または [NONE] もよく使用されます。

5. [OK] をクリックします。

下図の例では、ミッシング値を含むフィールドが、指定した単語「NONE」で表示されています。下図は、この値を示しています。

	売上,月	2			3			4		
製品区分	製品区分（詳細）	出荷単位	売上単位	収益	出荷単位	売上単位	収益	出荷単位	売上単位	収益
Accessories	Charger	1,787	5,758	¥308,399.44	1,973	6,204	¥335,173.42	1,747	5,650	¥302,060.71
	Headphones	3,935	12,663	¥5,893,534.80	4,245	13,463	¥6,315,537.72	3,843	12,178	¥5,839,458.51
	Universal Remote Controls	3,034	9,833	¥3,832,289.50	3,340	10,639	¥4,174,811.49	2,985	9,581	¥3,769,288.51
Camcorder	Handheld	4,290	13,631	¥3,236,750.12	4,575	14,636	¥3,418,859.24	4,256	13,490	¥3,203,254.27
	Professional	230	729	¥3,528,160.30	242	756	¥3,613,297.60	216	748	¥3,515,077.25
	Standard	3,252	10,494	¥5,302,046.82	3,610	11,263	¥5,643,508.95	3,291	10,409	¥5,225,752.00
Computers	Smartphone	3,330	10,248	¥3,493,796.81	3,622	11,413	¥3,942,055.02	3,178	10,281	¥3,554,501.92
	Tablet	2,663	6,911	¥3,133,934.77	3,102	8,134	¥3,628,599.06	3,368	8,858	¥3,605,636.03
Media Player	Blu Ray	11,693	36,826	¥17,812,522.21	12,623	40,707	¥19,741,598.94	11,421	36,130	¥17,519,032.73
	DVD Players	2	914	¥395,140.36	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE	NONE
	Streaming	858	2,713	¥374,818.69	1,364	4,167	¥611,384.13	1,314	3,696	¥543,772.05
Stereo Systems	Home Theater Systems	6,788	21,808	¥6,500,329.36	7,485	23,315	¥6,922,251.63	6,599	21,120	¥6,295,003.54
	Receivers	2,611	8,174	¥4,249,219.54	2,767	8,730	¥4,596,802.58	2,477	8,085	¥4,265,955.15
	Speaker Kits	4,206	13,233	¥8,235,995.08	4,542	14,332	¥8,872,934.16	4,020	13,117	¥8,043,816.04
	iPod Docking Station	5,184	16,609	¥3,139,079.47	5,863	18,348	¥3,475,114.85	5,147	16,636	¥3,131,420.79
Televisions	Flat Panel TV	1,592	5,249	¥5,905,664.96	1,709	5,427	¥6,107,649.48	1,561	4,982	¥5,607,227.52
Video Production	Video Editing	3,468	10,760	¥4,442,431.60	3,744	11,881	¥4,879,025.80	3,317	10,774	¥4,385,222.92

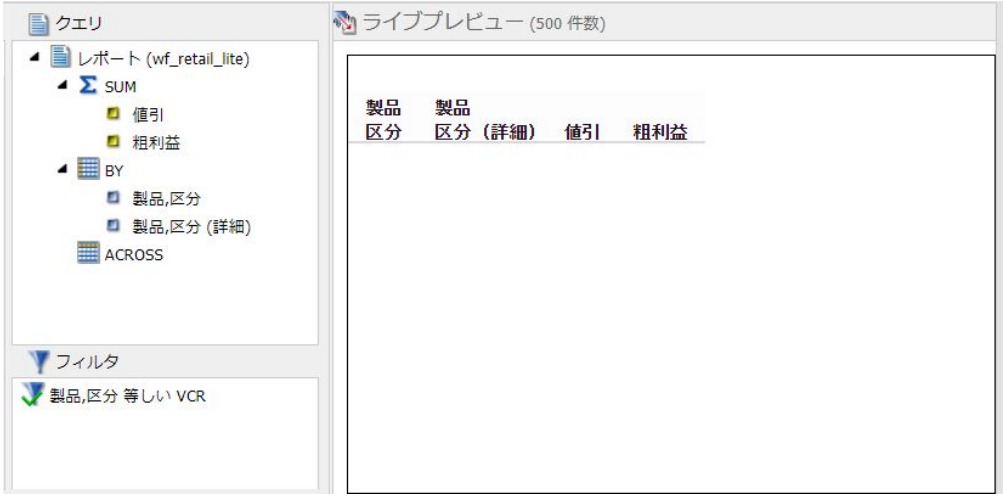
6. プロシジャを保存します。

手順　空レポートオプションを使用してプロシジャを作成するには

1. 1 つまたは複数のメジャーと 2 つのディメンションを含むレポートを作成します。
2. フィルタを追加し、選択したディメンションに存在しない値でフィルタを設定して空のレポートを作成します。

   注意：フィルタ条件を追加すると、レコードを含まないレポートが生成されます。デフォルト設定の動作 (EMPTYREPORT=ON) では、見出しおよび列タイトルが表示されます。

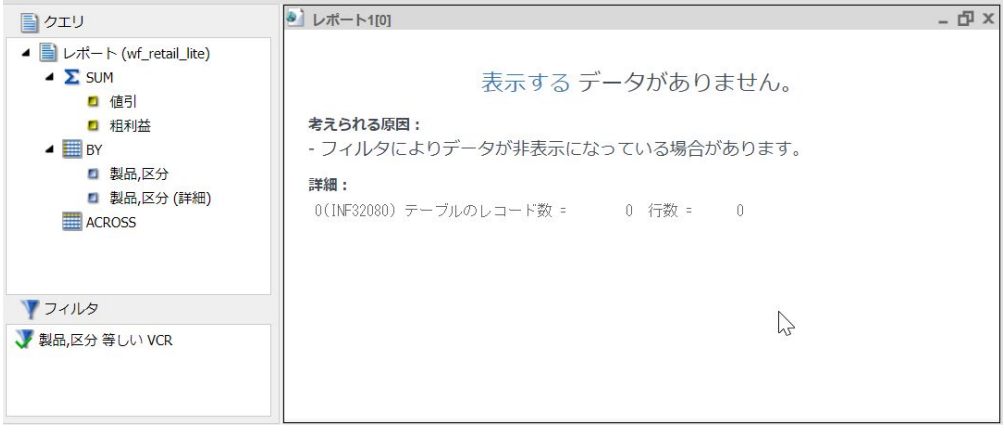
下図は、空レポートを示しています。



3. クイックアクセスツールバーの [プロシジャの設定] をクリックします。
4. [空レポート] のチェックをオフにします。

   注意：このオプションはデフォルト設定で選択されています。[空レポート] は、[オン] または [オフ] に設定できます。[空レポート] が有効化され、[オン] に設定されている場合、レポートの外枠 (見出しおよびタイトル) が表示されます。この設定が [オフ] の場合は、環境デフォルト値が使用されます。
5. [OK] をクリックします。

   [空レポート] のチェックがオフの場合、下図のように、レポートが生成されません。

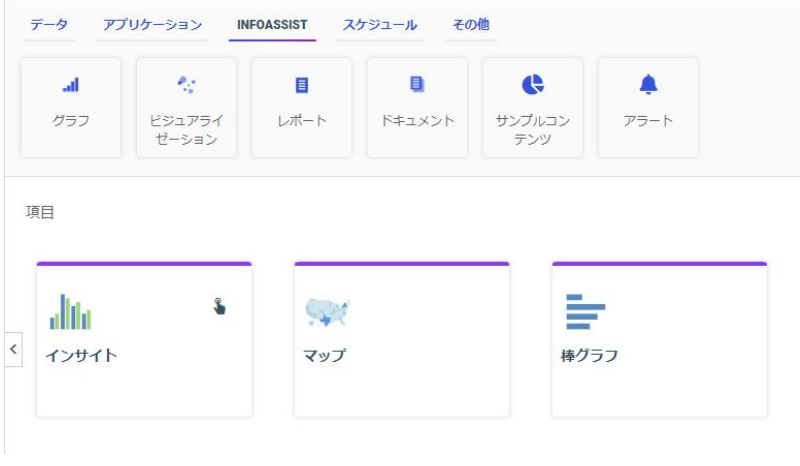


6. プロシジャを保存します。

WebFOCUS 開始ページで使用するサムネールの作成

InfoAssist では、WebFOCUS 開始ページで使用するサムネールイメージを作成、保存することができます。サムネールイメージを作成すると、ファイルを開かずにレポートやグラフのスナップショットを確認することができます。InfoAssist でサムネールイメージを作成するには、クイックアクセスツールバーの [サムネールの作成] アイコンをクリックします。

サムネールイメージの作成は、InfoAssist のレポートモードおよびグラフモードで行えます。サムネールイメージは、[ライブプレビュー] デザインビューに表示される実際のレポートまたはグラフの縮小版 (220 x 160px) として表現したものです。サムネールを作成し、レポートまたはグラフを保存すると、下図のように WebFOCUS 開始ページのファイルリストにサムネールイメージが表示されます。



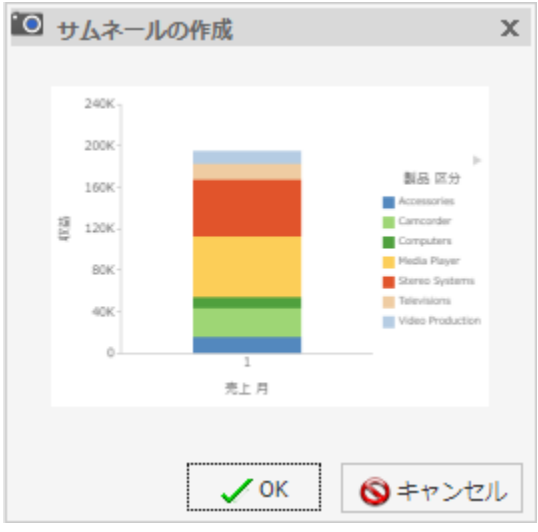
注意：サムネールイメージは、リポジトリに保存した際にプロシジャの一部として保存されます。

手順　レポートまたはグラフのサムネールイメージを作成するには

1. InfoAssist をレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. レポートまたはグラフを作成します。
3. クイックアクセスツールバーで、下図の青枠で示したように、[サムネールの作成] をクリックします。



下図のように、[サムネールの作成] ダイアログボックスが表示されます。



4. [サムネールの作成] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
5. クイックアクセスツールバーで、[保存] をクリックして、グラフまたはレポートをサムネールとともに保存します。サムネールは、プロシジャとともに保存されます。

手順　WebFOCUS 開始ページからサムネールのプロパティを確認するには

1. サムネールを含むレポートまたはグラフを作成します。
2. プロシジャを保存します。
3. WebFOCUS 開始ページのワークスペースエリアの項目リストで、プロシジャを選択します。
   プロシジャとともに保存されたサムネールのイメージが表示されます。
4. プロシジャを右クリックして [プロパティ] を選択すると、追加のサムネールオプションが表示されます。
5. [詳細] タブをクリックします。

下図のように、パネルの [エクスプローラ/ポータルのプロパティ] セクションにサムネールが表示されます。



レポートのスタイル設定

レポートの特定エリアに、カスタムスタイルを適用することができます。レポートを作成する際に、次の方法でスタイルをカスタマイズすることができます。

- レポート全体にグローバルスタイルを設定する。詳細は、96 ページの 「 レポート全体にスタイルを適用するには 」 を参照してください。
- データと列タイトルにスタイルを設定する。詳細は、97 ページの 「 レポートのフィールドレベルでスタイルを設定するには 」 を参照してください。

- ❏ 見出しと脚注にスタイルを設定する。詳細は、101 ページの 「 レポートの見出し/脚注スタイルを設定するには 」 を参照してください。
- ❏ 行データに交互に異なる色スタイルを適用する。詳細は、102 ページの 「 レポートのデータ行に色バンドスタイルを設定するには 」 を参照してください。
- ❏ データに条件付きスタイルを適用する。詳細は、102 ページの 「 レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (定数の使用) 」 および 104 ページの 「 レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (フィールドの使用) 」 を参照してください。
- ❏ 行列間のスペースを調整する。詳細は、105 ページの 「 レポートでセルパディングを使用するには 」 を参照してください。

手順　レポート全体にスタイルを適用するには

1. 新しいレポートを作成するか、既存のレポートを開きます。
2. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[スタイル] をクリックします。

   [レポートスタイル] ダイアログボックスが表示されます。
3. [スタイル] グループで利用可能な次の任意のスタイルオプションから選択します。
   - ❏ **フォント**　ドロップダウンリストを開き、フォントを変更することができます。
   - ❏ **フォントサイズ**　ドロップダウンリストを開き、フォントサイズを変更することができます。
   - ❏ **太字**　選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
   - ❏ **斜体**　選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
   - ❏ **下線**　選択したテキストを下線付きにします。
   - ❏ **左揃え**　テキストをキャンバスの左端に揃えます。
   - ❏ **中央揃え**　テキストをキャンバスの中央に揃えます。
   - ❏ **右揃え**　テキストをキャンバスの右端に揃えます。
   - ❏ **文字色**　[色] ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択することができます。
   - ❏ **背景色**　[色] ダイアログボックスを開き、フォントの背景色を選択することができます。

     注意：特定の色を選択した後、[レポートスタイル] ダイアログボックスに戻るには、[OK] をクリックします。

- **通貨記号**　ドロップダウンリストを開き、通貨記号を選択することができます。オプションには、[米国ドル]、[英国ポンド]、[日本円]、[ユーロ]、[イスラエル 新シェケル]があります。
- **スタイルのリセット**　すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。

注意：リセットは、[レポートスタイル] ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK] をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] コマンドを使用します。

プレビュー　設定したフォーマットどおりにテキストを表示します。

4. [OK] をクリックします。指定したスタイルがレポートに適用されます。

手順　レポートのフィールドレベルでスタイルを設定するには

レポート出力では、選択したフィールドのデータ、列タイトル、またはその両方にスタイルを設定することができます。

1. レポートを作成します。
2. [クエリ] ウィンドウで、フィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。
3. [スタイル] グループで、次のいずれかをクリックします。
   - **データスタイル**　選択したフィールドのデータのみにスタイルを設定します。
   - **タイトルスタイル**　選択したフィールドのタイトルのみにスタイルを設定します。
   - **データ + タイトル**　選択したフィールドのデータとタイトルの両方にスタイルを設定します。
4. [スタイル] グループで利用可能な次の任意のスタイルオプションから選択します。
   - **フォント**　ドロップダウンリストを開き、フォントを変更することができます。
   - **フォントサイズ**　ドロップダウンリストを開き、フォントサイズを変更することができます。
   - **文字色**　[色] ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択することができます。

- **デフォルトスタイルに戻す**　変更したスタイル設定をすべてデフォルトスタイルに戻します。
- **太字**　選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
- **斜体**　選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
- **下線**　選択したテキストを下線付きにします。
- **左揃え**　テキストをキャンバスの左端に揃えます。
- **中央揃え**　テキストをキャンバスの中央に揃えます。
- **右揃え**　テキストをキャンバスの右端に揃えます。
- **背景色**　このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、レポートの背景色を選択します。

  注意：特定の文字色または背景色を選択した後、[レポートスタイル] ダイアログボックスに戻るには、[色] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

5. [OK] をクリックします。指定したスタイルがレポートに適用されます。

手順　レポートに見出しと脚注を追加するには

見出しと脚注を追加して、レポートに補足説明を付けることができます。見出しおよび脚注は、レポートの目的や対象者にレポートに関する説明や重要情報を提供します。また、見出しと脚注を追加することでレポートの構造が明確になり、必要な詳細情報を見つけやすくなります。さらに、レポートの見栄えをよくするという効果もあります。

この手順では、レポート見出しおよびページ脚注を追加し、スタイルを設定します。この手順では、サンプルの値を使用しますが、実際のレポートでは実際の値を入力することができます。

見出しおよび脚注は、[クエリ]、[ライブプレビュー]、[ドキュメント] デザインビューで使用可能です。

1. レポートを作成します。
2. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[見出し/脚注] ボタンをクリックします。

   [見出しと脚注] ダイアログボックスが開きます。
3. 追加する見出しまたは脚注のタブをクリックします。

   レポートの場合、レポート見出し、ページ見出し、ページ脚注、レポート脚注を追加することができます。デフォルト設定では、[レポート見出し] タブが選択されています。この手順では、デフォルト設定を受容します。

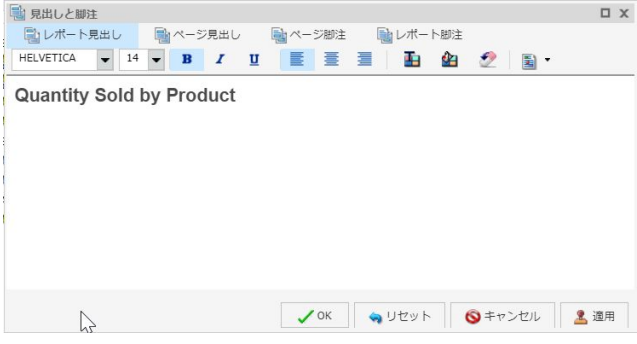
4. このダイアログボックスのデザインエリア内をクリックし、見出しテキストを入力します。

   この例では、レポート見出しのテキストとして「Quantity Sold by Product」と入力します。

5. [スタイル] リボンを使用して、レポート見出しテキストにスタイルを適用します。

   たとえば、[フォント] ドロップダウンリストから [HELVETICA] を選択します。[フォントサイズ] ドロップダウンリストから [14] を選択します。

   下図は、選択したスタイルの値を適用したサンプルのレポート見出しを示しています。



6. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを開いたまま、これまでに加えた変更を保存します。

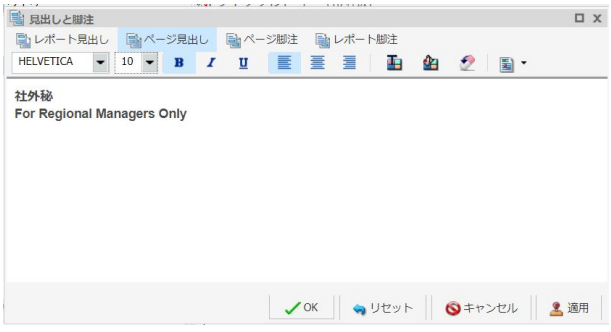
7. [ページ見出し] タブをクリックして、ページ見出しを追加します。

   この手順では、提供されている定型句オプションの 1 つを追加します。

8. スタイルリボンの右端のボタン  (見出しと脚注に定義済みのテキストを挿入) をクリックし、リストから [社外秘] を選択します。

9. フォントおよびフォントサイズを変更します。たとえば、フォントを [HELVETICA] のサイズ [10] に変更します。

挿入した定型句の前後に、独自のテキストを追加することもできます。この例では、「For Regional Managers Only」と入力します。



10. [OK] をクリックし、レポート見出しとページ見出しを保存して、[見出しと脚注] ダイアログボックスを閉じます。

    下図のように、追加してスタイルを設定したレポート見出しとレポート脚注が、[ライブプレビュー] デザインビューに表示されます。

Quantity Sold by Product

社外秘
For Regional Managers Only

製品区分	販売数量
Accessories	511,667
Camcorder	455,244
Computers	351,777
Media Player	771,934
Stereo Systems	1,114,332
Televisions	105,188
Video Production	199,749

11. レポート見出しまたはページ見出しを変更する場合は、それぞれの見出しを右クリックし、[編集] を選択します。[見出しと脚注] ダイアログボックスを開くには、見出しをダブルクリックする方法もあります。

手順　レポートの見出し/脚注スタイルを設定するには

レポート出力の見出しフィールドまたは脚注フィールドを選択して、スタイルを設定することができます。

1. レポートを作成します。
2. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、スタイルを設定する見出しまたは脚注のテキストを選択します。
3. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[見出し/脚注] をクリックします。

   [見出しと脚注] ダイアログボックスが開きます。
4. [スタイル] ダイアログボックスで利用可能な次の任意のスタイルオプションから選択します。
   - **フォント**　ドロップダウンリストを開き、フォントを変更することができます。
   - **フォントサイズ**　ドロップダウンリストを開き、フォントサイズを変更することができます。
   - **太字**　選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
   - **斜体**　選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
   - **下線**　選択したテキストを下線付きにします。
   - **左揃え**　テキストをキャンバスの左端に揃えます。
   - **中央揃え**　テキストをキャンバスの中央に揃えます。
   - **右揃え**　テキストをキャンバスの右端に揃えます。
   - **文字色**　[色] ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択することができます。
   - **背景色**　[色] ダイアログボックスを開き、フォントの背景色を選択することができます。
   - **スタイルのリセット**　すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。

     注意：リセットは、[レポートスタイル] ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK] をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] コマンドを使用します。
5. [OK] をクリックします。指定したスタイルがレポートに適用されます。

手順　レポートのデータ行に色バンドスタイルを設定するには

レポートのデータ行に色バンドスタイルを設定することができます。

1. レポートを作成します。
2. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。
3. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[バンド] をクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。
4. 色を選択します。
5. [OK] をクリックします。

   レポートに、1 行ごとに交互の配色が適用されます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。下図のように、このパターンは、レポート全体に適用されます。

製品区分	販売数量
Accessories	511,667
Camcorder	455,244
Computers	351,777
Media Player	771,934
Stereo Systems	1,114,332
Televisions	105,188
Video Production	199,749

手順　レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (定数の使用)

選択したメジャーフィールドのデータに条件付きスタイルルールを適用することができます。

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン**　レポート上でフィールドを選択し、[フィールド] タブの [表示] グループで [条件スタイル] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー**　レポート上でフィールドを右クリックし、[詳細]、[条件付きスタイル設定] を順に選択します。

   [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスが開きます。
3. フィールド名の下の関係演算子ドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。たとえば、[等しい] を選択します。

4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、[タイプ] ドロップダウンメニューの下向き矢印をクリックします。

   [タイプ] メニューが開きます。

5. [タイプ] ドロップダウンリストから [定数] を選択します。
6. [値] テキストボックスに値を入力します。

   または

   a. [値の取得] ドロップダウンメニューから、[すべて]、[最初]、[最後]、[最小]、[最大]、[ファイルから] のいずれかを選択します。選択した値が [値の取得] テキストボックスに表示されます。
   b. [値の取得] テキストボックスで値を選択します。選択した値が [値] テキストボックスに表示されます。

7. [OK] をクリックします。

   選択した値が、関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスに表示されます。

8. [スタイル] ボタンをクリックします。

   [スタイル] メニューが開きます。

9. [スタイル] メニューの [文字色] または [背景色] ボタンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。

10. 色を選択します。
11. [OK] をクリックします。

    選択した色が [プレビュー] ボックスに表示されます。

12. [適用] をクリックして、レポートに色を適用します。
13. [ドリルダウン] ボタンをクリックします。

    [ドリルダウン] ダイアログボックスが開きます。

14. [ドリルダウン] ダイアログボックスで、ラジオボタンのいずれかを選択して、実行するアクションを指定します。たとえば、レポートまたは Web ページにドリルダウンするアクション、オートリンクターゲットを作成するアクション、ポータルをリフレッシュするアクションがあります。
15. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
16. [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスで、別のフィールドに条件付きスタイルルールを設定するには、[新規作成] ボタンをクリックします。

手順　レポートに条件付きスタイルルールを適用するには (フィールドの使用)

選択したメジャーフィールドのデータに条件付きスタイルルールを適用することができます。

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。
   - **リボン**　レポート上でフィールドを選択し、[フィールド] タブの [表示] グループで [条件スタイル] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー**　レポート上でフィールドを右クリックし、[詳細]、[条件付きスタイル設定] を順に選択します。

   [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスが開きます。
3. フィールド名の下のドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。たとえば、[等しい] を選択します。
4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、[タイプ] ドロップダウンメニューの矢印をクリックします。

   [タイプ] ダイアログボックスが開きます。
5. [タイプ] ドロップダウンリストから [フィールド] を選択します。

   [タイプ] ダイアログボックスに、選択可能なデータフィールドのリストが表示されます。
6. リストからデータフィールドを選択します。
7. [OK] をクリックします。

   選択したフィールドが、関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスに表示されます。
8. [スタイル] ボタンをクリックします。

   [スタイル] メニューが開きます。
9. [スタイル] メニューの [色] ボタンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。
10. 色を選択します。

    選択した色が [プレビュー] ボックスに表示されます。
11. [OK] をクリックします。
12. [ドリルダウン] ボタンをクリックします。

    [ドリルダウン] ダイアログボックスが開きます。

13. [ドリルダウン] ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。
    - ❏ レポートまたは Web ページへのドリルダウン
    - ❏ Web ページの URL
    - ❏ 代替コメント
    - ❏ ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ)
    - ❏ 使用するパラメータ (名前、値)
14. [OK] をクリックします。
15. 別のフィールドに条件付きスタイルルールを設定するには、[新規作成] ボタンをクリックします。

手順　レポートでセルパディングを使用するには

レポートの行列間に挿入するスペースのサイズをカスタマイズすることができます。

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。
2. [レイアウト] タブの [レポート] グループで [セルパディング] をクリックし、[カスタム] を選択します。

   [セルパディング] ダイアログボックスが開きます。
3. [上]、[下]、[左]、[右] テキストボックスに、セルパディング値を入力します。
4. [OK] をクリックします。

   設定したセルパディング値がレポートに反映されます。

下図は、カスタムセルパディングを使用したレポートを示しています。



フィールドフォーマットの変更

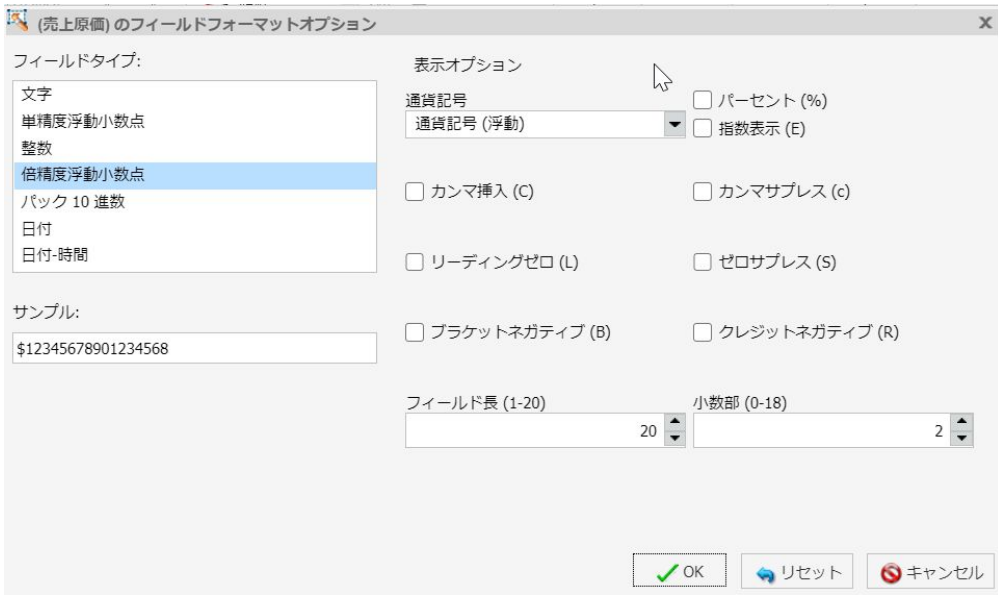
ソートフィールド以外の任意のフィールドのフォーマットを変更することができます。メジャーフィールドや一時項目 (COMPUTE) のフォーマットを変更することも可能です。詳細は、173 ページの 「 ビニング 」 を参照してください。

[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスには、次の場所からアクセスすることができます。

- [一時項目 (DEFINE)] および [一時項目 (COMPUTE)] ダイアログボックス

- [クエリ] ウィンドウ (すべてのモード) でメジャーを右クリックした際、グラフでフィールドを右クリックした際、またはレポートでメジャーフィールドを右クリックした際に表示される [フォーマットの編集] オプション
- [フィールド] タブの [フォーマット] グループ

下図は、[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを示しています。



[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスでは、さまざまな [フィールドタイプ] から選択することができます。[表示オプション] は、選択した [フィールドタイプ] に基づいて使用されます。たとえば、デフォルト設定では [フィールドタイプ] で [倍精度浮動小数点] が選択されています。1 つ目の [表示オプション] の [通貨記号] では、次の通貨記号リストから選択できます。

- なし
- 通貨記号 (浮動)
- 通貨記号 (固定)
- ユーロ記号 (固定)
- ユーロ記号 (浮動)
- 右側にユーロ記号

- ポンド記号 (固定)
- ポンド記号 (浮動)
- 日本円記号 (固定)
- 日本円記号 (浮動)
- ドル記号 (固定)
- ドル記号 (浮動)
- 右側にドル記号
- 左側にドル記号

[通貨記号] のデフォルト値は [なし] に設定されています。ただし、通貨記号をすでに含むフィールドのフォーマットをマスターファイルから変更する際に、[フィールドフォーマット] ダイアログボックスが呼び出された場合は例外です。この場合は、通貨記号のデフォルト値は、マスターファイルで定義された通貨記号に設定されます。

グラフでは浮動通貨記号が使用され、グラフのさまざまな要素内で通貨記号の配置が調整されます。グラフで固定通貨記号が指定された場合は、浮動通貨記号で自動的に表示されます。浮動および固定の通貨フォーマットは、レポートでのみサポートされます。

グラフの使用では、軸ラベルフォーマットがフィールドフォーマットとは別に定義されます。軸ラベルのフォーマットを設定するには、[フォーマット] タブの [ラベル] グループのオプションを使用します。[軸] をクリックして [縦軸] を選択し、[縦軸詳細オプション] をクリックします。[縦軸フォーマット] ダイアログボックスで [ラベル] をクリックし、[ラベルフォーマット] ドロップダウンリストを開いて [通貨] を選択します。

次の手順では、[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスで、フィールドフォーマットを変更する方法について説明します。[フォーマット] グループオプションの使用方法についての詳細は、44 ページの 「 フィールドタブ 」 を参照してください。

手順　文字フォーマットを割り当てるには

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、一時項目 (DEFINE) またはメジャーフィールドを右クリックし、[フォーマットの編集] を選択します。

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. [フィールドタイプ] リストから [文字] を選択します。
3. 異なる長さを割り当てるには、[長さ合計] ボックスで 1 から 4095 までのいずれかの数字を指定します。デフォルト値は 20 です。

4. [OK] をクリックして [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを閉じ、キャンバスに戻ります。

   選択したフィールドに、新しいフォーマットが適用されます。

手順　数値フォーマットを割り当てるには

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、一時項目 (DEFINE) またはメジャーフィールドを右クリックし、[フォーマットの編集] を選択します。

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. [フィールドタイプ] リストから、次のオプションのいずれかを選択します。

   - 単精度浮動小数点 (デフォルト長は 7.2)
   - 整数 (デフォルト長は 5)
   - 倍精度浮動小数点 (デフォルト長は 12.2)
   - パック 10 進数 (デフォルト長は 12.2)

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを開くと、[フィールド長] テキストボックスに現在のバイト数が表示されます。それ以外のオプションは、[フィールド長] テキストボックスにデフォルト長が表示されます。[小数部] テキストボックスには、単精度浮動小数点、倍精度浮動小数点、パック 10 進数の小数点以下の数値が表示されます。

   - 長さを変更するには、そのフォーマットタイプの [フィールド長] テキストボックスで数値を指定します。単精度浮動小数点には 1 から 9、整数には 1 から 11、倍精度浮動小数点には 1 から 20、パック 10 進数には 1 から 33 を指定します。
   - 単精度浮動小数点、倍精度浮動小数点、パック 10 進数の小数点を変更するには、[小数部] テキストボックスでその数値を指定します。

3. [OK] をクリックして [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを閉じ、キャンバスに戻ります。

   選択したフィールドに、新しいフォーマットが適用されます。

手順　日付フォーマットを割り当てるには

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、一時項目 (DEFINE) またはメジャーフィールドを右クリックし、[フォーマットの編集] を選択します。

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. 日付表示フォーマットを変更するには、[表示オプション] リストから新しい日付フォーマットを選択します。

   デフォルトの日付表示フォーマットは、MDY です。

3. 必要に応じて、日付フォーマットの区切り文字を選択します。
4. [OK] をクリックして [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを閉じ、キャンバスに戻ります。

   選択したフィールドに、新しいフォーマットが適用されます。

手順　日付時間フォーマットを割り当てるには

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、一時項目 (DEFINE) またはメジャーフィールドを右クリックし、[フォーマットの編集] を選択します。

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. 日付時間フォーマットを変更するには、[日付フォーマット] リストから新しい日付フォーマットを選択します。選択可能なオプションを表示するには、[年]、[月]、[日] をそれぞれ展開します。
3. [時間フォーマット] リストから新しい時間フォーマット (選択可能な場合) を選択します。

   [時間のみ] のチェックをオンにした場合は、時間フォーマットのみを設定できます。選択可能なオプションを表示するには、[時]、[分]、[秒] をそれぞれ展開します。

   注意：これらの展開オプションは、[時間のみ] のチェックをオンにした場合にのみ表示されます。

4. 必要に応じて、日付フォーマットの区切り文字を選択します。

   デフォルト値は [/] (スラッシュ) ですが、[. (ピリオド)]、[- (ハイフン)]、[(ブランク)]、[なし] のいずれかを選択することもできます。

5. 時間フォーマットを指定する場合は、[AM/PM の使用] のチェックをオンにします。

   選択した時間フォーマットがダイアログボックス下部のテキストボックスに表示されます。左側ウィンドウの [サンプル] テキストボックスに、選択した時間ベースのフォーマットのプレビューが表示されます。

6. [OK] をクリックして [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを閉じ、キャンバスに戻ります。

   選択したフィールドに、新しいフォーマットが適用されます。

手順　数値フィールドにパーセント記号を追加するには

数値 (倍精度浮動小数点、整数、パック 10 進数、単精度浮動小数点フォーマット) の末尾にパーセント記号 (%) を追加することができます。この数値表示オプションでは、数値データにパーセント記号 (%) が追加されますが、パーセントの計算は行いません。

1. レポートを [ライブプレビュー] デザインビューで開き、一時項目 (DEFINE) またはメジャーフィールドを右クリックし、[フォーマットの編集] を選択します。

   [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. [フィールドタイプ] リストから数値フォーマット (倍精度浮動小数点、整数、単精度浮動小数点、パック 10 進数) を選択し、[パーセント (%)] のチェックをオンにします。
3. [OK] をクリックして [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを閉じ、キャンバスに戻ります。

   選択したフィールドに、新しいフォーマットが適用されます。

カスタムレポート機能の活用

レポートを作成する際に、次のカスタム機能を使用することができます。

- **ランキング**　レポートにディメンションフィールドおよびメジャーフィールドの順位付けフィールドを挿入します。詳細は、112 ページの 「 レポートフィールドに順位を付けるには 」 を参照してください。
- **制限**　列のユニーク変数の数を制限します。詳細は、114 ページの 「 レポートに表示する列数を制限するには 」 を参照してください。
- **改ページ**　主ソートフィールドが変更されたところで、改ページします。詳細は、114 ページの 「 レポートに改ページと改行を追加するには 」 を参照してください。
- **改行**　主ソートフィールドが変更されたところで、改行します。詳細は、114 ページの 「 レポートに改ページと改行を追加するには 」 を参照してください。
- **中間合計**　主ソートフィールドが変更されたところで、出力の数値フィールドすべてに中間合計を挿入します。詳細は、114 ページの 「 レポートに中間合計を追加するには 」 を参照してください。
- **総合計**　レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。詳細は、115 ページの 「 レポートに総合計を追加するには 」 を参照してください。
- **行合計**　レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。詳細は、115 ページの 「 レポートに行合計を追加するには 」 を参照してください。

- **中間見出し**　主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力のタイトル直下に中間見出しを追加します。詳細は、115 ページの 「 レポートに中間見出しと中間脚注を追加するには 」 を参照してください。
- **中間脚注**　主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力各ページのデータの最後に中間脚注を追加します。詳細は、115 ページの 「 レポートに中間見出しと中間脚注を追加するには 」 を参照してください。
- **ポップアップ**　レポート出力で、マウスポインタがタイトル上に置かれたときに、フィールドの説明をポップアップで表示します。詳細は、116 ページの 「 レポートにポップアップタイトルを追加するには 」 を参照してください。
- **ピアグラフ**　数値データにピアグラフを追加します。詳細は、116 ページの 「 レポートにピアグラフを追加するには 」 を参照してください。
- **集計**　デフォルト設定の [SUM] (メジャーフィールド) または [件数] (ディメンションフィールド) 以外の集計オプションを使用して、数値メジャーデータまたは数値以外のディメンションデータを表示します。詳細は、116 ページの 「 レポートの集計オプションを使用して数値メジャーデータを表示するには 」 または 197 ページの 「 ディメンション (数値以外) データの集計を表示するには 」 を参照してください。
- **ソート値の繰り返し**　レポートで、最初の新しいソート値の後にブランクを表示するデフォルト動作でなく、繰り返しソート値をすべて表示します。デフォルト設定では、新しいソート値が最初に表示された後にブランクが表示されます。詳細は、118 ページの 「 レポートに繰り返しソート値を表示するには 」 を参照してください。
- **再計算**　COMPUTE コマンドで取得された結果を再計算します。[再演算] (RECOMPUTE) は、指定したソート区切りにおいてのみ値を再計算するという点で SUBTOTAL に類似しています。詳細は、118 ページの 「 COMPUTE コマンドの結果を再計算するには 」 を参照してください。

手順　レポートフィールドに順位を付けるには

[ランキング] ボタンをクリックして、レポートのディメンションフィールドおよびメジャーフィールドに順位付けフィールドを追加することができます。[ランキング] ボタンは、[フィールド] タブの [ソート] グループにあります。

- ディメンションフィールドに追加する場合、順位付けフィールドは、ディメンションフィールドのすぐ左に追加されます。

- メジャーフィールドに追加する場合、順位付けフィールドのコピーがディメンションフィールドとして作成され、作成されたディメンションフィールドの左側に順位付けフィールドが追加されます。

注意：順位付けオプションにアクセスする別の方法として、ディメンションフィールドまたはメジャーフィールドを右クリックし、コンテキストメニューから [ソート]、[ランキング] を順に選択することもできます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでディメンションフィールドまたはメジャーフィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [ソート] グループで、[ランキング] をクリックします。

   下図のように、順位付けフィールドが表示されます。

RANK	製品区分	粗利益	販売数量
1	Accessories	¥39,854,440.53	511,667.00%
2	Camcorder	¥49,598,845.24	455,244.00%
3	Computers	¥33,508,818.12	351,777.00%
4	Media Player	¥55,832,578.36	771,934.00%
5	Stereo Systems	¥86,181,070.52	1,114,332.00%
6	Televisions	¥16,830,023.81	105,188.00%
7	Video Production	¥17,947,619.62	199,749.00%

注意：順位付けフィールドは、この時点で、その他のフィールドと同様に、編集やフォーマット設定が行えます。次の例外があります。

- 適用可能なフォーマットは、条件付きスタイル設定に限定されます。
- これを非表示にすることはできません。
- 順位付けフィールドに区切りやフィルタを挿入することはできません。
- 順位付けフィールドと順位付け対象フィールドの間に、列を挿入することはできません。

手順　レポートに表示する列数を制限するには

[制限] メニューを使用して、列に表示するユニーク値の個数を制限することができます。最初にフィールドを選択する必要があります。フィールドを選択すると、[フィールド] タブの [ソート] グループで [制限] メニューが使用可能になります。

注意：[制限] オプションにアクセスするには、フィールドを右クリックし、[ソート]、[制限] を順に選択することもできます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでディメンションフィールドまたはメジャーフィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [ソート] グループの [制限] テキストボックスに値を入力するか、リストから値を選択します。列に表示されるユニーク値の個数が、ここで設定した値に制限されます。

手順　レポートに改ページと改行を追加するには

レポート出力の主ソートフィールドに、改ページと改行を追加することができます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでディメンション (ソート) フィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [区切り] グループで、[改ページ] または [改行] をクリックします。

手順　レポートに中間合計を追加するには

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでディメンション (ソート) フィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [区切り] グループの [中間合計] をクリックします。

   [改ページ] を選択すると、主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページが作成され、新しい列タイトルセットが表示されます。各ページに新しい列タイトルが追加されます。

   [改行] を選択すると、主ソートフィールドの値が変わるたびに、レポート出力に区切り線が挿入されます。

[中間合計] をクリックすると、すべてのフィールドの中間合計が再演算として有効になり、「中間合計：(フィールド値)」という説明テキストの行が挿入されます。下向き矢印をクリックすると、オプションを選択するメニューが開きます。このメニューから、[単純] または [再演算] を選択することができます。[詳細オプション] を選択すると、ダイアログボックスが開き、中間合計を表示するフィールドを選択できるほか、それらのフィールドに対して実行する集計タイプを選択することができます。また、中間合計テキストを変更することもできます。

手順　レポートに総合計を追加するには

[ホーム] タブの [レポート] グループで、[総合計] をクリックします。

[総合計] をクリックすると、レポートの下部に縦計行が追加され、各列の数値データが集計されます。下向き矢印をクリックすると、オプションを選択するメニューが開きます。このメニューから、[単純] または [再演算] を選択することができます。[詳細オプション] を選択すると、ダイアログボックスが開き、合計を表示するフィールドを選択できるほか、それらのフィールドに対して実行する集計タイプを選択することができます。また、現在の合計テキストを変更することもできます。

手順　レポートに行合計を追加するには

[ホーム] タブの [レポート] グループで、[行合計] をクリックします。

[行合計] をクリックすると、レポートの右側に合計列が追加され、各行の数値データが集計されます。

手順　レポートに中間見出しと中間脚注を追加するには

レポート出力のソートフィールドに、中間見出しと中間脚注を追加することができます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでディメンション (ソート) フィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [区切り] グループで、[中間見出し] または [中間脚注] をクリックします。

   [中間見出しと中間脚注] ダイアログボックスが表示されます。

3. [中間見出しと中間脚注] ダイアログボックスで、テキストを入力し、スタイルを設定した上で、[OK] をクリックします。

中間見出しは、主ソートフィールドの値が変わるたびに、レポート出力のタイトルの直下に表示されます。中間脚注は、主ソートフィールドの値が変わるたびに、レポート出力各ページのデータの最後に表示されます。

手順　レポートにポップアップタイトルを追加するには

[フォーマット] タブの [機能] グループで、[ポップアップ] をクリックします。

[ポップアップ] をクリックすると、実行時にレポートのいずれかのタイトル上にマウスポインタを置いたときに、フィールドの説明がポップアップ表示されます。

手順　レポートにピアグラフを追加するには

レポート出力で、選択した数値フィールドにピアグラフを追加することができます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでメジャーフィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [表示] グループで、[ピアグラフ] をクリックします。

   選択した数値フィールドの右側にピアグラフの列が追加され、各行に値を示す棒グラフが表示されます。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。

手順　レポートの集計オプションを使用して数値メジャーデータを表示するには

数値メジャーデータは、デフォルト設定の「SUM」以外に、さまざまな集計タイプ値として表示することができます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウでメジャーフィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. 次のいずれかの方法で集計関数メニューにアクセスします。

   - [表示] グループで [集計] をクリックします。

     または

   - 選択したメジャーフィールドを右クリックし、[詳細]、[集計関数] を順に選択した上で、オプションのいずれかを選択します。たとえば、[最初の値] を選択します。

   [メジャー] フィールドコンテナを [SUM] から [PRINT]、[件数]、[リスト] に変更すると、割り当て済みの集計タイプ値はすべて上書きされます。

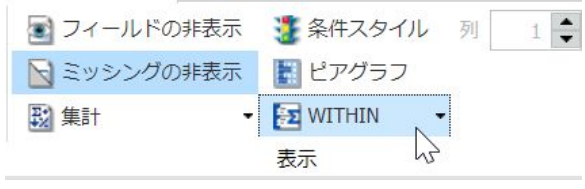
手順　WITHIN 機能にアクセスするには

WITHIN 機能を使用して、レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウで数値メジャーフィールドを選択します。

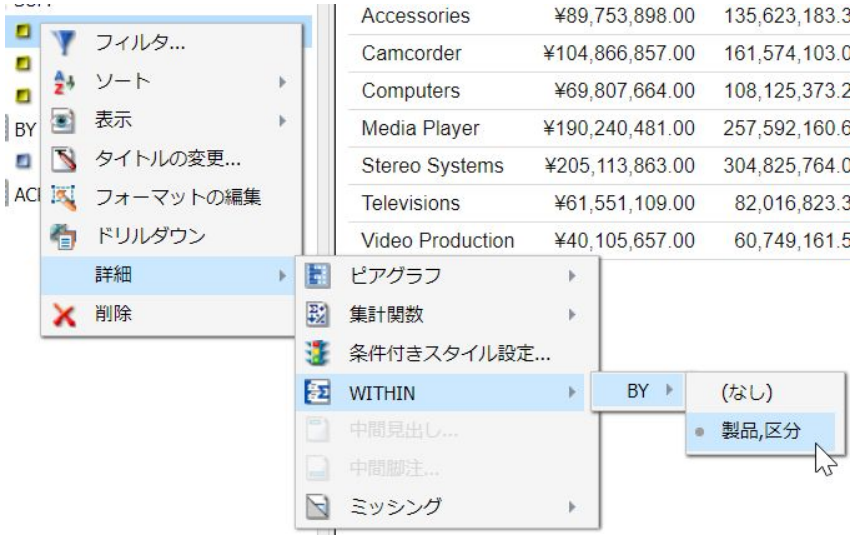
   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. [フィールド] タブの [表示] グループで [WITHIN] をクリックします。



注意：WITHIN 句は、使用中のデータの設定に応じて、BY フィールドまたは ACROSS フィールドに適用することができます。

WITHIN 機能にアクセスするには、フィールドレベルのコンテキストメニューを使用することもできます。また、これらのメニューには、[クエリ] ウィンドウでメジャーフィールドを右クリックする方法でアクセスすることもできます。



3. [WITHIN] メニューで下向き矢印をクリックし、BY フィールドまたは ACROSS フィールドの WITHIN 句を選択します。
4. 使用可能なフィールドのリストから BY フィールドを選択します。

選択したオプションに基づいてレポートが自動的に生成されます。

手順　レポートに繰り返しソート値を表示するには

次の手順は、レポートが正しくソートされない出力フォーマット (例、Excel) を使用する場合に実行します。

[フォーマット] タブの [機能] グループで、[ソート値繰り返し] をクリックします。

[ソート値繰り返し] をクリックすると、レポート出力にすべてのソート値が繰り返し表示されます。デフォルト設定では、レポートで新しいソート値が最初に表示された後にブランクが表示されますが、このオプションを選択することにより、デフォルト設定が上書きされます。

手順　COMPUTE コマンドの結果を再計算するには

COMPUTE コマンドについての詳細は、440 ページの 「 TIBCO WebFOCUS での一時項目の作成 」 を参照してください。

1. レポートを開き、[クエリ] ウィンドウで BY (ソート) フィールドを選択します。

   選択したフィールドの [フィールド] タブがリボン上に表示されます。

2. 次のいずれかの方法で COMPUTE コマンドの結果を再計算することができます。

   - **リボン**　[フィールド] タブの [区切り] グループで、[中間合計] メニューを開きます。メニューから [再演算] を選択します。
   - **コンテキストメニュー**　ソートフィールドを右クリックし、[区切り]、[中間合計]、[再演算] を順に選択します。

カスタムレポート出力の作成

InfoAssist では、カスタムレポート出力を作成することができます。標準出力フォーマットには、[ホーム] タブの [フォーマット] グループで選択可能な [HTML]、[Analytic Document]、[PDF]、[Analytic PDF]、[Excel]、[PowerPoint] (PPTX) などがあります。グラフの場合、[HTML5] がデフォルト出力フォーマットです。また、レポートの場合、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [OLAP]、[テーブル]、[目次]、[固定]、[Web ビューア] を選択して、カスタムレポート出力を作成することもできます。

- **テーブル**　標準のブラウザ出力を生成します。これがデフォルト値です。

- **目次** 生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。

  レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。詳細は、119 ページの 「 目次レポートを作成するには 」 を参照してください。

  注意

  - [目次] オプションは、HTML、Analytic Document、Excel、PowerPoint 出力フォーマットが選択されている場合にのみ有効になります。
  - 目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。詳細は、124 ページの 「 アコーディオンレポートを作成するには 」 を参照してください。

- **Web ビューア** 選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。

  - **HTML** この出力タイプを選択して [Web ビューア] をクリックすると、レポートが WebFOCUS ビューアに表示されます。

    WebFOCUS ビューアは、レポートの大半を Web サーバに保存してレポート出力を一度に 1 ページずつ送信するため、レポートを処理するための待機時間を短縮することができます。

    レポートの残りの部分は、ユーザが要求するか WebFOCUS ビューアを閉じるまで、Web サーバに保持されます。

    ビューアの下部に表示される [WebFOCUS ビューア] メニューバーには、ページの移動に使用するオプションが表示されます。詳細は、122 ページの 「 Web ビューアレポートを作成するには 」 を参照してください。

- **OLAP** OLAP 機能付きの出力を表示します。詳細は、122 ページの 「 OLAP レポートを作成するには 」 を参照してください。

  注意：デフォルト設定では、この機能は無効になっています。この機能を有効にするには、WebFOCUS 管理コンソールを使用します。詳細は、管理者に問い合わせてください。

手順　目次レポートを作成するには

注意：目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。

1. レポートを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ナビ] グループで、[目次] をクリックします。

レポートを実行すると、下図のようにレポート出力の左上隅に [目次] ボタンが表示されます。



製品区分	製品区分（詳細）	販売数量
Accessories	Charger	105,257
	Headphones	228,349
	Universal Remote Controls	178,061

3. このボタンをダブルクリックすると、[目次] メニューが表示されます。目次メニューから第 1 ソート (BY) フィールドの個々の値を一度に 1 つずつ選択して表示することができます。

   デフォルト設定では、レポートは目次メニューの背後に表示されますが、目次メニューを任意の位置にドラッグすることで、レポート出力の全体を表示することができます。



ソートフィールドを選択すると、そのフィールドの値が表示されます。

下図の例のように、[Stereo Systems] をクリックすると、ステレオシステムに対応するレポート出力が表示されます。

製品区分	製品区分（詳細）	販売数量
Stereo Systems	Boom Box	9,370
	Home Theater Systems	399,092
	Receivers	150,568
	Speaker Kits	244,199
	iPod Docking Station	311,103



レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。

手順　レポートの列タイトルを固定するには

[フォーマット] タブの [ナビ] グループで、[固定] をクリックします。

レポート出力のページをスクロールした場合でも、列タイトルが固定 (常時表示) されます。

注意：列タイトルが固定された状態を確認するには、レポートを実行する必要があります。

下図は、列タイトルを固定した場合に表示されるスクロールバーを示しています。



店舗 ビジネス 地方区分	製品 区分	販売 数量	収益
	Video Production	80,034	¥23,210,653.82
中間合計: EMEA		1,404,540	¥422,745,677.92
North America	Accessories	293,461	¥74,326,669.37
	Camcorder	259,953	¥88,243,858.49
	Computers	214,049	¥64,415,033.70
	Media Player	435,684	¥139,282,702.54
	Stereo Systems	636,612	¥166,530,524.29
	Televisions	56,161	¥43,837,977.12
	Video Production	114,260	¥33,280,088.15
中間合計: North America		2,010,180	¥609,916,853.66
Oceania	Accessories	592	¥153,375.30
	Camcorder	554	¥155,222.60
	Computers	526	¥168,481.59
	Media Player	984	¥304,677.82
	Stereo Systems	1,265	¥337,054.74
	Televisions	94	¥81,026.50
	Video Production	227	¥60,468.74
中間合計: Oceania		4,242	¥1,260,307.29

手順　Web ビューアレポートを作成するには

ここでは、Web ビューア機能を使用した HTML レポートを作成する手順について説明します。

1. レポートを作成します。

   デフォルト出力は [HTML] です。

2. [フォーマット] タブの [ナビ] グループで、[Web ビューア] をクリックします。
3. レポートを実行します。

   レポートが WebFOCUS ビューアに表示されます。

4. [WebFOCUS ビューア] メニューバーのナビゲーションオプションを使用して、レポート内を移動します。たとえば、[最初のページへ移動] を選択します。

手順　OLAP レポートを作成するには

1. [フォーマット] タブの [ナビ] グループで、[OLAP 分析] ボタンをクリックします。これにより、OLAP 分析機能が有効になります。

2. [OLAP 分析] ボタンの下向き矢印をクリックします。

   [OLAP 分析] メニューが表示されます。次のオプションが表示されます。

   - **OLAP ボタンを表示**　このオプションを選択すると、実行時のレポート出力で OLAP パネルの表示が可能になります。実行時に OLAP パネルを表示するには、レポート下部に表示された [OLAP] ボタンをクリックするか、レポート上部に表示されたカテゴリのいずれかをクリックします。
   - **パネル非表示**　このオプションを選択して、列タイトルにソートオプションのみを表示します。タイトルのオプションから OLAP パネル (OLAP リボン) を開くことはできません。
   - **フィルタを表示**　このオプションを選択して、ディメンションフィルタをレポートの上部に表示します。フィルタの位置は、[OLAP] ダイアログボックスでカスタマイズします。このダイアログボックスを開くには、[詳細オプション] を選択します。
   - **タブ表示**　このオプションを選択して、メタデータのステートメント内の階層に基づいて、ディメンションフィルタをタブ別にグループ化します。
   - **詳細オプション**　このオプションを選択して、[OLAP 分析] ダイアログボックスを開きます。

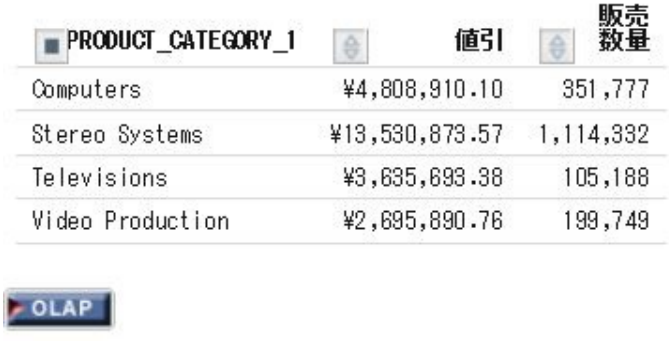
     [OLAP 分析] ダイアログボックスでは、上記で説明したオプション以外に、OLAP 出力に適用する追加オプションを構成、カスタマイズすることができます。

     - **OLAP なし**　このオプションを選択して、OLAP 分析を無効にします。
     - **OLAP ボタンを表示する**　このオプションを選択して、OLAP パネルを表示可能にします。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
     - **パネル非表示**　このオプションを選択して、OLAP パネルを表示不可にします。
     - **パネル表示**　このオプションを選択して、OLAP パネルを開くための [OLAP] ボタンを表示します。
     - **フィルタを表示**　このオプションを選択すると、フィルタをレポートの上部 (デフォルト設定) に配置するか、下部に配置するかを選択する位置オプションが有効になります。
     - **オートドリルオプション**　オートドリルオプションには次のものがあります。
       - **ディメンション**　このオプションを選択して、レポートとグラフの両方のディメンションに自動的にドリルダウンします。

- ❑ **ディメンションとメジャー** (デフォルト) このオプションを選択して、レポートとグラフの両方のディメンション、およびレポートのメジャーフィールドに自動的にドリルダウンします。
- ❑ **なし** このオプションを選択して、オートドリルダウンを無効にします。

3. オプションを選択します。

   [OLAP オプション] グループから [OLAP ボタンを表示] などのオプションを選択してレポートを実行すると、OLAP 機能が有効な出力が生成されます。 レポートの下に [OLAP] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、[OLAP コントロールパネル] が表示されます。



PRODUCT_CATEGORY_1	値引	販売数量
Computers	¥4,808,910.10	351,777
Stereo Systems	¥13,530,873.57	1,114,332
Televisions	¥3,635,693.38	105,188
Video Production	¥2,695,890.76	199,749

手順　アコーディオンレポートを作成するには

注意：目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。

1. レポートを作成します。

下図は、[アコーディオン] オプションを適用する前のレポートを示しています。

製品区分	店舗ビジネス地方区分	販売数量
Media Player	EMEA	314,737
	North America	435,684
	Oceania	984
	South America	20,529
Stereo Systems	EMEA	447,733
	North America	636,612
	Oceania	1,265
	South America	28,722
Televisions	EMEA	45,714
	North America	56,161
	Oceania	94
	South America	3,219

2. [フォーマット] タブの [機能] グループで [アコーディオン] をクリックし、[実行] をクリックします。

   プラス (+) 記号は、縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できることを示しています。

	販売数量
+ Media Player	771,934
+ Stereo Systems	1,114,332
+ Televisions	105,188

   特定のデータを表示するには、各ソートフィールド値を手動で展開します。

手順　積み重ねメジャーを実装するには

1. 少なくとも 2 つのメジャーで構成されたレポートを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[積み重ねメジャー] をクリックします。

レポート上のすべてのメジャーフィールドが積み重なります。積み重ねメジャーについての詳細は、『TIBCO WebFOCUS Language リファレンス』の「列の積み重ね」を参照してください。

4

グラフの作成とカスタマイズ

InfoAssist では、単純なものから複雑なものまで、さまざまなグラフを簡単に作成することができます。さまざまなグラフタイプと出力フォーマットから選択し、グラフにカスタム機能を追加することができます。

また、任意の既存レポートからグラフを作成することもできます。

トピックス

- グラフによるデータの視覚化
- インサイトによる動的グラフの分析
- グラフタイプの選択
- グラフの作成
- ビニング
- グラフフォーマットツールへのアクセス
- シリーズのフォーマット設定
- データラベルのフォーマット設定
- 凡例のフォーマット設定
- 罫線のフォーマット設定
- 軸ラベルのフォーマット設定
- フレームおよび背景のフォーマット設定
- メータグラフのフォーマット設定
- ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定
- その他のフォーマット機能の使用

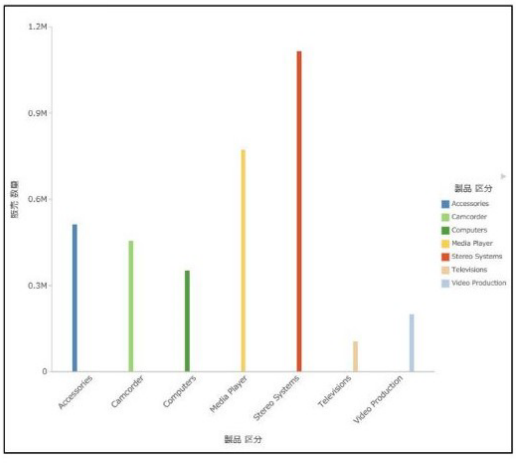
グラフによるデータの視覚化

データの意味を伝える場合、そのデータを表形式で表現するよりも、グラフを使用した方が分かりやすい場合がよくあります。グラフを使用すると、量的情報を視覚的に伝達することができます。グラフデータに形状やフォームを適用することで、多数のデータ値間のパターンや関係を明らかにすることができます。グラフでは、詳細な調査を要する異常値が明確になります。レポートとグラフのどちらでデータを表示するかを決定する際には、考慮する点がいくつかあります。

テーブルを使用する時:
個々の値を調べる、
個々の値を比較する、
値を厳密に扱う

性別	製品区分	販売数量	収益
F	Accessories	254,028	¥84,304,431.91
	Camcorder	225,926	¥76,636,444.31
	Computers	174,733	¥51,264,985.17
	Media Player	382,256	¥121,829,616.38
	Stereo Systems	553,054	¥144,581,936.30
	Televisions	51,929	¥38,389,029.66
	Video Production	98,834	¥28,755,341.55
M	Accessories	257,639	¥85,303,906.62
	Camcorder	229,318	¥77,829,257.93
	Computers	177,044	¥52,051,496.95
	Media Player	389,678	¥124,243,442.98
	Stereo Systems	561,278	¥146,712,937.22
	Televisions	53,259	¥39,392,103.15
	Video Production	100,915	¥29,297,935.07

グラフを使用する時:
値の全体的な形状を示す、
複数の値のパターンと
傾向の関係を示す



インサイトによる動的グラフの分析

InfoAssist では、グラフモード、ビジュアライゼーションモード、インサイトなどいくつかの視覚化ツールにアクセスできます。各ツールは、データの視覚化にさまざまなオプションを提供します。

新しい視覚化ツールのインサイトを使用すると、グラフのメジャーおよびディメンションをインタラクティブに選択することができ、変更を加えるたびにリフレッシュされる動的グラフを作成することができます。インサイトは、HTML5 グラフモードでのみ使用可能です。

インサイトでは、リアルタイムで選択したデータフィールドを示すグラフを作成することができます。さらに、追加のフィールドを選択したり、フィルタを指定したりすると、グラフが再構成されます。

InfoAssist のビジュアライゼーションモードのように、インサイトを使用することで、データに関する迅速な意思決定が可能になります。論理的メニューと単純なフィルタを使用し、ユーザのニーズに合わせてインタラクティブにグラフを作成することができます。追加のフィールドを選択したり、フィルタを作成したりすると、グラフが瞬時にリフレッシュされ、ツールを使用しながら選択したデータの結果が確認できます。

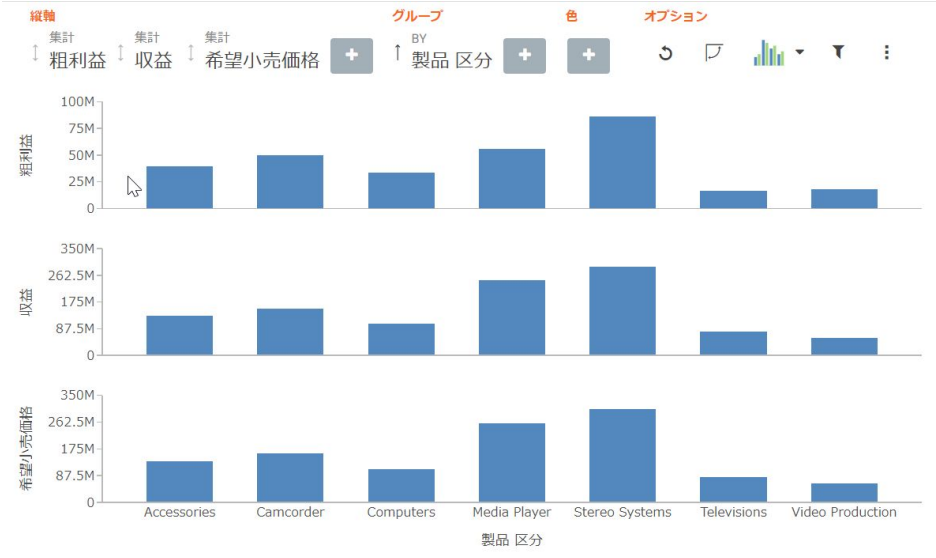
ビジュアライゼーションモードでは、単一のビジュアライゼーションで複数のグラフを作成、操作することができます。ビジュアル内のグラフはすべて、同一のデータソースにリンクされます。フィルタプロンプトを使用して、表示するデータを絞り込むこともできます。

インサイトでは、必要に応じてフィルタを作成し、表示するデータをカスタマイズすることができます。グラフを強化するために、いつでも、またどのようなパターンでもフィールドの追加および削除ができます。ツールバーから直接使用可能なカスタマイズオプションを利用することもできます。

インサイトでは、グラフタイプによって表示されるフィールドコンテナが指定されます。たとえば、円グラフを作成する場合、[メジャー]、[行]、[列]、[色]、[サイズ] のフィールドコンテナに値を指定できます。多くの場合、これらのフィールドコンテナには、InfoAssist 使用時に表示されるフィールドコンテナが反映されます。

使用可能なフィールドは、適切なディメンションとメジャーのカテゴリに分類されます。プラス記号  を使用して、グラフにフィールドを追加できます。たとえば、棒グラフを作成し、各製品区分の粗利益、収益、希望小売価格をグラフにプロットする場合、プラス記号をクリックして、ドロップダウンのフィールドセレクタからフィールドを追加することができます。追加するフィールドを選択後、必要に応じてこれらの順序をドラッグアンドドロップ操作で変更することができます。

下図は、この結果生成される棒グラフを示しています。

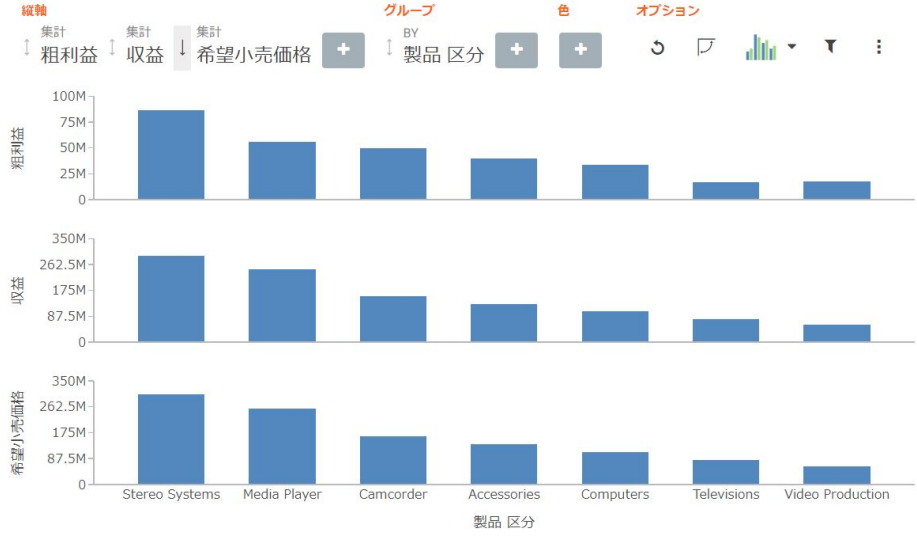


インタラクティブヘッダのナビゲーション矢印を使用して、グラフで使用可能なフィールドコンテナ間の移動ができます。下図では、これらのフィールドコンテナのフォーカスを右または左に動かすナビケーション矢印がハイライト表示されています。



[色] フィールドコンテナはすべてのグラフでサポートされ、グラフ内のコントラストを明確にします。一部のグラフでは [サイズ] フィールドコンテナもサポートされ、グラフに描画されるマーカーのサイズにメジャーをバインドします。

関連するフィールドコンテナにフィールドを追加すると、各フィールドの横のソート矢印を使用して、データを昇順または降順にソートすることができます。これにより、データ内の傾向および優先順位を特定できます。一度にソートできるのは 1 つのフィールドのみです。昇順ソートでは、データを最小値から最大値の順に並べ替えます。一方、降順ソートでは、下図のようにデータを最大値から最小値の順に並べ替えます。



フィールドのソート順を選択すると、フィールド矢印の色が変わり、ソートされていないフィールドより太く表示されます。下図では、[希望小売価格] フィールドのソート矢印が選択されているため、フィールド矢印が黒で表示されています。



グラフのメジャーとディメンションは、インサイトを使用する前に、InfoAssist で指定することができます。これらの選択で、インサイトのユーザインターフェース (UI) が事前ロードされます。必要に応じて、フィールドを選択せずにインサイトを使用することもできます。この場合、フィールドの選択オプションは広範囲となり、すべてのフィールドが表示されます。下図は、空のキャンバスの例を示しています。



手順　InfoAssist からインサイトを有効にするには

1. InfoAssist をグラフモードで開きます。
2. [フォーマット] タブの [実行オプション] で、[インサイト実行] アイコン  をクリックします。
3. クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。

   インサイトのインターフェースが開き、グラフの作成を開始できます。

インサイトでのグラフ操作

インサイトでは、フィールドコンテナに追加する個々のフィールドを選択することができます。インサイトの実行前に [クエリ] ウィンドウにフィールドを追加するか、既存のフィールドコンテナ (または追加のフィールドコンテナ) にフィールドを追加しておくと、インサイトでのグラフの作成が簡略化され、リアルタイムで動的なグラフが簡単に作成できます。また、データの選択をすばやく変更したり、表示オプションを調整したりしながら、インタラクティブな比較ができる柔軟性も備えています。

デフォルト設定の縦棒グラフを作成することも、[オプション] ツールバーの [グラフ] タブを使用して別のグラフタイプを指定することもできます。

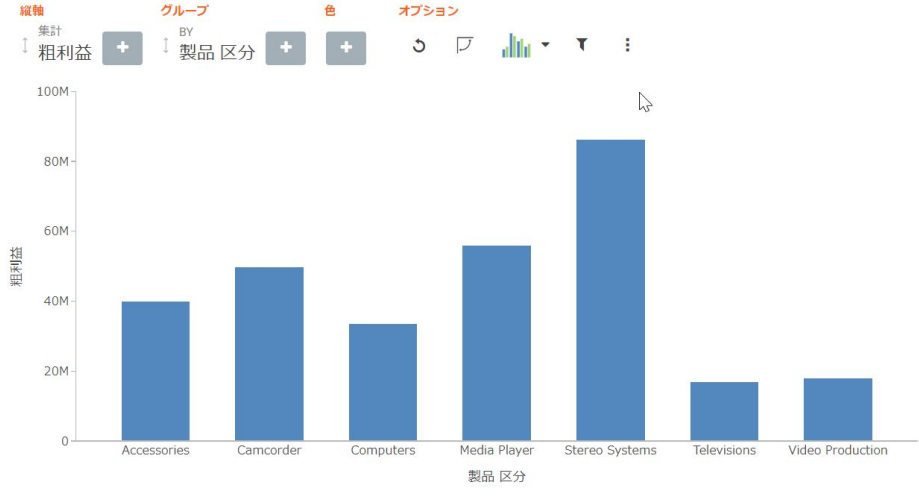
また、グラフ内のフィールドコンテナの表示順序を変更することもできます。これにより、特定フィールドの配置を変更し、このコンポーネントのデータをグラフ内のどこに表示するかを制御することができます。

手順　インサイトを使用して基本の棒グラフを作成するには

1. [縦軸] フィールドコンテナでプラス記号 (+) アイコンをクリックします。

2. ドロップダウンリストからメジャーフィールドを選択します。
3. [グループ] フィールドコンテナでプラス記号 (+) アイコンをクリックします。
4. ドロップダウンリストからディメンションフィールドを選択します。

   下図のような棒グラフが表示されます。



手順　インサイトでグラフタイプを変更するには

1. [オプション] ツールバーで、[グラフの変更] アイコンをクリックします。

下図のように、選択可能なグラフのリストが開きます。



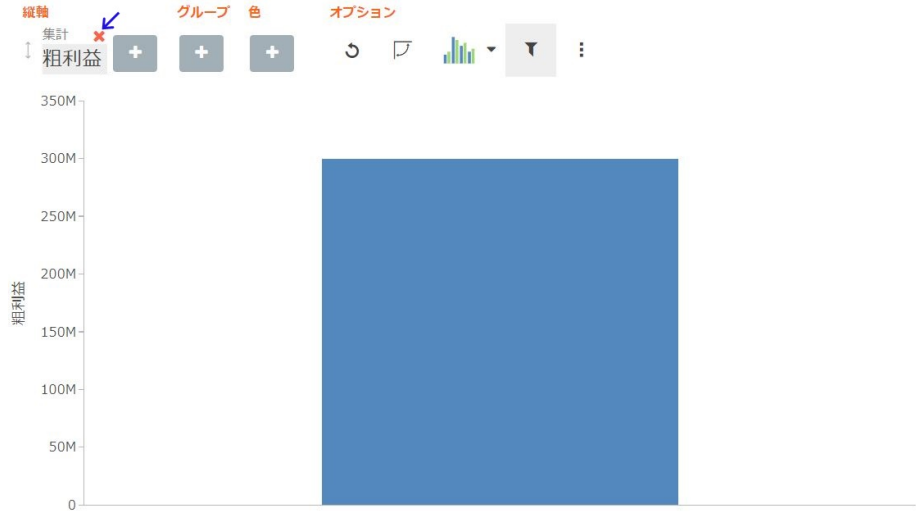
2. グラフタイプを選択します。

   新しいグラフタイプでグラフがリフレッシュされ、インサイトのインターフェースが、現在のグラフタイプに関連するフィールドコンテナをすべて表示するよう更新されます。

手順　フィールドコンテナからフィールドを削除するには

1. グラフに 1 つまたは複数のフィールドを追加します。

2. 下図のように、削除したいフィールドの上にマウスポインタを置いて、[X] をクリックします。



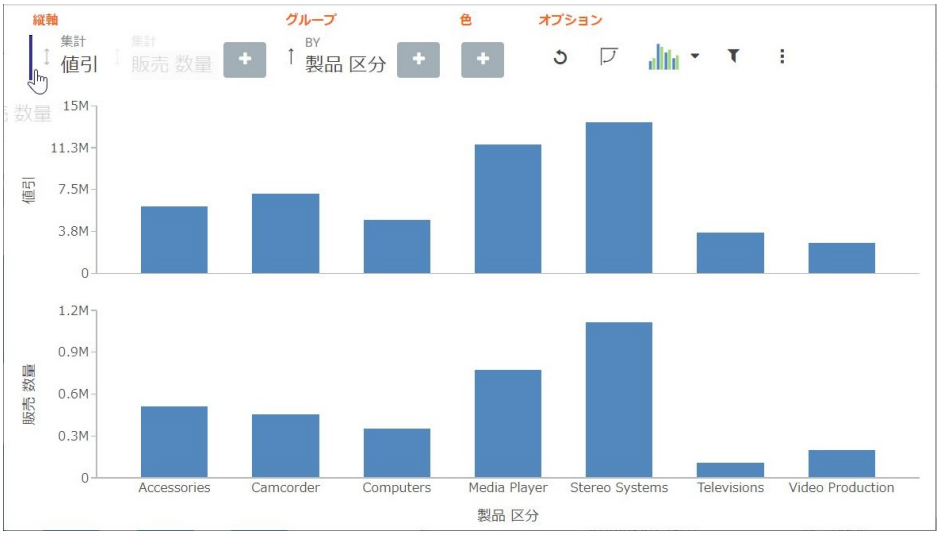
ユーザの選択を反映し、グラフがリフレッシュされます。

手順　フィールドコンテナの表示順序を変更するには

1. 下図のように、グラフに複数のフィールドを追加します。



2. [縦軸] グループで、2 番目のフィールドコンテナを 1 番目にドラッグします。下図のように、配置したフィールドは濃い青色の縦棒で表示されます。



下図は、フィールド順序を変更後のグラフを示しています。



フィールドの検索

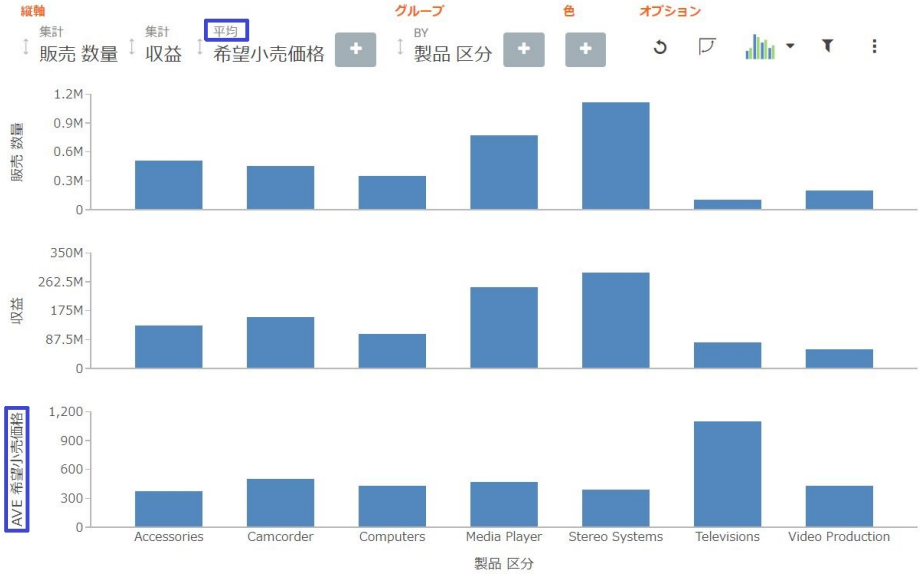
フィールドコンテナのフィールドは、検索オプションを使用して検索することができます。ツールバーで、プラス記号 (+) をクリックします。検索テキストボックスで、検索するフィールド名を入力します。単語全体を入力することも、単語の一部を入力することもできます。下図のように、検索では、指定した文字列のいずれかのインスタンスを含むすべてのフィールドが識別されます。



フィールドの集計演算子の変更

メジャーフィールドを使用する場合、フィールドの集計演算子を [集計] (デフォルト設定) から [平均]、[最大]、または [最小] に変更することができます。また、同様のメニュー選択を使用して、[件数] フィールドを [件数 (種類)] に変更することもできます。

下図のように、ユーザの選択でグラフ内の関連するメジャーの軸が変更されます。

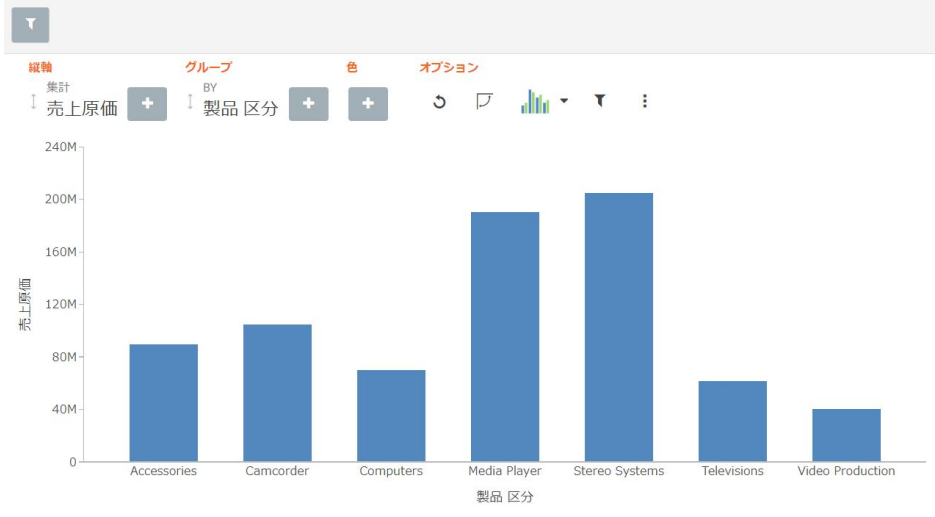


下図は、[集計] フィールドの変更オプションを示しています。



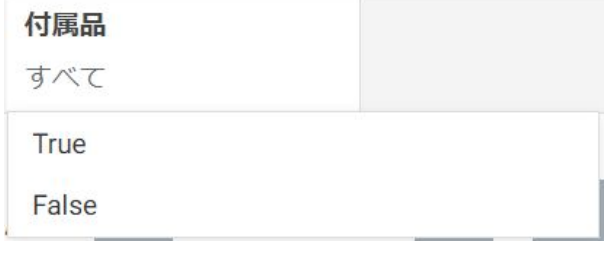
インサイトでのフィルタの設定

フィルタを有効にするには、ツールバーの [オプション] セクションから [フィルタの表示] アイコンをクリックします。下図のように、フィールドコンテナシェルフの上部にフィルタシェルフが表示されます。



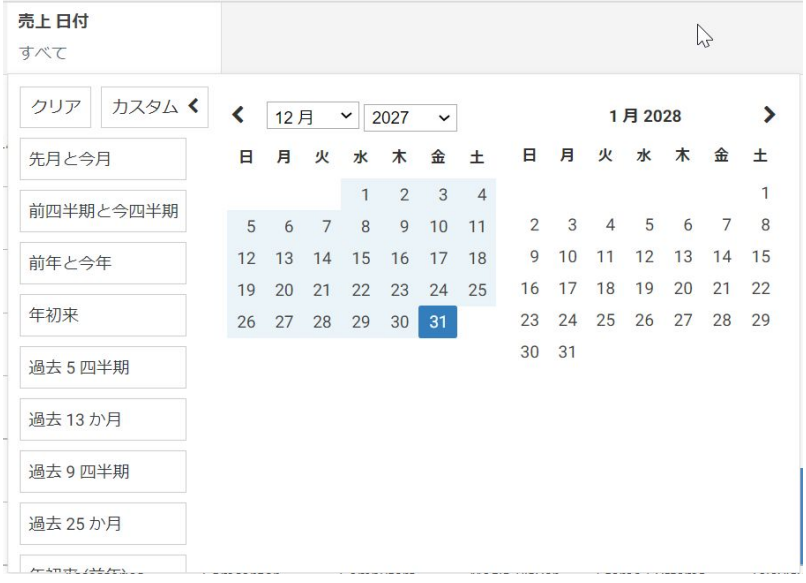
フィルタシェルフを使用して、フィルタを作成します。フィルタシェルフは、フィルタを追加または変更するために表示されます。また、インサイトの起動前にプロシジャ (.fex) または InfoAssist のセッションで作成したフィルタは適用されますが、インサイトでは表示されません。

注意：バージョン 8.2.03 以降、インサイトのクエリ変数をフィルタシェルフで使用することができます。通常、クエリ変数は [データ] ウィンドウのメジャーフィールド上部に表示されます。フィルタ値は、1 と 0 (ゼロ) ではなく、True または False で表示されます。また、下図のように選択できる値は 1 つのみです。

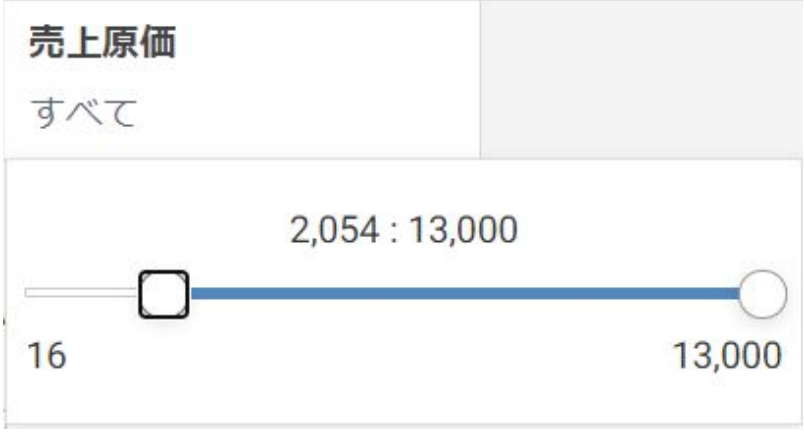


フィルタのタイプ

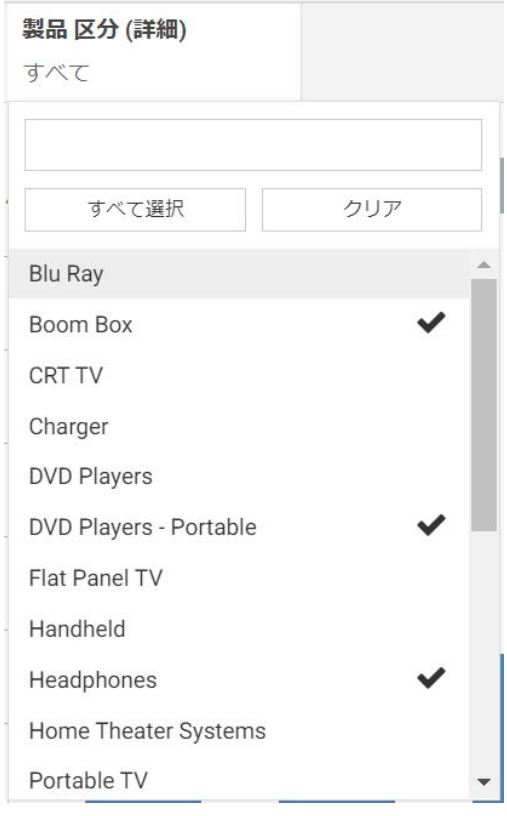
インサイトには、さまざまなタイプのフィルタがあります。たとえば、日付フィールドにフィルタを設定する場合、下図のように、ビルトインカレンダーを使用して日付範囲を選択することができます。



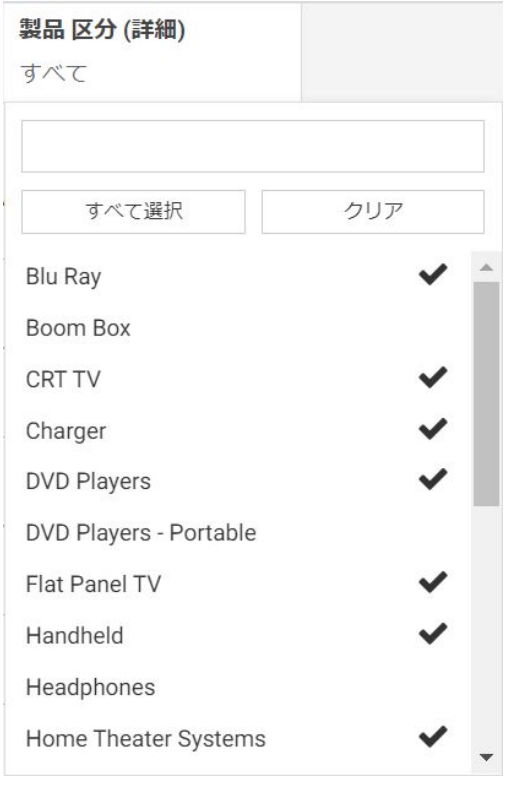
メジャー値などの数値フィールドにフィルタを設定する場合、フィールド固有の値でフィルタを設定できます。この場合、フィルタを定義すると、スライダコントロールが表示されます。下図のように、スライダコントロールオプションを使用して、コントロールに含める値の範囲を調整することができます。



ディメンションの値にもフィルタを設定することができます。1 つの値を選択することも、複数の値をクリックして複数の値を選択することもできます。下図のようにチェックマークが表示され、値が選択されたことが示されます。

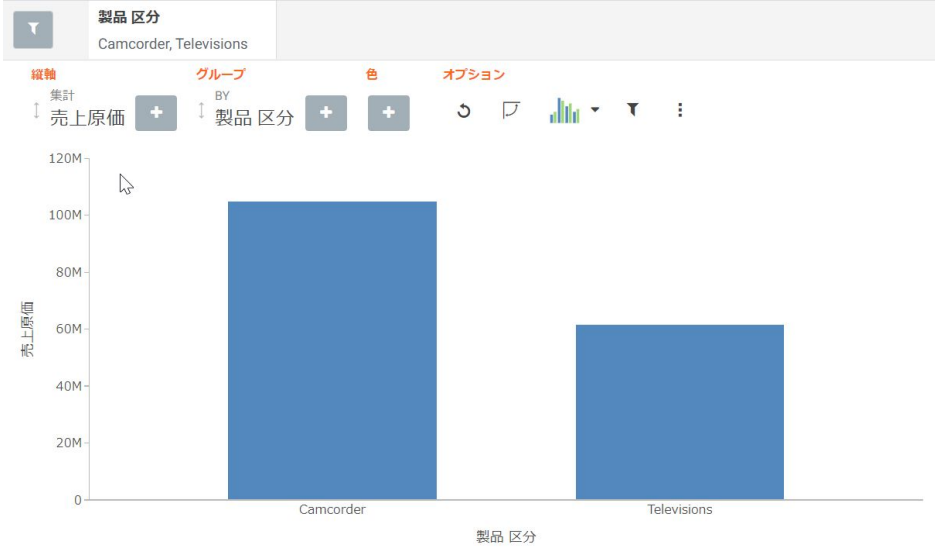


下図のように、ディメンションに対してすべての値を選択することも、1 つまたは複数の値を選択することも、選択した値をすべてクリアすることもできます。



フィルタの追加

データの表示を制限する場合、またはドリルダウンで特定のデータ値に絞り込む場合にフィルタを追加します。たとえば、すべての製品区分ではなく、Camcorder と Televisions のデータのみ表示が必要な場合があります。この場合、下図のように、Camcorder と Televisions のフィルタを追加することで実行できます。

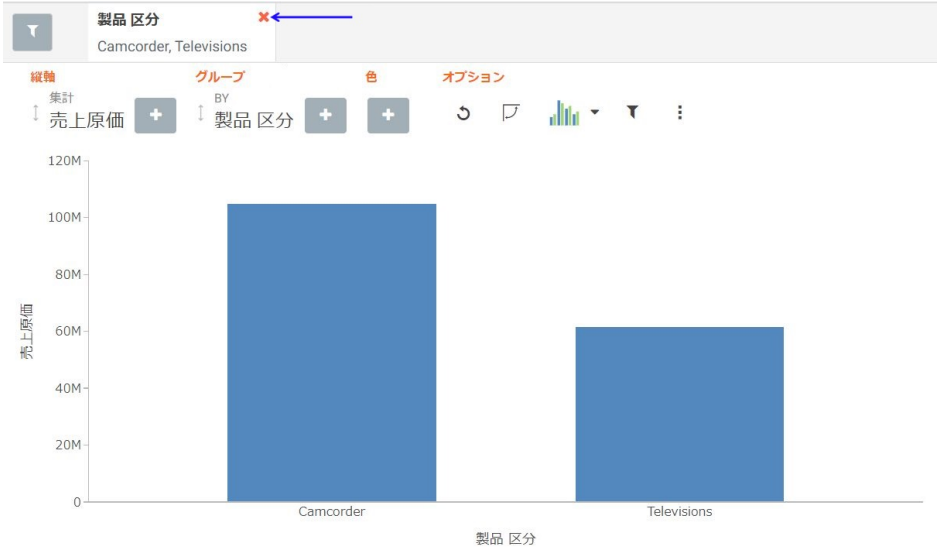


手順　インサイトでフィルタを追加するには

1. [オプション] ツールバーで [フィルタの表示] をクリックします。
   フィルタシェルフが表示されます。
2. [フィルタの表示] アイコンをクリックします。
3. 表示されたドロップダウンリストから、フィルタを設定するフィールドを選択します。
4. フィルタシェルフで特定したフィールドをクリックし、このフィルタの値を指定します。
   リストが表示され、選択可能な値が示されます。
5. フィルタを設定した項目を保存するには、フィルタシェルフでクリックします。
   グラフがリフレッシュされます。

フィルタの削除

フィルタを削除するには、下図のように、削除するフィルタ上にマウスポインタを置き、[X] をクリックします。



グラフがリフレッシュされ、フィルタなしでデータが表示されます。

オプションツールバーの使用

[オプション] ツールバーは、インサイトのインターフェースの右上に表示されます。これらのオプションは、ピボットやフィルタの設定などデータのインタラクティブ操作を制御します。また、[グラフの選択] オプションを使用してグラフタイプを変更することもできます。

参照　オプションツールバーのアイコン

ここでは、オプションツールバーに表示されるアイコンについて説明します。

リセット

グラフを元の状態に戻します。現在のインサイトのセッションで追加されたフィルタ、メジャー、ディメンションがすべて元に戻されます。グラフタイプも元に戻されます。

軸の入れ替え

X 軸と Y 軸を入れ替え、Y 軸上に X 軸のコンテンツを配置します。再度 [軸の入れ替え] をクリックすると、グラフ方向が元に戻ります。



保存

現在のインサイトグラフを一意のエントリとしてリポジトリに保存します。[保存] をクリックすると、フォルダのリストが表示されます。ナビゲーションは、コンテンツの保存が可能な範囲に限定されます。デフォルトでは、[マイコンテンツ] フォルダに設定されています。同一のインサイトグラフは複数回保存することが可能です。この場合、同一のタイトルおよびファイル名が使用されます。次に、ファイルを上書きするかどうかの確認が要求されます。



グラフの変更

さまざまなグラフタイプを選択するオプションを提供します。次のようなグラフタイプが選択できます。

-  **横棒** 降順でデータを順位付けすることができます。このグラフタイプは、X 軸のラベルが長すぎて横に並べて表示できない場合にも使用できます。このグラフタイプでは、[横軸]、[グループ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **縦棒** 異なる識別色を使用して、ディメンションコンポーネントごとに異なるメジャーを示します。このグラフタイプでは、[縦軸]、[グループ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **積み上げ縦棒** 異なる色を使用して、ディメンションコンポーネントごとに値を積み上げます。このグラフタイプでは、[縦軸]、[グループ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **リング** 値を全体に対する要素として、セグメントごとに色分けして表示します。円グラフは、特定のデータが全体の中で占める割合を強調します。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[メジャー]、[色]、[サイズ] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **縦折れ線** データを表す折れ線グラフを作成します。折れ線グラフは、数値データの傾向を示すのに便利です。このグラフタイプでは、[縦軸]、[グループ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **面** 折れ線グラフに類似した面グラフを作成しますが、データ線とゼロ線 (軸線) との間の領域が通常色で塗りつぶされる点が異なります。このグラフタイプでは、[縦軸]、[グループ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **散布図** 両軸上の可変スケールを使用してデータをプロットします。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[縦軸]、[横軸]、[サイズ]、[PRINT]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

  注意：インサイトの散布図またはバブルグラフを使用する場合、[データラベルの表示] 機能が [サイズ] フィールドコンテナに関連付けられます。そのため、[サイズ] フィールドコンテナにメジャーが配置されている場合のみデータラベルを表示できます。

-  **サークルプロット** 異なる値を行にプロットすることで、値の重複についての予測を可能にします。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[縦軸]、[横軸]、[サイズ]、[PRINT]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **ツリーマップ** 多数の階層構造データを表示します。このグラフタイプでは、セクションを使用して選択したメジャーの要素を表します。このグラフタイプでは、[グループ]、[サイズ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **ヒストグラム** 作成したビンに指定した値に基づいてメジャーをフィールドコンテナに割り当て、メジャーの分布を分析します。ビンの数はデフォルトで 10 に設定されています。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[メジャー] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **テーブル** 表形式でデータを表示し、データ内のさまざまな交差を比較することができます。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[メジャー] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **マトリックス** 2 つのカテゴリディメンションのクロス集計を使用して、1 つまたは 2 つのメジャーを分析します。このグラフタイプでは、[行]、[列]、[サイズ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **ポイントマップ** さまざまなサイズのシンボルを使用して、マップ内の異なる領域または位置に関連するデータを表します。このグラフタイプでは、[レイヤ]、[サイズ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

-  **コロプレスマップ** 位置に基づくデータ、傾向、地域分布を視覚化します。これらのマップは、地理情報に基づくヒートマップです。このグラフタイプでは、[レイヤ]、[色] のフィールドコンテナが使用できます。

注意：軸を入れ替えるとグラフアイコンの方向が変わります。また、グラフタイプで表示されるイメージは、ユーザの選択によって異なります。

フィルタの表示

データのフィルタを定義します。このアイコンを選択してフィールドコンテナシェルフ上部に表示されるフィルタシェルフを使用します。フィルタを定義するには、[フィルタの表示] アイコンをクリックします。詳細は、151 ページの 「 フィルタ 」 を参照してください。

注意：1 つまたは複数の不連続の値を選択するには、各フィールドを選択します。選択した値はチェックマーク付きで表示され、値が選択済みであることが示されます。

詳細オプション

次の追加オプションを表示します。

- **データのエクスポート** 現在のグラフ作成に使用したデータを、ローカルファイル格納先の Excel ファイルにエクスポートします。他のダウンロードファイルと同様、画面左下にファイルが表示され、アラートが発動されます。
- **イメージのエクスポート** 現在のグラフのイメージを生成します。イメージは、現在のブラウザウィンドウの幅と高さで、ローカルファイル格納先に PNG フォーマットで保存されます。
- **シリーズのレイアウト** インサイトの棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフは、いくつかの異なるサブグラフタイプ (レイアウト) をサポートします。サポートされるグラフタイプには、横棒グラフ、縦棒グラフ、積み上げ縦棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフがあります。棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフについては、次の [シリーズのレイアウト] オプションがあります。
  - 横棒グラフ - 上下、絶対、パーセント、左右

- 縦棒グラフ - 上下、絶対、パーセント、左右
- 積み上げ縦棒グラフ - 上下、絶対、パーセント、左右
- 折れ線グラフ - 上下、絶対、パーセント
- 積み上げ縦面グラフ - 上下、絶対、パーセント

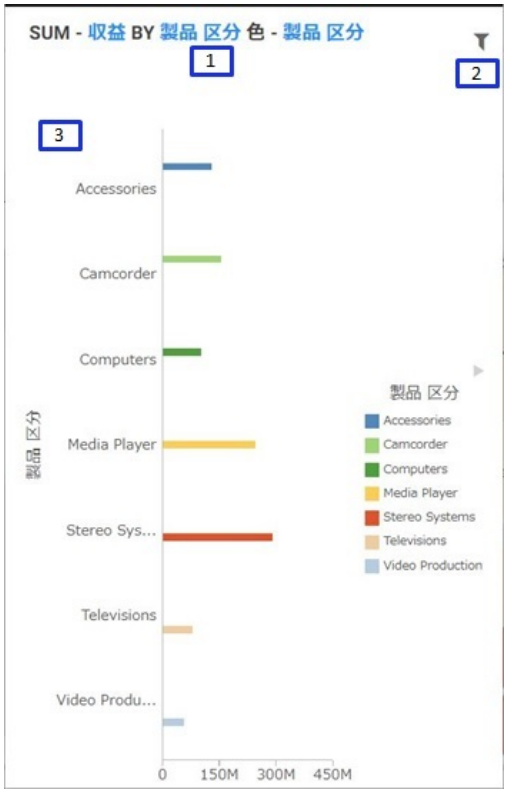
- **Y 軸対数目盛り**　Y 軸の対数目盛りを調整します。このオプションのチェックは、デフォルトで常にオフに設定されています。次のグラフタイプがサポートされます。
  - 横棒グラフ
  - 縦棒グラフ
  - 積み上げ縦棒グラフ
  - 折れ線グラフ
  - 面グラフ
  - 散布図
  - バブルグラフ
  - サークルプロット
  - ヒストグラム
- **X 軸対数目盛り**　X 軸の対数目盛りを調整します。デフォルト設定では、このオプションは選択されません。次のグラフタイプがサポートされます。
  - 散布図
  - バブルグラフ
- **ビンサイズの変更**　ビンのサイズを変更します (数値のみ)。このオプションは、ヒストグラムでのみ使用できます。テキストボックスをクリアすると、自動設定のビンサイズの生成に切り替えられます。
- **データラベルの表示**　すべてのグラフ (グリッドを除く) で、数値データラベルの表示と非表示を切り替えます。デフォルト設定は常に [オフ] です (ツリーマップを除く)。
- **合計の表示**　データグリッドの行合計の表示と非表示を切り替えます。デフォルト設定は常に False です。
- **マーカーの形状**　マトリックスマーカーグラフのマーカー形状を変更します。[丸]、[四角]、[塗りつぶし] のオプションがあります。

フォンモードでのインサイトの使用

インサイトで使用可能なフォンモードでは、携帯電話でインサイトの機能を利用することができます。タブレットまたはデスクトップのインサイトで使用可能なインタラクティブな見出しは、グラフのフィールド名を青色のテキストで表示する静的な見出しに置換されます。これらは、グラフに含まれるフィールドが確認できる概要フィールドになります。

インサイトは、モバイルでの使用を意識したモバイルフレンドリな機能です。完全な機能は、タブレットおよび高解像度のタッチディスプレイで使用可能です。iPhone など小型のデバイスでは、インサイトは特別なフォンモードを使用します。これは、便利な反面、機能が限られており、一連のオプションや機能はデバイスの小さい画面領域に合わせて調整されています。このモードでは、フィルタを追加したり変更したりして、必要に応じてデータを絞り込むことができます。また、データポイント上にマウスポインタを置き、元のデータを確認することもできます。

最初にメジャーが表示されます。下図のように、1 つ目のメジャーが集計属性 (例、「SUM」または「平均」)、「-」、メジャー名の順に表示されます。



上図では、1 の領域が静的な見出しです。2 の領域はフィルタ設定のサイドオプションボタンを示しています。最後に、3 の領域はグラフの本体を示します。

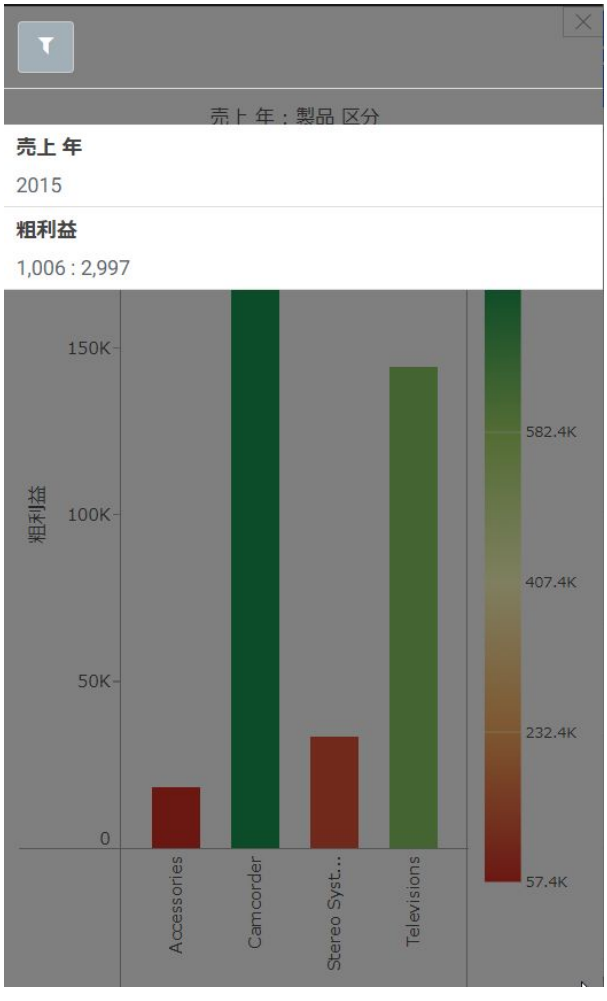
数値メジャーは、Y 軸、X 軸の順序でメジャーの後に表示されます。[グループ] フィールドコンテナでフィールドを定義した場合、フィールドはグループメジャーの後に、「BY」という単語に続いて表示されます。マトリックスマーカーグラフを作成した場合、これらの関連するフィールドコンテナが次に表示されます。グラフに挿入された [PRINT] フィールドコンテナと同様、これらのフィールドコンテナも「BY」という単語を使用します。グラフで色分けするフィールドを指定する場合、フォンモードは、「色 - 」で指定したこの項目の表示に優先します。[サイズ] フィールドコンテナにフィールドを追加した場合は、最後に表示され、先頭に「サイズ - 」と記述されます。

フォンモードでのオプションの使用

フォンモードには、強力なフィルタや Hover 機能などいくつかのオプションがあります。

フィルタ

フォンモードでは、通常のデスクトップモードと同様のフィルタ設定が可能です。主な違いは、下図のように、使用可能なフィルタがフィルタシェルフに縦方向に行で積み上げられる点です。



フィルタアイコンをクリックしてフィルタシェルフを開き、閉じる際は [X] をクリックします。フィルタの定義後は、フィルタシェルフを閉じるだけで折りたたまれます。定義したフィルタはそのまま保持されます。フィルタを削除するには、フィルタ上にマウスポインタを置き、右上の [X] をクリックします。

全般的な操作性

フォンモードでは、グラフを表示したり、独自のシナリオに基づいてフィルタを設定してグラフを精緻化したりできます。

データバー、グラフセグメントにマウスポインタを置き、追加情報および詳細情報を元のデータから取得することができます。表示されるツールヒントは、ユーザのデータ選択に基づきます。

凡例上部の右矢印を使用して、凡例の表示と非表示を切り替えることもできます。凡例を折りたたむと、グラフの表示領域が広がります。

インサイトでは、動的グラフの作成が幅広く行えます。動的なメニュー、フィルタオプション、検索機能を使用して、データを表現するためのグラフがすばやく効果的に作成できます。

グラフタイプの選択

InfoAssist には、基本グラフと詳細グラフの両方が含まれたグラフライブラリが用意されています。多種多様なグラフから、データの表示に最適なグラフを選択することができます。

データの表示に適したグラフを選択することが重要です。グラフモードで [フォーマット] タブの [グラフ] グループの [その他] をクリックすると、[グラフの選択] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで各グラフタイプの上にマウスポインタを置くと、各グラフの説明が表示されます。これにより、各グラフタイプの識別が容易になり、データの表示に適したグラフタイプをすばやく作成することができます。

注意

- 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのいずれかが含まれたグラフプロシジャをマイグレートし、マイグレート後にグラフタイプを変更するには、[フォーマット] タブではなく、[シリーズ] タブの [グラフ] ボタンをクリックします。
- バージョン 8.2.02 以降、一部のグラフタイプに新しいグラフ属性構文が適用されました。これらのグラフタイプは、2 軸棒、2 軸折れ線、タグクラウド、ストリームグラフ、マリメッコ、じょうご、ピラミッドです。InfoAssist では、各グラフタイプに固有のフィールドコンテナが表示されます。各グラフタイプの作成に使用される構文についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』を参照してください。グラフのフィールドコンテナについての詳細は、60 ページの 「 グラフおよびビジュアライゼーションのフィールドコンテナ 」 を参照してください。

棒グラフ

棒グラフは、スケール (グラフの軸に沿って表示される数値または可変メジャーフィールドの尺度) を基準に、長方形のブロックを表示することによって数値データを表します。棒の長さは、各データの値または数量に相当します。棒の相対的な高さで、データシリーズ (フィールド) を比較することができます。棒グラフは、数値データの分布を表します。作成可能な棒グラフには、横棒グラフと縦棒グラフがあります。

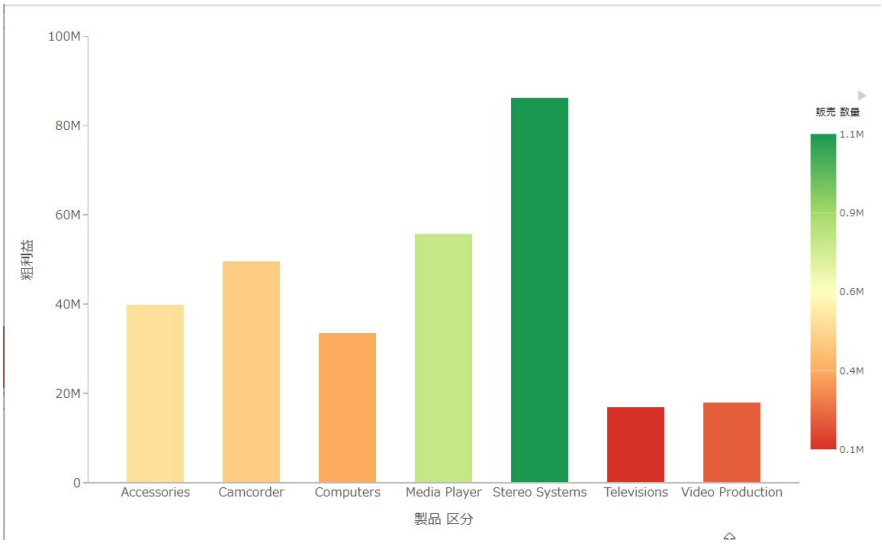
注意

- 大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。スクロールバー表示の有効と無効を切り替えるには、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンにします。
- グラフモードまたはビジュアライゼーションモードで積み上げ棒グラフを使用する場合、境界を有効にして、グラフに各シリーズまたはメジャーを表示することができます。境界を有効にした場合、積み上げ棒グラフの各メジャーが境界線で囲まれます。これにより、同一ライザ上に同じ色を使用してメジャーを表示した場合に、各メジャーを区別することができます。

  すべてのシリーズの境界は、[シリーズ] タブからアクセスする [スタイル] ダイアログボックスで指定できます。

用途 棒グラフは、個々の値が重要な意味を持つ場合に使用します。たとえば、基本的な縦棒グラフを作成し、販売された個々の製品と、各製品の売上総数を比較することができます。販売店では、売れ筋製品や各製品の売上高を知ることが重要になります。

下図は、製品区分別の粗利益と販売数量を示す棒グラフの例です。



横棒グラフは、値の大きい方から並べて順位を強調する場合や、X 軸ラベルが長すぎて横に並べて表示できない場合に使用すると便利です。たとえば、基本的な横棒グラフを作成し、販売店で売上高の多い順に製品を順位付けすることができます。

棒グラフのタイプ

下表は、使用可能な棒グラフタイプの一覧です。

棒グラフのタイプ	
集合縦棒	集合横棒
積み上げ縦棒	積み上げ横棒
2 軸集合縦棒	2 軸集合横棒
2 軸積み上げ縦棒	2 軸積み上げ横棒
2 極集合縦棒 (HTML5 では使用不可)	2 極集合横棒 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦棒 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横棒 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦棒	パーセント横棒

棒グラフのタイプ	
縦ヒストグラム	横ヒストグラム
縦滝型	横滝型
複数 Y 軸 (3) 縦棒 (HTML5 では使用不可)	複数 Y 軸 (4) 縦棒 (HTML5 では使用不可)
複数 Y 軸 (5) 縦棒 (HTML5 では使用不可)	エラーバー

円グラフ

円グラフは、全体に対する各要素の割合を表す円形のグラフです。円グラフは、特定のデータが全体の中でどの程度の位置を占めるかを強調します。円グラフは、データがいくつかの大規模なセグメントで構成されている場合に、最も効果的です。円グラフに使用するメジャーフィールド数は、5 以下にすることをお勧めします。使用するメジャーフィールド数が多すぎると、円全体が細かい円項目に分割され、判別が困難になる場合があります。個々のセグメントに異なる色やテクスチャを適用すると、視覚的に区別しやすくなります。

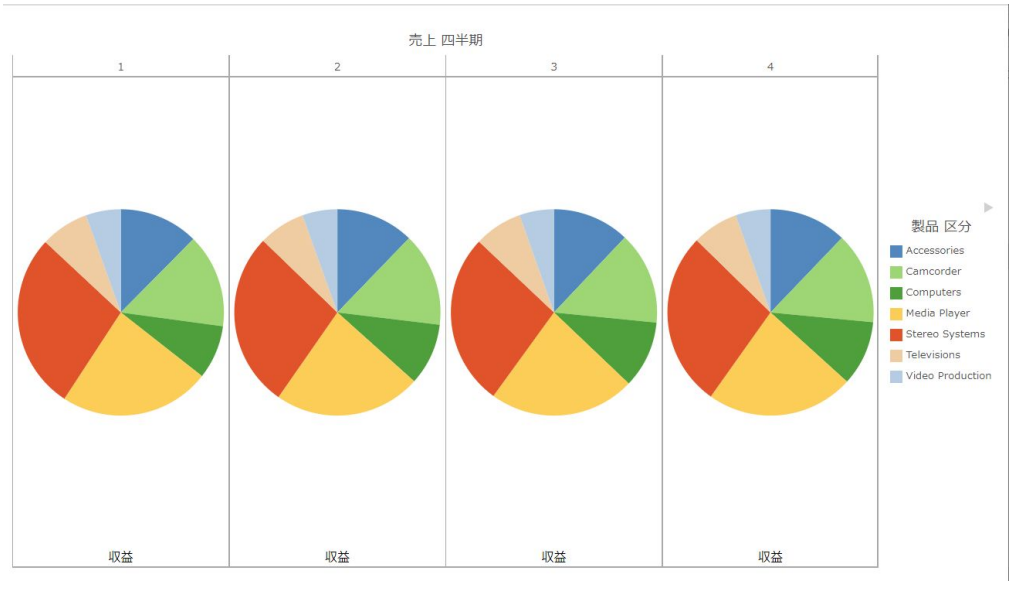
また、[メジャー] フィールドコンテナには、1 つまたは複数のメジャーを追加することができます。メジャーごとに個別の円グラフが作成され、[色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加することで、各グラフの円項目を色分けすることができます。

注意

- 円グラフを作成する場合、[色] フィールドコンテナにメジャーフィールドを 1 つ追加することができます。これにより、そのメジャーが BY フィールドとして追加され、円グラフの色分け方法が決定されます。ただし、メジャーデータによっては、円項目が多数になる場合があります。
- 円グラフで負の値のデータを描画することはできません。

用途 円グラフは、データがいくつかの大きな区分で構成され、そのデータ全体を表示する場合に使用します。

下図は、販売四半期別の製品収益を示す円グラフの例です。



円グラフのタイプ

下表は、使用可能な円グラフタイプの一覧です。

円グラフのタイプ	
複数円	複数リング
複数比例円 (HTML5 では使用不可)	複数比例リング (HTML5 では使用不可)
円	リング
補助縦棒付き円 (HTML5 では使用不可)	補助縦棒付きリング (HTML5 では使用不可)

折れ線グラフ

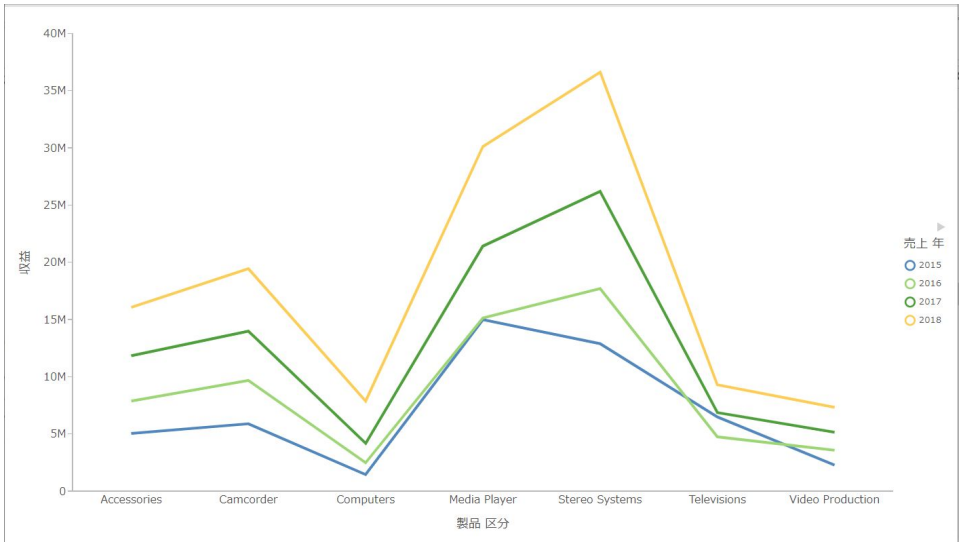
折れ線グラフは、時間の経過に沿った数値データの動向 (傾向) を強調する際に役立ちます。これらを使用して、過去の時点にさかのぼったり、データを補間したりして、特定のデータ点の変化を追跡することができます。高低のレベル、遅速の動き、安定に向けての傾向などのトレンドタイプについて説明する場合は、折れ線グラフが適しています。

また、折れ線グラフに複数のスケールを使用して、異なる期間においての同一または複数のデータ値を比較することもできます。

注意：大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。スクロールバー表示の有効と無効を切り替えるには、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンにします。

用途　折れ線グラフは、時間の経過とともに変化するデータの動向を表す場合に使用します。たとえば、雇用統計の月別変化や、全製品の中で特定の製品の年別の売上高などがあります。

下図は、4 年間の製品収益を年次別に示す折れ線グラフの例です。



レーダーグラフは、基本的に折れ線グラフに類似していますが、スケールが円形状に配置されている点が異なります。レーダーグラフは、2 つ以上のデータセットを比較する場合に使用します。年月のような周期データについて説明する場合は、レーダーグラフが適しています。レーダー線グラフは折れ線グラフカテゴリから、レーダー面グラフは面グラフカテゴリから、それぞれ選択可能です。複数の軸または多角形を使用して、データセットを交差線状に表現することができます。

折れ線グラフのタイプ

下表は、使用可能な折れ線グラフタイプの一覧です。

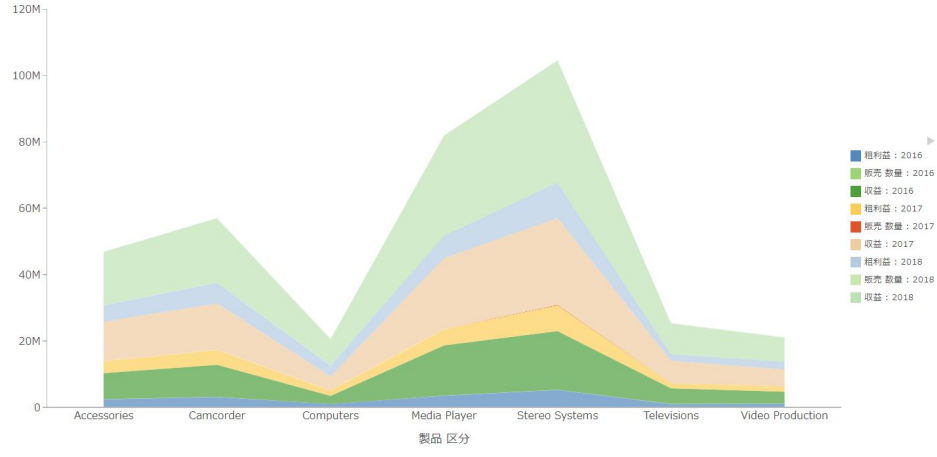
折れ線グラフのタイプ	
絶対値縦折れ線	絶対値横折れ線
積み上げ縦折れ線	積み上げ横折れ線
2 軸絶対値縦折れ線	2 軸絶対値横折れ線
2 軸積み上げ縦折れ線	2 軸積み上げ横折れ線
2 極絶対値縦折れ線 (HTML5 では使用不可)	2 極絶対値横折れ線 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦折れ線 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横折れ線 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦折れ線	パーセント横折れ線
レーダー線	

面グラフ

面グラフは、折れ線グラフに類似していますが、データ線とゼロ線 (軸線) との間の領域に色が適用されている点が異なります。面グラフでは、1 つのデータの上に別のデータを積み上げることができます。データを積み上げることにより、データシリーズ間の関係を強調して、あるデータシリーズが別のデータシリーズに接近したり、追い付いたりする様子を表現することができます。

注意：大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。スクロールバー表示の有効と無効を切り替えるには、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンにします。

用途 面グラフは、データ量を色で強調することでデータをより明確に識別する場合に使用します。下図は、3 年間の各製品の粗利益、収益、販売数量を年次別に示す積み上げ面グラフの例です。



面グラフのタイプ

下表は、使用可能な面グラフタイプの一覧です。

面グラフのタイプ	
絶対値縦側面	絶対値横側面
積み上げ縦面	積み上げ横面
2 極絶対値縦側面 (HTML5 では使用不可)	2 極絶対値横側面 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦面 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横面 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦面	パーセント横面
レーダー面	

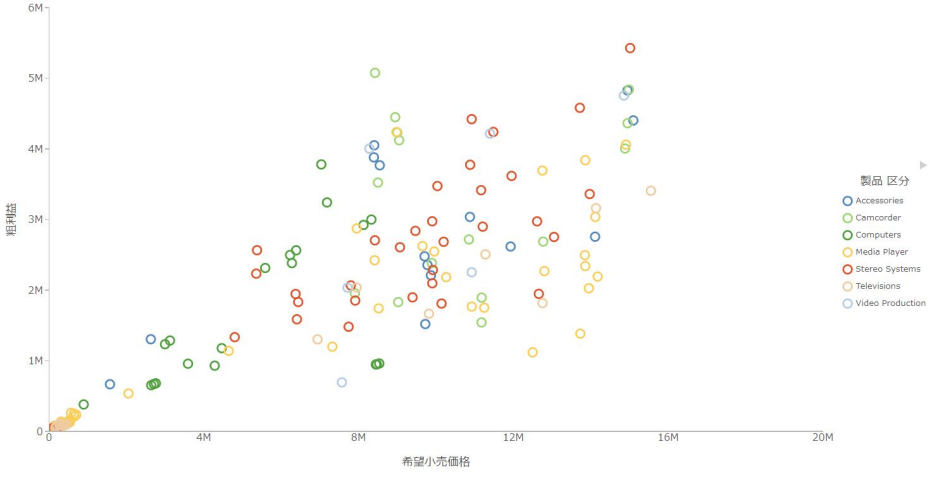
散布図

両軸上の可変スケールを使用してデータをプロットすることができます。散布図では、データは丸マーカーを使用してプロットされるため、特定ポイントの周囲でのデータ値の密集度やデータパターンの識別が可能になります。デフォルト設定では、数値 X 軸、つまりソートフィールドからは、常に散布図が生成されます。ただし、必要に応じて、縦軸または横軸にメジャー以外のフィールド (ディメンションフィールド) を指定することができます。また、両方の軸にメジャー以外のフィールドを指定することも可能です。この場合、ディメンションデータが縦方向に表示されます。

グラフに表示されたデータポイントが密集している場合、X 値と Y 値の相関性が高いことを示しています。データポイントが散在している場合、相関性が低い、または相関性がないことを示しています。

用途　散布図は、データ内のパターンを特定する場合に使用します。

下図は、粗利益と希望小売価格を製品区分別に示す散布図です。



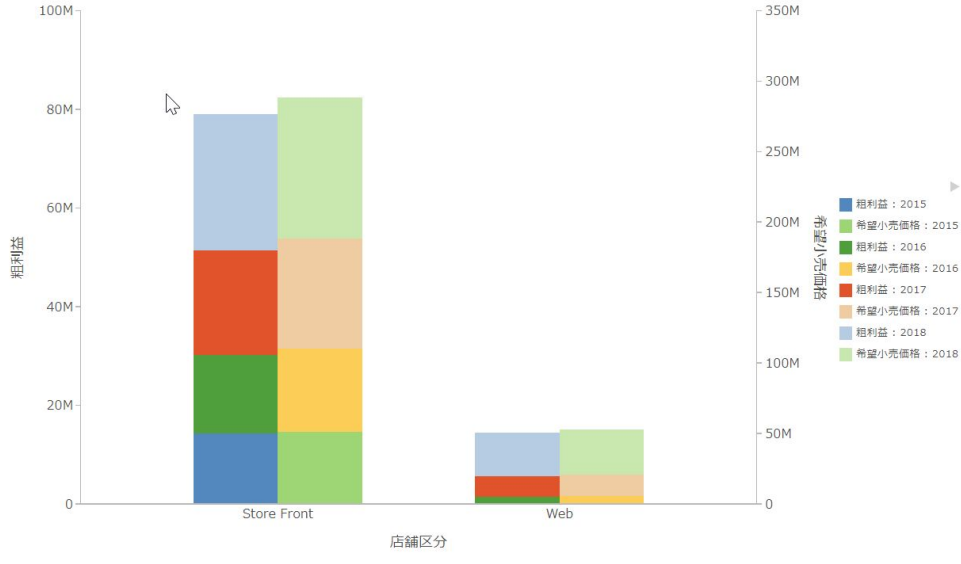
複数軸グラフ

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフには、複数軸オプションがあります。たとえば、2 軸グラフや、1 つの X 軸値を複数の Y 軸メジャーフィールドと比較できる複数 Y 軸グラフがあります。

InfoAssist では、Y1 から Y5 までの軸にそれぞれ個別のシリーズを割り当てることができます。詳細は、171 ページの 「2 軸グラフを作成するには 」 を参照してください。

用途　複数軸グラフは、複数の軸に値を表示し、複数のデータセットをそれぞれ異なるスケールで比較する場合に使用します。

下図は、4 年間の粗利益と希望小売価格を店舗区分別に示す 2 軸棒グラフの例です。



XY プロットグラフ

XY プロットグラフは、複数のデータシリーズの数値間の関係を表します。このグラフでは、X 値と Y 値がすべて 1 対 1 の関係にある 2 組の数値がポイントで表示されます。その結果、各ポイントは XY 座標で表されます。

用途　XY プロットグラフは、比較する 2 組の数値があり、これらの数値の動向分析を行う場合に使用します。

- **散布図**　散布図は、X 値と Y 値の関係を表します。散布図は、2 組の数値を一度に比較し、そのパターンや傾向を明確にします。

  両軸上の可変スケール使用して、データを表示することができます。散布図を使用すると、データは基本的な折れ線パターンを使用して表されるため、特定点の周囲でのデータ値の密集度や、データパターンの識別が可能です。デフォルト設定では、数値 X 軸、つまりソートフィールドからは、常に散布図が生成されます。

  グラフに表示されたデータポイントが密集している場合、X 値と Y 値の相関性が高いことを示しています。データポイントが散在している場合、相関性が低い、または相関性がないことを示しています。

散布図には、折れ線グラフの特性と類似している点が多くあります。散布図および折れ線グラフは、X 軸のフォーマットのみによって、識別することができます。折れ線グラフは、データ点を線で接続しなければ散布図のように表示され、散布図は、データ点を線で接続すれば折れ線グラフのように表示されます。

- **極グラフ**　極グラフは、円形のグラフです。極グラフでは、データは値と角度によって表されます。極グラフは、散布図の特性と類似しています。極グラフでは、1 つの列フィールドのみを使用することができます。この場合、列フィールドに X (角度)、ACROSS フィールドまたは BY フィールドに Y (中心からの距離) をこの順序で指定します。
- **バブル**　バブルグラフは、データポイントをバブルで表したグラフです。バブルグラフは、X と Y のデータ値を表す 2 つのフィールドで構成することも、X、Y、Z のデータ値をこの順序で表す 3 つのフィールドで構成することもできます。3 つ目の変数 (Z) は、サイズを表します。各バブルのサイズは、データの相対的な重要度を表すために使用します。

  注意：横軸、縦軸、または両方の軸に、メジャー以外のデータフィールド (ディメンションフィールド) を指定することができます。

XY プロットグラフタイプ

下表は、利用可能な XY プロットグラフタイプの一覧です。

XY プロットグラフのタイプ	
散布図	極グラフ
バブルグラフ	

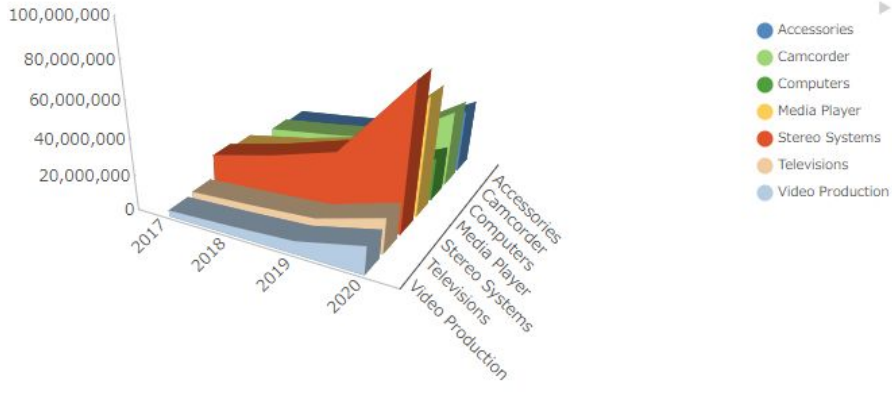
3D グラフ

3D グラフは、X、Y、Z の 3 つの軸を使用して、2 つ以上のデータセットのデータを表示します。これにより、データの傾向がより明確になります。

用途　3D 棒グラフは、データの全体像を表示するとともに、グラフの外観に視覚的な奥行きを追加する場合に使用します。3D グラフは、グラフ内の値の判読が困難なため、正確な値の表示には適していません。

注意：HTML5 フォーマットでグラフを作成する際は、[3D 表示] オプションはサポートされません。

下図は、4 年間の収益を製品区分別に示す 3D グラフです。



3D グラフのタイプ

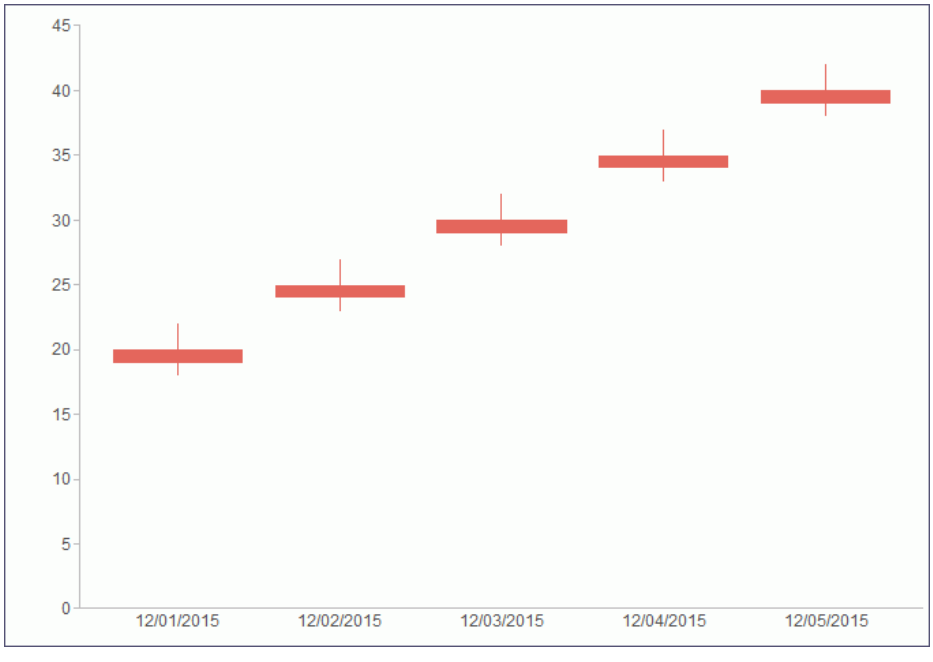
下表は、使用可能な 3D グラフタイプの一覧です。

3D グラフのタイプ	
角柱	ピラミッド (HTML5 では使用不可)
八角柱 (HTML5 では使用不可)	円柱 (HTML5 では使用不可)
浮遊キューブ (HTML5 では使用不可)	浮遊ピラミッド (HTML5 では使用不可)
3D 連続シリーズ面	3D 連続シリーズリボン
3D 連続グループ面	3D 連続グループリボン
円錐 (HTML5 では使用不可)	3D バブル (HTML5 では使用不可)
3D 表面	3D 側面付き表面 (HTML5 では使用不可)
滑らかな等高線 (HTML5 では使用不可)	滑らかな等高線 (側面あり) (HTML5 では使用不可)

3D グラフのタイプ	
3D 格子状 (HTML5 では使用不可)	

株価グラフ

株価グラフは、特定の株価のトレンドを追跡する際に使用します。株価の出来高、始値と終値、特定期間内の上値と底値が表示されます。データは棒および折れ線 (またはそのいずれか) によって表現されます。



株価グラフのタイプ

下表は、使用可能な株価グラフタイプの一覧です。

株価グラフのタイプ	
株価 Hi-Lo (HTML5 では使用不可)	出来高付き株価 Hi-Lo (HTML5 では使用不可)

株価グラフのタイプ	
株価 Hi-Lo Open-Close (HTML5 では使用不可)	出来高付き株価 Hi-Lo Open-Close (HTML5 では使用不可)
株価 (ロウソク)	出来高付きロウソク (HTML5 では使用不可)

その他のグラフ

その他のグラフには、さまざまな追加のグラフタイプが含まれています。

- **メータ**　メータグラフは、所定の範囲に単一データ値の現在の位置を示す円形のグラフです。
- **温度計**　温度計グラフは、所定の目盛り範囲に単一データ値の現在の位置を示します。温度計型のグラフです。このグラフは HTML5 では使用できません。
- **パレート**　パレートグラフでは、X 軸の目盛りがグループのメンバーを、Y 軸の目盛りが各グループが属するグループすべての総計に対するパーセント値を、それぞれ表します。データグループごとの差異を強調します。
- **縦方向ボックスプロット**　縦方向ボックスプロットは、垂直ボックスプロットで、上限値、上側四分位数、中央値、下側四分位数、下限値の 5 つの数値で、データの分布を示します。 このグラフは「ウィスカ」とも呼ばれる異常値を追加または除外して表示することができます。
- **横方向ボックスプロット**　横方向ボックスプロットは、水平ボックスプロットで、上限値、上側四分位数、中央値、下側四分位数、下限値の 5 つの数値で、データの分布を示します。このグラフは「ウィスカ」とも呼ばれる異常値を追加または除外して表示することができます。
- **じょうご**　じょうごグラフは、円グラフと類似し、最初のシリーズから最後のシリーズまでの 1 グループのデータのみをじょうごの下部に一度に表示します。
- **ピラミッド**　ピラミッドグラフは、円グラフと類似しており、最初のシリーズから最後のシリーズまでの 1 つのグループのデータのみを、ピラミッドの下部に一度に表示します。
- **ブロック地図**　ブロック地図グラフは、行と列のマトリックスマーカーで構成され、マーカーがデータ値に応じて色分けされます。

HTML5 グラフ

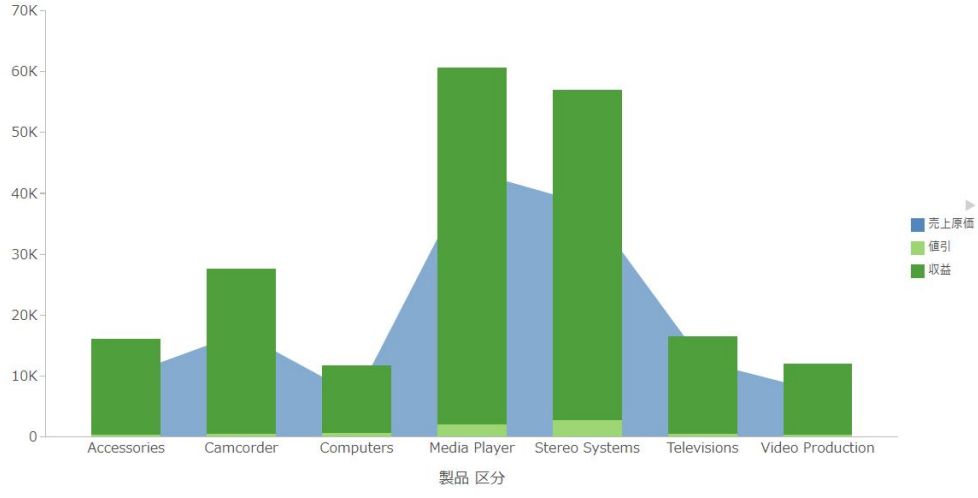
HTML5 グラフには次のものがあります。

- **パラボックス**　パラボックスグラフは、多変量データの視覚化と分析に使用されます。一般的には、任意のディメンションでフィルタを設定し、想定される数百の結果を比較することができます。
- **マリメッコチャート**　マリメッコチャートは、関連する 2 つの変数を、合計値と相対値のパーセントで比較します。このグラフは、ビジネスおよびマーケティングの分野でよく使用されます。
- **ストリームグラフ**　ストリームグラフは、時間の経過に伴うデータの変化を表す場合によく使用されます。このグラフは、積み上げ面グラフに類似しています。ただし、X 軸が固定されません。ストリームグラフは、ソーシャルメディアの分野でトレンドを表す場合によく使用されます。
- **タグクラウド**　タグクラウドは、頻出度の高いテキストデータを視覚的に表現します。このグラフは、関連する情報をすばやく表示するのに有効で、用語に関するすばやい意思決定と検索結果の絞り込みを可能にします。タグクラウドは通常、Web サイト上のキーワードを表現したり、自由形式のテキストを視覚化したりする場合に使用します。
- **ツリーマップ**　ツリーマップは、多数の階層構造データを表示する場合に使用します。セクション化されたフォーマットで、各長方形が選択したメジャーの要素を表します。2 番目のメジャーを指定すると、色コードが適用され、ツリーマップの個々のセクションを強調することができます。
- **グリッド**　グリッドは、表形式でデータを表示します。たとえば、グラフモードで [グリッド] グラフタイプを選択し、データの概要を示す表を作成することができます。また、このオプションは、ビジュアライゼーションモードではサポートされません。

複合グラフ

複合グラフは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのうち、2 つ以上の異なるグラフタイプを使用して複数のシリーズを表示したグラフです。これらのグラフを組み合わせることで、表示されたデータの意味が明確になり、1 つのグラフでさまざまなデータセットの関係が強調されます。この複合グラフは、混合グラフ、合成グラフ、重ね合わせグラフとも呼ばれます。

用途 たとえば、販売店で収益と値引きを示す縦棒グラフと、売上原価を示す面グラフを統合する場合に使用します。



マップ

InfoAssist マップでは、地理情報システム (GIS) 機能を使用してデータ値を地図に変換し、パターンや傾向を視覚化します。これにより、データを地図上の地域区分別に表示することが可能になります。具体的には、州、国、郵便番号など、位置情報に関連付けられたデータを、マップビューアに統合されたシンボルレイヤとして表示することができます。

また、InfoAssist マップでは、マップエンジンである ESRI の強力なマップ機能が使用されるため、多数の詳細情報や地形データをレイヤとして組み合わせたマップ表示が可能です。

この地図機能は、バブルマーカーやヒートマップ (コロプレス) など、使用頻度の高いさまざまなフォーマットをサポートします。地図フォーマットには、次のものがあります。

- **コロプレス** 地理情報に基づくヒートマップです。このグラフは、位置に基づくデータ、傾向、地域分布の視覚化に役立ちます。
- **プロポーショナルシンボル (バブル)** サイズの異なるシンボルで、地域や位置それぞれに関連するデータを表示します。

用途 マップ機能は、ビジネスユーザの情報に基づく意思決定を支援します。また、データの位置情報に関連するパターン、傾向、関係をグラフ化することもできます。

詳細は、401 ページの 「 マップ作成による傾向の特定 」 を参照してください。

グラフの作成

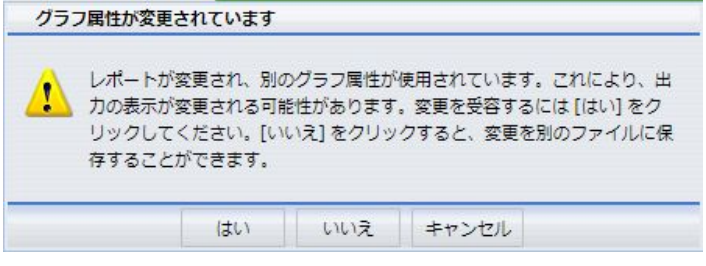
[フォーマット] タブの [グラフ] グループには、よく使用する 5 つのグラフタイプのボタンが用意されています。これらのグラフタイプは、[棒] (デフォルト設定)、[円]、[折れ線]、[面]、[散布図] です。また、[コロプレス] および [プロポーショナル] ボタンを使用して、ESRI コロプレスマップおよびプロポーショナルシンボルマップを作成することもできます。 [その他] ボタンをクリックすると、詳細グラフのグラフライブラリ (Leaflet マップを含む) が表示されます。 詳細は、408 ページの 「 InfoAssist でのマップの作成とカスタマイズ 」 を参照してください。

下図は、[グラフ] グループを示しています。



注意：InfoAssist の各バージョンの開始方法についての詳細は、15 ページの 「 InfoAssist の概要 」 を参照してください。

異なるグラフ属性構文を使用するグラフタイプに切り替えると、変更を適用して次へ進むか、切り替えをキャンセルするかを選択するメッセージが表示されます。下図は、このメッセージを示しています。



[グラフ属性が変更されています] ダイアログボックスで、変更を受容するには [はい] をクリックします。変更を別のファイルに保存し、元のプロシジャ (.fex) をそのまま保持するには [いいえ] をクリックします。

手順　基本グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、作成するグラフのボタンをクリックします。デフォルト設定では、棒グラフが選択されています。

   キャンバスにグラフが表示されます。

2. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。

   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドをグラフ上にドラッグする。
   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドを [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグする。

手順　詳細グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[その他] をクリックします。

   [グラフの選択] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスの左側では、グラフタイプがカテゴリ別に分類されています。

2. 各グラフタイプの名前を表示するには、グラフタイプ上にマウスポインタを置きます。

   グラフタイプのカテゴリは、上から下への順に、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ]、[円グラフ]、[XY プロットグラフ]、[3D グラフ]、[株価グラフ]、[その他のグラフ]、[HTML5]、[マップ]、[HTML5 拡張] に分類されています。

   注意

   - [HTML5] カテゴリに属するストリームグラフでは、ツールヒントが強化され、使用するデータソースに応じて特定の情報がデータポイントごとに表示されます。
   - [HTML5 拡張] カテゴリに属するグラフタイプは、WebFOCUS の外部で開発され、InfoAssist で使用可能なグラフタイプとして追加されたものです。これらのグラフタイプは、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』の「グラフライブラリへのユーザ独自のグラフタイプの追加」の説明に従ってセットアップされている場合に表示されます。

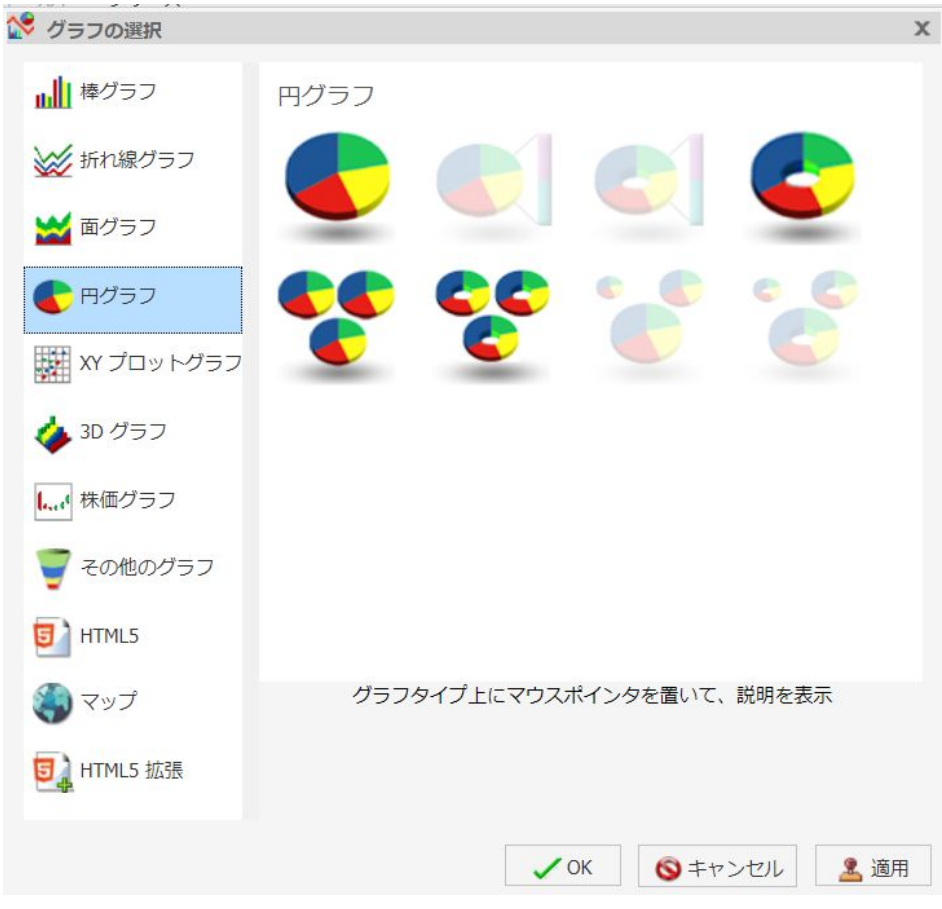
3. 左側のウィンドウで、グラフタイプをクリックします。

   選択したカテゴリでサポートされるグラフタイプのバリエーションが、ダイアログボックスの右側にサムネールイメージで表示されます。

4. グラフタイプの詳細な説明を表示するには、グラフタイプのイメージをクリックします。

   グラフタイプの特性が不明な場合は、選択を確定する前に、この説明を必ず読んでください。グラフには、特定の数のデータ値や特定のタイプのデータ値が必要なものがあります。使用するデータが要件を満たさない場合は、グラフでデータを正確に表現することができません。

   下図では、円グラフが選択されています。ダイアログボックスの右側には、サポートされるグラフタイプのバリエーションが、サムネールイメージで表示されます。グラフタイプのいずれかを選択すると、そのグラフタイプの説明がダイアログボックスの下部に表示されます。



   また、イメージ上にマウスポインタを置いて、グラフタイプ名を表示することもできます。

5. [グラフの選択] ダイアログボックスで、[OK] をクリックして選択を確定し、ダイアログボックスを閉じます。
6. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。
   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドをグラフ上にドラッグする。
   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドを [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグする。

手順　複合グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、作成するグラフのボタンをクリックします。デフォルト設定では、棒グラフが選択されています。

   キャンバスにグラフが表示されます。
2. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。
   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドをグラフ上にドラッグする。
   - ディメンションフィールドおよびメジャーフィールドを [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグする。
3. 次のいずれかの方法で、シリーズタイプを変更します。
   - **リボン**　[シリーズ] タブの [選択] グループで、別のグラフタイプで表示するシリーズを選択します。次に、[プロパティ] グループの [グラフ] ドロップダウンメニューから、グラフタイプを選択します。
   - **コンテキストメニュー**　キャンバス上で、別のグラフタイプで表示するシリーズを右クリックし、[グラフタイプ] から新しいグラフタイプを選択します。

   選択したシリーズが新しいグラフタイプで表示されます。

手順　2 軸グラフを作成するには

2 軸グラフを作成する場合、1 つのデータシリーズを Y1 軸に割り当て、別のデータシリーズを Y2 軸に割り当てます。

注意：これは、HTML フォーマットのグラフに適用されます。HTML5 フォーマットで 2 軸グラフを作成する場合、フィールドコンテナのラベルが [縦軸 1] および [縦軸 2] となります。グラフが横方向の場合、フィールドコンテナのラベルは [横軸 1] および [横軸 2] となります。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[その他] をクリックします。

   [グラフの選択] ダイアログボックスが開きます。
3. 2 軸グラフ (例、2 軸棒グラフ) を選択し、[OK] をクリックします。
4. 1 つ目のフィールドを [Y1] フィールドにドラッグし、次に 2 つ目のフィールドを [Y2] フィールドにドラッグします。

手順　複数軸グラフを作成するには

複数軸グラフを作成する場合、1 つのデータシリーズを Y1 軸に割り当て、使用する軸数に応じて、別のデータシリーズを Y2、Y3、Y4、Y5 軸に割り当てます。

注意：この手順は、HTML フォーマットのみに適用されます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[その他] をクリックします。

   [グラフの選択] ダイアログボックスが開きます。
3. 複数軸グラフを選択し、[OK] をクリックします。
4. 使用する軸数に応じて、フィールドを [Y1]、[Y2]、[Y3]、[Y4]、[Y5] フィールドにドラッグします。

グラフ出力

グラフは、次のいずれかの出力フォーマットで作成することができます。

- HTML
- HTML5 (デフォルト)
- Analytic Document
- PDF
- Analytic PDF
- Excel

- PowerPoint

HTML5 出力では、ビルトインの JavaScript エンジンを使用して、グラフをブラウザに表示することができます。この出力フォーマットのグラフでは、アニメーション、高品質ベクタ出力、アルファチャンネル、グラデーション効果など、HTML5 Web 標準の最新の機能を活用することができます。

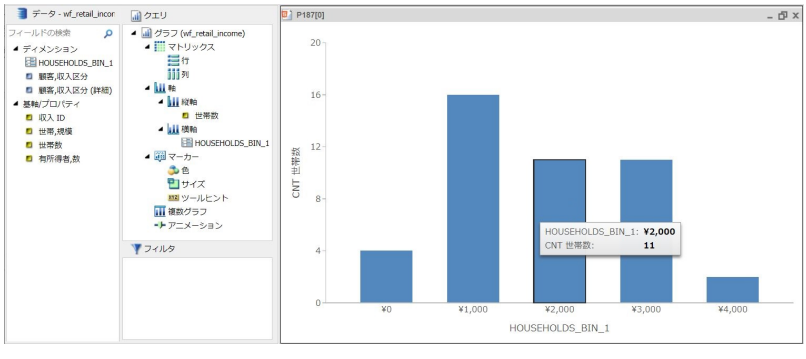
注意：グラフタイプによっては、上記のフォーマットで出力できないものもあります。作成するグラフを目的のフォーマットで出力できることを確認するには、そのグラフタイプのトピックを参照してください。

ビニング

ビニング機能は、データ範囲の定義を使用してデータ分析を行う強力なツールです。

ビニングを使用することで、値範囲全体における値の度数を特定することができます。ビニングは、度数分布の分析に使用されます。ビニングを使用すると、連続するデータを不連続のグループに区分できるため、データをどのように分類して表示するかを制御することができます。また、ビニングを使用することで、傾向の把握や異常値の特定が可能になります。

たとえば、複数の世帯で発生した支出の範囲を特定できます。下図の例では、これらの範囲は、1000 ドル単位でグループ化されたビンとして表わされています。この例では、支出の最も少ないビンに属する世帯数が最大であること (16 件)、およびビンのサイズ (支出) が増加するにつれて世帯数が減少傾向にあることが分かります。下図のように、ビニングを使用すると、さまざまなグループでの値範囲の度数を確認することができます。



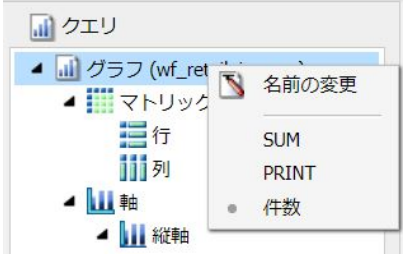
InfoAssist では、ヒストグラムでビンが自動的に作成されます。ビンのサイズは、データの要件に応じて変更することができます。たとえば、大規模なデータを使用する場合 (例、10 億件)、大きなビンを作成する必要があります。また、縦棒グラフおよびレポートでは手動でビンを作成することもできます。

注意：ビンを作成する際は、ビンのフォーマットと [ビンの幅] で設定された値には互換性が必要です。[ビンの幅] が桁数の多い小数値の場合、フィールドフォーマットを変換されるフィールドのフォーマットに合わせて定義し、適切な数値精度でビンが正しく生成されるようにします。

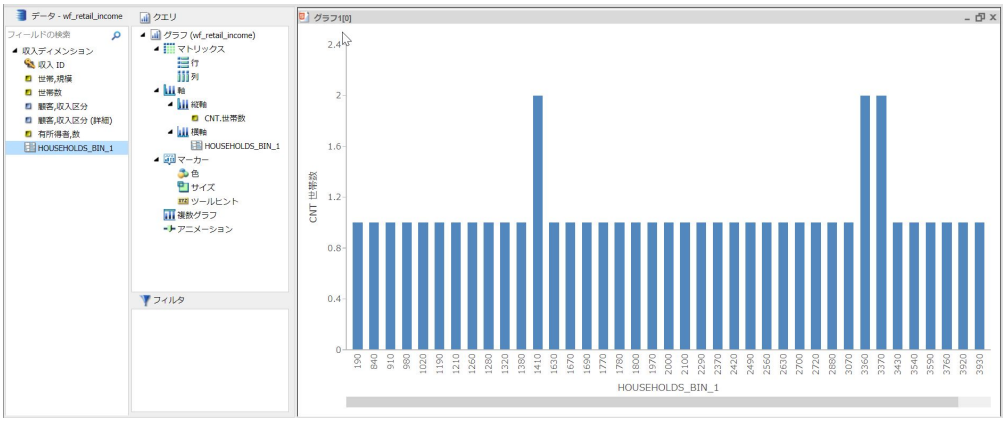
ビニング機能は、データの表示および分析方法に応じて、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションなどさまざまな出力タイプで使用できます。

手順　縦棒グラフでビニングを使用するには

1. InfoAssist をグラフモードで開きます。
2. 下図のように、[クエリ] ウィンドウでグラフコンポーネントを右クリックし、[SUM] から [件数] に変更します。



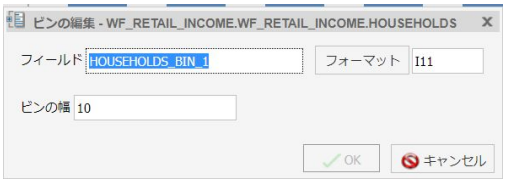
3. [世帯数] などのメジャーを [縦軸] フィールドコンテナに追加します。
4. [データ] ウィンドウで同じメジャーを右クリックし、[ビンの作成] をクリックします。
5. [ビンの作成] ダイアログボックスでデフォルト設定のビン値を受容し、[OK] をクリックします。
6. [データ] ウィンドウからビンを [横軸] フィールドコンテナにドラッグします。
下図のように、グラフが表示され、X 軸上にビンが示されます。



7. グラフを保存します。
   グループ化および表示の要件に応じてビンのサイズを編集することができます。

手順　既存のビンを編集するには

1. ビンを含むレポート、グラフ、ビジュアライゼーションを開きます。
2. [データ] ウィンドウの [ディメンション] グループから、既存のビンを右クリックし、[ビンの編集] をクリックします。
   下図のように、[ビンの編集] ダイアログボックスが開きます。



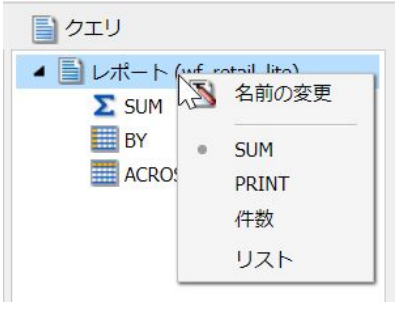
   注意：レポート、グラフ、ビジュアライゼーションで、ビンが指定され、[クエリ] ウィンドウに表示される場合、ショートカットメニューの [ビンの編集] フィールドの位置が別の場所に表示されます。
3. 必要に応じて、ビンのフィールド名を変更し、[フォーマット] をクリックして変更が必要なフォーマット設定を編集します (例、通貨)。
4. [ビンの幅] フィールドで、表示要件に合う値を指定します。
5. [OK] をクリックします。

手順　レポートでビンを作成するには

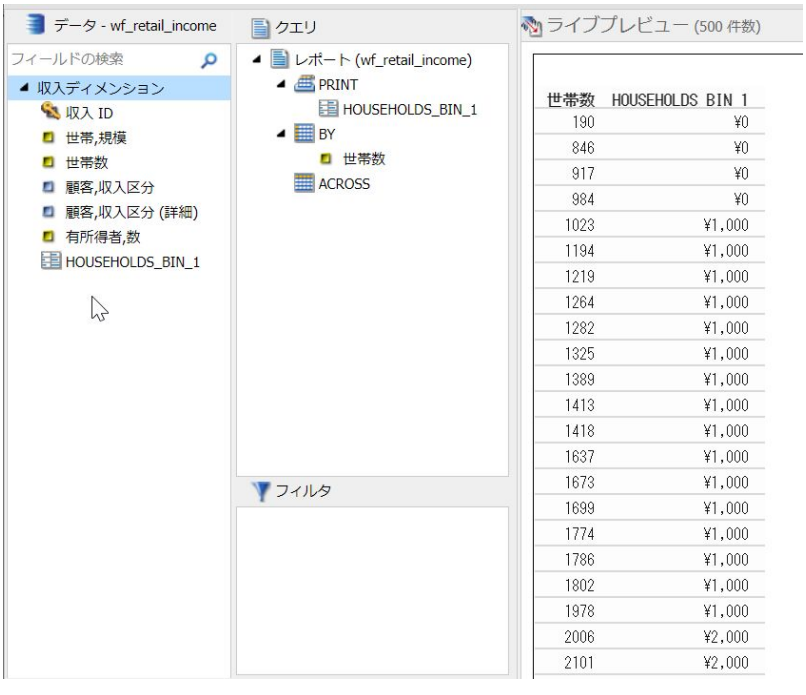
レポートでビンを作成し、グラフまたはヒストグラムの詳細を確認できます。必要に応じて、分析時にレポートとグラフを切り替えることができます。これにより、各ビンに分類される実際の値を確認することができます。

1. レポートを作成します。

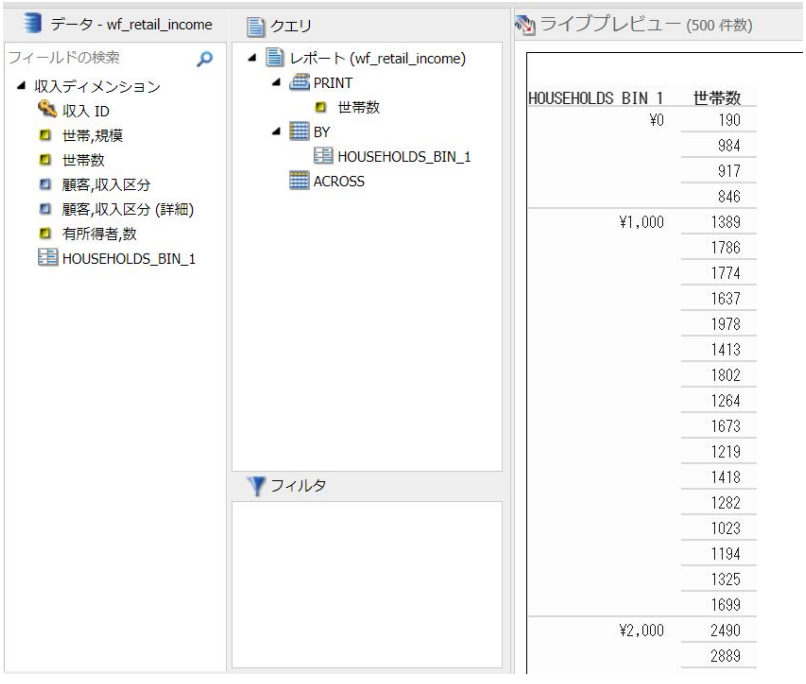
2. 下図のように、[クエリ] ウィンドウで [レポート] コンポーネントを右クリックし、[SUM] から [PRINT] に変更します。



3. ビンを作成するメジャーを右クリックし、[ビンの作成] をクリックします。
4. [ビンの作成] ダイアログボックスで、ビンの幅を設定し、必要に応じてフォーマット設定オプション (例、通貨) を変更します。
5. [OK] をクリックします。
6. [データ] ウィンドウでビンをダブルクリックしてレポートに追加します。
下図のようにレポートが表示され、値ごとのビンの割り当てが示されます。



7. 下図のように、[PRINT] および [BY] フィールドを変更して、ビンごとの [世帯数] の値を確認することもできます。



ヒストグラムでの値のビニング

ヒストグラムは、数値データの分布をグラフィカルに表現するグラフです。ヒストグラムを作成すると、連続するデータの度数分布の識別が容易になります。ヒストグラムを使用して、データを視覚的なグループ (ビンとも呼ばれる) に分類し、傾向を把握することができます。詳細は、173 ページの 「 ビニング 」 を参照してください。

ヒストグラムでは、ビンを使用してデータをグループ化します。ビンを使用すると、データの値範囲を設定することができます。下表の例では、全社員の年齢を考慮した場合のビンの指定方法が確認できます。1 つ目の表では、デフォルト値 10 を使用したビンおよび各ビンの件数を示しています。

年齢	件数
0-9	0
10-19	5

年齢	件数
20-29	26
30-39	351
40-49	460
50-59	310
60-69	285
70-79	22
80-89	3
合計	**1462**

2 つ目の表では、ビンの幅を 15 に設定した場合の各ビンの件数を示しています。ビンのサイズが大きくなると、各範囲に分類される社員数も増加します。

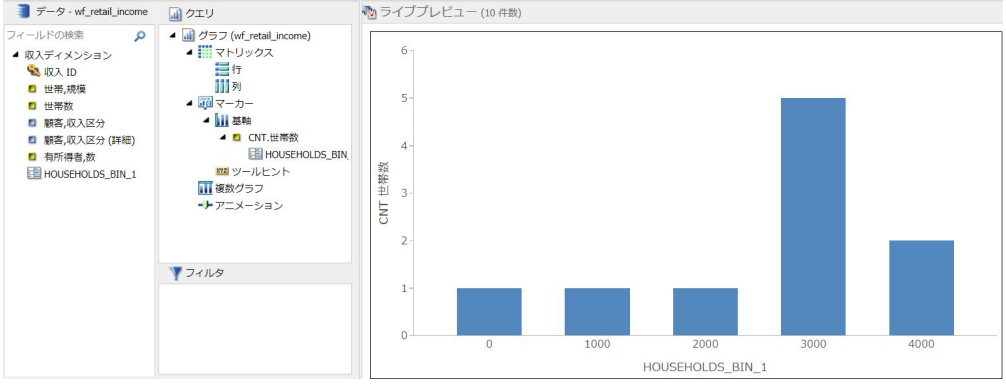
年齢	件数
0-14	0
15-29	31
30-44	611
45-59	510
60-74	296
75-89	14
合計	**1462**

グラフモードまたはビジュアライゼーションモードでヒストグラムを作成した場合、選択したメジャーに対してビンが自動的に作成されます。ビンを使用する場合、ビンの幅は変更が可能です。[クエリ] または [データ] ウィンドウでビンフィールドを右クリックし、[ビンの編集] を選択して、ビンの幅やコンテンツのフォーマットを制御する値を変更することができます。

このビン値は、ディメンションフィールド値として認識されます。これは、元のメジャーフィールドが無制限の連続した値範囲を持つフィールドであるのに対し、このメジャーフィールドがビンフィールドに指定されたことで、複数の値がグループ化された不連続の値範囲を持つフィールドになるためです。このメジャーフィールドは、COUNT (.CNT) フィールドとして表示され、関連するビンが [クエリ] ウィンドウに作成されます。これは、今後使用するために [データ] ウィンドウに配置されます。

手順　グラフモードで自動ビニングを使用してヒストグラムを作成するには

1. InfoAssist をグラフモードで開きます。
2. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[その他] をクリックします。
3. [棒] グラフグループで、[縦ヒストグラム] をクリックします。
4. [OK] をクリックします。
5. [データ] ウィンドウから、メジャーを [クエリ] ウィンドウの [メジャー] フィールドコンテナにドラッグします。
   下図のように、選択したメジャーを使用して、生成されたビンとともにヒストグラムが自動的に作成されます。

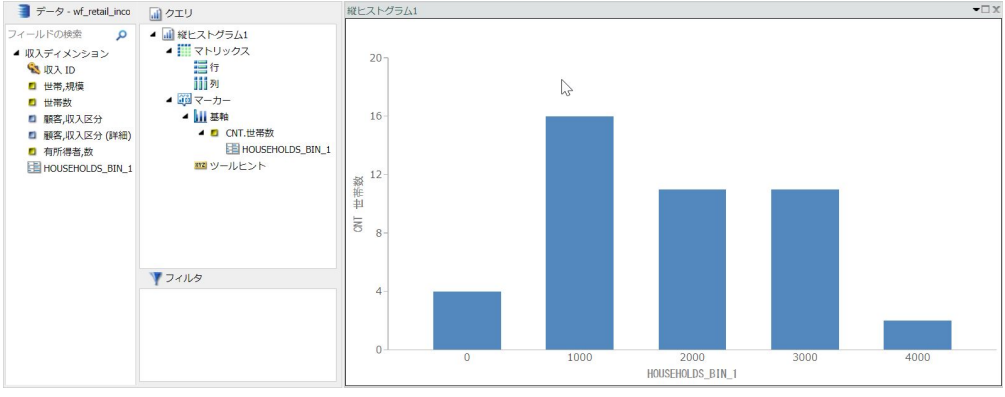


注意：この処理では、手動でヒストグラムを作成した場合と同じ結果が生成されますが、メジャーが [件数] (.CNT) フィールドに自動的に変換されます。また、これに従ってビンが作成され、X 軸上に配置されます。

手順　ビジュアライゼーションモードで自動ビニングを使用してヒストグラムを作成するには

1. InfoAssist をビジュアライゼーションモードで開きます。
2. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[変更] をクリックします。

3. [ビジュアルの選択] ダイアログボックスで、[ヒストグラム] をクリックします。
4. [データ] ウィンドウから、メジャーを [クエリ] ウィンドウの [メジャー] フィールドコンテナにドラッグします。
   下図のように、選択したメジャーを使用して、生成されたビンとともにヒストグラムが自動的に作成されます。



   必要に応じてビンを編集し、ビンの幅やフォーマットを変更することもできます。グラフモードでのヒストグラムの手動作成についての詳細は、173 ページの 「 ビニング 」 を参照してください。

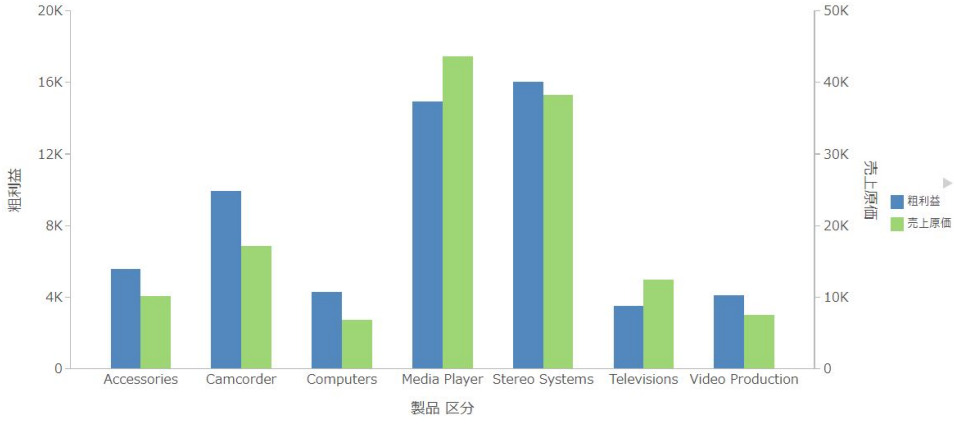
グラフフォーマットツールへのアクセス

データをグラフ化する目的は、意図したメッセージを対象者に伝えることです。InfoAssist のさまざまなグラフ機能を使用して、対象者のニーズに応え、メッセージを伝えることができます。たとえば、グラフの表示方法の変更、情報レイヤの追加、グラフ上のデータを識別するラベルのカスタマイズなどが可能です。

ライブプレビューの使用

[ライブプレビュー] デザインビューでは、ウィンドウ右側のキャンバスに、作成中のレポートまたはグラフのプレビューが表示されます。レポートまたはグラフに変更を加えると、その変更が [ライブプレビュー] デザインビューに反映されます。より詳細な外観を確認するには、作成中のレポートまたはグラフを実行します。

下図では、キャンバスの右側に凡例が表示されています。



[ライブプレビュー] デザインビューでは、グラフ要素 (例、凡例、軸ラベル、タイトル) を選択すると、境界エリアが実線でハイライト表示されます。

グラフ要素を選択すると、リボン上で使用可能なすべてのデザインオプションにアクセスすることができます。また、要素を右クリックして、よく使用するデザインオプションのコンテキストメニューを開くこともできます。InfoAssist では、リボンまたはメニューからデザインオプションを選択すると、そのオプションがグラフ要素に即座に適用され、結果に直接反映されます。

コンテキストメニューは、使用するデータソースのサンプルデータまたはライブデータのどちらで生成されたグラフでも使用可能です。

注意：コンテキストメニューは、InfoAssist Basic では使用できません。

ここでは、[ライブプレビュー] デザインビューでグラフをデザインする際に使用可能なグラフ要素、およびリボン上で使用可能なオプションについて説明します。

関連情報

- 68 ページの 「 クエリウィンドウでのコンテキストメニューオプションの使用 」
- 59 ページの 「 フィールドコンテナの使用 」

シリーズのフォーマット設定

シリーズは、グラフに含めるメジャーフィールドです。シリーズのフォーマットは、さまざまな方法で設定することができます。たとえば、シリーズ色の変更、シリーズへの傾向線の追加、シリーズマーカーの外観の変更などを行えます。

[シリーズ] タブおよび [フィールド] タブから、すべてのフォーマットオプションにアクセスすることができます。詳細は、45 ページの「 シリーズタブ 」 および 44 ページの「 フィールドタブ 」 を参照してください。

また、グラフのシリーズ要素を右クリックし、オプションのメニューを開くことで、よく使用する一連のオプションにアクセスすることもできます。

ヒント：メニューに表示されるオプションは、作成中のグラフのタイプによって異なります。たとえば、[グラフタイプ] オプションは、円グラフのメニューに表示されませんが、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフのメニューには表示されます。

関連するダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用してシリーズオプションにアクセスすると、ダイアログボックスが表示されます。シリーズのフォーマット設定でよく使用するダイアログボックスには、次のものがあります。

- シリーズフォーマット
- タイトルの編集
- 条件付きスタイルルール

これらのダイアログボックスを開く方法についての詳細は、190 ページの 「 シリーズプロパティの使用 」 の手順を参照してください。

シリーズフォーマットダイアログボックス

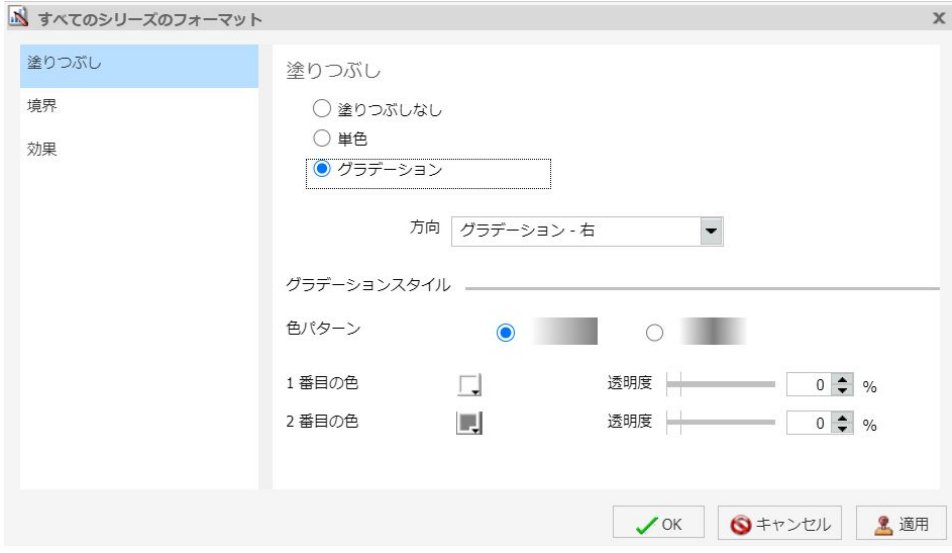
[シリーズフォーマット] ダイアログボックスには、グラフの各シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するオプションが表示されます。このダイアログボックスにアクセスするには、[シリーズ] タブの [スタイル] グループで [スタイル] をクリックします。

[シリーズフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 塗りつぶし
- 境界
- 効果 (HTML5 グラフのみ)

[塗りつぶし] タブでは、グラフシリーズの色を変更します。

下図は、[塗りつぶし] タブを示しています。

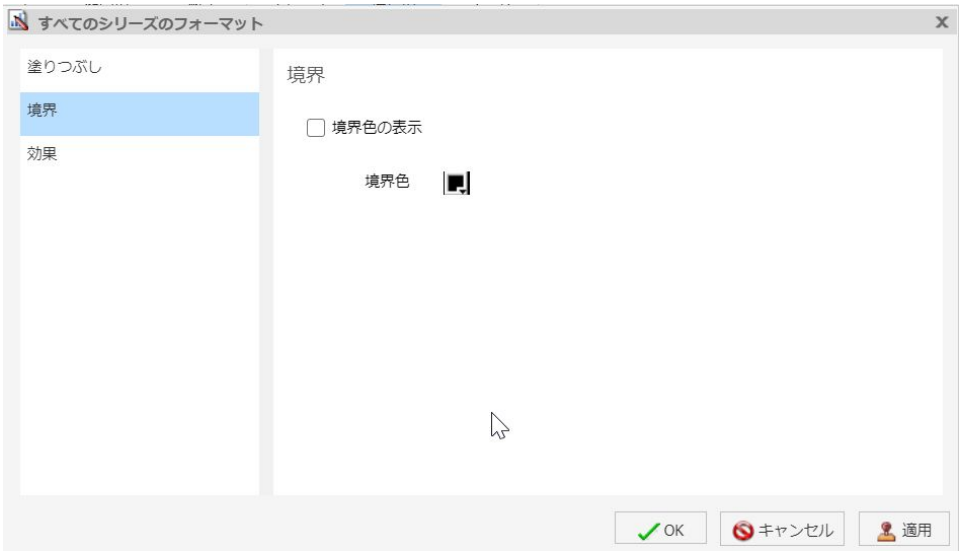


[塗りつぶし] タブには、次のオプションがあります。

- **塗りつぶしなし** このオプションを選択して、シリーズから色を削除します。
- **単色** このオプションを選択して、[色] および [透明度] オプションを表示します。
  - **色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、シリーズの色を選択します。
  - **透明度** スライダを移動して、透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。
- **グラデーション** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
  - **方向** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。たとえば、[グラデーション - 右]、[グラデーション - 左] などを選択します。

[境界] タブでは、グラフシリーズの境界を指定します。

下図は、[境界] タブを示しています。

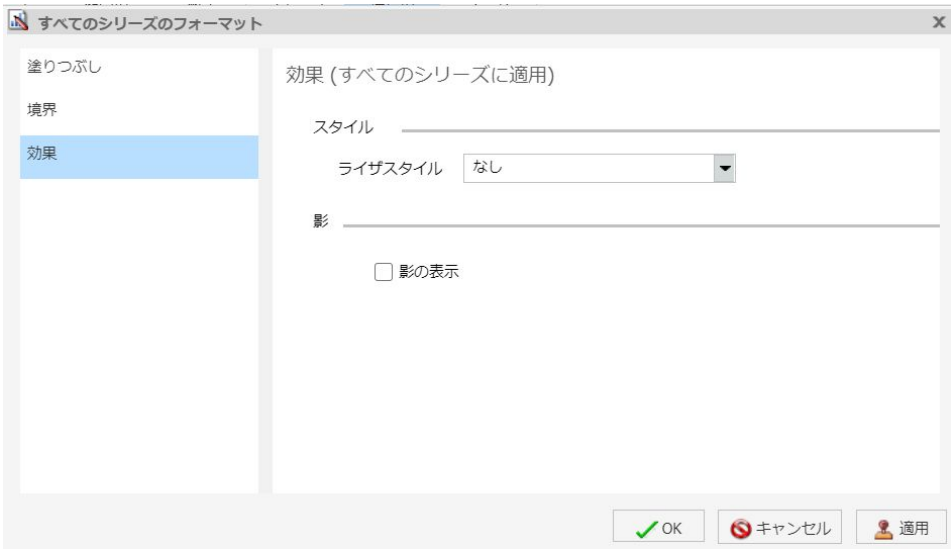


[境界] タブには、次のオプションがあります。

- **境界色の表示**　このオプションを選択して、各シリーズの周囲に境界を表示します。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、境界の色を選択します。

[効果] タブでは、HTML5 グラフに適用するスタイルおよび影のオプションを指定します。

下図は、[効果] タブを示しています。



注意：このタブは、HTML5 グラフを作成している場合にのみ表示されます。

[効果] タブには、次のオプションがあります。

- **ライザスタイル**　このドロップダウンリストを使用して、ライザスタイルを選択します。オプションには、[なし]、[斜角]、[円柱]、[暗く]、[暗く (反転)]、[明るく]、[明るく (反転)] があります。
- **影**　このオプションを選択して、影を付けます。

タイトルの編集ダイアログボックス

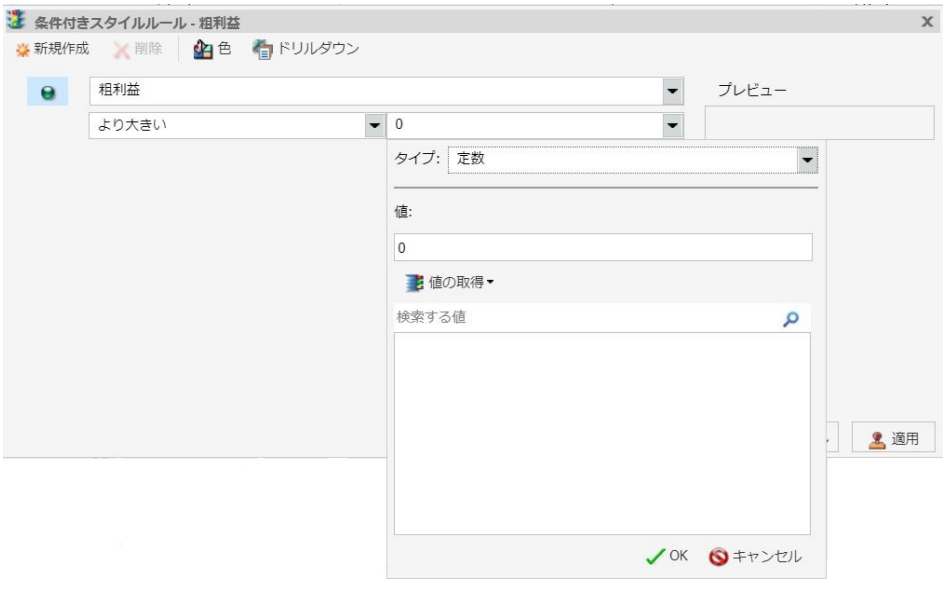
シリーズのタイトルを編集するには、キャンバス上でシリーズを右クリックし、[タイトルの変更] を選択します。[タイトルの編集] ダイアログボックスには、グラフのシリーズタイトルを入力するテキストボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、入力したタイトルがグラフに表示されます。

[ライブプレビュー] デザインビューの使用時に、タイトルにローカル変数 (&) を指定した場合、_FOC_NULL が表示され、ローカル変数が評価されなかったことが示されます。これは、値が実行時に評価されることを示します。

条件付きスタイルルールダイアログボックス

[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスでは、新しい条件付きスタイルを追加したり、既存の条件付きスタイルを変更したりして、選択したフィールドに条件付きスタイル色を適用することができます。

下図は、[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを示しています。



[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスには、次のテキストボックスが表示されます。

- **関係演算子**　このドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。たとえば、[等しい] を選択します。
- **タイプ/値**　このテキストボックス (ラベルなし) をクリックしてダイアログボックスを開き、次のオプションを表示します。
  - **タイプ**　ドロップダウンメニューから、[定数] または [フィールド] を選択します。[定数] を選択して、定数値を入力します。[フィールド] を選択して、データソース内のフィールドを一覧表示します。
  - **値**　選択したタイプに基づいて値を指定することができます。

    注意:完全な日付フォーマットのフィールドで条件付きスタイルを作成する場合は、[値] テキストボックスの横にカレンダーが表示されます。このアイコンを使用して、カレンダーコントロールから日付を選択することができます。

- **値の取得** このドロップダウンリストから、値オプションを選択します。たとえば、[すべて]、[最初] などを選択します。

[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスには、次のボタンが表示されます。

- **選択した条件** このアイコンをクリックして、設定対象の条件を選択します。
- **新規作成** 新しいルールを作成します。
- **削除** ルールを削除します。
- **色** [色] ダイアログボックスを開きます。
- **ドリルダウン** [ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、マルチドリルダウン機能を使用して、Web ページ (URL) またはレポートへのドリルダウンを指定することができます。次のオプションを指定します。
  - Web ページの URL またはレポートのパス
  - 代替コメント
  - ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ、ユーザ入力値)
  - 使用するパラメータ (名前、値)

  注意：InfoAssist では、出力先が [単一タブ] か [新規タブ] に設定されている場合は、ドリルダウンターゲットが [同一ウィンドウ] に表示されず、新しいウィンドウが生成されます。レポートが InfoAssist の外部で実行される場合は、[同一ウィンドウ] の設定が保持されます。

シリーズ要素のコンテキストメニュー

シリーズを右クリックすると、オプションを選択するメニューが表示されます。このメニューには、[フィールド] タブおよび [シリーズ] タブで選択可能なオプションが含まれています。

下表は、これらのメニューオプションの説明です。説明内のリンクを使用して、このマニュアルに記載された各メニューオプションのセクションに移動することもできます。

オプション	説明
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスを使用して、WHERE ステートメントを作成、変更することができます。WHERE ステートメントでは、表示するデータのみを選択し、不要なデータを除外します。 データにフィルタを設定する方法についての詳細は、40 ページの「 データタブ 」および 44 ページの「 フィールドタブ 」を参照してください。
ソート	シリーズを昇順または降順にソートすることができます。
表示	グラフで、選択したシリーズ (フィールド) の表示を制御します。[非表示] を選択すると、シリーズは非表示になります。デフォルト設定は [表示] で、シリーズが表示されます。 詳細は、196 ページの 「 シリーズのフィールドを非表示にするには 」 を参照してください。
タイトルの変更	選択したシリーズのタイトルを編集することができます。[タイトルの編集] ダイアログボックスの [タイトルを入力してください] テキストボックスに新しいタイトルを入力し、[OK] をクリックします。 詳細は、200 ページの 「 シリーズのタイトルを変更するには 」 を参照してください。
フォーマットの編集	フィールドのフォーマットを変更することができます。フィールドタイプ、表示オプション、フィールド長、および表示する小数点以下桁数の指定などが変更できます。詳細は、106 ページの「 フィールドフォーマットの変更 」を参照してください。 **注意：**フィールドフォーマットの変更はすべて、実行時のグラフ、およびデザイン時と実行時のビジュアライゼーションのツールヒントに反映されます。

オプション	説明
グラフタイプ	選択したシリーズのグラフタイプを、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ] のいずれかに変更します。[なし] (デフォルト) を選択すると、変更前に選択されていたグラフタイプに戻ります。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフにのみ適用されます。 詳細は、191 ページの 「 シリーズのグラフタイプを変更するには 」 を参照してください。
シリーズ色	[色] ダイアログボックスを使用して、選択したシリーズの色を指定することができます。詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。
スタイル詳細オプション	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開きます。詳細は、182 ページの 「 シリーズフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。
データラベル	選択したシリーズのデータラベル (値) の表示を制御します。デフォルト設定の [非表示] では、ラベルが非表示になり、[表示] に設定するとラベルが表示されます。 このオプションは、温度計グラフには適用されません。 詳細は、212 ページの 「 データラベルの表示と非表示を切り替えるには 」 を参照してください。
色モード	グラフのシリーズ (メジャーフィールド) への色の適用方法を制御します。設定の選択肢には、[シリーズ] (デフォルト設定) と [グループ] があります。たとえば、1 つのシリーズのみで構成される棒グラフについて考察します。[シリーズ] を選択すると、シリーズ内の棒すべてに同一色が適用されます。[グループ] を選択すると、各棒に異なる色が適用されます。 詳細は、201 ページの 「 色モードを制御するには 」 を参照してください。

オプション	説明
傾向線の追加	統計的傾向を示す線をグラフに追加します。 このオプションは、円、じょうご、3D、温度計、株価グラフには適用されません。 傾向線を含むグラフの例は、192 ページの 「 傾向線を追加するには 」 を参照してください。
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。
詳細	[集計関数]、[条件付きスタイル設定] があります。 [集計関数] オプションを選択して、レポートの数値メジャーフィールドに集計値を割り当てます。詳細は、196 ページの 「 メジャーデータの集計を表示するには 」 を参照してください。 [条件付きスタイル設定] オプションを選択すると、設定した条件に応じて出力の数値メジャーフィールドに割り当てる色を指定することができます。[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを使用して、条件と色を指定することができます。 詳細は、197 ページの 「 ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値メジャーフィールドに適用するには (定数の使用) 」 および 199 ページの 「 ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値メジャーフィールドに適用するには (フィールドの使用) 」 を参照してください。
削除	選択したシリーズをレポートから削除し、ライブプレビューを更新します。

シリーズプロパティの使用

ここでは、シリーズをカスタマイズする方法について説明します。

手順　シリーズを選択するには

1. グラフを作成します。
2. [シリーズ] タブの [選択] グループのドロップダウンメニューから、カスタマイズするシリーズを選択します。

   選択したシリーズが、ドロップダウンメニューのテキストボックスに表示されます。

手順　シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[シリーズ] タブの [スタイル] グループで、[スタイル] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　グラフ上でシリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択します。

   [シリーズフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. 塗りつぶしおよび境界オプションを使用して、シリーズのフォーマットを設定します。

   詳細は、182 ページの 「 シリーズフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。
4. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

   [シリーズフォーマット] ダイアログボックスが閉じます。指定したフォーマットが、シリーズの塗りつぶしおよび境界に適用されます。
5. [実行] をクリックしてレポートを生成します。

シリーズタブでのシリーズの強化

[プロパティ] グループには、グラフタイプの変更や傾向線の追加など、選択されたシリーズのグラフオプションを拡張するためのコマンドが表示されます。

手順　シリーズのグラフタイプを変更するには

1. 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのいずれかを作成します。
2. 次のいずれかの方法でシリーズのグラフタイプリストにアクセスします。
   - ❏ **リボン**　[シリーズ] タブの [プロパティ] グループで、[グラフ] ドロップダウンメニューを開きます。

- ❏ **コンテキストメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[グラフタイプ] を選択します。

3. シリーズに適用するグラフタイプを選択します。

   シリーズの新しいグラフタイプがグラフに表示されます。

手順 傾向線を追加するには

傾向線は、グラフまたはビジュアライゼーションのプロットエリアの上面に描画され、データポイントのパターンを表す線です。パターンを表す線を追加することで、統計的傾向を明らかにすることができます。具体的には、傾向線の傾きは、2 つの異なる x, y 座標値の減算と除算から求められ、x 値が増加したときの y 値の上下変動の割合を示す値です。グラフまたはビジュアライゼーションの傾きを特定した後、結果をさらに深く予測し、データに内在する意味をさらに探求することができます。

注意：選択した傾向線の数式は、グラフモードでのみ表示することができます。ビジュアライゼーションモードでは使用できません。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で傾向線タイプのメニューにアクセスします。

   - ❏ **リボン** [シリーズ] タブの [プロパティ] グループで、[傾向線] ドロップダウンメニューを開きます。

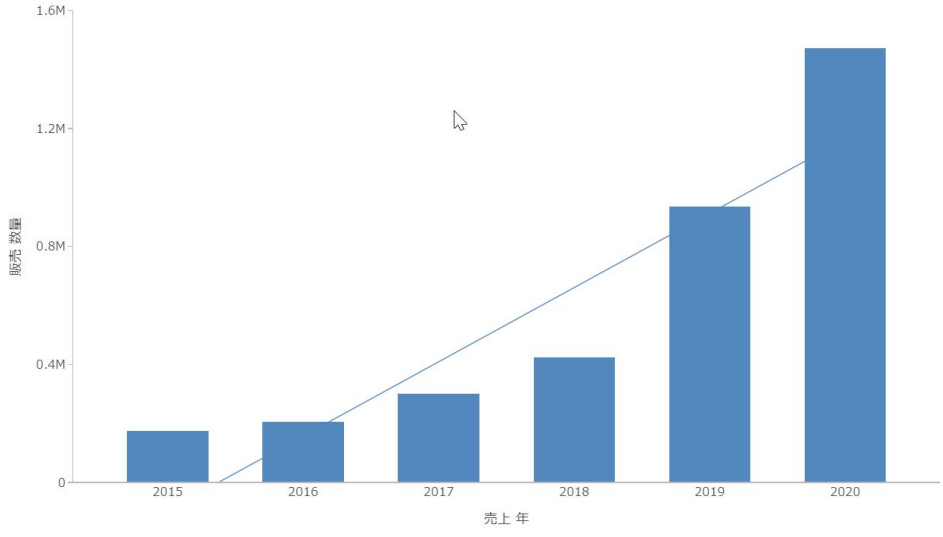
   - ❏ **コンテキストメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[傾向線の追加] を選択します。

3. 表示する傾向線のタイプを選択します。

   選択した傾向線がキャンバスに表示されます。

4. 必要に応じて、[シリーズ] タブの [プロパティ] グループで [数式] をクリックし、選択した傾向線オプションの数式を表示します。

下図は、[線形] オプションを使用して表示した傾向線を示しています。



シリーズタブでのグラフのフォーマット設定

[シリーズ] タブには、グラフのフォーマットを設定するためのオプションがあります。

手順　折れ線グラフにスムージング線効果を適用するには

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] タブの [折れ線] グループで、[スムース] をクリックします。

   シリーズにスムージング線効果が適用されます。

手順　マーカー間のシリーズ線を非表示にするには

デフォルト設定では、マーカー間のシリーズ線が表示されます。

マーカー間のシリーズ線を非表示にするには、次の手順を実行します。

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] タブの [選択] グループのドロップダウンメニューから、接続線を非表示にするシリーズを選択します。

4. [折れ線] グループで、[接続線] をクリックします。

   マーカー間のシリーズ線が非表示になります。

   シリーズ線を再表示するには、[接続線] を再度クリックします。

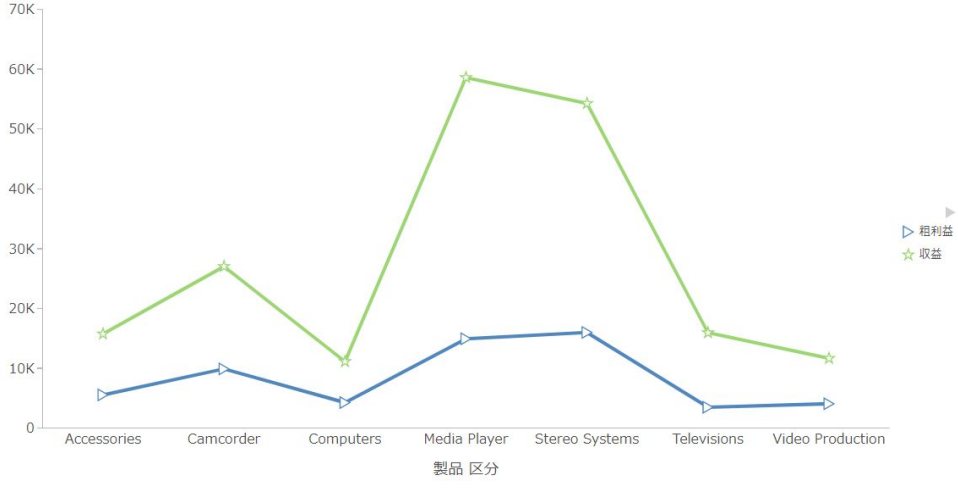
手順　マーカーの外観を変更するには

マーカーは、折れ線グラフ上のデータ点の表示に使用されます。また、グラフ上のデータを識別するために凡例でも使用されます。形状の異なるマーカーを使用することで、各シリーズが区別しやすくなります。

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] タブの [折れ線] グループで、[マーカ] ドロップダウンメニューを開きます。
4. [マーカ] ドロップダウンメニューから、マーカー形状を選択します。たとえば、[ダイヤモンド]、[砂時計] などを選択します。

   選択した形状がマーカーに適用されます。

   下図では、[粗利益] に三角マーカー、[収益] に星マーカーが使用されています。



手順　円項目を切り離すには

1. 円グラフを作成します。

2. [シリーズ] タブの [選択] グループのドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。
   - ❏ [すべてのシリーズ] を選択すると、すべての円項目が円の中心から切り離されます。
   - ❏ 特定のシリーズを選択すると、その円項目のみが円の中心から切り離されます。
3. [円] グループで、[展開] をクリックします。

   円項目が切り離されます。

手順　円項目を非表示にするには

1. 円グラフを作成します。
2. [シリーズ] タブの [選択] グループのドロップダウンメニューから、非表示にするシリーズを選択します。[円] グループで、[非表示] をクリックします。

   円項目が非表示になります。

手順　シリーズの値をフィルタするには

1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを選択します。
3. 次のいずれかの方法で [フィルタの作成] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フィールド] タブの [フィルタ] グループで、[フィルタ] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　シリーズを右クリックし、[フィルタ] を選択します。

   [フィルタの作成] ダイアログボックスが開きます。
4. [値] および [プロンプト] ドロップダウンメニューから値を選択します。
5. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

   シリーズの値がフィルタされます。

手順　シリーズのフィールドをソートするには

1. グラフを作成します。
2. シリーズを選択します。

3. 次のいずれかの方法でシリーズをソートします。
   - **リボン** [フィールド] タブの [ソート] グループで、[昇順] をクリックしてシリーズの値を昇順 (小さい値から大きい値へ) でソートするか、[降順] をクリックしてシリーズの値を降順 (大きい値から小さい値へ) でソートします。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[ソート]、[ソート] を順に選択します。[昇順] を選択してシリーズの値を昇順 (小さい値から大きい値へ) でソートするか、[降順] を選択してシリーズの値を降順 (大きい値から小さい値へ) でソートします。右クリックメニューから [ソート]、[制限] を順に選択して値のリストを開き、ソートグループに表示する値の個数を制限します。

   指定した方法でグラフのシリーズがソートされます。

手順 シリーズのフィールドを非表示にするには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法でシリーズのフィールドを非表示にします。
   - **リボン** [クエリ] ウィンドウでフィールドを選択するか、グラフ上でフィールドを右クリックします。[フィールド] タブの [表示] グループで、[フィールドの非表示] をクリックします。シリーズを再表示するには、[フィールドの非表示] を再度クリックします。
   - **コンテキストメニュー** [クエリ] ウィンドウまたはグラフ上でシリーズを右クリックし、[表示]、[非表示] を順に選択します。シリーズを再表示するには、同一のシリーズを右クリックし、[表示]、[表示] を順に選択します。

   選択したフィールドが非表示になります。

手順 メジャーデータの集計を表示するには

数値データは、さまざまな集計値を使用して表示することができます。

詳細は、437 ページの 「 グラフのミッシングデータ 」 を参照してください。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で集計オプションのリストを開きます。
   - **リボン** [フィールド] タブの [表示] グループで、[集計] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー** シリーズを右クリックし、[詳細]、[集計関数] を順に選択します。

3. 集計関数を選択します。

   選択した集計関数がシリーズに適用されます。

   注意：[クエリ] ウィンドウで [メジャー (SUM)] フィールドコンテナを [SUM] から [PRINT]、[件数]、[リスト] のいずれかに変更すると、割り当て済みの集計タイプ値はすべて上書きされます。

手順　ディメンション (数値以外) データの集計を表示するには

グラフのディメンション (数値以外) フィールドでは、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント] などさまざまな集計を適用することができます。[件数] 集計では、フィールド値のインスタンスの個数が計算されます。[件数 (種類)] は、フィールド内の一意の値の数を示します。[件数に対するパーセント] は、存在するインスタンス数に基づいて、そのフィールドのパーセントを計算します。ディメンション (数値以外) フィールドを [縦軸] フィールドコンテナに配置すると、そのフィールドが [件数] (CNT) フィールドに変換されます。必要に応じてこの集計を [件数 (種類] または [件数に対するパーセント] に変更することができます。

1. グラフを作成します。
2. ディメンション (数値以外) フィールドを [縦軸] フィールドコンテナに配置して、このフィールドを [件数] (CNT) フィールドに変換します。
3. 集計を適用するシリーズを選択します。
4. 次のいずれかの方法で集計オプションのリストを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フィールド] タブの [表示] グループで、[集計] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　シリーズを右クリックし、[詳細]、[集計関数] を順に選択します。
5. 集計関数を選択します。

   選択した集計関数がシリーズに適用されます。

手順　ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値メジャーフィールドに適用するには (定数の使用)

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[クエリ] ウィンドウでフィールドを選択し、[フィールド] タブの [表示] グループで [条件スタイル] をクリックします。

- ❏ **コンテキストメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[詳細]、[条件付きスタイル設定] を順に選択します。

[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスが開きます。186 ページの 「 条件付きスタイルルールダイアログボックス 」 を参照してください。

3. フィールド名の下の関係演算子ドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。たとえば、[等しい] を選択します。
4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、[タイプ] ドロップダウンメニューの下向き矢印をクリックします。

   [タイプ] ダイアログボックスが開きます。
5. [タイプ] ダイアログボックスで、[定数] を選択します。
6. [値] テキストボックスに値を入力するか、次の操作を実行します。
   a. [値の取得] ドロップダウンメニューから、[すべて]、[最初]、[最後]、[最小]、[最大]、[ファイルから] のいずれかを選択します。選択した値が [値の取得] テキストボックスに表示されます。
   b. [値の取得] テキストボックスで値を選択します。選択した値が [値] テキストボックスに表示されます。
7. [OK] をクリックします。

   選択した値が、関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスに表示されます。
8. [スタイル] ボタンをクリックした後、[文字色] ボタン、または [背景色] ボタンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。
9. 色を選択します。
10. [OK] をクリックします。

    選択した色が [プレビュー] ボックスに表示されます。
11. [ドリルダウン] ボタンをクリックします。

    [ドリルダウン] ダイアログボックスが開きます。
12. [ドリルダウン] ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

- ❏ レポートまたは Web ページへのドリルダウン
- ❏ Web ページの URL

- 代替コメント
- ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ)
- 使用するパラメータ (名前、値)

13. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
14. 別のフィールドに条件付きスタイルルールを設定するには、[新規作成] ボタンをクリックします。

手順　ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値メジャーフィールドに適用するには (フィールドの使用)

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。
   - **リボン**　[クエリ] ウィンドウでフィールドを選択し、[フィールド] タブの [表示] グループで [条件スタイル] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー**　グラフ上でシリーズを右クリックし、[詳細]、[条件付きスタイル設定] を順に選択します。

   [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスが開きます。186 ページの 「 条件付きスタイルルールダイアログボックス 」 を参照してください。
3. フィールド名の下の関係演算子ドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。たとえば、[より大きい] を選択します。
4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、タイプドロップダウンメニューの矢印をクリックします。

   [タイプ] ダイアログボックスが開きます。
5. [タイプ] ダイアログボックスで、[フィールド] を選択します。

   [タイプ] ダイアログボックスには、データの [ディメンション] および [メジャー/プロパティ] が表示されます。次の方法でデータを表示することができます。
   - フィールドをビジネス順に表示する。[タイトル]、[説明]、[名前]、[エイリアス] オプションのいずれかを選択します。
   - フィールドをソート可能なリスト形式で表示する。[名前]、[タイトル]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[説明]、[参照] オプションのいずれかを選択します。

- ❏ データの階層構造を表示する。[タイトル]、[説明]、[名前]、[エイリアス] オプションのいずれかを選択します。

6. フィールドを選択します。
7. [OK] をクリックします。

   選択したフィールドが、関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスに表示されます。
8. [スタイル] ボタンをクリックした後、[色] ボタンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。
9. 色を選択します。

   選択した色が [プレビュー] ボックスに表示されます。
10. [OK] をクリックします。
11. [ドリルダウン] ボタンをクリックします。

    [ドリルダウン] ダイアログボックスが開きます。
12. [ドリルダウン] ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

    - ❏ レポートまたは Web ページへのドリルダウン
    - ❏ Web ページの URL
    - ❏ 代替コメント
    - ❏ ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ)
    - ❏ 使用するパラメータ (名前、値)
13. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
14. 別のフィールドに条件付きスタイルルールを設定するには、[新規作成] ボタンをクリックします。

手順　シリーズのタイトルを変更するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [タイトルの変更] ダイアログボックスを開きます。

   - ❏ **コンテキストメニュー**　グラフ上でシリーズを右クリックし、[タイトルの変更] を選択します。

❏ **[クエリ] ウィンドウ** シリーズを右クリックし、[タイトルの変更] を選択します。

[タイトルの編集] ダイアログボックスが開きます。

3. [タイトルを入力してください] テキストボックスに、シリーズの新しい名前を入力します。
4. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

新しいタイトルがシリーズに適用されます。

手順 色モードを制御するには

単一シリーズのグラフを作成すると、すべてのシリーズグループが同一色で表示されます。グループごとに異なる色を使用するには、色モードを [グループ] に設定します。

1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを右クリックし、[色モード]、[グループ] を順に選択します。

シリーズの各グループにそれぞれ異なる色が適用されます。シリーズを同一色で表示するデフォルト設定に戻すには、シリーズを右クリックし、[色モード]、[シリーズ] を順に選択します。

3. [実行] をクリックしてレポートを生成します。

手順 シリーズを削除するには

1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを右クリックし、[削除] を選択します。

シリーズが削除されます。

データラベルのフォーマット設定

データラベルを使用すると、グラフ上の重要なデータポイントが強調されます。正確な数値を識別する役割もあります。データラベルをさまざまな方法でカスタマイズすることで、グラフ上のデータラベルをより明確に表示することができます。たとえば、データラベルの位置、角度、色、サイズを変更します。

関連するダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用してデータラベルオプションにアクセスすると、ダイアログボックスが表示されます。データラベルのフォーマット設定でよく使用するダイアログボックスには、次のものがあります。

- ラベルフォーマット
- スタイル
- 線スタイル

これらのダイアログボックスを開く方法についての詳細は、212 ページの 「 データラベルプロパティの使用 」 の手順を参照してください。

ラベルフォーマットダイアログボックス

[ラベルフォーマット] ダイアログボックスには、データラベルを編集するオプションが表示されます。[ラベルフォーマット] ダイアログボックスに表示される各種オプションは、使用するグラフタイプに応じて異なります。棒グラフ、円グラフ、面グラフでは、同一のタブが表示されます。

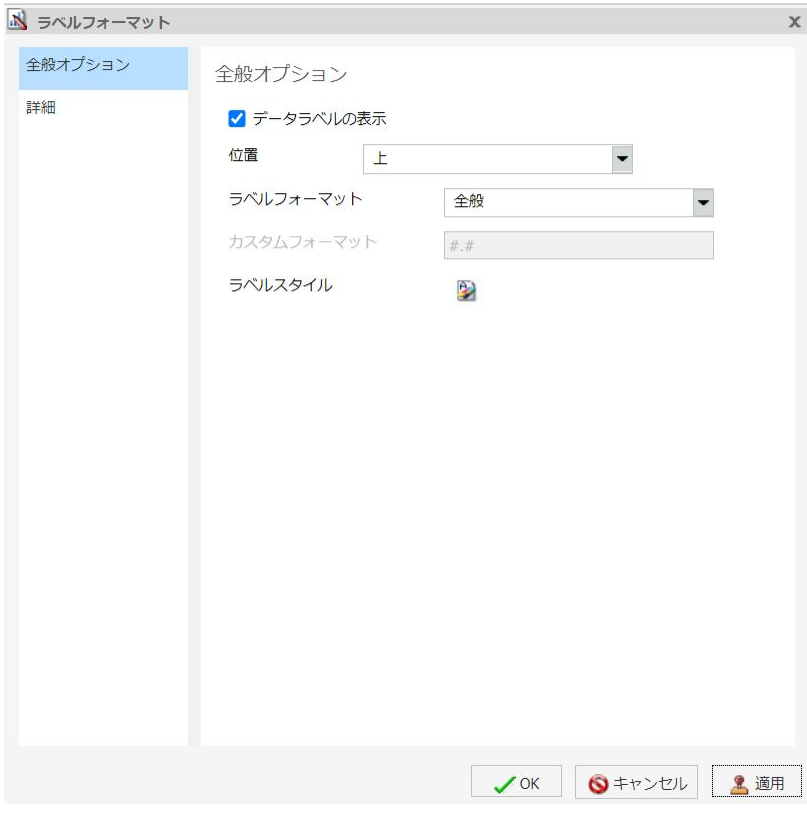
[ラベルフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般オプション
- 詳細
- 円タイトル (円グラフのみ)
- 円ラベル (円グラフのみ)
- じょうごラベル (じょうごグラフ、ピラミッドグラフのみ)

全般オプションタブ

[全般オプション] タブでは、データラベルをグラフに追加したり、データラベルの位置、角度、ラジアスを設定したりします。

下図は、[全般オプション] タブを示しています。



[全般オプション] タブには、次のオプションがあります。

- **データラベルの表示**　このオプションを選択して、グラフ上にデータラベルを表示します。このオプションの選択を解除すると、データラベルが非表示になります。
- **位置**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、データラベルを表示する位置を指定します。次のオプションがあります。
  - 上
  - 上端の下
  - 左右中央揃え
  - 下
  - 中央背面

- **ラベルフォーマット**　このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。たとえば、[パターンの使用]、[通貨 - 標準]、[日付 (完全)] などのオプションがあります。
- **カスタムフォーマット**　データラベルの標準数値フォーマットパターンを入力します。このオプションは、[ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューから [パターンの使用] を選択した場合にのみ使用可能になります。

  下表は、カスタムフォーマットで使用可能な文字の説明です。

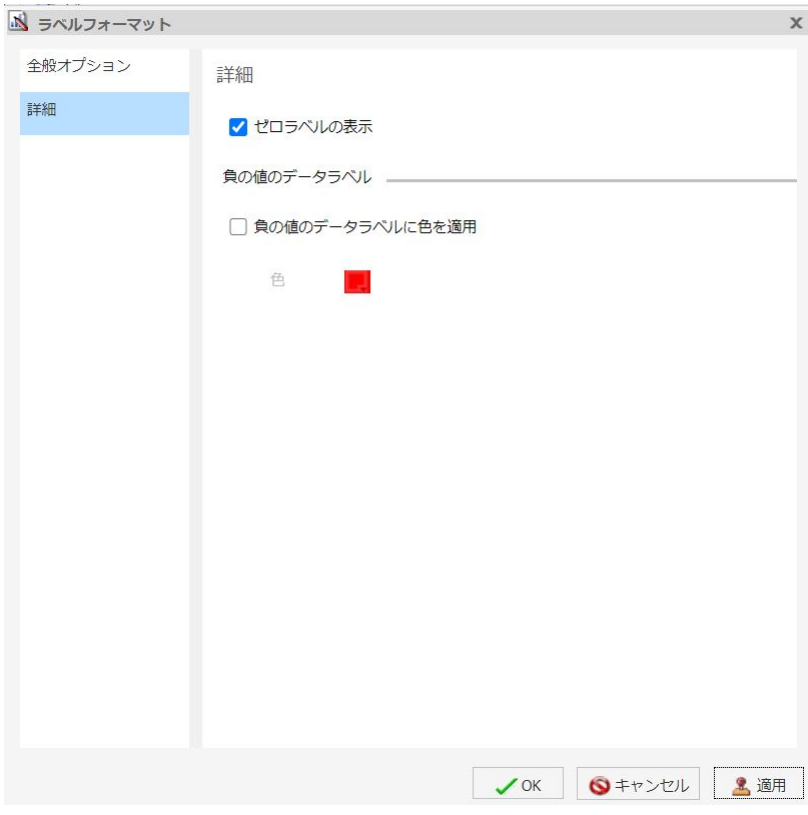
文字	説明
#	桁を表します。
0 (ゼロ)	非表示にします。
. (ピリオド)	小数点の区切り文字に使用するプレースホルダです。
, (カンマ)	位の区切り文字に使用するプレースホルダです。
; (セミコロン)	複数のフォーマットを区別します。
- (ダッシュ)	デフォルトの負の接頭語です。
% (パーセント)	100 で除算してパーセントで表示します。
x	接頭語または接尾語にその他の文字を使用できることを指定します。
‘ (アポストロフィ)	接頭語または接尾語に使用する特殊文字をこの引用符で囲みます。

- **ラベルスタイル**　このアイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。詳細は、210 ページの 「 スタイルダイアログボックス 」 を参照してください。
- **累計の表示**　このオプションを選択して、データテキストラベルに累計を表示します。このオプションの選択を解除すると、データテキストラベルに個別の集計が表示されます。このオプションは、積み上げグラフで使用できます。
- **積み上げ合計の表示**　このオプションを選択して、積み上げ合計を表示します。積み上げ合計を表示するには、[データ位置] を [中央] に設定する必要があります。このオプションは、積み上げグラフで使用できます。

詳細タブ

[詳細] タブでは、データラベルの追加プロパティを変更します。

下図は、[詳細] タブを示しています。



[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **ゼロラベルの表示**　このオプションを選択して、グラフに 0 (ゼロ) 値を表示します。このオプションの選択を解除すると、0 (ゼロ) を除くデータ値がすべて表示されます。
- **負の値のデータラベルに色を適用**　このオプションを選択して、正の値のデータラベルとは別に、負の値のデータラベルにスタイルを設定することができます。
- **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、負の値の色を選択します。

円ラベルタブ

[円ラベル] タブでは、円データラベルをカスタマイズします。

下図は、[円ラベル] タブを示しています。



[円ラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの位置**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、円グラフのフィーラ線およびラベルの表示を制御します。
- **ラベルの表示形式**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、円グラフのフィーラ線の横に表示するラベルの表示形式を制御します。
- **ラベルフォーマット**　このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット**　定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、下表を参照してください。
- **ラベルスタイル**　このボタンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

リングラベル　これらのオプションは、リンググラフのタブに表示されます。

- **リングラベルの表示**　このオプションを選択して、リンググラフでの合計ラベルの表示を制御します。
- **ラベルフォーマット**　このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット**　データラベルの標準数値フォーマットパターンを入力します。このオプションは、[ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューから [パターンの使用] を選択した場合にのみ使用可能になります。
- **ラベルスタイル**　このボタンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

フィーラ線　円グラフラベルのフィーラ線のスタイル設定オプションが表示されます。

- **線スタイル**　このボタンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、フィーラ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

円タイトルタブ

[円タイトル] タブでは、円タイトルを作成し、スタイルを設定します。

下図は、[円タイトル] ダイアログボックスを示しています。



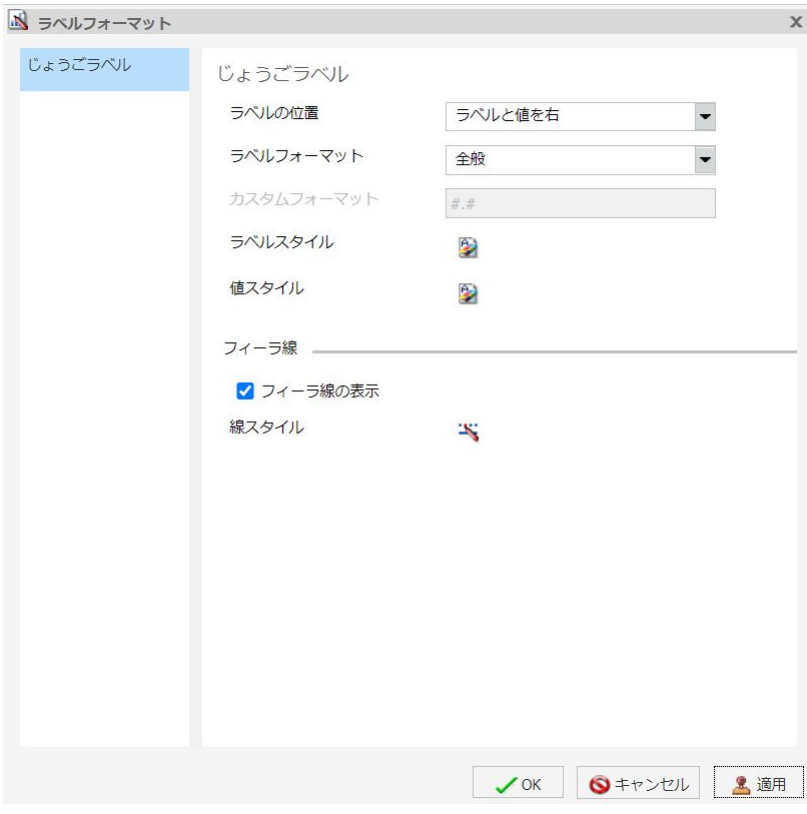
[円タイトル] タブには、次のオプションがあります。

- **円タイトルの表示**　このオプションの選択を解除すると、円タイトルが非表示になります。このオプションを選択すると、円タイトルが表示されます。これが、デフォルト設定のオプションです。
- **タイトルスタイル**　このアイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、円タイトルテキストのスタイルを設定することができます。

じょうごラベルタブ

[じょうごラベル] タブでは、じょうごグラフまたはピラミッドグラフのラベルをカスタマイズします。

下図は、[じょうごラベル] タブを示しています。



[じょうごラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの位置**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、じょうごグラフのフィーラ線およびラベルの表示を制御します。
- **ラベルフォーマット**　このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット**　定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、前のセクションの表を参照してください。
- **ラベルスタイル**　このボタンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

- **値スタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、値のスタイルを設定することができます。

フィーラ線

- **フィーラ線の表示**　(デフォルト) このオプションの選択を解除すると、フィーラ線が非表示になります。このオプションを選択すると、フィーラ線が表示されます。
- **線スタイル**　このボタンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、フィーラ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

  注意：一部のスタイルオプション (例、[円タイトルの表示]、[フィーラ線の表示]) はデフォルト設定で有効になっていますが、グラフに適用されるスタイルシートによっては、これらのデフォルト設定を上書きする別の設定が含まれている場合があります。

スタイルダイアログボックス

[スタイル] ダイアログボックスには、データラベルのスタイルを設定するオプションが表示されます。

下図は、[スタイル] ダイアログボックスを示しています。



[スタイル] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- **フォント**　ドロップダウンメニューを使用して、フォントを変更します。
- **フォントサイズ**　ドロップダウンメニューを使用して、フォントサイズの数値を変更します。
- **フォントスタイル**　該当するボタン (太字、斜体、下線) をクリックして、選択したテキストのスタイルを設定します。

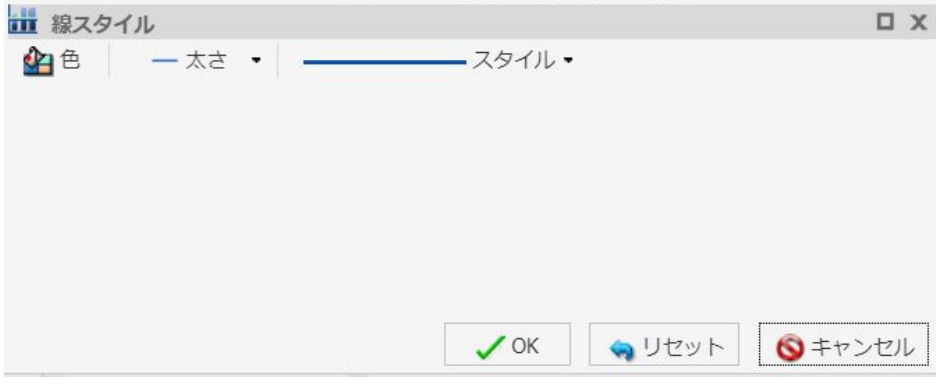
- **テキスト配置**　該当するボタン (左揃え、中央揃え、右揃え) をクリックして、選択したテキストの位置を揃えます。
- **文字色**　このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択します。
- **スタイルのリセット**　このボタンをクリックして、設定をリセットします。

  注意：スタイルのリセットは、[スタイル] ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK] をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] コマンドを使用します。

線スタイルダイアログボックス

[線スタイル] ダイアログボックスには、グラフ上の線のスタイルを設定するオプションが表示されます。

下図は、[線スタイル] ダイアログボックスを示しています。



[線スタイル] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- **色**　このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、線の色を選択します。
- **太さ**　このボタンをクリックしてドロップダウンメニューを開き、線の太さオプションを選択します。
- **スタイル**　このボタンをクリックしてドロップダウンメニューを開き、線のスタイルオプションを選択します。
- **リセット**　このボタンをクリックして線をリセットし、デフォルトオプションに戻します。

データラベル要素のコンテキストメニュー

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのデータラベルを右クリックすると、メニューに次のオプションが表示されます。

- **データラベル**　このオプションを選択して、[表示] と [非表示] を切り替えます。
- **ラベル詳細オプション**　このオプションを選択して、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

このコンテキストメニューには、[シリーズ] タブで選択可能なオプションが含まれています。

データラベルプロパティの使用

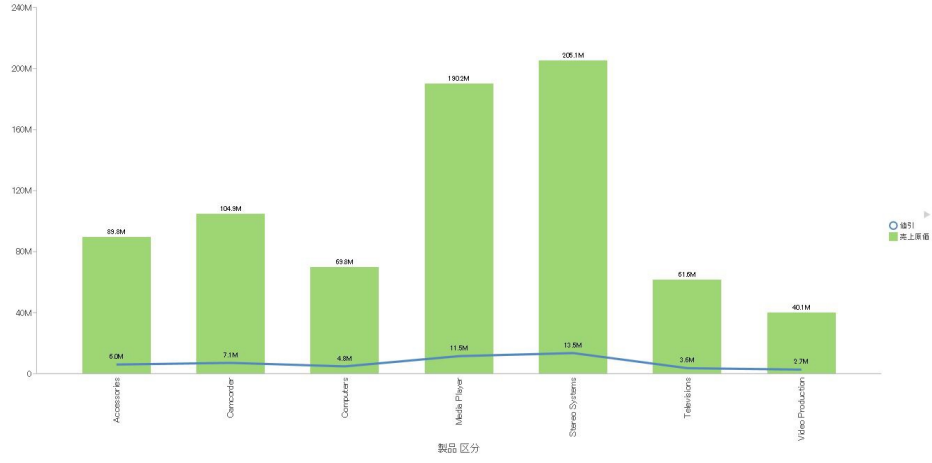
ここでは、データラベルをカスタマイズする方法について説明します。

手順　データラベルの表示と非表示を切り替えるには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、データラベルを表示するオプションにアクセスし、設定します。
   - **リボン**　[シリーズ] タブの [プロパティ] グループで、[データラベル] ドロップダウンメニューを開き、[データラベル詳細オプション] を選択します。[ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開きます。[全般オプション] タブで [データラベルの表示] のチェックをオンにし、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。このダイアログボックスを使用して、データラベルのフォーマットの指定とスタイルの設定を行えます。詳細は、202 ページの 「ラベルフォーマットダイアログボックス」 を参照してください。データラベルを非表示にするには、このオプションの選択を解除します。
   - **コンテキストメニュー**　グラフ上でシリーズを右クリックし、[データラベル]、[表示] を順に選択します。データラベルを非表示にするには、グラフ上でシリーズを右クリックし、[データラベル]、[非表示] を順に選択します。

   指定したフォーマットおよびスタイルがデータラベルに適用されます。

下図は、データラベルが表示されたグラフを示しています。



手順　データラベルの位置を変更するには

1. [シリーズ] タブの [プロパティ] グループで、[データラベル] ドロップダウンメニューを開きます。
2. メニューから、データラベルの位置を選択します。

   選択した位置にデータラベルが表示されます。

凡例のフォーマット設定

凡例には、グラフのデータを正確に解釈するために必要な情報が含まれています。デフォルト設定では、グラフには、メジャーフィールドが 1 つの場合は縦軸タイトル、メジャーフィールドが複数の場合は凡例が、それぞれ表示されます。

凡例フォーマットダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用して凡例オプションにアクセスすると、[凡例フォーマット] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 を参照してください。

[凡例フォーマット] ダイアログボックスには、グラフまたはビジュアライゼーションの凡例のフォーマットを設定するオプションがあります。このダイアログボックスには、次のタブが表示されます。

- ❏ 凡例オプション

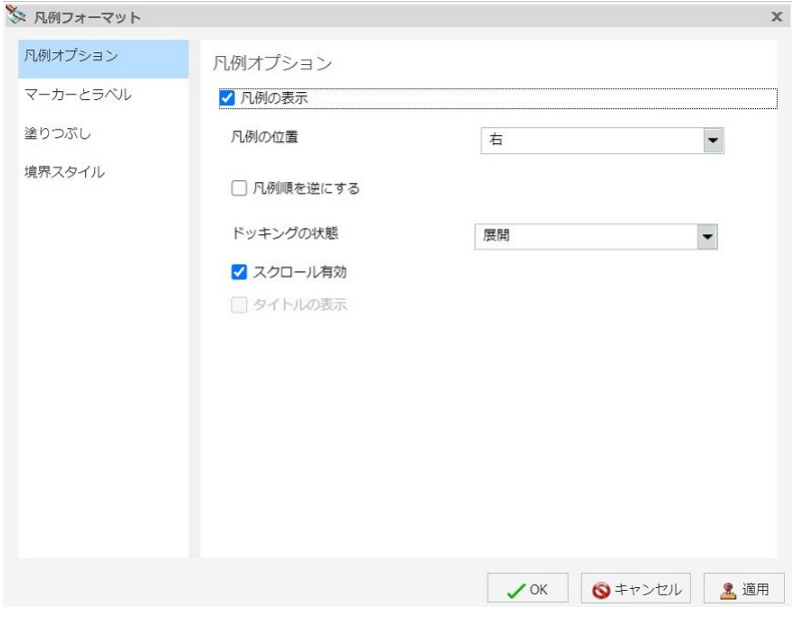
- マーカーとラベル
- 塗りつぶし
- 境界スタイル

注意：[塗りつぶし]、[境界スタイル] タブは、InfoAssist Basic では使用できません。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

[凡例オプション] タブでは、グラフまたはビジュアライゼーションの凡例の外観をカスタマイズします。

下図は、[凡例オプション] タブを示しています。



[凡例オプション] タブには、次のオプションがあります。

- **凡例の表示**　このオプションを選択すると、グラフまたはビジュアライゼーションに凡例が表示されます。このオプションの選択を解除して、グラフまたはビジュアライゼーションの凡例を非表示にします。
- **凡例の位置**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、凡例の位置を指定します。たとえば、[上]、[左] などを選択します。

- **凡例順を逆にする**　このオプションを選択して、表示する凡例の順序を逆にします。このオプションの選択を解除して、凡例を通常の順序で表示します。
- **ドッキングの状態**　このオプションで凡例のドッキング方法を指定します。デフォルト設定では [展開] が選択されていますが、[最小化] に設定することもできます。最小化すると、凡例が展開可能であることを示す灰色の矢印が表示されます。このオプションを選択すると、凡例には凡例ラベルのみが色分け表示され、分類テキストラベルが非表示になるため、グラフ領域が広がります。このオプションは、凡例の各項目のテキストラベルが長く、ラベルの表示を省略したい場合に特に役立ちます。このオプションを [なし] に設定すると、凡例を展開することも、最小化することもできなくなり、灰色の矢印も表示されません。
- **スクロール有効**　このチェックをオンにすると、凡例内でのスクロールが可能になります。この機能は、凡例内にエントリが多数表示される場合に特に役立ちます。デフォルト設定で、このチェックはオンになっています。凡例のスクロールを無効にするには、[スクロール有効] のチェックをオフにします。スクロールバーは表示されず、すべての凡例エントリが複数の列に表示されます。
- **タイトルの表示**　このチェックをオンにすると、凡例タイトルが表示されます。

[マーカーとラベル] タブでは、凡例のマーカーとラベルの外観をカスタマイズします。

[マーカーとラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。
- **マーカーの位置**　このドロップダウンメニューからオプションを選択して、テキストの位置を基準として凡例マーカーの相対的な位置を設定します。たとえば、[テキストの左]、[テキストの上] などを選択します。

[塗りつぶし] タブでは、凡例領域の色を変更します。詳細は、182 ページの 「 シリーズフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

[境界スタイル] タブでは、凡例の周囲に境界を配置します。詳細は、182 ページの 「 シリーズフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

[境界スタイル] タブには、次のオプションがあります。

- **境界の表示**　このオプションを選択して、凡例の周囲に境界を配置します。
- **色**　[境界の表示] オプションを選択した場合に、このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、境界の色を選択することができます。

凡例要素のコンテキストメニュー

グラフ上で凡例を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。このメニューには、[フォーマット] タブで選択可能なオプションが含まれています。

下表は、これらのコンテキストメニューオプションの説明です。説明内のリンクを使用して、このマニュアルに記載された各メニューオプションのセクションに移動することもできます。

オプション	説明
凡例の表示	凡例の表示を制御します。デフォルト設定では、凡例は表示されます。このオプションの選択を解除すると、凡例が非表示になります。詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 を参照してください。 非表示にした凡例を再表示するには、背景のコンテキストメニューオプションを使用します。
凡例の位置	グラフの凡例の配置を制御します。詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 を参照してください。
凡例領域色	[色] ダイアログボックスを使用して、凡例領域の背景色を指定することができます。 このオプションは、凡例周囲のエリアを右クリックした場合にのみ有効になります。詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 を参照してください。
凡例の境界色	[色] ダイアログボックスを使用して、凡例の境界色を指定することができます。 このオプションは、凡例周囲のエリアを右クリックした場合にのみ有効になります。詳細は、216 ページの 「 凡例プロパティの使用 」 を参照してください。
凡例詳細オプション	[凡例フォーマット] ダイアログボックスを開きます。

凡例プロパティの使用

ここでは、凡例をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

手順　凡例を非表示にするには

1. 複数のメジャーフィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [凡例の表示] オプションの選択を解除します。
   - **リボン**　[フォーマット] タブの [ラベル] グループで [凡例] をクリックし、[凡例の表示] オプションを選択して、このオプションの選択を解除します。
   - **コンテキストメニュー**　凡例を右クリックし、[凡例の表示] オプションの選択を解除します。

   凡例が非表示になります。

手順　凡例の位置を指定するには

1. 複数のメジャーフィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法でラベル位置オプションのメニューを開きます。
   - **リボン**　[フォーマット] タブの [ラベル] グループで [凡例] をクリックし、[凡例の位置] を選択します。
   - **コンテキストメニュー**　凡例を右クリックし、[凡例の位置] を選択します。
3. 凡例の位置を選択します。たとえば、[自動]、[右] などを選択します。

手順　凡例の境界色を指定するには

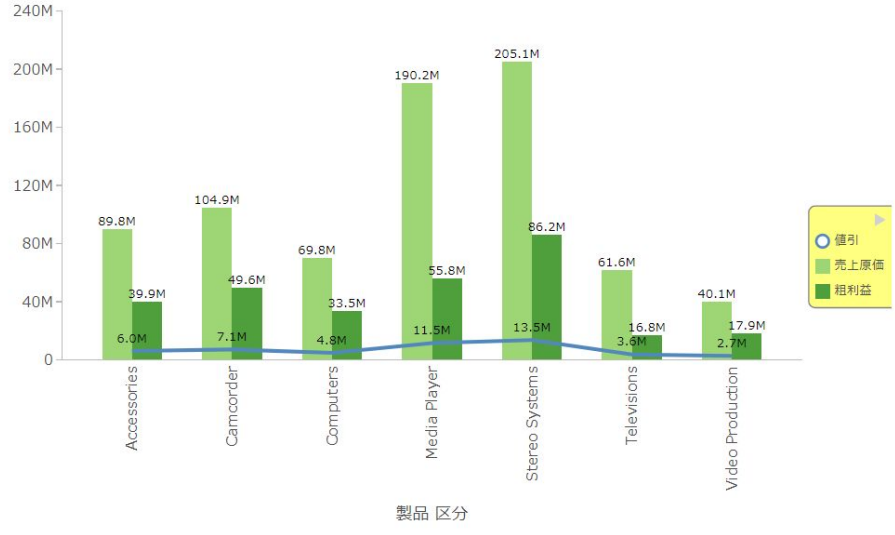
1. 複数のメジャーフィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [凡例フォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - **リボン**　[フォーマット] タブの [ラベル] グループで [凡例] をクリックし、[凡例詳細オプション] を選択します。
   - **コンテキストメニュー**　凡例を右クリックし、[凡例詳細オプション] を選択します。

   [凡例フォーマット] ダイアログボックスを開きます。詳細は、213 ページの 「凡例フォーマットダイアログボックス」 を参照してください。
3. [境界スタイル] タブで、[境界の表示] オプションを選択します。
4. [色] アイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、凡例の境界色を設定することができます。
5. [OK] をクリックして、[色] ダイアログボックスを閉じます。

6. [OK] をクリックして、[凡例フォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   指定したフォーマットが凡例の境界に適用されます。

   下図は、グラフの凡例にスタイルが適用された例を示しています。



罫線のフォーマット設定

グラフで罫線を参照として使用すると、データの数量および値が理解しやすくなるとともに、軸の情報が解析しやすくなります。グラフ上で表示および編集が可能な罫線には 4 つのタイプがあります。次のものがあります。

- 横主罫線
- 横補助罫線
- 縦主罫線
- 縦補助罫線

主罫線を表示することで、値の読み取りが容易になります。また、補助罫線は主罫線を補完するものです。プロットポイントが主罫線と主罫線の間に配置される場合、補助罫線を使用すると、データをより正確に解釈することができます。

- 縦方向のグラフでは、縦罫線は X 軸に交差します。

- 縦方向のグラフでは、横罫線は Y 軸に交差します。
- 横主罫線を使用すると、Y 軸の目盛りのみを使用する場合に比べて、値の読み取りがより正確になります。多くのグラフでは、横罫線はデフォルト設定で有効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。
- 横補助罫線は、デフォルト設定では無効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。
- 縦主罫線を使用すると、X 軸の目盛りのみを使用する場合に比べて、値の読み取りがより正確になります。これらは、デフォルト設定で有効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。
- 縦補助罫線は、デフォルト設定では無効になっています。これらは、X 軸が数値の散布図およびバブルグラフにのみ適用されます。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。

注意：使用可能な罫線オプションは、グラフの方向により決定されます。

罫線のフォーマットダイアログボックス

[罫線のフォーマット] ダイアログボックスの各種オプションを使用して、グラフ上の縦横罫線、色バンド、フレームのフォーマットを設定することができます。このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、222 ページの 「 罫線プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

色バンドは 2 色で構成され、各バンドにそれぞれ異なる色を使用します。色バンドは、グラフ上のシリーズの背後に、連続したパターンとして表示されます。交互に配色することで、グラフの読み取りが容易になります。

代替フォーマットを使用して、軸の各セクション (「領域」と呼ばれる) にそれぞれ異なる色を適用することができます。

[罫線のフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 主罫線
- 補助罫線
- 色バンド
- フレーム

注意：[色バンド] および [フレーム] オプションは、InfoAssist Basic では使用できません。

[主罫線] タブでは、グラフの主罫線のフォーマットを設定します。

[主罫線] タブには、次のオプションがあります。

- **罫線の表示**　デフォルト設定でグラフに補助罫線のみが表示されている場合、このオプションを選択してグラフに主罫線を表示します。
- **線スタイル**　このアイコンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **目盛りの表示**　このチェックボックスを選択して、目盛りの表示と非表示を切り替えます。
- **目盛りスタイル**　このドロップダウンメニューから目盛りスタイル ([内側]、[外側]、[両側]) を選択します。
- **線スタイル**　このアイコンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

[補助罫線] タブでは、グラフの補助罫線のフォーマットを設定します。

[補助罫線] タブには、次のオプションがあります。

- **罫線の表示**　このオプションを選択して、グラフに補助罫線を表示します。デフォルト設定では、このオプションは有効に設定されています。
- **線スタイル**　このアイコンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **罫線間隔**　主罫線間に表示する補助罫線数を設定します。
- **目盛りの表示**　このチェックボックスを選択して、目盛りの表示と非表示を切り替えます。
- **目盛りスタイル**　このドロップダウンメニューから目盛りスタイル ([内側]、[外側]、[両側]) を選択します。
- **線スタイル**　このアイコンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

[色バンド] タブでは、グラフの色バンドのフォーマットを設定します。

[色バンド] タブには、次のオプションがあります。

- **バンド 1**　このオプションを選択して、バンド 1 をグラフに追加します。
  - **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、バンド 1 の色を編集することができます。
  - **透明度**　スライダを移動して、バンド 1 の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。

- **%** バンド 1 の透明度のパーセントを入力または選択します。

- **バンド 2** このオプションを選択して、バンド 2 をグラフに追加します。
  - **色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、バンド 2 の色を編集することができます。
  - **透明度** スライダを移動して、バンド 2 の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。
  - **%** バンド 2 の透明度のパーセントを入力または選択します。

[フレーム] タブでは、フレーム領域の表示と非表示を切り替えたり、フレームテキストの位置とスタイルを設定したりします。

[フレーム] タブには、次のオプションがあります。

- **フレーム領域の表示** このオプションを選択して、フレーム領域を表示します。このオプションの選択を解除して、フレーム領域を非表示にします。
  - **領域** このドロップダウンメニューから、フォーマットを設定する領域を選択します。
  - **追加** このボタンをクリックして、領域を追加します。
  - **削除** このボタンをクリックして、領域を削除します。
- **位置** 領域の位置を入力します。
- **色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレームの色を編集します。
- **境界色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレーム境界の色を編集します。
- **テキスト** フレーム上に表示するテキストを入力します。
- **テキストスタイル** このアイコンをクリックして、フレームテキストのスタイルを設定します。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、222 ページの 「 罫線プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

罫線要素のコンテキストメニュー

グラフ上で罫線を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。下表は、罫線要素のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
横主罫線 横補助罫線 縦主罫線 縦補助罫線	削除	グラフから罫線を削除し、[ライブプレビュー] デザインビューを更新します。
	線色の設定	[色] ダイアログボックスを使用して、罫線の色を指定することができます。詳細は、389 ページの「 色ダイアログボックスの使用 」を参照してください。
	罫線詳細オプション	[罫線フォーマット] ダイアログボックスを開きます。詳細は、219 ページの 「 罫線のフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

罫線プロパティの使用

ここでは、罫線をカスタマイズする方法について説明します。

手順　横主罫線を表示するには

デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで [罫線] ドロップダウンメニューを開き、[横罫線]、[主罫線] を順に選択します。

   横主罫線がグラフに追加されます。

手順　横補助罫線を表示するには

デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。

1. グラフを作成します。

2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスします。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで、[罫線] ドロップダウンメニューを開きます。[罫線] ドロップダウンメニューから、[横罫線]、[補助罫線] を順に選択します。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上の横主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。[横罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。[補助罫線] タブで、[罫線の表示] を選択します。

   横補助罫線がグラフに追加されます。

手順 縦主罫線を表示するには

デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスします。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで、[罫線] ドロップダウンメニューを開きます。[罫線] ドロップダウンメニューから、[縦罫線]、[主罫線] を順に選択します。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上の縦主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。[縦罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。[主罫線] タブで、[罫線の表示] を選択します。

   縦主罫線がグラフに追加されます。

手順 縦補助罫線を表示するには

デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスします。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで、[罫線] ドロップダウンメニューを開きます。[罫線] ドロップダウンメニューから、[縦罫線]、[補助罫線] を順に選択します。

- **コンテキストメニュー**　グラフ上の縦主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。[縦罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。[補助罫線] タブで、[罫線の表示] を選択します。

縦補助罫線がグラフに追加されます。

手順　罫線の色、太さ、スタイルを設定するには

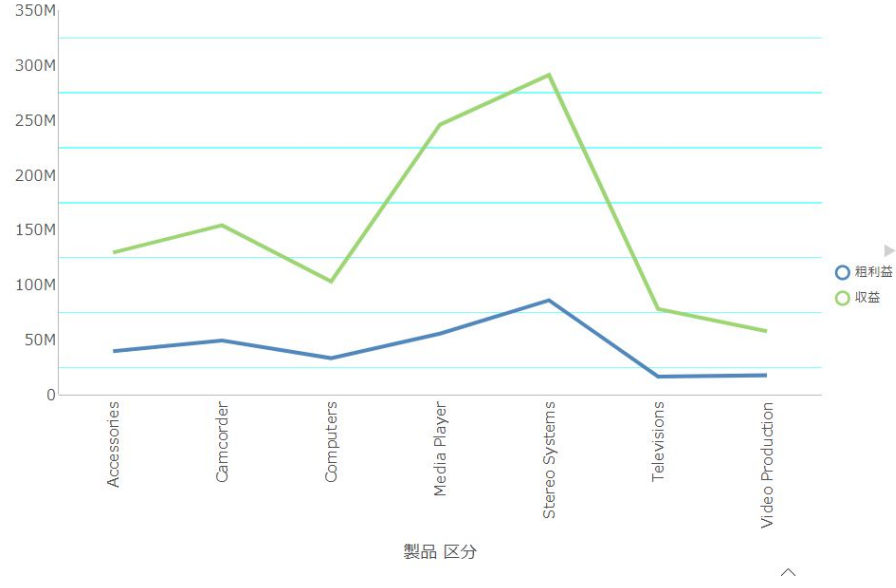
1. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで [罫線] ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線タイプを選択した後、[罫線詳細オプション] を選択します。
   - **コンテキストメニュー**　罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。

   [罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
2. [線スタイル] アイコンをクリックします。

   [線スタイル] ダイアログボックスが開きます。
3. 罫線の色、太さ、スタイルを設定します。
4. [OK] をクリックして、[線スタイル] ダイアログボックスを閉じます。
5. [OK] を再度クリックして、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   指定したフォーマットが罫線に適用されます。

下図は、罫線スタイルが適用された折れ線グラフを示しています。



手順　目盛りを設定するには

目盛りは、軸に垂直に交わる短い線です。軸に特定の間隔で目印を付ける場合に目盛りを使用します。

1. 罫線が表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで [罫線] ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線タイプを選択した後、[罫線詳細オプション] を選択します。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。

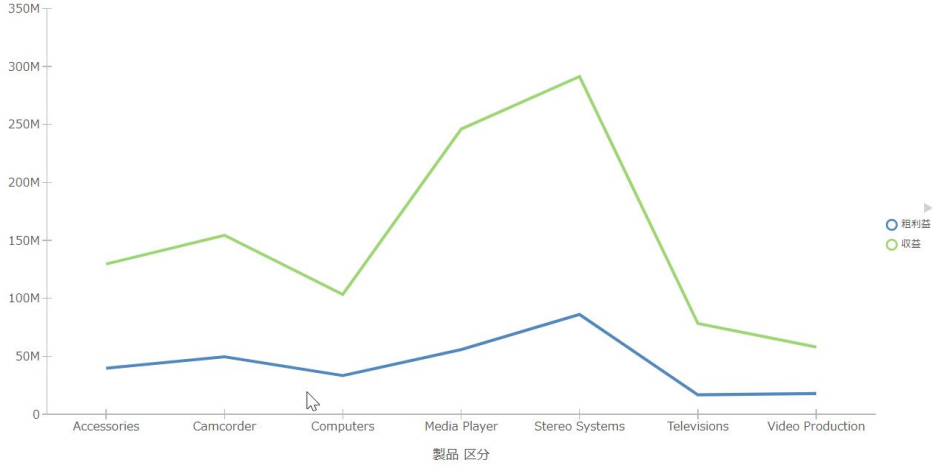
   [罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [目盛りスタイル] ドロップダウンメニューから、目盛りスタイルオプションを選択します。次のオプションがあります。
   - ❏ 内側
   - ❏ 外側

- ❏ 両側

4. この [線スタイル] アイコンをクリックして [線スタイル] ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
5. [OK] をクリックして、[線スタイル] ダイアログボックスを閉じます。
6. [OK] を再度クリックして、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   指定したフォーマットが目盛りに適用されます。

   下図は、両側に突き出た目盛りスタイルが縦軸と横軸の両方に適用されたグラフを示しています。



手順　色バンドを設定するには

1. 罫線を表示したグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

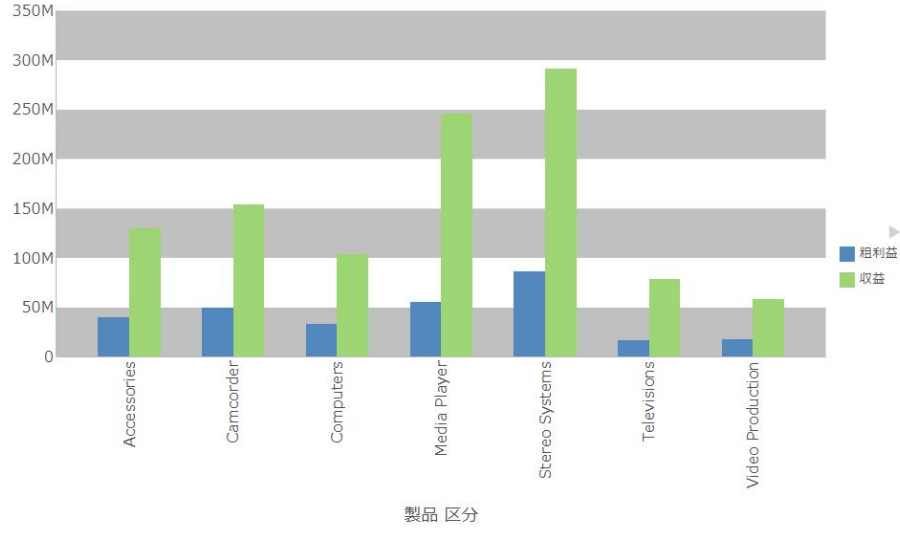
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで [罫線] ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線を選択した後、[罫線詳細オプション] を選択します。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] を選択します。

   [罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

3. [色バンド] タブを選択し、[色] アイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、色バンドの色を設定することができます。[OK] をクリックして、[色] ダイアログボックスを閉じます。

4. 透明度スライダを使用するか、パーセントボックスを使用して、色に適用する透明度のパーセントを入力または選択します。
5. [OK] をクリックして、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   下図は、横罫線に色バンドが適用されたグラフを示しています。



手順　罫線を削除するには

1. 罫線を表示したグラフを作成します。
2. 罫線を選択します。
3. 次のいずれかの方法で罫線を削除します。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[罫線] ドロップダウンメニューを開きます。メニューから、フォーマットを設定する罫線を選択し、[罫線詳細オプション] を選択して [罫線のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。削除する罫線のタブで、[罫線の表示] の選択を解除し、[OK] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　罫線を右クリックし、メニューから [削除] を選択します。

   選択した罫線がグラフから削除されます。

手順　グラフにフレーム領域を追加するには

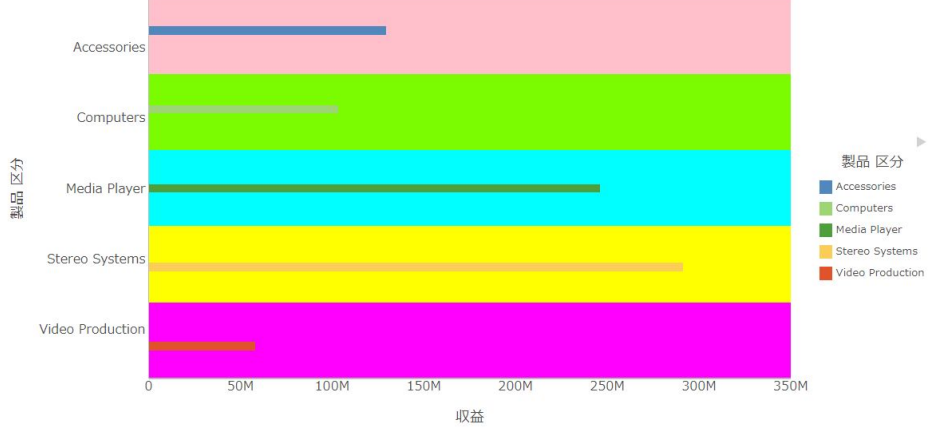
1. グラフを作成します。

2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[罫線] をクリックします。
3. ドロップダウンメニューから、[横罫線] または [縦罫線] を選択し、[罫線詳細オプション] を選択します。

   [罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
4. [フレーム] タブで [フレーム領域の表示] のチェックをオンにします。
5. [適用] をクリックします。

   デフォルトスタイルオプションに基づいて色分けされたフレームがグラフに追加されます。必要に応じて、[色] および [背景色] オプションを使用してデフォルトスタイルオプションを変更します。

   下図の棒グラフでは、領域ごとに色分けされたフレームが表示されています。



軸ラベルのフォーマット設定

縦軸と横軸は、グラフの方向に基づいて決定されます。たとえば、縦方向のグラフの場合、横軸は X 軸、縦軸は Y 軸です。横方向のグラフの場合、横軸は Y 軸、縦軸は X 軸です。オプションはグラフの方向によって変化するため、このことに注意する必要があります。

グラフには、次のような軸ラベルを含めることができます。

- 横軸ラベルは、X 軸を表します。これらは、円グラフ、じょうごグラフ、メータグラフには、適用されません。
- 縦軸ラベルは、単一軸グラフの Y1 軸を表します。これらは、数値のスケールを表し、通常、縦方向のグラフの左側に表示されます。

- 横軸 2 ラベルおよび縦軸 2 ラベルは、2 軸グラフを選択した場合にのみ使用することができます。

軸のフォーマットダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用して軸オプションにアクセスすると、[軸のフォーマット] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、縦軸および横軸のフォーマットを設定します。[軸のフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

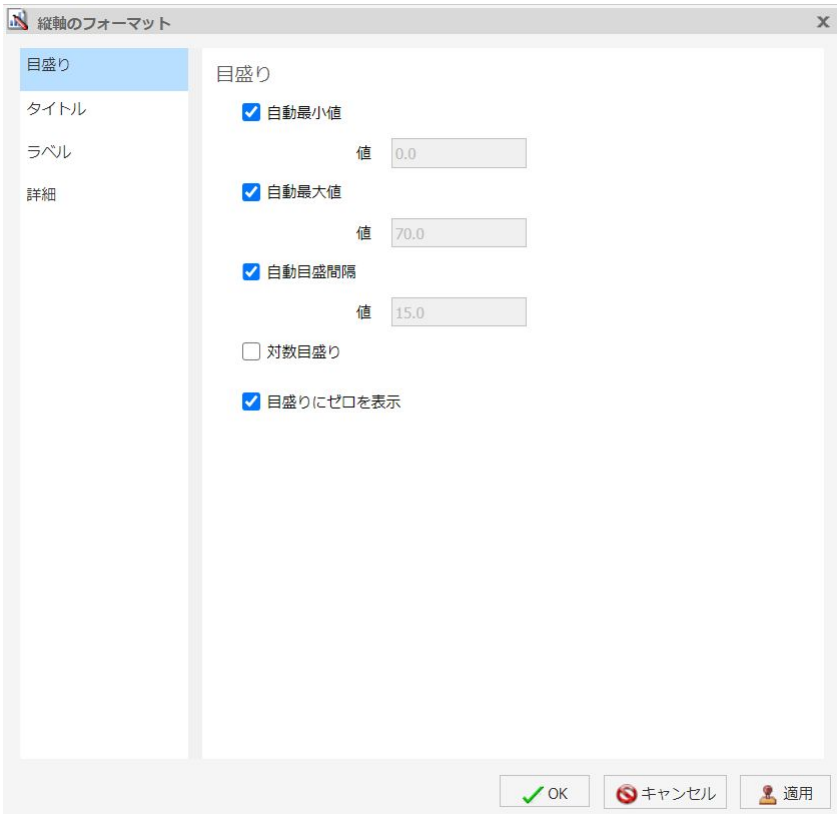
- 全般 (横軸)
- 目盛り (縦軸)
- タイトル
- ラベル
- 詳細

参照　縦軸のフォーマットダイアログボックス

[縦軸のフォーマット] ダイアログボックスを使用して、グラフの縦軸に適用するフォーマットオプションを指定します。

[目盛り] タブでは、目盛りのプロパティを変更します。

下図は、[目盛り] タブを示しています。



[目盛り] タブには、次のオプションがあります。

- **自動最小値**　Y 軸目盛りに最小値を自動的に割り当てます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。最小値を設定するには、[値] テキストボックスに数値を入力します。
  - **値**　[自動最小値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最小値を入力します。
- **自動最大値**　Y 軸目盛りに最大値を自動的に割り当てます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] テキストボックスに値を入力して最大値を設定します。
  - **値**　[自動最大値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最大値を入力します。

- **自動目盛間隔**　主罫線の間隔を自動的に計算します。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] テキストボックスに値を入力して間隔を設定します。
  - **値**　[自動目盛間隔] を選択しなかった場合、このテキストボックスに値を入力します。
- **対数目盛り**　Y 軸目盛りを線形的に増加させるのではなく、対数的に増加させるかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。このオプションを選択すると、対数の底が 10.0 に設定されます。
- **目盛りにゼロを表示**　目盛りに 0 (ゼロ) 値を表示するかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。

[タイトル] タブでは、軸タイトルの表示と非表示の切り替えと、軸タイトルの入力およびスタイル設定を行います。

[タイトル] タブには、次のオプションがあります。

- **タイトルの表示**　このチェックをオン (デフォルト) にして軸タイトルを表示するか、オフにして軸タイトルを非表示にします。
- **テキスト**　[テキスト] ボックスに軸のタイトルを入力します。
- **テキストスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベル] タブでは、軸ラベルのフォーマットを設定します。

[ラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの表示**　軸の横にラベルを表示します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
  - **軸の表示**　軸に表示するラベルの位置を選択します。オプションには、[左] (デフォルト設定)、[右]、[両側] があります。
  - **ラベルスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。
  - **ラベルフォーマット**　ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストを表示します。
  - **カスタムフォーマット**　カスタムフォーマットを使用することができます。このオプションは、ラベルフォーマットとして [パターンの使用 / 100] または [パターンの使用] を選択した場合にのみ有効になります。

[ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューには、ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストが表示されます。[パターンの使用] を選択した場合は、[カスタムフォーマット] テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、下表を参照してください。

文字	説明
#	桁を表します。
0 (ゼロ)	非表示にします。
. (ピリオド)	小数点の区切り文字に使用するプレースホルダです。
, (カンマ)	位の区切り文字に使用するプレースホルダです。
; (セミコロン)	複数のフォーマットを区別します。
- (ダッシュ)	デフォルトの負の接頭語です。
% (パーセント)	100 で除算してパーセントで表示します。
x	接頭語または接尾語にその他の文字を使用できることを指定します。
‘ (アポストロフィ)	接頭語または接尾語に使用する特殊文字をこの引用符で囲みます。

[詳細] タブでは、軸ラベルの追加プロパティを変更します。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **最小ラベルの非表示**　軸の最小値ラベルをグラフから除外します。
- **最大ラベルの非表示**　軸の最大値ラベルをグラフから除外します。
- **降順軸**　軸を降順で表示します。
- **軸線の表示**　軸ベースラインの表示を制御します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、軸線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

- **ゼロ線の表示**　ゼロ線の表示を制御します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、ゼロ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **カスタムベースライン**　カスタムベースラインの表示を制御します。
  - **値**　カスタムベースラインの値を入力します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、カスタムベースラインの色、太さ、スタイルを編集することができます。

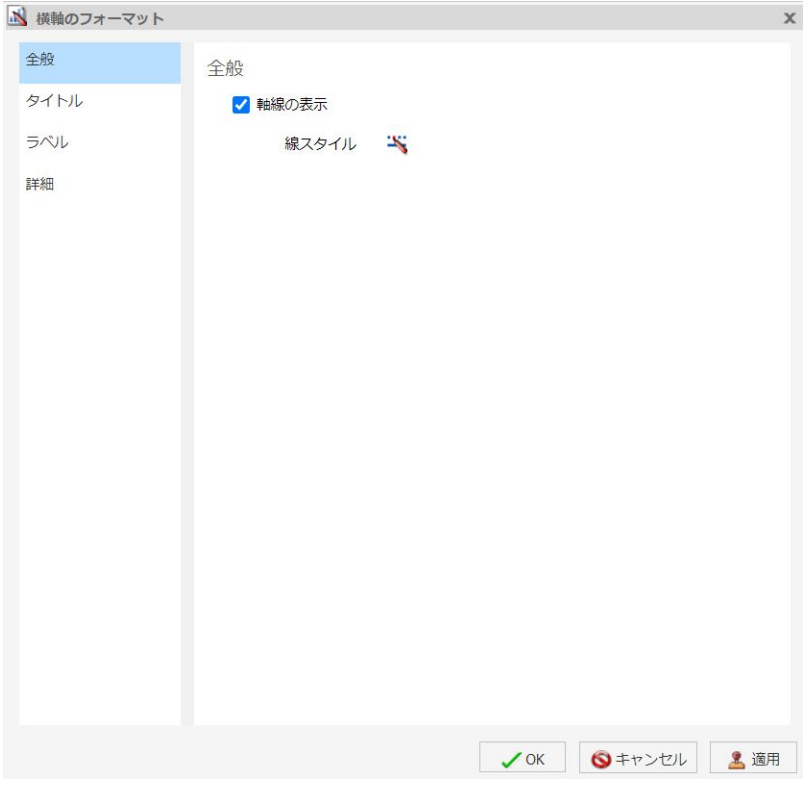
このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、237 ページの 「 軸プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

参照　横軸のフォーマットダイアログボックス

[横軸のフォーマット] ダイアログボックスを使用して、グラフの横軸に適用するフォーマットオプションを指定します。

[全般] タブの [軸線の表示] チェックボックスで、軸線を表示するかどうかを制御します。このチェックをオンにすると、軸線のスタイルを設定することができます。

下図は、[全般] タブを示しています。



[全般] タブには、次のオプションがあります。

- **軸線の表示**　軸線の表示を有効にします。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、軸線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

[タイトル] タブでは、軸のタイトルを作成し、スタイルを設定します。

[タイトル] タブには、次のオプションがあります。

- **テキスト**　[テキスト] ボックスに軸のタイトルを入力します。
- **スタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベル] タブでは、軸ラベルのフォーマットを設定します。

[ラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの表示**　軸の横にラベルを表示します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
  - **軸の表示**　軸に表示するラベルの位置を選択します。オプションには、[上] (デフォルト設定)、[下]、[両側] があります。
  - **ラベルスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。
- **ラベルを交互に表示**　ラベルを交互に表示します。
- **ラベルの連結**　グラフ上の複数のラベルを連結します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。

[詳細] タブでは、軸ラベルの追加プロパティを変更します。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **最小ラベルの非表示**　軸の最小値ラベルをグラフから除外します。
- **最大ラベルの非表示**　軸の最大値ラベルをグラフから除外します。
- **グループを逆にする**　横軸のグループの表示順序を逆にします。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、237 ページの 「 軸プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

軸 2 オプション

2 軸グラフでは、軸 2 にフォーマットを設定するオプションがあります。たとえば、縦 2 軸グラフの場合、縦軸 2 は Y2 軸です。

縦軸および横軸の [軸 2 のフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブが表示されます。

- **全般**　詳細は、229 ページの 「 軸のフォーマットダイアログボックス 」 の [目盛り] タブのオプションを参照してください。
- **タイトル**　詳細は、229 ページの 「 軸のフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。
- **ラベル**　詳細は、229 ページの 「 軸のフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

- **詳細** 詳細は、229 ページの 「 軸のフォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

軸要素のコンテキストメニュー

[ライブプレビュー] デザインビューでグラフの軸ラベルまたはタイトルを右クリックすると、オプションを選択するメニューが開きます。下表は、軸ラベル要素を右クリックした場合のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
軸タイトル	削除	グラフから軸タイトルを削除し、ライブプレビューを更新します。
	タイトルの変更	軸タイトルを変更することができます。
	タイトルスタイル	[スタイル] ダイアログボックスを使用して、軸タイトルにスタイルを適用することができます。詳細は、210 ページの 「 スタイルダイアログボックス 」 を参照してください。
横ラベル	削除	グラフからラベルを削除し、ライブプレビューを更新します。
	交互に表示	ラベルの配置を制御します。値を [オン] に設定すると、ラベルは交互に表示されます。デフォルト設定の [オフ] を選択した場合、ラベルは 1 行に表示されます。
	回転	指定した角度でラベルを回転します。
	ラベルスタイル	[スタイル] ダイアログボックスを使用して、ラベルにスタイルを適用することができます。詳細は、210 ページの 「 スタイルダイアログボックス 」 を参照してください。
	軸詳細オプション	[軸フォーマット] ダイアログボックスを開きます。詳細は、228 ページの 「 軸ラベルのフォーマット設定 」 を参照してください。

要素	オプション	説明
縦ラベル	削除	グラフからラベルを削除し、ライブプレビューを更新します。
	回転	指定した角度でラベルを回転します。
	ラベルフォーマット	次の値を指定して、ラベルにフォーマットを設定することができます。
	ラベルスタイル	[スタイル] ダイアログボックスを使用して、ラベルにスタイルを適用することができます。詳細は、210 ページの「 スタイルダイアログボックス 」 を参照してください。
	軸詳細オプション	[軸フォーマット] ダイアログボックスを開きます。詳細は、228 ページの 「 軸ラベルのフォーマット設定 」 を参照してください。

軸プロパティの使用

ここでは、軸をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

軸ラベルはデフォルト設定で表示されます。

手順　軸ラベルを削除するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で軸ラベルを削除することができます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[ラベルの表示] オプションの選択を解除します。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[削除] を選択します。

   グラフから軸ラベルが削除されます。

手順　軸ラベルを交互に表示するには

注意：軸ラベルを交互に表示する効果は、横軸ラベルにのみ適用できます。

1. 少なくとも 1 つの軸ラベルが表示されたグラフを作成します。

2. 次のいずれかの方法で [交互に表示] オプションにアクセスし、表示させます。
   - **リボン** [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、[横軸]、[横軸ラベルを交互に表示] を順に選択します。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[交互に表示]、[オン] を順に選択します。

   軸ラベルが交互に表示されます。

手順 軸ラベルを回転するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [回転] オプションにアクセスします。
   - **リボン** [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[ラベルの回転] を選択した後、軸ラベルの回転角度を選択します。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[回転] を選択した後、軸ラベルの回転角度を選択します。

   軸ラベルが回転されます。

手順 軸ラベルのフォーマットを設定するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で軸ラベルオプションのリストにアクセスします。
   - **リボン** [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] を選択して [軸のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。[ラベル] タブの [ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューから、設定するフォーマットオプションを選択します。
   - **コンテキストメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[ラベルフォーマット] を選択した後、設定するフォーマットオプションを選択します。

   指定したフォーマットが軸ラベルに適用されます。

手順 軸目盛りを手動で設定するには

1. グラフを作成します。

2. 次のいずれかの方法で [軸のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] を選択します。
   - **コンテキストメニュー** グラフ上で軸の値を右クリックし、[軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

3. [目盛り] タブで [自動最小値] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに最小値を入力します。
4. [自動最大値] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに最大値を入力します。
5. [自動目盛間隔] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに目盛間隔値を入力します。
6. 必要に応じて、[対数目盛り] オプションを選択することもできます。また、軸に 0 (ゼロ) を表示しない場合は、[目盛りにゼロを表示] オプションの選択を解除します。
7. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

   指定した設定が軸目盛りに適用されます。

手順　軸タイトルを追加するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [軸のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] を選択します。
   - **コンテキストメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

3. [タイトル] タブで、[テキスト] テキストボックスに軸タイトルを入力します。
4. [テキストスタイル] アイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

   指定したスタイルが軸タイトルに適用されます。

   注意：軸タイトルを削除、変更、スタイル設定するには、軸タイトルを右クリックします。

手順　軸の詳細プロパティを設定するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [軸のフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] を選択します。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　軸ラベルを右クリックし、[軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [詳細] タブでは、次のオプションを設定します。
   - ❏ 最小ラベルの非表示
   - ❏ 最大ラベルの非表示
   - ❏ 降順軸
   - ❏ 軸線の表示
   - ❏ ゼロ線の表示
   - ❏ カスタムベースライン (値)

   [線スタイル] ダイアログボックスで設定したすべての線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
4. [OK] をクリックします。

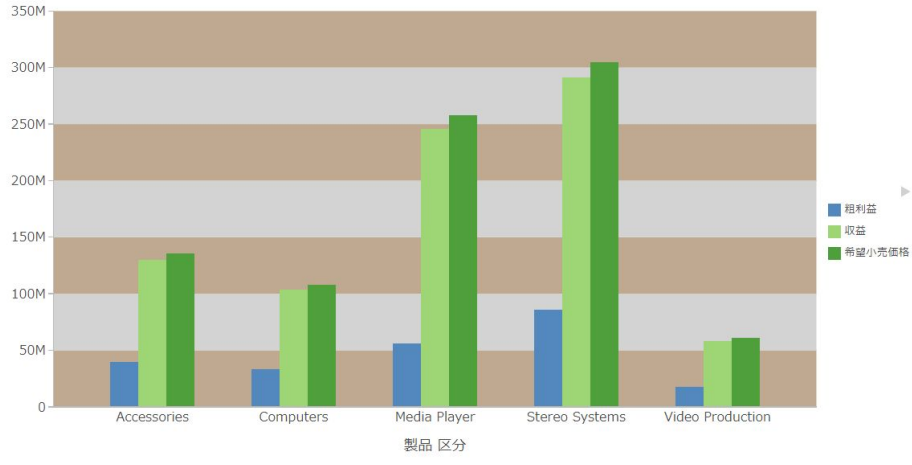
   設定した詳細オプションが軸に適用されます。

フレームおよび背景のフォーマット設定

グラフのフレームは、プロットポイントが格納されるエリアです。また、縦横の罫線が描かれるエリアでもあります。

グラフの背景は、フレームの周囲のエリアです。

フレームおよび背景の外観を変更することで、グラフの視覚的効果を調整することができます。たとえば、下図のように、グラフのフレーム線の外観やグラフの背景色を変更します。



フレームと背景ダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用してフレームおよび背景のオプションにアクセスすると、[フレームと背景] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、グラフのフレームと背景のフォーマットを設定します。[フレームと背景] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- フレーム
- フレームの端
- 背景

ここでは、次のグラフタイプの [フレームと背景] ダイアログボックスおよび付属のタブについて説明します。

- 2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフ ([フレーム] および [フレームの端] タブ)
- 円グラフ ([フレーム] および [フレームの端] タブ)
- 3D グラフ ([左側面]、[右側面]、[底面]、[詳細] タブ)

注意：[フレーム] タブのオプションは、選択したグラフタイプにより異なります。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] タブでは、フレームの奥行きおよび奥行きラジアスの設定、フレームの塗りつぶしの選択、フレームの影の設定を行えます。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] タブには、次のオプションがあります。

- **奥行き**　グラフの前面から背面への角度を入力します。グラフのライザおよびフレームはこの角度で描画されます。奥行きは、0 (ゼロ) 度から 180 度に設定することができますが、この設定は、[奥行きラジアス] とともに使用する必要があります。

  3D グラフの奥行きは、HTML、PDF、PowerPoint、Excel 出力フォーマットを使用する場合にのみ変更することができます。

- **奥行きラジアス**　フレームを押し出す距離を入力します。0 (ゼロ) などの小さい値を設定すると、グラフの厚みが非常に小さくなります。大きい値 (最大値は 100) を設定すると、グラフの厚みが大きくなります。

塗りつぶし

- **塗りつぶしなし**　このオプションを選択して、フレームを無色にします。
- **単色**　このオプションを選択して、[色] および [透明度] オプションを表示します。
  - **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。
  - **透明度**　スライダを移動して、フレームの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。
- **グラデーション**　このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
  - **方向**　このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。たとえば、[グラデーション - 右]、[グラデーション - 左] などを選択します。

グラデーションスタイル

- **色パターン**　データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色] から [2 番目の色] へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色]、[2 番目の色]、[1 番目の色] の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
- **1 番目の色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
- **2 番目の色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

影

- **影**　このオプションを選択して、影を付けます。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレームの端] タブでは、フレームの端への自動影付けを設定します。自動影付けを使用しない場合は、サイドフレームおよび下フレームのフレーム色と境界色を設定することができます。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレームの端] タブには、次のオプションがあります。

- **フレームの端自動影付け**　このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。このオプションの選択を解除すると、[サイドフレーム] および [下フレーム] オプションが有効になります。

サイドフレーム

- **色の表示**　このオプションを選択して、サイドフレームの色を表示します。
- **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、サイドフレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示**　このオプションを選択して、サイドフレームの境界色を表示します。

  境界色は、HTML、PDF、PowerPoint、Excel 出力フォーマットを使用する場合にのみ表示されます。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、サイドフレームの境界色を選択することができます。

下フレーム

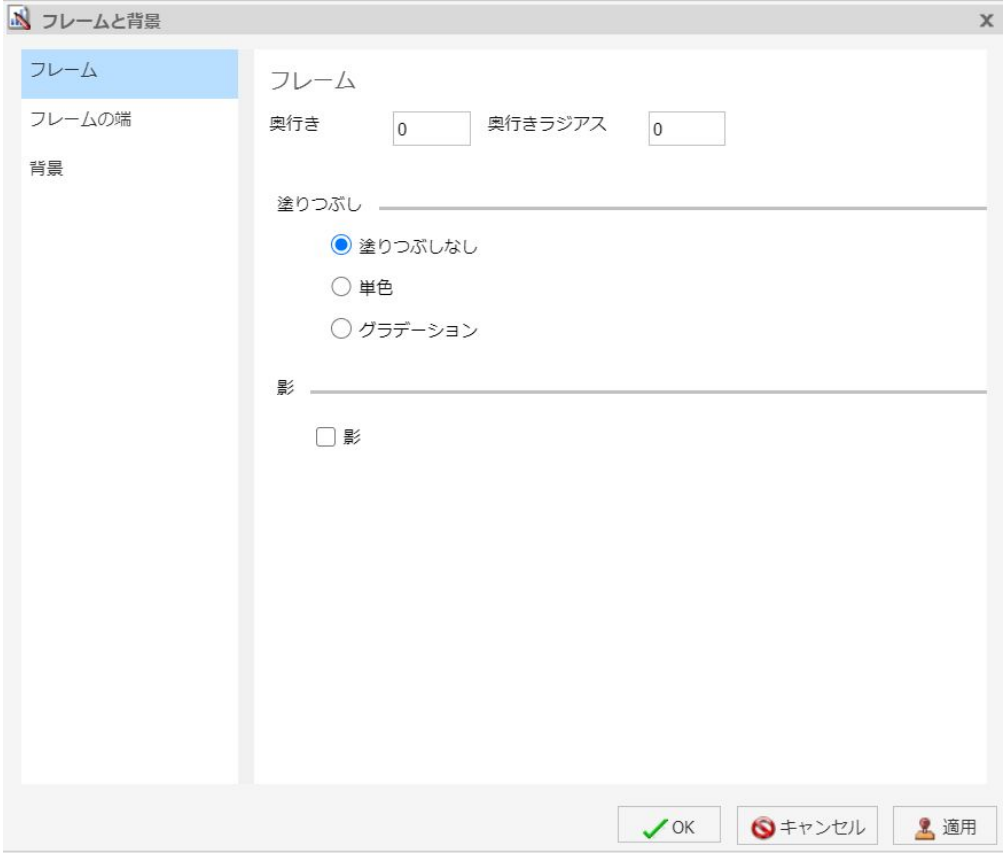
- **色の表示**　このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、下フレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示**　このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。

  境界色は、HTML、PDF、PowerPoint、Excel 出力フォーマットを使用する場合にのみ表示されます。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、下フレームの境界色を選択することができます。

円グラフの [フレーム] タブでは、円の奥行きおよび角度の設定、円フレームの塗りつぶしおよび色の選択、フレームの影の設定を行えます。

注意：このオプションは、HTML フォーマットの円グラフでのみ使用できます。

下図は、[フレーム] タブを示しています。



円グラフの [フレーム] タブには、次のオプションがあります。 (HTML5 選択時は非表示)

- **円の奥行き**　円グラフの側面の奥行きを設定します。0 (ゼロ) から 100 までの値を選択して、側面の厚みを設定できます。
- **円の角度**　円グラフの傾斜角度を設定します。小さい値に設定すると、円グラフがより平面的になります。大きい値に設定すると、表示される側面の割合が増加します。

塗りつぶし

- **塗りつぶしなし**　(デフォルト) 円の端に色は追加されません。

- **単色** このオプションを選択して、[色] および [透明度] オプションを表示します。
  - **色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。
  - **透明度** スライダを移動して、塗りつぶしの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) までの間で設定します。デフォルト値は 0% です。
- **グラデーション** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
  - **方向** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。たとえば、[グラデーション - 右]、[グラデーション - 左] などを選択します。
  - **グラデーションスタイル**
    - **色パターン** データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色] から [2 番目の色] へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色]、[2 番目の色]、[1 番目の色] の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
    - **1 番目の色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
    - **2 番目の色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

影

- **影** このオプションを選択して、フレーム周囲に影を付けます。

円グラフの [フレームの端] タブでは、円フレームの端のオプションを設定します。

円グラフの [フレームの端] タブには、次のオプションがあります。

- **フレームの端自動影付け** このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。このオプションの選択を解除すると、[サイドフレーム] および [下フレーム] オプションが有効になります。
- **色の表示** このオプションを選択して、サイドフレームの色を表示します。
- **色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、サイドフレームの色を選択することができます。

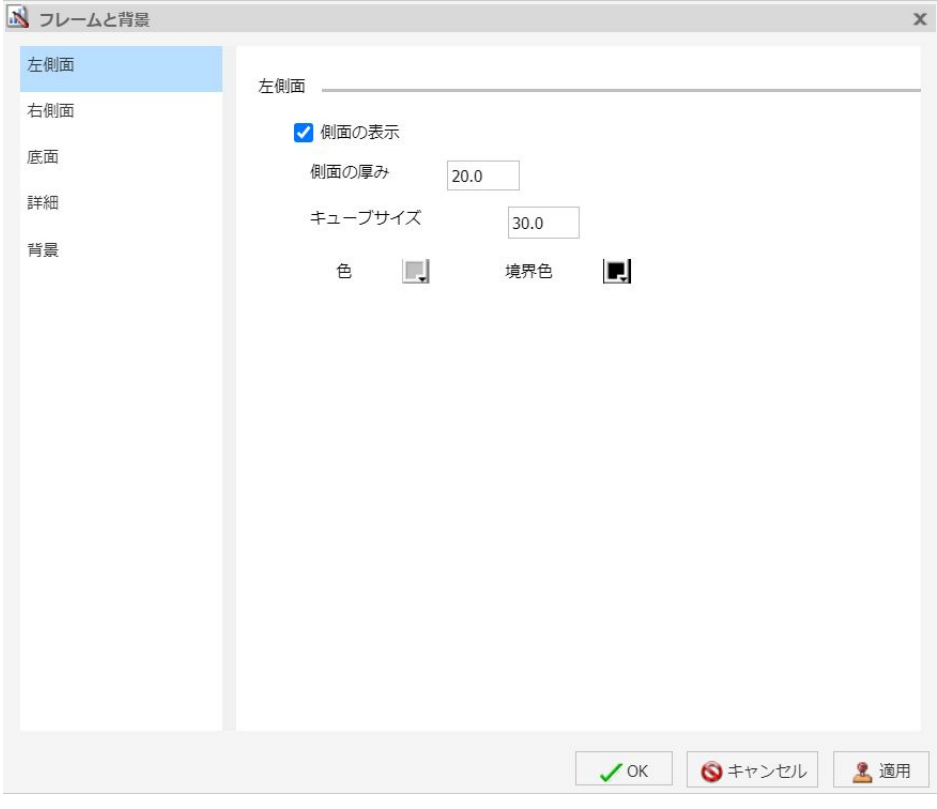
- **境界色の表示**　このオプションを選択して、サイドフレームの境界色を表示します。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、サイドフレームの境界色を選択することができます。

下フレーム

- **色の表示**　このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、下フレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示**　このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、下フレームの境界色を選択することができます。

[側面] および [底面] タブでは、3D グラフの側面と底面のオプションを設定します。

下図は、[左側面] タブを示しています。



[側面] および [底面] タブには、次のオプションがあります。

- **側面の表示**または**底面の表示**　このオプションを選択して、3D グラフの側面または底面を表示します。
- **側面の厚み**　側面または底面の厚みを指定します。
- **キューブサイズ**　側面または底面のキューブサイズを指定します。
- **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、側面または底面の色を選択することができます。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、側面または底面の境界色を選択することができます。
- **側面の表示 (左側面)**　このオプションを選択して、左側面を表示します。
- **側面の表示 (右側面)**　このオプションを選択して、右側面を表示します。
- **底面の表示**　このオプションを選択して、底面を表示します。

3D グラフの [詳細] タブでは、3D フレームの追加プロパティを変更します。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **表示角度**　ドロップダウンメニューから、3D グラフの表示角度を選択します。たとえば、[標準]、[グループ] などを選択します。
- **等角投影**　このオプションを選択して、等角投影表示で投影されるグラフキューブの遠近歪み係数を無視します。
- **キューブプロポーショナル**　このオプションを選択して、シリーズ数またはグループ数に比例して軸のサイズを定義します。
- **側面自動影付け**　このオプションを選択して、グラフの側面に影を付けます。
- **フレーム端自動影付け**　このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。
  - **3D ズームファクタ**　テキストボックスに値を入力して、3D グラフのズームインとズームアウトのグローバル倍率を設定します。値を小さくすると、グラフがズームアウトされ、フレーム内でグラフが小さく表示されます。値を大きくすると、グラフがズームインされ、フレーム内でグラフが大きく表示されます。
  - **横方向にパンを適用**　テキストボックスに値を入力して、3D グラフを横方向に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが左に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが右に移動します。

- **縦方向にパンを適用**　テキストボックスに値を入力して、3D グラフを縦方向に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが上に移動します。値を大きくすると、グラフのフレームが下に移動します。

[背景] タブでは、グラフの境界を設定、カスタマイズします。

[背景] タブには、次のオプションがあります。

- **境界色の表示**　このオプションを選択して、境界の色を表示します。
- **境界色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、境界の色を選択します。
- **単色**　このオプションを選択して、[色] および [透明度] オプションを表示します。
  - **色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。
  - **透明度**　スライダを移動して、背景の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。
- **グラデーション**　このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
  - **方向**　このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。たとえば、[グラデーション - 右]、[放射状] などを選択します。

グラデーションスタイル

- **色パターン**　データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色] から [2 番目の色] へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2 つの色が [1 番目の色]、[2 番目の色]、[1 番目の色] の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
- **1 番目の色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
- **2 番目の色**　このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、250 ページの 「 フレームと背景のプロパティの使用 」 の手順を参照してください。

フレームと背景のコンテキストメニュー

グラフの背景を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。下表は、背景要素とフレーム要素のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
背景	背景色	[色] ダイアログボックスを使用して、背景色を指定することができます。詳細は、250 ページの 「 背景色を変更するには 」 を参照してください。
	凡例の表示	背景の凡例表示を制御します。選択すると、凡例が表示されます。選択を解除すると、凡例が非表示になります。
	フレームと背景の詳細オプション	[フレームと背景] ダイアログボックスを開きます。詳細は、241 ページの 「 フレームと背景ダイアログボックス 」 を参照してください。
フレーム	フレーム色	[色] ダイアログボックスを使用して、フレーム色を指定することができます。詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。
	3D 表示	フレームの奥行きを制御します。[オン] を選択すると、フレームが 3D 表示になります。[オフ] にすると、フレームは線で表示されます。 詳細は、263 ページの 「 棒グラフで 3D 表示を設定するには 」 を参照してください。
	フレームと背景の詳細オプション	[フレームと背景] ダイアログボックスを開きます。詳細は、241 ページの 「 フレームと背景ダイアログボックス 」 を参照してください。

フレームと背景のプロパティの使用

ここでは、フレームと背景のプロパティをカスタマイズする方法について説明します。次の手順では、[フォーマット] タブの [機能] グループのオプションを使用します。

手順　フレーム色を変更するには

グラフのデフォルトフレーム色は、[オプション] ダイアログボックスで選択したドキュメントテーマにより決定されます。詳細は、28 ページの 「 InfoAssist ユーザ設定の変更 」 を参照してください。

次の手順では、フレーム色の変更方法について説明します。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [フレームと背景] ダイアログボックスにアクセスします。
   - **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[フレームと背景] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー**　グラフを右クリックし、[フレームと背景の詳細オプション] を選択します。

   [フレームと背景] ダイアログボックスが開きます。
3. [フレーム] タブの [塗りつぶし] セクションで [単色] を選択し、[色] アイコンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。フレームの新しい色を選択します。[色] ダイアログボックスについての詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。また、フレームの奥行き角度や奥行きラジアスを設定したり、フレームの影を設定したりすることもできます。
4. [OK] をクリックします。

   グラフに新しいフレーム色が表示されます。

手順　背景色を変更するには

グラフのデフォルト背景色は、[オプション] ダイアログボックスで選択したドキュメントテーマにより決定されます。詳細は、28 ページの 「 InfoAssist ユーザ設定の変更 」 を参照してください。

1. グラフを作成します。

2. 次のいずれかの方法で [フレームと背景] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで、[フレームと背景] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー** グラフの背景を右クリックし、[フレームと背景の詳細オプション] を選択します。

   [フレームと背景] ダイアログボックスが開きます。

3. [背景] タブの [背景塗りつぶし] セクションで、[色] アイコンをクリックします。

   [色] ダイアログボックスが開きます。新しい背景色を選択します。[色] ダイアログボックスについての詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。

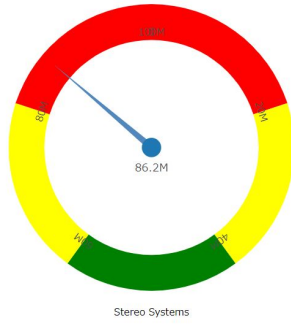
4. [OK] をクリックします。

   グラフに新しい背景色が表示されます。

メータグラフのフォーマット設定

メータグラフは、所定の目盛り範囲に単一データ値の現在位置を示す円形のグラフです。

下図は、メータグラフを示しています。



[メータフォーマット] ダイアログボックスのメータグラフオプションを使用して、メータグラフの外観を変更することができます。[メータフォーマット] ダイアログボックスを開くには、[フォーマット] タブの [機能] グループで [メータ] をクリックします。

メータフォーマットダイアログボックス

リボンまたはコンテキストメニューを使用してメータオプションにアクセスすると、[メータフォーマット] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、メータグラフのフォーマットを設定します。メータグラフのタイトルを設定し、スタイルを適用するオプション、目盛りを設定するオプション、色バンドを有効にし、スタイル設定するオプションのほか、メータの始点角度および終点角度の設定などの詳細設定があります。

[メータフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般オプション
- 軸目盛りとラベル
- 目盛り
- バンド
- 詳細

[全般オプション] タブでは、一般的なメータオプションを設定します。

[全般オプション] タブには、次のオプションがあります。

- **複数のメータ**　各行に表示するメータの個数を入力または選択します。デフォルト設定では、2 つのメータグラフが表示されます。各行には、最大で 32 個のメータグラフを表示することができます。

  注意：1 行に表示されるグラフの数は、選択した出力フォーマットによって異なる場合があります。たとえば、HTML フォーマットの場合は 1 行に 2 つのグラフが表示され、HTML5 の場合は 4 つのグラフが表示されます。

メータタイトル

- **タイトルの表示**　(デフォルト) 各メータのメータタイトルを表示します。このオプションの選択を解除して、タイトルを非表示にします。
- **位置**　メータタイトルの位置を選択します。デフォルト値は [上] です。
- **スタイル**　このアイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、メータタイトルテキストのスタイルを設定することができます。

メータ値

- **値の表示**　(デフォルト) このオプションの選択を解除して、メータ値を非表示にします。
- **スタイル**　このアイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、メータ値テキストのスタイルを設定することができます。

- **値フォーマット**　値に適用する定義済みフォーマットのリストを表示します。
- **カスタムフォーマット**　カスタムフォーマットを使用することができます。このオプションは、ラベルフォーマットとして [パターンの使用 / 100] または [パターンの使用] を選択した場合にのみ有効になります。

[軸目盛りとラベル] タブでは、メータ針の軸目盛りおよびラベルのプロパティを設定します。

[軸目盛りとラベル] タブには、次のオプションがあります。

目盛り

- **自動最小値**　(デフォルト) 目盛りの最小値を自動的に設定します。最小値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに数値を入力します。
- **値**　[自動最小値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最小値を入力します。
- **自動最大値**　(デフォルト) 目盛りの最大値を自動的に設定します。最大値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに数値を入力します。
- **値**　[自動最大値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最大値を入力します。

ラベル

- **ラベルの表示**　(デフォルト) 軸の横にラベルを表示します。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
- **ラベルスタイル**　このアイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、ラベルのスタイルを設定することができます。
- **ラベルフォーマット**　このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。[パターンの使用] を選択した場合は、[カスタムフォーマット] テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字の一覧およびその説明については、201 ページの 「 データラベルのフォーマット設定 」 の表を参照してください。
- **カスタムフォーマット**　使用するカスタムフォーマットを [カスタムフォーマット] テキストボックスに入力します。

[目盛り] タブには、メータグラフの目盛りのフォーマットを設定するオプションが表示されます。

[目盛り] タブでは、主目盛りと補助目盛りのそれぞれで次のオプションを設定します。

- **罫線間隔自動** (デフォルト) メータグラフの主目盛り間隔を自動的に計算します。値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに数値を入力します。
- **値** [罫線間隔自動] を選択しなかった場合、このテキストボックスに値を入力します。
- **目盛りの色** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、目盛りの色を選択します。
- **目盛りの長さ** メータグラフの主目盛りの相対的な長さの値を入力します。値の範囲は 0.0 から 0.5 です。最小値に設定すると、主目盛りが非表示になります。

[バンド] タブには、メータグラフの目盛りのフォーマットおよび背景色を設定するオプションがあります。

[バンド] タブには、次のオプションがあります。

- **バンド 1** ドロップダウンメニューに、使用可能なバンドが表示されます。
  - **追加** ドロップダウンメニューから選択したバンドをメータグラフに追加します。メータグラフには最大で 5 つのバンドを作成することができます。
  - **削除** ドロップダウンメニューから選択したバンドをメータグラフから削除します。
- **最小値** メータグラフのクオリティバンドの最小値を入力します。
- **最大値** メータグラフのクオリティバンドの最大値を入力します。
- **境界色** [色] ダイアログボックスを開いて、メータバンドの境界色を編集することができます。

塗りつぶし

- **塗りつぶしなし** クオリティバンドから塗りつぶしを削除します。
- **単色** (デフォルト) クオリティバンドに単一色を適用します。
- **色** このオプションをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、クオリティバンドの色を選択することができます。
- **透明度** スライダを移動して、バンドの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0% です。

[詳細] タブには、メータ針の追加プロパティを設定するオプションが表示されます。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **降順軸**　このオプションを選択して、メータ目盛りを降順で表示します。このオプションの選択を解除すると (デフォルト)、メータ目盛りが昇順で表示されます。
- **ゼロラベルの表示**　軸目盛りにゼロラベルを表示します。これがデフォルト値です。
- **クオリティで中央揃え**　このオプションを選択して、メータ針の中心に、メータ針が指し示しているバンド色と同一の色を表示します。このオプションは、HTML グラフでのみ使用できます。
- **メータ始点角度**　回転角度を入力して、メータが回転する範囲の始点を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) 度から 359 度までです。デフォルト値は、220 度です。
- **メータ終点角度**　回転角度を入力して、メータが回転する範囲の終点を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) 度から 359 度までです。デフォルト値は 320 度です。始点角度を 0 (ゼロ)、終点角度を 180 に設定すると、メータの回転範囲が半円になります。
- **相対内部ラジアス**　値を入力して、メータのバンドおよびラベルの内側半径を、メータ外側との相対値で定義します。値を小さくすると (例、0.0)、内部半径がメータの中心寄りに配置されます。最大値 1.0 に設定すると、内側半径がメータの外側付近に配置されます。
- **相対的な厚み**　値を入力して、メータバンドの相対的な厚みを定義します。値の範囲は、0.0 から 1.0 までです。
- **メータサイズを揃える**　このオプションは、複数カテゴリのメータグラフに適用されます。各行のメータの個数が 3 以上の場合、このオプションを選択して、すべてのメータを同一サイズで表示することができます。

メータ要素のコンテキストメニュー

メータグラフを右クリックすると、メニューに [メータ詳細オプション] が表示されます。このオプションを選択して、[メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。このオプションは、HTML 出力フォーマットを使用する場合にのみ使用できます。

メータプロパティの使用

ここでは、メータプロパティの使用方法について説明します。[メータ] オプションは、[フォーマット] タブの [機能] グループにあります。

注意：このオプションは、メータグラフを作成する場合にのみ使用できます。

手順　各行のメータの個数を設定するには

グラフに複数のメータを表示する場合、各行に表示するメータの個数を指定することができます。

1. 複数の値を含むメータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] を選択します。

   [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [全般オプション] タブの [複数のメータ] テキストボックスで、各行に表示するメータの個数を入力または選択します。
4. [OK] をクリックします。

   各行に表示するメータの個数をデフォルト値の 2 から 3 に変更した結果、すべてのグラフが 1 行に表示されています。

手順　軸目盛りの最大値と最小値を設定するには

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] を選択します。

   [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [軸目盛りとラベル] タブの [目盛り] エリアで、自動的に割り当てられる目盛りの最小値と最大値を受容するか、[値] テキストボックスに新しい値を入力します。
4. [適用] をクリックします。

   選択したオプションがメータ目盛りに反映されます。

手順　軸ラベルのスタイルを設定するには

1. メータグラフを作成します。

2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで [メータ] をクリックし、[メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。[メータフォーマット] ダイアログボックスで [軸目盛りとラベル] タブを開きます。[ラベル] エリアで、[ラベルスタイル] アイコンをクリックします。
   - **コンテキストメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[ラベルスタイル] を選択します。

   [スタイル] ダイアログボックスが開きます。

3. スタイルオプションを選択します。
4. [OK] をクリックします。

   選択したスタイルが軸ラベルに反映されます。

手順 軸ラベルのフォーマットを設定するには

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、軸ラベルのフォーマットオプションにアクセスします。

   - **リボン** [フォーマット] タブの [機能] グループで [メータ] をクリックし、[メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。[メータフォーマット] ダイアログボックスで [軸目盛りとラベル] タブを開きます。[ラベル] エリアで、[ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューを開きます。
   - **コンテキストメニュー** ラベルを右クリックし、[ラベルフォーマット] を選択します。

   選択可能なフォーマットオプションのメニューが開きます。

3. フォーマットオプションを選択します。

   注意：[メータフォーマット] ダイアログボックスでカスタムフォーマット ([パターンの使用] または [パターンの使用 /100]) を選択した場合、[カスタムフォーマット] メニューが使用可能になります。[パターンの使用] を選択した場合は、[カスタムフォーマット] テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字の一覧およびその説明については、201 ページの 「 データラベルのフォーマット設定 」 の表を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

   選択したフォーマットが軸ラベルに反映されます。

手順　軸ラベルを回転するには

1. メータグラフを作成します。
2. 軸ラベルを右クリックします。
3. コンテキストメニューから [回転] を選択した後、ラベルの回転角度を選択します。

手順　メータ目盛りを設定するには

ここでは、主目盛りおよび補助目盛りの罫線間隔、色、長さを設定する方法について説明します。

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] を選択します。

   [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [目盛り] タブで、[罫線間隔自動] を選択して自動設定される値を受容するか、[罫線間隔自動] のチェックを外し、[値] テキストボックスに値を入力します。
4. [目盛りの色] アイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、目盛りの色を選択することができます。
5. [目盛りの長さ] では、自動的に設定される値を受容するか、[値] テキストボックスに値を入力します。

手順　メータの色バンドを設定するには

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] を選択します。

   [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [バンド] タブで、メータグラフに表示するバンドごとに最小値および最大値を設定します。

4. それぞれの色バンドの塗りつぶしおよび境界の色を設定します。

   注意：色バンドでは、グラデーションオプションは使用できません。

5. [OK] をクリックして、[メータフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   指定したフォーマットが色バンドに適用されます。

手順　メータ針の中心にバンドと同一色を表示するには (クオリティで中央揃え)

このオプションを使用して、メータ針の中心に、メータ針が指し示しているバンドと同一の色を表示することができます。

1. メータグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。

   [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

3. [バンド] タブで、メータグラフに表示するバンドごとに最小値および最大値を設定します。
4. それぞれの色バンドの塗りつぶしおよび境界の色を設定します。

   注意：メータ針では、グラデーションおよび透明度のオプションは使用できません。

5. [詳細] タブで、[クオリティで中央揃え] を選択します。

   注意：このオプションは、HTML フォーマットの場合にのみ表示され、HTML5 フォーマットの場合は表示されません。

6. [OK] をクリックして、[メータフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   メータ針の中心に、バンドと同一の色が表示されます。

手順　メータ針のスタイルを設定するには (HTML5 選択時は設定できません。)

ここでは、メータ針のスタイルを [標準] から [ペンシル] に変更する方法について説明します。

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] ダイアログボックスを開きます。

   - **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[メータ] をクリックします。
   - **コンテキストメニュー**　メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] を選択します。

3. [メータフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

4. [全般オプション] タブの [メータ針] セクションで、[スタイル] ドロップダウンメニューから [ペンシル] を選択します。
5. [OK] をクリックします。

   メータ針のスタイルがペンシルになります。

手順　複数シリーズのメータグラフでメータ針の色を設定するには (HTML5 選択時は設定できません。)

複数シリーズのメータグラフの場合、[メータフォーマット] ダイアログボックスの [全般オプション] タブでメータ針の塗りつぶし色および境界色を変更することはできません。これを行うには、[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを使用します。ただし、[全般オプション] タブでメータ針のスタイルを変更することは可能です。

1. 複数のメジャーフィールドを使用してメータグラフを作成します。
2. [シリーズ] タブの [選択] グループのドロップダウンメニューから、スタイルを適用するシリーズを選択します。
3. [スタイル] グループの [スタイル] をクリックします。

   [シリーズフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
4. [塗りつぶし] タブで、選択したシリーズのメータ針に適用する塗りつぶしおよび色のオプションを選択します。
5. メータ針に境界を表示する場合は、[境界] タブで [境界色の表示] を選択します。境界の色を選択することもできます。
6. [適用] をクリックします。
7. メータ針にスタイルを適用するシリーズごとに、手順 2 から 5 を繰り返します。
8. すべての設定が完了した後、[OK] をクリックして [シリーズフォーマット] ダイアログボックスを閉じます。

   メータ針の色および境界が変更されます。

ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定

ページ見出しとページ脚注は、グラフの目的、対象、作成者など、状況および主要な情報を提供します。ページ見出しとページ脚注によって、視覚的効果を高めることもできます。

手順　グラフにページ見出しとページ脚注を追加するには

この手順では、サンプルの値を使用しますが、実際のグラフは、各自の実際の値を入力することができます。

この機能は、[クエリ]、[ライブプレビュー]、[ドキュメント] デザインビューで使用可能です。

1. グラフを作成します。
2. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[見出し/脚注] をクリックします。

   [見出しと脚注] ダイアログボックスが開きます。

   ヒント：[見出しと脚注] ダイアログボックスにアクセスするには、[見出し/脚注] ボタン横の矢印をクリックする方法もあります。これにより、ドロップダウンメニューが開き、操作の対象として、見出しまたは脚注を選択することができます。選択すると、[見出しと脚注] ダイアログボックスが開き、選択した見出しまたは脚注がアクティブになります。
3. ページ見出しまたはページ脚注のタブをクリックします。

   デフォルト設定では、[ページ見出し] タブが選択されています。この手順では、デフォルト設定を受容して、最初にページ見出しを追加します。
4. このダイアログボックスのデザインエリア内をクリックし、ページ見出しテキストを入力します。

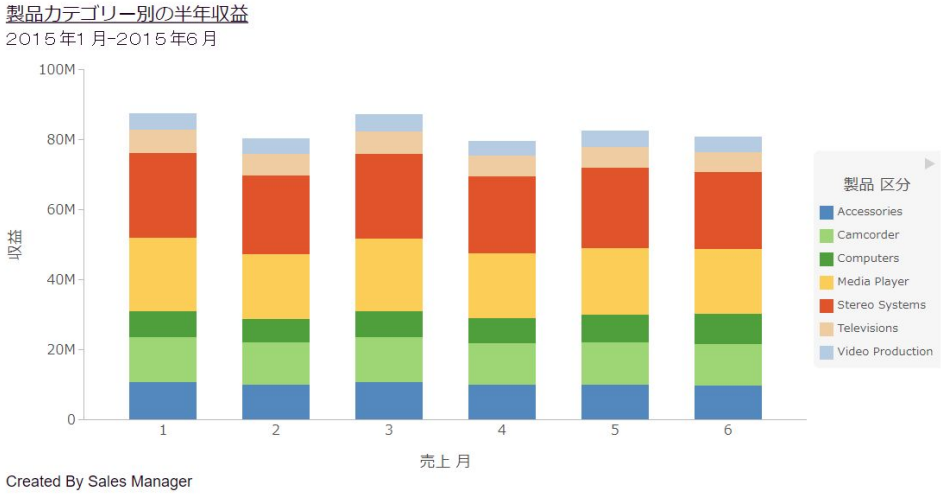
   この例では、ページ見出しのテキストとして「Customers By Occupation」と入力します。
5. [スタイル] リボンを使用して、ページ見出しテキストにスタイルを適用します。

   たとえば、14 pt を選択します。太字の Helvetica フォント、中央揃えに設定されています。
6. [適用] をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに、これまでに加えた変更を保存します。
7. [ページ脚注] をクリックして、ページ脚注を追加します。

   この手順では、提供されている定型句オプションの 1 つを追加してから、独自のテキストを追加します。
8. [定型句] ボタン横の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから [作成者] を選択します。
9. 定型句として入力されたテキストに、たとえば「Sales Manager」となるよう、適切なテキストを入力して、テキストを完成させます。
10. 必要に応じて、スタイルを変更します。
11. [OK] をクリックして、ページ見出しとページ脚注に加えた変更を保存し、[見出しと脚注] ダイアログボックスを閉じます。

    グラフにページ見出しおよびページ脚注が追加され、指定したスタイルが適用されます。

下図は、見出しと脚注のスタイルが設定されたグラフを示しています。



12. ページ見出しまたはページ脚注に変更を加える場合は、デザイン表示に戻ります。見出しまたは脚注を右クリックし、ドロップダウンメニューから [編集] を選択します。

手順　ページ見出しとページ脚注の表示方法を制御するには

ページ見出しとページ脚注が実行時にグラフに表示される方法を制御することができます。

1. グラフを作成します。
2. 260 ページの 「 グラフにページ見出しとページ脚注を追加するには 」 の説明に従って、[見出しと脚注] ダイアログボックスを開きます。
3. スタイルリボンの [グラフのテキストオプション] ボタン  をクリックして、フィールドリストの代わりに関数リストを表示することもできます。

   ドロップダウンメニューが開き、ページ見出しとページ脚注の 2 つの表示オプションが表示されます。

   ヒント：ページ見出しに対して選択したオプションは、ページ脚注にも適用されます。また、その逆も同様です。

   - [見出しと脚注をテキストとして作成] を選択すると、見出しと脚注は、グラフイメージとは別のテキスト要素として表示されます。
   - [見出しと脚注をグラフに埋め込み] オプションを選択すると、見出しと脚注は、グラフイメージの一部として表示されます。これがデフォルト値です。

4. [OK] をクリックして選択内容を保存し、[見出しと脚注] ダイアログボックスを閉じます。

その他のフォーマット機能の使用

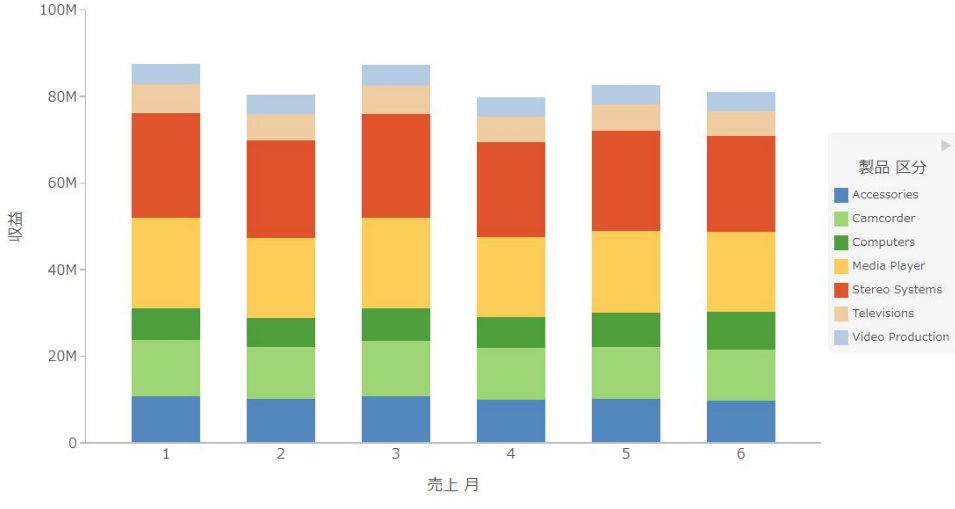
ここでは、グラフで使用可能なその他のフォーマット機能について説明します。

手順　棒グラフで 3D 表示を設定するには

2D グラフに 3D 表示を適用することができます。

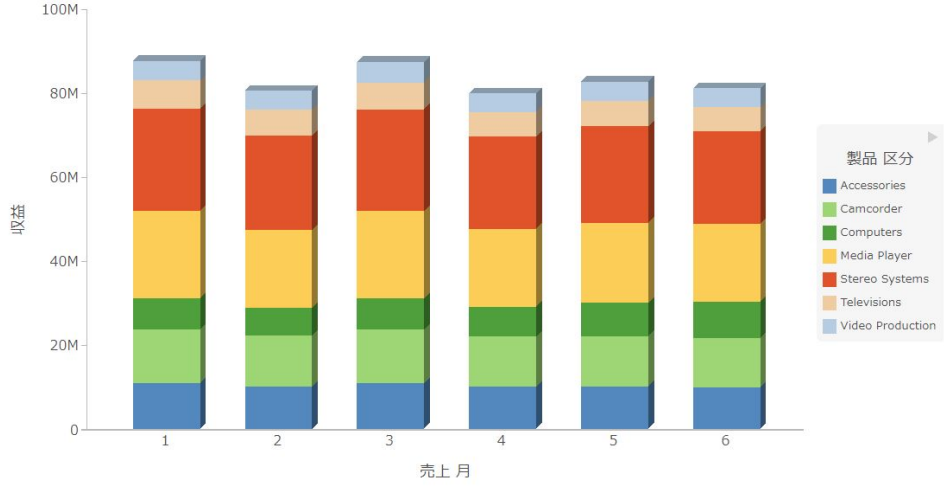
注意：3D 表示の奥行きのために Y 軸目盛り値の判読が困難になる場合は、このオプションをオフにすることができます。この手順では、デフォルトの縦棒グラフに 3D 表示を設定する方法について説明します。

下図は、3D 表示を適用する前の棒グラフを示しています。



1. 2D グラフを作成します。
2. [ライブプレビュー] デザインビューで、次のいずれかの方法で 3D 表示を適用します。
   - ❏ **リボン**　[フォーマット] タブの [機能] グループで、[3D 表示] をクリックします。
   - ❏ **コンテキストメニュー**　グラフのフレームを右クリックし、[3D 表示]、[オン] を順に選択します。

下図のように、グラフに 3D 表示が適用されます。



手順　グラフを回転するには

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフを回転させてデータの方向を変更することができます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[回転] をクリックします。

   グラフは時計回りに 90 度回転します。

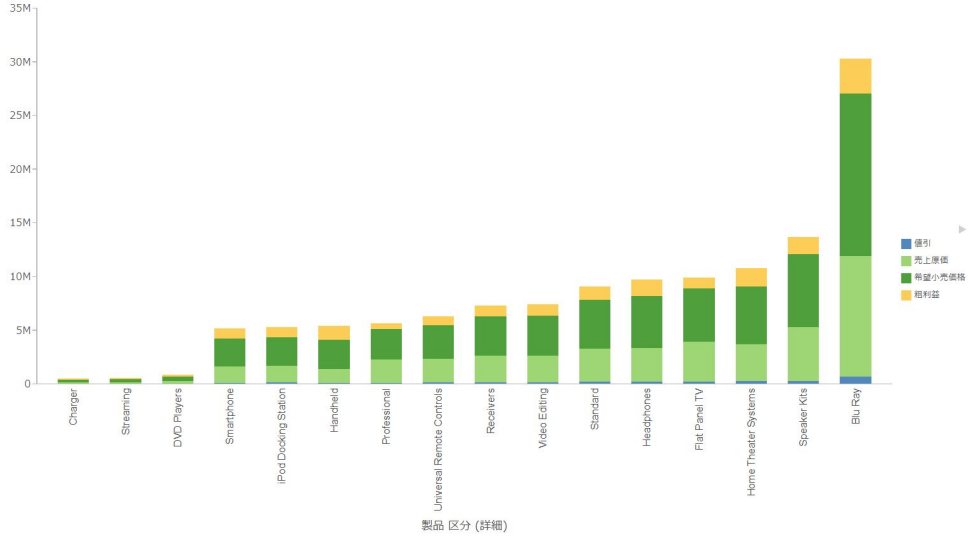
手順　合計値でグラフをソートするには

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフを作成後、結果を昇順または降順でソートすることができます。これは特に積み上げ棒グラフに実装された機能ですが、前述のグラフタイプにも適用されます。この機能を使用すると、データを数値順に表示できるため、傾向の識別やデータポイントの優先順位の特定が可能になります。

注意：この機能は、グラフおよびビジュアライゼーションモードで使用できます。

1. 少なくとも 1 つのメジャーと 1 つのディメンションを使用して、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのいずれかを作成します。
2. [クエリ] ウィンドウで [横軸] を右クリックし、[合計値でソート] を選択します。

3. カスケードメニューから [昇順] を選択すると、下図のように、グラフ内の値が小さい方から大きい方へソートされます。



4. [降順] を選択すると、グラフ内の値が大きい方から小さい方へソートされます。

手順　静的な参照線を表示するには

グラフには、横 (X 軸) 方向と縦 (Y 軸) 方向に、それぞれ最大で 3 つの参照線を追加し、特定のデータ位置を際立たせることができます。グラフには、横 (X 軸) 方向と縦 (Y 軸) 方向に、それぞれ最大で 3 つの参照線を追加することができます。

参照線は、定数または一時項目 (COMPUTE) を使用して作成することができます。

フィールド値を使用すると、プロパティを動的に定義できるため、フィールドに割り当てた値に応じて、グラフ上の参照線の位置を動的に変更することができます。

注意：参照線の値は、「10K」などの単一の値にする必要があります。[参照線] ダイアログボックスで複数値のフィールドを選択すると (例、「販売数量」)、最後の値がグラフに表示されます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[参照] をクリックします。
3. 開いたドロップダウンメニューで、次のいずれかを選択します。
   - ❏ Y 軸に参照線を追加

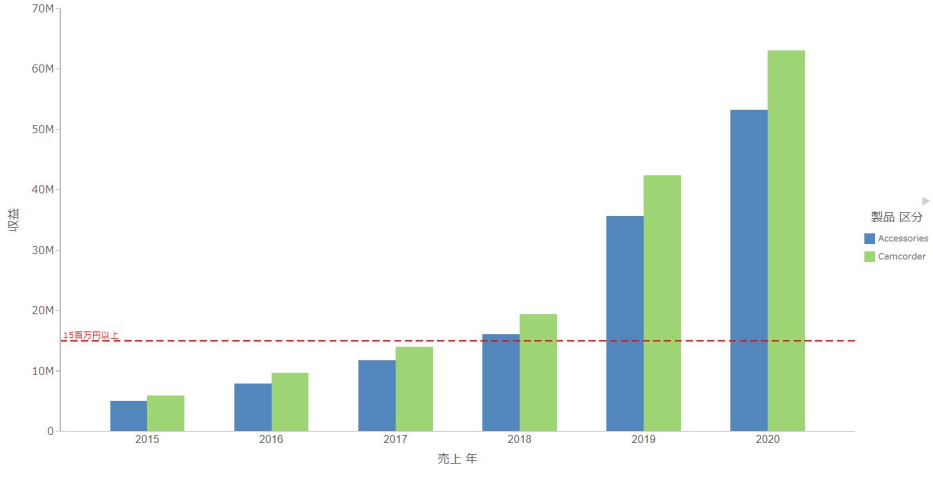
❑ X 軸に参照線を追加

[参照線] ダイアログボックスが開きます。

4. 設定済みの静的な値から、参照線を作成します。
   a. [値] オプションを選択します。
   b. [値] テキストボックスに、参照線で区分する値を入力します。
5. [テキスト] テキストボックスに、参照線のテキストを入力します。
6. [位置] ドロップダウンメニューから、参照線の位置を選択します。たとえば、[左上] を選択します。
7. [スタイル] ボタンをクリックし、参照線のスタイルを設定します。たとえば、[実線] を選択します。
8. [色] ボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、参照線およびテキストの色を選択することができます。
9. [太さ] ボタンをクリックし、参照線の太さを選択します。たとえば、[1px - 細い] を選択します。
10. [OK] をクリックして、選択したオプションを保存し、[参照線] ダイアログボックスを閉じます。

グラフに参照線が追加されます。

下図は、収益を製品区分別 (Accessories および Camcorder) に示した棒グラフです。参照線により、収益が 1500 万ドルを超える年度が明確になります。



手順　動的な参照線を表示するには

参照線は、定数または一時項目 (COMPUTE) を使用して作成することができます。

フィールド値を使用すると、プロパティを動的に定義できるため、フィールドに割り当てた値に応じて、グラフ上の参照線の位置を動的に変更することができます。

注意：参照線の値は、「10K」などの単一の値にする必要があります。[参照線] ダイアログボックスで複数値のフィールドを選択すると (例、「販売数量」)、最後の値がグラフに表示されます。

ここでは、動的な参照線の作成手順について説明します。この参照線の値は、日付に応じて変化します。この例では、運送会社ごとの配送までの概算日数をトラッキングします。配送までの概算日数は、販売日が祝日かどうかに基づいて計算されます。

1. 参照線を計算する一時項目 (COMPUTE) を作成します。
   a. [データ] タブの [演算] グループで、[一時項目 (COMPUTE)] をクリックします。

      [SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスが開きます。
   b. [フィールド] テキストボックスに、「Reference」と入力します。
   c. フォーマットを「D12.2」に設定します。
   d. [式] テキストボックスに、「IF WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_HOL EQ 'Y' THEN 5 ELSE 2」と入力します (wf_retail_lite データソースを使用した場合)。
   e. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
2. 追加された 「Reference」 フィールドを非表示にします。
3. 動的な参照線を追加します。
   a. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[参照] をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから、[Y 軸に参照線を追加] を選択します。

      [参照線] ダイアログボックスが開きます。
   c. [フィールド] オプションを選択します。
   d. ドロップダウンメニューから、[Reference] を選択します。
   e. [テキスト] テキストボックスに、「Acceptable」と入力します。
   f. [太さ] ドロップダウンリストから、[2px - ふつう] を選択します。
   g. [位置] ドロップダウンリストから、[左上] を選択します。
   h. 必要に応じて、参照線の色とスタイルを変更します。

i. [OK] をクリックし、[参照線] ダイアログボックスを閉じます。

4. グラフを実行します。

   参照線が表示されます。

手順　グラフに注釈を表示するには

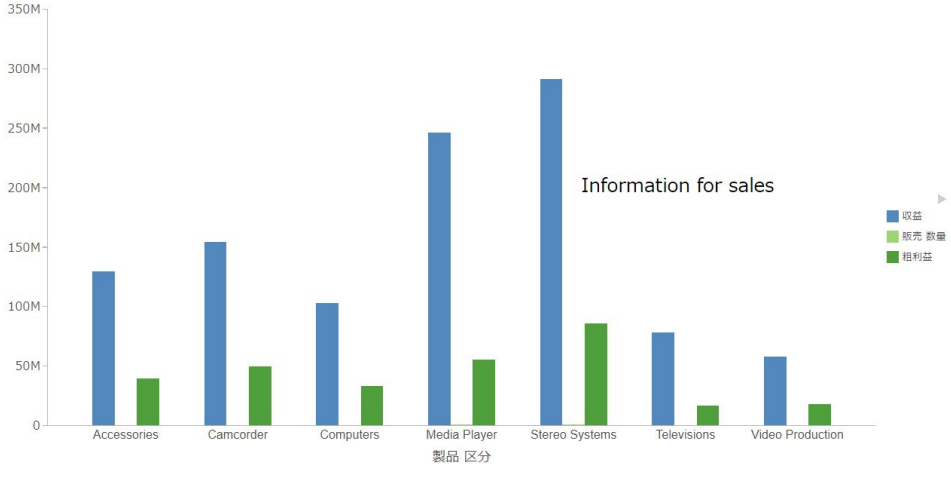
注釈とは、説明テキストやコメントのことです。グラフには、最大で 8 つの注釈を追加することができます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [機能] グループで、[注釈] をクリックします。
3. 開いたドロップダウンメニューで、[注釈の追加] を選択します。

   [注釈] ダイアログボックスが開きます。
4. テキストボックスに、注釈のテキストを入力します。
5. [位置] ドロップダウンメニューから、注釈の位置を選択します。たとえば、[上左] を選択します。
6. [OK] をクリックして、選択したオプションを保存し、[注釈] ダイアログボックスを閉じます。

   グラフに注釈が追加されます。
7. [実行] をクリックしてレポートを生成します。

   下図は、中央右の位置に注釈が追加されたグラフを示しています。



5

ドキュメントの作成とカスタマイズ

[ドキュメント] デザインビューでは、テキスト、イメージ、 フォームコントロール、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成し、使用するデータに基づいて、高度な外観を持つレポートを生成することができます。

[ドキュメント] デザインビューには、レポート作成機能に、スタイル設定およびカスタムドキュメント表示機能が統合されています。

トピックス

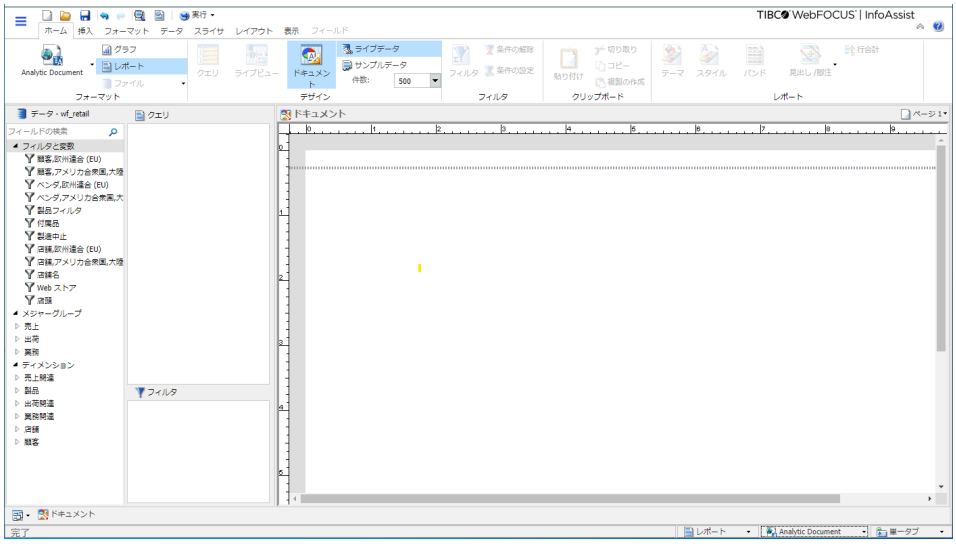
- ドキュメントデザインビューへのアクセス
- ドキュメントの作成

ドキュメントデザインビューへのアクセス

[ドキュメント] デザインビューでは、次のことが可能です。

- 新しいドキュメントを作成する。
- 既存のドキュメントを開く。
- 既存の単一レポートから新しいドキュメントを作成する。

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、下図のようなキャンバスが表示されます。



手順　ドキュメントデザインビューで新しいドキュメントを作成するには

InfoAssist のスプラッシュスクリーンから [ドキュメント] デザインビューにアクセスして、新しいドキュメントを作成することができます。

1. [ドキュメントの作成] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

2. データソースを選択して、ドキュメントの作成を開始します。

   注意：ドキュメントは、複数のデータソースを使用して作成することができます。ここで選択したソースが作業開始時のデータソースになりますが、後から別のデータソースを追加することができます。データソースの追加についての詳細は、40 ページの「 データタブ 」 を参照してください。

3. [開く] をクリックします。

   InfoAssist が起動し、[ドキュメント] デザインビューに新しいキャンバスが開きます。

手順　既存のレポートやグラフをドキュメントデザインビューで開くには

InfoAssist から、既存のレポートやグラフを [ドキュメント] デザインビューで開くことができます。

1. [ドキュメントの作成] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

2. クイックアクセスツールバーで、[レポート、グラフ、ドキュメント、またはビジュアライゼーションの新規作成] をクリックします。

   スプラッシュスクリーンが開きます。

3. [既存のレポート/グラフを取り込む] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

4. レポートかグラフのいずれかを選択します。ドキュメントは、[ドキュメント] アイコンで表されます。

5. [開く] をクリックします。

   選択したドキュメントが [ドキュメント] デザインビューで開きます。

   注意：手順 3 で単一レポートを選択した場合、レポートは [クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。[ドキュメント] デザインビューでレポートのコピーを表示する方法についての詳細は、272 ページの 「 ホームタブおよび表示タブのドキュメントボタンを使用してドキュメントデザインビューを開くには 」 を参照してください。

手順　クイックアクセスツールバーから既存のドキュメントをドキュメントデザインビューで開くには

InfoAssist のクイックアクセスツールバーを使用して、既存のドキュメントを [ドキュメント] デザインビューで開くことができます。

1. InfoAssist を開き、クイックアクセスツールバーの [既存のレポート/グラフを取り込む] アイコンをクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

2. ドキュメントのいずれかを選択します。ドキュメントは、[ドキュメント] アイコンで表されます。

3. [開く] をクリックします。

   選択したドキュメントが [ドキュメント] デザインビューで開きます。

注意：手順 2 で単一レポートを選択した場合、レポートは [クエリ] または [ライブプレビュー] デザインビューで開きます。[ドキュメント] デザインビューでレポートのコピーを表示する方法についての詳細は、272 ページの 「 ホームタブおよび表示タブのドキュメントボタンを使用してドキュメントデザインビューを開くには 」 を参照してください。

手順　ホームタブおよび表示タブのドキュメントボタンを使用してドキュメントデザインビューを開くには

InfoAssist が [ライブプレビュー] または [クエリ] デザインビューで開いている場合は、[デザイン] グループの [ドキュメント] ボタンをクリックすることで、[ドキュメント] デザインビューを開くことができます。[デザイン] グループは、[ホーム] タブと [表示] タブの両方にあります。

[デザイン] グループの [ドキュメント] ボタンをクリックして [ドキュメント] デザインビューを開くと、現在の単一レポートのコピーがドキュメントとして作成されます。この方法で、レポートのコンテンツを [ドキュメント] デザインビューに切り替えることができます。

また、次の手順を実行して、レポートオブジェクトで [ドキュメント] デザインビューを開くこともできます。

注意：レポートオブジェクトを [ドキュメント] デザインビューに変更すると、レポートオブジェクトに存在するレポートおよびグラフがキャンバスに追加されます。

1. InfoAssist でレポートを開き、[ホーム] タブまたは [表示] タブをクリックします。
2. [デザイン] グループで、[ドキュメント] ボタンをクリックします。

   InfoAssist が [ドキュメント] デザインビューになります。

   注意：最初に作成した単一レポートは、元のデザインビューで開いたまま保持されます。単一レポートを開いた状態で [ドキュメント] デザインビューを選択しても、レポートがドキュメントに変換されることはありません。この場合、レポートのコピーが作成され、そのコピーがドキュメントになり、元のレポートは変更されません。

   新しいドキュメントと元のレポートを切り替えるには、[レポート切替] ボタンを使用します。[レポート切替] ボタンは、[表示] タブの [レポート] グループにあります。キャンバス右下のステータスバーの [レポート] ボタンを使用して、ドキュメントとレポートを切り替えることもできます。レポートの切り替えについての詳細は、43 ページの 「 表示タブ 」 を参照してください。

ドキュメントの作成

[ドキュメント] デザインビューでは、同一のキャンバス上で、複数のレポートとグラフを作成することができます。[ライブプレビュー] および [クエリ] デザインビューのスタイル設定、デザイン、レポート作成の各機能は、[ドキュメント] デザインビューでも使用できます。

また、ドキュメントを簡単に作成するための機能も多数用意されています。レポートやグラフの形式で複数のレポートを作成し、それらをドキュメントに挿入することができます。視覚効果や編集に関するイメージおよびテキストを挿入することもできます。

複数データソースからのレポートの挿入

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、キャンバスに複数のグラフとレポートを挿入することができます。レポートで使用するデータソースが異なる場合も、それらのレポートを挿入することができます。ドキュメントを使用する場合、ドキュメントに別のデータソースを追加するオプションがあります。

異なるデータソースを使用する複数のレポートを挿入する場合は、ドキュメントに複数のデータソースがロードされている必要があります。データソースの追加および切り替えについての詳細は、40 ページの 「 データタブ 」 を参照してください。

注意 : レポートオブジェクトを作成する場合は、複数のデータソースを使用することはできません。

手順　異なるデータソースを使用する 2 つのレポートを挿入するには

異なるデータソースを使用する複数のレポートを同一のドキュメントに表示することができます。

1. InfoAssist を [ドキュメント] デザインビューで開き、[挿入] タブをクリックして [レポート] または [グラフ] を選択します。
2. ドキュメントで使用中のデータソースが 1 つの場合は、追加のデータソースを挿入します。

   複数データソースの挿入についての詳細は、40 ページの 「 データタブ 」 を参照してください。
3. 手順 1 で使用したデータソースとは異なるデータソースに切り替えます。

   データソースの切り替えについての詳細は、40 ページの 「 データタブ 」 を参照してください。
4. 274 ページの 「 新規レポートの挿入 」 の説明に従って、この新しいデータソースを使用して、グラフまたはレポートを挿入します。

これで、異なるデータソースのデータを使用する複数のレポートがドキュメントに配置されます。追加可能なデータソースの数に、制限はありません。

新規レポートの挿入

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、キャンバスに複数のグラフとレポートを挿入することができます。ここでは、ドキュメントにレポートを挿入する方法について説明します。

[ドキュメント] デザインビューを使用して、次の方法でレポートを挿入することができます。

- [挿入] タブを使用する。
- フィールドをダブルクリックする。
- キャンバスにフィールドをドラッグする。

注意：[挿入] タブを使用するか、フィールドをダブルクリックした場合、レポートのプレースホルダがキャンバスに追加されます。

フィールドをキャンバスにドラッグした場合、プレースホルダは、フィールドをドロップした位置に挿入されます。

次の手順は、新しいレポートの挿入方法を示しています。既存のレポートの編集方法についての詳細は、282 ページの 「 レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。

手順　レポートを挿入するには

ドキュメントモードで次のいずれかの手順を実行します。

- [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。レポートのプレースホルダにフィールドを追加します。
- [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[レポート] をクリックします。データソース内のフィールドをダブルクリックすると、そのデータソースを使用したレポートが自動的に作成されます。
- [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[レポート] をクリックします。キャンバスにフィールドをドラッグすると、レポートが作成されます。

新規グラフの挿入

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、キャンバスに複数のグラフとレポートを挿入することができます。ここでは、ドキュメントにグラフを挿入する方法について説明します。

[ドキュメント] デザインビューでグラフを挿入するには、次の方法があります。

- [挿入] タブを使用する。
- フィールドをダブルクリックする。
- キャンバスにフィールドをドラッグする。

注意：[挿入] タブを使用するか、フィールドをダブルクリックした場合、グラフのプレースホルダがキャンバスに追加されます。

フィールドをキャンバスにドラッグした場合、プレースホルダは、フィールドをドロップした位置に挿入されます。

次の手順は、新しいグラフの挿入方法を示しています。既存のグラフの編集方法についての詳細は、283 ページの 「 グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。

手順　グラフを挿入するには

1. ドキュメントモードで次のいずれかの手順を実行します。
   - [挿入] タブの [レポート] グループで、[グラフ] をクリックします。グラフのプレースホルダにフィールドを追加します。
   - [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[グラフ] をクリックします。データソース内のフィールドをダブルクリックすると、そのデータソースを使用したグラフが自動的に作成されます。
   - [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[グラフ] をクリックします。キャンバスにフィールドをドラッグすると、グラフが作成されます。
2. 必要に応じて、[フォーマット] タブの [グラフ] グループのオプションを使用して、グラフのタイプを変更します。

既存レポートの挿入

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、[挿入] タブを使用してキャンバスに既存のグラフとレポートを挿入することができます。挿入時に、これらのコンポーネントは参照されますが独立性は保持されます。これにより、再利用可能なコンテンツを使用したモジュール開発がサポートされます。変更は、コンポーネントごとに個別に行う必要があります。その後、生成時にこれらの変更がドキュメントに反映されます。

注意

- [ドキュメント] デザインビューで作業する際は、HOLD ファイル出力が指定された既存レポートをドキュメントに挿入することはできません。

- 既存のレポートを挿入し (-INCLUDE 構文で参照されている作成済みレポート)、そのレポートをキャンバス上で選択した場合、[クエリ] ウィンドウにデータフィールドは表示されません。
- [複数グラフ] フィールドコンテナにフィールドが追加されたグラフを作成した後、そのグラフを新しいドキュメントに既存レポートとして挿入すると、デフォルト設定で、元のグラフの [複数グラフ] フィールドコンテナのフィールドが、ドキュメントの [複数レポート/グラフ] フィールドコンテナに自動的に配置されます。このフィールドを別のフィールドで上書きしてドキュメントを保存した場合、変更は既存レポートに書き戻されません。ドキュメントを元に戻すと、元のレポートの設定も元に戻ります。

次の手順に従って、新規ドキュメントにレポートを挿入したり、レポート、テキスト、イメージが追加済みの既存ドキュメントにレポートを挿入したりすることができます。

手順　挿入タブを使用して既存のレポートを挿入するには

1. InfoAssist を [ドキュメント] デザインビューで開き、[挿入] タブをクリックします。
2. [レポート] グループで、[取り込み] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。
3. 挿入するレポートを選択し、[開く] をクリックします。

   レポートのプレースホルダがキャンバスに追加されます。

   注意：ドキュメントに挿入された既存のレポートを編集することはできません。

単一レポートからのドキュメントの作成

[ライブプレビュー] または [クエリ] デザインビューで作成された単一レポートを選択してドキュメントに変換し、[ドキュメント] デザインビューで表示することができます。

単一レポートをドキュメントに変換した場合、元のレポートは保持され、そのレポートのコピーがドキュメントとして [ドキュメント] デザインビューで開きます。その後、レポート、グラフ、イメージ、テキストを追加することができます。

テキストとイメージの挿入

InfoAssist の [ドキュメント] デザインビューでは、キャンバスにテキストとイメージを挿入することができます。次の手順に従って、テキストおよびイメージを、新規ドキュメントに挿入したり、レポート、テキスト、イメージが追加済みの既存ドキュメントに挿入したりすることができます。

注意：この操作は、[ドキュメント] デザインビューでのみ実行できます。

次の手順に従って、テキストとイメージを挿入します。テキストとイメージの編集方法についての詳細は、277 ページの 「 ドキュメント内のコンポーネントの編集 」 を参照してください。

手順　テキストを挿入するには

1. InfoAssist を [ドキュメント] デザインビューで開き、[挿入] タブをクリックします。
2. [オブジェクト] グループで、[テキスト] をクリックします。

   テキストコンポーネントがキャンバスに追加され、デフォルトテキストが表示されます。
3. テキストコンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして、テキストを編集します。

   テキストの編集とスタイル設定についての詳細は、283 ページの 「 テキストを編集するには 」 を参照してください。

手順　イメージを挿入するには

1. InfoAssist を [ドキュメント] デザインビューで開き、[挿入] タブをクリックします。
2. [オブジェクト] グループで、[イメージ] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

   注意：デフォルト設定で、[開く] ダイアログボックスには、現在の WebFOCUS コンテンツフォルダに存在するイメージファイルのリストが表示されます。
3. イメージを選択し、[開く] をクリックします。

   選択したイメージがキャンバスに追加されます。

ドキュメント内のコンポーネントの編集

ドキュメント内のレポート、コントロール、テキストは、編集、移動、サイズ変更、削除することができます。コンポーネントのそれぞれを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

イメージは、移動、サイズ変更、削除が可能ですが、コンテキストメニューは表示されず、編集することはできません。イメージを右クリックすると、イメージを削除するオプションが表示されます。

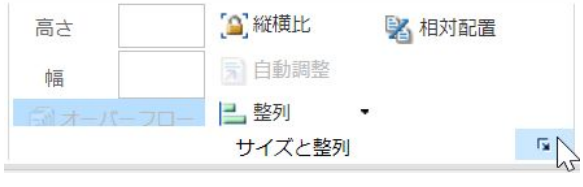
手順　コンポーネントのサイズを変更するには

コンポーネントのサイズは、次の方法で変更することができます。

- コンポーネントのサイズハンドルを使用する。
- [ドキュメント] タブの [サイズと整列] グループで高さと幅を変更する。
- [サイズと位置] ダイアログボックスの [サイズ] タブに表示されたオプションを使用する。

サイズの変更機能は、ドキュメントに追加可能なすべてのコンポーネントに対して使用できます。

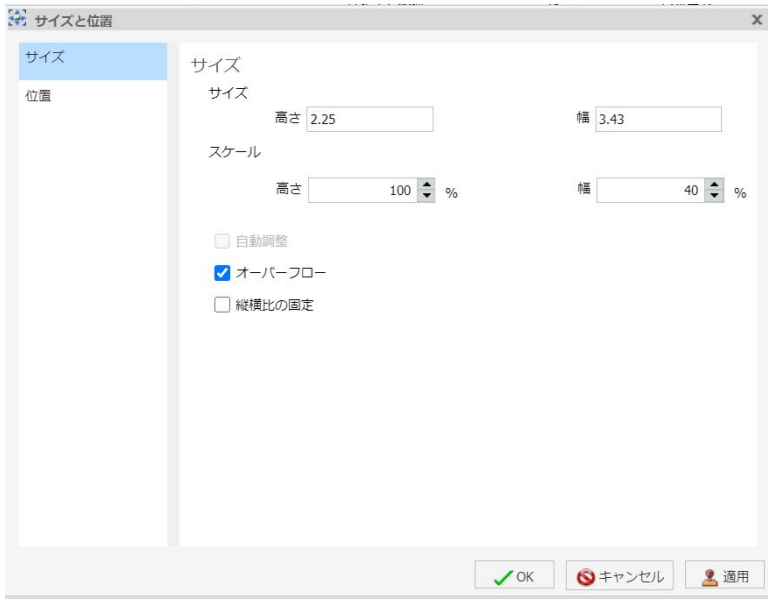
1. レポート、テキストコンポーネント、コントロール、イメージのいずれかが少なくとも 1 つ含まれている既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. 次のいずれかの方法でコンポーネントのサイズを変更します。
   - **サイズハンドル**　コンポーネントを選択し、コンポーネント周囲に表示されるサイズハンドルをドラッグします。コンポーネントの高さおよび幅を手動で増減すると、[レイアウト] タブの [サイズと整列] グループのそれぞれのテキストボックスに新しい値が表示されます。
   - **リボン**　次のいずれかの方法でリボンを使用することができます。
     - ドキュメント内のコンポーネントを選択します。[レイアウト] タブの [サイズと整列] グループで、[高さ] および [幅] テキストボックスに値を入力します。
     - 下図のように、[レイアウト] タブの [サイズと整列] グループで、ダイアログボックス起動アイコンをクリックし、[サイズと位置] ダイアログボックスを開きます。



   - **コンテキストメニュー**　コンポーネントを右クリックし、[サイズと位置] を選択します。[サイズと位置] ダイアログボックスが開きます。

     注意：コンポーネントの周囲 (境界線) を右クリックする必要があります。

下図のように、[サイズと位置] ダイアログボックスの [サイズ] タブを開きます。



[高さ] と [幅] のオプションを使用して、選択したコンポーネントの位置を変更します。[サイズ] オプションで、オブジェクトのサイズをピクセル単位で調整することや、[スケール] オプションを使用してオブジェクトの拡大縮小率を調整することができます。

[縦横比の固定] にチェックを入れ、縦横比を固定することができます。このボタンは、[ドキュメント] デザインビューでレポート、グラフ、イメージ、テキストを編集している場合に使用できます。縦横比を固定した場合、幅を変更すると高さが自動的に変更され、コンポーネントの縦横比が保持されます。高さを変更すると、幅が自動的に変更されます。

注意：[オーバーフロー] オプションは、[ドキュメント] デザインビューで作業している場合に限り、[サイズと整列] グループに表示されます。オーバーフローを有効にした場合、レポートの高さおよび幅を手動で設定することはできません。データがすべて表示されるようにレポートの領域が自動的に拡張されます。

2 つのオブジェクトを選択して [相対位置] ボタンをクリックすると、ページの上位に位置するコンポーネントの左下角が、下位のコンポーネントの左上角に配置されます。関係の作成後に両方の項目を選択したままにすると、関係を示す矢印が表示されます。

手順　コンポーネントを移動するには

コンポーネントを移動するには、コンポーネントをクリックするか、[サイズと位置] ダイアログボックスの [位置] セクションを使用します。この機能は、ドキュメントに追加可能なすべてのコンポーネントに対して使用できます。

また、複数のコンポーネントを縦または横の位置を基準に整列することもできます。詳細は、280 ページの 「 コンポーネントを整列するには 」 を参照してください。

1. レポート、テキストコンポーネント、コントロール、イメージのいずれかが少なくとも 1 つ含まれている既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. コンポーネントを選択した後、次のいずれかの方法でコンポーネントを移動します。
   - ❏ コンポーネントをキャンバスの任意の位置にドラッグします。

     または

   - ❏ コンポーネントを右クリックし、[サイズと位置] を選択します。
     - ❏ [サイズと位置] ダイアログボックスで [位置] タブをクリックします。
     - ❏ [縦] と [横] のオプションを使用して、選択したコンポーネントの位置を変更します。

手順　コンポーネントを整列するには

複数のコンポーネントを、縦または横の位置を基準に整列することができます。[整列] オプションを使用するには、複数のコンポーネントを選択する必要があります。

整列の基準としては、選択した位置のオプションに最も近いコンポーネントが使用されます。たとえば、2 つのコンポーネントを選択した後、[左揃え] を選択すると、最も左側にあるコンポーネントを基準にして、これらのコンポーネントが横方向に整列されます。

1. 少なくとも 2 つのコンポーネントで構成される既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. コンポーネントを選択します。
3. Ctrl キーを押しながらコンポーネントをクリックし、2 つ目のコンポーネントを選択します。

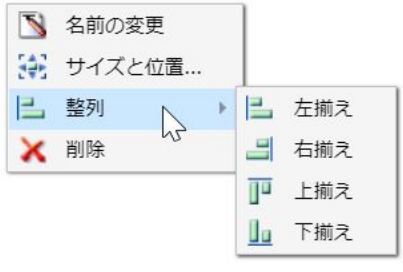
   注意：複数のコンポーネントを同時に選択するには、マウスをドラッグし、複数のコンポーネントを選択ボックスで囲みます。マウスボタンを離すと、選択した各コンポーネントの周囲にサイズハンドルが表示されます。各コンポーネントが薄い灰色で表示されている場合、それらのコンポーネントが選択されていることを示しています。

下図のように、コンポーネントの周囲にサイズハンドルが表示されます。



4. 次のいずれかの方法で、コンポーネントを整列します。

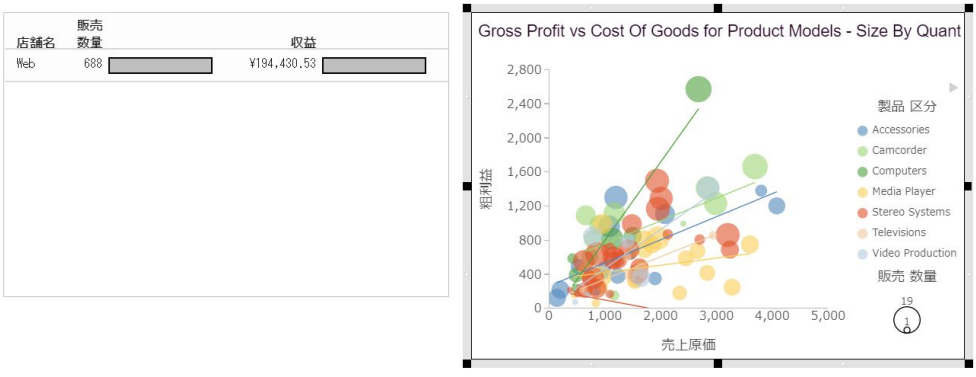
   ❏ 下図のように、選択済みの複数コンポーネントの 1 つを右クリックし、[配置] ドロップダウンメニューから、[整列] オプションを選択します。



   または

   ❏ [整列] ドロップダウンメニューから整列オプションにアクセスします。このメニューは、[レイアウト] タブの [サイズと整列] グループから表示することもできます。

下図のように、選択したコンポーネントが整列されます。



5. キャンバスの任意の位置をクリックして、コンポーネントの選択を解除します。

手順　レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには

コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、280 ページの 「 コンポーネントを移動するには 」 を参照してください。コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネント内のフィールドのいずれかを右クリックし、コンテキストメニューを使用して、選択したフィールドを編集することができます。

レポートのほかに、グラフやテキストにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。グラフについての詳細は、283 ページの 「 グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。テキストについての詳細は、283 ページの 「 テキストを編集するには 」 を参照してください。

注意：イメージを編集することはできません。

1. 少なくとも 1 つのレポートで構成される既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. レポートをクリックします。

   [クエリ] ウィンドウがアクティブになり、このウィンドウでレポート内のフィールドを選択することができます。フィールドを選択するには、キャンバスまたは [クエリ] ウィンドウでフィールドをクリックします。

   レポートのスタイル設定およびカスタマイズについての詳細は、85 ページの 「 レポートの作成とカスタマイズ 」 を参照してください。

手順　グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには

コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、280 ページの 「 コンポーネントを移動するには 」 を参照してください。 コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして個別のフィールドを選択し、コンテキストメニューまたは [フィールド] タブでフィールドを編集することができます。

グラフのほかに、レポートやテキストにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。レポートについての詳細は、282 ページの 「 レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。テキストについての詳細は、283 ページの 「 テキストを編集するには 」 を参照してください。

注意：イメージを編集することはできません。

1. 少なくとも 1 つのグラフで構成される既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. グラフをクリックします。

   [クエリ] ウィンドウがアクティブになり、このウィンドウでグラフ内のフィールドを選択することができます。フィールドを選択するには、キャンバスまたは [クエリ] ウィンドウでフィールドをクリックします。

   ここで、コンテキストメニューやリボンに表示されるコマンドを使用して、選択したグラフを編集することができます。

   グラフのスタイル設定およびカスタマイズについての詳細は、127 ページの 「 グラフの作成とカスタマイズ 」 を参照してください。

手順　テキストを編集するには

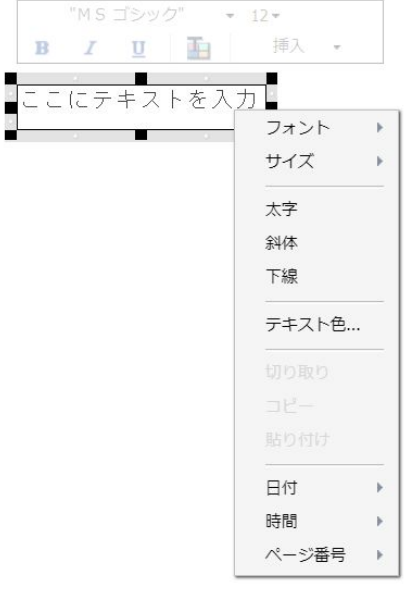
コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、280 ページの 「 コンポーネントを移動するには 」 を参照してください。 コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネント内のフィールドのいずれかを右クリックし、コンテキストメニューを使用して、選択したフィールドを編集することができます。

テキストのほかに、レポートやグラフにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。レポートについての詳細は、282 ページの 「 レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。 グラフについての詳細は、283 ページの 「 グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには 」 を参照してください。

注意：イメージを編集することはできません。

1. 少なくとも 1 つのテキストで構成される既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. テキストをクリックします。

   境界線の周囲にサイズハンドルが表示され、テキストがアクティブになります。
3. テキストの任意の位置をクリックし、テキストを入力します。
4. 編集するテキストを選択して右クリックします。下図のようにメニューが開き、オプションが表示されます。



5. メニューオプションを使用して、テキストにスタイルを設定したり、定型句を挿入したりできます。

   テキストのメニューオプションは、次のとおりです。

   - **フォント**　選択したテキストで使用可能なフォントのリストが開きます。
   - **サイズ**　選択したテキストで使用可能なテキストサイズのリストが開きます。
   - **太字**　選択したテキストを太字に設定します。
   - **斜体**　選択したテキストを斜体に設定します。
   - **下線**　選択したテキストを下線付きにします。

- **フォント色** [色] ダイアログボックスを開いて、選択したテキストの色を指定します。
- **切り取り** 選択したテキストを切り取ります。
- **コピー** 選択したテキストをクリップボードにコピーします。
- **貼り付け** 選択したテキストをクリップボードから貼り付けます。
- **日付** さまざまなフォーマットの日付クイックテキストのリストを開きます。
- **時間** さまざまなフォーマットの時間クイックテキストのリストを開きます。
- **ページ番号** さまざまなフォーマットのページ番号クイックテキストのリストを開きます。

手順 コンポーネントを削除するには

次の手順は、[ドキュメント] デザインビューのすべてのコンポーネントに適用されます。

1. 少なくとも 1 つのコンポーネントで構成される既存のドキュメントを開くか、新規に作成します。
2. コンポーネントを右クリックし、[削除] を選択します。

   選択したコンポーネントがキャンバスから削除されます。

   注意：コンポーネント削除するには、コンポーネントをクリックして Delete キーを押すこともできます。

6

ビジュアライゼーションの作成とカスタマイズ

ビジュアライゼーションは、特定の戦略目標に関するデータをさまざまなビューで表現することで、情報を一元的に提供する視覚化手法です。たとえば、特定の期間や地域におけるデータの傾向や変動を確認したい場合があります。ビジュアライゼーションを使用すると、単一画面に統合された情報が一目瞭然になります。

ビジュアライゼーションでは、さまざまなタイプのグラフ、マップ、リストがサポートされます。たとえば、棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフを使用して、同一データを異なるビューで表示することができます。また、特定のビジュアルを補足するために、別のタイプの関連データを異なるタイプのビジュアルで表示することもできます。さらに、ビジュアライゼーションにテキストセルを追加して、他のユーザが参照できるよう説明テキストや情報を提供することもできます。

ビジュアライゼーションを使用することで、データの変化をモニタすることもできます。ビジュアライゼーションでは、元のデータや他のコンポーネントの変更に応じて、リアルタイムで情報が提供されます。データニーズの変化に伴い、ビジュアライゼーションをいつでも更新、変更、修正することができます。

トピックス

- ビジュアルの作成
- ビジュアルの選択
- ビジュアライゼーションのインタラクティブ操作
- ビジュアライゼーションのカスタマイズ
- ストーリーボードの使用
- ビジュアライゼーションのアニメーション化
- 実行時のビジュアライゼーションの使用

ビジュアルの作成

ビジュアル (グラフ、マップ、リスト) を作成して、データを視覚的に表現することができます。さまざまなビジュアルをキャンバスに追加し、複数のビジュアルで構成されたビジュアライゼーションを作成することができます。

デフォルトのビジュアルは、積み上げ棒グラフです。ビジュアルのタイプを変更するには、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループの [変更] オプションを使用します。

下図のビジュアルは、電化製品別の売上データを示すマトリックスマーカーグラフです。



注意：ビジュアライゼーションでは、キャッシュ機能を利用して、ユーザの操作性を最適化します。ビジュアライゼーションにデータ値を表示するには、日付時間フォーマットではなく、キャッシュでサポートされるレガシー日付フォーマットを使用します。

手順　WebFOCUS でビジュアライゼーションを作成するには

WebFOCUS でビジュアライゼーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. InfoAssist をビジュアライゼーションモードで開きます。
2. [開く] ダイアログボックスでデータソースを選択し、[開く] をクリックします。
3. ビジュアライゼーションに使用するフィールドを選択します。

手順　InfoAssist からビジュアライゼーションを作成するには

別のファイルタイプを開いている場合でも、そのファイルタイプを閉じずに新しいファイルタイプを開くことができます。ビジュアライゼーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. クイックアクセスツールバーの [新規作成] をクリックします。

   または

   アプリケーションメインメニューボタンをクリックし、[新規作成] を選択します。

InfoAssist のスプラッシュスクリーンが開きます。

2. [ビジュアライゼーションの作成] をクリックします。
3. [開く] ダイアログボックスでデータソースを選択し、[開く] をクリックします。

   InfoAssist がビジュアライゼーションモードに切り替わります。

ビジュアルタイプの変更

ビジュアルは、デフォルトのグラフタイプ (積み上げ棒グラフ) を使用して作成することができます。このグラフにデータを追加した後にグラフタイプを変更することも、データを選択する前にグラフタイプを変更することも可能です。

データの追加を開始した後、別のグラフタイプに切り替えて、最終的に表示するグラフィカルイメージを決定します。

ビジュアルタイプは [ホーム] タブで変更します。

手順　ビジュアルタイプを変更するには

1. 下図のように、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで [変更] をクリックします。



   注意：[ビジュアルの選択] メニューから選択したグラフ、マップ、リストに応じて、[変更] アイコンに表示されるイメージが変わります。デフォルト設定では、[変更] アイコンに積み上げ棒グラフのイメージが表示されます。

   [ビジュアルの選択] メニューが表示されます。

2. [ビジュアルの選択] メニューから、使用するビジュアルタイプを選択します。

   キャンバスがリフレッシュされ、選択したビジュアルが表示されます。

   注意：選択したビジュアルタイプによっては、追加のデータフィールドまたは別のデータフィールドの選択が必要になる場合があります。

ビジュアルの選択

ビジュアルを選択する際は、データを分かりやすく表現する最適なグラフ、リスト、マップを選択することが重要です。InfoAssist には、ビジュアルのライブラリが用意されています。

[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで [変更] をクリックし、[ビジュアルの選択] メニューからビジュアルタイプを選択することができます。下表は、選択可能なビジュアルタイプについての説明です。

アイコン	ビジュアルタイプ	説明
	リスト	リストは、データを表形式で表現します。通常のレポートと同様に、行と列のフォーマットでデータを表示することができます。
	集合縦棒	棒グラフは、スケール (グラフの軸に沿って表示される数値または可変メジャーフィールドの尺度) を基準に、長方形のブロックを表示することによって数値データを表します。
	積み上げ縦棒	積み上げ棒グラフがデフォルトビジュアルです。
	ヒストグラム	ヒストグラムは、数値データの分布をグラフィカルに表現するグラフです。ヒストグラムを作成すると、連続するデータの度数分布の識別が容易になります。ヒストグラムを使用して、データを視覚的なグループ (ビンとも呼ばれる) に分類し、傾向を把握することができます。詳細は、173 ページの 「ビニング」 を参照してください。
	絶対縦折れ線	折れ線グラフを使用すると、過去のデータを参照したり、補間したりすることにより、データの変化点を追跡することができます。高低のレベル、遅速の動き、安定に向けての傾向などのトレンドタイプについて説明する場合は、折れ線グラフが適しています。
	絶対値縦面	面グラフは、時間の経過とともに変化する傾向を分析したり、複数の値の差を明確にする場合に使用します。

アイコン	ビジュアルタイプ	説明
	積み上げ縦面	積み上げ面グラフを使用すると、1 つのデータの上に別のデータを積み上げることができます。
	円グラフ	円グラフは、全体に対する各要素の割合を表す円形のグラフです。円グラフは、他の項目と比較してデータがどの程度の割合を占めるかを強調します。
	リング	リンググラフでは、選択したディメンションのメジャー値がセグメントとして表示されます。中央に表示されるメジャーの合計値には各セグメントの値が反映されるため、各メジャー値を確認する場合にリンググラフが役立ちます。
	散布図	両軸上の可変スケールを使用してデータをプロットすることができます。散布図では、データは丸マーカーを使用してプロットされるため、特定ポイントの周囲でのデータ値の密集度やデータパターンの識別が可能になります。
	バブル	バブルグラフは、X と Y のデータ値を表す 2 つのフィールドで構成することも、X、Y、Z のデータ値を 3 つのフィールドで構成することもできます。3 つ目の変数 (Z) は、サイズを表します。各バブルのサイズは、データの相対的な重要度を表すために使用します。
	マトリックスマーカー	マトリックスマーカーグラフは、2 つのカテゴリディメンションのクロス集計を使用して 1 つまたは 2 つのメジャーを分析する際に役立ちます。出力結果は、カテゴリ別の傾向を示す色スケールマトリックスグラフになります。

アイコン	ビジュアルタイプ	説明
	ツリーマップ	ツリーマップは、多数の階層構造データを表示するために使用します。ネストされた長方形の集合体を使用してデータの関係を表現します。ツリーマップの各セクションは、ツリーが分岐していることを示します。
	メータ	メータグラフは、1 つのメジャーの値を表示するために使用します。具体的には、所定の範囲に単一データ値を表す場合に円形メータグラフを使用します。1 つのメジャーに対する単一の円形メータグラフを作成することも、選択したメジャーの値を複数のディメンション (例、製品区分、売上年) で比較するマトリックス円形メータグラフを作成することもできます。
	コロプレスマップ	地理情報に基づくヒートマップです。このグラフは、位置に基づくデータ、傾向、地域分布の視覚化に役立ちます。
	バブルマップ	サイズの異なるシンボルで、地域や位置それぞれに関連するデータを表示します。
	ヒートマップ	ヒートマップは、マトリックスを構成する値のそれぞれを色で表現したグラフです。凡例で定義された色と比較しながら、データの関連性の度合いを追跡することができます。
	マップ	Lightweight Mapping 機能の一部である Leaflet マップを使用して、データの傾向を視覚化することができます。使用可能なマップタイプとして、コロプレスマップおよびプロポーショナルシンボルマップがあります。 **注意：**Leaflet マップには ESRI 機能は統合されていません。

注意

- 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、円グラフ、散布図、バブルグラフ、メータグラフ、ツリーマップのいずれかに新しいデータを追加すると、グラフが再作成され、滑らかな動きで新しい値が表示されます。
- 標準のグラフタイプ以外に、管理者は任意の数の拡張グラフを有効にすることができます。これらの拡張グラフは、ダウンロードされた後、現在の WebFOCUS インストールディレクトリ下にインストールされます。詳細は、管理者に問い合わせてください。
- Microsoft Analysis Services はサポートされますが、ビジュアライゼーションモードで [データ] ウィンドウに親子階層が表示されません。

上記の説明を参照して、ビジュアルを選択して作成します。

リスト

リストは、データを表形式で表現します。通常のレポートと同様に、行と列のフォーマットでデータを表示することができます。

下図では、次のメジャーフィールドのデータが売上年別および製品区分別のリストとして作成されています。

- 収益

- ❏ 粗利益

売上 年	製品 区分	収益	粗利益
2018	Accessories	¥16,060,415.69	¥4,945,779.69
	Computers	¥7,857,928.55	¥3,376,380.55
	Media Player	¥30,105,200.05	¥6,730,870.05
	Televisions	¥9,295,726.31	¥1,964,927.31
	Video Production	¥7,313,170.38	¥2,286,521.38
2019	Accessories	¥35,619,872.81	¥10,953,840.81
	Computers	¥24,176,475.33	¥8,277,897.33
	Media Player	¥65,002,426.97	¥14,480,370.97
	Televisions	¥20,042,855.67	¥4,262,155.67
	Video Production	¥15,959,696.26	¥4,938,902.26
2020	Accessories	¥53,208,007.57	¥16,362,313.57
	Computers	¥63,190,001.88	¥18,677,664.88
	Media Player	¥99,448,235.40	¥22,237,625.40
	Televisions	¥30,964,700.29	¥6,560,087.29
	Video Production	¥23,810,094.17	¥7,330,486.17

リストを使用する際に、フリーハンド選択 (ラッソ選択) で複数の値を囲むことで、リストにフィルタを適用したり、リストから一部の値を除外したりすることができます。

注意：ビジュアライゼーションモードで [リスト] ビジュアルを使用する際に、多数のフィールドをリストに追加すると、サーバレスポンスが遅くなる場合があります。

手順　リストを作成するには

1. 現在のビジュアルをリストに変更するか、新しいリストを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [行] または [列] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [メジャー] - 1 つまたは複数のデータフィールド

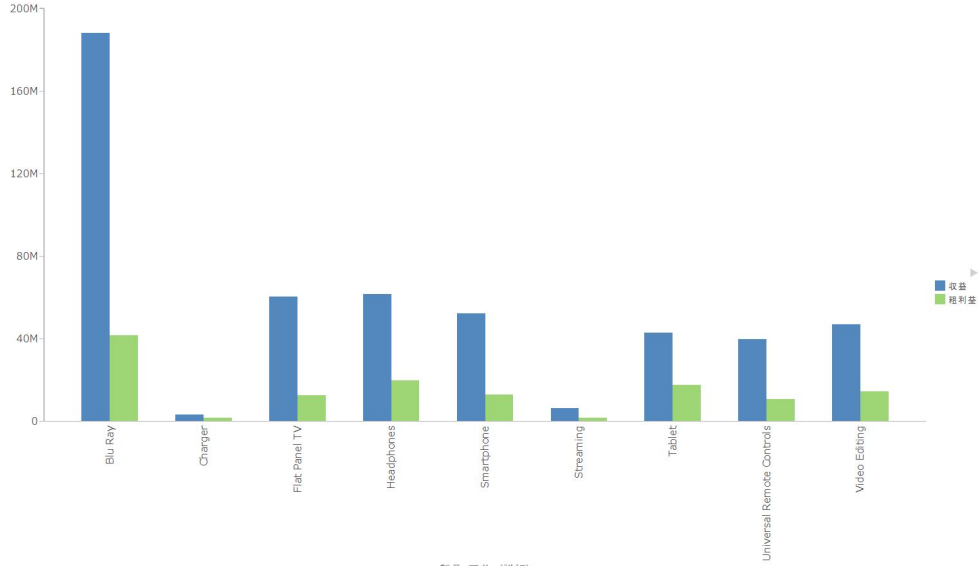
   [クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナでデータフィールドの追加、編集、または順序変更を行うと、キャンバスがリフレッシュされます。

棒グラフ

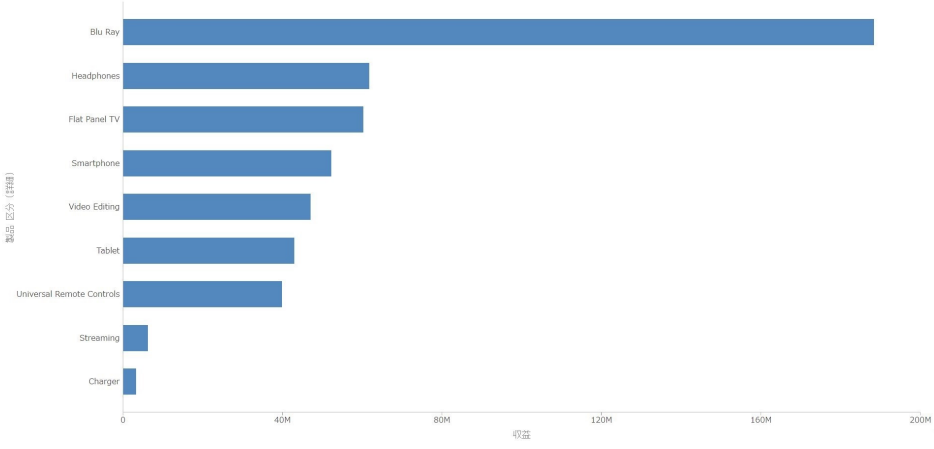
棒グラフは、スケール (グラフの軸に沿って表示される数値または可変メジャーフィールドの尺度) を基準に、長方形のブロックを表示することによって数値データを表します。棒の長さは、各データの値または数量に相当します。棒の相対的な高さで、データシリーズ (フィールド) を比較することができます。棒グラフは、数値データの分布を表します。作成可能な棒グラフには、横棒グラフと縦棒グラフがあります。

注意：大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。ビジュアライゼーションモードでは、スクロールバーは自動的に有効になりますが、スクロールバー表示の有効と無効を切り替える場合は、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンまたはオフにします。他のモードで作業する場合は、この機能を手動で有効にする必要があります。

棒グラフは、個々の値が重要な意味を持つ場合に使用します。下図の例は、販売された個々の製品と、各製品の売上総数を比較する基本的な縦棒グラフです。販売店では、売れ筋製品や各製品の売上高を知ることが重要になります。



横棒グラフは、値の大きい方から並べて順位を強調する場合や、X 軸ラベルが長すぎて横に並べて表示できない場合に使用すると便利です。下図の例は、販売店で売上高の多い順に製品を順位付けした基本的な横棒グラフです。



注意：棒グラフのデータの方向を逆にすることができます。これを行うには、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで [入れ替え] をクリックします。

手順　新しい棒グラフを挿入するには

1. 現在のビジュアルを棒グラフに変更するか、新しい棒グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - ❏ [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに棒グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、棒グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　積み上げ棒グラフを作成するには

デフォルトのビジュアルは、積み上げ棒グラフです。

1. 現在のビジュアルを積み上げ棒グラフに変更するか、新しい積み上げ棒グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに積み上げ棒グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、積み上げ棒グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　マトリックス棒グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを棒グラフに変更するか、新しい棒グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [マトリックス行] - 3 つまでのデータフィールド
   - ❏ [マトリックス列] - 3 つまでのデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスにマトリックス棒グラフが表示されます。データを比較するために別のフィールドを追加することができます。また、マトリックス棒グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

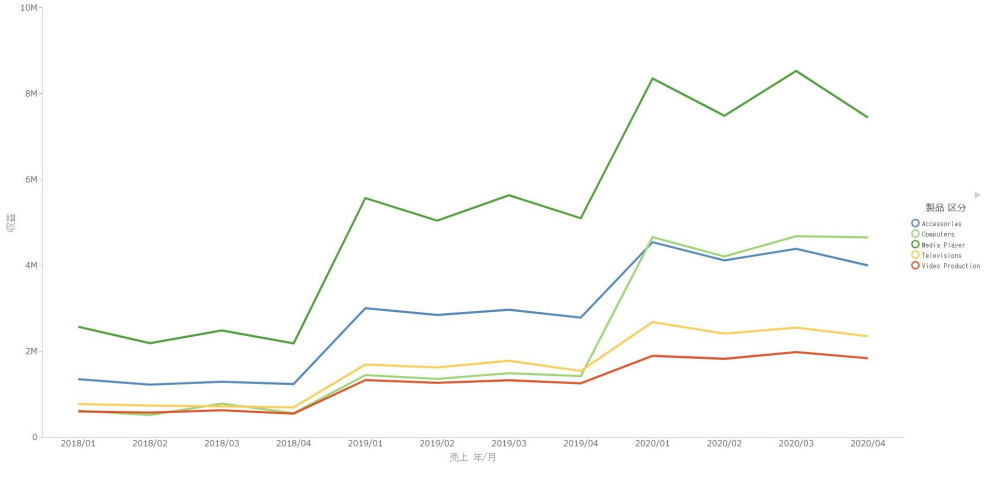
折れ線グラフ

折れ線グラフを使用すると、過去のデータを参照したり、補間したりすることにより、データの変化点を追跡することができます。高低のレベル、遅速の動き、安定に向けての傾向などのトレンドタイプについて説明する場合は、折れ線グラフが適しています。

また、折れ線グラフに複数のスケールを使用して、異なる期間においての同一または複数のデータ値を比較することもできます。

注意：大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。ビジュアライゼーションモードでは、スクロールバーは自動的に有効になりますが、スクロールバー表示の有効と無効を切り替える場合は、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンまたはオフにします。他のモードで作業する場合は、この機能を手動で有効にする必要があります。

折れ線グラフは、時間の経過とともに変化するデータの動向を表す場合に使用します。たとえば、雇用統計の月別変化や、全製品の中で特定の製品の年別売上高を表します。下図は、製品区分ごとに売上月別の収益を示す折れ線グラフビジュアルです。



手順　折れ線グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを折れ線グラフに変更するか、新しい折れ線グラフを挿入します。

2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [色] - 1 つのデータフィールド (オプション)

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   分析指標を追加するには、[クエリ] ウィンドウの [色] フィールドコンテナにデータフィールドをドラッグします。これにより、そのフィールドの値が色分け表示されます。

   キャンバスに折れ線グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、折れ線グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　マトリックス折れ線グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを折れ線グラフに変更するか、新しい折れ線グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [マトリックス行] - 3 つまでのデータフィールド
   - [マトリックス列] - 3 つまでのデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

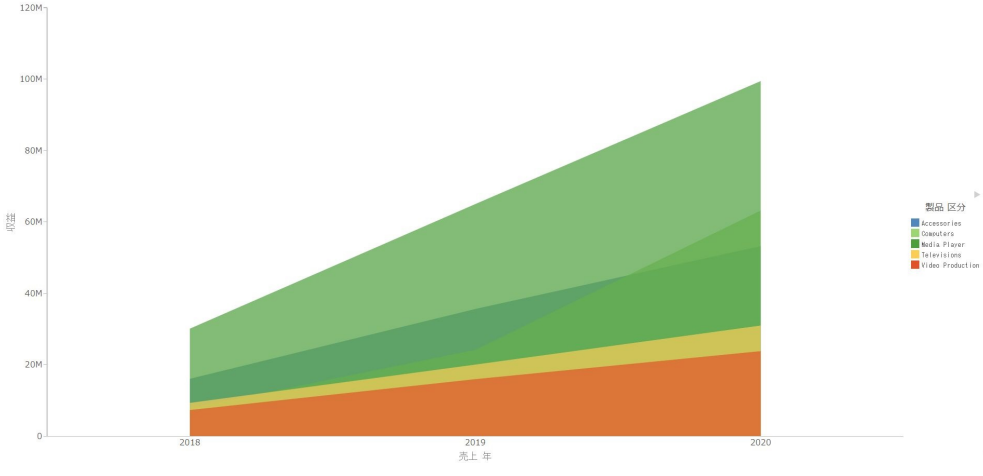
   キャンバスにマトリックス折れ線グラフが表示されます。データを比較するために別のフィールドを追加することができます。また、マトリックス折れ線グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

面グラフ

面グラフは、時間の経過とともに変化する傾向を分析したり、塗りつぶし面の特性である透過性により、複数の値の差を明確にする場合に使用します。積み上げ面グラフを使用すると、1つのデータの上に別のデータを積み上げることができます。データを積み上げることにより、データシリーズ間の関係を強調して、あるデータシリーズが別のデータシリーズに接近したり、追い付いたりする様子を表現することができます。

注意：大規模データセットを使用する場合、グラフ下側のスクロールバー表示を有効にすることができます。これにより、表示するデータの左右の移動が容易になります。ビジュアライゼーションモードでは、スクロールバーは自動的に有効になりますが、スクロールバー表示の有効と無効を切り替える場合は、[フォーマット] タブの [インタラクティブオプション] をクリックします。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[X 軸のスクロールを自動的に有効にする] のチェックをオンまたはオフにします。他のモードで作業する場合は、この機能を手動で有効にする必要があります。

面グラフは、データ量を色で強調することで、データをより明確に識別する場合に使用します。下図の例は、電化製品別の年次粗利益を表す基本的な面グラフです。



手順　面グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを面グラフに変更するか、新しい面グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド

- [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
- [色] - 1 つのデータフィールド (オプション)

注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

キャンバスに面グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、面グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　積み上げ面グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを積み上げ面グラフに変更するか、新しい積み上げ面グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [色] - 1 つのデータフィールド (オプション)

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに積み上げ面グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、積み上げ面グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　マトリックス面グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを面グラフに変更するか、新しい面グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - [縦軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [横軸] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [マトリックス行] - 3 つまでのデータフィールド

- [マトリックス列] - 3 つまでのデータフィールド

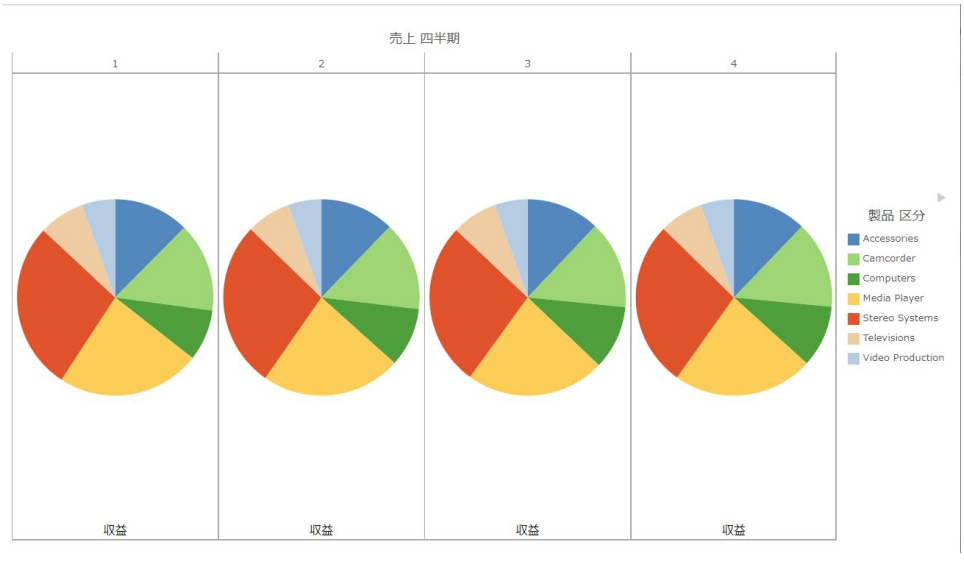
注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

キャンバスにマトリックス面グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、マトリックス面グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

円グラフ

円グラフは、全体に対する各要素の割合を表す円形のグラフです。円グラフは、グラフ内の他の項目と比較してデータがどの程度の割合を占めるかを強調します。円グラフは、データが少数の円項目に分割され (例、10 項目未満)、各円項目のデータを塗りつぶし色で明確に色分けできる場合に適しています。

円グラフは、データがいくつかの区分で構成され、そのデータ全体を表示する場合に使用します。下図の例は、四半期別の売上全体に対する各電化製品の割合を示す円グラフです。



また、[メジャー] フィールドコンテナには、1 つまたは複数のメジャーを追加することができます。メジャーごとに個別の円グラフが作成され、[色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加することで、各グラフの円項目を色分けすることができます。

注意：円グラフを作成する場合、[色] フィールドコンテナにフィールドを 1 つ追加することができます。これにより、そのメジャーが BY フィールドとして追加され、円グラフの色分け方法が決定されます。ただし、メジャーデータによっては、円項目が多数になる場合があります。

手順　円グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを円グラフに変更するか、新しい円グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [メジャー] - 1 つまたは複数のデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、円項目のサイズが決定されます。
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、円グラフの色分けが定義されます。

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに円グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することも、同一キャンバスに別の円グラフを作成することもできます。また、円グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　マトリックス円グラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを円グラフに変更するか、新しい円グラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [メジャー] - 1 つまたは複数のデータフィールド

     注意：複数のメジャーフィールドを追加した場合、メジャーフィールドごとにそれぞれ個別の円グラフが作成されます。
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [マトリックス行] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - ❏ [マトリックス列] - 1 つのデータフィールド

注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

キャンバスにマトリックス円グラフが表示されます。データを比較するために別のデータフィールドを追加することができます。また、別のメジャーフィールドを追加し、そのメジャーフィールドに特化した円グラフをさらに作成することもできます。また、マトリックス円グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

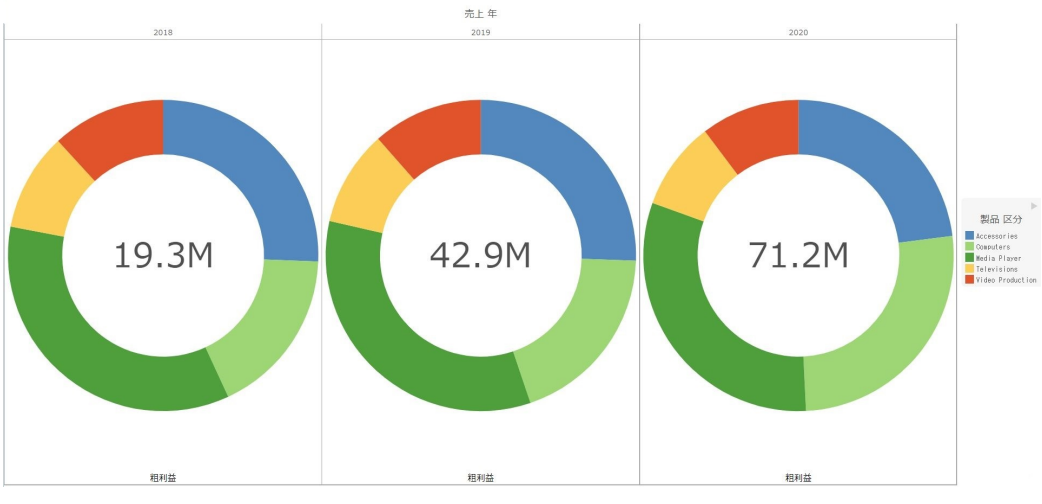
リンググラフ

リンググラフは、選択したメジャーの合計値と、リンググラフを構成する個々のセグメントを表示する円形のグラフです。各セグメントの上にマウスポインタを置いて、実データを表示することができます。このグラフは、個々のセグメントのメジャー値を、リンググラフ中央に表示されるメジャー合計値と比較する場合に役立ちます。

また、[メジャー] フィールドコンテナには、1 つまたは複数のメジャーを追加することができます。メジャーごとに個別のリンググラフが作成され、[色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加することで、グラフの円項目を色分けすることができます。

注意：リンググラフの中央に表示される値ラベルのフォントサイズは、グラフエンジンによって自動的に設定されます。

リンググラフでは、選択したディメンションのメジャー値がセグメントとして表示されます。中央に表示されるメジャーの合計値には各セグメントの値が反映されるため、各セグメント値を確認する場合にリンググラフを使用します。下図は、リンググラフの例を示しています。



手順　リンググラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをリンググラフに変更するか、新しいリンググラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [メジャー] - 1 つまたは複数のデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、関連するカテゴリのリングセグメントのサイズが決定されます。
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、リンググラフの色分けが定義されます。

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスにリンググラフが表示されます。選択したメジャーの合計値がリンググラフの中央に表示されます。リンググラフの任意のセグメント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

手順　マトリックスリンググラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをリンググラフに変更するか、新しいリンググラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [メジャー] - 1 つのデータフィールド

     注意：複数のメジャーフィールドを追加した場合、メジャーフィールドごとにそれぞれ個別のリンググラフが作成されます。
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [マトリックス行] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [マトリックス列] - 1 つのデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

キャンバスにマトリックスリンググラフが表示されます。データを比較するために別のフィールドを追加することができます。また、別のメジャーフィールドを追加し、そのメジャーフィールドに特化したリンググラフをさらに作成することもできます。また、マトリックスリンググラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

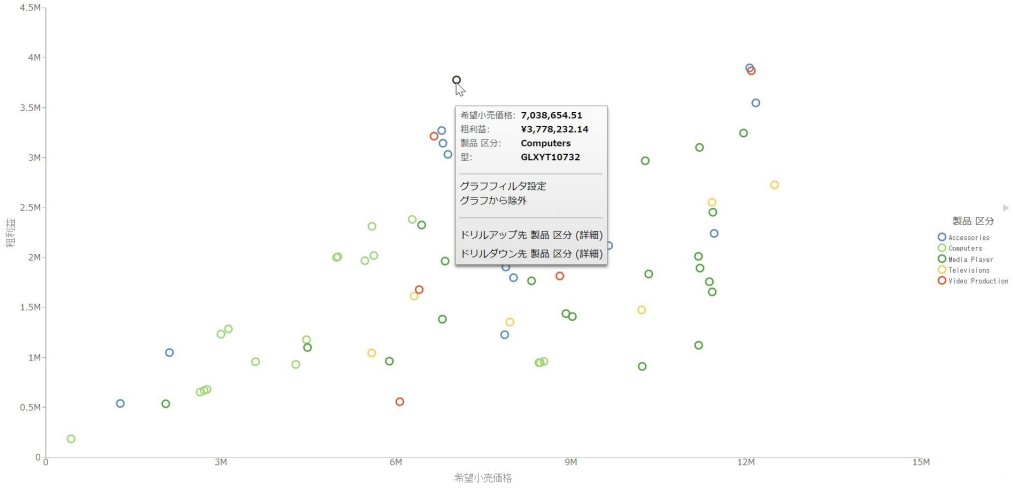
散布図

両軸上の可変スケールを使用してデータをプロットすることができます。散布図では、データは丸マーカーを使用してプロットされるため、特定ポイントの周囲でのデータ値の密集度やデータパターンの識別が可能になります。デフォルト設定では、数値 X 軸、つまりソートフィールドからは、常に散布図が生成されます。

注意：横軸、縦軸、または両方の軸に、メジャー以外のデータフィールド (ディメンションフィールド) を指定することができます。

グラフに表示されたデータポイントが密集している場合、X 値と Y 値の相関性が高いことを示しています。データポイントが散在している場合、相関性が低い、または相関性がないことを示しています。

[クエリ] ウィンドウの [PRINT] フィールドコンテナにデータフィールドを追加すると、散布図に追加の BY フィールドが作成されます。下図の例は、粗利益および希望小売価格のデータを示す散布図で、[クエリ] ウィンドウの [PRINT] フィールドコンテナに [製品,区分 (詳細)] および [型] ディメンションフィールドを追加した結果を示しています。



手順　散布図を作成するには

1. 現在のビジュアルを散布図に変更するか、新しい散布図を挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [縦軸] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [横軸] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [PRINT] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに散布図が表示されます。また、散布図の任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

バブルグラフ

バブルグラフは、データポイントをバブルで表したグラフです。バブルグラフは、X と Y のデータ値を表す 2 つのフィールドで構成することも、X、Y、Z のデータ値をこの順序で表す 3 つのフィールドで構成することもできます。Z 変数はサイズを表します。各バブルのサイズは、データの相対的な重要度を表すために使用します。

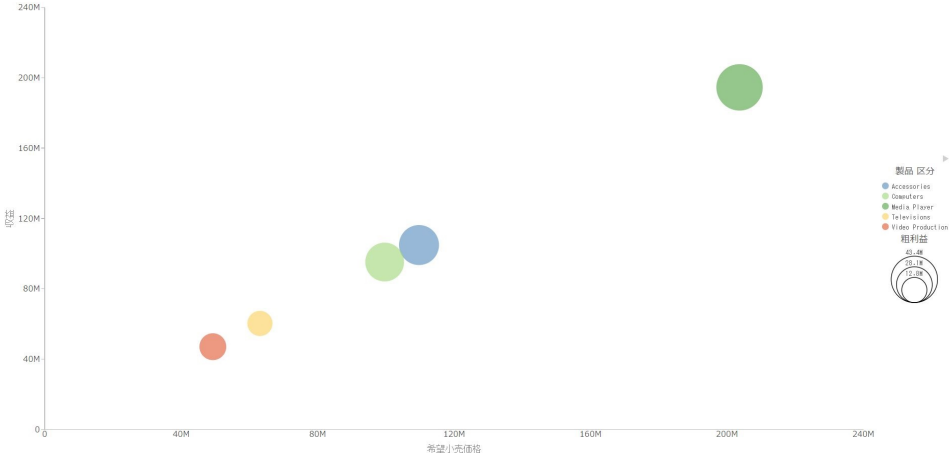
[サイズ] フィールドコンテナにデータフィールドを追加すると、その値がサイズ凡例の Z 軸タイトルとして表示されます。[サイズ] フィールドコンテナにデータフィールドが追加されていない場合、Z 軸タイトルおよびサイズ凡例は表示されません。Z 軸データ値をサイズとして示すよう選択した場合、そのデータラベルがサイズ凡例に表示されます。また、サイズ凡例には、そのデータフィールドの最小値から最大値までの範囲が円のサイズで示されます。これにより、円のサイズに基づいてデータ値の大きさが推定可能になります。

注意

- ❏ ビジュアルの各バブルの上にマウスポインタを置くと、そのポイントの実際のデータ値が表示されます。
- ❏ 横軸、縦軸、または両方の軸に、メジャー以外のデータフィールド (ディメンションフィールド) を指定することができます。

- ビジュアライゼーションの HTML5 グラフの場合、バブルグラフを作成する際にシリーズのスタイルフォーマットで [塗りつぶしなし] オプションを選択した場合、シリーズのバブルは黒の単色で表示されます。インタラクティブの場合、実行時のグラフにバブルを表示するために、[境界色の表示] オプションを有効にする必要があります。有効にしない場合、バブルが見えなくなります。

下図のバブルグラフでは、電化製品別に希望小売価格と収益の関係が示されています。また、[クエリ] ウィンドウの [サイズ] フィールドコンテナに追加された [粗利益] フィールドの値がバブルのサイズとして示されています。



手順　バブルグラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをバブルグラフに変更するか、新しいバブルグラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - [縦軸] - 1 つのデータフィールド
   - [横軸] - 1 つのデータフィールド
   - [PRINT] - 1 つまたは複数のデータフィールド
   - [サイズ] - 1 つのデータフィールド
   - [色] - 1 つのデータフィールド (オプション)。このデータフィールドの値が凡例のラベルに使用されます。

注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

キャンバスにバブルグラフが表示されます。また、バブルグラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することもできます。

マトリックスマーカーグラフ

マトリックスマーカーグラフは、2 つのカテゴリディメンションのクロス集計を使用して 1 つまたは 2 つのメジャーを分析する際に役立ちます。1 つ目のメジャーには [クエリ] ウィンドウの [サイズ] フィールドコンテナを使用し、2 つ目のメジャーには [色] フィールドコンテナを使用することができます。下図のように、出力結果は、カテゴリ別の傾向を示す色スケールマトリックスグラフになります。



手順　マトリックスマーカーグラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをマトリックスマーカーグラフに変更するか、新しいマトリックスマーカーグラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [マトリックス行] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [マトリックス列] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [サイズ] - 1 つのデータフィールド。このフィールドのデータに基づいてマーカーサイズが決定されます。

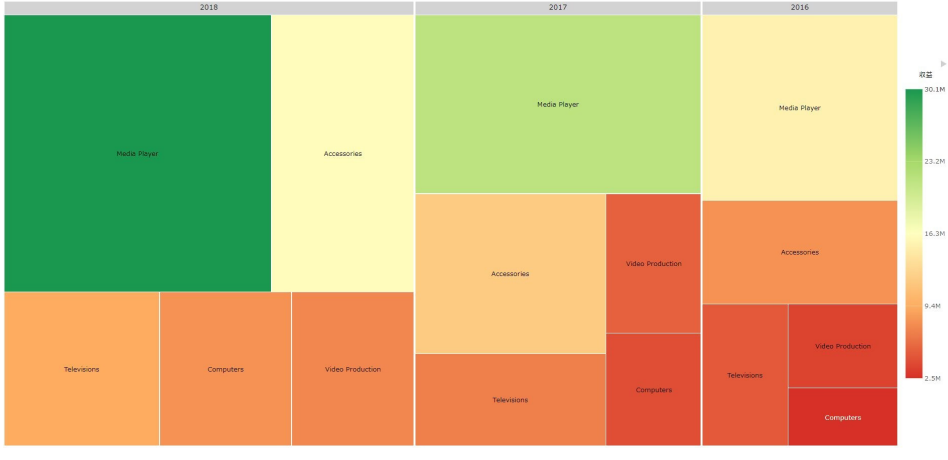
- [色] - 1 つのデータフィールド。このフィールドのデータに基づいてマーカー色が決定されます。

マトリックスマーカーグラフが表示されます。

ツリーマップ

ツリーマップは、多数の階層構造データを表示するために使用します。ネストされた長方形の集合体を使用してデータの関係を表現します。ツリーマップの各セクションは、ツリーが分岐していることを示します。分岐ごとに長方形が割り当てられ、この長方形から任意数の小さい長方形 (サブ分岐) を割り当てることができます。各分岐のサイズは、その分岐を構成する要素の合計値に比例します。

下図のツリーマップでは、ツリーマップの各セクションのサイズと色を決定する 2 つのデータフィールドを使用して、選択したディメンションフィールドに基づいてデータが分類されています。



手順　ツリーマップを作成するには

1. 現在のビジュアルをツリーマップに変更するか、新しいツリーマップを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - [グループ] - 1 つまたは複数のデータフィールド。このグループに基づいてツリーマップグループの階層が形成されます。

- [サイズ] - 1 つのデータフィールド。このデータに基づいて、表示される各分岐のサイズが制御されます。
- [色] - 1 つのデータフィールド。このデータに基づいて、グラデーション表示される色が制御されます。

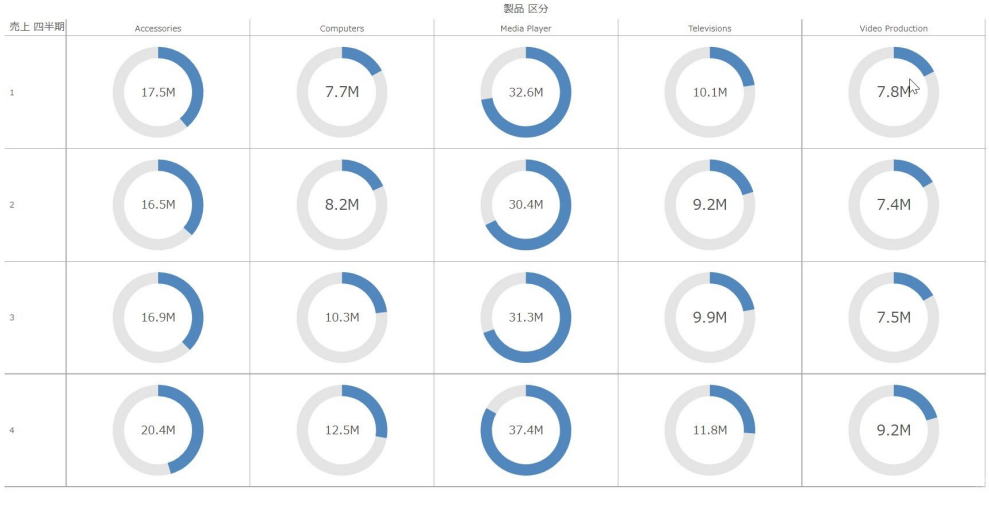
ツリーマップが表示されます。

メータ

メータグラフは、1 つのメジャーの値を表示するために使用します。具体的には、所定の範囲に単一データ値を表す場合に円形メータグラフを使用します。メータグラフは円形のグラフです。1 つのメジャーに対する単一の円形メータグラフを作成することも、選択したメジャーの値を複数のディメンション (例、製品区分、売上年) で比較するマトリックス円形メータグラフを作成することもできます。円形メータグラフに表示されるメジャーの値は、データベースに格納されているメジャーの実データに基づきます。

円形メータグラフの表示に使用されるメジャーは 1 つのみです。凡例には、その円形メータグラフで使用されているメジャーの色が反映されます。

下図のマトリックス円形メータグラフでは、製品区分ごとの収益データが四半期別に示されています。



手順　円形メータグラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをメータグラフに変更するか、新しいメータグラフを挿入します。

2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - [メジャー] - 1 つのデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、選択したメジャーの値がメータグラフに表示されます。
   - [ツールヒント] - 1 つまたは複数のデータフィールド。このフィールドコンテナにフィールドを追加すると、さまざまなメジャーの実データを追加情報として確認することができます。[ツールヒント] はオプションです。

   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスに円形メータグラフが表示されます。ツールヒントに含めるメジャーフィールドを追加することもできます。

手順　マトリックス円形メータグラフを作成するには

1. 現在のビジュアルをメータグラフに変更するか、新しいメータグラフを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - [メジャー] - 1 つのデータフィールド。このフィールドコンテナのデータに基づいて、選択したメジャーの値がメータグラフに表示されます。

     注意：メータグラフは定数 (メジャーフィールド) に基づいて作成されるため、マトリックスグラフの行と列の交差部は、マトリックス行およびマトリックス列のそれぞれの値と、選択したメジャーの値から計算されます。
   - [マトリックス行] - 1 つのデータフィールド
   - [マトリックス列] - 1 つのデータフィールド
   - [ツールヒント] - 1 つまたは複数のデータフィールド。このフィールドコンテナにフィールドを追加すると、さまざまなメジャーの実データを追加情報として確認することができます。[ツールヒント] はオプションです。

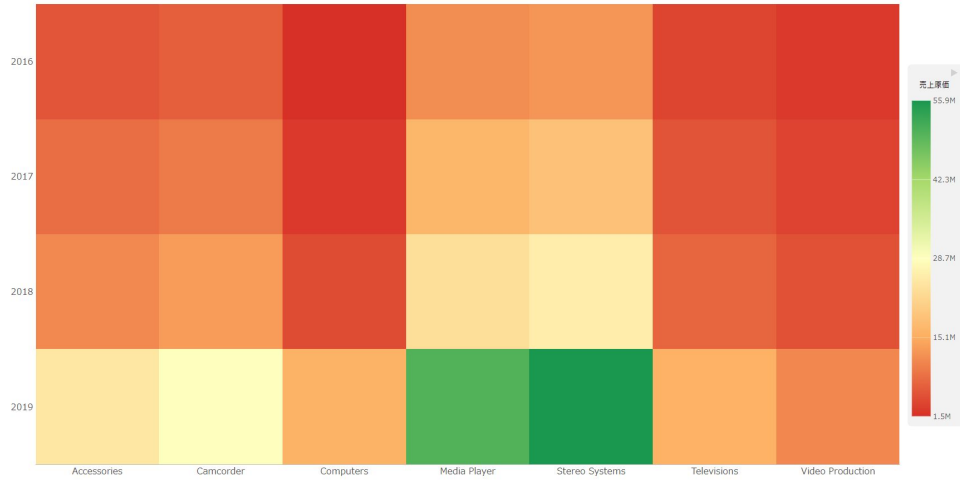
   注意：[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにデータフィールドを追加する方法として、データフィールドをダブルクリックすることもできます。

   キャンバスにマトリックス円形メータグラフが表示されます。ツールヒントに含めるメジャーフィールドを追加することもできます。

ヒートマップ

ヒートマップは、マトリックスを構成する値のそれぞれを色で表現したグラフです。凡例で定義された色と比較しながら、データの関連性の度合いを追跡することができます。

下図のように、ヒートマップは、データからホットスポット (注目する領域) を特定する場合に役立ちます。



手順　ヒートマップを作成するには

1. 現在のビジュアルをヒートマップに変更するか、新しいヒートマップを挿入します。
2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。
   - ❏ [色] - 1 つのデータフィールド。このデータに基づいて、グラデーション表示される色が制御されます。
   - ❏ [横軸] - 1 つのデータフィールド
   - ❏ [縦軸] - 1 つのデータフィールド

   注意：必要に応じて [マトリックス行] および [マトリックス列] フィールドコンテナにデータフィールドを追加して、ヒートマップのセグメントを増やすこともできます。

   ヒートマップが表示されます。

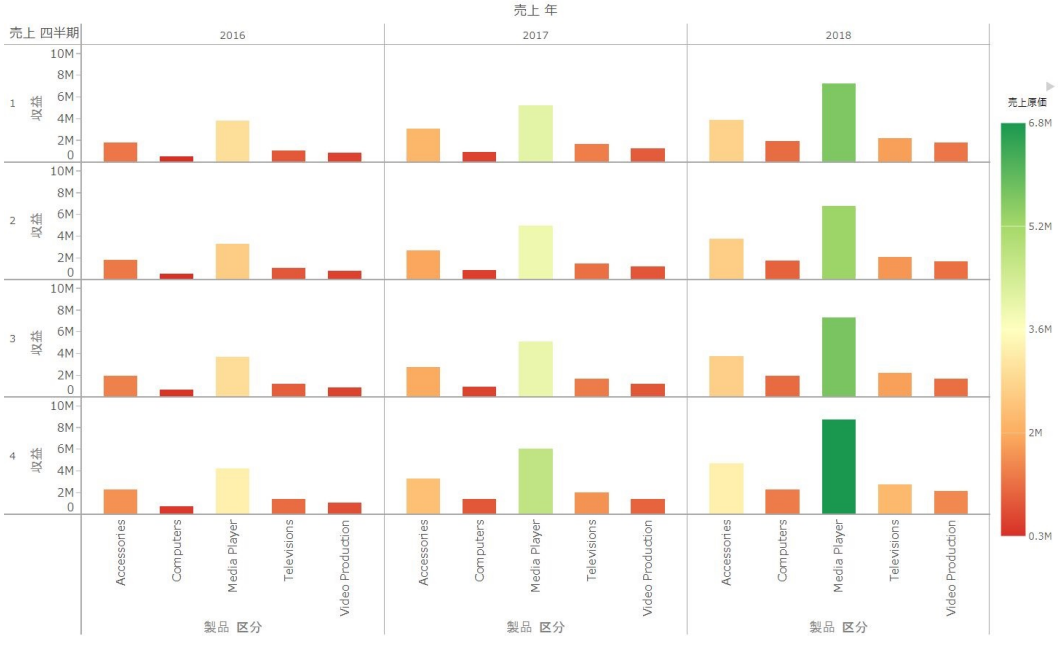
マトリックスグラフ

マトリックスグラフは、強力な比較ツールです。マトリックスグラフの特長は、複数のグラフが縦横の格子状に配列され、傾向の把握に十分な情報が提供される点です。

マトリックスグラフではデータがグリッド形式で表示されるため、マトリックスの縦方向または横方向の値を比較することができます。時間の経過とともに変化する傾向をすばやく特定できるため、売上や投資の傾向などの現状把握に役立ちます。

マトリックスグラフには、さまざまなタイプのグラフを使用することができます (例、円グラフ、折れ線グラフ)。

下図の例では、家電製品の収益データを製品区分別に示す棒グラフが、四半期別および年次別 (2014 - 2016) のマトリックスで表示されています。マトリックスの各棒グラフを見ながら、製品区分ごとの収益が時間の経過とともに変化する様子を確認することができます。



X 軸の列ごとに値を 1 つ、Y 軸の行ごとに値を 1 つプロットすることができます。たとえば、X 軸に地方区分の値、Y 軸に売上の値をプロットします。マトリックスグラフでは、それぞれの行または列にプロット可能な値は 1 つのみです。

手順　マトリックスグラフを作成するには

1. 現在のビジュアルを棒グラフに変更するか、新しい棒グラフを挿入します。

2. ビジュアルに追加するデータフィールドをキャンバスにドラッグするか、[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナにドラッグします。このビジュアルの場合、次のフィールドコンテナにデータフィールドを追加する必要があります。

   - [縦軸] - 1 つのデータフィールド
   - [横軸] - 1 つのデータフィールド
   - [マトリックス行] - 1 つのデータフィールド

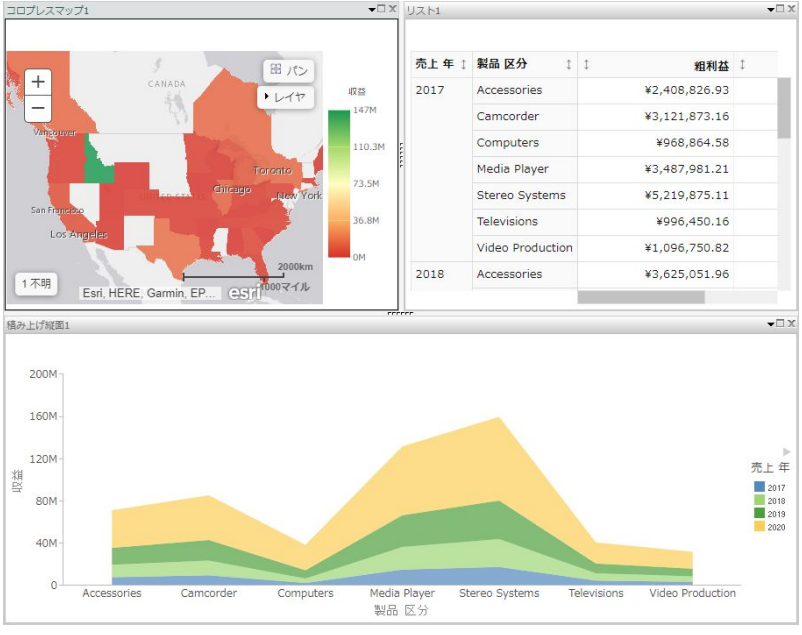
   キャンバスにマトリックスグラフが表示されます。グラフの任意のポイント上にマウスポインタを置いて、実データを表示することができます。

   注意：マトリックス棒グラフを作成した後、マトリックスの折れ線グラフ、面グラフ、円グラフのいずれかに変更するには、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループでビジュアルのタイプを変更します。

ビジュアライゼーションのインタラクティブ操作

ビジュアライゼーションは、1 つまたは複数のビジュアル (例、グラフ、マップ、リスト) およびテキストで構成されます。1 つのビジュアライゼーションにデータのさまざまなビューを作成し、そのビジュアライゼーションを社内の他のユーザと共有することができます。

下図は、ビジュアライゼーションの例を示しています。このビジュアライゼーションは、マップ、マトリックスリスト、積み上げ面グラフで構成されています。



ここでは、ビジュアルを作成、編集する際に実行可能なタスクの概要について説明します。下表は、各タスクの実行手順の一覧を示しています。また、後述のトピックには、ビジュアルの作成、編集でよく使用するタスクの実行手順も記載されています。

タスク	手順
ビジュアルの変更	[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[変更] をクリックします。 **注意：**[ビジュアルの選択] メニューから選択したグラフ、マップ、リストに応じて、[変更] アイコンに表示されるイメージが変わります。デフォルト設定では、[変更] アイコンに積み上げ棒グラフのイメージが表示されます。 [ビジュアルの選択] メニューからグラフ、マップ、リストのいずれかを選択します。

タスク	手順
新規ビジュアルの挿入	[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[挿入] をクリックします。デフォルトの積み上げ棒グラフを使用するか、[変更] をクリックし、[ビジュアルの選択] メニューからグラフ、マップ、リストのいずれかを選択します。 **注意：**別のグラフ、マップ、リストをビジュアライゼーションに追加することもできます。その場合は、データフィールドをキャンバスにドラッグし、右上に表示されるハンドルを使用して新しいビジュアルを追加する位置を指定します。
ビジュアルの位置変更	ビジュアルをドラッグし、別のビジュアルの上面に移動すると、配置先を指定するための影付きエリアとハンドルが表示されます。
ビジュアルのコピー	キャンバス上でビジュアルを選択します。[ホーム] タブの [クリップボード] グループで、[コピー] をクリックします。 **注意：**Ctrl+C キーを押して、選択したビジュアルをコピーすることもできます。
ビジュアルの貼り付け	ビジュアルをコピーします。[ホーム] タブの [クリップボード] グループで、[貼り付け] をクリックします。 **注意：**Ctrl+V キーを押して、選択したビジュアルを貼り付けることもできます。
ビジュアルの複製の作成	キャンバス上でビジュアルを選択します。[ホーム] タブの [クリップボード] グループで、[複製の作成] をクリックします。ビジュアルの複製が作成され、ビジュアルのタイプに基づいて連続番号が割り当てられます。

タスク	手順
ビジュアルの削除	ビジュアルを選択します。[ホーム] タブの [クリップボード] グループで、[切り取り] をクリックします。現在のビジュアル右上の [閉じる] ボタンをクリックすることもできます。[クエリ] ウィンドウでビジュアルを右クリックし、[削除] をクリックします。また、ビジュアルを選択した状態で Delete キーを押すこともできます。
フィルタの適用	ディメンションフィールドまたはメジャーフィールドを [フィルタ] ウィンドウにドラッグし、[フィルタ] ダイアログボックスを表示してフィルタオプションを選択します。[クエリ] ウィンドウに配置されているフィールドに対してフィルタオプションを追加するには、フィールドを選択し、[フィールド] タブの [フィルタ] グループで [フィルタ] をクリックします。
ストーリーボードへのビジュアルの追加	ビジュアルを作成します。[ホーム] タブの [ストーリーボード] グループで、[追加] をクリックします。

手順　新規ビジュアルを作成するには

1. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[挿入] ボタン横の下向き矢印をクリックします。
2. メニューから次のオプションのいずれかを選択します。
   - ❏ **グラフ**　積み上げ棒グラフを挿入します。
   - ❏ **グリッド**　リストビジュアルを挿入します。
   - ❏ **テキスト**　ブランクのテキストセルを挿入します。
3. ビジュアルにデータを挿入します。必要に応じて、テキストセルにテキストを追加します。

注意

- ❏ デフォルト設定では、[挿入] をクリックすると、積み上げ棒グラフビジュアルが挿入されます。

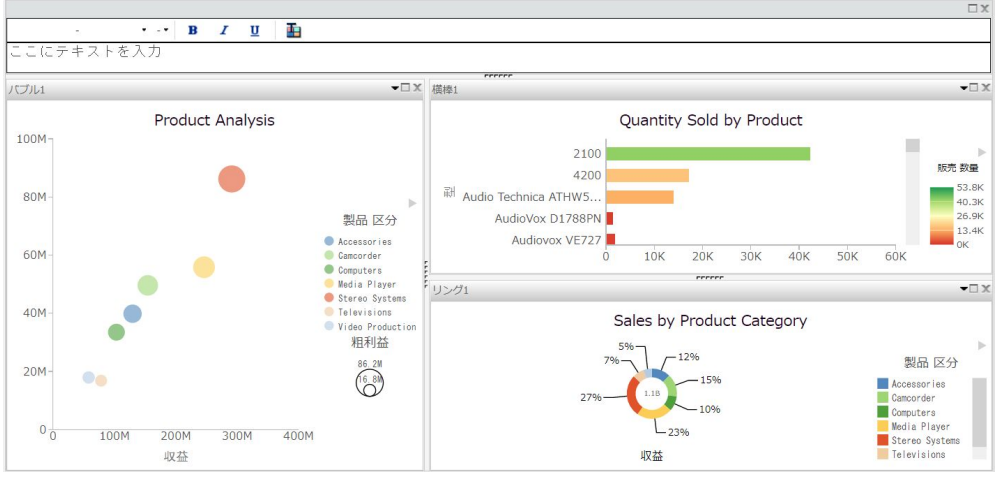
- [データ] ウィンドウからキャンバスにデータフィールドをドラッグする方法で新しいビジュアルを作成することもできます。この方法では、デフォルトビジュアルの積み上げ棒グラフが挿入されます。配置ハンドルを使用して、キャンバス上で新しいビジュアルの追加先を指定することができます。たとえば、既存のビジュアルの上側に配置したり、左側に配置したりします。

手順　ビジュアライゼーションにテキストを追加するには

1. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[挿入] ボタン横の下向き矢印をクリックします。
2. メニューから [テキスト] を選択します。

   キャンバス上にテキストセルが表示されます。
3. ビジュアライゼーションにテキストを追加します。

   注意：下図のように、テキストセルのサイズを変更したり、テキストフォーマットオプションを使用して、追加したテキストの表示をカスタマイズしたりできます。

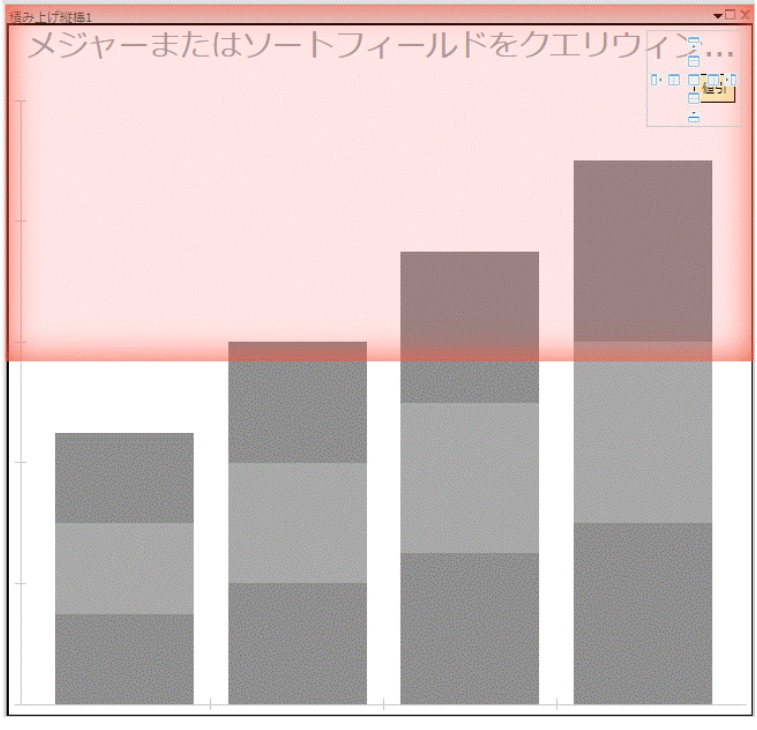


テキストセルをドラッグし、ビジュアルの上面に移動して、ビジュアライゼーション内でのテキストエリアの位置を変更することもできます。テキストセルの位置を指定するには、配置ハンドルを使用します。

手順　ビジュアライゼーションを作成するには

1. デフォルトのキャンバスには、積み上げ棒グラフのテンプレートが表示されます。

2. 次のいずれかの方法で新しいビジュアルを挿入します。
   a. [データ] ウィンドウからキャンバスにデータフィールドをドラッグします。ハンドルが表示され、新しいビジュアルの位置を選択することができます (例、現在のビジュアルの上側または左側)。



   b. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[挿入] をクリックします。

      注意：必要に応じて [挿入] ボタンの下向き矢印をクリックし、グラフ、リスト、テキストのいずれかを選択して挿入することもできます。

3. 別のビジュアルを追加します。

   これで、3 つのビジュアルセルが横に並べて表示されます。

4. ビジュアルのいずれかをクリックして選択した状態にします。

   注意：ビジュアルを選択した状態にするには、ビジュアルをクリックするか、[クエリ] ウィンドウでビジュアルの名前をダブルクリックします。

5. ハンドルを使用して各ビジュアルの位置を変更します。

6. 各ビジュアルの位置を変更した後、ビジュアルのいずれかを選択し、ビジュアルタイプを指定します。
   a. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[変更] をクリックします。

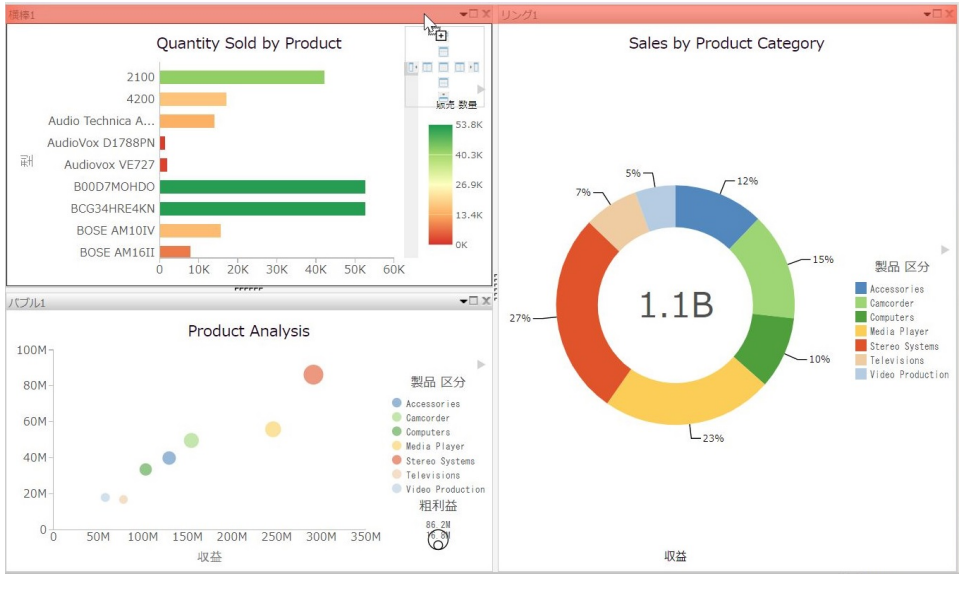
      注意：[ビジュアルの選択] メニューから選択したグラフ、マップ、リストに応じて、[変更] アイコンに表示されるイメージが変わります。デフォルト設定では、[変更] アイコンに積み上げ棒グラフのイメージが表示されます。

   b. [ビジュアルの選択] メニューから、使用するビジュアルタイプを選択します。たとえば、折れ線グラフ、面グラフ、マップがあります。

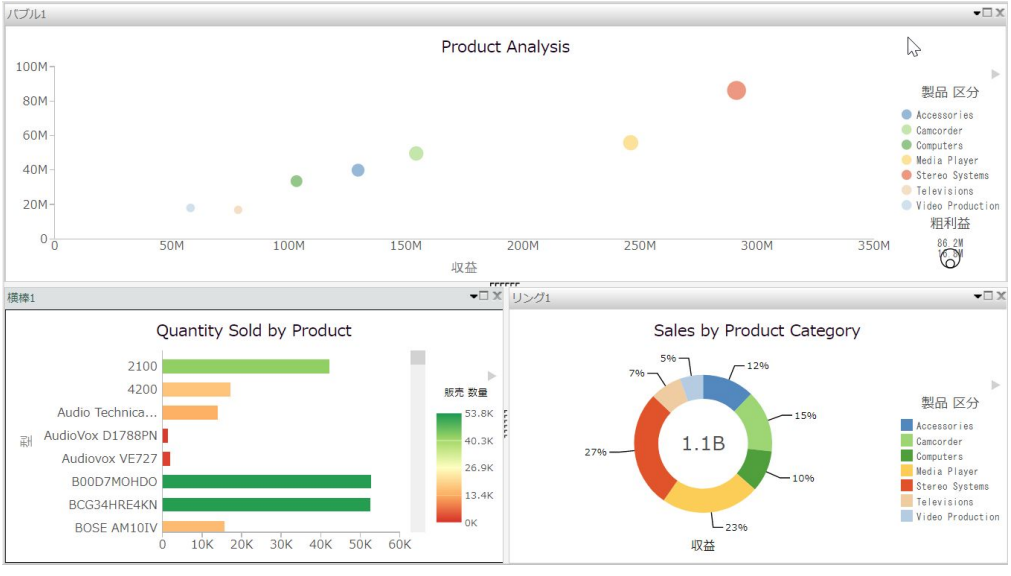
   c. キャンバス上の 3 つのビジュアルに対して上記の手順を繰り返します。
7. 各ビジュアルにデータを挿入します。

   上記の手順で選択したビジュアルタイプは、必要に応じていつでも変更することができます。また、データを追加した際に、各ビジュアルのサイズや位置を変更することも可能です。

   たとえば、左下のビジュアルをビジュアライゼーションの上部に移動します。



下図では、ビジュアライゼーションの上部にバブルグラフが横長に配置されています。



8. [保存] をクリックして、ビジュアライゼーションを保存します。

ビジュアルの最小化と最大化

ビジュアライゼーションに複数のグラフ、マップ、リストを配置した際に、各ビジュアルを個別に最大化または最小化することができます。この方法で、特定のビジュアルのみを最大化して操作した後、最小化して元の状態に戻し、それぞれのビジュアルを横に並べて表示することができます。

[最大化] アイコンおよび [最小化] アイコンは、各ビジュアル右上の [閉じる] アイコンの横にあります。[最大化] アイコンをクリックすると、現在のビジュアルが最前面に移動し、そのビジュアルのみがキャンバス全体に表示されます。そのビジュアルで操作を実行した後、最小化して他のビジュアルと並べて表示します。

注意：別のビジュアルを最大化モードで表示するには、[クエリ] ウィンドウで別のビジュアルをダブルクリックします。

手順　ビジュアルを最小化または最大化するには

1. 複数のビジュアルを配置したビジュアライゼーションを作成します。

2. ビジュアルを最大化または最小化するには、次の手順を実行します。
   - ビジュアルを最大化するには、タイトルバーの [最大化] アイコンをクリックするか、タイトルバーをダブルクリックします。
   - ビジュアルを最小化するには、タイトルバーの [最小化] アイコンをクリックするか、タイトルバーをダブルクリックします。

   一度に最大化できるビジュアルは 1 つのみです。ビジュアルを最大化した状態で別のビジュアルに切り替えるには、[クエリ] ウィンドウで別のビジュアルをダブルクリックします。

手順　ビジュアルを削除するには

1. ビジュアライゼーションで、削除するグラフ、マップ、リストを選択します。
2. 次のいずれかの方法でビジュアルを削除します。
   - Delete キーを押します。
   - [ホーム] タブの [クリップボード] グループで、[切り取り] をクリックします。
   - ビジュアル右上の [閉じる] ボタンをクリックします。
   - [クエリ] ウィンドウでビジュアルを右クリックし、[削除] をクリックします。

   注意：クイックアクセスツールバーの [元に戻す] および [やり直し] オプションを使用して、前の操作を元に戻したり、元に戻した操作をやり直したりすることができます。

ビジュアルの名前変更

キャンバス上 (ビジュアライゼーション内) のビジュアルの名前を変更することができます。各ビジュアルにはデフォルトラベルが付けられるため (例、積み上げ縦棒 1、積み上げ縦棒 2)、これらのビジュアルを整理して分かりやすくするために名前を変更します。これらのラベルを変更するには、[クエリ] ウィンドウでビジュアルの名前を変更します。

新しいラベルが表示されると、選択するビジュアルの識別が容易になります。

ビジュアルの名前を変更するには、[クエリ] ウィンドウでビジュアルのコンテキストメニューを使用します。

手順　ビジュアルの名前を変更するには

1. 1 つまたは複数のビジュアル (グラフ、マップ、リスト) で構成されたビジュアライゼーションを作成します。

2. [クエリ] ウィンドウで、タイトルを変更するビジュアルを右クリックします。
3. [名前の変更] を選択します。
4. [タイトルの編集] ダイアログボックスで、ビジュアルの新しい名前を入力します。
5. [OK] をクリックします。

   [クエリ] ウィンドウでビジュアルの名前が変更され、新しいタイトルがビジュアルのタイトルバーに反映されます。

クリッピングによる複数ディメンション値のグループ化

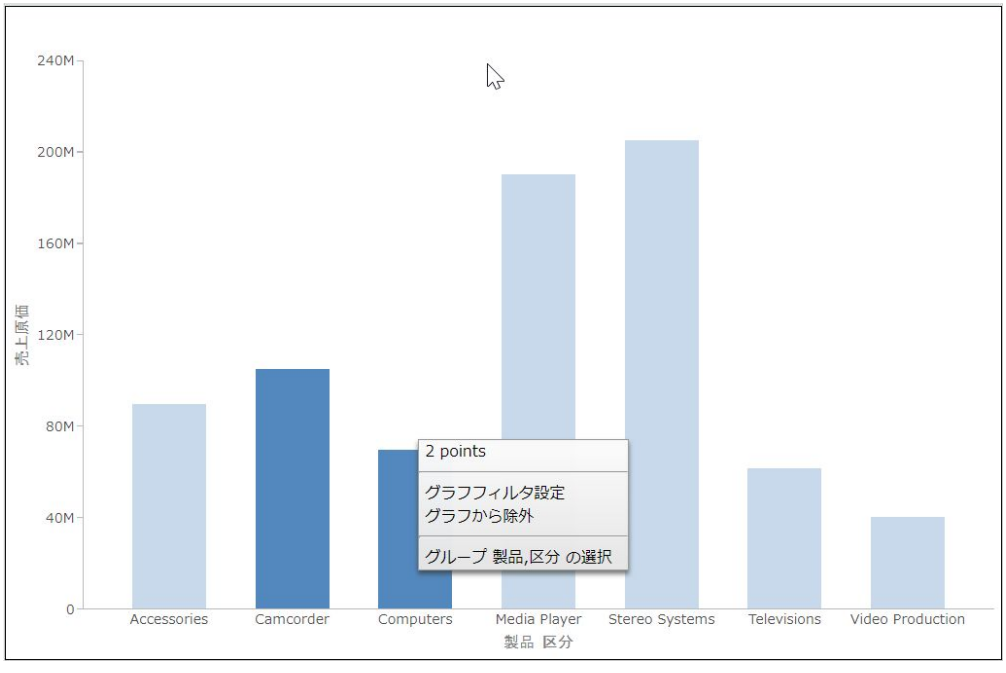
クリッピング機能を使用すると、ビジュアライゼーションの複数の値をフリーハンド (ラッソ) で選択し、選択したディメンション内で論理グループを作成することができます。クリッピング機能では、動的グループの中核機能が使用されるため、ユーザのビジネスニーズに応じた柔軟なグループ化が可能です。また、既存のグループに別のグループやフィールドを追加し、このグループや値に別の名前を付けることで、情報の表示を制御することもできます。

複数の値を統合してクリッピングする場合、新しいグループは、dimensiongroup_1 の命名規則を使用して作成されます。このグループ化されたコンポーネントを、必要な追加のコンポーネントとともにフリーハンド (ラッソ) 選択することで、このグループに値を追加できます。これらの新しい値が、既存グループの一部になります。

注意：2 つの値をグループ化した後、このグループに別の値を追加する場合、表示を更新するためにはグループの名前を手動で変更する必要があります。

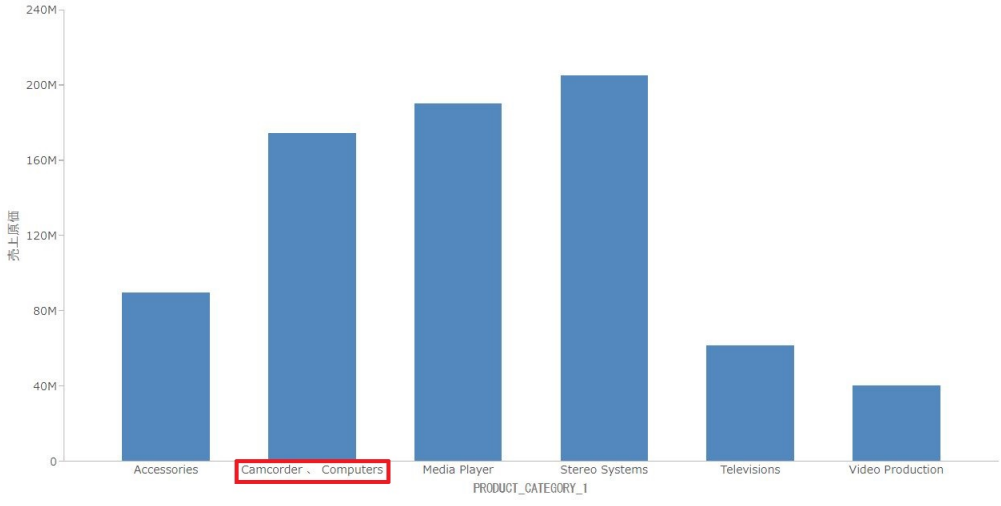
ビジュアライゼーションに他の値をフリーハンド (ラッソ) 選択し、以前に定義したグループを取得または含めない場合、現在のディメンションで選択されたフィールドに対して新しいグループが作成されます。これは元のディメンションラベル (dimensiongroup_1) を使用して名前が付けられますが、これらの値に対して新しい、一意のグループが作成されます。[クエリ] ウィンドウでグループを右クリックし、[グループの編集] を選択すると、グループが表示されます。既存のグループに新しい値を追加する場合、既存のフィールドと新しいフィールドを統合するためには、追加するフィールドに加えて既存のグループもフリーハンド (ラッソ) 選択する必要があります。

クリッピング機能を有効にするには、グループ化する値をフリーハンド (ラッソ) 選択し、マウスを離し、表示されるメニューから [グループ n の選択] を選択します。この場合の「n」は、選択した値に関連するディメンションを示します。下図は、このメニューを示しています。



注意：クリッピング機能では、1 つ目の BY フィールドのみでグループ化することができます。この例では、1 つ目の BY フィールドが [製品区分] になっています。マトリックスグラフを使用し、このルールを適用する場合は、1 つ目の BY フィールドでのみグループ化することができます。また、数値フィールド (例、売上年) でグループ化することはできません。この場合、数値フィールドが 1 つ目の BY フィールドであってもグループ化はできません。

グループ化すると、値は関連する軸上に一意のグループとして表示されます。グループラベルは、これらのコンポーネントに保存された元の値に基づきます。下図の例では、前ページの図の Camcorder と Computer をグループ化し、 PRODUCT_CATEGORY_1 グループとしました。

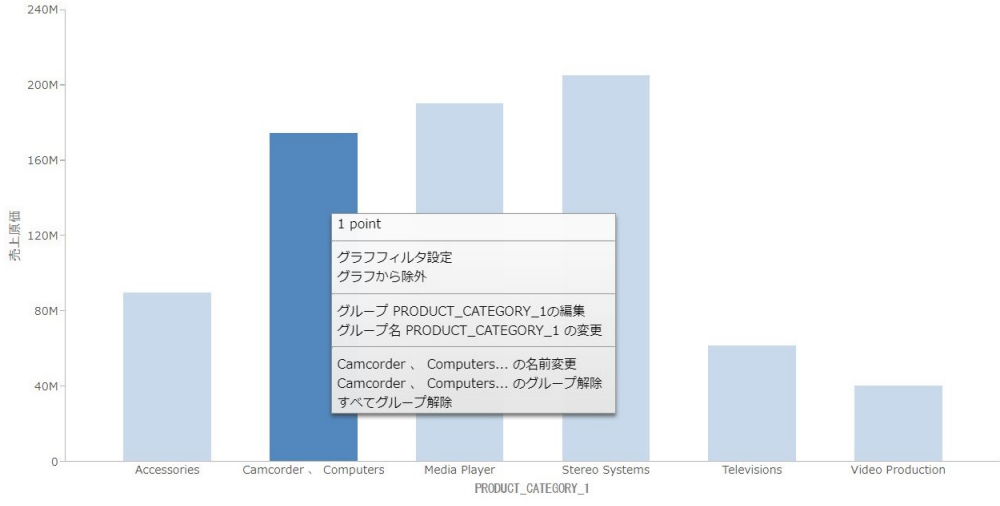


グループを作成後、次の機能を簡単に使用できます。

- **グループの編集** [グループの編集] ダイアログボックスを開き、現在のグループの値を編集することができます。たとえば、現在のグループに値を追加したり削除したりできます。既存グループの編集についての詳細は、74 ページの 「 動的グループ 」 を参照してください。
- **グループ名 (x) の変更** [グループ名の変更] ダイアログボックスを使用して、グループの名前を変更することができます。変更後の名前は、関連する軸に表示され、[クエリ] ウィンドウの既存のフィールド名を置換します。
- **(x) の名前変更** ユーザのグループ化に基づいて割り当てられたグループ名 (x) を変更することができます。これは、ビジュアライゼーションの出力領域に問題がある場合に特に便利です。[グループの編集] ダイアログボックスの元のグループ名も、この変更後の値で置き換えられます。
- **(x) のグループ解除** グループ化済みの (x) をグループ解除します。
- **すべてグループ解除** 既存のグループをすべて解除し、ビジュアライゼーションを元の状態に戻します。

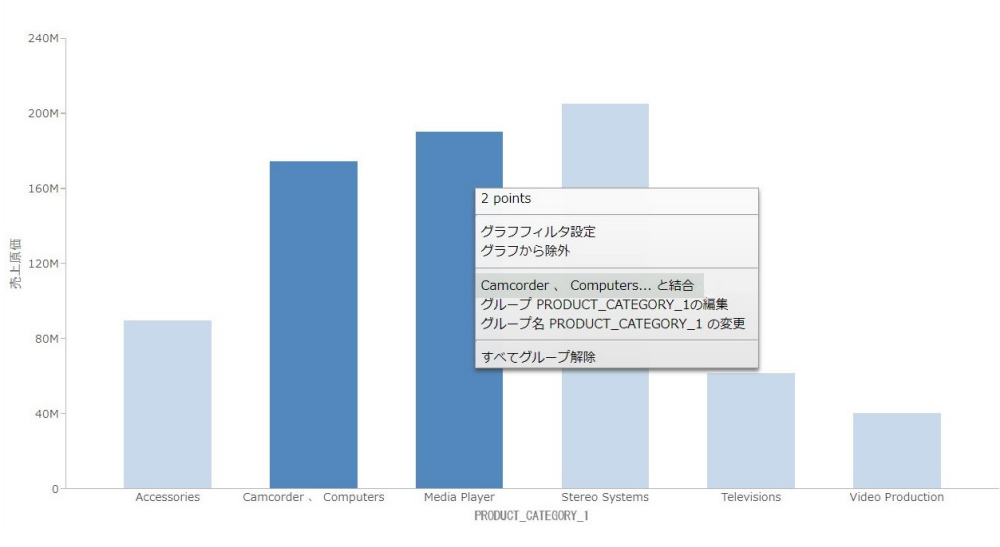
  注意：すべてのグループを解除すると、デフォルト設定で元のディメンションが [クエリ] ウィンドウのグループとして表示されます。ただし、グループ化は適用されません。

下図は、これらのオプションを示しています。

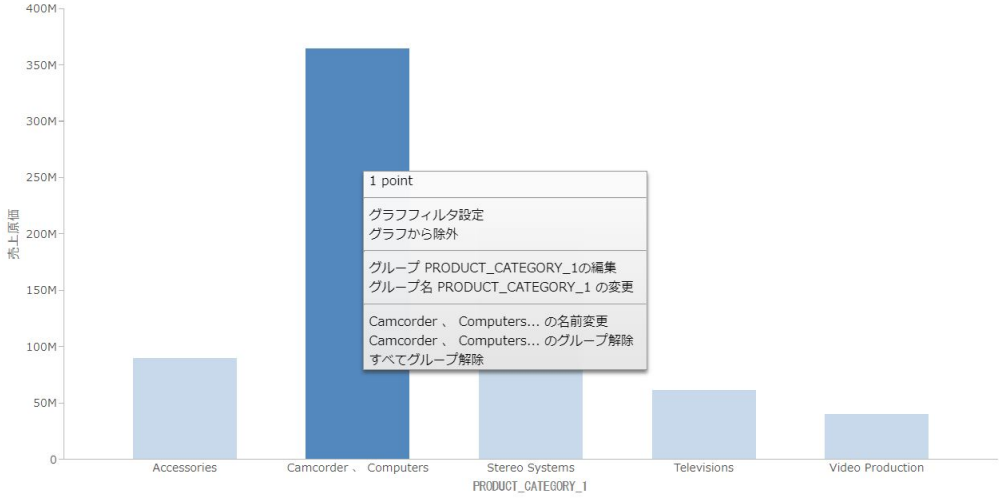


注意：[クエリ] ウィンドウでグループを右クリックして [グループの編集] を選択しても、既存のグループを編集することができます。

既存グループに別の値を追加する場合は、既存グループと新しい値をフリーハンド (ラッソ) 選択します。メニューから、[グループ (x) と結合] をクリックします。下図のように、この場合の「x」は、既存グループの値を示します。



新しい値が既存のグループに追加されます。ラベルにグループのすべての値が含まれるようにグループの名前を変更することができます。この場合、必要に応じて新しい、一意の名前を付けることができます。下図は、このオプションのアイコンを示しています。



注意：[グループの編集] ダイアログボックスを使用して、グループまたはグループの名前を変更することができます。詳細は、74 ページの 「 動的グループ 」 を参照してください。

クリッピングした値の作成および管理は、次の手順で行えます。

手順　2 つ以上の値を統合してクリッピングするには

1. ビジュアライゼーションモードで、1 つのメジャーと 1 つのディメンションを使用して棒グラフを作成します。棒グラフが表示されます。
2. ビジュアライゼーションの 2 つ以上のフィールドをフリーハンド (ラッソ) 選択します。
3. 表示されるメニューから、[グループ n の選択] をクリックします。この場合の「n」は、棒グラフのディメンションの名前を示します。

   2 つの値が、統合されグループ化されて X 軸上に表示されます。

   注意：ビジュアライゼーションの軸を入れ替えた場合、クリッピングされた値は Y 軸上に表示されます。

手順　新しい値を既存グループに統合するには

1. ビジュアライゼーションモードで、1 つのメジャーと 1 つのディメンションを使用して棒グラフを作成します。棒グラフが表示されます。

2. ビジュアライゼーションの 2 つ以上のフィールドをフリーハンド (ラッソ) 選択します。
3. 表示されるメニューから、[グループ n の選択] をクリックします。この場合の「n」は、棒グラフのディメンションの名前を示します。

   2 つの値が、統合されグループ化されて X 軸上に表示されます。

   注意 : ビジュアライゼーションの軸を入れ替えた場合、クリッピングされた値は Y 軸上に表示されます。
4. この既存のグループを、新しいフィールドとともにフリーハンド (ラッソ) 選択すると、この新しい値がグループに統合されます。
5. 表示されるメニューから [グループ (x) と結合] をクリックします。この場合の「x」は最初に作成したグループの名前を示します。

   この値が既存グループに統合されます。

   注意 : グループの名前は動的に更新されません。変更後のグループのコンテンツを反映させるためには、右クリックオプションまたは [クエリ] ウィンドウから利用可能な [グループの編集] オプションを使用してグループを編集する必要があります。

手順　既存グループの名前を変更するには

1. ビジュアライゼーションモードで、1 つのメジャーと 1 つのディメンションを使用して棒グラフを作成します。棒グラフが表示されます。
2. ビジュアライゼーションの 2 つ以上のフィールドをフリーハンド (ラッソ) 選択します。
3. 表示されるメニューから [グループ (x) と結合] をクリックします。この場合の「x」は、作成した棒グラフのディメンションの名前を示します。

   2 つの値が、統合されグループ化されて関連する軸上に表示されます。
4. グループ化されたフィールドをフリーハンド (ラッソ) 選択し、表示されるメニューから [グループ名 (x) の変更] をクリックします。この場合の「x」はグループの既存のラベルを示します。
5. [グループ名の変更] ダイアログボックスに、グループの新しい名前を入力します。
6. [OK] をクリックします。

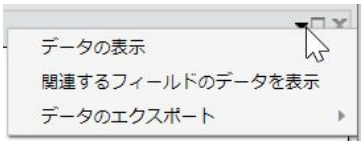
   グループの名前が変更され、関連する軸上に表示されます。

   注意 : [グループの編集] ダイアログボックスを使用してグループ名を変更することもできます。このダイアログボックスは、[クエリ] ウィンドウでグループ化された値で右クリックし、[グループの編集] をクリックすると表示されます。詳細は、74 ページの 「 動的グループ 」 を参照してください。

ビジュアルの実データの表示

InfoAssist で作成したビジュアライゼーションをインタラクティブに操作して、データを分析することができます。ビジュアライゼーションの作成時に、データをさまざまな視点で表現したビューを作成しておくと、パターンや傾向の識別が容易になります。

パターンや傾向を特定した後、特定のビジュアルに使用されている実データを取得し、社内の他のユーザと共有したい場合があります。下図のように、データオプションを使用することができます。



[データの表示] オプションを選択すると、このデータを表示、共有するオプションが提供されます。[データのエクスポート] オプションを選択すると、現在のビジュアライゼーションに関連するデータを概要フォーマットまたは詳細フォーマットでエクスポートできます。 また、[関連するフィールドのデータを表示] オプションを使用して、関連するデータを表示することもできます。

[関連するフィールドのデータを表示] オプションを使用した場合、選択したフィールドに基づいて、より詳細なデータが表示されます。具体的には、選択したディメンション階層に属する他のフィールドすべてに関するデータが表示されます。たとえば、wf_retail データソースの [製品,区分] ディメンションフィールドを選択した場合、関連するフィールドデータとして、同一のディメンション階層に属する [製品,区分 (詳細)] および [型] ディメンションフィールドのデータも表示されます。

[データの表示] オプションと同様に、[関連するフィールドのデータを表示] オプションを使用すると、選択したデータフィールドに基づいて、より詳細なデータを表示することができます。これらのデータフィールドは別のブラウザウィンドウに表示され、データをソートして確認することもできます。ディメンション階層のサイズによっては、複数ページのレポートが生成される場合があります。

注意：データは、.xlsx または .csv フォーマットでエクスポートできます。

[データの表示] または [関連するフィールドのデータを表示] オプションを選択した場合、別のブラウザウィンドウでレポートが生成されます。このレポートは、インタラクティブレポートと呼ばれ、列見出しのドロップダウンメニューを使用してデータをソートしたり、データの表示方法を変更したりすることができます。

[データのエクスポート] オプションを選択した場合、次のことを行えます。

- [SUM] オプションを選択して、データを概要フォーマットでエクスポートする。ビジュアルに使用したデータフィールドに基づいて、ソートフィールドの値ごとにデータ値が合計されます。
- [PRINT] オプションを選択して、データを詳細フォーマットでエクスポートする。ビジュアルに使用したデータフィールドに基づいて、より詳細なデータがエクスポートされます。

注意

- [SUM] または [PRINT] オプションを使用してデータをエクスポートする場合、生成されるデータファイルをユーザのローカルマシンに Microsoft Excel フォーマットで保存し、その後の分析に使用したり、他のユーザと共有したりできます。
- エクスポート可能な最大レコード数は 100,000 件です。

手順　ビジュアルの実データを表示するには

1. ビジュアルを作成します (例、グラフ、マップ、リスト)。
2. ビジュアルセルの右上で下向き矢印をクリックします。
3. メニューから [データの表示] を選択します。

   新しいブラウザウィンドウが開きます。このウィンドウに、ビジュアルのデータが WebFOCUS のインタラクティブレポートと して表示されます。このレポートは、ブラウザアクセスのみが可能なポータブルなレポートです。このレポートを使用して、ブラウザベースのデータ分析を行うことができます。

手順　関連するフィールドのデータを表示するには

1. ビジュアルを作成します (例、グラフ、マップ、リスト)。
2. ビジュアルセルの右上で下向き矢印をクリックします。
3. メニューから [関連するフィールドのデータを表示] を選択します。

   新しいブラウザウィンドウが開きます。このウィンドウに、ビジュアルのデータが WebFOCUS のインタラクティブレポート として表示されます。このレポートを使用して、ビジュアル内の階層データをソートしたり、操作したりすることができます。

手順　ビジュアルのデータをエクスポートするには

1. ビジュアルを作成します (例、グラフ、マップ、リスト)。

2. ビジュアルセルの右上で下向き矢印をクリックします。
3. メニューから [データのエクスポート] を選択し、次のいずれかを選択します。

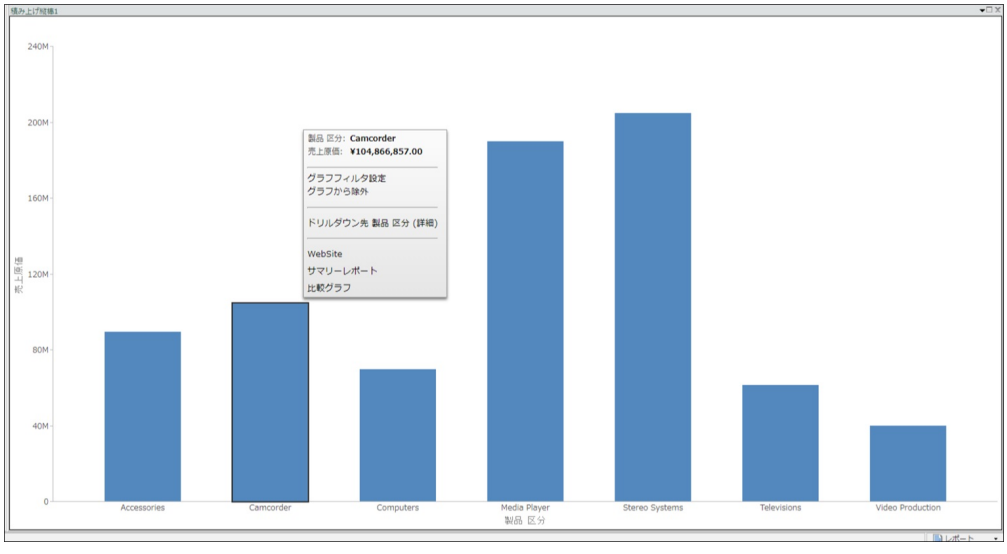
❑ **SUM** プロンプトが表示され、Microsoft Excel ファイルを開くか、保存するかの選択が要求されます。下図のように、このファイルには、一般分析用の概要レベルのデータ概要が表示されます。

製品区分	製品名	収益	粗利益
Accessories	Audio Technica ATH-W5000 Dynamic Headphones	¥9,341,397.65	¥2,354,397.65
Accessories	Cycle Energy Quick with Refresh Charger	¥1,508,212.41	¥666,612.41
Accessories	Denon AH-D5000 Over-Ear Headphones	¥9,272,133.77	¥2,477,303.77
Accessories	Grado RS1i Reference Series Headphones	¥9,452,243.25	¥2,208,713.25
Accessories	Logitech 915000030 Harmony 900 Universal Remote	¥14,419,020.31	¥4,401,161.31
Accessories	Logitech Harmony 1100 Universal Remote Control	¥9,301,960.89	¥1,518,520.89
Accessories	Niles Audio FG01584 Remote Control Anywhere! Kit with Tabletop Sensor	¥11,401,805.70	¥2,616,237.70
Accessories	Niles Audio FG01586 Remote Control Anywhere! Kit for Home Theater Application	¥14,276,128.75	¥4,825,372.75
Accessories	Pioneer HDJ1000 Pro DJ Quality Stereo Headphones	¥8,028,218.25	¥4,049,178.25
Accessories	Samsung OEM 2.0 Amp Travel Charger	¥2,514,622.50	¥1,303,511.50
Accessories	Sennheiser HD650 Stereo Headphone	¥13,482,341.62	¥2,754,941.62
Accessories	Sennheiser HD800 Headphones	¥10,417,165.58	¥3,034,715.58
Accessories	Sennheiser SET830-S InfraRed Stereo TV Listening System	¥8,166,325.05	¥3,765,517.05
Accessories	Sony MDR-V900HD Pro Style Headphones	¥8,026,762.80	¥3,878,256.80
Camcorder	Canon FS300 Ultra Sleek camcorder-rd	¥14,280,110.10	¥4,361,353.10
Camcorder	Canon VIXIA HF R11 High Definition 32GB Dual Flash Memory Camcorder	¥9,462,118.35	¥2,383,118.35
Camcorder	Canon XH-A1S Professional HD Camcorder	¥10,676,938.80	¥1,892,638.80
Camcorder	JVC HD Camcorder Black	¥8,620,412.37	¥1,829,180.37
Camcorder	JVC Open Box GY-HD200U 1/3 3-CCD Professional HDV Camcorder	¥10,398,220.80	¥2,715,862.80

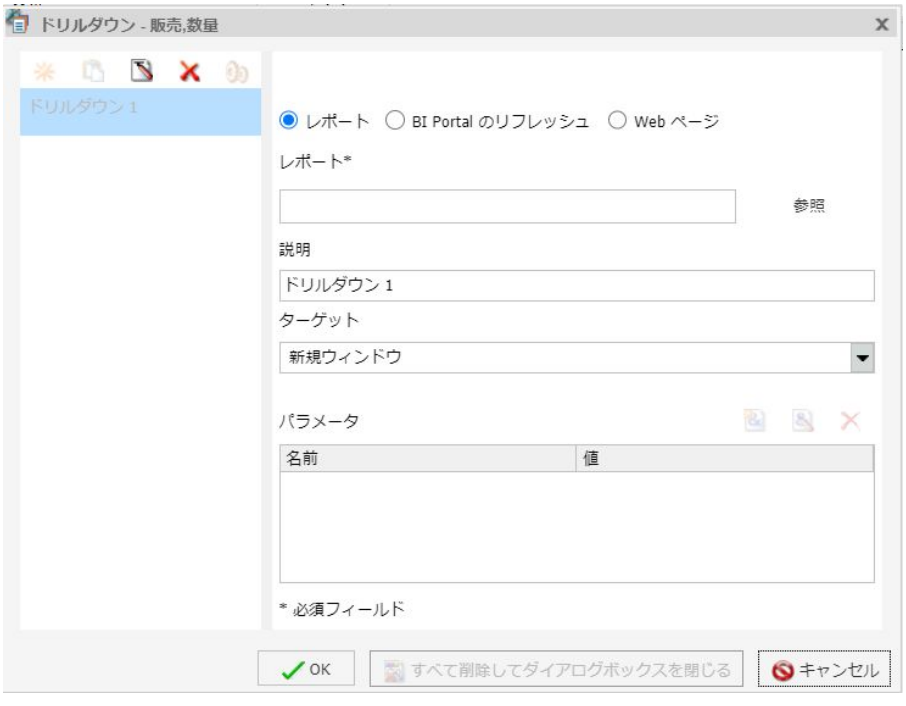
❑ **PRINT** 詳細レポートが生成され、データ分析用の具体的なデータが表示されます。

ビジュアライゼーションモードでのマルチドリルダウンの使用

グラフモードで使用可能な機能と同じように、ビジュアライゼーションモードでもメジャーフィールドにマルチドリルダウンリンクを作成することができます。この機能を使用すると、他のレポートや Web サイトへのカスタムリンクを定義することで、内部および外部ソースのコンテンツへのリンクが簡単に作成できます。定義済みのリンクは、下図のように、ライザ上にマウスポインタを置いた際に表示されるショートカットメニューに表示されます。



マルチドリルダウンは、[フィールド] タブの [リンク] グループからアクセス可能な [ドリルダウン] ダイアログボックスを使用して作成することができます。[クエリ] ウィンドウでメジャーをクリックして [フィールド] タブを有効にします。[リンク] グループで [ドリルダウン] をクリックします。下図のように、[ドリルダウン] ダイアログボックスが開きます。



注意：ビジュアライゼーションモードでマルチドリルダウンを作成する場合、[オートリンクターゲット] オプションは使用できません。

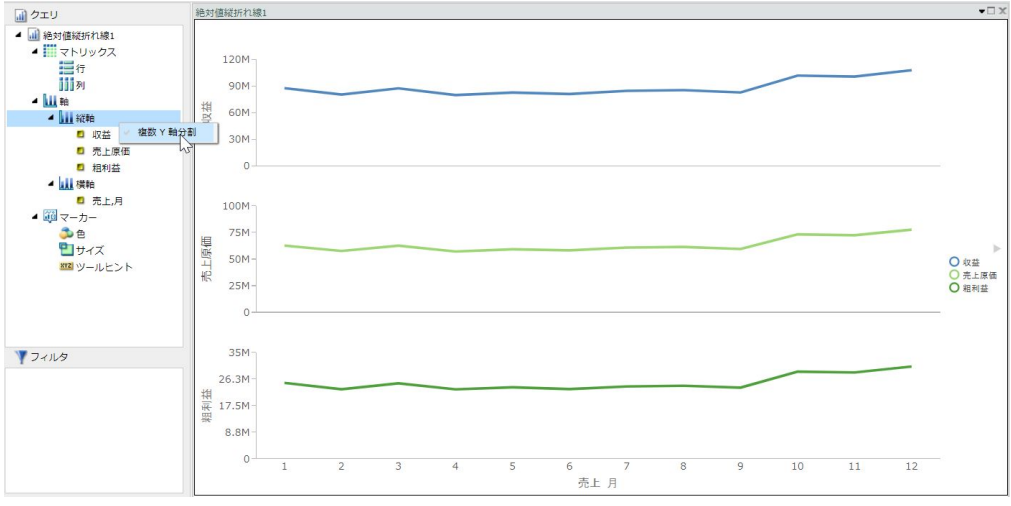
詳細および使用方法については、374 ページの 「 マルチドリルダウンの使用 」 を参照してください。

複数 Y 軸の比較ビジュアルの作成

複数のメジャー (数値) フィールドを使用してグラフを作成する場合、メジャーフィールドごとに Y 軸を分割した複数グラフを作成することができます。

注意：[データ] ウィンドウで選択した複数のメジャーフィールドは、[クエリ] ウィンドウの [縦軸] フィールドコンテナ下に表示されます。

この機能を使用すると、下図のように、同一グラフに各メジャーフィールドのデータを分割して表示できるため、複数のメジャーフィールドの傾向を分析する場合に役立ちます。



この機能は、棒グラフ、積み上げ棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、積み上げ面グラフで使用できます。

手順　複数 Y 軸の比較ビジュアルを作成するには

1. InfoAssist をビジュアライゼーションモードで起動します。
2. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[変更] をクリックします。
3. 棒グラフ、積み上げ棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、積み上げ面グラフのいずれかを選択します。

   注意：デフォルトのビジュアルは、積み上げ棒グラフです。
4. 複数のメジャーフィールドをビジュアルに追加します。たとえば、[粗利益] および [収益] フィールドを選択します。
5. 少なくとも 1 つのディメンションフィールドをビジュアルに追加します。たとえば、[製品,区分] フィールドを選択します。
6. [クエリ] ウィンドウで [縦軸] を右クリックします。
7. [複数 Y 軸分割] を選択します。

   グラフ表示が変更され、メジャーフィールドごとに個別のグラフが表示されます。

   注意：分割されたグラフを統合して元のグラフに戻すには、[縦軸] を右クリックし、[複数 Y 軸分割] を選択します。

ビジュアライゼーションのカスタマイズ

ビジュアライゼーションを作成した後、ビジュアライゼーション内の各ビジュアルを個別にカスタマイズしたり、スタイルを設定したりできます。たとえば、ビジュアライゼーション内の棒グラフビジュアルに軸タイトルを追加し、別のビジュアルにタイトルや見出しを追加します。カスタマイズオプションは、ビジュアルのタイプに応じて異なります。たとえば、棒グラフビジュアルのフォーマットオプションと、円グラフビジュアルのフォーマットオプションは同一ではありません。

ここでは、すべてのビジュアルタイプで使用可能なフォーマットオプションについて説明します。

- 337 ページの 「 軸のフォーマットダイアログボックス 」
- 342 ページの 「 軸プロパティの使用 」
- 346 ページの 「 データラベルのフォーマット設定 」
- 347 ページの 「 凡例のフォーマット設定 」
- 347 ページの 「 シリーズのフォーマット設定 」
- 348 ページの 「 ビジュアル内のデータに使用するフォーマット設定および表示ツール 」

軸ラベルのフォーマット設定

縦軸および横軸は、ビジュアルの方向に基づいて決定されます。たとえば、縦方向のビジュアルの場合、横軸は X 軸、縦軸は Y 軸を表します。横方向のビジュアルの場合、横軸は Y 軸、縦軸は X 軸を表します。各種オプションはビジュアルの方向によって変わるため、この点に注意する必要があります。

グラフには、次のような軸ラベルを含めることができます。

- 横軸ラベルは、X 軸を表します。
- 縦軸ラベルは、単一軸グラフの Y1 軸を表します。これらは、数値のスケールを表し、通常、縦方向のグラフの左側に表示されます。
- 横軸 2 ラベルおよび縦軸 2 ラベルは、2 軸グラフを選択した場合にのみ使用することができます。

軸のフォーマットダイアログボックス

縦軸および横軸の [軸のフォーマット] ダイアログボックスには、軸のフォーマットを設定するオプションが表示されます。[軸のフォーマット] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般 (横軸)
- 目盛り (縦軸)
- タイトル
- ラベル
- 詳細

参照

縦軸のフォーマットダイアログボックス

[縦軸のフォーマット] ダイアログボックスを使用して、グラフの縦軸に適用するフォーマットオプションを指定します。

[目盛り] タブでは、目盛りのプロパティを変更します。

[目盛り] タブには、次のオプションがあります。

- **自動最小値** Y 軸目盛りに最小値を自動的に割り当てます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。最小値を設定するには、[値] テキストボックスに数値を入力します。
  - **値** [自動最小値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最小値を入力します。
- **自動最大値** Y 軸目盛りに最大値を自動的に割り当てます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] テキストボックスに値を入力して最大値を設定します。
  - **値** [自動最大値] を選択しなかった場合、このテキストボックスに最大値を入力します。
- **自動目盛間隔** 主罫線の間隔を自動的に計算します。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] テキストボックスに値を入力して間隔を設定します。
  - **値** [自動目盛間隔] を選択しなかった場合、このテキストボックスに値を入力します。

- **対数目盛り**　Y 軸目盛りを線形的に増加させるのではなく、対数的に増加させるかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。このオプションを選択すると、対数の底が 10.0 に設定されますが、この値は、別の値を入力して変更することができます。
- **目盛りにゼロを表示**　目盛りに 0 (ゼロ) 値を表示するかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。

InfoAssist のグラフで縦軸オプションを使用する際に、スタイルシートに setScaleMustIncludeZero() 設定が含まれていない場合、デフォルト設定で [目盛りにゼロを表示] のチェックがオフになります。この設定が含まれていない場合、値は false です。一方、TIBCO WebFOCUS Reporting Server はこの値を true に設定します。そのため、実行時に不正確な出力結果が生成されます。

この問題を解決するには、スタイルシートに setScaleMustIncludeZero() 設定を追加します。たとえば、「setScaleMustIncludeZero(getY1Axis(),true);」を追加します。

別の解決方法もあります。[フォーマット] タブの [ラベル] グループの [軸] オプションから [縦軸のフォーマット] ダイアログボックスを開き、[目盛りにゼロを表示] のチェックをオンにしてダイアログボックスを閉じます。次に、このダイアログボックスを再度開き、[目盛りにゼロを表示] のチェックをオフにします。この操作により、上記の設定がプロシジャに書き込まれ、値が false に設定されます。このオプションのチェックを再度オンにすると、値が true に設定されます。

[タイトル] タブでは、軸タイトルの表示と非表示の切り替えと、軸タイトルの入力およびスタイル設定を行います。

[タイトル] タブには、次のオプションがあります。

- **タイトルの表示**　このチェックをオン (デフォルト) にして軸タイトルを表示するか、オフにして軸タイトルを非表示にします。
- **テキスト**　軸のタイトルを入力します。
- **テキストスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベル] タブでは、軸ラベルのフォーマットを設定します。

[ラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの表示**　軸の横にラベルを表示します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
  - **軸の表示**　軸に表示するラベルの位置を選択します。オプションには、[左] (デフォルト設定)、[右]、[両側] があります。
  - **ラベルスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。
  - **ラベルフォーマット**　ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストを表示します。
  - **カスタムフォーマット**　カスタムフォーマットを使用することができます。このオプションは、ラベルフォーマットとして [パターンの使用 / 100] または [パターンの使用] を選択した場合にのみ有効になります。

[ラベルフォーマット] ドロップダウンメニューには、ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストが表示されます。[パターンの使用] を選択した場合は、[カスタムフォーマット] テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、下表を参照してください。

文字	説明
#	桁を表します。
0 (ゼロ)	非表示にします。
. (ピリオド)	小数点の区切り文字に使用するプレースホルダです。
, (カンマ)	位の区切り文字に使用するプレースホルダです。
; (セミコロン)	複数のフォーマットを区別します。
- (ダッシュ)	デフォルトの負の接頭語です。
% (パーセント)	100 で除算してパーセントで表示します。
x	接頭語または接尾語にその他の文字を使用できることを指定します。

文字	説明
‘ (アポストロフィ)	接頭語または接尾語に使用する特殊文字をこの引用符で囲みます。

[詳細] タブでは、軸ラベルの追加プロパティを変更します。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **最小ラベルの非表示**　軸の最小値ラベルをグラフから除外します。
- **最大ラベルの非表示**　軸の最大値ラベルをグラフから除外します。
- **降順軸**　軸を降順で表示します。
- **軸線の表示**　軸ベースラインの表示を制御します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、軸線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **ゼロ線の表示**　ゼロ線の表示を制御します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、ゼロ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **カスタムベースライン**　カスタムベースラインの表示を制御します。
  - **値**　カスタムベースラインの値を入力します。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、カスタムベースラインの色、太さ、スタイルを編集することができます。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、342 ページの 「 軸プロパティの使用 」 の手順を参照してください。

参照　横軸のフォーマットダイアログボックス

[横軸のフォーマット] ダイアログボックスを使用して、グラフの横軸に適用するフォーマットオプションを指定します。

[全般] タブの [軸線の表示] チェックボックスで、軸線を表示するかどうかを制御します。このチェックをオンにすると、軸線のスタイルを設定することができます。

[全般] タブには、次のオプションがあります。

- **軸線の表示**　軸線の表示を有効にします。
  - **線スタイル**　[線スタイル] ダイアログボックスを開き、軸線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

[タイトル] タブでは、軸のタイトルを作成し、スタイルを設定します。

[タイトル] タブには、次のオプションがあります。

- **タイトルの表示**　タイトルの表示を有効にします。
- **テキスト**　軸のタイトルを入力します。
- **スタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベル] タブでは、軸ラベルのフォーマットを設定します。

[ラベル] タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの表示**　軸の横にラベルを表示します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
  - **軸の表示**　軸に表示するラベルの位置を選択します。オプションには、[上] (デフォルト設定)、[下]、[両側] があります。
  - **ラベルスタイル**　[スタイル] ダイアログボックスを開いて、テキストのスタイルを設定することができます。
- **ラベルを交互に表示**　ラベルを交互に表示します。
- **ラベルの連結**　ビジュアライゼーション上の複数のラベルを連結します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。

[詳細] タブでは、軸ラベルの追加プロパティを変更します。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

- **最小ラベルの非表示**　軸の最小値ラベルをグラフから除外します。
- **最大ラベルの非表示**　軸の最大値ラベルをグラフから除外します。
- **グループを逆にする**　横軸のグループの表示順序を逆にします。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、以下の「軸プロパティの使用」の手順を参照してください。

軸プロパティの使用

ここでは、軸をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

軸ラベルはデフォルト設定で表示されます。

手順　軸ラベルを非表示にするには

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、対象となる軸を選択して [ラベルの表示] オプションの選択を解除します。

   グラフの軸ラベルが非表示になります。

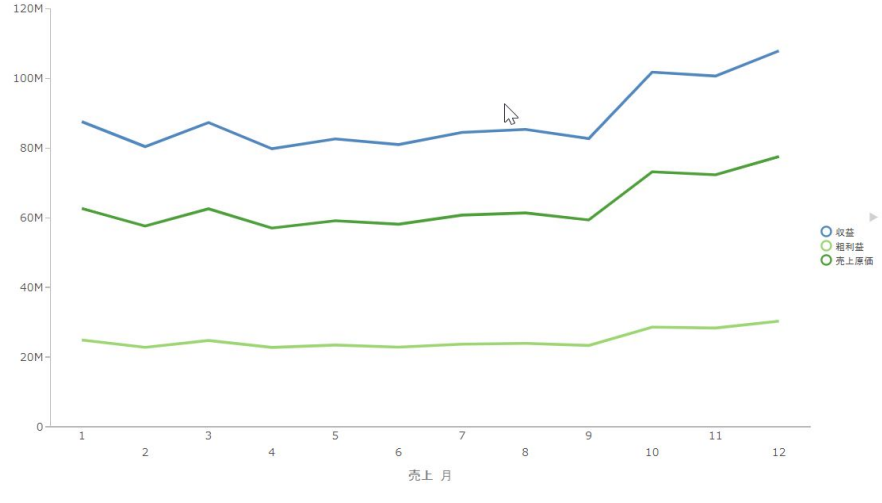
手順　軸ラベルを交互に表示するには

注意：軸ラベルを交互に表示する効果は、横軸ラベルにのみ適用できます。

1. 少なくとも 1 つの横軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、[横軸]、[横軸ラベルを交互に表示] を順に選択します。

   軸ラベルが交互に表示されます。

   下図は、横軸ラベルが交互に表示されたグラフを示しています。

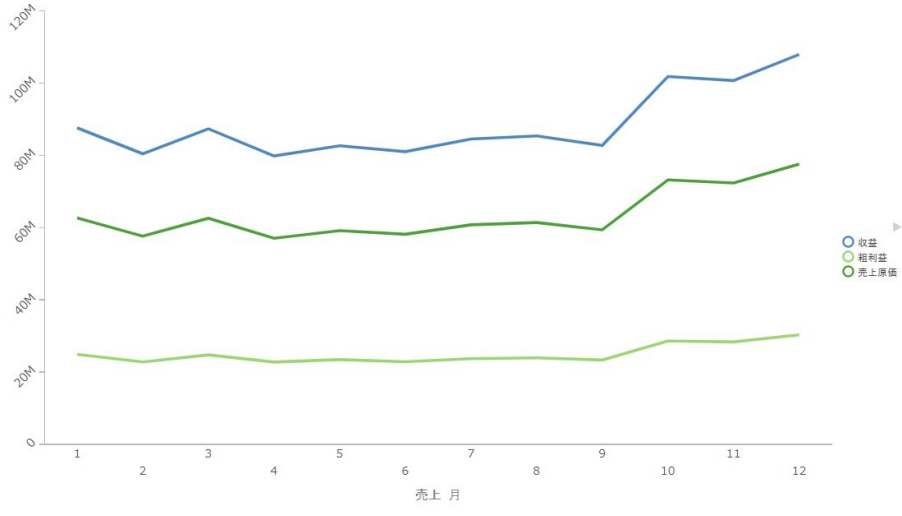


手順　軸ラベルを回転するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、対象となる軸を選択して [ラベルの回転] を選択した後、軸ラベルの回転角度を選択します。

   軸ラベルが回転されます。

   下図は、縦軸ラベルを 45 度回転させたグラフを示しています。



手順　軸ラベルのフォーマットを設定するには

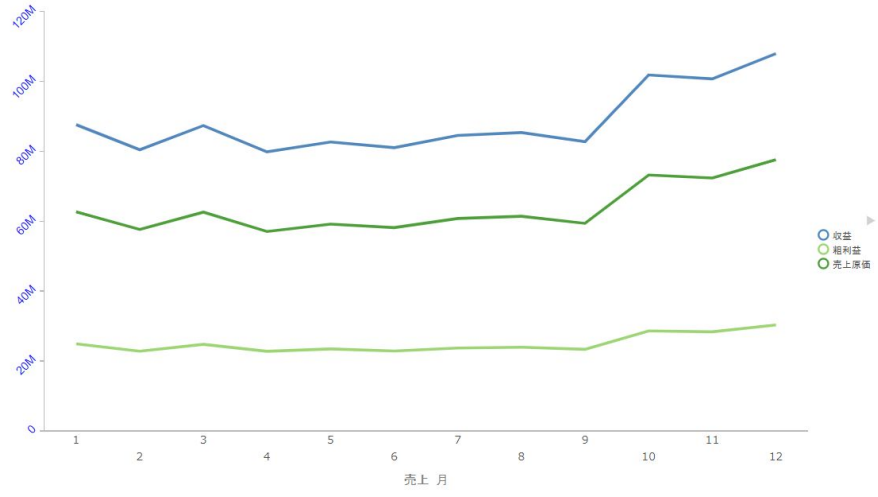
1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、対象となる軸を選択して [縦軸詳細オプション] または [横軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

3. [ラベル] タブをクリックします。
4. [ラベルフォーマット] ドロップダウンリストから、設定するフォーマットオプションを選択します。

   指定したフォーマットが軸ラベルに適用されます。

下図は、縦軸ラベルのスタイルが青色の Arial フォントに設定されたグラフを示しています。



手順　軸目盛りを手動で設定するには

注意：軸目盛りは、縦軸ラベルにのみ設定可能です。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、[縦軸]、[縦軸詳細オプション] を順に選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [目盛り] タブで [自動最小値] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに最小値を入力します。
4. [自動最大値] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに最大値を入力します。
5. [自動目盛間隔] オプションの選択を解除し、[値] テキストボックスに目盛間隔値を入力します。
6. 必要に応じて、[対数目盛り] オプションを選択し、その名前のテキストフィールドに対数目盛りの底を入力することもできます。また、軸に 0 (ゼロ) を表示しない場合は、[目盛りにゼロを表示] オプションの選択を解除してください。
7. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

   指定した設定が軸目盛りに適用されます。

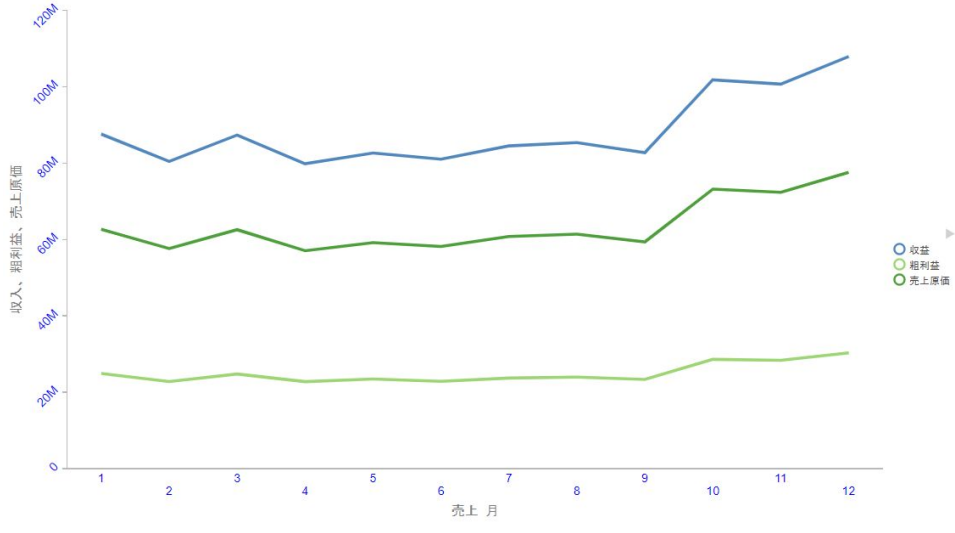
手順　軸タイトルを追加するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、対象となる軸を選択して [縦軸詳細オプション] または [横軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [タイトル] タブで、[テキスト] テキストボックスに軸タイトルを入力します。
4. [テキストスタイル] アイコンをクリックして [スタイル] ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

   指定したスタイルが軸タイトルに適用されます。

   下図は、縦軸ラベルおよび横軸ラベルにタイトルが追加されたグラフを示しています。



手順　軸の詳細プロパティを設定するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [軸] をクリックし、対象となる軸を選択して [縦軸詳細オプション] または [横軸詳細オプション] を選択します。

   [軸のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
3. [詳細] タブで、次のオプションを設定します。使用可能なオプションは下表のとおりです。

オプション	縦軸ラベルで使用可	横軸ラベルで使用可
最小ラベルの非表示	✓	✓
最大ラベルの非表示	✓	✓
降順軸	✓	✗
軸線の表示	✓	✗
ゼロ線の表示	✓	✗
カスタムベースライン (値)	✓	✗
グループを逆にする	✗	✓

[線スタイル] ダイアログボックスで設定したすべての線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

4. [OK] をクリックします。

   設定した詳細オプションが軸に適用されます。

データラベルのフォーマット設定

データラベルを使用すると、グラフ上の重要なデータポイントが強調されます。正確な数値を識別する役割もあります。データラベルをさまざまな方法でカスタマイズすることで、グラフ上のデータラベルをより明確に表示することができます。たとえば、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスを使用して、データラベルの位置、角度、色、サイズを変更します。

注意：[ラベルフォーマット] ダイアログボックスに表示される各種オプションは、使用するグラフタイプに応じて異なります。

手順　凡例フォーマットダイアログボックスにアクセスするには

[凡例フォーマット] ダイアログボックスには、グラフ上の凡例のフォーマットを設定するオプションがあります。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] タブの [ラベル] グループで [凡例] をクリックし、[凡例詳細オプション] を選択します。

[凡例フォーマット] ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のオプションを使用して凡例のフォーマットを変更します。
   - **凡例オプション** 凡例の表示と非表示を切り替えるオプション、凡例の位置を設定するオプション、凡例の表示順序を逆にするオプションを設定します。
   - **マーカーとラベル** マーカーのスタイルと位置を設定します。[スタイル] ダイアログボックスでラベルのスタイルを設定することもできます。
   - **塗りつぶし** 凡例の塗りつぶし方法を指定します。オプションには、[塗りつぶしなし]、[単色]、[グラデーション] があります。デフォルト値は [塗りつぶしなし] です。
   - **境界スタイル** 凡例の境界を表示するかどうかを指定します。色を指定することもできます。

凡例のフォーマット設定

凡例には、グラフのデータを正確に解釈するために必要な情報が含まれています。デフォルト設定では、グラフには、メジャーフィールドが 1 つの場合は縦軸タイトル、メジャーフィールドが複数の場合は凡例が、それぞれ表示されます。

[凡例フォーマット] ダイアログボックスを使用して、グラフに表示する凡例のフォーマットや外観をカスタマイズすることができます。

手順 ラベルフォーマットダイアログボックスにアクセスするには

1. グラフを作成します。
2. [シリーズ] タブの [プロパティ] グループで [データラベル] をクリックし、[データラベル詳細オプション] を選択します。

   [ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

シリーズのフォーマット設定

シリーズは、グラフに含めるメジャーフィールドです。シリーズのフォーマットは、さまざまな方法で設定することができます。たとえば、シリーズ色を変更したり、シリーズマーカーの外観を変更したりできます。

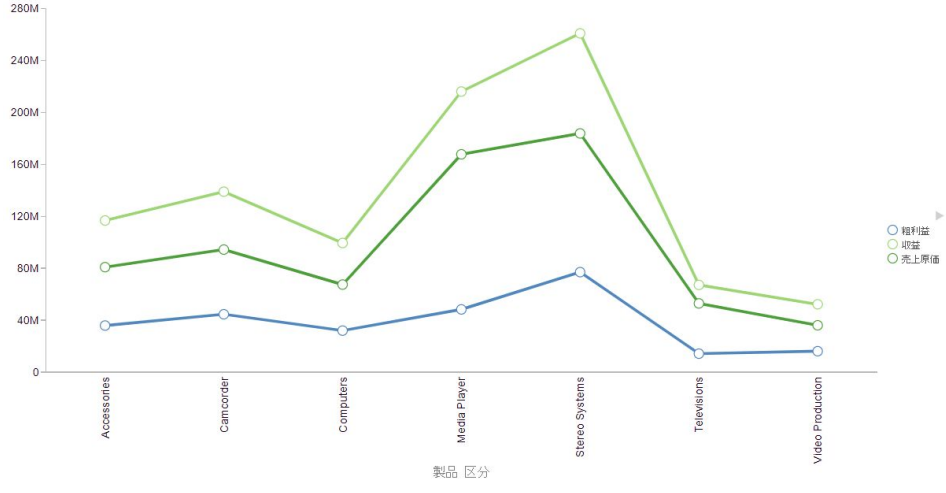
手順　マーカーの外観を変更するには

マーカーは、折れ線グラフ上のデータ点の表示に使用されます。また、グラフ上のデータを識別するために凡例でも使用されます。形状の異なるマーカーを使用することで、各シリーズが区別しやすくなります。

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] タブの [折れ線] グループで [マーカ] をクリックし、マーカー形状を選択します。

   選択した形状がマーカーに適用されます。

   下図では、製品区分のデータ値にダイヤモンド形状のマーカーが使用されています。



ビジュアル内のデータに使用するフォーマット設定および表示ツール

ビジュアライゼーションの操作では、さまざまなフィルタおよび編集ツールを使用して、任意のビジュアルのメジャーデータおよびディメンションデータの表示をフォーマット設定することができます。たとえば、メジャーの場合、[フォーマットの編集] オプションを使用して、選択したメジャー値の小数部の表示を設定することができます。また、メジャーおよびディメンションにフィルタを設定して、情報の表示を制限することもできます。これらのオプションは、フィールドを右クリックすると表示されます。下表はこれらのオプションの定義と説明を示しています。

オプション	説明
フィルタ	選択したメジャーまたはディメンションにフィルタを設定します。すべての値を選択することも、表示する必要のあるデータ値のみを選択することもできます。このように、不要なデータは除外することができます。ビジュアライゼーションでは、デフォルト設定でプロンプトが作成されます。ただし、フィルタの設定オプションを使用して、このオプションの選択を解除することができます。このオプションは、メジャーとディメンションの両方で表示されます。
ソート	選択したメジャーまたはディメンションのソートオプションを設定することができます。たとえば、データ値を昇順または降順でソートしたり、情報の表示に制限を設定したりできます。情報表示の制限については、デフォルト値が [無制限] に設定されています。このオプションは、メジャーとディメンションの両方で表示されます。
表示	ビジュアルでの選択したメジャーまたはディメンションの表示を制御します。デフォルト値は [表示] ですが、このオプションを [非表示] に設定すると、ビジュアルの値が非表示になります。このオプションは、メジャーとディメンションの両方で表示されます。
タイトルの変更	メジャーまたはディメンションのタイトルの編集を有効にします。[タイトルの編集] ダイアログボックスの [タイトルを入力してください] テキストボックスに新しいタイトルを入力し、[OK] をクリックします。選択した軸に合わせて、新しいラベルが適用されます。このオプションは、メジャーとディメンションの両方で表示されます。

オプション	説明
フォーマットの編集	フィールドのフォーマットを変更することができます。フィールドタイプ、表示オプション、フィールド長、および表示する小数点以下桁数の指定などが変更できます。詳細は、106 ページの「フィールドフォーマットの変更」を参照してください。このオプションは、メジャーフィールドでのみ表示されます。 **注意:** フィールドのフォーマット変更はすべて、ビジュアライゼーションのデザイン時および実行時のツールヒントに反映されます。
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、特定のデータフィールドに対して、外部プロシジャや Web サイトへのマルチドリルダウンリンクを作成することができます。このオプションは、ビジュアライゼーションのメジャーフィールドで使用できます。
詳細	集計関数にアクセスし、選択した数値フィールドに集計関数 (例、[集計]、[平均]、[件数]) を適用することができます。このオプションは、メジャーフィールドでのみ使用できます。このオプションは、メジャーとディメンションの両方で表示されます。
削除	選択したフィールドを削除します。このオプションは、すべてのフィールドコンテナで使用できます。 **注意:** [クエリ] ウィンドウおよび [フィルタ] ウィンドウでは、複数のデータフィールドを一括選択して削除することができます。Ctrl キーを押しながら複数のデータフィールドを順に選択し、右クリックして [削除] を選択します。

オプション	説明
グループの作成	選択したフィールドのデータタイプに基づいて、複数の要素で構成されたグループを作成することができます。新しいグループを定義すると、選択した要素のみが含まれた上位フィールドが作成されます。このオプションは、数値以外のフォーマットまたは属性のディメンションフィールドでのみ使用できます。詳細は、74 ページの 「 動的グループ 」 を参照してください。

ハンドルによるビジュアルの配置

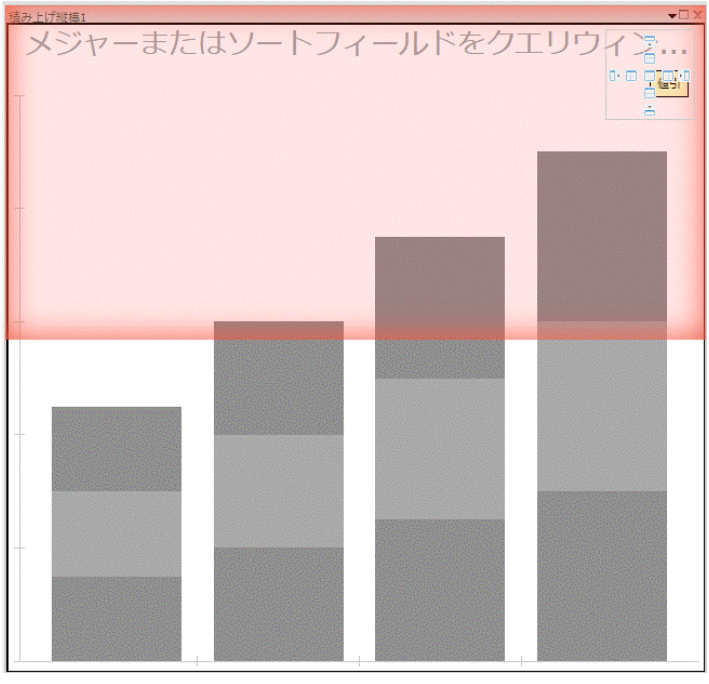
通常のビジュアライゼーションは、複数のビジュアル (グラフ、マップ、リスト) で構成されています。デフォルトキャンバスで作業を開始し、任意の数のビジュアルを挿入します。これらのビジュアルの配置は、データフィールドをキャンバスにドラッグするか、新しいビジュアルを挿入した際に表示されるハンドルを使用して制御します。

ビジュアルは、次のいずれかの方法で追加することができます。

- [データ] ウィンドウからキャンバスにデータフィールドをドラッグします。ハンドルが表示され、新しいビジュアルの位置を選択することができます (例、現在のビジュアルの上側または左側)。
- [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで [挿入] をクリックし、キャンバスに新しいビジュアルまたはテキストオブジェクトを追加します。新しいビジュアルの位置を設定するには、そのビジュアルを別のビジュアルの上面にドラッグし、相対位置を示すハンドルの最上位にドラッグします。

ビジュアルを別のビジュアルの上面にドラッグすると、影付きエリアが有効になります。この影付きエリアは、マウスボタンを離した際にビジュアルセルがドッキングされる場所のプレビューを表します。また、ドッキング後のビジュアルのサイズも表します。

影付きエリアと同時にハンドルも表示されます。ハンドルを使用して、現在のビジュアルの配置先を、キャンバス上の他のビジュアルとの相対位置で指定することができます。下図のように、ハンドルは、影付きエリアが表示されているビジュアルの右上に表示されます。



手順　ビジュアライゼーションにビジュアルを配置するには

ビジュアライゼーションに配置するグラフ、マップ、リスト、テキストオブジェクトの位置を指定することができます。

1. InfoAssist を起動します。
2. 次のいずれかの方法で、1 つまたは複数のビジュアルを追加して配置します。
   a. [データ] ウィンドウからキャンバスにデータフィールドをドラッグします。

      ドラッグ先のビジュアルの右上に表示されたハンドルを使用して、新しいビジュアルの配置先を選択します (例、既存ビジュアルの下側、右側)。

   b. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで [挿入] をクリックし、キャンバスに新しいビジュアルまたはテキストオブジェクトを追加します。

新しいビジュアルまたはテキストオブジェクトの位置を設定するには、そのビジュアルまたはテキストオブジェクトを別のビジュアルの上面にドラッグします。影付きエリアと同時に表示されるハンドルを使用して、別のビジュアルとの相対位置で配置先を指定します。

手順　ビジュアライゼーション内のビジュアルを移動するには

1. InfoAssist を起動します。
2. ビジュアライゼーションに複数のビジュアルを追加します。
3. 移動するビジュアルを選択し、近傍のビジュアルの上面にドラッグします。次に、移動先の基準となるビジュアルのハンドル上で、移動先ハンドル上にドロップします。

   影付きエリアと同時に表示されるハンドルを使用して、別のビジュアルとの相対位置で配置先を指定します。

ストーリーボードの使用

ストーリーボード機能を使用して、ビジュアライゼーションの作成中に任意の場面のスナップショットを記録して保存することができます。

作成中の場面のスナップショットをストーリーボードに追加するたびに、各スナップショットがそれぞれ固有の PowerPoint スライドに保存されます。[表示] をクリックすると、PowerPoint が起動し、保存されたスライドが表示されます。

ストーリーボード機能を使用すると、作成中のビジュアライゼーションを PowerPoint プレゼンテーションに変換できるため、ストーリーボードを編集してカスタムデモを作成することができます。たとえば、スライドの順序変更や削除のほか、タイトルやテキストを追加することもできます。

また、作成した PowerPoint ファイルを保存し、Email などの電子配信方法で他のユーザとスライドを共有することで、ビジュアライゼーションのポータブル化も可能になります。

手順　ストーリーボードを作成するには

1. ビジュアルを作成します (例、棒グラフ、リスト)
2. [ホーム] タブの [ストーリーボード] グループで、[追加] をクリックします。

   注意：「ストーリーボードに追加されました」というメッセージで、[OK] をクリックします。
3. 別のビジュアルを挿入します。[ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[挿入] をクリックします。

注意：[挿入] ボタンの下向き矢印をクリックし、グラフ、リスト、テキストのいずれかを選択して挿入することもできます。

4. [ホーム] タブの [ストーリーボード] グループで、[追加] をクリックします。

   手順 2 から 4 を繰り返して、データ分析に必要なストーリーボードをすべて追加します。

5. [ホーム] タブの [ストーリーボード] グループで、[表示] をクリックします。

   新しいブラウザウィンドウが開き、ストーリーボードが保存された PowerPoint ファイルを開くか、保存するかの選択が要求されます。

   - [開く] をクリックすると、ストーリーボードが PowerPoint で開きます。このファイルをユーザマシンに PowerPoint スライドとして保存することができます。
   - [保存] をクリックすると、ストーリーボードが PowerPoint (.pptx) ファイルに保存され、ユーザマシンの [ダウンロード] フォルダに格納されます。ファイルに名前を付けて保存するには、[保存] ボタン右側の下向き矢印をクリックします。この操作で、ファイルの保存先とするドライブとディレクトリを指定することができます。

   PowerPoint では、下図のように、各ストーリーボードフレームが PowerPoint スライドとして表示されます。



ビジュアライゼーションのアニメーション化

ビジュアライゼーションの各ビジュアルにアニメーション効果を追加することができます。各ビジュアルには、それぞれ異なるアニメーション設定を適用できます。各ビジュアルのアニメーションは、ビジュアライゼーションを実行した時点で実行されます。

手順　ビジュアルにアニメーションを追加するには

1. 1 つまたは複数のビジュアルで構成されたビジュアライゼーションを作成します。
2. アニメーション化するビジュアルを選択します。
3. [フォーマット] タブの [インタラクティブ] グループで [インタラクティブオプション] をクリックします。
4. [インタラクティブオプション] ダイアログボックスで、[アニメーションの表示] のチェックをオンにします。

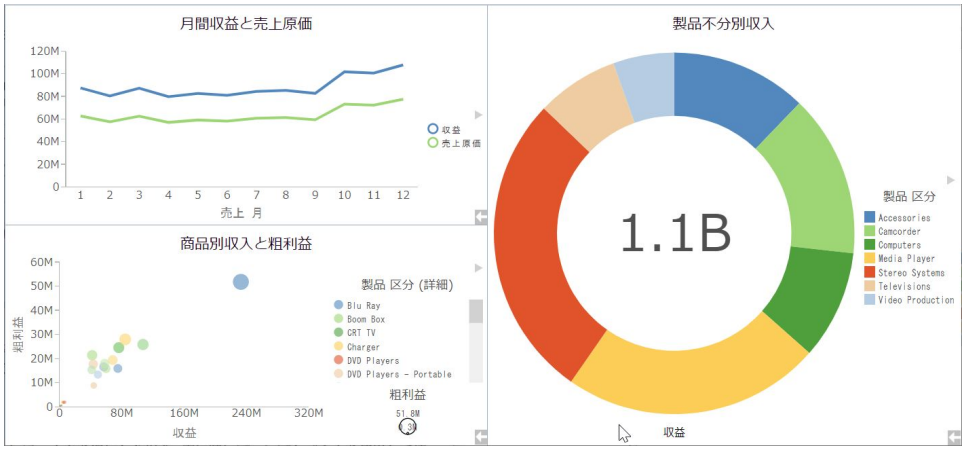
   これで、このビジュアルがアニメーション化されます。
5. アニメーションの継続時間を設定します。この値に基づいて、アニメーション実行時の速度が決定されます。デフォルト値は 1400 ミリ秒です。アニメーションを遅くするには、この値を大きくします。アニメーションを速くするには、この値を小さくします。
6. 必要に応じて、[Hover 効果を有効にする] のチェックをオフにします。

   このオプションを有効にした場合、マウスポインタを置いた際にビジュアルのセグメントが明るくなるか、セグメントに境界線が表示されます。
7. [OK] をクリックします。
8. [実行] をクリックします。

   指定したオプションに基づいて、ビジュアルのアニメーションが自動的に実行されます。

実行時のビジュアライゼーションの使用

InfoAssist では、保存済みのビジュアライゼーションを実行することも、デザイン時に作成中のビジュアライゼーションを動的に実行することもできます。この場合、下図のように、ビジュアライゼーションが別のブラウザウィンドウで開きます。



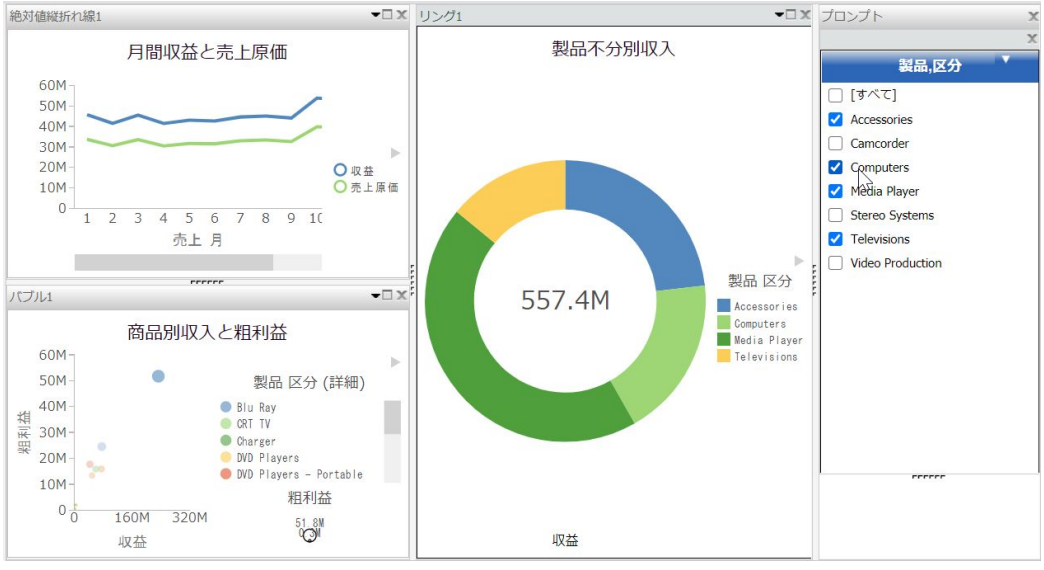
WebFOCUS BI Portal では、実行権限を所有するユーザすべてが保存済みビジュアライゼーションを実行することができます。この場合、ビジュアライゼーションが新しいページで開きます。

実行時のフィルタ設定

ビジュアライゼーションにフィルタを追加した場合、実行時にプロンプトパネルを使用して情報の表示を制御することができます。ビジュアライゼーションを実行すると、プロンプトパネルが表示されます。このプロンプトパネルで別のコンポーネントを選択し、ビジュアライゼーションにフィルタを適用することができます。

注意：実行時に適用したフィルタは、実行時ツールバーの [フィルタ設定解除] オプションを使用して除外することができます。このフィルタ除外は、ビジュアライゼーションの実行前に追加されていたフィルタには適用されません。

下図の例は、プロンプトパネルが開いた状態のビジュアライゼーションを示しています。

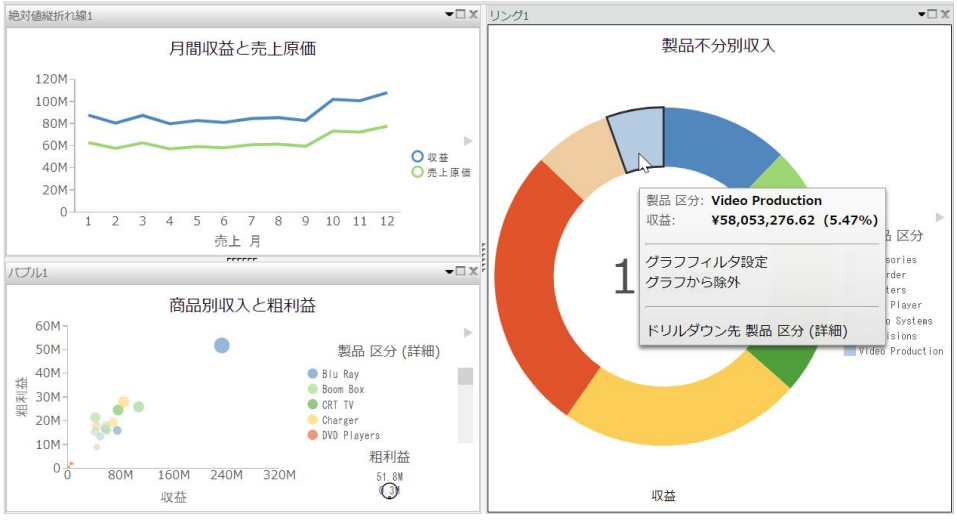


注意：ビジュアライゼーションのコンポーネントをフリーハンド (ラッソ) 選択した場合、その選択はプロンプトパネルに自動的に反映されません。

手順　実行時にツールヒントを使用してデータをフィルタするには

1. 次のいずれかの方法でビジュアライゼーションを実行します。
   - ❏ WebFOCUS 開始ページから実行する。
   - ❏ InfoAssist のアプリケーションメインメニューまたはツールバーから実行する。
2. ビジュアライゼーションでデータポイントをクリックするか、データポイント上にマウスポインタを置くか、フリーハンド選択 (ラッソ選択) で複数のデータポイントを囲みます。

下図のように、ツールヒントが開きます。



ツールヒントに次のオプションが表示されます。

- **グラフフィルタ設定**　選択したデータ値でビジュアライゼーションをフィルタします。
- **グラフから除外**　選択したデータ値をビジュアライゼーションから除外します。
- **フィルタ設定解除**　フィルタ設定を解除し、ビジュアライゼーションを元の状態に戻します。

注意

- モバイルデバイスでビジュアライゼーションを実行した際にも同一の実行時オプションを使用できます。
- 単一のビジュアライゼーションオブジェクト (例、棒グラフ、折れ線グラフ) に表示されるポイントまたは値が 1 つの場合、[グラフフィルタ設定] および [グラフから除外] オプションは使用できません。この動作は、[ライブプレビュー] デザインビューでの操作時にも、実行時にも適用されます。

実行時のデータ表示

実行時にデータを表示した際に、ビジュアライゼーションの各ビジュアルの実データにアクセスすることができます。実行時ツールバーの [データの表示] オプションを使用して、概要フォーマットでデータを表示することができます。このオプションを選択すると、ビジュアルに使用されているデータフィールドに基づいて、ソートフィールドの値ごとに合計値が表示されます。すべての InfoAssist ユーザは、実行権限を所有するビジュアライゼーションでこのオプションを使用することができます。

手順 **実行時にデータを表示するには**

1. 次のいずれかの方法でビジュアライゼーションを実行します。
   - ❏ InfoAssist のアプリケーションメインメニューまたはツールバーから実行する。
   - ❏ WebFOCUS 開始ページから実行する。
2. ビジュアルセルの右下で矢印をクリックします。

   実行時ツールバーが開きます。
3. [データの表示] ボタン  をクリックして、フィールドリストの代わりに関数リストを表示することもできます。

   ビジュアルがリスト表示に変わり、選択したビジュアルの実データが表示されます。

   ビジュアルに戻るには、[データの表示] ボタンを再度クリックします。

   注意：モバイルデバイスでビジュアライゼーションを実行した際にも同一の実行時オプションを使用できます。

実行時ツールバーオプションの使用

実行時ツールバーを表示するには、実行時に各ビジュアルの右下に表示される矢印をクリックします。下図は、実行時ツールバーを示しています。



下表は、実行時ツールバーのオプションの説明です。

アイコン	名前	説明
	データの表示	ビジュアル表示とリスト表示を切り替えます。リスト形式では、詳細データが表示されます。ビジュアル表示に戻るには、[データの表示] ボタンを再度クリックします。
	デフォルトに戻す	すべての変更をリセットし、ビジュアライゼーションを元の状態に戻します。
	フィルタ設定解除	フィルタ設定を解除し、ビジュアライゼーションを元の状態に戻します。このオプションは、実行時にフィルタが適用された場合にのみ使用できます。
	表示/非表示	実行時ツールバーオプションの表示と非表示を切り替えます。

注意: モバイルデバイスでビジュアライゼーションを実行した際にも同一の実行時オプションを使用できます。

7

レポートおよびグラフのナビゲート

[オートドリル]、[オートリンク]、[マルチドリルダウン] などの機能を使用して、レポートおよびグラフを簡単にナビゲートすることができます。レポートの他のナビゲートオプションについての詳細は、118 ページの 「 カスタムレポート出力の作成 」 を参照してください。

トピックス

- オートドリルダウンの使用
- オートリンク機能によるコンテンツのリンク
- マルチドリルダウンの使用

オートドリルダウンの使用

[オートドリルダウン] 機能を有効にすると、データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動が可能になります。これにより、ユーザの情報ニーズに応じて、特定エリアのデータを確認したり、データソース構造内を移動したりできます。

オートドリルダウンを使用するには、[フォーマット] タブの [実行オプション] グループの [オートドリル] ボタンをクリックして、この機能を有効にする必要があります。

[オートドリル] 機能を有効にした後、レポートまたはグラフを作成して実行すると、この機能によって作成されるハイパーリンクがアクティブになります。ハイパーリンクをクリックし、ドリルアップまたはドリルダウンを実行して、データソース階層内をナビゲートすることができます。

ハイパーリンクをクリックすると、データ階層の現在位置に応じてドリルアップまたはドリルダウンするオプションが表示されます。これらのオプションのいずれかを選択して、データのナビゲートを開始します。たとえば、階層の [製品,区分] から [製品,区分 (詳細)] にドリルダウンします。ドリルダウン後、元のディメンションソートフィールドにドリルアップすることができます。選択したデータソースが複数の階層レベルで構成され、レポートまたはグラフで使用するコンポーネントが階層の最上位と最下位の間にある場合は、[ドリルアップ] および [ドリルダウン] オプションの両方が表示されます。[ドリルアップ] および [ドリルダウン] オプションを使用してデータのナビゲートを開始した後、メニューに [元に戻す] オプションが表示されます。このオプションを選択して元のオートドリルダウンリクエストを再実行し、データ分析を最初からやり直すことができます。

下図は、ドリルアップおよびドリルダウンのオプションを示しています。



[オートドリルダウン] 機能では、実行時のレポート上部に階層リンクが表示されます。これにより、データソース階層内の現在位置が明確になり、データ階層レベルの上位と下位の移動が容易になります。

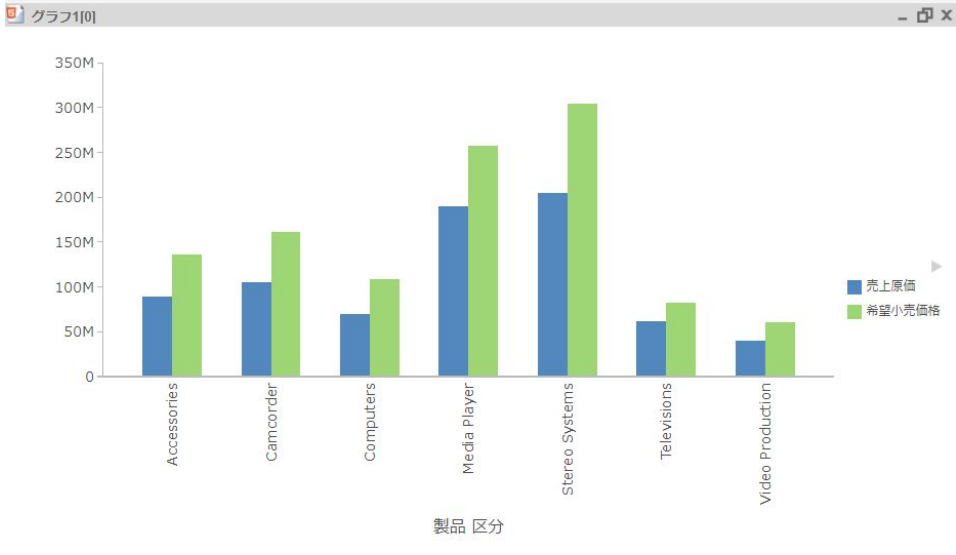
重要

- [オートドリルダウン] 機能は、ディメンション階層を持つデータソースでのみ使用できます。
- オートドルダウンを有効にしたレポートまたはグラフをディファード実行した場合、ハイパーリンクは表示されません。この制限は、オートドルダウンを有効にしたレポートを ReportCaster から配信した場合にも適用されます。
- オートドリルダウンは、[ライブプレビュー] デザインビューでは使用できず、実行時にのみ使用できます。ただし、ビジュアライゼーションモードは例外です。
- オートドリルダウン機能は、HTML および Analytic Document のレポートでサポートされます。
- ビジュアライゼーションモードでディメンション階層を持つデータソースを使用する場合、オートドリルダウンは自動的に有効になります。
- オートドリルダウンは、HTML 出力フォーマットのすべてのグラフ、および新しいグラフ属性構文をサポートしない HTML5 出力フォーマットのグラフでは使用できません。
- インタラクティブレポートの ACROSS フィールドでは、オートドリルダウンはサポートされません。
- BY または ACROSS ソートフィールドとしてディメンションフィールドを使用する必要があります。

- 作成するグラフのリクエストに複数のディメンションソートフィールドが含まれ、これらの一部が同一のディメンション階層に属する場合、ドリルダウンメニューに複数のリンクが同一ラベルで表示されることがあります。
- ドキュメントモードでは [オートドリルダウン] 機能は使用できません。
- [オートドリルダウン] 機能は、ReportCaster から配信されたレポートでは使用できません。これは、[オートドリルダウン] 機能では、データをドリルダウンするために対話型セッションでライブデータが使用されるためです。最後の配信後にデータが変更されると、データ値および合計が変わる可能性があります。過去のデータと現在のデータが混在すると、データ分析に影響を与えることになります。
- [オートドリルダウン] を有効にすると、[アクセシビリティ] が無効になります。[アクセシビリティ] を有効にすると、[オートドリルダウン] が無効になります。グラフモードでは、[アクセシビリティ] はデフォルト設定で無効になっています。
- [オートドリルダウン] 機能は、保存済みパラメータレポートではサポートされません。

手順　オートドリルダウンを使用してデータソース階層をナビゲートするには

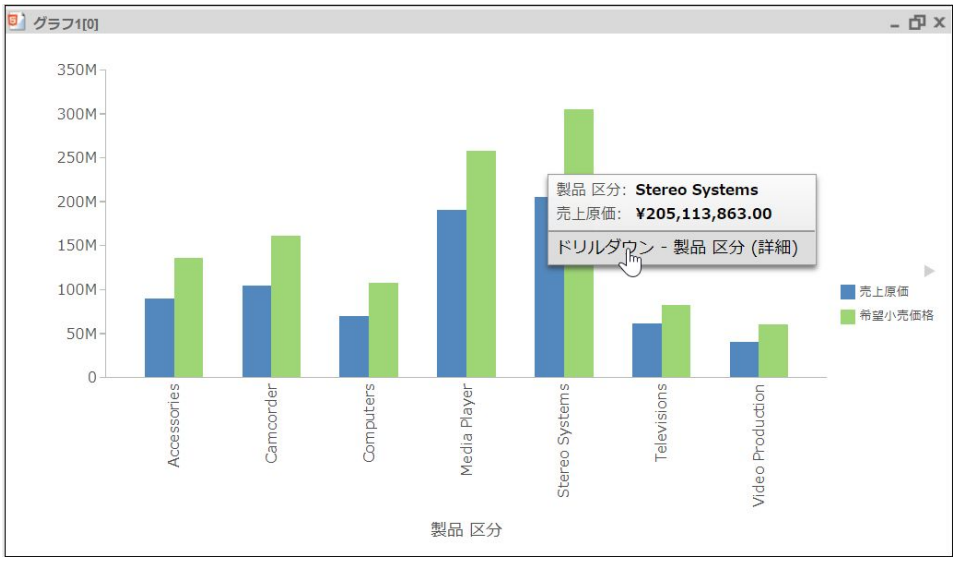
1. ディメンション階層が含まれたデータソースを選択します。たとえば、[wf_retail_lite.mas] を選択します。
2. 下図のように、1 つまたは複数の階層フィールド (例、[製品,区分]) で構成されたレポートまたはグラフを作成します。



3. [フォーマット] タブの [オートドリルダウン] グループで、[オートドリルダウン] をクリックします。
4. [実行] をクリックします。

   レポートまたはグラフが表示されます。
5. レポートの場合、レポート内のハイパーリンク表示のフィールド値をクリックします。グラフの場合、グラフの特定エリアの上にマウスポインタを置きます (例、棒グラフの棒ライザ)。

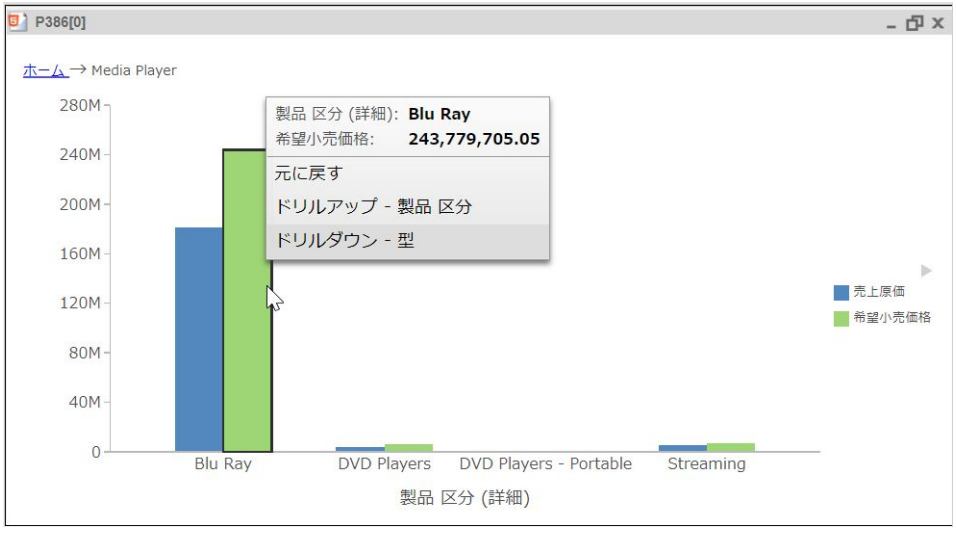
   下図のように、メニューが表示されます。



6. ドリルダウン先の階層値を選択します。

   フィールドをクリックしてドリルダウンした後、ドリルアップすることができます。

7. レポートまたはグラフのデフォルト状態に戻すには、ハイパーリンクをクリックするか、グラフの特定エリア上にマウスポインタを置き、下図のように [元に戻す] を選択します。



オートリンク機能によるコンテンツのリンク

[オートリンク] 機能を使用すると、開発環境で複数のレポートやグラフを簡単に結合できるため、組織でのレポートの活用範囲が広がります。[オートリンク] 機能を使用して、HTML レポート、インタラクティブレポート、HTML5 グラフを、フィルタで参照されている共通のソート (BY) フィールドとパラメータに基づいて、任意のフォーマットの単一レポートまたはグラフに動的に結合することができます。この共通性に基づいて WebFOCUS リポジトリ内の複数のコンテンツが動的に結合されるため、レポートを活用する組織内でデータの新しい価値を発見したり、新たな関係を探求したりできます。また、[オートリンク] 機能を使用すると、ドリルダウンを手動で作成、管理する必要がなくなるため、開発に要する時間と労力が削減されます。

オートリンクを使用するには、InfoAssist の [オートリンク有効] オプションを使用して、オートリンク可能なレポートまたはグラフを設定する必要があります。さらに、レポートまたはグラフをオートリンクターゲットとして設定する必要があります。[オートリンク] および [オートリンクターゲット] 機能の有効と無効を切り替えるオプションは、InfoAssist の [フォーマット] タブの [オートリンク] グループにあります。

注意

- [オートリンク有効] オプションは、HTML、HTML5、Analytic Document 出力フォーマットのいずれかを選択した場合にのみ使用できます。

- 既存のレポートまたはグラフを開いてオートリンクを有効にすることも、そのレポートまたはグラフをオートリンクターゲットとして設定することもできます。

[オートリンク] 機能を有効にすると、実行時にレポートまたはグラフのソート (BY) フィールド値ごとにリンクが表示され、リンクをクリックした際のメニューにターゲット候補のレポートまたはグラフが表示されます。オートリンクを有効にしたレポートでは、[BY] フィールドコンテナにソート (BY) フィールドを追加する必要があります。オートリンクを有効にしたグラフでは、[横軸]、[縦軸]、[色] フィールドコンテナのいずれかにソート (BY) フィールドを追加することができます。

レポートまたはグラフをオートリンクターゲット候補にするには、これらのレポートまたはグラフに、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフでソート (BY) フィールドとして選択したパラメータのフィルタを追加する必要があります。これらのフィルタで定義するパラメータ名は、オートリンクを有効にしたレポートのソート (BY) フィールド名に一致させる必要があります。レポートまたはグラフをオートリンクターゲットとして選択すると、パラメータ情報がカタログ化され、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフの実行時にそのパラメータ情報が評価されます。

オートリンクを有効にしたレポートの実行時にターゲット候補になるレポートおよびグラフは、選択されたソートフィールドのパラメータを使用してフィルタが定義されているレポートまたはグラフです。オートリンクを有効にしたグラフの実行時にターゲット候補になるレポートおよびグラフは、すべてのソートフィールドのパラメータを使用してフィルタが定義されているレポートまたはグラフです。オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフの実行時に、ソートフィールド値のリンクをクリックすると、その値がオートリンクターゲットレポートに渡されます。これにより、そのソートフィールド値でオートリンクターゲットレポートがフィルタされます。

たとえば、オートリンクを有効にしたレポートに、ソート (BY) フィールドとして [製品,区分] および [型]、メジャー (SUM) フィールドとして [収益] が使用されている場合を想定します。リポジトリ内の別のレポートまたはグラフをオートリンクターゲット候補にするには、これらのレポートまたはグラフに、[製品,区分] フィールドのパラメータで定義された 1 つのフィルタを追加するか、[製品,区分] および [型] フィールドのパラメータで定義された 2 つのフィルタを追加します。オートリンクを有効にしたレポートを実行すると、[製品,区分] フィールドからターゲット先レポートまたはグラフへのリンクが表示されます。これらのリンクからアクセス可能なターゲット先は、[製品,区分] フィールドのパラメータを使用してフィルタが定義されているレポートまたはグラフです。また、[型] フィールドからターゲット先レポートまたはグラフへのリンクが表示されます。これらのターゲット先は、[製品,区分] および [型] フィールドのパラメータを使用してフィルタが定義されているレポートまたはグラフです。

上記の例をレポートではなく、オートリンクを有効にしたグラフに適用した場合、グラフの特定エリア (例、「製品区分別および型別の収益」を表す棒ライザ) の上にマウスポインタを置いた際のツールヒントオプションから、ターゲット先レポートまたはグラフにアクセスすることができます。

オートリンクにオプションパラメータを使用したドリルダウン結果の強化

InfoAssist で使用可能な基本のオートリンク機能のほかに、オートリンクを有効にしたレポートおよびグラフにオプションパラメータを追加して、この機能を拡張することができます。オートリンクを有効にしたレポートでは、アクセス権限を持つ任意のターゲットコンテンツへのリンクが設定できます。ただし、ソート (BY) フィールドがオートリンクターゲットレポートのフィルタパラメータ要件を満たす必要があります。オートリンクターゲットレポートが上記の要件を満たし、かつ他のフィールドにフィルタパラメータが [オプション] として指定されている場合、このレポートもオートリンクターゲットレポートの評価に含まれます。これにより、リクエストを実行した際に、実行時パラメータのすべての組み合わせ候補が評価され、オートリンクの対象として選択可能になります。その結果、これらのレポートまたはグラフが、選択可能なオートリンクターゲットレポートのリストに追加され、関連するコンテンツへのアクセス範囲が拡大されます。

オートリンクを有効にしたレポートでは、フィルタ設定されたフィールドの値がオートリンクターゲットレポートに渡されるため、パラメータをオプションに設定する必要はありません。オートリンクを有効にしたレポートでソート (BY) フィールドを選択した場合、この値および上位ソートフィールドの値がオートリンクターゲットに渡されます。グラフのメジャー値を選択した場合、このメジャーのすべてのソート (BY) フィールドの値が、オートリンクターゲットに渡されます。[オプション] チェックボックスを選択した場合、オートリンクターゲットレポートは、パラメータ値のオートプロンプトで要求されることなく独自に (リソースツリーから、または InfoAssist で) 実行することができます。これは、オプションパラメータにデフォルト値が割り当てられているためです。

オートリンクを使用すると、必要なだけレポートやグラフにリンクを設定できます。また、オートリンクを有効にしたレポートは、オートリンクターゲットとしても使用でき、レポートのカスケード階層リンクの作成にも役立ちます。詳細は、「フィルタによるデータ表示のカスタマイズ」を参照してください。

注意

- 表示されるリンク先レポートは、ユーザが実行またはディファード実行の権限を所有するレポートに限定されます。
- レポートまたはグラフがオートリンクの要件を満たす場合、同一のレポートまたはグラフで [オートリンク有効] および [オートリンクターゲット] オプションのいずれか一方または両方を設定することができます。

- ターゲットレポート候補が多数存在すると、実行時に表示されるマルチドリルダウンメニューが縦方向に長くなる可能性があるため、オートリンクターゲットとして指定するレポートおよびグラフの個数について考慮する必要があります。この場合、一部のブラウザでスクリプト処理警告メッセージが表示されることがあります。
- オートリンクは、カスケードメニューを備えたマルチドリルダウン機能を使用します。ただし、Web ビューアを有効にした HTML レポートまたはレガシーグラフフォーマット (PNG および BUCKET 構文を使用しない HTML など PFJ ベースのフォーマット) のグラフリクエストを実行すると、リクエストでドリルダウンが指定された順序で単一レベルのリストが表示されます。
- マルチドリルダウンのカスケードメニューには次のものが表示されます。
  - ユーザ指定のドリルダウンとオートリンクナビゲーションオプションを区別する区切り線。
  - 単一レベルリストでのオートリンクターゲットレポート。最初にフォルダで、次にフォルダ内のオートリンクターゲットレポートでアルファベット順にソートされます。これは、フォルダおよびフォルダ内の項目をソートする際にプロパティのソート順オプションに適用されるリソースツリーのソート順とは異なる場合があります。
- オートリンクターゲットレポートのリストからドリルダウンする際に、すでに表示したオートリンクターゲットレポートがリストから除外されます。これにより、選択可能なオートリンクターゲットのリストが、まだ表示されていないレポートに絞られます。

手順　既存のレポートまたはグラフをオートリンク有効として設定するには

1. WebFOCUS 開始ページでフォルダ内のファイルを選択して右クリックし、[編集] を選択します。

   InfoAssist がレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. レポートまたはグラフにソート (BY) フィールドが追加されていることを確認します。
   - レポートの場合、ソートフィールドは [BY] フィールドコンテナに追加します。
   - グラフの場合、ソートフィールドは [横軸]、[縦軸]、[色] フィールドコンテナのいずれかに追加します。
3. [フォーマット] タブの [オートリンク] グループで、[オートリンク有効] をクリックします。
4. レポートまたはグラフを保存します。

   これで、既存のレポートまたはグラフでオートリンクが有効になりました。

手順　既存のレポートまたはグラフをオートリンクターゲットとして設定するには

1. WebFOCUS 開始ページでフォルダ内のファイルを選択して右クリックし、[編集] を選択します。

   InfoAssist がレポートモードまたはグラフモードで開きます。

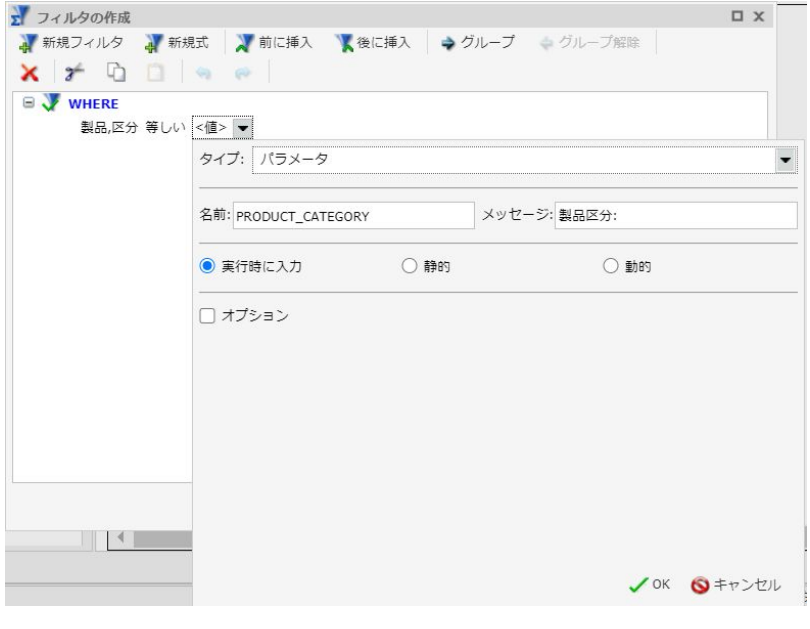
2. [フォーマット] タブの [オートリンク] グループで、[オートリンクターゲット] をクリックします。

   注意：[オートリンクターゲット] を選択すると、このレポートまたはグラフのパラメータ情報が格納され、その情報がレポートおよびグラフのリポジトリに追加されます。オートリンクを有効にしたレポートの実行時に、そのパラメータ情報が評価されます。

3. 既存のレポートまたはグラフに定義済みフィルタが存在するかどうかを確認します。オートリンクターゲット候補に設定するには、このレポートまたはグラフで、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフのソート (BY) フィールドをパラメータとしてフィルタを定義する必要があります。フィルタが存在しない場合、ターゲットのレポートまたはグラフに実行時入力パラメータのフィルタを追加します。

   a. [データ] ウィンドウからソート (BY) フィールドをドラッグし、[フィルタ] ウィンドウにドロップします。

   b. 下図のように、[フィルタの作成] ダイアログボックスで [タイプ] リストから [パラメータ] を選択し、[名前] にはデフォルト値を使用します。[オプション] のチェックをオンにすることもできます。



注意：フィールドのパラメータを作成する場合、デフォルトのパラメータ名は、選択したフィールドの名前になります。上図では、[製品区分] パラメータでフィルタが作成されています。パラメータの名前と、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフのソート (BY) フィールドの名前を一致させるために、フィールドの選択時に生成されたパラメータ名は変更しないでください。

c. [OK] をクリックし、[OK] を再度クリックして [フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

4. レポートまたはグラフを保存します。

これで、既存のレポートまたはグラフがオートリンクターゲットとして設定されました。

手順　オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフを新規に作成するには

1. InfoAssist をレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. [開く] ダイアログボックスで、データソースを選択します。
3. [フォーマット] タブの [オートリンク] グループで、[オートリンク有効] をクリックします。
4. レポートまたはグラフに複数のフィールドを追加し、フィールドの 1 つをソート (BY) フィールドにします。
   - ❏ レポートの場合、ソートフィールドは [BY] フィールドコンテナに追加します。
   - ❏ グラフの場合、ソートフィールドは [横軸]、[縦軸]、[色] フィールドコンテナのいずれかに追加します。



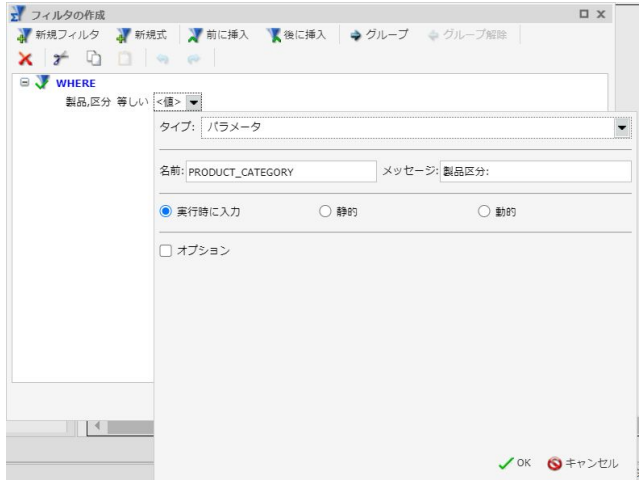
5. レポートまたはグラフを保存します。

これで、作成したレポートまたはグラフがオートリンク有効として設定されました。

手順　オートリンクターゲットにするレポートまたはグラフを作成するには

1. InfoAssist をレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. [開く] ダイアログボックスで、データソースを選択します。
3. [フォーマット] タブの [オートリンク] グループで、[オートリンクターゲット] をクリックします。

   注意：[オートリンクターゲット] を選択すると、このレポートまたはグラフのパラメータ情報が格納され、その情報がレポートとグラフのリポジトリに追加されます。オートリンクを有効にしたレポートの実行時に、そのパラメータ情報が評価されます。
4. レポートまたはグラフにフィールドを追加します。
5. [実行時に入力] パラメータを使用してフィルタを作成し、ターゲットのレポートまたはグラフに追加します。
   a. [データ] ウィンドウからソート (BY) フィールドをドラッグし、[フィルタ] ウィンドウにドロップします。
   b. 下図のように、[フィルタの作成] ダイアログボックスで [タイプ] リストから [パラメータ] を選択し、[名前] にはデフォルト値を使用します。[オプション] のチェックをオンにすることもできます。



注意：フィールドのパラメータを作成する場合、デフォルトのパラメータ名は、選択したフィールドの名前になります。上図では、[製品区分] パラメータでフィルタが作成されています。パラメータの名前と、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフのソート (BY) フィールドの名前を一致させるために、フィールドの選択時に生成されたパラメータ名は変更しないでください。

c. [OK] をクリックし、[OK] を再度クリックして [フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

6. レポートまたはグラフを保存します。

これで、作成したレポートまたはグラフがオートリンクターゲットとして保存されました。

手順　オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフを実行するには

オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフは、InfoAssist または WebFOCUS 開始ページから実行することができます。

1. 次のいずれかの方法で、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフを実行します。

- InfoAssist で、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフを開くか、新規に作成し、クイックアクセスツールバーの [実行] をクリックします。
- WebFOCUS 開始ページで、オートリンクを有効にしたレポートまたはグラフを右クリックし、[実行] を選択します。

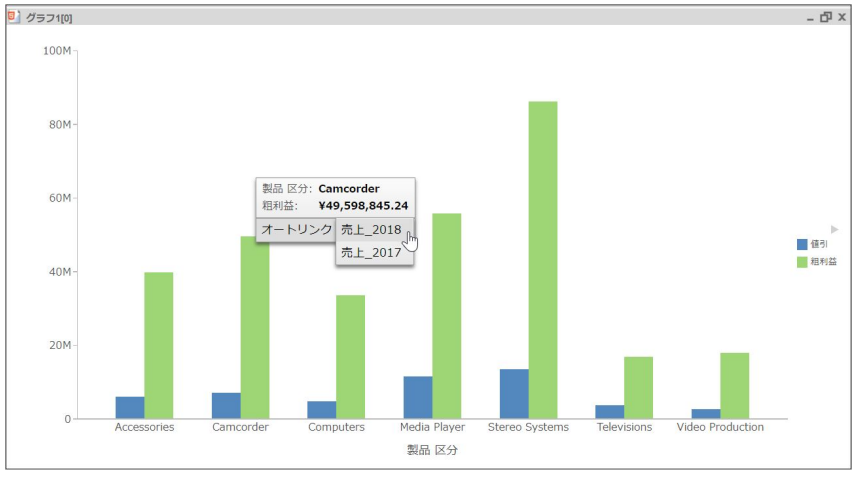
2. 次の説明に従って、ハイパーリンクを使用して別のレポートおよびグラフにリンクします。

   - **レポート** ターゲット候補のレポートが存在するソート (BY) フィールドにハイパーリンクが表示されます。下図のように、ハイパーリンクをクリックすると、メニューに [オートリンク] オプションが表示され、サブメニューにオートリンクターゲット候補のレポートおよびグラフのリストが表示されます。



製品区分	値引	販売数量	売上原価	粗利益
Accessories		511,667	¥89,753,898.00	¥39,854,440.53
Camcorder		455,244	¥104,866,857.00	¥49,598,845.24
Computers		351,777	¥69,807,664.00	¥33,508,818.12
Media Player	¥11,519,142.41	771,934	¥190,240,481.00	¥55,832,578.36
Stereo Systems	¥13,530,873.57	1,114,332	¥205,113,863.00	¥86,181,070.52
Televisions	¥3,635,693.38	105,188	¥61,551,109.00	¥16,830,023.81
Video Production	¥2,695,890.76	199,749	¥40,105,657.00	¥17,947,619.62

   - **グラフ** マウスポインタを置くとポップアップメニューが開くグラフ要素 (例、棒グラフのライザ) が表示されます。下図のように、ポップアップメニューにオートリンクターゲット候補のレポートおよびグラフのリストが表示されます。

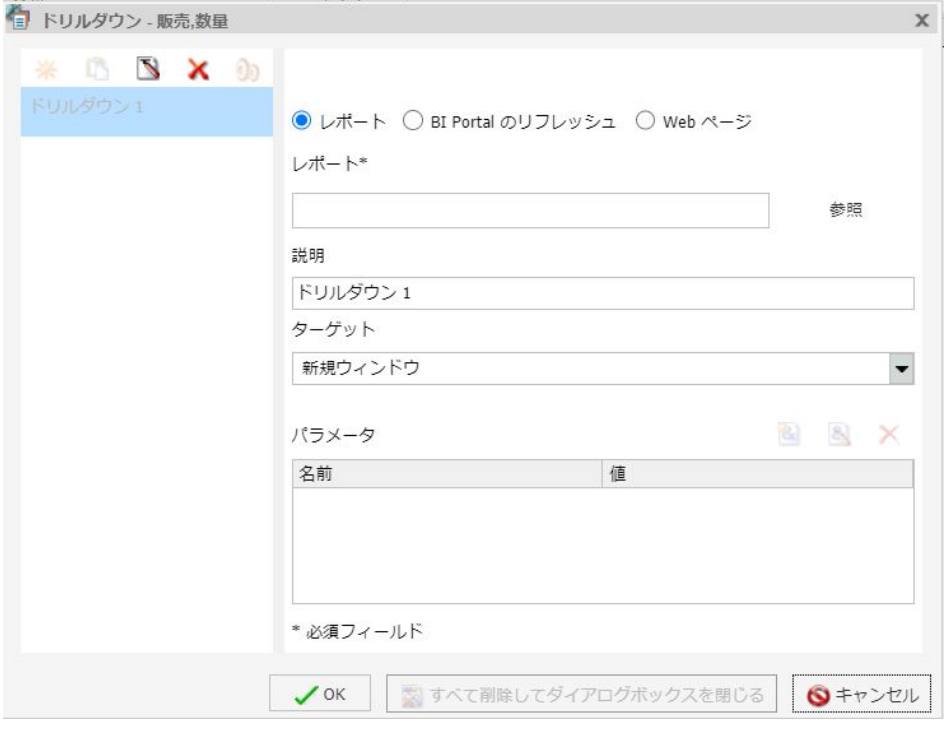


マルチドリルダウンの使用

マルチドリルダウン機能を使用して、レポートまたはグラフのデータフィールドに対して複数のドリルダウンリンクを作成することができます。この機能は、別のビジュアライゼーション、グラフ、レポート、InfoMini のプロシジャ、外部 URL へのカスタムリンクを定義する際に役立ちます。

マルチドリルダウン機能では、選択したデータ要素をドリルダウンまたはドリルスルーするための条件を定義することができます。マルチドリルダウン情報を保存し、レポートまたはグラフを実行した後、レポートに表示されるリンクをクリックするか、グラフで定義された領域にマウスポインタを置いた際にドリルダウンオプションが表示されます。

ドリルダウンリンクを作成するには、[クエリ] ウィンドウでフィールドを選択します。[フィールド] タブの [リンク] グループで、[ドリルダウン] をクリックして [ドリルダウン] ダイアログボックスを開きます。別の方法として、[クエリ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[ドリルダウン] を選択することもできます。下図は、[ドリルダウン] ダイアログボックスを示しています。



[ドリルダウン] ダイアログボックスのタイトルバーに、選択したフィールドの名前が表示されます。ここで識別されるフィールド名は、ドリルダウンパラメータの作成時に役立ちます。

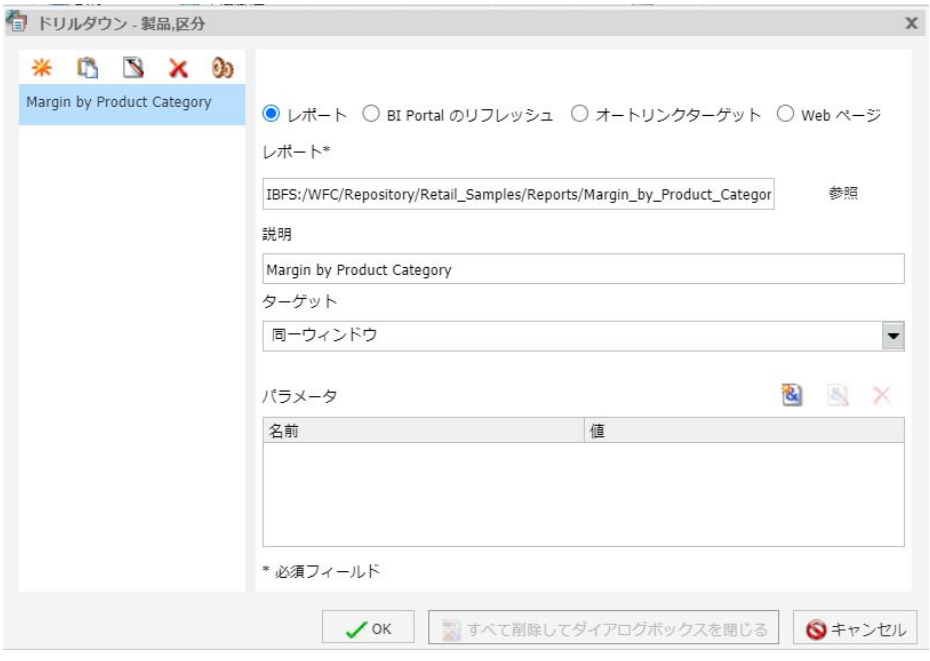
[ドリルダウン] ダイアログボックスでは、ハイパーリンクを構成することも、ドリルダウンプロシジャを構成することもできます。レポートを実行し、作成したリンクをクリックすると、指定した URL に移動するか、指定したプロシジャが実行されます。

選択したフィールドに対して複数のドリルダウンを作成することもできます。定義した複数のドリルダウンリンクは、実行時にドリルダウンリスト (ドリルダウンメニューとも呼ばれる) にそれぞれ個別のエントリとして表示されます。これらのエントリには、マルチドリルダウンの作成時に適用した名前が使用されます。

ドリルダウンオプションを定義した後、作成したドリルダウンリンクにアクセスするには、レポートを実行する必要があります。レポートの場合、ドリルダウンリンクは、選択したデータフィールドのハイパーリンクをクリックした際に表示されます。グラフの場合、ドリルダウンリンクは、ドリルダウンが定義されたグラフ上の領域 (ドリルダウンを定義する際に選択したフィールド) にマウスポインタを置いた際に表示されます。

これらのリンクを使用することで、外部プロシジャまたは URL に直接ドリルスルーすることができます。

たとえば、外部プロシジャへのドリルダウンリンクを作成し、さらに Web ページへのドリルダウンリンクを作成することも可能です。選択した元のフィールドに対して、これらの両方のドリルダウンが格納されます。1 つ目のドリルダウンを定義すると、下図のように、ツールバーの別のオプションが使用可能になります。



注意 : [ドリルダウン] ダイアログボックスの右側ウィンドウの [説明] テキストボックスで、ドリルダウンの名前を変更することができます。

[ドリルダウン] ダイアログボックスのツールバーには、次のアイコンが表示されます。

- **新規ドリルダウンの作成** このオプションは、1 つ目のドリルダウンの必須情報をすべて入力した時点で有効になります。[新規ドリルダウンの作成] をクリックすると、新しいドリルダウン項目が作成されます。この操作で、ドリルダウン機能が通常のドリルダウンからマルチドリルダウンに切り替わります。デフォルト設定では、ドリルダウンの名前は「ドリルダウン n」です。ここで、n は連続する整数です (例、ドリルダウン 1、ドリルダウン 2)。このオプションは、初期状態では使用不可ですが、1 つ以上のドリルダウンリンクを作成した時点で有効になります。

- **選択したドリルダウンの複製を作成**　既存のドリルダウン項目を選択し、このオプションをクリックすると、選択した項目の複製が作成されます。作成されたドリルダウンの名前の末尾に「(コピー n)」が追加されます。ここで、n は複製ドリルダウンに割り当てられる連続番号です。名前が割り当てられた後、[説明] テキストボックスで名前を変更することができます。さらに、連続番号が割り当てられたドリルダウン項目をドラッグして順序を変更することもできます。

  注意：[複製] ボタンは、選択したドリルダウン項目に必要な情報を入力した時点で有効になります。

- **選択したドリルダウンの名前を変更**　このオプションは、初期状態で有効です。既存のドリルダウンの名前を変更することができます。このオプションをクリックすると、[説明] テキストボックスの名前がハイライト表示され、ドリルダウンリンクの新しい名前の上書き入力が可能になります。入力可能なテキストは最大で 100 バイトです。テキストを削除すると、ドリルダウンの名前がデフォルト名に戻ります。

- **選択したドリルダウンの削除**　ドリルダウン項目のいずれかを選択すると、[選択したドリルダウンの削除] オプションが有効になります。このオプションをクリックすると、選択したドリルダウンが削除されます。ドリルダウン項目を削除すると、次のドリルダウン項目が自動的に選択された状態になります。最後のドリルダウン項目を削除すると、[ドリルダウン] ダイアログボックスが初期状態に戻り、デフォルト値として [ドリルダウン 1] が表示されます。

- **オプション**　[オプション] 機能を使用して、ドリルダウン項目の順序を変更することができます。この機能を使用して、レポート実行時にハイパーリンクをクリックした際のドリルダウンメニューの項目順序を制御します。順序を変更するには、[順序の編集] リストで定義済みドリルダウン項目を選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。また、ドリルダウン項目をリストから削除するには、1 つまたは複数の項目を選択し、[削除] をクリックします。Ctrl キーを押しながら複数のドリルダウン項目を選択した場合、[上へ移動] および [下へ移動] は使用不可になります。

  注意：[上へ移動]、[下へ移動]、[削除] オプションは、[順序の編集] リストでドリルダウン項目を右クリックし、コンテキストメニューから選択することもできます。

[ドリルダウン] ダイアログボックスの次のオプションを使用して、選択したフィールドのドリルダウン情報を指定します。

注意：ドリルダウンのパラメータを指定する場合は、[パラメータの追加] をクリックして新規パラメータをパラメータリストに追加します。

- **レポート**　このオプションを選択して、現在のドリルダウンの対象をレポートに設定します。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
  - **レポート**　[参照] ボタンをクリックして保存済みレポートを選択します。
  - **説明**　このテキストボックスに、レポートの説明を入力します。レポートを参照して選択すると、このテキストボックスにプロシジャのタイトルが自動的に入力されます。プロシジャのタイトルにアクセスできない場合は、プロシジャの名前が入力されます。このテキストボックスは、指定したドリルダウンの名前を変更する際にも使用されます。
  - **ターゲット**　ドリルダウンのターゲットを指定することができます。オプションには、[新規ウィンドウ]、[同一ウィンドウ]、[<ユーザ入力値>] があります。[レポート] の場合、デフォルト値は [新規ウィンドウ] です。
  - **パラメータ**　現在のドリルダウン用に指定したパラメータが表示されます。

  注意：動的パラメータを使用する InfoMini レポートにドリルダウンする場合は、親レポートで設定されたフィルタ条件を使用して、子レポートが生成されます。[フィルタパネルの表示] ボタンをクリックして [オートプロンプト] ダイアログボックスにアクセスし、InfoMini でのデータ選択を変更することができます。
- **BI Portal のリフレッシュ**　このオプションを選択すると、ポータルのコンポーネントがリフレッシュされ、これらのコンポーネントにパラメータが渡されます。
  - **リフレッシュ**　ページのリフレッシュに関するオプションが表示されます。オプションには、[現在のページ] および [すべてのページ] があります。
  - **説明**　このテキストボックスに、リフレッシュプロセスの説明を入力します。このテキストボックスは、指定したドリルダウンの名前を変更する際にも使用されます。
  - **ターゲット**　ドリルダウンのターゲットを示します。[BI Portal のリフレッシュ] の場合、この値は [同一ウィンドウ] に固定されます。
  - **パラメータ**　現在のドリルダウン用に指定したパラメータが表示されます。
- **オートリンクターゲット**　このオプションを選択して、オートリンクターゲットの明示的なリストを作成することができます。選択したターゲットのリストが実行時のドリルダウンメニューに表示されます。

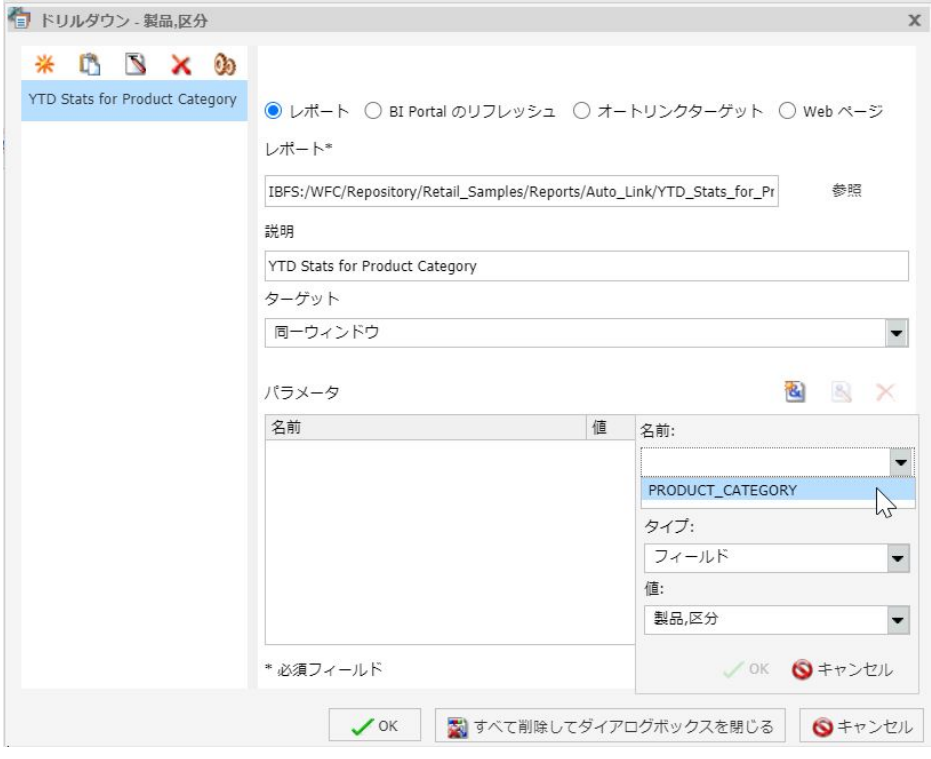
注意：レポートの場合、[オートリンクターゲット] ドリルダウンオプションは、選択したディメンション (BY) フィールドに対してのみ使用することができます。詳細は、365 ページの 「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」 を参照してください。

- **オートリンクターゲット** [参照] ボタンをクリックして保存済みターゲットレポートを選択します。
- **説明** このテキストボックスに、ターゲットレポートの説明を入力します。レポートを参照して選択すると、このテキストボックスにレポートのタイトルが自動的に入力されます。レポートのタイトルにアクセスできない場合は、プロシジャの名前が入力されます。このテキストボックスは、指定したドリルダウンの名前を変更する際にも使用されます。
- **ターゲット** ドリルダウンのターゲットを指定することができます。オプションには、[新規ウィンドウ]、[同一ウィンドウ]、[<ユーザ入力値>] があります。[オートリンクターゲット] の場合、デフォルト値は [新規ウィンドウ] です。
- **パラメータ** 選択したターゲットレポートのフィールドとパラメータの要件を満たすパラメータが表示されます。

  詳細は、365 ページの 「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」 を参照してください。

- **Web ページ** このオプションを選択して、ドリルダウンの対象を Web ページに設定します。[URL] テキストボックスに値を入力します。
  - **URL** ドリルダウン先の Web ページの URL を指定することができます。このオプションは、[Web ページ] を選択した場合にのみ表示されます。
  - **説明** ドリルダウンに関連する追加コメントを入力することができます。このテキストボックスは、指定したドリルダウンの名前を変更する際にも使用されます。
  - **ターゲット** ドリルダウンのターゲットを指定することができます。オプションには、[新規ウィンドウ]、[同一ウィンドウ]、[<ユーザ入力値>] があります。デフォルト値は [新規ウィンドウ] です。
  - **パラメータ** 現在のドリルダウン用に指定したパラメータが表示されます。

パラメータが含まれたレポートを選択した場合はパラメータ名が自動的に取得され、下図のように [ドリルダウン] ダイアログボックスの [パラメータ] セクションの [名前] コントロールから、そのパラメータを選択することができます。



選択可能なパラメータが複数存在する場合は、ドロップダウンリストからパラメータを選択することができます。別の名前を入力して、新しいパラメータを作成することもできます。このリストには、ドリルダウン用に選択したレポートプロシジャ (.fex) から自動的にパラメータ名が入力されます。

[タイプ] リストから [フィールド] または [定数] を選択します。[値] リストには、レポート作成時に選択したフィールドに基づいてオプションが表示されます。選択した項目により、パラメータの値が決定されます (例、値引、収益)。

注意：[タイプ] リストの値を [フィールド] から [定数]、または [定数] から [フィールド] に切り替えた場合、[値] リストの値がリセットされ、一意の値を指定することができます。

手順　単一ドリルダウンリンクを作成するには

メジャーフィールドに対して単一ドリルダウンリンクを作成することができます。

1. １つ以上のメジャーフィールドで構成されたレポートを作成します。
2. [クエリ] ウィンドウで、次のいずれかの手順を実行します。
   - ❏ メジャーフィールドを右クリックし、[ドリルダウン] を選択します。
   - ❏ メジャーフィールドを選択し、[フィールド] タブの [リンク] グループで [ドリルダウン] をクリックします。

   [ドリルダウン] ダイアログボックスが表示されます。
3. 次のドリルダウンオプションのいずれかを選択します。
   - ❏ レポート
   - ❏ BI Portal のリフレッシュ
   - ❏ オートリンクターゲット
   - ❏ Web ページ
4. 選択したドリルダウンオプションに応じて、各テキストボックスに値を入力します。

   注意：これらのテキストボックスについての詳細は、このトピックの前述の説明を参照してください。
5. 必要に応じて、[説明] テキストボックスでドリルダウンの名前を変更します。ドリルダウンの名前を変更すると、[ドリルダウン] ダイアログボックスの左側ウィンドウにその名前が反映されます。
6. [OK] をクリックします。

   実行時にレポートまたはグラフの定義済み領域にマウスポインタを置くと、ドリルダウンリンクが表示されます。

手順　マルチドリルダウンリンクを作成するには

単一のディメンションフィールドに対して複数のドリルダウンリンクを作成することができます。

1. １つ以上のディメンションで構成されたレポートを作成します。
2. [クエリ] ウィンドウで、次のいずれかの手順を実行します。
   - ❏ ディメンションフィールドを右クリックし、[ドリルダウン] を選択します。

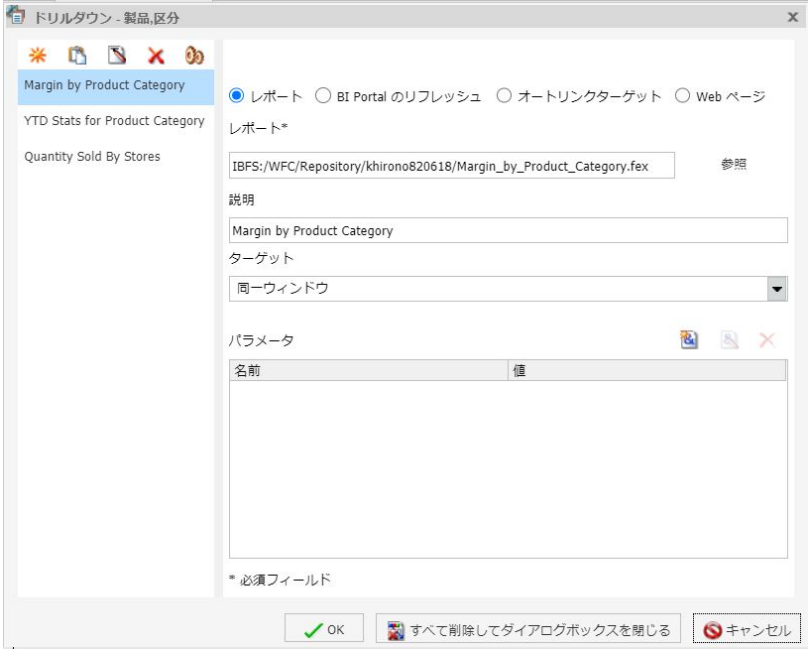
- ディメンションフィールドを選択し、[フィールド] タブの [リンク] グループで [ドリルダウン] をクリックします。

[ドリルダウン] ダイアログボックスが表示されます。

3. 次のドリルダウンオプションのいずれかを選択します。
   - レポート
   - BI Portal のリフレッシュ
   - オートリンクターゲット
   - Web ページ
4. 選択したドリルダウンオプションに応じて、各テキストボックスに値を入力します。

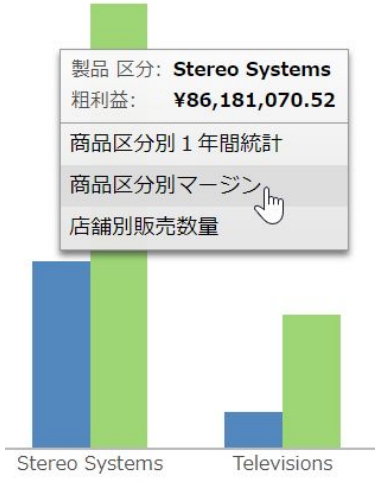
   注意：これらのテキストボックスについての詳細は、このトピックの前述の説明を参照してください。
5. 必要に応じて、[説明] テキストボックスでドリルダウンの名前を変更します。ドリルダウンの名前を変更すると、[ドリルダウン] ダイアログボックスの左側ウィンドウにその名前が反映されます。
6. 手順 3 から 5 を繰り返して、必要なドリルダウンリンクをすべて追加します。

   注意：下図では、選択したディメンションフィールドに対して 3 つの異なるドリルダウンリンクが定義されています。



7. [OK] をクリックします。

   下図のように、実行時にレポートまたはグラフの定義済み領域にマウスポインタを置くと、ドリルダウンリンクが表示されます。



8

レポート、グラフ、ビジュアライゼーションのスタイル設定

リボンのスタイル機能を使用して、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションにスタイルを設定してカスタマイズする方法について説明します。

トピックス

- レポートのカスタマイズ
- レポートスタイルダイアログボックスの使用
- 色ダイアログボックスの使用
- レポートグループのレポートオプションの使用
- レポート機能の有効化
- グラフ機能の有効化
- グラフへのラベルの追加
- インタラクティブオプションの使用
- ページ設定のカスタマイズ

レポートのカスタマイズ

[レイアウト] タブおよび [フィールド] タブのオプションを使用して、レポートをカスタマイズすることができます。

- **セルパディング** [セルパディング] ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間の間隔を指定することができます。詳細は、105 ページの 「 レポートでセルパディングを使用するには 」 を参照してください。

- **自動調整**　レポートの列幅が、各フィールドの最大幅以内に収まるように調整されます。別のフィールドを追加すると、デザイン時にレポートが自動的に拡張されます。[自動調整] は、デフォルト設定で選択されています。
- **改ページ**　主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。
- **改行**　主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力に新しい行を挿入します。
- **中間見出し**　ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。
- **中間脚注**　ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。
- **中間合計**　主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに 1 行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。

[フィールド] タブの [フォーマット] グループのドロップダウンリストには、選択したフィールドに適用されるフィールドタイプとして、[文字]、[整数]、[倍精度浮動小数点] という 3 つのオプションが表示されます。4 つ目のオプションである [詳細オプション] を選択すると、[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスが表示されます。ここで、選択したフィールドのフォーマットオプションの詳細を設定することができます。詳細は、106 ページの「 フィールドフォーマットの変更 」 を参照してください。

[通貨記号] ドロップダウンリストを使用して、浮動通貨や固定通貨などのオプションを適用することができます。また、[フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスのチェックボックスを使用して、パーセント記号 (%) やカンマ (,) を適用することもできます。

[通貨記号 (固定)] オプションをオンにするには、ドロップダウンメニューを開き、[通貨記号 (固定)] を選択します。[通貨記号 (固定)] オプションをオフにするには、[通貨記号] ドロップダウンリストを再度クリックし、別のオプションを選択するか [なし] を選択します。

[フィールド] タブの [表示] グループには、次のオプションがあります。

- **フィールドの非表示**　選択したフィールドを非表示にすることができます。
- **ミッシングの非表示**　値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。

- **集計** ドロップダウンメニューを開いて、次のオプションを選択することができます。
  - なし (デフォルト)
  - 集計
  - 平均
  - 件数
  - 件数 (種類)
  - 件数に対するパーセント
  - 固有値
  - 最初の値
  - 最後の値
  - 最大
  - 最小
  - 合計
  - パーセント
  - 行に対するパーセント
  - 中央値
  - 平方和の平均

  [クエリ] ウィンドウの [メジャー] (SUM) フィールドコンテナに数値フィールドを追加した場合、これらすべてのデフォルト集計タイプは [集計] になります。[メジャー] (SUM) フィールドコンテナを [SUM] から [PRINT]、[件数]、[リスト] のいずれかに変更すると、割り当て済みの集計タイプがすべて上書きされます。レポートについての詳細は、116 ページの「 レポートの集計オプションを使用して数値メジャーデータを表示するには 」を参照してください。グラフについての詳細は、196 ページの 「 メジャーデータの集計を表示するには 」 を参照してください。

- **条件スタイル** [条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、次のことを行えます。
  - 新しい条件付きスタイルを追加して、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用する。
  - 既存の条件付きスタイルを変更する。

❑ 条件付きドリルダウンを有効にする。

レポートについての詳細は、95 ページの 「 レポートのスタイル設定 」 を参照してください。グラフについての詳細は、186 ページの 「 条件付きスタイルルールダイアログボックス 」 を参照してください。

❑ **ピアグラフ** (レポートのみ) 選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。詳細は、116 ページの 「 レポートにピアグラフを追加するには 」 を参照してください。

❑ **WITHIN** レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートの列全体で集計するのではなく、ソートグループ単位で集計したように、表示フィールドの値を操作することができます。詳細は、117 ページの 「 WITHIN 機能にアクセスするには 」 を参照してください。

❑ **列** 複数のグラフを表示する列数を指定することができます。1 から 512 までの値を指定します。デフォルト値は 1 です。このオプションは、[クエリ] ウィンドウで [複数グラフ] コンポーネントを右クリックして選択することもできます。

レポートスタイルダイアログボックスの使用

[レポートスタイル] ダイアログボックスには、レポートにスタイルを設定するオプションが表示されます。 このダイアログボックスにアクセスするには、[ホーム] タブの [レポート] グループで [スタイル] をクリックします。



❑ **フォント** ドロップダウンメニューを使用して、フォントを変更します。

- **フォントサイズ**　ドロップダウンメニューを使用して、フォントサイズの数値を変更します。
- **フォントスタイル**　該当するボタン (太字、斜体、下線) をクリックして、選択したテキストのスタイルを設定します。
- **テキスト配置**　該当するボタン (左揃え、中央揃え、右揃え) をクリックして、選択したテキストの位置を揃えます。
- **文字色**　このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択します。詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。
- **背景色**　このボタンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、レポートの背景色を選択します。
- **通貨記号**　このボタンをクリックして、米国ドル、英国ポンド、日本円、ユーロ、イスラエル新シェケルの通貨記号にアクセスします。

  注意：通貨記号のイスラエル新シェケルは、次の設定のみで表示することができます。

  - サーバコードページ = 1255、65001、424、65002
  - クライアントコードページ = 1255 または 65001
  - Application Server エンコード = Cp1255 または UTF8
  - フォント名 = Lucida Sans Unicode または Arial Unicode MS
- **スタイルのリセット**　このボタンをクリックして、設定をリセットします。

  注意：リセットは、[レポートスタイル] ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK] をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] コマンドを使用します。

色ダイアログボックスの使用

[色] ダイアログボックスのオプションを使用して、レポート内の色を操作します。

[色] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- **標準の色見本**　ダイアログボックスの左側で、定義済みの 48 色から色を選択します。選択した色が、[色] フィールドに表示されます。
- **カスタム色パレット**　ダイアログボックスの右側のパレットで、カスタム色を定義します。選択した色が、[色] フィールドに表示されます。

- **輝度バー**　スライダをドラッグして、色の輝度 (相対的な明るさまたは暗さ) を変更します。対応する数値が、[輝度] テキストボックスに表示されます。
- **色合い**　選択した色の色合い値を示します。色合い値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **鮮明度**　選択した色の彩度の値を示します。鮮明度値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **輝度**　選択した色の輝度 (明るさまたは暗さ) を示します。輝度値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **赤**　赤色を表す数値 (0 から 255) です。
- **緑**　緑色を表す数値 (0 から 255) です。
- **青**　青色を表す数値 (0 から 255) です。
- **色**　選択した色が表示されます。

レポートグループのレポートオプションの使用

[レポート] グループには、レポートを拡張するコマンドが表示されます。

- **テーマ**　ダイアログボックスを開いて、レポートのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。

  また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。
- **スタイル**　[レポートスタイル] ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。[レポートスタイル] ダイアログボックスについての詳細は、388 ページの 「 レポートスタイルダイアログボックスの使用 」 を参照してください。レポートのスタイル設定についての詳細は、95 ページの 「 レポートのスタイル設定 」 を参照してください。

- **バンド** [色] ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。[色] ダイアログボックスについての詳細は、389 ページの 「 色ダイアログボックスの使用 」 を参照してください。バンドスタイルについての詳細は、102 ページの 「 レポートのデータ行に色バンドスタイルを設定するには 」 を参照してください。

- **見出し/脚注** [見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。

  - レポートの場合は、レポート見出し、ページ見出し、ページ脚注、レポート脚注の追加とスタイル設定が行えます。ダイアログボックスでは、デフォルト設定で、[レポート見出し] タブが選択されています。

  - グラフの場合は、ページ見出し、ページ脚注の追加とスタイル設定が行えます。デフォルト設定では、[ページ見出し] が選択されています。

  - [データ] ウィンドウから [見出しと脚注] ダイアログボックスにフィールドをドラッグすることができます。

  [見出しと脚注] ダイアログボックスにアクセスするには、[見出し/脚注] ボタン横の下向き矢印をクリックする方法もあります。この操作でドロップダウンメニューを開き、操作の対象として、見出しまたは脚注を選択することができます ([レポート見出し]、[ページ見出し]、[ページ脚注]、[レポート脚注])。選択すると、[見出しと脚注] ダイアログボックスが開き、選択した見出しまたは脚注がアクティブになります。

  [見出しと脚注] ダイアログボックスでは、有効な見出しまたは脚注を追加してスタイルを設定したり、タブを選択して、操作対象の見出しまたは脚注を変更したりすることができます。タブを切り替えても、[適用] または [OK] を押さない限り、変更は保存されません。[適用] をクリックした場合、[見出しと脚注] ダイアログボックスは開いたままになります。[OK] をクリックした場合、ダイアログボックスは閉じます。

  [スタイル] ツールバーのオプションを使用して、選択した見出しと脚注にスタイルを設定することができます。左から順に、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントスタイル (太字、斜体、下線) をカスタマイズすることができます。テキストの配置 (左揃え、中央揃え、右揃え)、文字色と背景色の選択が行えるほか、スタイル設定をテンプレートのデフォルト設定に戻すこともできます。

また、レポートまたはグラフにページ脚注を追加することもできます。[見出しと脚注] ダイアログボックスで [ページ脚注] を選択します。レポートの作成時は、[追加の整列オプション] アイコン  をクリックして、脚注をデータとの相対位置に基づいて配置するか (デフォルト)、ページとの相対位置に基づいて配置するかを指定することができます。[データとの相対位置] オプションを選択すると、脚注がデータの直下に配置されます。[ページとの相対位置] オプションを選択すると、脚注がページの最下部に配置されます。グラフの作成時は、デフォルトのページ脚注整列オプションのみがサポートされます。

注意：[ページとの相対位置] オプションは、位置指定を含むフォーマット (例、PDF、DHTML、PPT、PPTX) を使用するレポートで機能します。

また、見出しと脚注に「定型句」を挿入することも可能です。定義済みの語句が、定型句として提供されています。これには、レポートやグラフの識別情報として役立つ情報が含まれています。定義済みテキストのドロップダウンメニューから、次のテキストを選択することができます。

- 草案
- ページ X / Y
- 社外秘
- 日付 (複数のフォーマット)
- 時間 (複数のフォーマット)
- 作成者 (ユーザ名が後に続く)

グラフの場合は、スタイルリボンの右端の  アイコンが有効になります。このアイコンには、ページ見出しと脚注の配置方法を制御する 2 つのオプションがあります。デフォルトオプションの [見出しと脚注をグラフに埋め込み] オプションを選択すると、見出しと脚注は、グラフイメージの一部として表示されます。[見出しと脚注をテキストとして作成] オプションを選択すると、見出しと脚注は、グラフイメージとは別のテキスト要素として表示されます。

見出しまたは脚注をレポートやグラフに追加した後は、デザインモードのキャンバスでこれらをダブルクリックすると、[見出しと脚注] ダイアログボックスが再度開きます。デザインモードで既存の見出しまたは脚注を右クリックし、メニューから [編集] を選択して、ダイアログボックスを開くこともできます。

見出しと脚注の追加とスタイル設定についての詳細は、98 ページの 「 レポートに見出しと脚注を追加するには 」 および 260 ページの「 ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定 」 を参照してください。

- **総合計** (レポートのみ) レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。詳細は、115 ページの 「 レポートに総合計を追加するには 」 を参照してください。
- **行合計**(レポートのみ) レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。詳細は、115 ページの 「 レポートに行合計を追加するには 」 を参照してください。

レポート機能の有効化

レポートモードで [フォーマット] タブの [機能] グループのオプションを使用して、フィールドにポップアップタイトルを追加したり、複数のメジャーを積み重ねたりすることができます。

- **ポップアップ** レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。詳細は、116 ページの 「 レポートにポップアップタイトルを追加するには 」 を参照してください。
- **アコーディオン** 縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。 詳細は、124 ページの 「 アコーディオンレポートを作成するには 」 を参照してください。

  注意：目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。
- **ソート値の繰り返し** デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。
- **積み重ねメジャー** レポート出力列の数値メジャーフィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。詳細は、125 ページの 「 積み重ねメジャーを実装するには 」 を参照してください。積み重ねメジャーについての詳細は、『TIBCO WebFOCUS Language リファレンス』の「列の積み重ね」を参照してください。
- **Analytic Document オプション** [Analytic Document オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、インタラクティブレポートのオプションを構成することができます。詳細は、487 ページの 「 インタラクティブコンテンツの作成 」 を参照してください。
- **アクセシビリティ** レポート、グラフ、ドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。

下表は、各機能の使用可または使用不可を出力タイプ別に示したものです。[はい] は、出力タイプで機能を使用できることを示しています。[いいえ] は、出力タイプで機能を使用できないことを示しています。

	HTML	HTML5	Analytic Document	PDF	Analytic PDF	Excel	PowerPoint
ポップアップ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
アコーディオン	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ソート値の繰り返し	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
積み重ねメジャー	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
Analytic Document オプション	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ
アクセシビリティ (レポート、グラフ)	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
アクセシビリティ (ドキュメント)	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ

グラフ機能の有効化

グラフモードで [フォーマット] タブの [機能] グループのオプションを使用して、グラフにさまざまな効果や機能を追加することができます。

注意：マップを使用する場合、[機能] グループのオプションは、[フレームと背景] および [アクセシビリティ] を除きすべて無効になります。

- **3D 表示** 3D 表示のオンまたはオフを設定します。[3D 表示] 機能は、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。これがデフォルト値です。

- **回転** グラフ表示の縦向きと横向きを切り替えます。詳細は、264 ページの「 グラフを回転するには 」 を参照してください。[回転] 機能は、円グラフ、散布図、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。
- **参照** ドロップダウンメニューを開いて、[Y 軸に参照線を追加] および [X 軸に参照線を追加] オプションを表示します。これらのオプションの 1 つを選択すると、対応する [参照線] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力、X 軸または Y 軸値の設定、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。詳細は、265 ページの 「 静的な参照線を表示するには 」 を参照してください。[参照] 機能は 円グラフ、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、ブロック地図グラフ、じょうごグラフでは使用できません。

  注意：参照線のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
- **注釈** ドロップダウンメニューを開いて、[注釈の追加] オプションを表示します。このオプションを選択すると、[注釈] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力とグラフ注釈行の配置の設定を行うことができます。詳細は、268 ページの 「 グラフに注釈を表示するには 」 を参照してください。

  注意：注釈のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
- **罫線** ドロップダウンメニューを開いて、[横罫線] と [縦罫線] のオプションを選択することができます。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] を選択すると、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。詳細は、218 ページの 「 罫線のフォーマット設定 」 を参照してください。
- **フレームと背景** [フレームと背景] ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。選択したグラフタイプに応じて、このダイアログボックスには、異なるオプションが表示されます。詳細は、240 ページの 「 フレームおよび背景のフォーマット設定 」 を参照してください。
- **メータ** [メータ] ダイアログボックスを開いて、メータグラフを編集することができます。このボタンは、メータグラフを選択した場合にのみ使用可能になります。詳細は、259 ページの 「 メータ針のスタイルを設定するには (HTML5 選択時は設定できません。) 」 を参照してください。

  注意：メータのオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
- **Analytic Document オプション** [Analytic Document オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、インタラクティブレポートのオプションを構成することができます。このボタンは、出力タイプが Analytic Document または Analytic PDF に設定されている場合に使用できます。

- **アクセシビリティ**　レポート、グラフ、またはドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。このオプションは、出力タイプが HTML または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。ドキュメントの場合は、出力タイプを PDF に設定する必要があります。

  注意：Analytic Document または Analytic PDF フォーマットでグラフを作成する場合、このグラフ機能は無効になります。

グラフへのラベルの追加

[フォーマット] タブの [ラベル] グループのオプションを使用して、グラフにラベルを追加することができます。

注意：マップでは [軸] オプションが使用できません。

- **軸**　ドロップダウンメニューを開いて、横軸および縦軸のラベルを表示、交互に表示、回転することができます。また、[横軸詳細オプション] または [縦軸詳細オプション] を選択して、軸ラベルを編集することもできます。詳細は、228 ページの 「 軸ラベルのフォーマット設定 」 を参照してください。

  注意：データラベルの位置を変更する軸オプションは、InfoAssist Basic では使用できません。

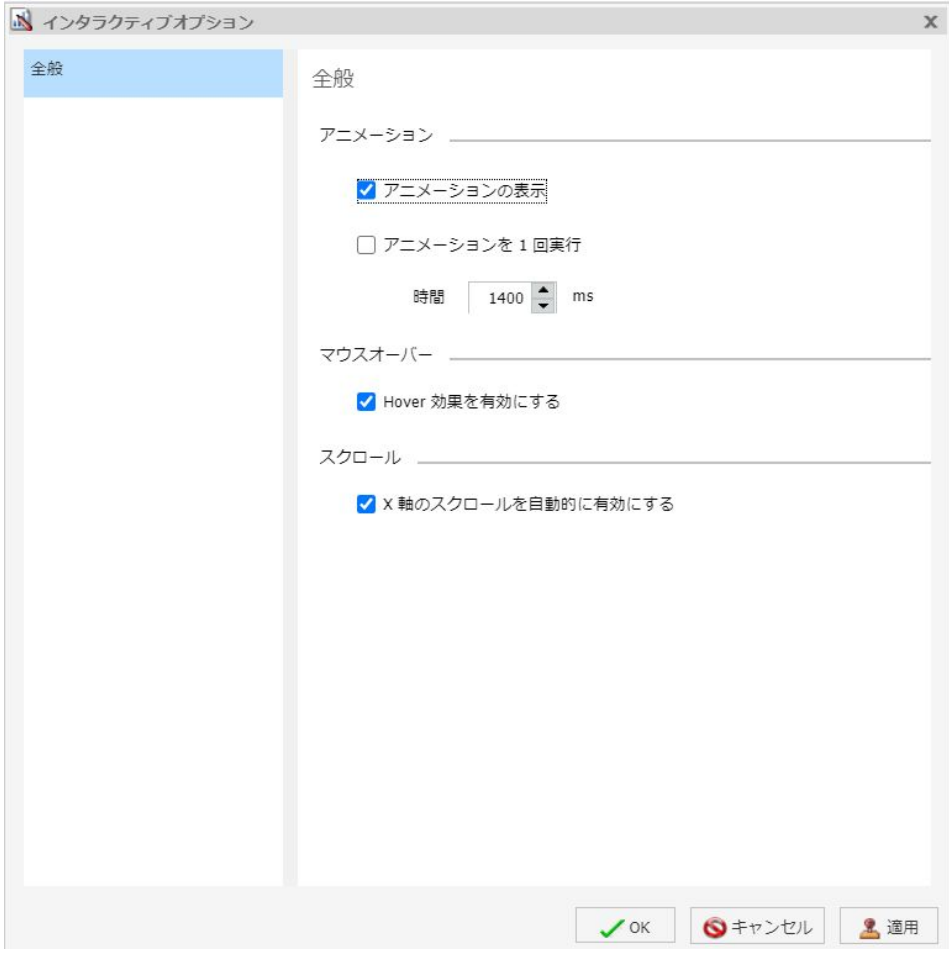
- **凡例**　ドロップダウンメニューを開き、[凡例の表示] オプションを選択してグラフに凡例を表示したり、選択を解除して凡例を非表示にしたりできます。また、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。詳細は、213 ページの 「 凡例フォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。

インタラクティブオプションの使用

グラフにインタラクティブオプションを追加するには、[フォーマット] タブの [インタラクティブ] グループで [インタラクティブオプション] をクリックします。

注意：[インタラクティブ] グループは、グラフモードで HTML5 出力フォーマットを選択した場合にのみ有効になります。

[インタラクティブオプション] をクリックすると、[インタラクティブオプション] ダイアログボックスが開きます。[インタラクティブオプション] ダイアログボックスでは、グラフでのアニメーション表示、マウスオーバー効果、スクロール効果を指定することができます。



[インタラクティブオプション] ダイアログボックスのオプションには、次のものがあります。

アニメーションセクション

- **アニメーションの表示**　グラフに表示するアニメーションのオプションを指定することができます。アニメーションを無効にするには、このチェックをオフにします。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。

注意：[アニメーションの表示] のチェックをオフにすると、[アニメーションを 1 回実行] オプションは選択不可になります。

- **アニメーションを 1 回実行**　グラフアニメーションの頻度を指定することができます。このチェックをオンにすると、プロシジャの初回実行時にグラフがアニメーション化されて描画されますが、プロシジャの次回以降の実行時にはアニメーションは表示されません。このチェックをオフにすると、グラフが再描画されるたびにグラフがアニメーション化されます。
- **時間**　アニメーションの継続時間をミリ秒で定義します。ミリ秒の値 (ms) を直接入力することも、上下の矢印を使用してデフォルト値 (1400) を調整することもできます。この値は、選択したテーマに応じて異なります。

  注意：アニメーションの継続時間を指定する場合、値を大きくすると、アニメーションの動作が遅くなります。

マウスオーバーセクション

- **Hover 効果を有効にする**　マウスオーバーインジケータの表示を制御します。このインジケータには、オブジェクト上にマウスポインタを置いた際にグラフコンポーネント情報が表示されます。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。ただし、この設定は、テーマの設定で上書きされる場合があります。

スクロールセクション

- **X 軸のスクロールを自動的に有効にする**　ビジュアライゼーションモードでは、このオプションはデフォルト設定で有効になっています。このオプションを使用して、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、散布図、バブルグラフ、およびすべてのマトリックスグラフでのスクロールバーの表示を制御します。[フォーマット] タブから [インタラクティブオプション] ダイアログボックスを開き、この機能を有効にする必要があります。この機能を有効にすると、大規模データセットを使用する際に、スクロールバーを使用してデータを左から右に確認することができます。小規模データセットの場合、スクロールバーが必要かどうかは、このスクロール機能によって自動的に制御されます。ユーザのデータ表示要件に応じて、このオプションの有効と無効を切り替えることができます。

ページ設定のカスタマイズ

レポート、グラフ、ドキュメントを作成する際に、ページの表示方法をカスタマイズすることができます。これらのオプションは、[レイアウト] タブの [ページ設定] グループにあります。

- **マージン** [標準 (各辺 1.0 インチ)]、[狭く (各辺 0.50 インチ)]、[中間 (左/右 0.50 インチ)]、[広く (左/右 1.50 インチ)]、[カスタム] から、マージン値を選択することができます。必要に応じて、[カスタム] を選択して [マージン] ダイアログボックスを開き、特定のマージンを指定することができます。
- **方向** レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
- **サイズ** 印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。
- **単位** レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
- **ページ番号** (レポートのみ) ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。
  - NOLEAD (見出しスペースなし)
  - オン (ページ番号のみ)
  - オフ (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし)

  ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。

9

マップ作成による傾向の特定

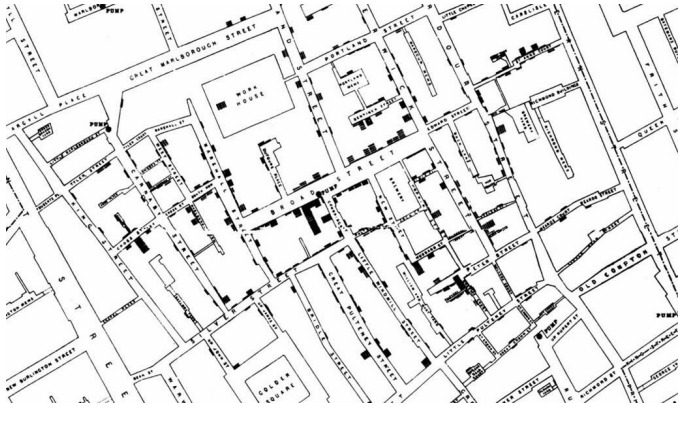
InfoAssist では、マップを作成してデータ内のパターンや傾向を明確することができます。データを変換し、マップ上に表示可能な値にすることで、ビジュアルに表現したシナリオのホットスポットが明確になり、潜在的な問題箇所の特定が可能になります。たとえば、警察が管轄区域で犯罪率の高い地域を特定する際にマップ機能が役立ちます。また、マップ機能を使用して、複数地域の関連性を特定し、それらの地域の状況を把握することで、最適な対策を講じることができます。マップ上に傾向を示すことで、意思決定者によるパターンの識別が容易になり、結論への到達が迅速化されます。

トピックス

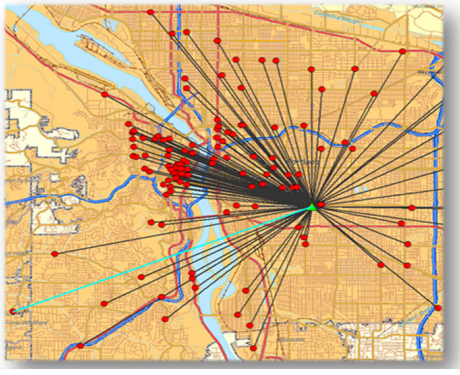
- マップの略歴
- InfoAssist と ESRI の統合
- カスタム地理的役割の追加
- Leaflet マップの追加地域の有効化

マップの略歴

マップを使用して傾向を図式化する方法を示した初期の例として、ジョン・スノー医師の事例があります。この医師は、データを使用してコレラの発生地点を地図上に表すことで、感染原因を特定した最初の疫学者です。スノー医師は、都市の地図にコレラデータをプロットして、井戸ポンプの近傍でコレラの発生率が高くなる傾向を視覚的に表現することに成功しました。下図は、この例を示しています。



また、マップを使用してサイズ、形状、分布を評価することで、パターンの発見や数値化を行えるほか、予測分析を実行することもできます。パターンの発見と数値化にマップが役立つ例として、州政府機関が WebFOCUS マップアプリケーションを使用して、州のフードスタンプ制度 (低所得者向け食料配給券) に関する問題を解決した事例があります。このアプリケーションを使用して、食料配給券の不審な引き換えが行われていることが発見されました (例、端数を丸めた金額での取引)。州政府機関は、これらの取引を地図上にプロットすることで、引き換え地点が同一の場所であることを突き止めました。詳細調査の結果、受給者が食料配給券を目的どおりに使用せず、他人に割引価格 (50 ドル相当の食料配給券を 40 ドルの現金) で販売していたことが判明しました。下図のマップは、この例を示しています。



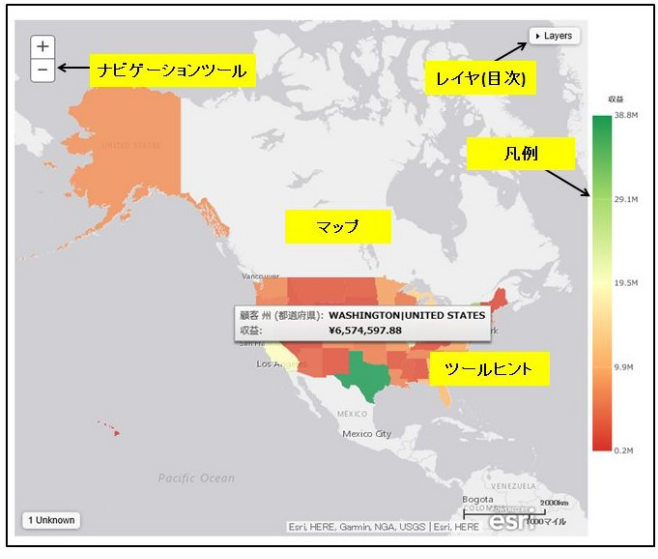
Citizen	Date	Amount
Jane Smith	01/03/2015	35.26
Jane Smith	01/05/2015	44.12
Jane Smith	01/10/2015	12.42
John Wilson	01/02/2015	100.00
John Wilson	01/08/2015	50.00
John Wilson	01/11/2015	75.00
Mary Johnson	01/03/2015	23.24
Mary Johnson	01/06/2015	14.32
Mary Johnson	01/11/2015	34.88

マップを使用する際は、ロケーションインテリジェンスおよびビジネスインテリジェンスの概念を理解しておくことが重要です。地理情報システム (GIS) は、位置に関連するデータを取得、格納、分析、管理、表示する技術で、ビジネスインテリジェンス (BI) は、生データを有益な情報に変換してデータを活用する技術です。ロケーションインテリジェンスは、意思決定を強化するためのデータ分析プロセスです。ロケーションインテリジェンスでは GIS と BI 分析が統合されるため、データのパターン認識が可能になります。たとえば、これらの手法を別々に使用した場合では簡単に発見できないような地理空間の異常値を視覚的に表現して発見することができます。

具体的には、マップでは、非割り込み GIS ワークフローと既存データが使用されます。統合されたマップビューアでは、地図上の位置 (例、州、国、郵便番号) に関連付けられたデータのシンボルレイヤを表示することができます。データのメジャーを使用して、地理的役割 (ディメンション) を視覚的に表現することもできます。地理的役割 (ディメンション) は、メタデータに直接作成することも、マップを作成する際にデータフィールドに割り当てることもできます。

InfoAssist と ESRI の統合

ESRI が統合された WebFOCUS InfoAssist では、マップを作成してデータを図式化し、傾向を特定することで、迅速な意思決定を支援することができます。このシステムが動作するフレームワークは、 WebFOCUS アーキテクチャから提供されます。下図のように、JavaScript マップビューアを使用して、このインターフェースを簡単にナビゲートすることができます。



また、この統合では、ArcGIS JavaScript API とコンテンツを活用するという方法で ESRI の機能を使用します。具体的には、ArcGIS Online プラットフォーム上の公開コンテンツを使用したマップに、ユーザのデータを組み合わせることができます。詳細は、http://www.esri.com/software/arcgis/arcgisonline を参照してください。さらに、この統合を使用して、ユーザのデータを組み合わせたマップに人口統計、消費パターン、犯罪、ライフスタイルに関する情報を追加することもできます。これらのマップで使用可能な多数の人口統計レイヤ、参照レイヤ、地形レイヤを追加することで、人、ビジネス、気候などの情報をマップに表示することができます。

InfoAssist で作成可能なマップには、次のものがあります。

- **コロプレス**　よく使用される主題図の 1 つで、地理指標 (例、国、州) を使用し、色の濃淡で区別された値を空間的に表現します。このグラフは、位置に基づくデータ、傾向、地域分布の視覚化に役立ちます。コロプレスマップの色合いは、選択したメジャーに基づく凡例の色として示されるため、マップ全体でのデータの密集度を簡単に特定することができます。

- **プロポーショナルシンボル (バブル)** 住所や交差点などの座標点に、さまざまなサイズのシンボルで測定値を表します。これらのマップは、データ密度が異なる特定地域に着目します。データ密度が高くなると、バブルが大きくなります。

両方のマップは、グラフモードおよびビジュアライゼーションモードで作成可能です。マップに組み込まれたズーム機能を使用して、着目する特定の地域に簡単にドリルダウンすることができます。この方法で地域データに焦点を合わせることで、データの初期表示を変更することなく、予測や提案を行えます。

グラフモードでは、InfoAssist でグラフやレポートの作成時に使用可能な [オートドリルダウン] および [オートリンク] 機能を使用することもできます。ビジュアライゼーションモードでは、マップ上のさまざまなデータ階層レベル間をドリルアップおよびドリルダウンすることもできます。[オートドリルダウン] 機能を使用すると、実行時にマップデータの地理データ階層レベルの段階的な移動が可能になります。この情報を使用して、地理データ階層レベルを順に移動しながら (例、国から州、州から都市)、同一のメジャーを別の視点で視覚化することできます。[オートリンク] 機能を使用すると、共通のデータパラメータに基づいて、組織内で使用する一連のグラフやレポートを関連付けることができます。

InfoAssist に統合された ESRI 機能を使用して、次のレイヤをマップに追加することもできます。

- **ベースマップ** このレイヤには、他の地理的特性 (例、道路、地形、画像) を背景に、データが存在する位置が表示されます。一部の標準的な背景オプションでは、さまざまなシンボルを使用して、道路、空中写真、地形データが統合される場合もあります。ArcGIS のホスティングにより、データを別の視点から確認するために、背景をいつでも変更することができます。

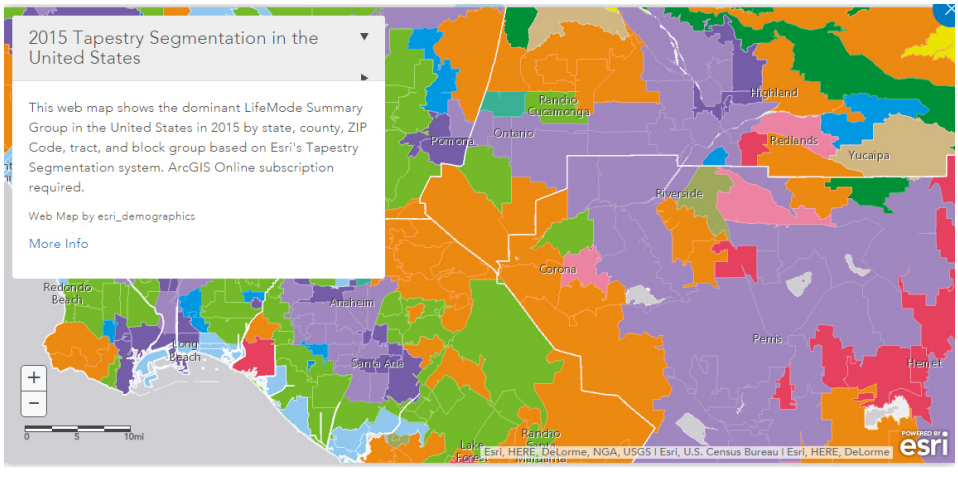
  マップに背景のいずれかを適用すると、マップの外観が変わります。データの背景を調整することで、さまざまな地形や地理情報の表示に切り替えることができます。ベースマップでは、少なくとも 17 段階のズームレベルを使用することができます。詳細は、https://developers.arcgis.com/javascript/jsapi/esri.basemaps-amd.html を参照してください。

- **参照レイヤ** このレイヤには、大陸、国、州、市に至るまでの境界と地点が表示されます。たとえば、電気使用量に関する世界データを表示している場合、各国内で境界とデータ密度を表示する参照レイヤを追加することができます。

- **人口統計レイヤ** このレイヤには、特定の人口統計エリアでの人やビジネスに関する情報が表示されます。この情報には、アメリカ合衆国のほか、120 か国が含まれています。人口統計レイヤは、消費パターン、人口、ライフスタイルなど、地域に関する追加情報を提供する主題図です。人口統計レイヤを売上データに関するマップに追加し、特定エリアの消費パターンに基づいて、新店舗の候補地の決定に利用することができます。

マップ範囲 (拡大縮小) および [レイヤ] メニューの機能は、ベースマップ、参照レイヤ、人口統計レイヤのいずれかを選択した際にマップに適用されます。マップ範囲 (拡大縮小) は、マップの自動表示機能です。マップに表示される [レイヤ] メニューから、表示されている情報を調整するためのオプションを選択することができます。

下図の例は、マップでのレイヤの使用例を示しています。



注意：グラフモードおよびビジュアライゼーションモードでは、[フォーマット] タブからマップの背景レイヤ、人口統計レイヤ、参照レイヤにアクセスすることができます。これらのレイヤは、InfoAssist で使用できるよう ESRI から提供される静的な標準オプションです。これらのレイヤは、選択したデータソースに応じて変更されることはありません。

ESRI On Premise 環境の構成

ESRI On Premise 機能では、ローカル API を使用することにより、マップファイルのダウンロードとアクセスが可能になります。ダウンロードと API の構成が完了した後は、インターネットに接続せずに、ESRI から提供される強力なマップ機能を使用することができます。この機能を制御する API のダウンロードと構成についての詳細は、406 ページの「 ArcGIS JavaScript API をダウンロードして構成するには 」 を参照してください。

ESRI On Premise 機能では、ESRI マップファイルへのローカルアクセスが提供されます。このローカルアクセスは、外出時やインターネット未接続時に特に役立ちます。インターネットに接続していない状態で、iPad や画面サイズの大きいスマートフォンなどのモバイルデバイスを使用することもできます。ESRI On Premise 機能を使用する際にサポートされるマップコンポーネントには、次のものがあります。

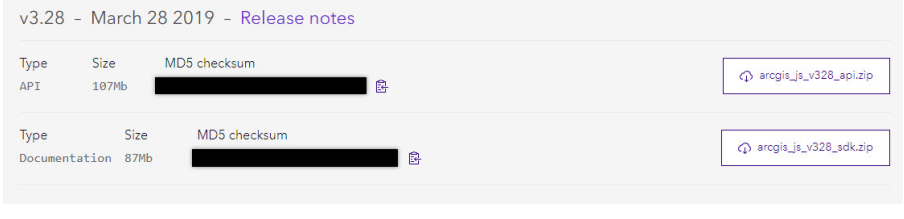
- **オフラインベースマップ** ベースマップは、ArcGIS から提供されます。オフライン使用のための標準ベースマップが用意されています。たとえば、[海洋マップ]、[地域とラベル] などがあります。InfoAssist では、これらのベースマップは「背景」とも呼ばれます。オンライン設定では、10 個のベースマップを使用できます。オフラインベースマップを使用するには、ArcGIS Server で公開されているタイルマップサービスを使用する必要があります。
- **オフライン地理的役割** メジャーをディメンション (例、国、州、都市) に基づいて視覚的に表現するには、地理的役割を使用します。地理的役割からは、マップ上にポイントを描画するために必要な (x/y) 形式の位置情報が提供されます。地理的役割は、ArcGIS Online を使用するオンラインユーザ向けに事前定義されています。InfoAssist では、マップの作成時に選択可能な地理コンポーネントは、地理的役割で定義されます。オフラインユーザ向けに表示されるオプションは、geoservices.xml ファイルでカスタマイズすることができます。

注意：ESRI On Premise 環境では、人口統計レイヤはサポートされません。

手順 ArcGIS JavaScript API をダウンロードして構成するには

次の手順は、ESRI On Premise 環境を制御する API をダウンロードして構成する方法を示しています。

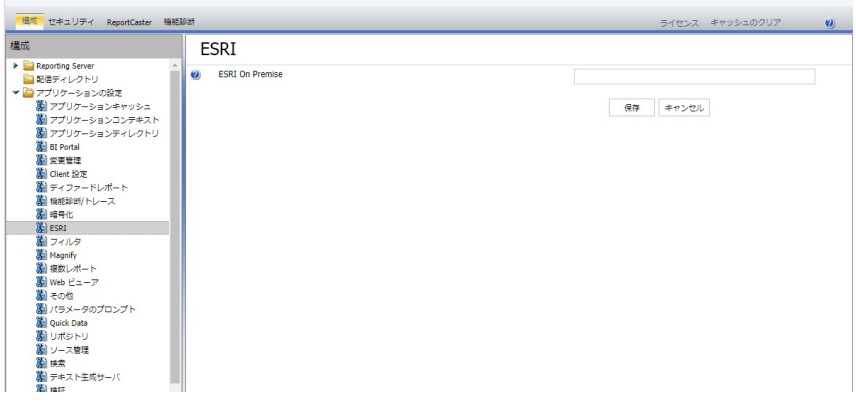
1. Esri ArcGIS にログインします。
2. ブラウザを開き、API のダウンロードサイト (https://developers.arcgis.com/downloads#javascript) に移動します。
3. 下図のように、ArcGIS API for JavaScript の [Version 3.28] に移動します。



4. [arcgis_js_v328_api.zip] をクリックして、API をダウンロードします。

5. *drive*:¥ibi¥WebFOCUS*nn*¥config¥web_resource フォルダ下に、「arcgis_api」という名前のフォルダを作成します。
6. 手順 4 でダウンロードした arcgis_js_v328_api.zip ファイルを展開し、arcgis_js_v328_api¥arcgis_js_api¥library¥3.28¥3.28 フォルダに移動します。
7. そのフォルダ内のファイルを *drive*:¥ibi¥WebFOCUS*nn*¥config¥web_resource¥arcgis_api フォルダに抽出します。
8. 下図のように、WebFOCUS 管理コンソールで API のパスを確認します。

   注意：この値は、抽出した API ファイルへのパスです。たとえば、/web_resource/arcgis_api です。



   この設定の値で、ESRI ベースのマップを作成する内部 ArcGIS Javascript API ソースのパスが識別されます。デフォルト設定では、この値はブランクです。この設定では、ESRI マップを作成する内部 API ソースの使用は有効になっていません。デフォルト設定で参照される API は https://js.arcgis.com/3.28/ です。ESRI マップを作成するために内部 ArcGIS Javascript API を使用するよう WebFOCUS を構成するには、この設定に、抽出したローカル API ファイルのパスを入力します。詳細は、『TIBCO WebFOCUS セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

   注意：このパスは、ローカル WebFOCUS 環境でアクセス可能な相対パスにする必要があります。

9. [保存] をクリックします。
10. 次に、以下の 2 つのローカル API ファイルをテキストエディタで開きます。

    - *drive*:¥ibi¥WebFOCUS*nn*¥config¥web_resource¥arcgis_api¥init.js
    - *drive*:¥ibi¥WebFOCUS*nn*¥config¥web_resource¥arcgis_api¥dojo¥dojo.js

両方のファイルで、HOSTNAME_AND_PATH_TO_JSAPI を検索し、baseUrl プロパティを特定します。baseUrl:"https://[HOSTNAME_AND_PATH_TO_JSAPI]dojo" 内の文字列 [HOSTNAME_AND_PATH_TO_JSAPI] を、使用するオンプレミス ArcGIS サーバのパスで置換します。以下はその例です。

```
baseUrl:"https://localhost/arcgis/jsapi/jsapi/dojo"
```

11. WebFOCUS 管理コンソールで、[キャッシュのクリア] をクリックしてブラウザキャッシュをクリアします。これで構成が完了しました。

InfoAssist でのマップの作成とカスタマイズ

次の手順は、マップを作成してカスタマイズする方法を示しています。

マップを作成する際は、マップビューアの次のビルトイン機能を使用することができます。

- プラス (+) 記号およびマイナス (-) 記号のアイコン  をクリックして、マップ上のさまざまな領域にズームインまたはズームアウトします。特定の地点をダブルクリックして、その地点にズームインすることもできます。
- HTML5 ビジュアライゼーションと同様に、マップ上でハイライトされたマーカーおよび地域では、ドリルダウン、マルチドリルダウン、オートリンク、ツールヒント機能がサポートされます。
- グラフモードでマップを作成する際は、[パン/選択] ボタンを使用して、[パン] コントロールと [選択] コントロールを切り替えます。このオプションは、マップの右上にあります。
- ビジュアライゼーションモードでマップを作成する際は、[パン] または [選択] ボタンをクリックしてコントロールを切り替えます。[パン] コントロールを使用する際は、マップ上の任意の地点をクリックし、マウスボタンを押した状態でマップを移動することができます。[選択] コントロールを使用する際は、マップの特定エリアをフリーハンド (ラッソ) 選択で囲み、マップ上のデータを選択することができます。
- [US Zipcode 5] の地理的役割を使用して、2000 個以上のポリゴンを含むマップを作成すると描画に失敗します。

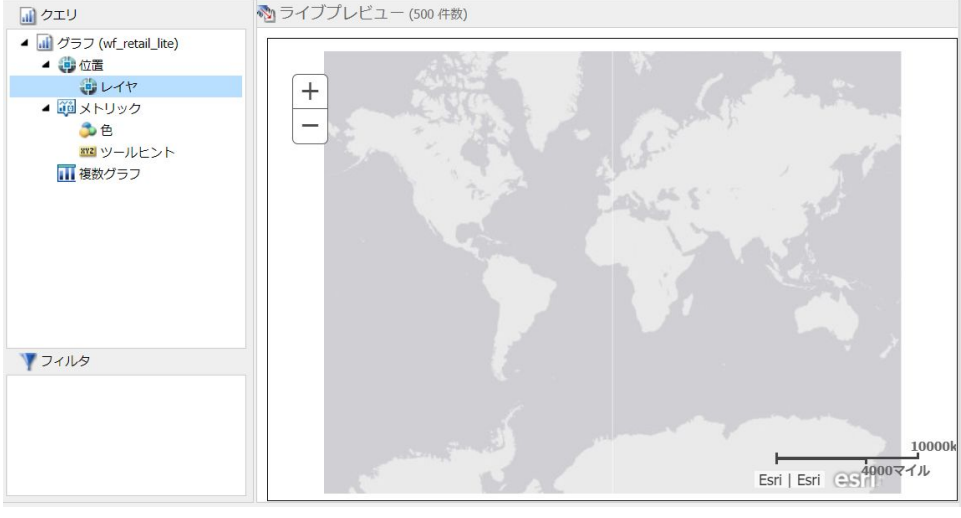
手順　ESRI コロプレスマップを作成するには

注意：マップ作成のデフォルトオプションでは、ESRI から提供される ArcGIS JavaScript API が使用されます。

1. InfoAssist をグラフモードまたはビジュアライゼーションモードで起動します。

   - グラフモードで、[フォーマット] タブの [グラフ] グループの [コロプレス] をクリックします。
   - ビジュアライゼーションモードで、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループの [変更] をクリックし、[コロプレス] を選択します。

   下図のように、ブランクのマップが表示され、[レイヤ] フィールドコンテナが使用可能になります。



2. [レイヤ] フィールドコンテナに位置情報フィールドを追加します。

下図のように、このフィールド (地理的役割がすでに割り当てられたフィールド) は、[データ] ウィンドウの [レイヤ] アイコン で識別されます。また、データフィールドの上にマウスポインタを置くと、地理的役割の割り当てが表示されます。



詳細は、423 ページの 「 地理的役割 」 を参照してください。

キャンバスがリフレッシュされ、マップが表示されます。

3. マップを保存する前に、次の操作を実行してマップに分析指標を追加することができます。
   - ❏ [実行] をクリックして、マップのプレビューを表示します。
   - ❏ [色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加して、データ値に基づいてグラフを色分けします。[色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加すると、そのデータ値の凡例が表示されます。[色] フィールドコンテナにディメンションを追加すると、フィールドコンテナのラベルが [色 (BY)] に変わります。
   - ❏ [ツールヒント] フィールドコンテナにディメンションまたはメジャーを追加すると、マップの特定エリアにマウスポインタを置いた際にツールヒント情報が表示されます。
   - ❏ 背景レイヤ、人口統計レイヤ、参照レイヤを追加します。
4. [保存] をクリックして、マップを保存します。

手順　ESRI プロポーショナルシンボル (バブル) マップを作成するには

1. InfoAssist をグラフモードまたはビジュアライゼーションモードで起動します。
   - ❏ グラフモードで、[フォーマット] タブの [グラフ] グループの [プロポーショナルシンボル] をクリックします。

- ビジュアライゼーションモードで、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループの [変更] をクリックし、[プロポーショナルシンボル] を選択します。

ブランクのマップが表示され、[レイヤ] フィールドコンテナが使用可能になります。

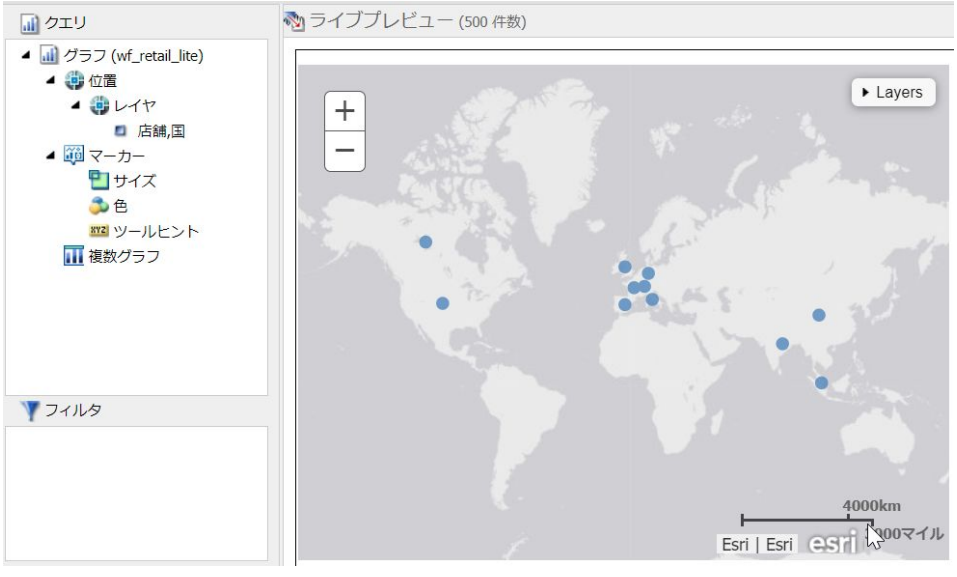
2. 地理的役割が割り当てられているデータフィールドを [レイヤ] フィールドコンテナに追加します。

   下図のように、このフィールド (地理的役割がすでに割り当てられたフィールド) は、[データ] ウィンドウの [レイヤ] アイコン で識別されます。また、データフィールドの上にマウスポインタを置くと、地理的役割の割り当てが表示されます。



   詳細は、423 ページの 「 地理的役割 」 を参照してください。

下図のように、基本的なバブルマップが表示されます。



3. マップを保存する前に、次の操作を実行してマップに分析指標を追加することができます。
   - ❏ [実行] をクリックして、マップのプレビューを表示します。
   - ❏ [色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加して、データ値に基づいてグラフを色分けします。
   - ❏ [サイズ] フィールドコンテナにメジャーを追加して、マップ上のバブルのサイズを制御します。
   - ❏ [ツールヒント] フィールドコンテナにメジャーを追加して、実行時にマップの特定エリアにマウスポインタを置いた際にツールヒント情報を表示します。
   - ❏ 背景レイヤ、人口統計レイヤ、参照レイヤを追加します。
4. [保存] をクリックして、マップを保存します。

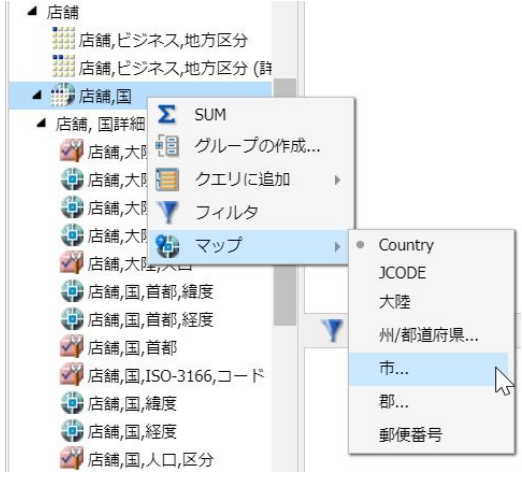
手順　データフィールドに地理的役割を割り当てるには

1. InfoAssist をグラフモードまたはビジュアライゼーションモードで起動します。
   - ❏ グラフモードで、[フォーマット] タブの [グラフ] グループの [コロプレス] または [プロポーショナルシンボル] をクリックします。

- ビジュアライゼーションモードで、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループの [変更] をクリックし、[コロプレス] または [プロポーショナルシンボル] を選択します。

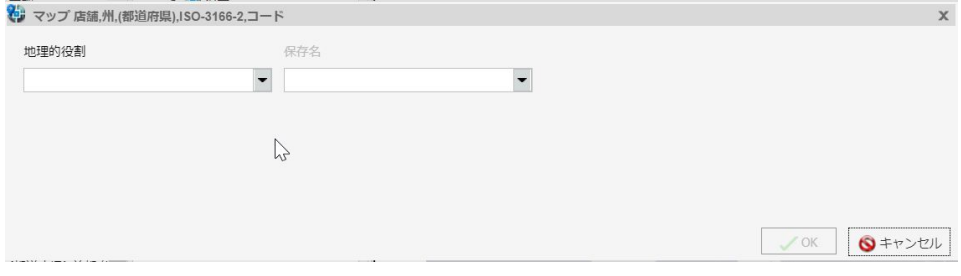
2. [データ] ウィンドウで、地理情報が割り当てられていないデータフィールドを選択します。
3. 次のいずれかの方法で [マップ] ダイアログボックスを開き、地理的役割を割り当てます。

   - 下図のように、データフィールドを右クリックして [マップ] を選択し、地理的役割のいずれかを選択します。



   - データフィールドを [レイヤ] フィールドコンテナにドラッグします。

   下図のように、[マップ] ダイアログボックスが開きます。



4. [マップ] ダイアログボックスで、地理的役割のいずれかを選択します。たとえば、[州] を選択します。

   注意：地理的役割を指定する際は、国の名前または ISO-2 コードを使用することができます。ISO-2 は、世界的に知られているコードです (http://www.iso.org/iso/country_codes を参照)。

下図のように、[マップ] ダイアログボックスがリフレッシュされ、[依存先] セクションが表示されます。



注意：[マップ] オプションを使用した場合、この時点で地理的役割が選択されているため、[依存先] セクションが自動的に表示されます。

5. [依存先] セクションで、次のオプションのいずれかを選択します。

   - **フィールド**　この地理的役割の従属先となる特定のフィールドを指定します。たとえば、[国] や [大陸] を選択します。
   - **ユーザ定義**　データソースの特定の値を定義することができます。単純に特定の国を選択します。たとえば、[米国] を選択します。

   [地理的役割] テキストボックスには、データソース階層に基づいて自動的に値が挿入されます。たとえば、最初に選択した地理的役割が [州] で、メタデータ階層で [州] が [国] に従属している場合、このオプションが表示されます。

6. [OK] をクリックします。
   [マップ] オプションを使用した場合、地理的役割が定義されたデータフィールドを [レイヤ] フィールドコンテナに配置する必要があります。[レイヤ] フィールドコンテナにデータフィールドを配置し、地理的役割を定義した場合、そのフィールドは自動的に [レイヤ] フィールドコンテナに追加されます。

下図のように、基本的なマップが表示されます。



7. マップを保存する前に、次の操作を実行してマップに分析指標を追加することができます。
   - ❏ [実行] をクリックして、マップのプレビューを表示します。
   - ❏ [色] フィールドコンテナにメジャーまたはディメンションを追加して、データ値に基づいてグラフを色分けします。
   - ❏ [サイズ] フィールドコンテナにメジャーを追加して、マップ上のバブルのサイズを制御します。
   - ❏ [ツールヒント] フィールドコンテナにメジャーを追加して、実行時にマップの特定エリアにマウスポインタを置いた際にツールヒント情報を表示します。
   - ❏ 背景レイヤ、人口統計レイヤ、参照レイヤを追加します。
8. [保存] をクリックして、マップを保存します。

手順　位置情報フィールドの地理的役割を変更するには

次の手順を実行して、位置情報フィールドの地理的役割の割り当てを変更することができます。

1. InfoAssist をグラフモードまたはビジュアライゼーションモードで起動します。
   - ❏ グラフモードで、[フォーマット] タブの [グラフ] グループの [コロプレス] をクリックします。
   - ❏ ビジュアライゼーションモードで、[ホーム] タブの [ビジュアル] グループの [変更] をクリックし、[コロプレス] を選択します。
2. [データ] ウィンドウで位置情報フィールドを右クリックし、[マップ] を選択します。
3. 地理的役割のいずれかを選択します。

   [マップ] ダイアログボックスが開き、選択した地理的役割が表示されます。
4. [マップ] ダイアログボックスで、必要に応じてドロップダウンリストから別の地理的役割を選択します。たとえば、[国] を選択します。

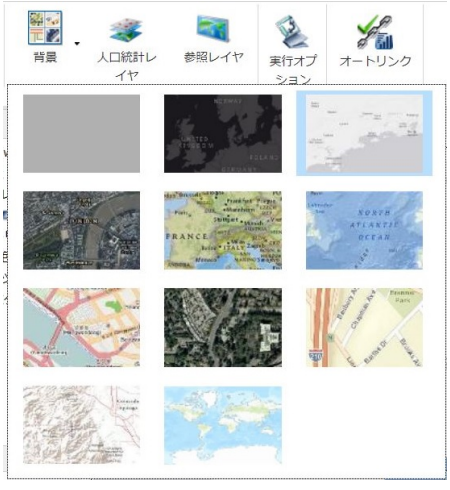
   注意：この操作で、[マップ] オプションのリストから選択した地理的役割が変更されます。
5. [保存先] のデフォルト値を受容するか、ドロップダウンリストから別の値を選択します (例、[ISO コード])。[保存先] の値は、テーブルに格納されるデータ値の表示形式を示すものです。
6. [OK] をクリックします。

   [データ] ウィンドウで選択した位置情報フィールドの地理的役割が変更され、新しい地理情報に基づいてマップがリフレッシュされます。

手順　マップのデフォルト背景を変更するには

1. InfoAssist で新しいマップを作成するか、既存のマップを開きます。

2. 下図のように、[フォーマット] タブで [マップ] グループを展開し、[背景] をクリックします。



3. 次のオプションのいずれかを選択します。

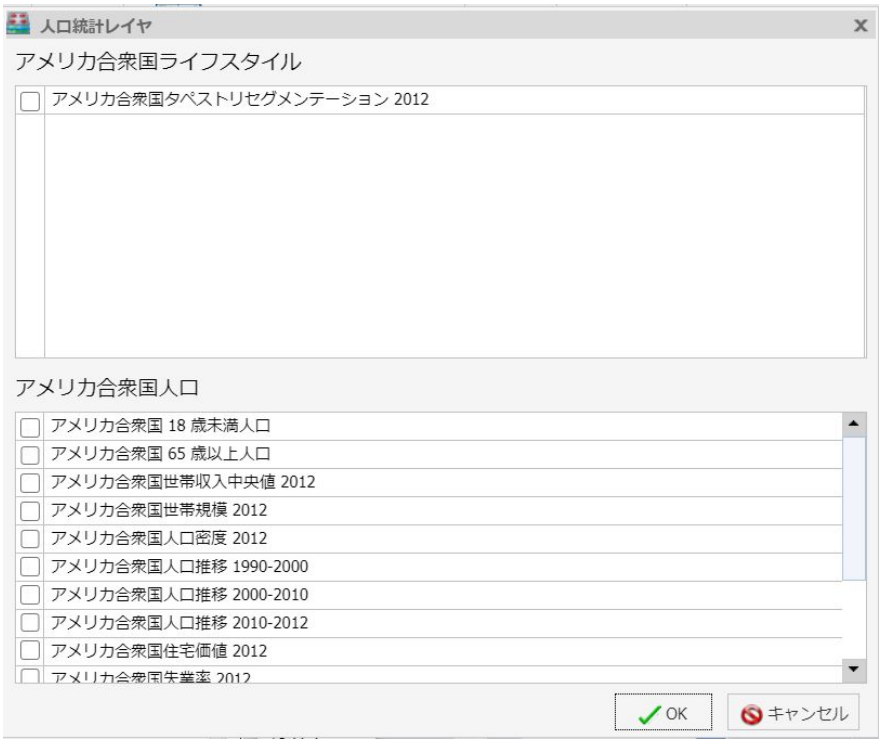
   - 世界ストリートマップ
   - 地域とラベル
   - 海洋マップ
   - 世界地形マップ
   - OpenStreetMap
   - 世界画像
   - 世界画像 (ラベル付き)
   - キャンバスマップ (薄い灰色)
   - National Geographic
   - キャンバスマップ (濃い灰色)
   - ベースマップなし

   注意：[世界画像 (ラベル付き)] 背景を選択すると、地形の等高線から市街地の車道までを網羅した地形図が提供されます。

   背景のいずれかを選択すると、マップの背景がリフレッシュされます。必要な情報が背景に表示されるまで、上記の手順で背景の変更を繰り返すことができます。

手順　マップに人口統計レイヤを追加するには

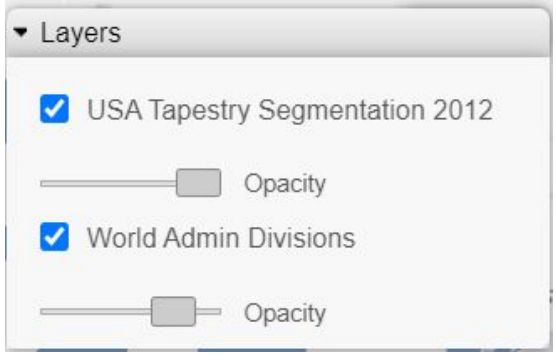
1. InfoAssist で新しいマップを作成するか、既存のマップを開きます。
2. [フォーマット] タブで [マップ] グループを展開し、[人口統計レイヤ] をクリックします。
3. 下図のように、さまざまな人口グループおよびライフスタイルグループからいずれかを選択します。



注意：これらは、ArcGIS から提供される定義済み人口統計プロファイルです。いずれかのカテゴリで複数のオプションを選択することで、データにさらなる分析指標を追加することができます。具体的には、各人口統計レイヤにはそれぞれ独自の統計データがあり、さまざまなレイヤや統計データで値を比較する際のレイヤオプションが提供されます。

4. [OK] をクリックします。

選択した人口統計レイヤがマップに適用されます。マップがさまざまなグループに分類され、それぞれが固有の色合いで表示されます。[レイヤ] (目次) オプションを使用して、指定した複数のレイヤを切り替えることができます。下図は、[レイヤ] オプションを示しています。



注意：チェックボックスを使用して人口統計レイヤの表示と非表示を切り替えることで、さまざまな人口統計分析シナリオを比較することができます。

手順　マップに参照レイヤを追加するには

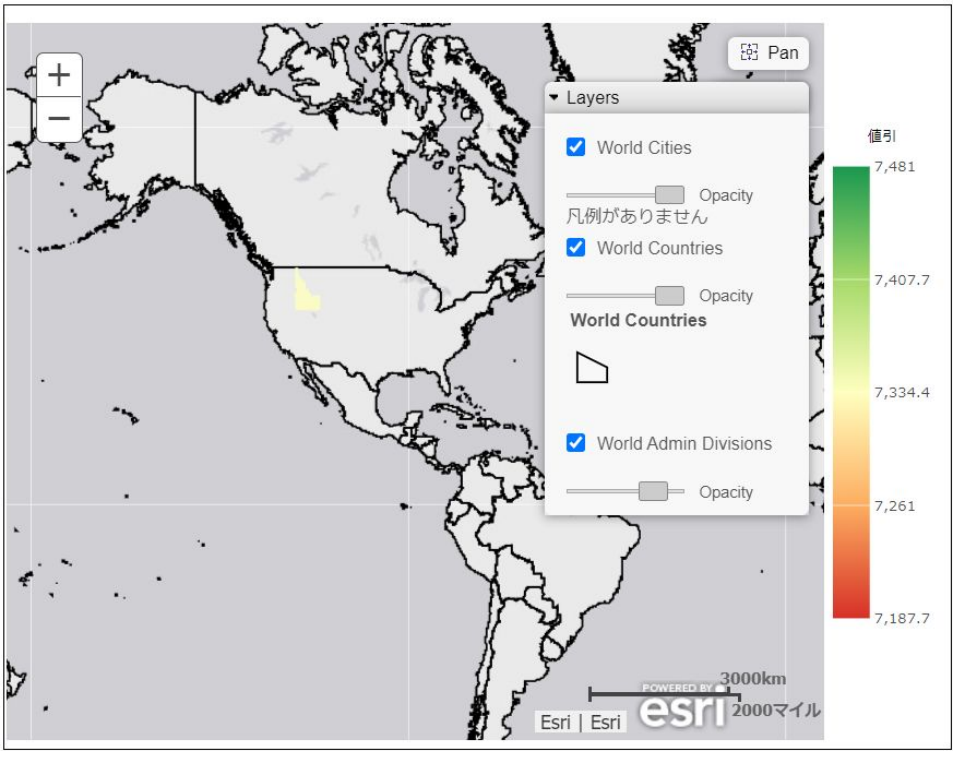
1. InfoAssist で新しいマップを作成するか、既存のマップを開きます。
2. [フォーマット] タブで [マップ] グループを展開し、[参照レイヤ] をクリックします。

   下図のように、[参照レイヤ] ダイアログボックスが開きます。



3. マップに追加する 1 つまたは複数の参照レイヤを選択し (例、[国 (世界)])、[OK] をクリックします。

   マップがリフレッシュされ、参照レイヤの定義および境界がキャンバスに表示されます。[レイヤ] (目次) オプションを使用して、マップ上の参照レイヤを切り替えることができます。下図は、これらのオプションを示しています。



手順　Leaflet マップを作成するには

次の手順を実行して、Lightweight Mapping 機能の一部である Leaflet マップを作成することができます。

注意

- グラフの場合、この機能を使用するには HTML5 出力フォーマットを使用する必要があります。

❑ Leaflet コロプレスマップではデータラベルが表示され、実データに関する情報をマップ上で参照することができます。この機能の有効化についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』を参照してください。

1. InfoAssist をグラフモードまたはビジュアライゼーションモードで起動します。
2. 次の方法で Leaflet マップを作成します。

   Leaflet マップをグラフとして作成するには、次の手順を実行します。

   1. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[その他] をクリックします。
   2. 左側ウィンドウで [マップ] を選択します。

      Leaflet マップを含む、すべてのマップオプションが表示されます。[コロプレス (Leaflet)] または [バブルマップ (Leaflet)] をクリックします。

   Leaflet マップをビジュアライゼーションで作成するには、次の手順を実行します。

   1. [ホーム] タブの [ビジュアル] グループで、[変更] をクリックします。
   2. [ビジュアルの選択] メニューで [マップ] をクリックします。

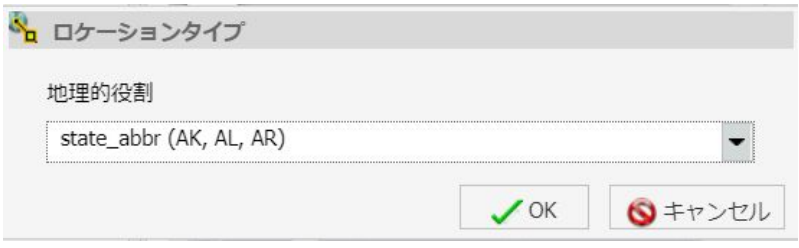
      [マップの選択] ダイアログボックスが開きます。

   3. [タイプ] グループからマップを選択します。
3. [位置] グループの [地域] ドロップダウンから地域 (例、アメリカ合衆国) を選択します。

   このセクションでは、マップ表示が可能な地域を選択することができます。ドロップダウンリストから地域オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[アメリカ合衆国]、[世界]、[ヨーロッパ]、[アフリカ]、[アジア]、[オーストラリア]、[オーストリア]、[デンマーク]、[ドイツ]、[日本]、[北アメリカ]、[南アメリカ]、[スウェーデン] があります。その他の地域の追加および有効化についての詳細は、433 ページの「 Leaflet マップの追加地域の有効化 」 を参照してください。
4. [OK] をクリックします。
5. [データ] ウィンドウで位置情報フィールドを選択し、[クエリ] ウィンドウの [レイヤ] フィールドコンテナに追加します。

   注意：バブルマップの場合、[レイヤ]、[緯度]、[経度] フィールドコンテナが表示されます。[緯度] および [経度] フィールドコンテナを使用して、緯度データおよび経度データを指定することができます。バブルマップでは、[サイズ] フィールドコンテナも表示されます。

下図のように、[ロケーションタイプ] ダイアログボックスが開きます。



ロケーションタイプは、ジオコーディング処理に必要です。ジオコーディング処理は、地理ディメンション (例、郵便番号、州、国) を地図座標に正しく一致させるために、フィールドに特定の地理ディメンションを割り当てるプロセスです。ジオコーディング処理は、位置情報フィールドを [位置] データコンテナに追加した時点で実行されます。

6. ドロップダウンリストから地理的役割を選択し、[OK] をクリックします。

   マップが表示されます。

   注意：地理的役割を変更するには、[クエリ] ウィンドウで位置ディメンションを右クリックし、[地理的役割] を選択します。[ロケーションタイプ] ダイアログボックスが開きます。

7. 必要に応じて、[色] フィールドコンテナにフィールドを追加します。また、バブルマップを作成している場合は [サイズ] フィールドコンテナにフィールドを追加します。

   [レイヤ] フィールドコンテナに追加したデータ、およびオプションとして [色] および [サイズ] フィールドコンテナに追加したデータに基づいてマップが表示されます。[色] フィールドコンテナに追加されたデータフィールドに基づいて、マップ上のデータの色分けが凡例で識別されます。

参照　クエリウィンドウのマップタイプ別のフィールドコンテナ

ここでは、グラフおよびビジュアライゼーションの作成時に [クエリ] ウィンドウに表示されるフィールドコンテナをマップタイプ別に説明します。

[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナ	グラフモード		ビジュアライゼーションモード	
1 つのデータフィールド (具体的には、州など位置データを含むフィールド)	✓	✓	✓	✓

[クエリ] ウィンドウのフィールドコンテナ	グラフモード		ビジュアライゼーションモード	
緯度 1 つのデータフィールド (緯度データを含むフィールド)	✖	✓	✖	✓
経度 1 つのデータフィールド (経度データを含むフィールド)	✖	✓	✖	✓
色 1 つのデータフィールド	✓	✓	✓	✓
ツールヒント 最大 1 つのデータフィールド (オプション)	✓	✓	✓	✓
複数グラフ 最大 1 つのデータフィールド (オプション)	✓	✓	✖	✖
サイズ 1 つのデータフィールド	✖	✓	✖	✓

参照 地理的役割

注意：地理的役割は、ESRI マップでのみ使用できます。

地理的役割	説明	サポートされるマップ
CONTINENT	大陸 (世界)	コロプレス、プロポーショナルシンボル
COUNTRY	国 (世界)	コロプレス、プロポーショナルシンボル
STATE	管理区画 (世界)	コロプレス、プロポーショナルシンボル
CITY	都市 (世界)	プロポーショナルシンボル
COUNTY	市区郡 (世界)	コロプレス、プロポーショナルシンボル

地理的役割	説明	サポートされるマップ
POSTAL-CODE	郵便番号	コロプレス、プロポーショナルシンボル

下表は、地理的役割の追加情報を示しています。

注意：[緯度] および [経度] (座標) 以外のすべての地理的役割が記載されています。

地理的役割の名前	地理的役割のフォーマット	地理的役割
Address	Full	ADDRESS_FULL
	Line	ADDRESS_LINE
City	Name	CITY
Continent	ISO-3166 code	CONTINENT_ISO2
	Name	CONTINENT
Country	FIPS code	COUNTRY_FIPS
	ISO-3166-2 code	COUNTRY_ISO2
	ISO-3166-3 code	COUNTRY_ISO3
	Name	COUNTRY
Country (NUTS level 0)	NUTS code	NUTS0_CC
	Name	NUTS0
District (NUTS level 3)	NUTS code	NUTS3_CC
	Name	NUTS3

地理的役割の名前	地理的役割のフォーマット	地理的役割
Geometry area		GEOMETRY_AREA
Geometry line		GEOMETRY_LINE
Geometry point		GEOMETRY_POINT
Latitude		LATITUDE
Longitude		LONGITUDE
Postal code		POSTAL-CODE
Province (NUTS level 2)	NUTS code	NUTS2_CC
	Name	NUTS2
Region (NUTS level 1)	NUTS code	NUTS1_CC
	Name	NUTS1
State	FIPS code	STATE_FIPS
	Name	STATE
US County FIPS	FIPS code	USCOUNTY_FIPS
US city	FIPS code	USCITY_FIPS
	Name	USCITY
US county	Name	USCOUNTY
US Postal code	3 digits	ZIP3
	5 digits	ZIP5
US state	Abbreviation	USSTATE_ABBR
	FIPS code	USSTATE_FIPS
	Name	USSTATE
	US ISO subdivision code	STATE_ISO_SUB

下表は、地理的役割とその従属関係を示しています。レベル 1 は階層の最上位を表し、レベル 5 は階層の最下位を表します。

地域	階層レベル	地理的役割
アメリカ合衆国	1	COUNTRY, COUNTRY_ISO_CC
	2	USSTATE, USSTATE_ABBR, USSTATE_FIPS
	3	USCOUNTY, USCOUNTY_FIPS
	4	USCITY, USCITY_FIPS
	5	ZIP3, ZIP5
世界	1	CONTINENT, CONTINENT_ISO_CC
	2	COUNTRY, COUNTRY_FIPS, COUNTRY_ISO_CC, COUNTRY_ISO2, COUNTRY_ISO3
	3	STATE, STATE_ISO_SUB
	4	CITY
	5	POSTAL CODE

カスタム地理的役割の追加

エンタープライズデータを使用する企業では、その企業の管轄地域、イベント、物流情報を表すマップレイヤを所有していることがよくあります。これらのレイヤは、ESRI クラウド (ArcGIS.com) の登録ベースのマップサービスまたは社内ポータルのマップサービスとして公開されています。このポータルは、ArcGIS Server 10.3 で使用することができます。詳細は、

http://server.arcgis.com/en/portal/ を参照してください。

InfoAssist に同梱されている構成ファイル (geo_services.xml) には、地理的役割、地理階層、マップサービスの URL、InfoAssist で選択可能なベースマップのすべてを定義する要素が記述されています。このファイルは、サーバの home ディレクトリ下の catalog ディレクトリに格納されています。

`_edahome/catalog/`

注意：必要に応じて、WebFOCUS Reporting Server コンソールの [アプリケーション] ページから、[フィルタ] メニューの [すべてのユーザの edahome、edaconf、edaprfu、scaroot、edatemp、edalog、foccache を表示] をクリックして、このディレクトリをアプリケーションツリーに表示することができます。ここから、Reporting Server コンソールで geo_services.xml ファイルを直接編集することができます。

InfoAssist で選択可能な地理的役割は、この構成ファイルを使用して動的に作成されます。InfoAssist で地理的役割が選択されると、構成ファイル内の各地理的役割の定義に基づいてメタデータと、ESRI に送信されるリクエストが生成されます。このリクエストが ESRI に送信され、適切なマップがダウンロードされた後、マップ上にマーカーまたはポリゴンが配置されます。

地理的役割は、階層の一部にすることができます。たとえば、World 地理的役割は、大陸、国、州、都市で構成された階層の最上位にあります。これらの階層は、geo_services.xml ファイルにも記述されています。

カスタム地理的役割を追加するには、その地理情報に必要なパラメータをこのファイルに追加する必要があります。

また、<GEO_ROLES> オブジェクトから地理的役割定義を削除することで、使用可能な地理的役割をカスタマイズすることもできます。ESRI On Premise を構成するには、参照先 URL がローカルホスト ESRI Server の外部を指している地理的役割定義をすべて削除する必要があります。

標準の xml 構文規則に準拠し、各要素を要素の開始タグおよび終了タグで囲み (<elementname>, </elementname>)、属性値を二重引用符 (") で囲みます。

参照　地理的役割の定義

地理的役割は、geo_services.xml ファイルの geo_roles オブジェクト下の geo_role 要素として定義されています。地理的役割は、次の項目で定義する必要があります。

- 構成ファイルで地理的役割を識別する ID
- 返されるデータのフォーマットおよび長さ
- 地理的役割の名前
- 地理的役割の表示タイトル (InfoAssist の [マップ] ダイアログボックスで選択する際に表示)
- オプションの地理的役割フォーマット (地理的役割に名前、短縮名などの複数のフォーマットを指定できる場合)

- フォーマットの表示タイトル
- 地理的役割のタイプ (国や州などの地理情報オブジェクトの場合は geography、点ジオメトリ、面ジオメトリ、線ジオメトリの場合は geometry、経度と緯度の場合は coordinate)
- オプションのボキャブラリルール要素 (地理的役割をメタデータのフィールドに関連付けるためのボキャブラリ要素を格納)

構文は次のとおりです。

```
<geo_role id="id" value_size="size" unified="false" role_name="rname"
        role_name_title="rname_title" role_format="rformat"
        role_format_title="rformat_title" geo_type="gtype"
        type="datatype" >
        <vocabulary_rules>
            <vocabulary>vrule</vocabulary>
         </vocabulary_rules>
      </geo_role>
```

説明

`id="id"`
地理的役割の識別に使用する文字値を最大 50 バイトの大文字で指定します。

`type="datatype"`
ID のデータタイプです。次のいずれかの値です。

- **"alpha"** An または In フォーマットの文字データに使用します。
- **"integer"** In フォーマットの整数値データに使用します。
- **"numeric"** Pn.m、Dn.m、Fn.m フォーマットの小数値データに使用します。
- **"text"** TXn フォーマットのテキストデータに使用します。

`value_size="size"`
USAGE フォーマット長のバイト数です (オプション)。設定されていない場合は任意の長さです。

`role_name="rname"`
地理的役割の名前です。

`role_name_title="rname_title"`
[マップ] ダイアログボックスで地理的役割を選択する際に表示されるタイトルです。

`role_format="rformat"`

地理的役割のフォーマットです (オプション)。このフォーマットは、名前、ISO コード、略名などの複数のフォーマットで地理的役割を参照できる場合に役立ちます。標準的な地理的役割のタイトルには次のものがあります。

- **NAME** 地理的役割が地理エンティティで定義されることを示します (例、Florida)。
- **ABBR** 地理的役割が短縮名で定義されることを示します (例、FL)。
- **ZIP3** 地理的役割が 3 桁の郵便番号で定義されることを示します。
- **ZIP5** 地理的役割が 5 桁の郵便番号で定義されることを示します。
- **FIPS** 地理的役割が FIPS (連邦情報処理標準) コードで定義されることを示します。
- **ISO2** 地理的役割が ISO (国際標準化機構) から発行された ISO 3166-2 コードで定義されることを示します。
- **ISO3** 地理的役割が ISO (国際標準化機構) から発行された ISO 3166-3 コードで定義されることを示します。
- **LINE** 地理的役割が 1 行で定義されることを示します (例、住所の番地)。
- **FULL** 地理的役割がフルネームで定義されることを示します (例、完全な住所)。

`role_format_title="rformat_title"`

地理的役割のフォーマットのタイトルです (オプション)。[マップ] ダイアログボックスには、地理的役割のタイトルとともに、このフォーマットタイトルが括弧内に表示されます。たとえば、「米国州 (略名)」のように表示されます。

`geo_type="gtype"`

次の定義済み地理的役割タイプのいずれかです。

- **"geography"** 国名や州名などの地理情報オブジェクトに使用します。
- **"geometry"** 点ジオメトリ、線ジオメトリ、面ジオメトリなどのジオメトリオブジェクトに使用します。
- **"coordinate"** 緯度や経度などの座標に使用します。

`<vocabulary>vrule</vocabulary>`

一連のボキャブラリ要素で構成される要素です。これらのボキャブラリ要素で、地理的役割のフィールド名を明示的に定義します。これらのルールは、特定の地理的役割で最適な地理データを選択する際に使用されます。

ルール内の各要素は、ブール論理演算子 OR で接続されます (1 つの要素のみが条件を満たす必要あり)。各ボキャブラリ要素には、特殊文字で囲まれた単語が格納されます。ルール要素内の各単語は、ブール論理演算子 AND で接続されます (すべての単語が条件を満たす必要あり)。

任意の連続文字を表すプレースホルダとして、パーセント記号 (%) を単語の先頭または末尾に追加することができます。要素に複数の単語が含まれている場合は、各単語の先頭にプラス記号 (+) またはマイナス記号 (-) を追加する必要があります。プラス記号 (+) は、その単語がフィールド名に存在する必要があることを示します。マイナス記号 (-) は、その単語がフィールド名に存在できないことを示します。

地理的役割の定義を追加後、WebFOCUS Reporting Server で geo_srv_roles プロシジャを実行し、これらのパラメータが正しく追加されたことを確認します。

例　サンプル地理的役割の定義

次の要素は、州名 (略名) に使用する地理的役割を定義します。地理的役割 ID は USSTATE_ABBR です。地理的役割名は USSTATE、地理的役割フォーマットは ABBR です。[マップ] ダイアログボックスに表示されるタイトルは「米国州 (略名)」です。フォーマットは A2 です。ボキャブラリルールで「state」という文字が存在すること、「iso」、「capital」、「population」という文字が存在しないことが条件に指定されています。地理的役割タイプは geography で、返されるデータが地域であることを示しています。

```
<geo_role
id="USSTATE_ABBR"
 value_size="2"
 type="alpha"
role_name="USSTATE"
role_name_title="US state"
role_format="ABBR"
role_format_title="Abbreviation"
 geo_type="geography">
<vocabulary_rules>
<vocabulary>+%state%-%iso%-%capital%-%population%</vocabulary>
</vocabulary_rules>
</geo_role>
```

次の要素は、緯度値に使用する地理的役割を定義します。地理的役割 ID は LATITUDE です。地理的役割の名前も LATITUDE です。フォーマットは numeric です。[マップ] ダイアログボックスに表示されるタイトルは「緯度」です。地理的役割タイプは coordinate で、返されるデータが点であることを示しています。ボキャブラリルールでは、「latitude」という文字が存在することが条件として指定されています。

```
<geo_role
 id="LATITUDE"
 type="numeric"
 role_name="LATITUDE"
role_name_title="Latitude"
 geo_type="coordinate">
 <vocabulary_rules>
  <vocabulary>%latitude%</vocabulary>
 </vocabulary_rules>
</geo_role>
```

次の要素は、都市名に使用する地理的役割を定義します。地理的役割 ID は CITY です。地理的役割の名前も CITY です。フォーマットは NAME です。[マップ] ダイアログボックスに表示されるタイトルは「市 (名前)」です。この要素には、一連のボキャブラリ要素が定義されています。リスト内の要素のいずれかが true である必要があります。そのため、「city」、「town」、「country と capital」、「state と capital」のいずれかの文字が存在する必要があります。

```
<geo_role
 id="CITY"
type="alpha"
role_name="CITY"
role_name_title="City"
role_format="NAME"
role_format_title="Name"
 geo_type="geography">
 <vocabulary_rules>
  <vocabulary>+%city%-%population%</vocabulary>
  <vocabulary>+%town%-%population%</vocabulary>
  <vocabulary>+%country%+%capital%-%population%</vocabulary>
  <vocabulary>+%state%+%capital%-%population%</vocabulary>
 </vocabulary_rules>
</geo_role>
```

参照　地理的役割の URI の定義

地理的役割を追加後、geo_services.xml ファイルの <URIS> オブジェクトにこの地理的役割の URI を追加する必要があります。構文は次のとおりです。

```
<uri description="description">
   <returned_geometry>type </returned_geometry>
   <returned_georole>role</returned_georole>
   <url type="esri" authorization="auth" synonym="">
         "url_to_georole"
   <parameters>
    <parm order="number" parm_name="pname" parm_georole="parmrole"/>
   </parameters>
  </uri>
```

説明

`"description"`
URI が指定する地理的役割の説明です。

`type`
サポートされているジオメトリタイプのいずれかです (例、GEOMETRY AREA)。

`role`
返される地理的役割の名前です。

`"auth"`
この地理的役割へのアクセスに必要な認証のタイプです。有効な値には、次のものがあります。

- **silent** ArcGIS アプリケーションの認証情報は、ESRI アダプタの接続文字列に記述されています。
- **none** 認可は必要ありません。
- **named** ユーザの認証情報は、ESRI アダプタの接続文字列に記述されています。
- **on premise** ローカルホストの ArcGIS サーバのユーザ認証情報は、ESRI アダプタの接続文字列に記述されています。

`"url_to_georole"`
地理的役割の URL です。

`parm order="number"`
正しい地理的役割の取得に必要なパラメータの番号です。

`parm_name="pname"`
parm order に関連するパラメータの名前です。

`parm_georole="parmrole"`
parm order に関連する地理的役割の名前です。

URI を追加後、Reporting Server で geo_srv_map_uris プロシジャを実行し、これらのパラメータが正しく追加されたことを確認します。

注意：esri_arcgis_rest.xml ファイル内のプロキシ URL リストにベース URL を追加する必要があります。以下はその例です。

```
<ESRI_URL URL="//services7.arcgis.com/L95Wwv9OjRQ0tjAs/ArcGIS"
DESCRIPTION="Custom Data" />
```

Leaflet マップの追加地域の有効化

InfoAssist には、Leaflet マップに使用可能な多数の地域が事前に設定されています。これらは、Leaflet Open Source API から提供される地域です。事前に設定されている地域については、435 ページの 「 デフォルト地域 」 に記載されています。また、これらの地域は、JSON (.json) ファイルに格納されています。

注意：この機能は、Leaflet API を使用して作成されるマップでのみ使用可能です。

事前に設定されている地域を使用する以外に、別の地域を有効にしてカスタムマップの作成に使用することもできます。これらの追加地域は、.json または .csv ファイルに格納されています。

注意：.csv フォーマットのファイルは、緯度および経度のデータ値に使用することができます。このファイルは、正確な地点の指定に使用することも、特定の場所の中心点の指定に使用することもできます。.csv ファイルを使用する際は、csvfields フィールドクラスを使用して緯度と経度の値を指定します。たとえば、「csvfields='country,lat,lng'」と指定します。.csv ファイルには、少なくとも緯度と経度の値を指定する必要があります。また、すべてのフィールドには、一重引用符 (') とカンマ (,) 区切りのフォーマットを使用する必要があります。

GeoJSON フォーマットのロケーションファイルにアクセスできる場合は、GeoJSON ファイルを使用することもできます。詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

- http://geojson.org
- http://converter.mygeodata.eu/vector (GeoJSON への形状ファイル変換)

新しい地域を有効にするには、以下の手順に従って、.json、.csv、.geojson ファイルのいずれかを適切なディレクトリにコピーし、そのファイルを参照するよう CustomUIMaps.xml ファイルを編集します。

手順　Leaflet マップの追加地域を有効にするには

注意：この機能は、Leaflet API を使用して作成されるマップでのみ使用可能です。

1. WebFOCUS に同梱されているロケーションファイルのいずれかを有効にするには、次のディレクトリにインストールされている .json ファイルを特定します。

   drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥webapps¥webfocus¥tdg¥jschart¥distribution¥map

2. 選択した .json ファイルをコピーし、次のディレクトリに保存します。

   drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥config¥web_resource¥map

   注意

   - .geojson または .csv ファイルを使用する場合は、このディレクトリにファイルをコピーします。
   - .json ファイルには複数のレイヤを追加できるため、.json ファイルを使用する場合は、レイヤを定義する必要があります。.geojson ファイルの場合は、レイヤを定義する必要はありません。
   - この例では、.json ファイルで primary layer = regions を設定する必要があります。この設定を確認するには、標準のテキストエディタ (例、Notepad、Textpad) で .json ファイルを開きます。

3. *drive*:¥ibi¥WebFOCUS82¥config¥web_resource¥map ディレクトリ内の CustomUIMaps.xml ファイルをテキストエディタで開きます。
4. 定義する行からコメント記号を削除します。具体的には、コード行の先頭の「<!–」を削除し、末尾の「–>」を削除します。これにより、使用する .json ファイルが有効になります。
5. 有効にする地域ごとに、<Json> タグの内側で次の条件を指定します。

   - **Map file**　.json または .csv ファイルの名前です。たとえば、「uszip3.json」と指定します。
   - **name**　Lightweight Mapping 機能の使用時に [地域] ドロップダウンリストに表示されるラベル (識別名) です。たとえば、「ZIP 3」と指定します。
   - **layer**　ファイルには複数のレイヤを含めることができます (例、目印となる建造物や象徴物のレイヤ)。その場合は、どのレイヤを使用するかを指定する必要があります。以下の例では、「regions」が使用されています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- Copyright 1996-2013 Information Builders, Inc. All rights reserved. -->
<!--$Revision: 1.7 $:-->
<Maps>
    <Json>
<!--    <Map file="zip-Wyoming.json" name="zip-Wyoming" layer='regions'>    </Map>-->
<!--    <Map file="us-state-centroids.csv" name="us-state-centroids"
csvfields='fred,lat,lng'></Map>-->
<!--    <Map file="sample_ggsales_regions.geojson"  name="GGSales Sample Regions">
</Map> -->
<Map file="sample_wfretail_regions.geojson" name="WFRetail Sample Regions"> </Map>
<Map file="uszip3.json" layer='regions' name="Zip 3"></Map>
    </Json>
```

6. CustomUIMaps.xml ファイルを保存します。
7. Applicaion Server を再起動します。

   マップを作成する際に、上記の手順で有効にした地域の名前が [地域] ドロップダウンリストに表示されます。

デフォルト地域

InfoAssist では、多数のデフォルト地域が事前に設定されています。以下はその例です。

- アメリカ合衆国
- 世界
- ヨーロッパ
- アフリカ
- アジア
- オーストラリア
- オーストリア
- デンマーク
- ドイツ
- 日本
- 北アメリカ
- 南アメリカ
- スウェーデン

注意: ローカルインストールディレクトリ下に格納されているマップの完全リストを確認するには、次のディレクトリに移動します。
drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥webapps¥webfocus¥tdg¥jschart¥distribution¥map

10

データの操作

InfoAssist の強力な機能を使用して、データの結合やデータの混合などの操作を実行することができます。現在の環境で追加のデータソースを使用したり、複数のデータソースを統合したりする必要がある場合、このセクションで説明する機能を使用して、データおよびデータソースを操作することができます。

具体的には、現在のデータソースと別のデータソースを結合する操作があります。また、現在のデータソースに別のデータソースのデータを混合する操作もあります。これらの機能を使用して、より大規模な、より多くのカスタムデータセットを作成し、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションの作成に使用することができます。

ここでは、一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE)、データ結合 (JOIN)、データ混合、フィルタオプションなど、データ操作の概念について説明します。

トピックス

- グラフのミッシングデータ
- データソースの追加と切り替え
- データのソース設定
- TIBCO WebFOCUS での一時項目の作成
- データの結合と混合
- フィルタによるデータ表示のカスタマイズ
- 出力フォーマット

グラフのミッシングデータ

グラフを作成する際に、ミッシングデータのオプションを使用して、グラフ上でのミッシング値の表示方法を制御することができます。

注意：レポートを作成する場合、このオプションは使用不可になります。

手順　ミッシングデータのオプションを指定するには

1. １つ以上のメジャーと１つのディメンションで構成されたグラフを作成します。
2. [データ] タブの [表示] グループで、[ミッシングデータ] をクリックします。

3. ドロップダウンメニューから、次のオプションのいずれかを選択します。
   - **間隔あり**　棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフで、ミッシング値を空白部分 (隙間) として表示します。
   - **ゼロ表示**　棒グラフでは、ゼロ線上に棒を表示します。折れ線グラフでは、ミッシング値と後続の値とを接続する実線を表示します。面グラフでは、ゼロ線上に面を表示します。
   - **補間線**　折れ線グラフでは、ミッシング値を、その点の直前と直後の 2 点を接続する補間点線として表示します。棒グラフでは、ミッシング値を補間された棒として表示します。面グラフでは、ミッシング値を面として表示します。

   選択したオプションに基づいてグラフが表示されます。

データソースの追加と切り替え

ドキュメントモードで作業する際に、別のデータソースを追加することができます。複数のデータソースを追加した後、これらのデータソースを切り替えることができます。このオプションは、[データ] タブの [データソース] グループにあります。複数のレポートやグラフが配置されるドキュメントモードでは、アクティブにするレポートとグラフを切り替えることがよくあるため、データソースの切り替え機能が特に役立ちます。

注意：レポートオブジェクトで作業している場合、[データソース] グループは無効になります。

手順　データソースを追加して切り替えるには

1. InfoAssist をドキュメントモードで開きます。
2. レポートまたはグラフを追加します。
3. [データ] タブの [データソース] グループで、[追加] をクリックします。
4. [開く] ダイアログボックスでマスターファイルを選択し、[開く] をクリックします。

   このオプションを使用すると、ドキュメントに別のデータソースを追加できるため、同一ドキュメントにさまざまなデータソースをベースにした複数のレポートを挿入することができます。リソースパネルがリフレッシュされ、追加したデータソースが表示されます。
5. [切り替え] をクリックし、利用可能なデータソースのいずれかを選択します。

このオプションをクリックするとドロップダウンリストが開き、追加されているデータソースがすべて表示されます。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。また、別の方法として、現在アクティブのデータソースと異なるデータソースを使用するレポートを選択することでデータソースを切り替えることもできます。リソースパネルには、選択したデータソースの構造が反映されます。

データのソース設定

データをプレビュー表示する際に、サンプルデータを表示することも、選択したデータソースの実データを表示することもできます。また、データソースから取得する実データの件数を設定して、[ライブプレビュー] デザインビューに表示するデータを制限することもできます。

注意：[ライブプレビュー] デザインビューでは、割り当て済みの領域内に表示が収まらないフィールドの横に警告アイコンが表示されます。割り当てられる領域のサイズは、ページレベルのスタイル設定で決定されます。ページレベルのスタイル設定には、ページサイズ、ページの方向、マージン、フォントサイズがあります。

ページ上に表示される (領域に収まる) コンテンツの範囲は、使用されているフォントおよびフォントサイズに応じて異なります。また、ページ上に表示されるコンテンツの範囲は、マージン、間隔、ページ要素 (例、見出し、脚注) によっても影響されます。

手順　データのソースを設定するには

1. 使用可能なマスターファイル (.mas) のデータを使用して、レポート、グラフ、ドキュメントのいずれかを作成します。
2. [ホーム] タブの [デザイン] グループで、[サンプルデータ] をクリックします。

   レポートまたはグラフにサンプルデータが表示されます。この場合、実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
3. [ライブデータ] をクリックして、最初に選択したデータソースを使用します。

   この場合、選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
4. 必要に応じて、データソースから取得する実データの件数を設定して、[ライブプレビュー] デザインビューに表示するデータを制限することもできます。[件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済み件数のいずれかを選択します。デフォルト値は [500] ですが、設定済み件数として、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] があります。

注意：大規模なデータを扱う場合、この機能を使用するとレスポンス時間が短縮されます。

TIBCO WebFOCUS での一時項目の作成

一時項目とは、その値自体はデータソースに保存されていないが、既存のデータから計算を行ったり、絶対値を割り当てたりできるフィールドです。一時項目には保存場所は不要です。保存場所は必要に応じて作成されます。一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) は、それぞれ異なるタイプの一時フィールドです。

一時項目を作成する場合、式を記述してその値を生成します。1 つの値を生成するために、式にはフィールド、定数、演算子を組み合わせて使用することができます。たとえば、給与額および控除額で構成されるデータがある場合、次の式を使用して給与額に対する控除の割合を計算することができます。

deduction / salary

ユーザが独自に式を指定することもできますが、特定の計算や操作を行うために用意されたさまざまな関数の中から必要なものを選択することもできます。さらに、単純な式および関数を構成要素としてさらに複雑な式を作成したり、特定の一時項目を使用してその他の一時項目の評価を行ったりすることも可能です。

注意：一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成する場合、[フィールド] テキストボックスに以下の文字を入力することはできません。入力した場合、その文字は除外されます。
ブランク ! " # $ & ' ( ) * + , / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { | } ~

一時項目の選択

次の説明を参考にして、一時項目のタイプを選択します。

- **一時項目 (DEFINE)** 次の場合にこのタイプを選択します。
  - 一時項目 (DEFINE) を使用してレポートに表示するデータを選択する。この場合、一時項目 (COMPUTE) を使用することはできません。一時項目 (COMPUTE) では、データが選択された後でデータの評価が行われるためです。
  - 一時項目を使用してデータ値をソートする。一時項目 (COMPUTE) では、データがソートされた後にデータの評価が行われます。BY TOTAL 句を使用すると、このタイプのフィールドでソートを行うことができます。

- **一時項目 (COMPUTE)** 次の場合にこのタイプを選択します。
  - 合計値または演算接頭語 (合計値の演算を行う) を使用して一時項目を評価する。この場合、一時項目 (DEFINE) を使用することはできません。一時項目 (DEFINE) では、合計が計算される前に評価が行われるためです。
  - データ構造内の異なるパスに存在するフィールドを使用して一時項目を評価する。この場合、一時項目 (DEFINE) を使用することはできません。一時項目 (DEFINE) では、異なるパスのデータ間で関係が確立される前に評価が行われるためです。

一時項目 (DEFINE)

一時項目 (DEFINE) は、選択条件に一致するレコードをデータソースから取得する際に評価されます。式の結果は、データソースに実際に保存されている実フィールドのように扱われます。

一時項目 (DEFINE) の値を決定する計算は、実フィールドにおいて選別条件を満たすレコードが取得されてから、その各レコードで実行されます。

一時項目 (DEFINE) は、次の方法で定義することができます。

- **マスターファイル** この一時項目 (DEFINE) は、レポートの作成にデータソースが使用されている限り、常に使用することができます。この一時項目 (DEFINE) は、JOIN または DEFINE FILE コマンドでクリアすることはできません。
- **プロシジャで定義** プロシジャで作成された一時項目 (DEFINE) は、そのプロシジャでのみ持続します。

オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。

複数のデータソースを使用する必要がある場合は、マスターファイルで定義したフィールドに加えて、これらの複数データソースのフィールドを同時に定義することができます。すべての一時項目 (DEFINE) と実フィールドを合計した長さは、32,000 バイトを超えることはできません。

[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。

下図は、[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを示しています。



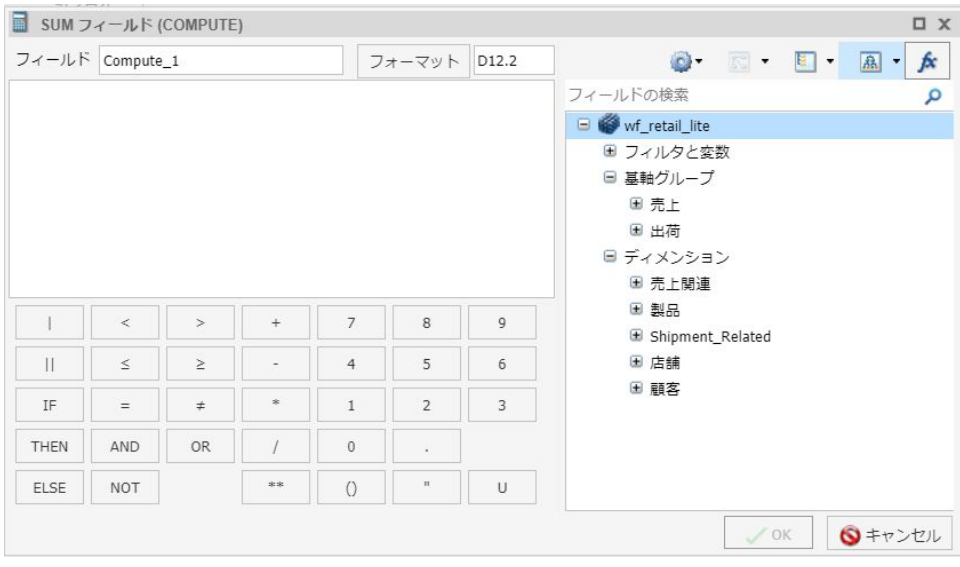
一時項目 (COMPUTE)

一時項目 (COMPUTE) は、選択条件に一致するすべてのデータが検索、ソート、集計された後で評価されます。その結果、この計算はフィールドの集計値を使用して実行されます。一時項目 (COMPUTE) は、指定したリクエストでのみ使用することができます。COMPUTE コマンドは、リクエストの本文で指定します。表示コマンドの後には、オプションとして AND を指定します。1 つの COMPUTE コマンドで複数フィールドの計算を行うことができます。

[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (COMPUTE) を作成することができます。

また、[関数] ボタン をクリックして、フィールドリストの代わりに関数リストを表示することもできます。

下図は、[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを示しています。



一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) でのフィールドタイトルの使用

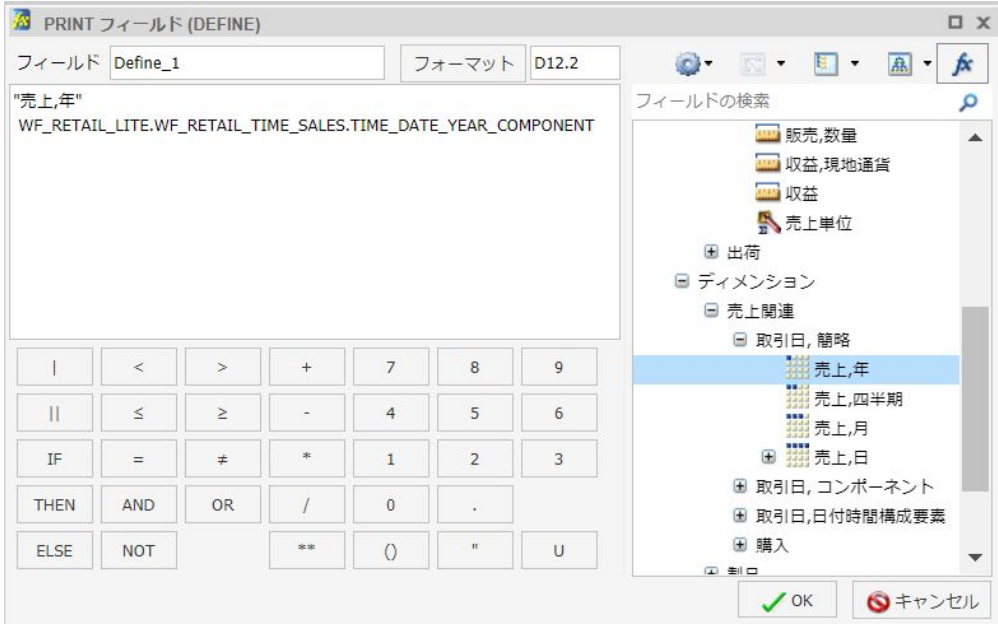
一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) の作成時に、DEFINE または COMPUTE の式を入力するテキストエリアにフィールドタイトルが自動的に表示されます。

フィールドタイトルは、フィールド属性の 1 つです。フィールドタイトルはメタデータで定義され、選択したフィールドをフィールドタイトルで表示するよう指定した場合にのみ表示されます。メタデータでフィールドタイトルが定義されていない場合、表示されるタイトルは物理フィールド名になります。

[フィールドタイトルの使用] 機能を使用すると、フィールドの完全修飾名 (例、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_SALES.COGS_US) ではなく、フィールドタイトル (例、売上原価) を表示することができます。これにより、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) の作成時にフィールドの識別が容易になります。フィールドタイトルの表示から完全修飾フィールド名の表示に切り替えるには、下図のように [その他のオプション] をクリックし、[フィールドタイトルの使用] のチェックをオフにします。



作成した一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) で、複数のフィールドに同一タイトルを使用した場合 (例、[売上年])、1 つ目のフィールドのみがフィールドタイトルを使用して追加されます。それ以外は、フィールドの完全修飾名が使用されます。たとえば、InfoAssist のサンプルデータソースで、[売上年] は、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_YEAR と WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE_YEAR_COMPONENT の 2 つの一意のフィールドに対するフィールドタイトルとして表示されます。この場合、WF_RETAIL_LITE.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_YEAR のみが [売上年] のフィールドタイトルを使用して表示されます。もう一方のフィールドは、下図のように、完全修飾名を使用して表示されます。



注意: 一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) のコードを含むプロシジャを確認する場合、フィールド名は常に完全修飾名で表示されます。フィールドタイトルでは表示されません。

手順　一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) でフィールドタイトルを使用するには

1. レポートまたはグラフモードで、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成します。
2. メタデータツリーでこれらをダブルクリックしてフィールドを追加します。

注意：選択したフィールドはフィールドタイトルで表示されます。これがデフォルト設定のオプションです。指定したフィールドのフィールドタイトルが別のフィールドのフィールドタイトルと重複する場合、2 つ目以降のインスタンスには完全修飾フィールド名が使用されます。

3. [その他のオプション]、[フィールドタイトルの使用] を順にクリックして、フィールドタイトルの使用を無効にすると、フィールド名が完全修飾名で表示されます。

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスでのテキストエリアの幅の調整

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) を作成する際のダイアログボックスで、クエリに使用するフィールド名の長さに合わせてテキストエリアの幅を調整することができます。これは、完全修飾名や長い数式を使用し、標準のテキストエリアの幅に収まらない場合に特に役立ちます。

下図のように、初期状態のテキストエリアは、演算ボタンエリアと同一の幅で表示されます。



テキストエリアを完全に拡張すると、表示されていたメタデータツリーとツールバーが非表示になります。



手順　一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) ダイアログボックスのテキストエリアの幅を調整するには

1. InfoAssist をレポートモードまたはグラフモードで開きます。
2. マスターファイルを選択します。
3. [データ] タブで、[一時項目 (DEFINE)] または [一時項目 (COMPUTE)] をクリックします。

   [一時項目 (DEFINE)] または [一時項目 (COMPUTE)] が表示されます。
4. テキストエリア右端の境界上にマウスポインタを置くと、両矢印が表示されます。
5. 両矢印をクリックして右側にドラッグします。

   テキストエリアの幅が調整されます。

   注意

   - 現在のセッションでテキストエリアを拡張すると、InfoAssist によって拡張された状態が保持され、アプリケーションの他のエリアでも使用されます。たとえば、一時項目 (DEFINE) の作成時にテキストエリアを拡張した場合、一時項目 (COMPUTE) の作成時にもテキストエリアが拡張された状態で表示されます。

- 拡張された状態でテキストエリアを使用する場合、テキストエリア右端の境界上にマウスポインタを置き、両矢印が表示されると、メタデータツリーおよびツールバーを元の状態に戻すことができます。ここで矢印をクリックし、必要に応じて左右にドラッグします。

マスターファイルから独立した一時項目の作成

DEFINE および COMPUTE コマンドで作成する一時項目は、特定のマスターファイルに関連付けられます。また、COMPUTE コマンドで計算した値は、特定のリクエストに関連付けられます。ただし、DEFINE FUNCTION コマンドを使用すると、マスターファイル、リクエストのどちらからも独立した一時項目を作成することができます。

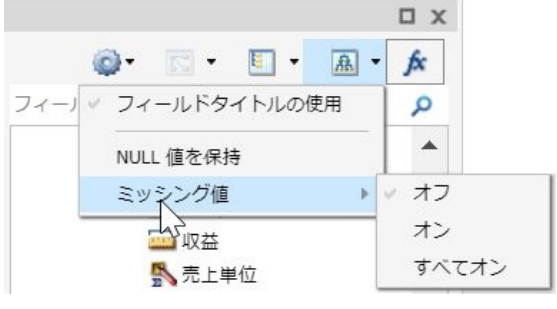
DEFINE 関数は、複数の計算で構成された名前付きのグループで、任意の数の入力値を使用して値を返します。DEFINE 関数を呼び出す場合は、最初にその関数を定義しておく必要があります。

DEFINE 関数は、WebFOCUS に付属の関数を使用できる状況のほとんどで呼び出すことができます。データタイプは、それぞれの引数と併せて定義します。引数の値を変更する場合は、そのフォーマットを定義済みのフォーマットと一致させる必要があります。文字の引数が指定フォーマットより短い場合は、ブランクが追加されます。また、文字の引数が長い場合は、末尾が省略されます。

関数内のすべての計算は、倍精度で実行されます。フォーマットを変換するには、一時項目を定義する割り当て内で等号 (=) を使用します。

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) のミッシング値表示の有効化

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) を作成する際に、[ミッシング値] オプションを使用して、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) のミッシング値を表示するかどうかを制御することができます。これにより、レポート、グラフ、ビジュアライゼーションでミッシング値を正確に表示することができます。[ミッシング値] オプションにアクセスするには、下図のように [その他のオプション] ボタンをクリックします。



以下は、[ミッシング値] ドロップダウンリストの各オプションについての説明です。

- **オフ** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義から MISSING 構文が削除されます。これがデフォルト値です。MISSING は、数値フィールドの場合はミッシング値を 0 (ゼロ) として処理し、文字フィールドの場合はミッシング値をブランクとして処理します。
- **オン** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義で指定されたフォーマットの後に「MISSING ON」が追加されます。MISSING ON は、一時項目をミッシング値として解釈します。
- **すべてオン** このオプションを選択すると、DEFINE または COMPUTE フィールド定義で指定されたフォーマットの後に「MISSING ON ALL」が追加されます。MISSING ON ALL は、式で指定されたフィールドすべてに値が存在する場合、一時項目に値が存在すると解釈します。式で指定されたフィールドの少なくとも 1 つにミッシング値が存在する場合にも、一時項目にミッシング値があると解釈します。

データの結合と混合

複数の関連するデータソースを結合して大規模な統合データ構造を作成し、そのデータ構造から単一リクエストでレポートを作成することができます。この結合 (JOIN) は仮想構造です。結合された複数のデータソースには、単一データソースのようにアクセスすることができます。その結果、レポートやグラフの作成に使用可能なフィールド数が増大するため、作成するコンテンツの拡張性が向上します。

JOIN

条件付き JOIN を使用すると、フィールド間の等価性とは別の条件に基づいて JOIN を設定することができます。さらに、ホストおよびクロスリファレンス JOIN フィールドに同一フォーマットを含めたり、クロスリファレンスフィールドにインデックスを付ける必要がなくなります。

注意：[JOIN] ダイアログボックスの [編集] をクリックし、[説明] セクションに説明を入力することで、JOIN の説明を編集することができます。この説明には、文字、数字、アンダースコア (_) のみを使用できます。特殊文字を使用することはできません。

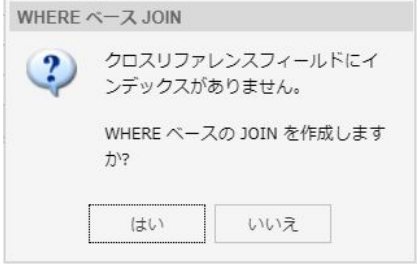
条件付き JOIN は、TIBCO FOCUS およびすべてのリレーショナルデータアダプタでサポートされます。各データソースは複雑な条件の処理能力において異なるため、WHERE 構文の最適化は JOIN に関わる特定データソースおよび条件の複雑さにより異なります。

FOCUS データソースでは、ホスト JOIN フィールドとクロスリファレンス JOIN フィールドに共通するフォーマットがない場合、次のメッセージが表示されます。



注意：[はい] をクリックすると、[フィルタの作成] ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

クロスリファレンス JOIN フィールドにインデックスがない場合、次のメッセージが表示されます。



注意：[はい] をクリックすると、[フィルタの作成] ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

WHERE ベースの JOIN を作成するには、フィルタ条件を作成します。

データの混合

[混合] オプションを使用すると､JOIN に含めるデータフィールドを明示的に選択することができます。具体的には、複数のマルチファクトデータ構造を結合したり、関連する外部データを現在のデータソースに統合したりすることで､混合されたデータリソースを作成することができます。混合するデータは、ローカルリソースから選択することも、他のシステムリソースから選択することも可能です。

カスタムデータソースを作成するには、[混合] オプションを使用します。たとえば、現在のデータソースから一部の基本フィールドを使用し、さらに [混合] オプションを使用して関連するデータフィールドを別のデータソースから追加することで、独自のデータセットを作成することができます。

[混合] オプションを使用すると、新しいファクトテーブルを、既存の子セグメントの親セグメントとしてクラスタマスターに追加することができます。このオプションは、[JOIN] ダイアログボックスに表示されます。データを混合する例として、共通のディメンション (例、製品ディメンション) を共有する 2 つのファクトテーブルからレポートを作成する場合があります。この例は、wf_retail_lite サンプルデータベースで確認することができます。wf_retail_lite マスターファイルには、WF_RETAIL_STORE_SALES セグメントと WF_RETAIL_SALES セグメントが格納されています。WF_RETAIL_SALES セグメントは、WF_RETAIL_STORE_SALES セグメントの親として定義されています。次の例では、2 つ目のファクトテーブルをレポートに追加します。この例では、2 つ目のファクトテーブルは、InfoAssist にアップロードしてレポートまたはグラフの作成に使用する Excel スプレッドシートです。アップロードするスプレッドシートファイルのデータは、共通フィールドに基づいて wf_retail_lite データベースに結合されます。

注意：[データ] ウィンドウの検索機能を使用して、選択したデータベース (例、wf_retail_lite) で共通フィールドを検索することができます。必要に応じて、アップロードするデータをデータベース構造にマッピングするために、スプレッドシートにフィールドを追加することもできます。たとえば、ID_CUSTOMER フィールドを追加します。Microsoft Excel ファイルの最初のシート名が新しいデータソース名になるため、ファイルには適切な名前を使用する必要があります。

[混合] オプションに適用される一般的な規則は次のとおりです。

1. データを混合した結果、単一のディメンションが 2 つのファクトテーブルで共有されます。テーブルは、少なくとも 2 つのセグメントで構成されたクラスタに基づく必要があります。1 つ目のセグメントはファクトテーブル 1 として使用され、2 つ目のセグメントはディメンションとして使用されます。
2. アップロードした 2 つのファイルを混合することはできません。これは、これらのファイルから単一セグメントのマスターファイルが作成されるためです。
3. 混合されたテーブルのフィールドをソートフィールドとして使用しないでください。これは、別のファクトテーブルのフィールドとともに使用する際に、これらのフィールドに共通フィールドが存在しなくなるためです。

手順　データを混合するには

次の手順では、外部データソースのデータを既存のデータソースに混合する方法を説明します。この例では、Microsoft Excel スプレッドシートファイルを使用します。

1. [データ] タブの [JOIN] グループで、[JOIN] をクリックします。

   [JOIN] ダイアログボックスが表示されます。

2. [追加] をクリックします。

   [開く] ダイアログボックスが表示されます。

   注意：[開く] ダイアログボックスに表示されるオプションは、ユーザ権限に応じて異なります。

3. [開く] ダイアログボックスの上部で [データのアップロード] をクリックします。

   アップロードウィザードが開きます。

4. Microsoft Excel スプレッドシートファイルを [アップロード] ウィンドウにドラッグするか、[アップロードするファイルの選択] をクリックしてローカルドライブ上のファイルを選択します。

   アップロードウィザードの次の画面が開きます。ファイルをターゲット環境にアップロードする前に、この画面の各種オプションを使用して、スプレッドシートや区切りデータファイルをプレビュー表示し、変更を加えることができます。この画面には、デフォルト設定でデータがメジャー、ディメンション、階層に分解された結果が表示されます。

5. リボンの [ロードして次へ] をクリックします。

   [ターゲットロードオプション] ダイアログボックスが開きます。

   注意：デフォルト設定では、[バルクロード] のチェックはオンです。ターゲット環境をサポートするバルクロードプログラムが存在しない場合は、このチェックをオフにします。たとえば、Microsoft SQL Server を使用している場合は、Bulk Copy Program (BCP) を使用することができます。バルクロードプログラムがインストールされているかどうかが不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

6. [ロードに進む] をクリックします。

   アップロードウィザードが閉じ、[開く] ダイアログボックスに戻ります。

   注意：情報メッセージがある場合、またはアップロードに失敗した場合は、[ステータス] 画面が開きます。

7. [開く] ダイアログボックスで、アップロードしたデータソース名を選択し、[開く] をクリックします。

8. [JOIN] ダイアログボックスで、マスターファイル内のフィールドをドラッグし、新しくアップロードしたファイルの共通フィールドにドロップして、これらの共通フィールドを接続する線を作成します。
9. [混合] をクリックし、[OK] をクリックします。

   混合されたフィールドが [データ] ウィンドウで使用可能になります。

フィルタによるデータ表示のカスタマイズ

フィルタを使用して、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションのデータ表示をカスタマイズすることができます。フィルタは、着目するデータのみを表示したい場合に役立ちます。

レポートを作成する際に、リクエストのさまざまな箇所でフィールドを参照します。たとえば、表示コマンド (PRINT、SUM)、ソート句 (BY、ACROSS)、選択条件 (WHERE、WHERE TOTAL、IF) でフィールドを参照します。

注意：ESSBASE 階層データソースを使用する場合、ソートフィールドに対してフィルタを作成することはできません。

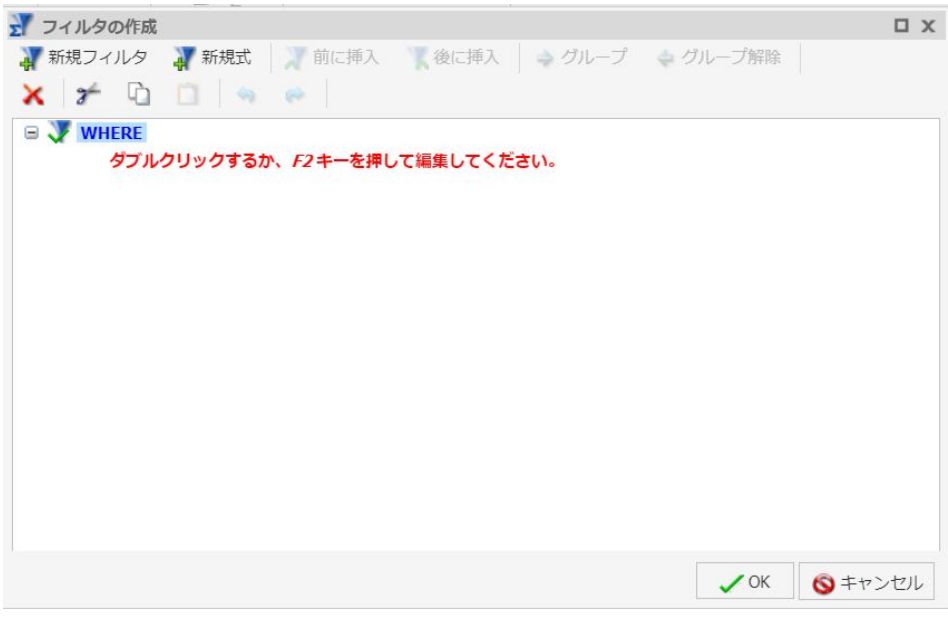
WHERE 句を使用して、レポートに表示するレコードをデータソースから選択します。選択条件に基づいてデータが評価され、データがデータソースから取得されます。選択条件の定義には、必要な数の WHERE 句を任意に使用することができます。

逆に、WHERE TOTAL テストでは、すべてのデータが取得、処理された後でそのデータが選択されます。

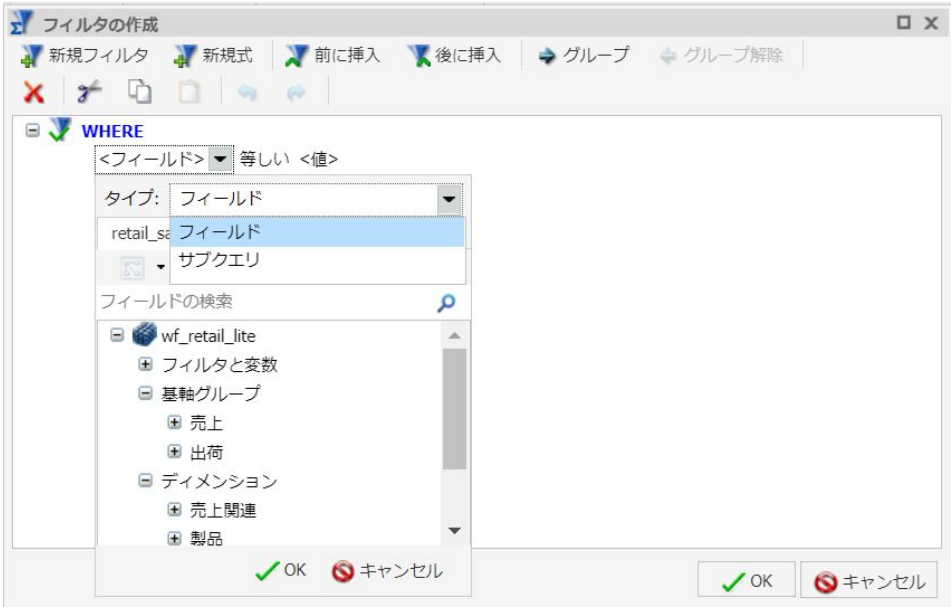
フィルタ条件内では、条件と式をグループ化することができます。また、条件内で関数や演算を適用することもできます。フィルタオプションについての詳細は、44 ページの「 フィールドタブ 」 を参照してください。

[フィルタの作成] ダイアログボックスで [WHERE] をクリックすると、WHERE 条件および WHERE TOTAL 条件によるフィルタを作成することができます。

[ダブルクリックするか、F2 キーを押して編集してください] をダブルクリックすると、2 つ目の図のように、[フィールド]、[演算子]、[値] ドロップダウンリストが表示されます。

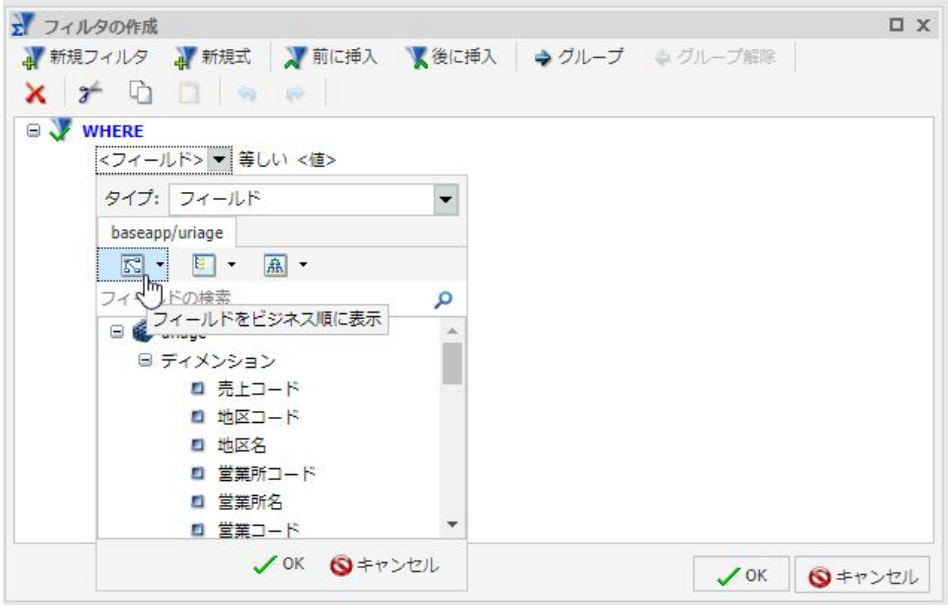


フィールドと値は、マスターファイルおよびデータソース、サブクエリは HOLD ファイルから取得することができます。

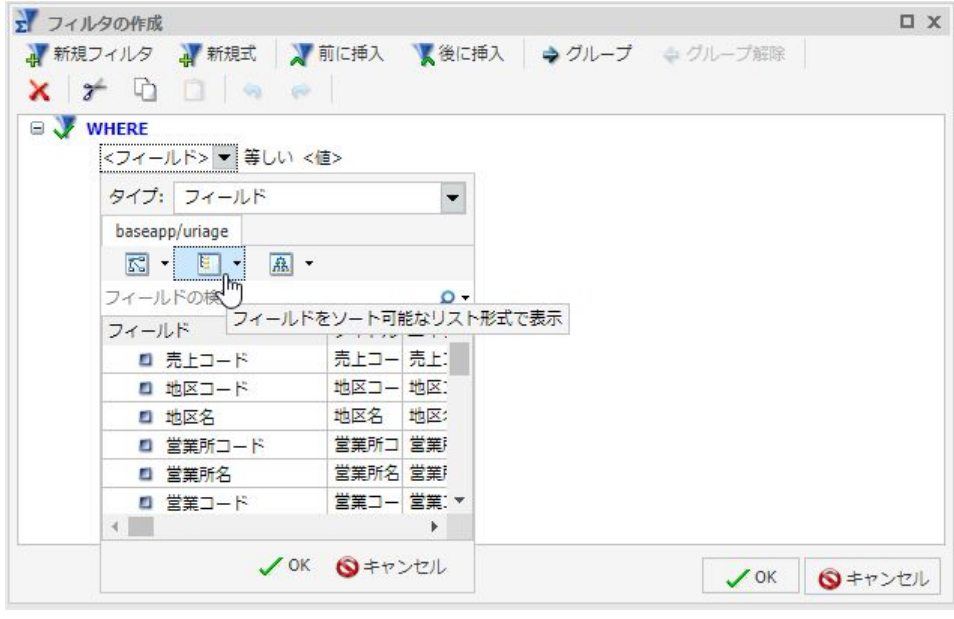


[フィールド] ドロップダウンリストには、マスターファイルのフィールドリストが表示されます。フィールドリストには、次の表示方法があります。

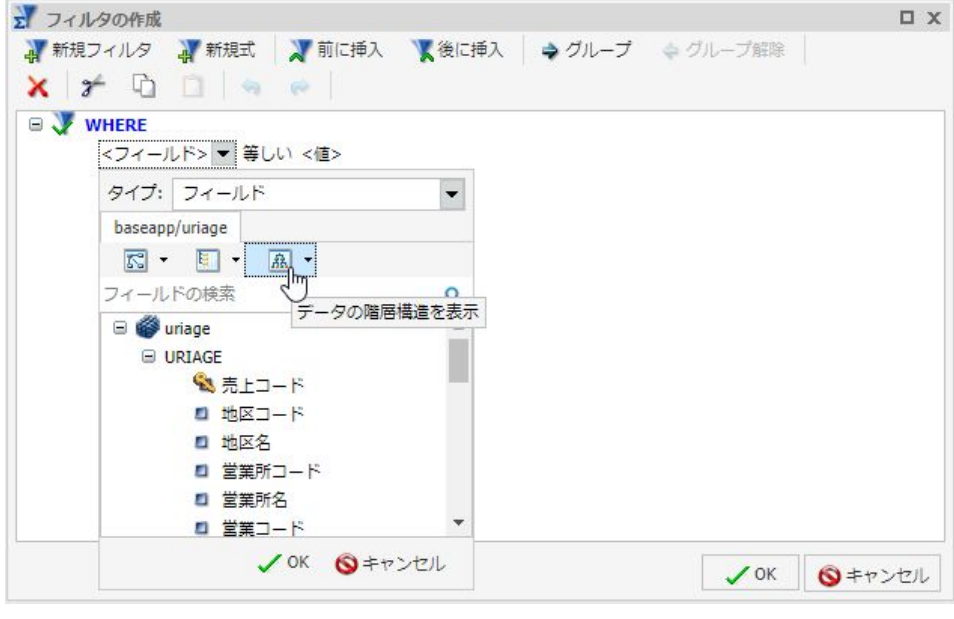
- ビジネス順 (デフォルト設定)



- ソート可能なリスト形式

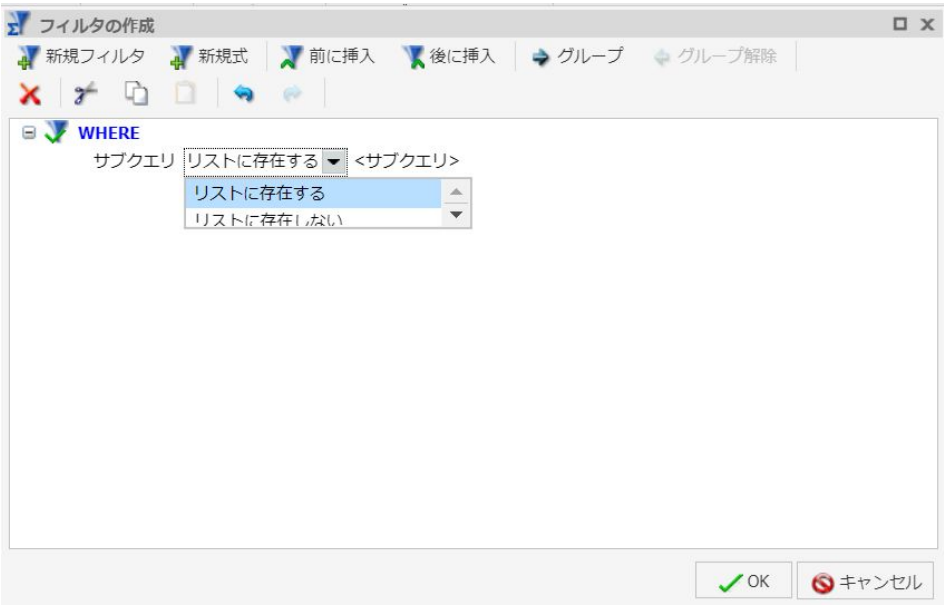


- データの階層構造



- 下図のように、[サブクエリ] を選択すると、[演算子] ドロップダウンリストが [リストに存

在する] または [リストに存在しない] オプションを選択するメニューに切り替わります。



注意：レポートオブジェクトからレポートを作成する場合、[フィルタの作成] ダイアログボックスで [サブクエリ] オプションを使用することはできません。

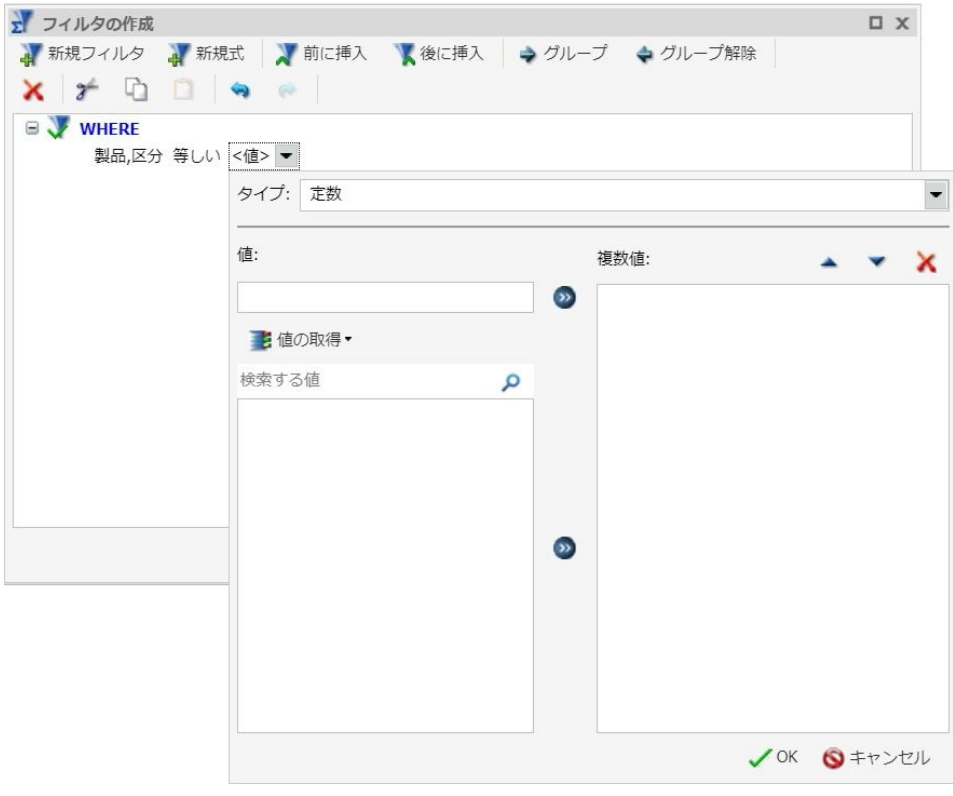
- **リストに存在する**　式の右端のドロップダウンリストを有効にします。このドロップダウンリストには、使用中のマスターファイルから作成されたすべてのサブクエリの一覧が表示されます。

  [既存] をクリックすると、[開く] ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

- **リストに存在しない**　[開く] ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

[演算子] (デフォルト) ドロップダウンリストには、フィルタに使用可能な演算子のリストが表示されます。たとえば、[等しい] を選択します。

下図のように、[値] ドロップダウンリストで、複数のオプションを提供するダイアログボックスを開くことができます。



注意：完全な日付フォーマットのフィールドでフィルタを作成する場合は、[値] テキストボックスの横にカレンダーが表示されます。このアイコンを使用して、カレンダーコントロールから日付を選択することができます。

[タイプ] ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

- **定数**　リテラル値を入力することができます。正の値、負の値、任意の文字列を入力できます。
- **パラメータ**　テキストボックスに名前と説明を入力してパラメータを指定し、パラメータのタイプとして [実行時に入力]、[静的]、[動的] のいずれかを選択することができます。

  [実行時に入力] パラメータを指定してフィルタを作成すると、デフォルト設定で、このプロシジャ (.fex) 内の実行時入力パラメータを定義する行の末尾に「QUOTEDSTRING」が挿入されます。この場合、この値が挿入されたプロシジャ (.fex) を実行した際に、実行時入力パラメータに対して複数の値を入力できなくなります。

また、[オプション] を選択して、このパラメータをオプションパラメータ (必要に応じて使用されるパラメータ) として設定することもできます。この場合、デフォルト値の「_FOC_NULL」が追加され、このパラメータがプロシジャから除外されます。さらに、[オプション] を選択すると、プロシジャ内でパラメータプロンプト機能が無効になります。そのため、レポートにオプションパラメータが含まれている場合、パラメータプロンプトが表示されずにレポートが実行されます。ただし、別のレポートからこのレポートにドリルダウンした場合はパラメータが受容され、そのパラメータ値でレポートが実行されます。[オプション] チェックボックスは、主として別のレポートがこのレポートにドリルダウンし、このレポートにパラメータを渡す場合に使用します。詳細は、374 ページの 「 マルチドリルダウンの使用 」および 365 ページの「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」 を参照してください。

[フィルタの作成] ダイアログボックスで WHERE 句を定義する際に、実行時に入力するパラメータ、静的なパラメータ、動的なパラメータを作成することができます。これらのパラメータ値はローカル変数に変換され、データのコンテキストまたはユーザの選択によってレポートのコンテンツ実行時に定義することができます。また、このパラメータ (変数) の適用範囲をローカルからグローバルに変更することで、ページまたはドキュメントの複数コンポーネントで値を使用できるようにすることができます。パラメータ (変数) の適用範囲をグローバルに変換するには、パラメータ名フィールドの先頭文字にアンパサンド (&) を 1 つ追加します。

注意：アンパサンド記号 (&) は、パラメータの適用範囲を定義するパラメータ名の先頭文字にのみ入力できます。それ以外の文字位置ではパラメータのフィールド名にアンパサンド記号 (&) を含めることはできません。

パラメータの説明は、パラメータプロンプトの定義に使用されます。説明には、任意の位置にブランクを挿入することができます。先頭文字を一重引用符 (') にすることはできません。また、アンパサンド (&)、ピリオド (.)、セミコロン (;)、括弧 ( ) もパラメータのプロンプトに使用することはできません。

下図は、パラメータのオプションを示しています。



- **フィールド**　比較するフィールド名を指定することができます。

通常、[値] エリアにはテキストボックスが表示され、値を直接入力することができます。ただし、日付フィールドを使用する場合は、[値] テキストボックスが [今日] に設定されます。必要に応じて、[月の開始]、[月の終了]、[四半期の開始]、[四半期の終了]、[年の開始]、[年の終了] のいずれかを選択することも、[カスタム日付] を選択してカレンダーから特定の日付を指定することもできます。

注意：デフォルト日付の [今日] は、レポートモード、グラフモード、ドキュメントモードにのみ適用されます。

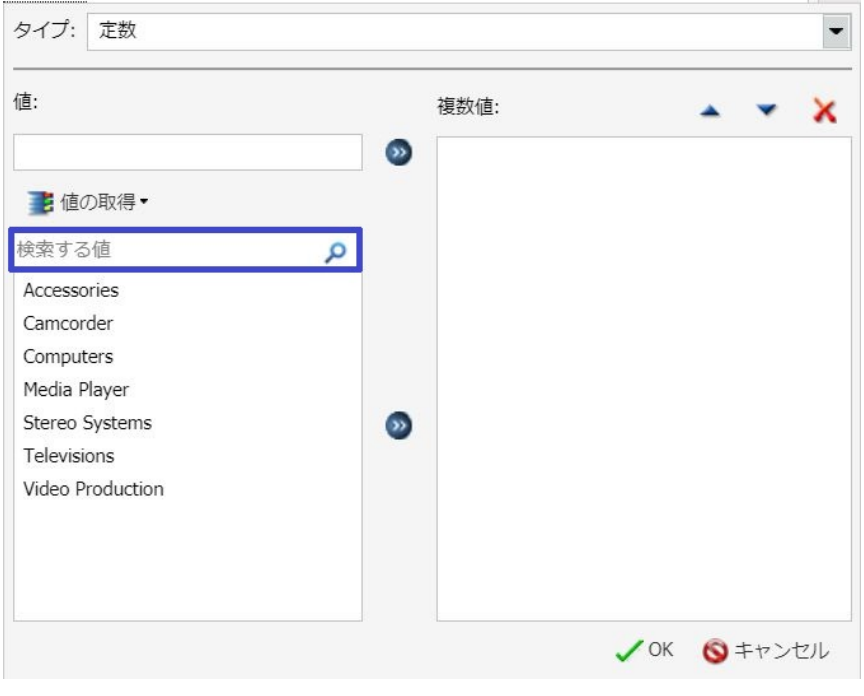
また、[値] エリアの [値の取得] ドロップダウンリストには、次のオプションが表示されます。

- **すべて**　選択したフィールドの値をすべて取得します。
- **最初**　選択したフィールドの最初の値を取得します。
- **最後**　選択したフィールドの最後の値を取得します。
- **最小**　選択したフィールドの最小値を取得します。
- **最大**　選択したフィールドの最大値を取得します。
- **ファイルから**　指定された値を取得します。このオプションを選択すると、[ファイルから選択] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで、ローカルファイルを選択し、ファイルフォーマットを指定することができます (例、Flat File (CSV)、Excel スプレッドシート (XLS、XLSX))。

数値データの値は、Flat File または CSV から使用可能なフィルタ値に整数としてインポートされます。このインポートでは、マイナス記号 (-)、数字、小数点を含む数値がサポートされます。通貨記号またはカンマ (,) を含む数値はインポートされますが、[フィルタの作成] ダイアログボックスの [値] テキストボックスの表示では正しく解釈されない可能性があります。複雑なフォーマット設定が必要な値を含むテキストファイルまたは CSV ファイルは、Excel の適切なフォーマット設定で開いたり保存したりできます。その後、この Excel ファイルは、フォーマット設定を保持したままインポートすることができます。

注意：[値の取得] ドロップダウンリストを使用するには、最初にフィールドを選択しておく必要があります。

[値の取得] オプションのいずれかを使用して値を取得した後、[検索する値] テキストボックスを使用してリスト内のレコードをすばやく特定することができます。たとえば、「S」と入力すると、「S」で始まるレコードのみがリストに表示されます。この機能は、先行入力検索とも呼ばれ、選択する値の位置に直接移動できるため、値の特定が容易になります。アスタリスク (*) などのワイルドカードもサポートされます。下図は、[検索する値] テキストボックスを示しています。



目的の値を選択後、左右の矢印を使用して、その値を [複数値] エリアに追加したり、[複数値] エリアから削除したりできます。上下の矢印で値の順序を変更することや、削除アイコンで値を削除することもできます。

条件の作成後、[フィルタの作成] のダイアログボックス上部の [前に挿入] ボタンと [後に挿入] ボタンを使用して、作成した条件の前後に条件を追加することができます。[AND] または [OR] 接続詞を使用して条件を結合することや、[グループ] ボタンおよび [グループ解除] ボタンを使用して条件をネスト、整理することができます。

また、[新規式] ボタンをクリックして、フィルタに式を追加することもできます。このボタンをクリックすると、新しい WHERE 句が追加され、式を動的に作成することができます。

[フィルタの作成] ダイアログボックス上部の [新規フィルタ] ボタンをクリックして、新しいフィルタを作成することもできます。

フィルタの作成後、[OK] をクリックしてフィルタを保存、適用します。これらにアクセスするには、リソースパネルの [フィルタ] パネルを使用します。

注意：ライブプレビューに表示される日付には、データソースで指定されたフォーマットが反映されます。ただし、日付フォーマットのフィールドにフィルタが適用されている場合、[フィルタ] ウィンドウに表示される日付のフォーマットはロケールから取得されます。レポート、グラフ、ビジュアライゼーションを実行した際は、データソースで指定されたフォーマットが出力結果およびプロンプトに反映されます。

フィルタの設定および解除

フィルタを作成した後、状況に応じてレポートにフィルタを適用するかどうかを決定することができます。たとえば、複数のフィルタを作成した後、一方のフィルタは適用するが、他方のフィルタは適用しないよう設定したい場合があります。[ホーム] タブまたは [フィールド] タブの [フィルタ] グループの [条件の設定] および [条件の解除] オプションを使用して、フィルタを適用するかどうかを設定することができます。

フィルタを適用するかどうかを決定するには、次のオプションを使用します。

- **条件の解除**　レポートからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
- **条件の設定**　レポートから除外されたフィルタを元に戻します。

プロンプト機能による実行時のフィールド情報の選択

プロンプト機能を使用して、実行時に値を指定するオートプロンプトパラメータを作成することができます。この機能は、[フィールド] タブの [フィルタ] グループにあります。

オートプロンプトパラメータを作成するには、次の手順を実行します。

1. レポート内でパラメータを作成するフィールドを選択します。
2. [フィールド] タブの [フィルタ] グループで、[フィルタ] をクリックします。

   [フィルタの作成] ダイアログボックスが表示されます。
3. [値] フィールドをダブルクリックします。

   注意：プロンプトを定義する際は、デフォルト設定で [パラメータ] が選択されています。

   次のオプションのいずれかを選択します。

   - **実行時に入力**　テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。
   - **静的**　値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。
   - **動的**　データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。

   注意：必要に応じて [オプション] を選択し、選択した値 ([実行時に入力]、[静的]、[動的]) がオプションであることを指定します。
4. [OK] をクリックし、[OK] を再度クリックして [フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

   レポートを実行すると、作成したパラメータに基づいて情報の入力または選択を要求するプロンプトが表示されます。

出力フォーマット

[ホーム] タブの [フォーマット] グループで出力フォーマットを変更することができます。

- **現在の出力フォーマット**　ドロップダウンメニューが開き、サポートされている出力フォーマットがすべて表示されます。
  - PNG (グラフでのみ使用可能)、HTML (グラフおよびレポートのデフォルト)
  - HTML5 (グラフでのみ使用可能)
  - Analytic Document (ドキュメントのデフォルト)
  - PDF
  - Analytic PDF

- Excel (XLSX) ([ライブプレビュー] および [クエリ] デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- Excel Formula (XLSX) ([ライブプレビュー] および [クエリ] デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- Excel (CSV)

  注意：WebFOCUS 管理コンソールの [InfoAssist のプロパティ] セクションで、Excel 関連の出力フォーマットをリストに表示するかどうかを制御することができます。
- PowerPoint (PPTX)

レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、キャンバス右下のステータスバーの [出力フォーマット] メニューから選択することもできます。

注意：InfoAssist Basic を実行する場合、出力フォーマットのオプションは制限されます。グラフおよびレポートでは、PowerPoint および Analytic PDF はサポートされません。グラフでは、PDF、Excel、Analytic Document はサポートされません。

- **レポートまたはグラフ**　InfoAssist で使用する機能を、レポートに特化した機能にするか、グラフに特化した機能するかを決定します。InfoAssist の各セッションで作成した新しいレポートまたはグラフには、「レポート X」または「グラフ Y」というデフォルト名が付けられます。ここで、X および Y は、作成したレポートまたはグラフごとに、1 から始まり、1 ずつ増加する値を表します。複数レポート間の切り替えについての詳細は、43 ページの「 表示タブ 」 を参照してください。
- **ファイル**グラフからイメージファイル、またはレポートからデータファイルを作成します。詳細は、470 ページの 「 レポートおよびグラフの出力フォーマット 」 を参照してください。

  注意：[ファイル] メニューは、InfoAssist Basic では使用できません。

フォーマット	レポート	グラフ	ドキュメント
HTML	使用可 (デフォルト)	使用可 (デフォルト)	使用可
HTML5	使用不可	使用可	使用不可

フォーマット	レポート	グラフ	ドキュメント
Analytic Document	使用可	使用可	使用可
PDF	使用可	使用可	使用可 (ドキュメントのデフォルト)
Analytic PDF (Adobe Reader 9.0 以降が必要)	使用可	使用可	使用可
Excel フォーマット	使用可	使用可	使用可
PowerPoint (PPTX)	使用可	使用可	使用可
PDF/GIF (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
PNG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
GIF (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
JPEG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可

フォーマット	レポート	グラフ	ドキュメント
SVG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可

HTML5

HTML5 は、グラフのデフォルト出力フォーマットです。この出力フォーマットでは、ビルトインの JavaScript エンジンを使用して、グラフをブラウザに表示することができます。この出力フォーマットのグラフでは、アニメーション、高品質ベクタ出力、アルファチャンネル、グラデーション効果など、HTML5 Web 標準の最新の機能を活用することができます。

追加の出力タイプの有効化

デフォルト設定では、[ホーム] タブの [出力タイプ] メニューおよびキャンバス右下のステータスバーの [出力タイプ] メニューに PNG、GIF、JPEG、SVG 出力フォーマットは表示されません。また、[ユーザ選択] 出力タイプもデフォルト設定では表示されません。これらの出力タイプを有効にするには、管理コンソールを開き、[InfoAssist のプロパティ] を選択します。

これらのフォーマットが有効化されていない場合に、PNG を含む既存のプロシジャを開くと、出力は HTML になります。また、次のような警告メッセージが表示される場合があります。

- JPG、GIF、または SVG フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは HTML 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。
- PDF または GIF フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは PDF 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。

レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、ステータスバーの [出力フォーマット] ボタンで設定することもできます。

ユーザ選択

[ユーザ選択] 出力フォーマットを使用すると、実行時にユーザがレポートの出力タイプを変更することができます。[ユーザ選択] 出力フォーマットは、[ホーム] タブの [出力タイプ] メニューまたはキャンバス右下のステータスバーの [出力タイプ] メニューから選択可能です。

注意：[ユーザ選択] 出力フォーマットを選択するには、管理コンソールで [ユーザ選択] の表示を有効にしておく必要があります。

このオプションを有効にすると、実行時に出力タイプの選択が要求されます。下図は、この機能を示しています。



レポート、グラフ、ドキュメントでは、次の出力タイプのいずれかを選択することができます。

- レポートの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、Analytic Document、PDF、Analytic PDF、Excel (XLSX)、Excel Formula (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。
- グラフの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、HTML5、Analytic Document、PDF、Analytic PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。

  注意：新しいグラフ属性構文を使用しないグラフの場合、[ユーザ選択] を選択すると、すべての出力フォーマットが表示されます。新しいグラフ属性構文を使用するグラフの場合、選択可能な出力フォーマットは HTML5 および Analytic Document のみです。この規則の例外として、タグクラウド、パラボックス、マリメッコ、ストリームグラフがあります。これらは、新しいグラフ属性構文を使用しない HTML5 固有のグラフですが、選択可能な出力フォーマットは HTML5 および Analytic Document または Analytic PDF のみです。
- ドキュメントの場合、選択可能な出力タイプには、HTML、Analytic Document、PDF、Analytic PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) があります。

11

HOLD ファイルの作成

リクエストの出力を HOLD ファイルに格納し、そのファイルを別の WebFOCUS プロシジャへの入力として使用することができます。

これにより、HOLD ファイルからデータを抽出するリクエストを作成し、これを別のリクエストと組み合わせることで、複数のリクエストで構成されたレポートを作成することができます。

作成した HOLD ファイルは、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーションで使用することができます。

トピックス

- HOLD ファイルの用途
- HOLD ファイルの格納
- レポートおよびグラフの出力フォーマット
- HOLD ファイルの作成
- HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成

HOLD ファイルの用途

HOLD ファイルは、次のことに役立ちます。

- 後続のリクエストでデータをより高速かつ効率的に取得できるよう、大規模なデータソースからフィールドを抽出する。これにより、処理時間が短縮され、より小規模で特殊なデータセットからレポートやグラフの高速な作成が可能になります。また、データの小規模サブセットを使用する際の柔軟性が向上するとともに、効率性も高まります。
- 別のリクエストで処理できるよう、リクエストで計算された一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE) の値を格納する。これにより、計算値の繰り返し使用が可能になり、特定のシナリオを再作成する必要がなくなります。

HOLD ファイルの格納

作成した HOLD ファイルは、一時的に保存して即座に使用することも、今後の再利用のために永続的に格納しておくこともできます。このように、作成後の利用目的に応じて、HOLD ファイルを柔軟に使用、格納することが可能です。

レポートおよびグラフの出力フォーマット

レポートの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- バイナリ (*.ftm)
- FOCUS (*.foc)。詳細は、479 ページの 「 TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド 」 を参照してください。
- フィールド名付きカンマ区切りテキストファイル (*.tab)
- テキストファイル (*.ftm)
- タブ区切りテキストファイル (*.tab)
- フィールド名付きタブ区切りテキストファイル (*.tab)
- データベーステーブル (*.sql)

  注意：データベーステーブル出力は、SQL データベースを対象にしている場合にのみ使用できます。
- SQL スクリプト (.sql)
- Hyperstage (*.bht)

  注意：Hyperstage 出力は、WebFOCUS Reporting Server で Hyperstage アダプタが構成されている場合にのみ使用できます。
- XML (*.xml)
- JSON (*.json)

グラフの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- PNG (*.png)
- GIF (*.gif)
- SVG (*.svg)

- JPEG (*.jpg)

HOLD ファイルの作成

このセクションでは、HOLD ファイルの使用方法を示す手順について説明します。

注意

- HOLD ファイルに ACROSS フィールドを含めることはできません。
- HOLD ファイルを作成する前に、[クエリ] ウィンドウで [タイトルの変更] オプションを使用してフィールドのタイトルを変更することができます。タイトル内のブランクはアンダースコア (_) に変換されます。この機能を使用することで、HOLD ファイルに含めるフィールドの名前を制御できるとともに、レポート、グラフ、ドキュメントを作成する際にフィールドの識別が容易になります。
- HOLD ファイルの作成時に表示される [一時ファイル] ダイアログボックスには、Reporting Server でユーザがアクセス権限を所有するアプリケーションのみがリストに表示されます。
- HOLD ファイルで作業する際にも [オートリンク] 機能を使用することができます。詳細は、365 ページの 「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」 を参照してください。
- HTML5 フォーマットでグラフを作成する際は、HOLD ファイルを作成することはできません。ただし、HTML フォーマットでは HOLD ファイルの作成が可能です。
- レポートに HOLD プロシジャが含まれている場合、一時項目 (DEFINE) の AS 名に使用されているピリオド (.) は自動的にアンダースコア (_) に変換されます。
- 単一プロシジャ内に別の HOLD ファイルを追加し、この HOLD ファイルに基づいてテーブルリクエストを作成することはできません。この場合、HOLD ファイルの値が必要な動的パラメータが含まれます。InfoAssist では特別な処理が追加され、プロシジャが InfoAssist 内部で実行される場合にこの作業が可能になりました。ただし、プロシジャは InfoAssist で生成されるため、InfoAssist の外部で実行された場合はサーバエラーが発生します。HOLD ファイルは、プロシジャの実行前に存在している必要があります。

手順　HOLD ファイルからドキュメントの複数コンポーネントを作成するには

ここでは、フィールドを HOLD ファイルに抽出し、HOLD ファイルからドキュメントの複数のコンポーネントを作成する手順について説明します。

1. InfoAssist をドキュメントモードで開きます。

2. データソースを選択します。
3. 後続リクエストで使用するため、抽出が必要なすべてのフィールドを追加します。
4. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[ファイル] をクリックします。
5. [一時ファイル] ダイアログボックスで、ファイル名を入力後、[フォーマット] ダイアログボックスから HOLD ファイルのフォーマットを選択し、[保存] をクリックします。

   注意：デフォルト設定では、一時 HOLD ファイルが作成されます。このファイルは、レポートまたはグラフの実行後に削除されます。代わりに、アプリケーションパスのフォルダパスを選択し、永続的な HOLD ファイルを作成することもできます。このファイルはプロシジャの実行後も保存されるため、再利用することができます。
6. [挿入] タブの [レポート] グループで、[グラフ] をクリックします。
7. グラフにフィールドを追加します。
8. 別のグラフを挿入します。
9. このグラフにフィールドを追加します。
10. [フォーマット] タブの [グラフ] グループで、[円] をクリックします。
11. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。
12. レポートにフィールドを追加します。
13. 必要な任意の数のレポートおよびグラフを追加し、ドキュメントを完成させます。

手順　HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには

HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには、最初にレポートを作成します。

1. [開く] ダイアログボックスで、wf_retail_lite マスターファイルを選択します。
2. 次のメジャーフィールドをレポートに追加します。
   - ❏ 売上原価
   - ❏ 値引
   - ❏ 粗利益
   - ❏ 販売,数量
   - ❏ 収益
3. 次のディメンションフィールドをレポートに追加します。
   - ❏ 製品,区分

- 製品,区分 (詳細)
- 売上,年

4. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[ファイル] をクリックします。

   [一時ファイル] ダイアログボックスが開きます。

5. [一時ファイル] ダイアログボックスで HOLD ファイルの名前を指定し、デフォルトファイルタイプの [バイナリ (*.ftm)] を選択した状態で、[保存] をクリックします。
6. キャンバスの下部で、[レポートの作成] をクリックします。

   リソースパネルにカスタムデータベース構造が表示されます。キャンバスがデフォルトのブランク状態に戻り、HOLD ファイルを使用して新しいレポートの作成を開始することができます。

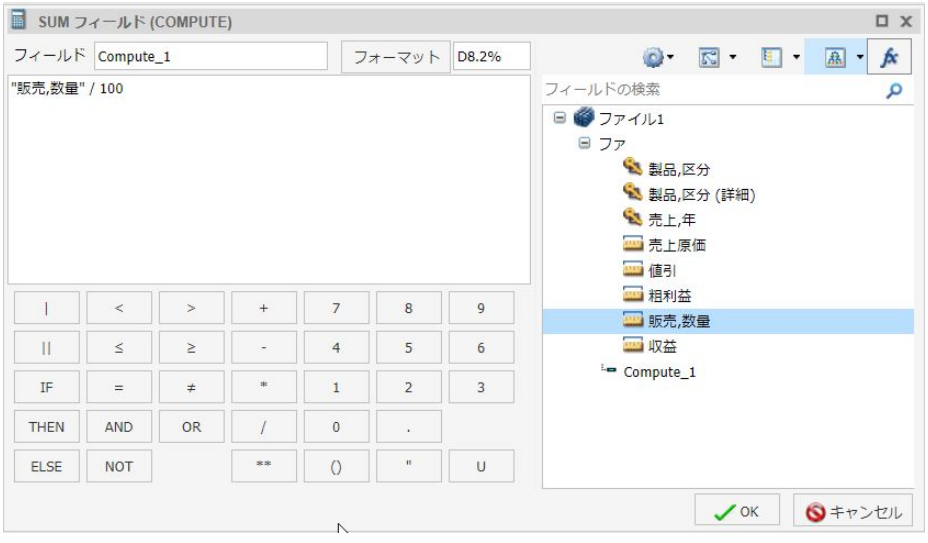
7. HOLD ファイルから [販売,数量] フィールドをキャンバスにドラッグします。
8. キャンバスで [販売,数量] 列の見出しを選択します。
9. [フィールド] タブの [表示] グループで、[集計]、[最初の値] を順に選択します。

   注意：見出しが [FST 販売,数量] に変わります。

10. [FST 販売,数量] 見出しを選択します。
11. [販売,数量] フィールドは後続の計算で使用するため、[フィールド] タブの [表示] グループで [フィールドの非表示] をクリックして、フィールドを非表示にします。
12. [データ] タブの [演算] グループで、[一時項目 (COMPUTE)] をクリックします。
13. [SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスで、次の操作を実行します

    - [フォーマット] テキストボックスに「D8.2%」と入力します。
    - [販売,数量] フィールドをダブルクリックして、フィールドを数式ボックスに追加します。
    - [販売,数量] フィールドの後ろに「/ 100」を追加して、パーセントを計算します。

下図は、[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスの例を示しています。



14. [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
15. [製品,区分] フィールドを [クエリ] ウィンドウの [BY] フィールドコンテナにドラッグします。
16. [クエリ] ウィンドウで [製品,区分] フィールドを選択します。
17. [フィールド] タブの [区切り] グループで [中間合計] を選択し、[製品,区分] 列に中間合計行を作成します。
18. [製品,区分 (詳細)] フィールドを [クエリ] ウィンドウの [BY] フィールドコンテナにドラッグします。
19. [売上,年] フィールドを [ACROSS] フィールドコンテナにドラッグします。
20. [ホーム] タブの [レポート] グループで、[行合計] をクリックします。

    レポートを実行して出力結果を表示します。

手順　サブクエリで使用する HOLD ファイルを作成するには

この手順では、サブクエリで使用する HOLD ファイルの作成方法について説明します。

1. 少なくとも 1 つのフィルタ条件を設定した新しいレポートを作成します。

2. [ファイル] をクリックします。

[ファイル] ボタンは、[ホーム] タブの [フォーマット] グループ、および [フォーマット] タブの [対象] グループにあります。

[ファイル] ボタンは、分割ボタンです。ボタンの左側をクリックすると、[一時ファイル] ダイアログボックスが表示されます。右側の下向き矢印をクリックして [一時ファイル] ダイアログボックスを表示し、最初の設定を行うことや、設定を変更することができます。

[パスとフォーマットを選択してください] ダイアログボックスが開きます。

注意：ダイアログボックスの上部には、[一時ファイル] というラベルが表示されます。フォルダのいずれかを選択すると、このラベルが [パスとフォーマットを選択してください] に変わります。

3. [一時ファイル] ダイアログボックスで、次の項目を入力します。
   a. [ファイル名] テキストボックスに、ファイル名を入力します。

      デフォルトのファイル名は「ファイル 1」です。

   b. リストメニューから、ファイルフォーマットとして [SQL スクリプト (*.sql)] を選択します。
   c. HOLD ファイルのパスを選択します。

      パスは、一時ファイル (デフォルト設定)、書き込み可能なサーバのアプリケーションフォルダのいずれかです。

      注意：指定したパスに HOLD ファイル名がすでに存在する場合、[保存] をクリックすると、警告メッセージが表示され、保存できません。別の名前で保存してください。
4. [保存] をクリックします。

   InfoAssist キャンバスの下部に、[レポートの作成] ボタンが表示されます。
5. 手順 2 から 4 を繰り返し、必要な数の HOLD ファイルを作成します。
6. HOLD ファイルをすぐに使用するには、[レポートの作成] ボタンをクリックし、実行するオプションを選択します。

注意：HOLD ファイルから作成したレポートで作業する場合、レポートでデータソースを切り替え、追加しようとすると、警告メッセージが表示されます。

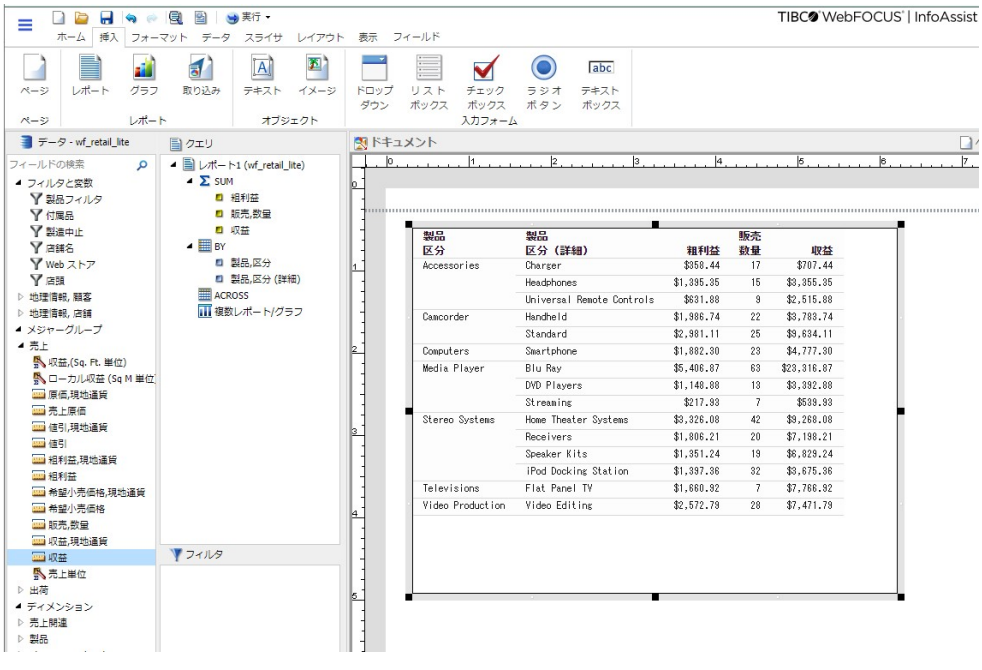
手順　HOLD ファイルコンポーネントの順序を変更するには

次の手順は、HOLD ファイル内のファイルコンポーネントの順序を変更する方法を示しています。

注意：この手順では、バイナリ HOLD ファイルとサブクエリを作成して、HOLD ファイルの順序を変更する方法について説明します。この順序変更の結果も示されています。

1. InfoAssist で新しいドキュメントを作成し、データソースとして wf_retail_lite マスターファイルを使用します。
2. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。次のフィールドを [データ] ウィンドウからレポートに追加します。
   - ❑ 粗利益
   - ❑ 販売,数量
   - ❑ 収益
   - ❑ 製品,区分
   - ❑ 製品,区分 (詳細)

   下図は、作成されたレポートを示しています。

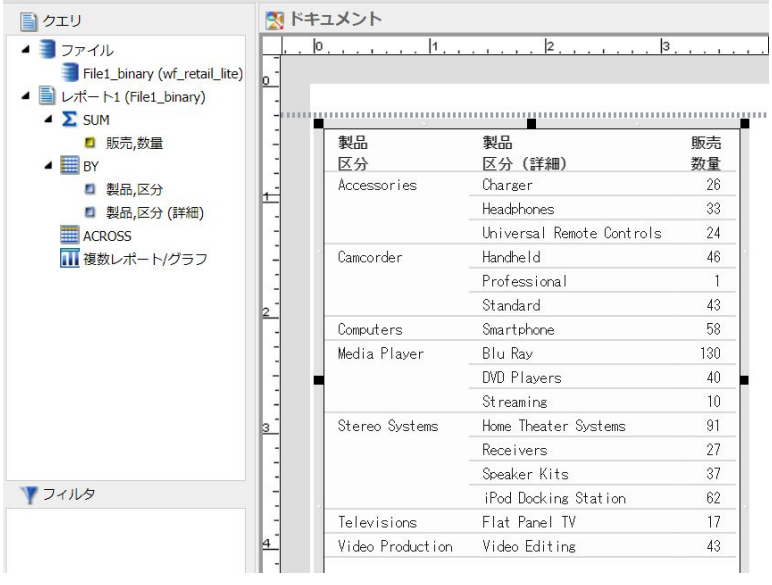


3. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで [ファイル]をクリックし、HOLD ファイルを作成します。

   [一時ファイル] ダイアログボックスで、ファイルの名前を入力します。たとえば、「File1_binary」と入力します。

4. [保存] をクリックします。

5. HOLD ファイルを使用してレポートを作成します。下図のように、[製品,区分]、[製品,区分 (詳細)]、[販売,数量] フィールドを指定します。



製品 区分	製品 区分 (詳細)	販売 数量
Accessories	Charger	26
	Headphones	33
	Universal Remote Controls	24
Camcorder	Handheld	46
	Professional	1
	Standard	43
Computers	Smartphone	58
Media Player	Blu Ray	130
	DVD Players	40
	Streaming	10
Stereo Systems	Home Theater Systems	91
	Receivers	27
	Speaker Kits	37
	iPod Docking Station	62
Televisions	Flat Panel TV	17
Video Production	Video Editing	43

6. 次の手順では、最初のレポートのフィルタとして使用するサブクエリ SQL スクリプトを作成します。

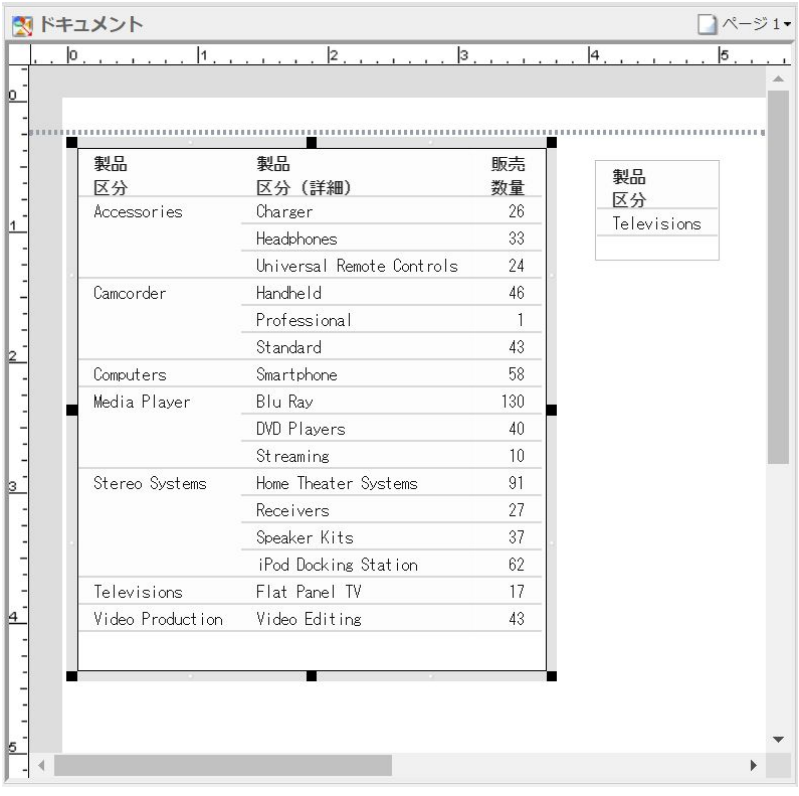
   a. [データ] タブの [データソース] グループで、[切り替え] をクリックします。

      元のマスターファイル (wf_retail_lite) を選択します。

   b. [製品,区分] ディメンションフィールドをダブルクリックします。

      これにより、2 つ目のレポートが作成されます。必要に応じてドキュメントキャンバスでレポートをドラッグし、サイズを変更します。

c. [製品,区分] フィールドに適用するフィルタを作成します (WHERE 製品,区分 等しい Televisions)。

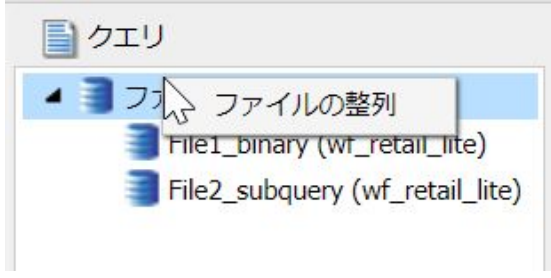


7. 新しいコンポーネントを選択した状態で、[ホーム] タブの [フォーマット] グループで [ファイル] をクリックします。

   [ファイル名] テキストボックスに「File2_subquery」と入力し、ファイルタイプメニューから [SQL スクリプト (*.sql)] フォーマットを選択します。

8. [保存] をクリックします。

9. 次の手順を実行して、File2_subquery が File1_binary HOLD ファイルの上に配置されるよう HOLD ファイルの順序を変更します。
   a. 下図のように、[クエリ] ウィンドウで [ファイル] を右クリックし、[ファイルの整列] を選択します。



   [ファイルの整列] ダイアログボックスが開きます。
   b. 下図のように、[ファイルの整列] ダイアログボックスで [File2_subquery] を選択し、[上へ移動] をクリックして [File1_binary] の上にファイルを移動します。



   c. [OK] をクリックします。
10. 最初のレポートを編集し、サブクエリを使用してフィルタを作成します。
11. [OK] をクリックして、[フィルタの作成] ダイアログボックスを閉じます。

    レポートがリフレッシュされ、適用したフィルタが反映されます。

TIBCO FOCUS フォーマットインデックスフィールド

インデックスフィールドは、FOCUS フォーマットのみでサポートされます。インデックスの追加が可能なフィールドの最大数は、4 つです。ファイルフォーマットが FOCUS の場合、[クエリ] ウィンドウに [インデックス] が表示されます。

HOLD ファイルを使用したサブクエリの作成

HOLD ファイルを使用してサブクエリを作成することができます。サブクエリとは、SQL ステートメントの WHERE 句に追加される、ネストされたクエリのことです。何度も再利用できるという点で、サブクエリを使用すると便利です。

注意：InfoAssist でグラフまたはレポートを作成する場合、[ホーム] タブの [デザイン] グループで [クエリ] をクリックすると、[クエリ] デザインビューでコンテンツを作成できます。この場合、キャンバスが非表示になり、[クエリ] ウィンドウと [フィルタ] ウィンドウのみがコンテンツの作成に使用されます。[クエリ] デザインビューでは、リクエストにサブクエリが存在し、ACROSS フィールドが存在しない場合、データは実行時のみリフレッシュされます。コンテンツを編集するデザイン時にはリフレッシュされません。このため、パフォーマンスが向上します。デザイン時にはキャンバスが非表示になるため、この時点でデータのリフレッシュは必要ありません。

手順　HOLD ファイルを使用してサブクエリフィルタを作成するには

ここでは、上記の手順で作成した HOLD ファイルを使用して、サブクエリフィルタを作成する手順について説明します。

1. レポートを作成します。
2. [データ] タブの [フィルタ] グループで、[フィルタ] をクリックします。

   [フィルタの作成] ダイアログボックスが開きます。
3. [フィルタの作成] ダイアログボックスで、[タイプ] ドロップダウンリストから [サブクエリ] を選択します。
4. [サブクエリ] ドロップダウンリストから、比較演算子として [リストに存在する] を選択します。
5. 式の最も右側の項目として、サブクエリのリストから、作成したサブクエリ (ここでは「ファイル 1」) を選択します。
6. [OK] をクリックします。

   作成したサブクエリで、レポートにフィルタが設定されます。

   注意：このリクエストで生成される SQL ステートメントを表示するには、クイックアクセスツールバーの [実行] ドロップダウンメニューを開き、[SQL トレース] を選択します。

12

複数ページのドキュメントの作成

ドキュメントモードでは、コンテンツを複数のページに分割して作成することができます。使用可能な出力フォーマットには、HTML、Analytic Document、PDF、Analytic PDF、Excel (XLSX)、PowerPoint (PPTX) などがあります。他のタイプの Excel フォーマットを使用することもできます。

注意：ドキュメントモードで Analytic Document フォーマットを使用し、複数のレポートやグラフを配置すると、これらのコンテンツが統合された高度な複数オブジェクトドキュメント (Analytic Document ダッシュボード) が生成されます。

Microsoft Excel 2007 および PowerPoint 2007 出力フォーマットは、管理コンソールのデフォルト設定で有効になっています。出力フォーマットの有効と無効の切り替えは、管理コンソールで設定する必要があります。

- Analytic Document 出力フォーマットでは、複数のレポートおよびグラフが 1 つのドキュメントに統合され、タブ付きのインタラクティブダッシュボードが生成されます。
- Excel では、複数のレポートが 1 つのブックに統合され、それぞれ個別のワークシートとして作成されます。
- PowerPoint では、複数のレポートおよびグラフが 1 つのスライドに統合されます。

トピックス

- 複数ページのドキュメントの作成
- 複数ページの Analytic Document ダッシュボードの作成
- ページメニューのナビゲート
- キャッシュオプションの使用
- InfoAssist でのキャッシュの有効化

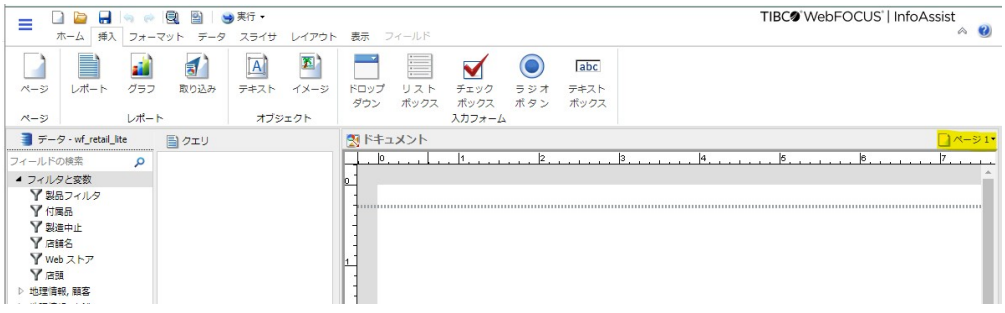
複数ページのドキュメントの作成

複数ページのドキュメントを作成すると、一連の情報を複数のページに分割して表示することができます。

手順　複数ページのドキュメントを作成するには

1. 新しいドキュメントを作成します。

   下図のように、キャンバスのタイトルバーに、「ページ 1」と表示されます。



2. [ページ 1] に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次のいずれかを実行します。

   - [挿入] タブの [ページ] グループで、[ページ] をクリックします。
   - キャンバスのタイトルバーで、[ページ] アイコンをクリックします。表示された [ページ] メニューから、[新規ページ] を選択します。

   現在のページの後に新しいページ (例、[ページ 2]) が挿入され、そのページがキャンバスに表示されます。

   追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。

4. [ページ 2] に、コンテンツを追加します。
5. 手順 3 および 4 を繰り返し、ドキュメントを完成させます。

下図のように、ページ間を移動するには、キャンバス上部の [ページ] アイコンをクリックして [ページ] メニューを開きます。



複数ページの Analytic Document ダッシュボードの作成

InfoAssist では、複数ページの インタラクティブダッシュボードを作成することができます。

手順　複数ページの Analytic Document ダッシュボードを作成するには

1. 新しいドキュメントを作成し、出力フォーマットを [Analytic Document] に設定して、そのドキュメントを インタラクティブダッシュボード にします。

   キャンバスのタイトルバーに「ページ 1」と表示されます。

2. [ページ 1] に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージ、入力フォームなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次の手順を実行します。

   - [挿入] タブの [ページ] グループで、[ページ] をクリックします。
   - キャンバスのタイトルバーで、[ページ] アイコンをクリックします。表示された [ページ] メニューから、[新規ページ] を選択します。

   現在のページの後に新しいページ (例、[ページ 2]) が挿入され、そのページがキャンバスに表示されます。

   追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。

4. [ページ 2] に、コンテンツを追加します。
5. インタラクティブダッシュボードが完成するまで、手順 3 および 4 を繰り返します。

   ページ間を移動するには、キャンバス上部の [ページ] アイコンをクリックして [ページ] メニューを開きます。

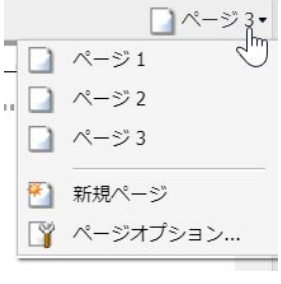
6. インタラクティブダッシュボードを実行します。

   下図のように、キャンバスの上部にタブが表示されます。



ページメニューのナビゲート

[ページ] メニューにアクセスするには、下図のように、デザインモードで [ページ] アイコンをクリックします。



[ページ] メニューには、作成された順序でページが表示されます。ページの順序は、ドラッグアンドドロップで変更することができます。また、複数のページを選択して、削除することもできます。

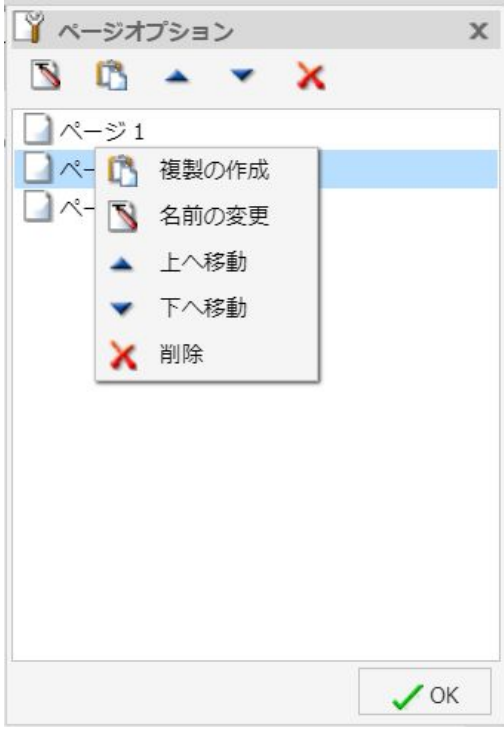
[ページ] メニューの [新規ページ] オプションを選択すると、ドキュメントに新しいページが追加されます。[ページオプション] ダイアログボックスで [ページの複製を作成] オプションを使用すると、選択したページのコピーが作成されます。

[ページ] メニューの [ページオプション] をクリックすると、ダイアログボックスが開き、次のオプションが表示されます。

- 名前の変更

- 複製の作成
- 上へ移動
- 下へ移動
- 削除

下図は、[ページオプション] ダイアログボックスを示しています。



ページのいずれかを選択すると、ダイアログボックス上部のツールバーで、[ページ名の変更]、[ページの複製を作成]、[ページを上へ移動]、[ページを下へ移動]、[ページの削除] オプションが有効になります。また、ページを右クリックすると、同一のオプションを提供するコンテキストメニューが開きます。

方向のオプションは、選択したページの位置によって決定されます。たとえば、「ページ 1」を選択している場合、[上へ移動] は表示されません。最後のページを選択している場合、[下へ移動] は表示されません。

このダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

キャッシュオプションの使用

データ取得後の処理は、すべて Web ブラウザのメモリで実行されるため、Analytic Document の取得レコード数は、最大でおよそ 5000 件 (出力で 100 ページ以内) に制限されています。アクティブキャッシュオプションを使用すると、出力の最初のページのみをブラウザに送信し、後続のページを Reporting Server の一時キャッシュから取得することが可能になります。

ヒント: 取得行数には、1 ページあたりの取得行数 (SET LINES で指定) の 5 倍の値を設定することをお勧めします。取得行数の最小値は 100 です。

InfoAssist でのキャッシュの有効化

出力タイプとして [Analytic Document] を選択し、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [Web ビューア] ボタンを選択すると、キャッシュが有効になります。

[Analytic Document オプション] ダイアログボックスの [詳細] タブには、[取得行数] ドロップダウンリストがあります。この設定を使用して、バイナリファイルに格納されたキャッシュデータを出力ウィンドウに送信する単位を指定します。デフォルト値は 100 です。

注意: 複数ページのドキュメントでは、キャッシュをコンポーネントごとに有効にする必要があります。これはグローバルに設定できません。このため、AHTML フォーマットでドキュメントを作成する場合は、各コンポーネントを個別に選択してキャッシュを有効にする必要があります。この作業を完了すると、[Web ビューア] ボタンが有効になります。

13

インタラクティブコンテンツの作成

ここでは、Analytic Document 機能を有効にして、オフラインでユーザが分析、操作できるインタラクティブレポート、グラフまたはダッシュボードを作成する方法について説明します。

トピックス

- Analytic Document の概要
- InfoAssist での Analytic Document の有効化
- インタラクティブコンテンツの作成
- インタラクティブコンテンツの操作

Analytic Document の概要

Analytic Document を使用したコンテンツは、リアルタイムの動的なレポート、グラフ、ダッシュボードの生成が可能なインタラクティブなインターフェースをユーザに提供します。その多様性から、ユーザは、分析ビューを組み合わせてデータセットをパッケージ化し、直観的でインタラクティブなセルフサービスの BI を実現できます。また、プレゼンテーションおよび分析に優位性を発揮し、コンセプト、アイデア、シナリオの作成と共有が簡単にできます。インタラクティブレポートは自己完結型のレポートで、HTML 出力ファイル内にすべてのデータおよび JavaScript が含まれます。データとインタラクティブ機能が HTML ファイルにパッケージ化されているため、出力結果は、Email による送信時の圧縮性に優れ、セキュリティの透過性を提供します。大規模データを使用する場合は、出力ファイルを圧縮して、Email 送信時のファイルサイズを縮小することもできます。

注意：インタラクティブコンテンツの出力ファイルは、必要に応じて、圧縮してファイルサイズを縮小してから Email クライアントで送信します。

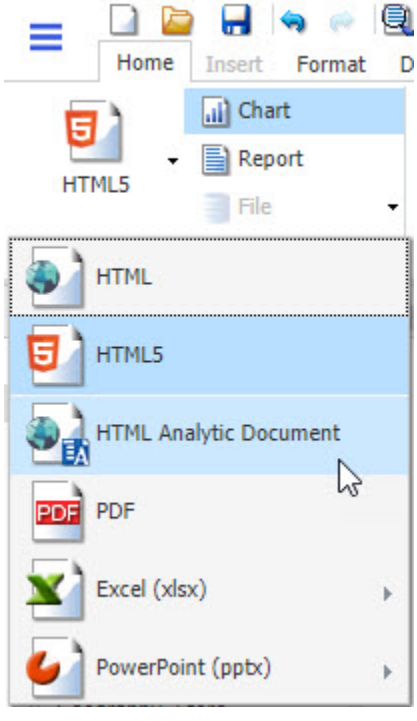
ユーザは、ソート、フィルタ、演算、集約、ピボットなどさまざまな分析ツールを使用して、データの分析およびインタラクティブな操作を行えます。また、さまざまなオプションを使用して、異なるシナリオでテストすることもできます。

作成したインタラクティブコンテンツはすべて、サーバとは独立して機能し、可搬性があるため、Microsoft Excel などの外部アプリケーションを使用せずに複雑なデータを簡単に処理、分析することができます。ユーザには開発者とエンドユーザの 2 つのタイプがあり、情報の作成と配信の役割が明確に分かれています。エンドユーザは、開発者が作成、展開するコンテンツをインタラクティブに操作します。サーバとは独立して、リモートまたはオフラインでコンテンツにアクセスする場合も、エンドユーザは、追加のプラグインまたはプログラムなしでコンテンツを取得できます。

注意：実行時に作成したアーティファクトには、識別しやすいようにそれぞれ一意の番号が割り当てられます。この番号は昇順ですが連続番号ではなく、自動的に割り当てられます。

InfoAssist の場合、Analytic Document 機能を有効にして使用できる出力フォーマットには、Analytic Document (従来の AHTML) と Analytic PDF (従来の APDF) の 2 種類があります。Analytic Document (ADF) フォーマットを使用して、ブラウザに接続していない状態でも動的なコンテンツの生成およびオフラインでの配信が可能です。新しいデザイナスタイルでは、AHTML フォーマットのみサポートされます。

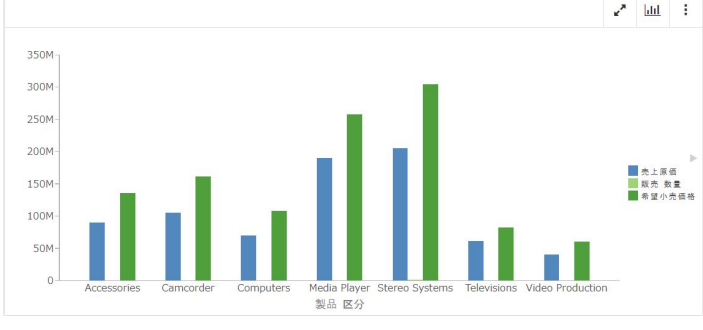
注意：これらのフォーマットは、管理者が管理コンソールで有効にします。これらの出力フォーマットへのアクセスが許可された開発者は、コンテンツを生成し、企業全体に配信することができます。下図は、InfoAssist に表示される Analytic Document フォーマットを示しています。



また、[プロシジャの設定] ダイアログボックスでは、2 つのスタイルが適用できます。以前のバージョンで作成したインタラクティブコンテンツは、[レガシー] スタイルと呼ばれるスタイルで継続して使用することができます。[レガシー] スタイルでは、グラフ/集約ツールおよびピボットツールなどのオプションが使用できます。下図の例は、レガシースタイルのレポートを示しています。



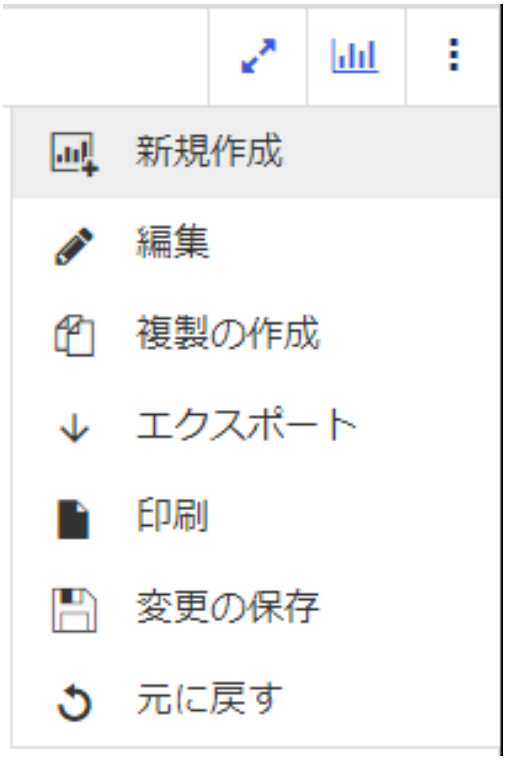
別のスタイルとして、[デザイナスタイル] を使用することもできます。[デザイナスタイル] では、従来と同じオプションも使用できますが、WebFOCUS DESIGNER で作成するページに近い外観で表示されます。下図の例は、デザイナスタイルのグラフを示しています。



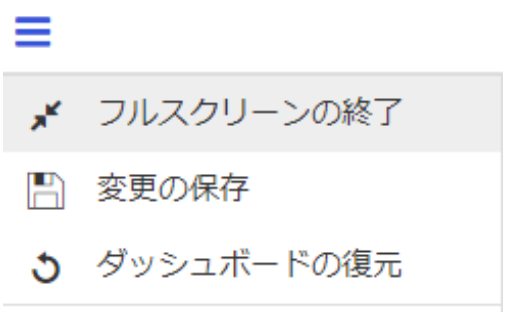
コンテンツの実行時には、メニューオプションを使用して確認したり作成作業を継続したりできます。たとえば、グラフの実行時に、下図のようにグラフメニューから選択して、表示するグラフのタイプを変更することができます。



新しいグラフを追加したり、作成したコンテンツを編集したりするには、下図のように、[⋮] (参照) ボタンからメニューオプションが使用できます。



レポートまたはグラフをフルスクリーンで表示すると、下図のようにハンバーガーメニューも表示されます。このメニューから、フルスクリーンモードを終了したり、変更を保存したり、ダッシュボードを復元したりできます。



WebFOCUS で作成したレポートやグラフなどのインタラクティブコンテンツは、プロシジャとして保存されます。プロシジャに保存されたコードは、InfoAssist またはテキストエディタで確認することができます。インタラクティブコンテンツのコードを確認する場合、プロシジャで使用されているスタイルを ARVERSION 設定から確認することができます。インタラクティブコンテンツにレガシースタイルが使用されている場合は ARVERSION=1、デザイナスタイルが使用されている場合は ARVERSION=2 に設定されています。

デフォルト設定では、InfoAssist で作成する新規コンテンツはすべてデザイナスタイル (ARVERSION=2) を使用します。レガシースタイルを使用する既存の項目を編集する場合、ユーザが ARVERSION 設定を ARVERSION=2 に変更しない限り、既存のスタイルが保持されます。ARVERSION=2 に設定を変更すると、コンテンツはデザイナスタイルでの表示にリセットされます。

また、作成したインタラクティブコンテンツをパスワード保護して、ユーザがパスワードを入力しないとコンテンツを見ることができないように制限できます。データは、256 ビットの AES (Advanced Encryption Standard) 規格で暗号化され、パスワードは、データの復号化キーおよび暗号化キーとして使用されます。そのため、パスワードはインタラクティブコンテンツに格納されず、またパスワード確認のためにサーバに再接続する必要がありません。

Analytic Document 機能を有効にした HTML ページには、JavaScript とコンテンツデータの両方が含まれているため、切断モードでもインタラクティブなデータ操作が可能になります。Internet Explorer は、JavaScript を検知して警告を表示します。警告が表示された際は、インタラクティブコンテンツ (この場合は JavaScript) が検知されたことが明示されます。ブラウザでポップアップがブロックされた際にも同一の警告が表示されます。

データ取得後の処理は、すべて Web ブラウザのメモリで実行されるため、Analytic Document を有効にしたインタラクティブコンテンツの取得レコード数は、最大でおよそ 5000 件 (出力で 100 ページ以内) に制限されています。キャッシュオプションを使用すると、コンテンツ出力の最初のページのみをブラウザに送信し、後続のページを Reporting Server の一時キャッシュから取得することが可能になります。また、キャッシュを有効にした場合、演算、ソート、フィルタのすべての処理が Reporting Server をリソースとして実行されます。キャッシュは Web ビューア機能を使用するため、WebFOCUS ビューアはサポートされません。

Cluster Manager (CLM) を使用してクラスタ化されたサーバ環境で、キャッシュオプションを有効にしたコンテンツを実行した場合、一時キャッシュが作成される WebFOCUS Reporting Server との接続が保持されます。これにより、同一のブラウザセッションが継続している間、このコンテンツの後続ページの取得が可能になります。

注意：アクティブキャッシュを無効にした (CACHE OFF) AHTML (または Analytic Document) フォーマットを使用する場合、実行時にカンマ区切り値 (.csv) フォーマットにエクスポートすることができます。このファイルは自動的に [ダウンロード] フォルダに送信され、すべてのブラウザに適用されます。

キャッシュ機能は、HTTP リクエストで、GET の代わりに POST を使用します。

インタラクティブコンテンツは、Web ブラウザからリポジトリや FTP サーバなど別の場所に保存することができます。また、インタラクティブコンテンツを Email で送信したり、配信リストを使用して送信したりすることもできます。この場合、インタラクティブレポート、グラフ、ダッシュボードは HTML 添付ファイルとして Email 送信され、別のユーザまたは複数のユーザに配信されます。1 つまたは複数のレポート、グラフを含むインタラクティブダッシュボードを送信する場合、ReportCaster でパラメータを定義してバースト配信することができます。ReportCaster では、ダッシュボードの関連するセクションが送信され、セクションごとに別のファイルとして保存されます。送信方法に関わらず、インタラクティブコンテンツがどのような方法で閲覧されるかを念頭に置く必要があります。

たとえば、レポートを HTML 添付ファイルとして Email 送信した際に、モバイルデバイスの多くのクライアントメールプログラムが、添付ファイル内の JavaScript をブロックする場合があります。添付ファイルを正しく表示するには、モバイルデバイス用の TIBCO WebFOCUS Mobile App など別のツールを使用することができます。

複数のレポートやグラフを含むインタラクティブコンテンツを作成する場合、ReportCaster でパラメータを定義し、バースト配信を設定することで、コンテンツを共有することもできます。この機能では、ダッシュボードの関連するセクションが指定したユーザに配信され、セクションごとに別のファイルとして保存されます。

Web ブラウザでインタラクティブレポートを表示する際に、その Web ブラウザで JavaScript がブロックされた場合または JavaScript の実行が許可されていない場合、ブラウザ設定で JavaScript を有効にするよう指示するメッセージが表示されます。モバイルデバイスを使用している場合、WebFOCUS Mobile App の使用を推奨するメッセージが表示されます。アプリケーションがインストールされていない場合、iOS デバイスでは App Store、Android デバイスでは Google Play Store からダウンロードすることができます。このメッセージには、WebFOCUS Mobile App にナビゲートする [App Store] および [Google Play Store] のハイパーリンクが含まれます。

このメッセージは、オンラインまたはオフラインのレポートの表示に使用される Web ブラウザで JavaScript の実行が許可されていない場合に、デスクトップまたはサポート対象のモバイルデバイスで表示されます。また、このメッセージは、オフラインレポートのコンテンツをプレビュー表示するアプリケーションの [プレビュー] ウィンドウにも表示されます。

下図の Google Chrome では、JavaScript の実行が不許可に設定されています。



InfoAssist での Analytic Document の有効化

InfoAssist では、Analytic Document のインタラクティブ機能を利用して、レポート、グラフ、またはドキュメントなどのコンテンツを作成することができます。このオプションを有効にすると、ユーザはコンテンツのインタラクティブ操作や編集によって独自の分析が行えます。

注意：デザイナスタイルを使用する場合、AHTML 出力フォーマットのみ選択できます。APDF は、レガシースタイルでのみ使用できます。

手順　InfoAssist で Analytic Document を有効化するには

1. InfoAssist を開きます。
2. レポート、グラフまたはダッシュボードを作成します。
3. [ホーム] タブの [フォーマット] グループで、[Analytic Document] または [Analytic PDF] をクリックします。

   注意：管理者は、管理コンソールでこれらの出力オプションを有効にする必要があります。

4. コンテンツを実行します。

   作成したレポート、グラフまたはダッシュボードがインタラクティブメニューオプションで表示され、エンドユーザはこれを使用して分析することができます。インタラクティブコンテンツのスタイルは、[プロシジャの設定] ダイアログボックスから変更できます。[レガシー] および [デザイナスタイル] の 2 つのスタイルが使用できます。インタラクティブメニューオプションで利用可能なオプションは、スタイルによって一部異なります。

インタラクティブコンテンツの作成

ここでは、Analytic Document 機能を有効にしたインタラクティブコンテンツの作成および強化方法について説明します。

インタラクティブレポート

開発者として、オフライン分析が可能な Analytic Document 機能を使用して、効果的で使い勝手のよいレポートを作成し、簡単に配信することができます。

レポートは、行と列でデータの交差を示すために使用されます。作成したレポートは、見出しや脚注を追加したり、その他のフォーマット設定オプションを適用してスタイル設定し、データを明確に表示することができます。レポートの作成を完了後、Analytic Document を有効にします。このフォーマットでは、Excel ブックと同様の分析オプションを使用してデータをインタラクティブ操作することができます。データの表示または分析オプションの使用 (例、フィルタの設定、グラフの作成、ソート) にサーバへの接続が必要ないため、どこでもレポートを保存したり使用したりできます。

注意：Analytic Document のレポートはすべて、HFREEZE ON で表示され、レポートの見出しが固定されます。

レポートでの Analytic Document オプションの構成

[Analytic Document オプション] ダイアログボックスでは、ユーザロールに基づいて、メニューオプションなどインタラクティブレポートの Analytic Document オプションを構成することができます。

[Analytic Document オプション] ダイアログボックスにアクセスするには、[フォーマット] タブの [機能] グループで [Analytic Document オプション] ボタンをクリックします。このボタンは、Analytic Document または Analytic PDF を出力タイプに選択した場合に表示されます。

[Analytic Document オプション] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般

- メニューオプション
- 色
- 詳細

全般タブ

[全般] タブでは、Analytic Document に固有の全般プロパティを設定します。

[全般] タブには、次のオプションがあります。

表示 このエリアには、ウィンドウを重ねて表示するか、タブ表示するかを設定するオプション、および列を固定するオプションがあります。

- **ウィンドウ** ウィンドウ設定を選択します。オプションには、[重ねて表示]、[タブ] があります。
- **列の固定** 固定する列を選択します。[なし] を選択することもできます。

ページオプション このエリアでは、1 ページあたりのレコード件数の設定、ページ情報の表示の有効化、配置の変更、ページ情報の位置設定を行えます。

- **1 ページの件数** 1 ページに表示するレコードの件数を選択または入力します。デフォルト値は 57 です。
- **ページ情報の表示** このオプションを選択して、ページナビゲート情報を表示します。このオプションの選択を解除すると、ページナビゲート情報が非表示になります。
- **配置** いずれかのボタンをクリックして、ページナビゲート情報の配置を設定します。オプションは、[左揃え]、[中央揃え]、[右揃え] です。
- **位置** ページナビゲート情報の位置を選択します。オプションは、[先頭行]、[最終行] です。

グラフオプション 出力フォーマットが Analytic PDF の場合、このエリアにグラフに関するオプションが表示されます。

注意：出力フォーマットが Analytic Document の場合、[グラフオプション] エリアは表示されません。

- **凡例 (チェックボックス)** このオプションを選択すると、必要に応じて凡例が折りたたまれます。凡例の折りたたみを無効にするには、このオプションの選択を解除します。

- **凡例 (メニュー)** 凡例の位置を選択します。次のオプションがあります。
  - 下左
  - 下中央
  - 下右

メニューオプションタブ

[メニューオプション] タブでは、ユーザタイプを選択し、ユーザタイプ別にメニューに表示するオプションを選択します。

[メニューオプション] タブには、次のオプションがあります。

- **ユーザタイプ** オプションは、[パワーユーザ]、[分析ユーザ]、[基本ユーザ]、[カスタム] です。
  - **パワーユーザ** これがデフォルトのユーザタイプです。このユーザタイプに設定すると、すべての機能が使用可能になります。
  - **分析ユーザ** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示]、[固定]、[表示/非表示]、[エクスポート]、[ソート]、[ピボット]、[フィルタ]、[演算]、[グラフ]、[ピアグラフ]、[元に戻す]、[変更の保存]、[アコーディオン] です。
  - **基本** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示]、[固定]、[表示/非表示]、[ソート]、[フィルタ]、[演算]、[ピアグラフ]、[元に戻す] です。
  - **カスタム** 選択したオプションの組み合わせが、既存のユーザタイプ (パワーユーザ、分析ユーザ、基本ユーザ) で設定されているオプションの組み合わせと一致しない場合、[ユーザタイプ] テキストボックスに表示されるユーザレベル名は [カスタム] になります。これは、デフォルトユーザタイプでもなく、上記の選択可能なユーザタイプでもありません。このユーザのオプションが既存のユーザタイプのいずれにも一致しないことを示します。

  ユーザタイプに応じて使用可能なオプションは次のとおりです。
  - **レコードの表示** すべてのレコードを表示したり、指定した件数のレコードのみを表示したりします。
  - **固定** 列を固定したり、固定を解除したりします。
  - **表示/非表示** 列を表示したり、非表示にしたりします。

- **エクスポート** キャッシュが有効な場合、データを HTML、CSV、Excel、PDF のいずれかでエクスポートします。キャッシュが無効な場合、データを HTML、CSV、XML (Excel) のいずれかでエクスポートします。
- **ソート** データを昇順または降順でソートします。
- **ピボット** ピボットテーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。
- **ウィンドウタイプ** 複数のウインドウを重ねて表示したり、タブ表示にしたりします。
- **Email として送信** 現在の変更内容を保存し、レポートを Email で送信することができます。
- **印刷** すべてのレコードを印刷したり、フィルタされたレコードのみを印刷したりします。
- **詳細ツール** グラフ/集約ツール、ピボットツール、リストツールにアクセスします。
- **フィルタ** [フィルタの選択] ダイアログボックスを開きます。
- **演算** [集計]、[平均]、[最小]、[最大]、[件数]、[固有値 (値の種類)]、[合計のパーセント] の演算を実行します。
- **グラフ** レポートを円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図のいずれかに変換します。
- **ピアブラフ** レポートにピアグラフを追加します。
- **集約** データの集約を実行します。
- **コメント** コメントを追加します。
- **元に戻す** Analytic Document を有効にしたレポートを、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。
- **変更の保存** 現在の変更内容を保存します。
- **アコーディオン** アコーディオンレポートを生成します。
- **リストツール** [リストツール] ダイアログボックスを開きます。

色タブ

[色] タブでは、レポート上のさまざまなオブジェクトの色を選択することができます。

[色] タブには、次のオプションがあります。

ページ　このエリアには、ページテキストのフォントおよび背景の色を設定するオプションがあります。

- **フォント**　[色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
- **背景**　[色] ダイアログボックスを開いて、ページテキストの背景色を選択することができます。

行の選択　このエリアには、マウスポインタをレポートの行の上に置いたり、行を選択したりしたときに表示する色の設定オプションがあります。

- **Hover**　[色] ダイアログボックスを開いて、マウスポインタをレポートの行の上に置いたときに表示する色を選択することができます。
- **選択済み**　[色] ダイアログボックスを開いて、ハイライトオプションを使用したときに行に表示する色を選択することができます。

ピアグラフ　このエリアには、ピアグラフの棒の色を設定するオプションがあります。

- **正の値**　[色] ダイアログボックスを開いて、正の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。
- **負の値**　[色] ダイアログボックスを開いて、負の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。

演算　このエリアには、演算の値に使用する色を設定するオプションがあります。

- **フォント**　[色] ダイアログボックスを開いて、演算のフォント色を選択することができます。
- **背景**　[色] ダイアログボックスを開いて、演算の背景色を選択することができます。

オプション　このエリアには、メニューの色を変更するオプションがあります。

- **標準**
  - **フォント**　[色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションに使用するテキストの色を選択することができます。
  - **背景**　[色] ダイアログボックスを開いて、列メニューの背景色を選択することができます。
  - **境界**　[色] ダイアログボックスを開いて、列メニューの境界色を選択することができます。

- **Hover**
  - **フォント** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに表示するテキスト色を選択することができます。
  - **背景** [色] ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに背後に表示する背景色を選択することができます。

詳細タブ

注意：キャッシュは、出力タイプとして [Analytic Document] を選択し、[フォーマット] タブの [ナビ] グループで [Web ビューア] をクリックした場合に有効になります。

[詳細] タブには、次のオプションがあります。

キャッシュ レポートのデータをバイナリファイルにキャッシュし、事前に設定した増加値に基づいてキャッシュデータを出力ウィンドウに返します。

- **取得行数** 出力時に取得する行数を選択します。デフォルト値は 100 です。

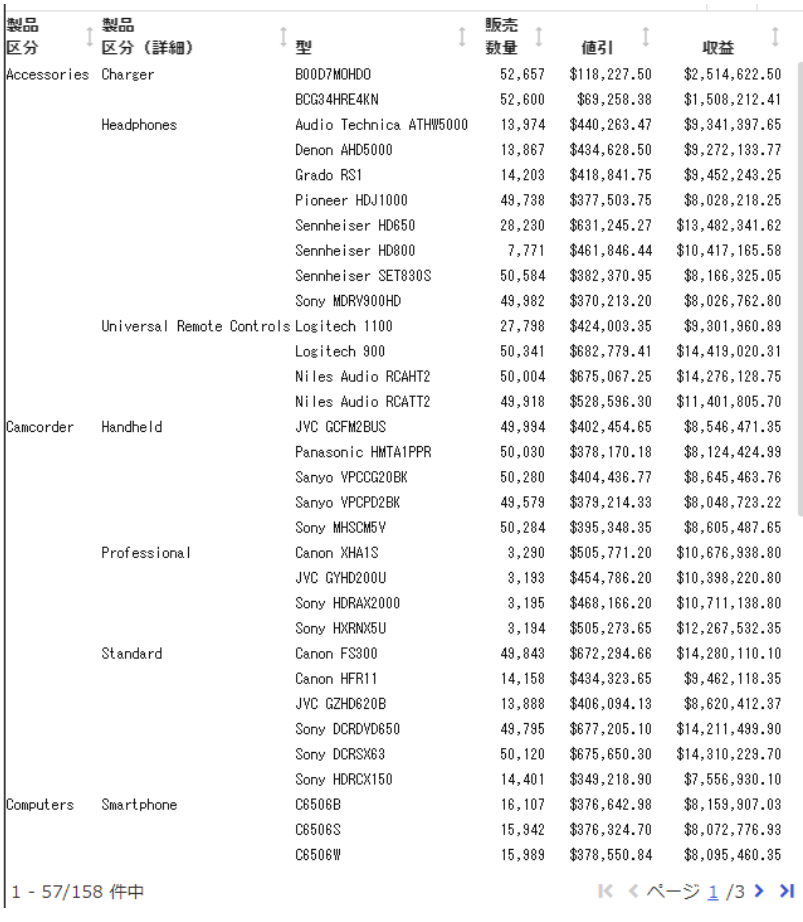
セキュリティ このエリアでは、レポートにアクセスするためのパスワードを設定したり、日付または日数に基づいて期限切れを有効にしたりできます。このオプションは、Analytic Document のレポート出力を有効にしたレポートでのみ使用できます。

注意：インタラクティブレポートのセキュリティオプションは、キャンバスの各コンポーネントに個別に設定できますが、指定可能なパスワードは、ドキュメント全体で 1 つのみです。

レポートでのページナビゲーションの使用

インタラクティブレポート (AHTML) またはリストツールでは、ページバーのページナビゲーションオプションを使用して、ページ間を移動することができます。これらのオプションを使用すると、大規模なデータをスクロールすることなく、すばやく表示することができます。大規模なデータが含まれた単一レポートなど、スタンドアロンの項目の場合、ページバーはコンテナの下部に表示されます。複数のレポートが含まれたページを作成した場合、ページバーは、ページコンテナの下部に表示されます。

下図は、単一インタラクティブレポートのページバーの例を示しています。



製品区分	製品区分（詳細）	型	販売数量	値引	収益
Accessories	Charger	B00D7MOHDO	52,657	$118,227.50	$2,514,622.50
		BCG34HRE4KN	52,600	$69,258.38	$1,508,212.41
	Headphones	Audio Technica ATHW5000	13,974	$440,263.47	$9,341,397.65
		Denon AHD5000	13,867	$434,628.50	$9,272,133.77
		Grado RS1	14,203	$418,841.75	$9,452,243.25
		Pioneer HDJ1000	49,738	$377,503.75	$8,028,218.25
		Sennheiser HD650	28,230	$631,245.27	$13,482,341.62
		Sennheiser HD800	7,771	$461,846.44	$10,417,165.58
		Sennheiser SET830S	50,584	$382,370.95	$8,166,325.05
		Sony MDRV900HD	49,982	$370,213.20	$8,026,762.80
	Universal Remote Controls	Logitech 1100	27,798	$424,003.35	$9,301,960.89
		Logitech 900	50,341	$682,779.41	$14,419,020.31
		Niles Audio RCAHT2	50,004	$675,067.25	$14,276,128.75
		Niles Audio RCATT2	49,918	$528,596.30	$11,401,805.70
Camcorder	Handheld	JVC GCFM2BUS	49,994	$402,454.65	$8,546,471.35
		Panasonic HMTA1PPR	50,030	$378,170.18	$8,124,424.99
		Sanyo VPCCG20BK	50,280	$404,436.77	$8,645,463.76
		Sanyo VPCPD2BK	49,579	$379,214.33	$8,048,723.22
		Sony MHSCM5V	50,284	$395,348.35	$8,605,487.65
	Professional	Canon XHA1S	3,290	$505,771.20	$10,676,938.80
		JVC GYHD200U	3,193	$454,786.20	$10,398,220.80
		Sony HDRAX2000	3,195	$468,166.20	$10,711,138.80
		Sony HXRNX5U	3,194	$505,273.65	$12,267,532.35
	Standard	Canon FS300	49,843	$672,294.66	$14,280,110.10
		Canon HFR11	14,158	$434,323.65	$9,462,118.35
		JVC GZHD620B	13,888	$406,094.13	$8,620,412.37
		Sony DCRDVD650	49,795	$677,205.10	$14,211,499.90
		Sony DCRSX63	50,120	$675,650.30	$14,310,229.70
		Sony HDRCX150	14,401	$349,218.90	$7,556,930.10
Computers	Smartphone	C8506B	16,107	$376,642.98	$8,159,907.03
		C8506S	15,942	$376,324.70	$8,072,776.93
		C8506W	15,989	$378,550.84	$8,095,460.35

1 - 57/158 件中　　ページ 1 /3

ページバーには 2 つのコンポーネントが含まれています。1 つはレコード件数を示し、ページ間を移動するたびに動的に変化します。もう 1 つは一連のページコントロールで、ページの前後や、特定のページ番号への移動に使用することができます。下図は、ページバーの例を示しています。



1 - 57/158 件中　　ページ 1 /3

下表は、インタラクティブレポートでのページ間の移動に使用可能なページコントロールについての説明です。

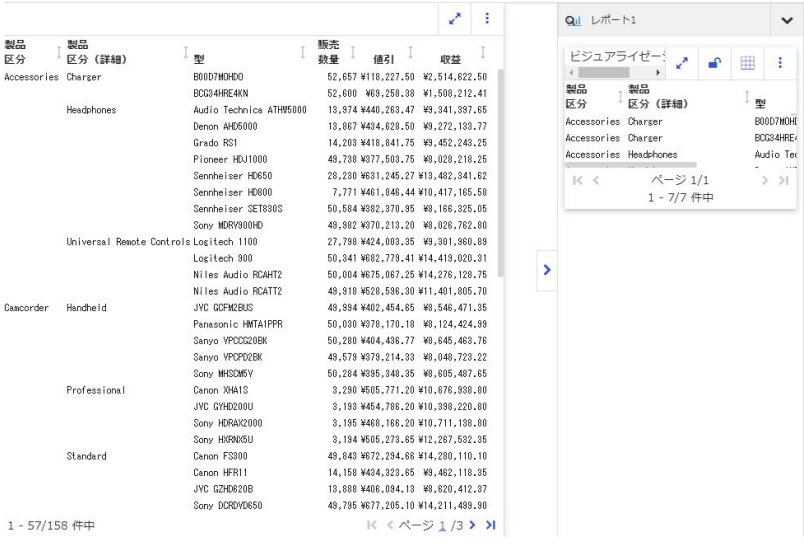
ボタン	操作
	レポートの先頭ページに移動します。

<	レポートの前のページに移動します。
1	レポートで表示中のページ番号を示します。この番号をクリックし、新しい番号入力することで、レポートの別のページに移動することができます。
>	レポートの次のページに移動します。
>|	レポート最終ページに移動します。

ページバーのコントロールは、状況依存型であり、レポートのページ間を移動する際に使用可能になります。フィルタが設定されたレポートを作成または受信した場合、レコードおよびページ情報は、フィルタが設定されたレポートの状態を反映するため、レポート全体のレコード合計件数は反映されません。デフォルト設定では、各ページには 57 件のレコードが表示され、ページコントロールは右揃えされます。このページバーは、コンテナのサイズに合わせて自動的に調整され、レポートを最小化すると、表示される情報が変更されます。下図は、この動作の例を示しています。



ページナビゲーションオプションは、ユーザが新しいリストコンポーネントをオフラインで作成した場合にも表示されます。具体的には、下図のように、[分析] パネルで保存した新しいレポートコンポーネントには、同一のナビゲーションオプションが表示されます。

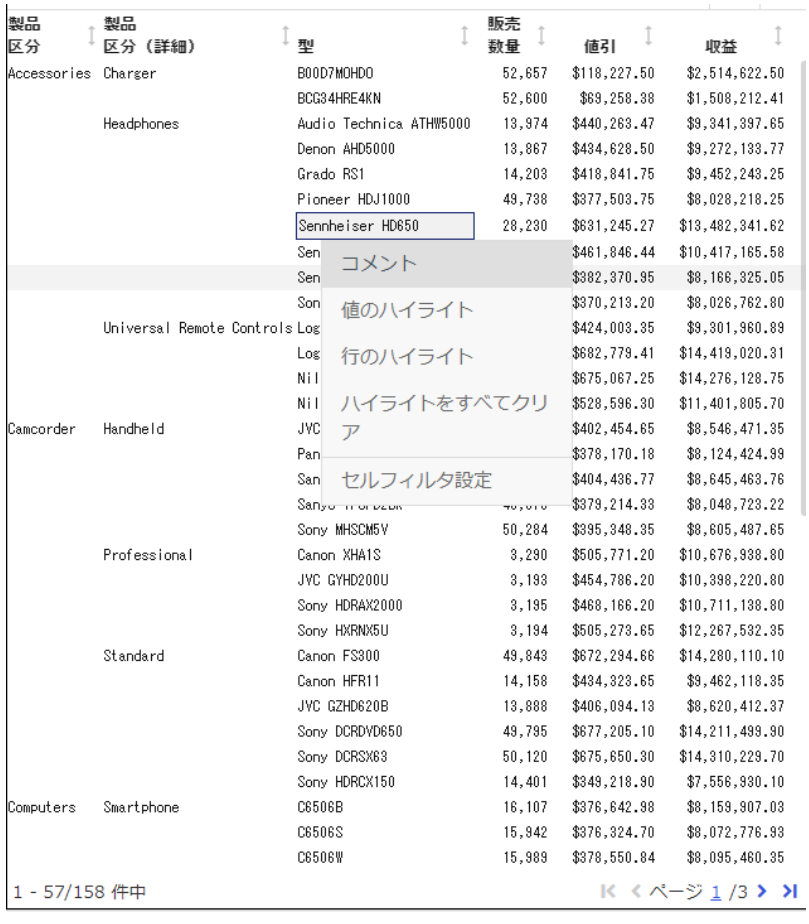


InfoAssist でインタラクティブレポートを作成する場合、表示するレコードの件数やページ詳細の位置揃え、その他のページバーの表示をカスタマイズすることができます。[フォーマット] タブの [機能] グループで、[Analytic Document オプション] をクリックします。

Analytic Document へのコメントの追加

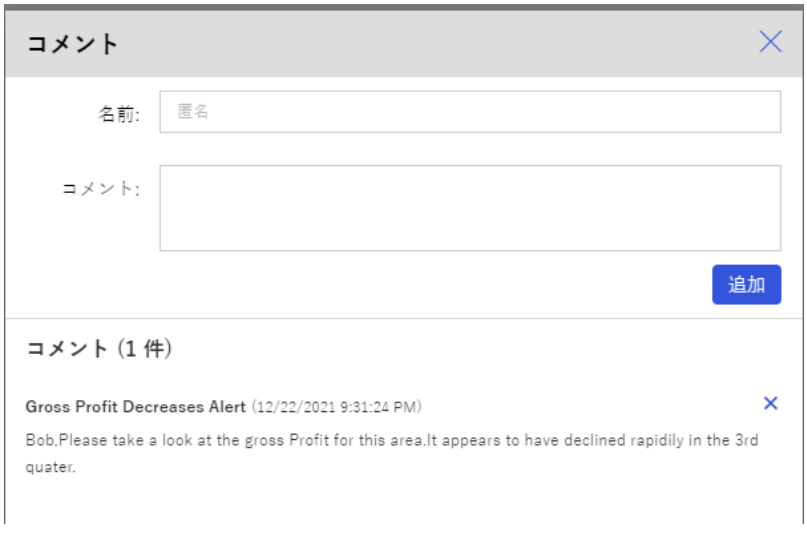
Analytic Document 機能を使用するインタラクティブレポートでは、個別のセルにコメントを追加することができます。たとえば、粗利益のデータを使用し、四半期または年単位の減少についてのコメントを追加する必要がある場合、粗利益のセルにコメントを追加することができます。このインタラクティブレポートの受信者は、このコメントを表示し、コメントに対して返信することができます。コメント機能は、レポート作成時に、任意のセルの [セル] メニューからのみ使用可能でです。、

下図のように、コメントを挿入するには、レポートのセルをクリックします。



製品区分	製品区分（詳細）	型	販売数量	値引	収益
Accessories	Charger	B00D7MOHDO	52,657	$118,227.50	$2,514,622.50
		BCG34HRE4KN	52,600	$69,258.38	$1,508,212.41
	Headphones	Audio Technica ATHW5000	13,974	$440,263.47	$9,341,397.65
		Denon AHD5000	13,867	$434,628.50	$9,272,133.77
		Grado RS1	14,203	$418,841.75	$9,452,243.25
		Pioneer HDJ1000	49,738	$377,503.75	$8,028,218.25
		Sennheiser HD650	28,230	$631,245.27	$13,482,341.62
		Sen		$461,846.44	$10,417,165.58
		Sen		$382,370.95	$8,166,325.05
		Son		$370,213.20	$8,026,762.80
	Universal Remote Controls	Log		$424,003.35	$9,301,960.89
		Log		$682,779.41	$14,419,020.31
		Nil		$675,067.25	$14,276,128.75
		Nil		$528,596.30	$11,401,805.70
Camcorder	Handheld	JVC		$402,454.65	$8,546,471.35
		Pan		$378,170.18	$8,124,424.99
		San		$404,436.77	$8,645,463.76
		San		$379,214.33	$8,048,723.22
		Sony MHSCM5V	50,284	$395,348.35	$8,605,487.65
	Professional	Canon XHA1S	3,290	$505,771.20	$10,676,938.80
		JVC GYHD200U	3,193	$454,786.20	$10,398,220.80
		Sony HDRAX2000	3,195	$468,166.20	$10,711,138.80
		Sony HXRNX5U	3,194	$505,273.65	$12,267,532.35
	Standard	Canon FS300	49,843	$672,294.66	$14,280,110.10
		Canon HFR11	14,158	$434,323.65	$9,462,118.35
		JVC GZHD620B	13,888	$406,094.13	$8,620,412.37
		Sony DCRDVD650	49,795	$677,205.10	$14,211,499.90
		Sony DCRSX63	50,120	$675,650.30	$14,310,229.70
		Sony HDRCX150	14,401	$349,218.90	$7,556,930.10
Computers	Smartphone	C6506B	16,107	$376,642.98	$8,159,907.03
		C6506S	15,942	$376,324.70	$8,072,776.93
		C6506W	15,989	$378,550.84	$8,095,460.35

[コメント] ダイアログボックスには、コメントの名前およびコメントテキストを入力することができます。下図は、コメントの例を示しています。

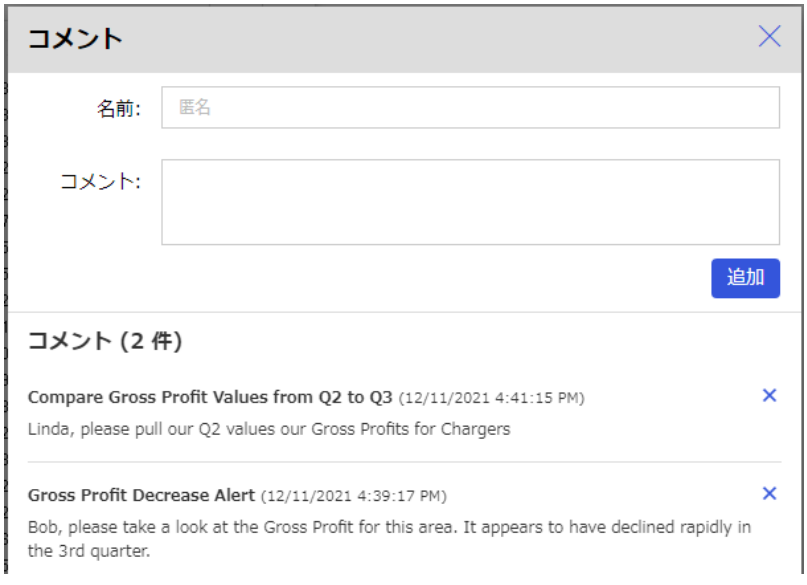


[追加] をクリックし、コメントを保存します。下図のように、コメントが保存されます。



コメントを保存せずに [コメント] ダイアログボックスを閉じると、コメントは保持されません。

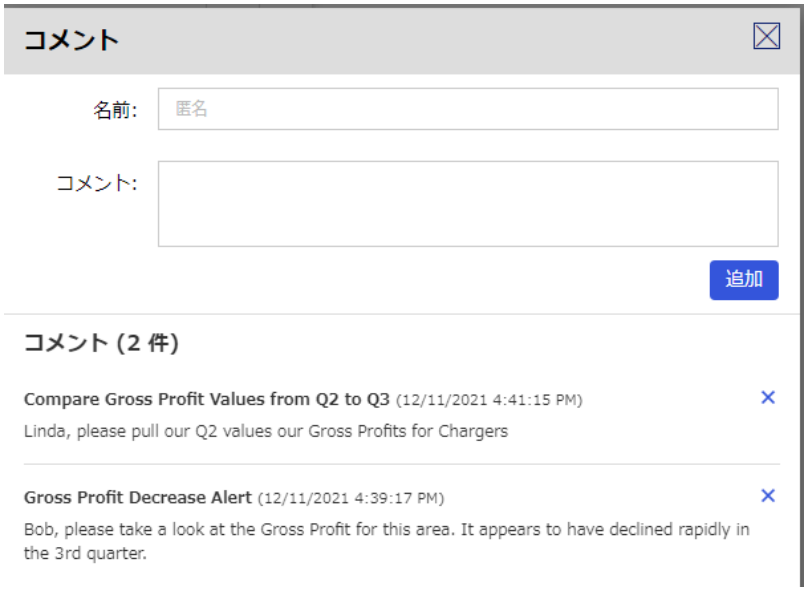
下図のように、コメントは、単一セッションで複数追加することや、企業内の他のユーザとインタラクティブに追加することができます。



下図のように、[コメント] ダイアログボックスを閉じると、セルにコメントが存在することを示すバブルアイコンが表示されます。



このバブル上にマウスポインタを置くと、最新のコメントが表示されます。下図のように、[すべて表示] をクリックすると、[コメント] ダイアログボックスが開き、このセル値に関するコメントの履歴を表示することができます。



インタラクティブグラフ

グラフはデータを視覚的に表現し、動向や傾向、予測を示します。データの意味を伝える場合、そのデータを表形式で表現するよりも、グラフを使用した方が分かりやすい場合がよくあります。グラフはデータを高度に集約し、ユーザにとって最重要なデータを分かりやすく表現します。

グラフを使用すると、量的情報を視覚的に伝達することができます。グラフデータに形状やフォーマットを適用することで、多数のデータ値間のパターンや関係を明らかにすることができます。グラフでは、詳細な調査を要する異常値が明確になります。

データの表示に適したグラフを選択することが重要です。InfoAssist には、基本グラフと詳細グラフの両方が含まれたグラフライブラリが用意されています。多種多様なグラフから、データの表示に最適なグラフを選択することができます。

InfoAssist では、Analytic Document を有効にしてインタラクティブグラフを作成したり、グラフタイプを変更したり、オンラインまたはオフライン分析で使用可能なツールを利用してグラフを実行したりできます。

インタラクティブグラフでは、HTML5 拡張グラフの使用がサポートされます。この拡張グラフは、WebFOCUS 拡張グラフの構造、ユーザ独自の拡張グラフを作成する手順、およびグラフライブラリにユーザ独自のグラフタイプを追加する手順についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』の「グラフライブラリへのユーザ独自のグラフタイプの追加」を参照してください。

新しいグラフプロパティが含まれていない AHTML グラフを作成し (具体的には BUCKET 構文を使用しない AHTML グラフ)、実行時に [詳細グラフ] ツールを使用して現在のグラフタイプを以下のいずれかのグラフタイプに変更すると、エラーが発生します。

- タグクラウド
- じょうご
- ピラミッド
- 滝型
- ヒストグラム
- レーダー線
- レーダー面
- 3D 面

デフォルト設定では、元のグラフが BUCKET 構文を使用する AHTML グラフの場合、上記のグラフタイプは [詳細グラフ] ツールには表示されません。これらのグラフタイプは、次の場合に使用可能になります。

- 元のグラフが BUCKET 構文を使用しないグラフの場合
- グラフが表形式レポートから作成された場合

インタラクティブダッシュボード

ドキュメントに複数のコンテンツタイプ (例、レポート、グラフ、イメージ、テキスト) を挿入し、インタラクティブダッシュボードを作成することができます。ダッシュボードに挿入したレポートやグラフ自体がインタラクティブでない場合でも、ダッシュボード上のすべてのレポートおよびグラフが Analytic Document 出力フォーマットを使用して実行されます。

また、ダッシュボード上のレポートやグラフでフィルタとして機能するインタラクティブ入力フォーム、および 1 つ目の入力フォームで選択した値に基づいて 2 つ目の入力フォームに値が表示されるカスケード (連鎖) 入力フォームを挿入することもできます。

インタラクティブダッシュボードの入力フォームを追加するためには、インタラクティブダッシュボードの出力フォーマットを、Analytic Document または Analytic PDF に設定する必要があります。

入力フォーム

[入力フォーム] グループには、ダッシュボードにコンポーネントを挿入するボタンが含まれます。このグループは、ドキュメントの出力フォーマットを Analytic Document または Analytic PDF に設定した場合にのみ表示されます。これらのオプションには、[挿入] タブの [入力フォーム] グループからアクセスすることができます。

ダッシュボードにフィルタを適用する際に使用可能な入力フォームには、次のタイプがあります。

- **ドロップダウン**　ドロップダウン入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- **リストボックス**　リスト入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- **チェックボックス**　チェックボックス入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- **ラジオボタン**　ラジオボタン入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。
- **テキストボックス**　テキストボックス入力フォームのプレースホルダをキャンバスの左上に挿入します。

注意：入力フォームに入力される値の表示は、データの設定によって異なります。たとえば、サンプルデータを有効にした場合、入力フォームには、次のようなサンプルデータが表示されます。

```
WF_RETAIL1
WF_RETAIL2
WF_RETAIL3
```

ターゲットレポート

フィールドを入力フォームにバインドした場合、デフォルトのターゲットレポートは、そのフィールドをドラッグした元のレポートになります。[Analytic Document オプション] ダイアログボックスを使用して、入力フォームにターゲットレポートを追加したり、入力フォームからターゲットレポートを削除したりできます。

レポートをターゲットレポートにするには、次の要件のいずれかを満たす必要があります。

- ターゲットレポートに、ソースフィールドと同一名のフィールドが存在する (実フィールド名または AS 名)。
- ターゲットレポートのマスターファイルに、ソースフィールドと同一名のフィールドが存在する。

フィールドのタイトルとユーザが入力したタイトルが同一であるためにターゲットレポートになる要件を満たしている場合、そのタイトルが変更されると、そのレポートは自動的にターゲットから除外されます。

手順　入力フォームをダッシュボードに追加するには

ここでは、ドキュメントモードでレポートを作成し、そのレポートのフィールドの 1 つに単一入力フォームをバインドする方法でダッシュボードを作成する手順について説明します。

InfoAssist をドキュメントモードで開き、次の手順を実行します。

1. [ホーム] タブの [出力タイプ] メニューまたはキャンバス右下のステータスバーの [出力タイプ] メニューから、デフォルト設定の出力タイプを受容するか [Analytic PDF] を選択します。
2. [挿入] タブの [レポート] グループで、[レポート] をクリックします。

   キャンバスにプレースホルダが表示されます。
3. キャンバスまたは [クエリ] ウィンドウにフィールドをドラッグしてレポートを作成し、ダッシュボードの作成を開始します。
4. [挿入] タブの [入力フォーム] グループで、入力フォームのタイプ (例、ドロップダウン、リスト、チェックボックス、ラジオボタン、テキストボックス) を選択します。

   選択したタイプの入力フォームが、キャンバス左上に表示されます。レポートがキャンバスの左上に配置されている場合、入力フォームをレポートの外側に移動する必要があります。

5. 次のいずれかの方法で、レポートを選択し、そのレポートのフィールドの 1 つを入力フォームにバインドします。

   - **[クエリ] ウィンドウ**　レポートを選択します。[クエリ] ウィンドウから、バインドするフィールドをドラッグし、入力フォーム上にドロップします。
   - **キャンバス**　キャンバス上でレポートを選択します。レポートが編集可能になります。使用するデータが含まれているフィールドを選択し、入力フォーム上にドラッグします。

   フィールドを入力フォームにバインドすると、そのフィールドの値が入力フォームに表示されます。

   注意：キャンバスに入力フォームを追加すると、ドキュメントの出力フォーマットは、Analytic Document 出力フォーマットに固定されます。非インタラクティブの出力フォーマットに切り替えるには、すべての入力フォームを削除する必要があります。

ターゲットとソースとしての複数レポートの使用

インタラクティブダッシュボードには、複数のレポートおよびグラフを追加することができます。各レポートには、複数の入力フォームを関連付けることができます。

手順　複数レポートを使用してダッシュボードを作成するには

次の手順では、ダッシュボードの 2 つのレポートに入力フォームを設定する方法について説明します。ここで使用する例では、最初のレポートに、さまざまな地域で販売された家電製品のカテゴリに関する情報が含まれています。[製品,区分] フィールドは、ラジオボタンにバインドされます。各ラジオボタンは、家電製品の特定の製品区分を表します。特定の製品区分 (例、Accessories) のラジオボタンを選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

2 つ目のレポートには、家電製品の消費者の性別と地域に関する情報が含まれています。[性別] フィールドは、ドロップダウンリストにバインドされます。ドロップダウンリストには、性別の値が F (女性) または M (男性) として表示されます。ドロップダウンリストから性別を選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

1. wf_retail_lite マスターファイルを使用して、InfoAssist をドキュメントモードで開きます。
2. ドキュメントに次の 2 つのレポートを挿入してインタラクティブダッシュボードを作成します。各レポートには、以下のフィールドを追加します。

   レポート 1

   - 製品,区分

- 店舗,ビジネス,地方区分
- 値引
- 粗利益

レポート 2

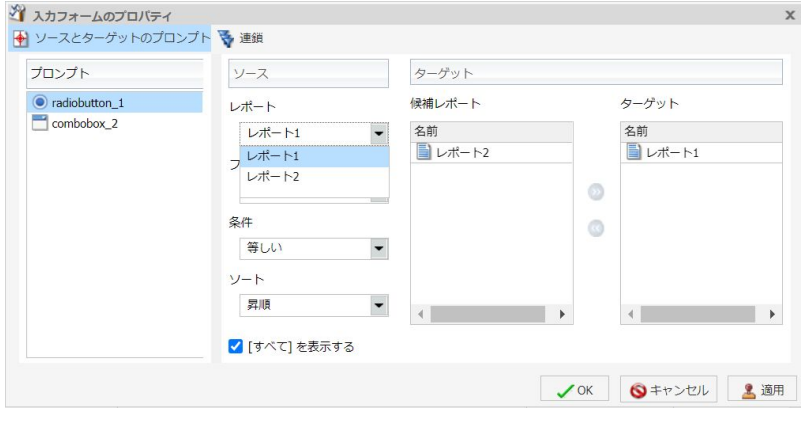
- 性別
- 顧客,大陸
- 製品,区分

3. [挿入] タブの [入力フォーム] グループで、次の入力フォームを選択してダッシュボードに挿入し、それぞれに対応するレポートの位置に移動します。
   - **ラジオボタン**　この入力フォームはレポート 1 に使用します。
   - **ドロップダウンリスト**　この入力フォームはレポート 2 に使用します。
4. フィールドにバインドするラジオボタン入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

   [入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

   [プロンプト] リストには、手順 3 でドキュメントに追加した 2 つの入力フォーム (radiobuttons_1 および combobox_2) が表示されます。
5. [レポート] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポートを選択します。

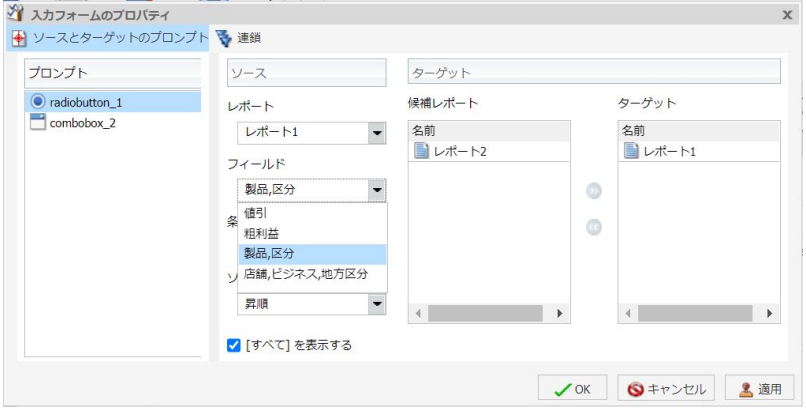
   この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) に対して [レポート 1] (地方区分レポート) を選択します。



次の手順では、地方区分レポートの [製品,区分] フィールドをラジオボタンにバインドして、このレポートのフィルタを作成します。

6. [フィールド] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドを選択します。

   この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) に対して [製品,区分] フィールドを選択します。

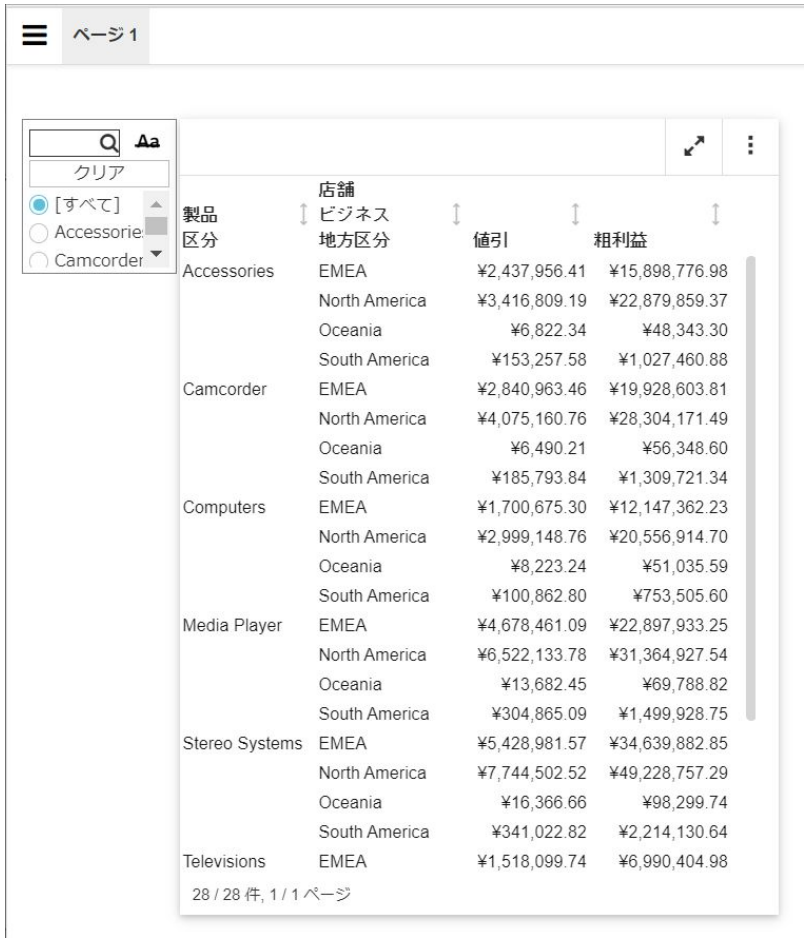


   注意：必要に応じて、[ソート] ドロップダウンリストから [昇順] または [降順] を選択します。

7. [OK] をクリックします。

   これで、入力フォームがドキュメント上のフィールドにバインドされました。

下図では、ラジオボタンが [製品,区分] フィールドにバインドされています。このラジオボタンには、レポートをフィルタするための製品区分がすべて表示されます。



次の手順では、性別レポート (レポート 2) の [性別] フィールドをドロップダウンリスト入力フォームにバインドします。

8. フィールドにバインドするドロップダウンリスト入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

   [入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

   [プロンプト] リストでは、ドキュメント上で選択した入力フォーム (combobox_2) が選択されています。

9. [レポート] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポート (レポート 2) を選択します。

   次の手順では、性別レポートの [性別] フィールドをドロップダウンリストにバインドして、このレポートのフィルタを作成します。

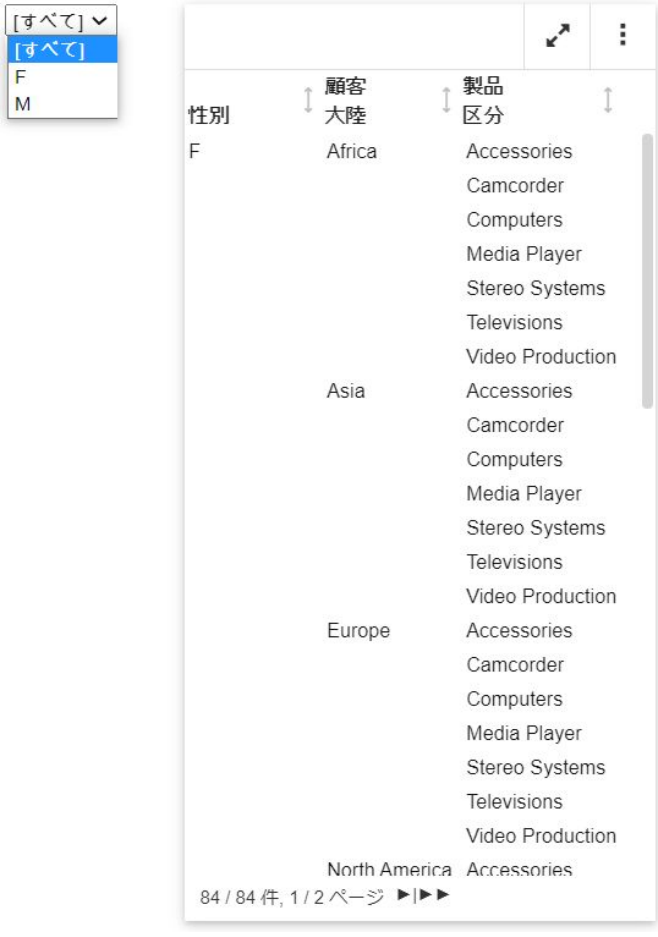
10. [フィールド] ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドする [性別] フィールドを選択します。

    [性別] フィールドを選択すると、性別レポート (レポート 2) が [ターゲット] リストに表示され、地方区分レポート (レポート 1) が [候補レポート] リストに表示されます。

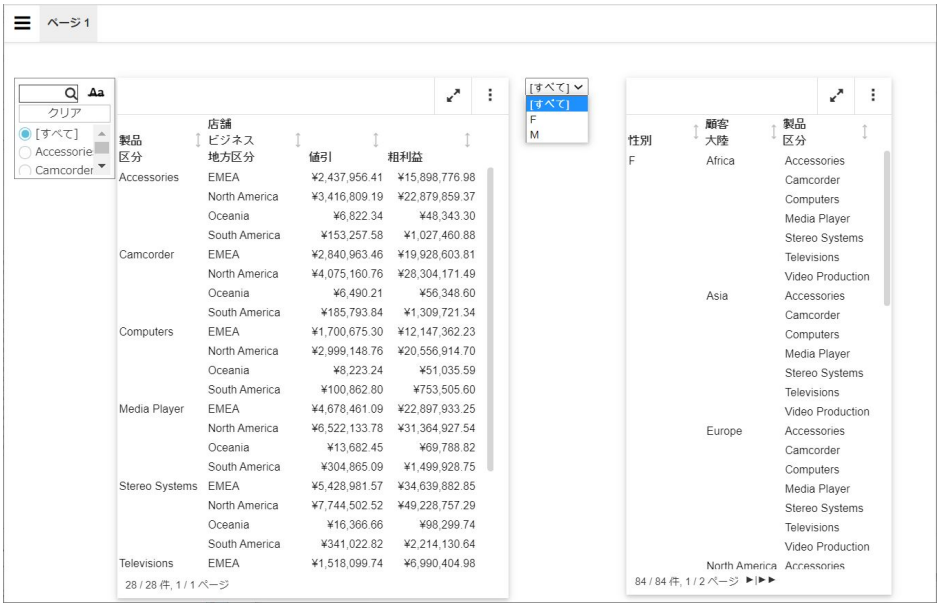
    注意：レポートを [候補レポート] リストから [ターゲット] リストに移動するには、レポートを選択し、[追加] 矢印をクリックします。レポートを [ターゲット] リストから削除するには、レポートを選択し、[削除] 矢印をクリックします。複数のレポートを選択するには、Ctrl キーを押しながらレポートを順にクリックします。

11. [OK] をクリックします。

これで、入力フォームがドキュメント上の [性別] フィールドにバインドされました。下図のように、[F] または [M] を選択することで性別レポートをフィルタすることができます。



下図は、完成したダッシュボードを示しています。



手順　フィールドを変更するには

入力フォームのバインド先となるフィールドを変更することができます。

1. ドキュメントモードでインタラクティブダッシュボードを作成するか、既存のダッシュボードを開き、特定のフィールドに入力フォームをバインドします。
2. 構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

   [入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [フィールド] メニューから別のフィールドを選択します。

   入力フォームのソースフィールドを変更すると、既存の入力フォームおよび従属 (子) の入力フォームのすべてが連鎖から削除されることを示す警告メッセージが表示されます。
4. [OK] をクリックして、警告メッセージを閉じます。
5. [OK] をクリックして、[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

   入力フォームが、新しいソースフィールドで更新されます。

手順　フィルタ条件を変更するには

1. ドキュメントモードでインタラクティブダッシュボードを作成するか、既存のダッシュボードを開き、特定のフィールドに入力フォームをバインドします。

2. 変更する入力フォームを右クリックし、コンテキストメニューから [プロパティ] を選択します。

   [入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [条件] ドロップダウンリストから、入力フォームのフィルタ条件を選択します。オプションには、[等しい]、[等しくない]、[より小さい]、[以下]、[より大きい]、[以上] があります。

4. [OK] をクリックします。

   選択したフィルタ条件が入力フォームに適用されます。

手順　ダッシュボードに複数の入力フォームを追加するには

1. ドキュメントモードでインタラクティブダッシュボードを作成するか、少なくとも 1 つのレポートを含む既存のダッシュボードを開き、少なくとも 2 つの入力フォームを追加します。
2. 追加した入力フォームにフィールドをバインドします。

手順　入力フォームに連鎖を設定するには

ドキュメントに複数の入力フォームが存在する場合、これらの入力フォームに連鎖を設定することで、1 つ目の入力フォームで選択された値に基づいて、2 つ目の入力フォームに値を挿入することができます。複数の入力フォームに連鎖を設定すると、親子関係が形成され、親の入力フォームに基づいて、子の入力フォームで選択可能なオプションがフィルタされます。

1 つの入力フォームを複数の入力フォームの親として使用することはできますが、複数の入力フォームの子として使用することはできません。

1. ドキュメントモードでインタラクティブダッシュボードを作成するか、既存のダッシュボードを開き、少なくとも 2 つの入力フォームをフィールドにバインドします。
2. 構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] を選択します。

   [入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [連鎖] をクリックします。

   デフォルト設定では、[入力フォームのプロパティ] ダイアログボックスの [連鎖] セクションには、「Cascade1」という名前の連鎖が表示されます。

   - [連鎖の新規作成]  ボタンをクリックすると、新しい連鎖を作成することができます。

- [選択した連鎖の削除]  ボタンをクリックすると、選択した連鎖を削除することができます。

4. 入力フォームを追加する連鎖を選択します。
5. [利用可能なプロンプト] リストで、追加する入力フォームを選択します。
6. [追加] 矢印をクリックして、選択した入力フォームを [選択したプロンプト] リストボックスに移動します。

   注意：[選択したプロンプト] リストボックスから入力フォームを削除するには、入力フォームを選択し、[削除] 矢印をクリックします。
7. 手順 5 と手順 6 を繰り返し、連鎖の一部とする別の入力フォームを追加します。

   デフォルト設定では、入力フォームの階層は [選択したプロンプト] リストに追加した順序で適用されます。入力フォームの連鎖は、上から下の順に設定されます。[選択したプロンプト] リストで、上位の入力フォームが、下位の入力フォームの親になります。
8. 入力フォームの階層を変更するには、[選択したプロンプト] リストボックスで入力フォームを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] の矢印をクリックします。
9. [OK] をクリックします。

   これで、連鎖が作成されます。
10. レポートを実行します。

    注意：複数の連鎖を設定した場合、最後に操作した連鎖に基づいてレポートがフィルタされます。

インタラクティブコンテンツの操作

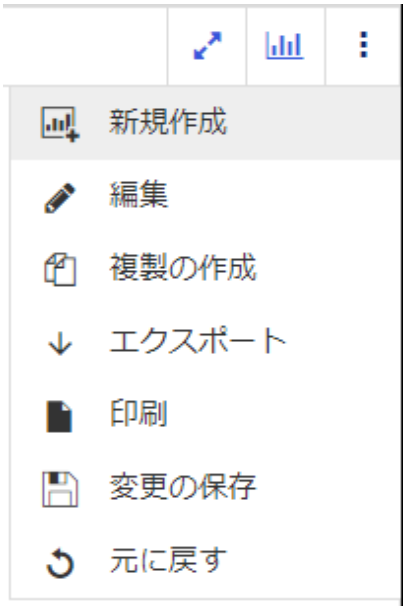
強力かつ柔軟性の高い Analytic Document 機能を使用して、ユーザ環境の一意のブラウザセッションで、オンラインでもオフライン (サーバに接続していない状態) でもインタラクティブコンテンツを操作することができます。レポート、グラフ、および 1 つまたは複数のインタラクティブレポートやグラフで構成されるダッシュボードは、WebFOCUS 開始ページから配信したり、Email 送信したり、アクセスしたりできます。カスタマイズしたコンテンツをユーザのデスクトップまたはモバイルデバイスへ直接送信できるため、ユーザは、データのディスカバリおよび探索をサポートする環境で、これらの項目をインタラクティブに操作することができます。

インタラクティブコンテンツは、開発者によってユーザ環境で作成、配信されます。開発者が、Analytic Document 出力フォーマットでこのコンテンツを保存した場合、ユーザは Analytic Document の機能を利用して、ユーザ独自の視点からのデータ特性を示す新しいレポートやグラフを作成することができます。たとえば、インタラクティブコンテンツにアクセスしてレポートやグラフを追加し、分析能力を最大限に高めることができます。他のレポートやグラフにドリルダウンすることも、[オートドリル] 機能を利用してデータ階層をナビゲートすることもできます。また、グラフタイプを変更したり、使用可能な他のフォーマット設定オプションにアクセスしたりできます。これらの機能を利用することで、データを多角的かつ柔軟に分析することができます。インタラクティブコンポーネントから直接データをエクスポートし、Microsoft Excel および HTML などのツールを使用して分析を続けることも可能です。

開発者は、データおよび情報傾向の分析と確認のために、これらのインタラクティブレポート、グラフ、ダッシュボードをユーザと共有します。たとえば、ユーザのデータ内のパターンを示すレポートまたはグラフを受信することができます。ユーザは、このコンテンツから新しいレポートやグラフを作成して独自の分析を深め、インタラクティブコンテンツを操作しながらさまざまなシナリオを検証することができます。

コンテンツのインタラクティブな操作性は、標準のグラフィカルユーザインターフェース (GUI) オプションでサポートされており、タスクのすばやい実行が可能です。たとえば、[⋮] (参照) メニューからは、新しい項目の作成や印刷、エクスポートなどのオプションにアクセスできます。ハンバーガーメニューでは、フルスクリーンモードを元に戻すことができます。次のようなツールを使用して、Analytic Document のインタラクティブコンテンツを効率的に操作することができます。

下図のように、[⋮] (参照) メニューのオプションを使用して、[エクスポート] などの基本コマンドやその他のオプションを実行することができます。



[⋮] (参照) メニューでは、次のオプションを使用してコンポーネントを変更することができます。

新規作成　元のアーティファクトで選択したフィールドに基づいて、新しいレポートまたはグラフを作成します。コンポーネントがレポートの場合、新しいレポートが作成されます。同じように、コンポーネントがグラフの場合は、新しいグラフが追加されます。

編集　既存のレポートまたはグラフのコンテンツを編集します。グラフツールが表示され、既存の選択を変更することができます。

複製の作成　既存のコンポーネントの複製を作成します。複製は、対比的なアーティファクトを作成する際のテンプレートとして使用することができます。この項目は分析パネルに配置され、表示および変更することができます。

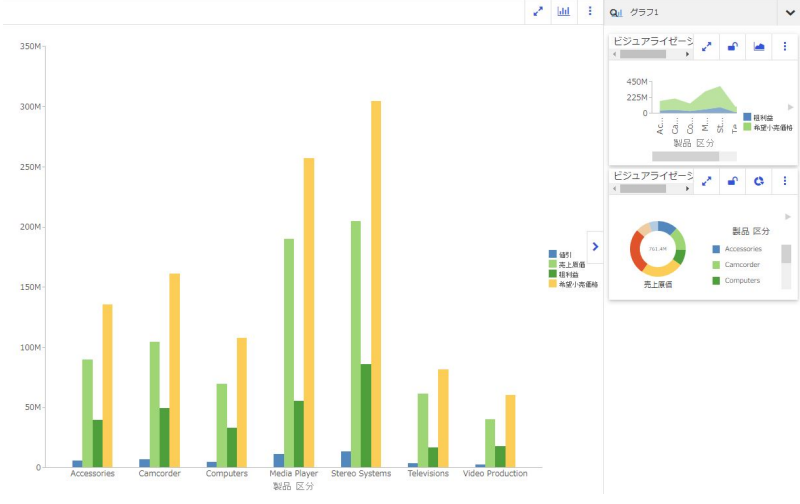
エクスポート　現在のコンポーネントから元のデータまたはイメージをエクスポートします。レポートの場合、Excel、カンマ区切りファイル (CSV)、HTML フォーマットでエクスポートすることができます。グラフの場合、Excel、カンマ区切りファイル (CSV)、イメージフォーマット (PNG) でエクスポートすることができます。

印刷　レポートまたはグラフをブラウザから印刷します。

変更の保存　グラフ出力のコピーを、現在の状態でユーザのマシンの [ダウンロード] フォルダに保存します。この出力ファイルのデフォルト名は ARhtml.html で、UTC (協定世界時) のタイムスタンプが追加されます。

元に戻す　レポートまたはグラフを元の状態に戻します。

インタラクティブコンポーネントから新しいレポートまたはグラフを作成した場合、これらは分析パネルに表示され、新しいコンポーネントとして個別にインタラクティブ操作することができます。分析パネルは画面右側に表示されます。下図は、分析パネルを示しています。



分析パネルを使用することで、ユーザ独自のシナリオを作成しながら確認することができます。これにより、さまざまな結果を比較し、幅広い視点でデータを捉えることができます。また、グラフタイプの変更や、結果のロックおよびロック解除が可能です。この機能は、結果の操作を回避したい場合に使用されます。分析パネルのアーティファクトはすべて、[⋮] (参照) メニューの [複製の作成] をクリックして複製を作成することができます。これにより、既存のアーティファクトの複製を作成して、特定コンポーネントの比較分析を実行することができます。また、[⋮] (参照) メニューの [編集] をクリックして、分析パネルのアーティファクトを編集することもできます。この場合、グラフツールが表示され、現在のコンポーネントについて既存の選択を変更することができます。

下図のように、元のグラフまたは作成した新しいグラフのグラフタイプを変更することもできます。

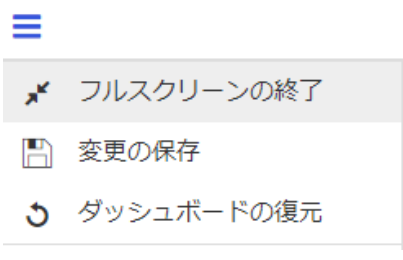


これらのツールおよび機能を使用して、企業にとって漸進的なコンテンツを作成することができます。

主要コンポーネントおよび分析パネルのコンポーネントについては、下図のように、最大化ボタンをクリックしてコンテンツを最大化することができます。



インターフェースが最大化されている場合、下図のようにハンバーガーメニューをクリックして、元の表示形式に戻したり、フルスクリーンモードを終了したりできます。



インターフェースが最大化されていない場合 (デフォルト設定)、ツールバーには最大化ボタンが表示されます。グラフタイプをすばやく変更するためのボタンも表示されますが、これはグラフコンポーネントにのみ適用されます。また、その他のオプションにナビゲート可能な [⋮] (参照) メニューも表示されます。下図は、これらのオプションを示しています。



レポートコンポーネントのデータをソートする場合は、ソートフィールドインジケータを使用することもできます。フィールドは、昇順または降順にソートできます。フィールドをソートする場合、下図のように、対応するインジケータが列タイトル内に表示されます。



製品区分	売上原価	粗利益	収益	販売数量
Video Production	¥40,105,657.00	¥17,947,619.62	¥58,053,276.62	199,749
Televisions	¥61,551,109.00	¥16,830,023.81	¥78,381,132.81	105,188
Computers	¥69,807,664.00	¥33,508,818.12	¥103,316,482.12	351,777
Accessories	¥89,753,898.00	¥39,854,440.53	¥129,608,338.53	511,667
Camcorder	¥104,866,857.00	¥49,598,845.24	¥154,465,702.24	455,244
Media Player	¥190,240,481.00	¥55,832,578.36	¥246,073,059.36	771,934
Stereo Systems	¥205,113,863.00	¥86,181,070.52	¥291,294,933.52	1,114,332

7 / 7 件, 1 / 1 ページ

この例では、粗利益のデータが昇順で値の小さい順にソートされています。この矢印を再度クリックすると、フィールドは降順で大きい順にソートされます。もう一度矢印をクリックすると、下図のように両方向を指すデフォルト設定の矢印に戻り、ソートが適用されていないことを示します。



製品区分	売上原価	粗利益	収益	販売数量
Accessories	¥89,753,898.00	¥39,854,440.53	¥129,608,338.53	511,667
Camcorder	¥104,866,857.00	¥49,598,845.24	¥154,465,702.24	455,244
Computers	¥69,807,664.00	¥33,508,818.12	¥103,316,482.12	351,777
Media Player	¥190,240,481.00	¥55,832,578.36	¥246,073,059.36	771,934
Stereo Systems	¥205,113,863.00	¥86,181,070.52	¥291,294,933.52	1,114,332
Televisions	¥61,551,109.00	¥16,830,023.81	¥78,381,132.81	105,188
Video Production	¥40,105,657.00	¥17,947,619.62	¥58,053,276.62	199,749

1 - 7/7 件中　　ページ 1/1

グラフの使用時には、グラフタイプを変更して別の角度からデータを確認することができます。レポートでは、列タイトルメニューを使用して、グラフ/集約テーブルまたはピボットテーブルを作成したり、セルメニューを使用して項目をハイライト表示したりできます。これらのオプションは、配信された初期レポート、グラフ、ダッシュボードおよび分析パネルの新しいコンポーネントのいずれにも使用することができます。レポートの作成者が有効にした場合は、[マルチドリルダウン]、[オートドリル]、[オートリンク] の機能を使用して、データをさまざまなレベル (階層や別のレポートなど) でナビゲートすることもできます。これらのリンクは青字の下線付きハイパーリンクとして表示され、マウスポインタを任意のグラフ領域に置くか、レポートの場合と同じようにリストからオプションを選択すると表示されます。これらのリンクは、データ階層のナビゲート時またはインタラクティブコンテンツでの別の項目へのドリルダウン時にクリックすることができます。

インタラクティブコンテンツの作成者は、[マルチドリルダウン] 機能を使用して、レポートまたはグラフのデータフィールドに対して複数のドリルダウンリンクを作成することができます。この機能の使用は、Web サイト、他のビジュアライゼーション、別のレポートへのリンクなどカスタムリンクが有益な場合に特に有効です。インタラクティブコンテンツの作成者が有効にした場合、[オートドリル] 機能を使用して、データソースのディメンション階層内のさまざまなレベルにナビゲートすることができます。これにより、ユーザの情報ニーズに応じて、特定エリアのデータを確認したり、データソース構造内を移動したりできます。インタラクティブコンテンツの操作では、[オートドリル] の基本的な機能を使用してさまざまな結果を生成することができます。たとえば、インタラクティブコンテンツで [オートドリル] 機能を使用し、データ階層内のドリルアップやドリルダウンを実行することで分析をさらに深めることができます。ただし、ドリルアップまたはドリルダウンを実行するとインタラクティブコンテンツがリフレッシュされ、新しいレポートやグラフが表示されるため、[グラフ/集約] メニューから作成したコンテンツは削除されます。これは、既存レポートまたはグラフで [⋮] (参照) メニューから [新規作成] オプションを使用して作成した新規コンテンツにも適用されます。

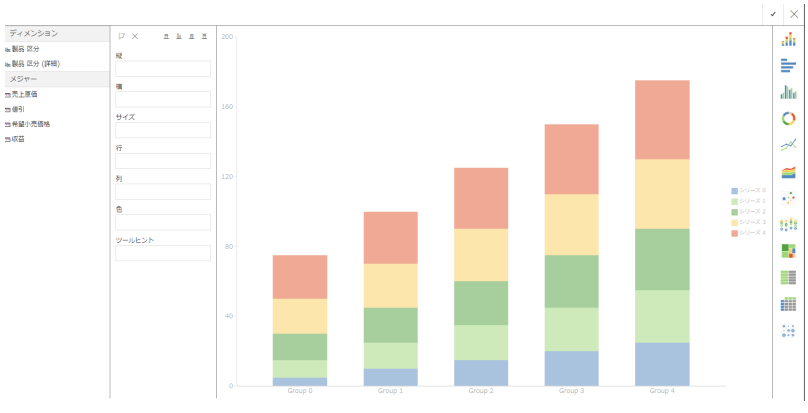
[オートリンク] 機能が有効な場合、この機能使用すると、開発環境で複数のレポートやグラフを簡単に結合できるため、組織でのレポートの活用範囲が広がります。[オートリンク] 機能を使用して、HTML レポート、インタラクティブレポート、HTML5 グラフを、フィルタで参照されている共通のソート (BY) フィールドとパラメータに基づいて、任意のフォーマットの単一グラフに動的に結合することができます。

同一ブラウザセッションで、インタラクティブコンテンツから新しいレポートおよびグラフを作成する場合、コンテンツの新しい要素にはそれぞれ一意の識別番号が順次割り当てられます。これにより、ユーザは作成した項目を確認したり管理したりできます。新しいレポートまたはグラフの左上に表示されるこの識別番号は、昇順で自動的に割り当てられます。ただし、これらは連続番号とは限りません。

また、分析パネルに複数のレポートやグラフなどの新しい情報を追加する場合、エンドユーザとして分析の各インスタンスを保存することはできません。各セッションは、現在の分析のためのみに使用されます。たとえば、アーティファクトのいずれかにマルチドリルダウンまたはオートドリルのリンクが含まれる場合、これらは実行時にインタラクティブ操作することができます。

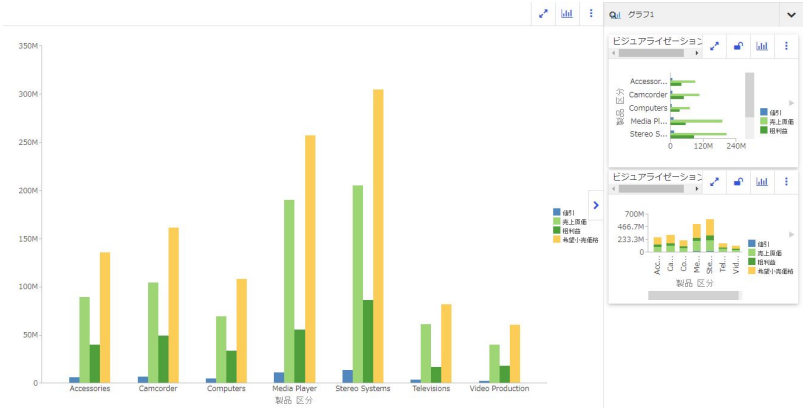
手順　エンドユーザとして新規レポートまたはグラフを作成するには

1. リンクまたは配信された添付ファイルをクリックして、インタラクティブコンテンツを開きます。必要に応じて、WebFOCUS 開始ページからインタラクティブコンテンツを開くこともできます。
   インタラクティブコンテンツが表示されます。
2. [⋮] (参照) メニューをクリックして [新規作成] を選択します。
   下図のように、グラフツールが開きます。



3. 左側ウィンドウから新しいレポートに追加するデータ値を選択して、関連するフィールドコンテナに配置します。
4. 選択した内容を受容してこれらを分析パネルに追加するには、チェックマーク ✓ をクリックしてレポートまたはグラフを閉じます。

下図のように、新しいコンポーネントが分析パネルに表示されます。

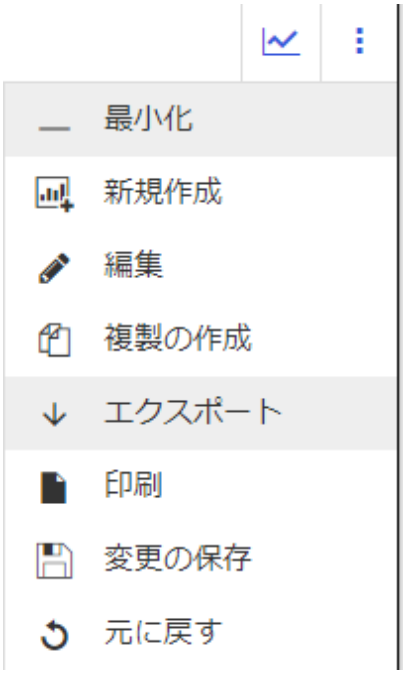


注意：この動作は新規レポートの場合も同様です、[レポート 1]、[レポート 2] のようにラベルが表示されます。

手順　レポートまたはグラフの元のデータまたはイメージをエクスポートするには

1. リンクまたは配信された添付ファイルをクリックして、インタラクティブコンテンツを開きます。必要に応じて、WebFOCUS 開始ページからインタラクティブコンテンツを開くこともできます。
   インタラクティブコンテンツが表示されます。

2. 下図のように、[⋮] (参照) メニューで [エクスポート] をクリックします。



3. 下図のように、左側ウィンドウからエクスポートに使用する出力タイプを選択します。



4. [エクスポート] をクリックして、コンポーネントからデータをエクスポートします。
5. ローカルドライブで [ダウンロード] フォルダを開き、ダウンロードしたファイルを特定します。
6. 関連するアプリケーション (例、Microsoft Excel またはブラウザ) でファイルを開きます。

インタラクティブコンテンツの使用に関する注意事項

Analytic Document を使用するコンテンツを作成または操作する際は、次の注意事項を参照してください。

ブラウザサポートに関する注意点は次のとおりです。

- Active PDF (APDF) は、Analytic Document の [レガシー] スタイルの出力フォーマットです。APDF 出力フォーマットは、Flash Player をサポートする Adobe Reader プラグインを必要とするため、Microsoft Edge ではサポートされません。
- ActiveX は Microsoft から提供されるテクノロジですが、Microsoft Edge ではサポートされません。そのため、ActiveX コントロールを必要とする Analytic Document 機能はすべて、Microsoft Edge ではサポートされません。これらの機能には、以下のものが該当します。これらは、他のブラウザでインタラクティブレポートを実行した際に列タイトルのドロップダウンメニューからアクセス可能な機能です。
  - Email として送信 (Internet Explorer のみでサポート)
  - 変更の保存 (Internet Explorer のみでサポート)
  - アクティブキャッシュ無効時の XML (Excel) エクスポート
- Firefox ブラウザで AHTML レポートを Excel にエクスポートすると、誤ったファイル拡張子が表示されます (例、.xls.xls)。ブラウザの設定を使用して、このデフォルト値を上書きすることができます。具体的には、ブラウザの [オプション] ページで [ファイルごとに保存先を指定する] ラジオボタンを選択すると、ダウンロード時にファイルを開くか、保存するかの選択を要求するプロンプトが表示されます。この方法で、ファイルの名前と拡張子を正しく指定することができます。

インタラクティブレポートに関する注意点は次のとおりです。

- 実行時に、パラメータ値を渡すドリルダウンを含むレポートにフィールドを追加したり、フィールドを削除したりすると、ドリルダウンが無効になります。これは、渡されるパラメータ値が適用されなくなるためです。
- 異なるセキュリティパスワードを使用する複数のレポートコンポーネントを AHTML ドキュメントに追加した場合、最後に追加したレポートコンポーネントのパスワードが使用されます。
- インタラクティブレポートでは、デフォルト設定で左右のセルパディングが使用されます。これにより、値と値が連結されることも、セルパディングに関する間隔の問題もなくなり、レポートの外観の統一性が保持されます。これらの設定がスタイルシートで定義されていない場合、左右のセルパディングにデフォルト設定が使用されます。
- 表示フィールドが 1 つのみの表形式レポートでは、ACROSS グループのフィールドの識別に、マスターファイルで指定された名前がデフォルト設定で表示されます。次の SET コマンドを使用することで、マスターファイルで指定された名前の代わりに、タイトルを使用してフィールドを識別することができます。

```
SET ACRSVRBTITL = ON
```

この場合、マスターファイルの TITLE 属性で指定されたタイトルが取得されます (例、TITLE = 'Product ID')。名前を使用する設定では、FIELDNAME または FIELD 属性で指定された名前が取得されます (例、FIELD = PCD)。

- [昇順にソート]、[降順にソート]、[元に戻す] のオプションは、レポートの列タイトルのドロップダウンメニューからアクセスできます。レポートのキャッシュが有効な場合、[元に戻す] オプションを使用しても、データのソート後にレポート出力を元の状態に戻すことはできません。その代わりに、「警告：元のソートを特定できません。」というメッセージが表示されます。
- インタラクティブレポートをキャッシュモードで使用する際に、コンテンツにテキストフィールド (例、TX50) が含まれている場合、フィルタが正常に機能しない場合があります。この問題を回避するには、文字フィールド (例、A50) を使用します。

インタラクティブグラフに関する注意点は次のとおりです。

- AHTML グラフでのフィルタ使用時に、フィルタを設定するフィールドが 1 つのみで、そのフィールドに小数点を含む倍精度浮動小数点数フォーマットの数値が含まれる場合、一部のフィルタオプションが表示されません。この場合、[グラフフィルタ設定] および [グラフから除外] のフィルタオプションが、実行時のグラフツールヒントで使用できません。
- バージョン 8.2.02 以降、一部のグラフタイプに新しいグラフ属性構文が適用されました。これらのグラフタイプは、2 軸棒、2 軸折れ線、タグクラウド、ストリームグラフ、マリメッコ、じょうご、ピラミッドです。この変更過程で、これらのグラフタイプに関連する新しいフィールドコンテナが追加され、グラフ作成時にこれらのフィールドコンテナを使用して、グラフの特定エリアでフィールドを指定することができます。たとえば、[横軸]、[色]、[ツールヒント] フィールドコンテナが新しいグラフ属性構文に含まれています。

  InfoAssist では、各グラフタイプに固有のフィールドコンテナが表示されます。各グラフタイプの作成に使用される構文についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』を参照してください。
- グラフの実行時の出力には、選択可能なさまざまなオプションを備えたグラフツールバーが表示されます。これらのオプションは、アイコンで表示されます。グラフツールバーには、集計方法 (集計や平均などの演算タイプ) を選択できる [集計] アイコンがあり、グラフ内の選択したデータに適用することができます。

集計方法を適用できるメジャーフィールドを含まないグラフを実行する場合、[集計] アイコンは次のようになります。

- グラフツールバーに表示されるが選択できない。
- 集計方法として、[なし] が表示される。[なし] はラベル上に若干薄い色で表示されます。これは、グラフ内の選択したデータに実行または適用できる集計が存在しないことを示します。

集計可能なデータを含むグラフを実行すると、[集計] アイコンが有効になります。この場合、ラベルには現在使用されている集計方法 (例、集計) が反映されます。

Analytic Document を使用したコンテンツからのエクスポートに関する注意点は次のとおりです。

- ACROSS ソートフィールドを含むレポートを作成し、そのデータを Excel、CSV、XML (Excel) オプションを使用してエクスポートしようとすると、ACROSS 列のタイトルおよびフィールド値がエクスポートされたコンテンツに表示されません。レポートの見出しおよび脚注についても同様です。

インタラクティブコンテンツから使用可能なツールに関する注意点は次のとおりです。

- キャッシュが有効な場合、集約テーブルおよびピボットテーブルで、カンマ挿入の編集オプションが適用されません。

キャッシュオプションを使用する際の注意点は次のとおりです。

- 日付時間フォーマットフィールドはサポートされません。

Excel へのエクスポート機能を使用する際の注意点は次のとおりです。

- キャッシュを有効にしたレポートを生成し、エクスポート機能の [Excel] オプションを使用すると、リクエストの出力が EXL2K フォーマットではなく、XLSX フォーマットで生成されます。この動作は、Microsoft Edge、Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザに適用されます。

  エクスポート動作は WebFOCUS Reporting Server によって制御されます。エクスポートの実行時に Office Open XML ドキュメントが生成されます。このドキュメントをダウンロードし、所定のフォーマットで保存することができます (デフォルトは .xlsx)。

- キャッシュを無効にしたレポートを生成し、エクスポート機能の [XML (Excel)] オプションを使用する際は、エクスポート動作がアクティブ JavaScript レイヤによって制御されます。エクスポートの実行時に Microfsoft Office XML ドキュメントが生成されます。このドキュメントをダウンロードし、所定のフォーマットで保存することができます (デフォルトは .xls)。この動作は、Microsoft Edge、Internet Explorer、Firefox、Chrome ブラウザに適用されます。

モバイルデバイスを使用する際の注意点は次のとおりです。

- Android モバイルデバイスで、Chrome ブラウザのアクセシビリティオプションを [強制的にズームを有効化] に設定すると、この設定がズームを回避する Web サイトのリクエストより優先されます。Android モバイルデバイスで、Chrome ブラウザを使用して AHTML レポートを実行する際にこの設定が有効の場合、列の固定や手動サイズ調整などインタラクティブレポートの機能との競合が発生します。レポートが完全に機能するためには、[アクセシビリティ] の設定を無効にする必要があります。

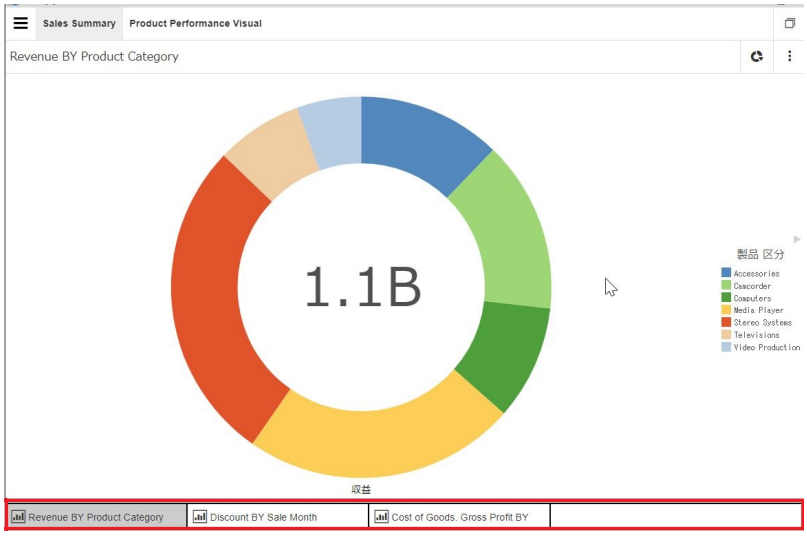
フルスクリーンモードでのコンテンツの実行

インタラクティブコンテンツを最大化 (フルスクリーン) モードで実行する場合に使用できるナビゲーション機能がいくつかあります。たとえば、フルスクリーンモードでは、レポートおよびグラフコンポーネントの位置を、ドラッグアンドドロップ操作で変更することができます。ドラッグアンドドロップ操作するには、単純にコンポーネントのツールバーをクリックし、マウスボタンを押しながら任意の位置にオブジェクトをドラッグします。

このモードでは、出力がレスポンシブとなり、ウィンドウの幅が高さより大きくなると自動的に調整されます。これは、画面に複数のコンポーネントが表示されている場合に特に便利です。また、フルスクリーンモードでは画面下部にタスクバーが表示され、レポートまたはグラフコンポーネントごとに項目が表示されます。画面で現在選択されているコンポーネントは、タスクバーでハイライト表示されます。

ダッシュボードのタブから別のタブに切り替える場合、各ページには、そのページで現在使用可能なコンポーネントが正しく反映されます。画面下部のページタスクバーを使用して、ページ上のレポートおよびグラフコンポーネントを確認することができます。

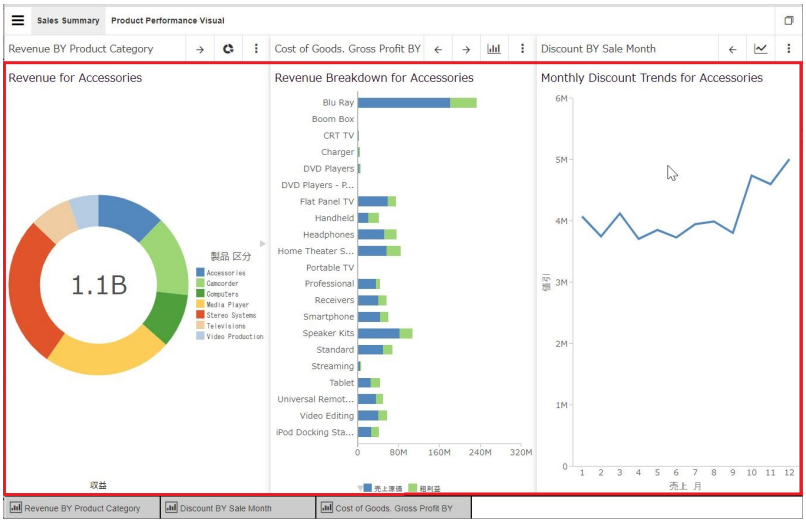
フルスクリーンモードでは、コンポーネントを非表示にすることもできます。これにより、特にオブジェクトが現在必要ない、または関連性がない場合に、コンポーネントを非表示にできます。非表示にしたコンポーネントを再度表示する場合は、下図のように、タスクバーの関連する項目をクリックします。



フルスクリーンモードで、コンポーネント (グラフ、ピボット、集約、複製のオプションを使用して作成した項目) を生成した場合、テーブル/グラフコンポーネントに対応するページタスクバーに番号が表示されます。番号は右上に表示され、新しく生成された項目はコンポーネントの右側に追加されます。番号は、そのコンポーネントから生成された項目の数を示します。タスクバーで項目をクリックすると、ウィンドウが分割され、現在表示されているコンポーネントとともに生成された項目が表示されます。

また、コンポーネントを別のコンポーネントの右または左 (横方向モード)、上または下 (縦方向モード) にドラッグアンドドロップすることができます。ツールバーの左右矢印を使用して、テーブル/グラフコンポーネントの配置を変更することができます。これにより、1 回の操作で 1 つのコンポーネントを左右に簡単に移動できます。

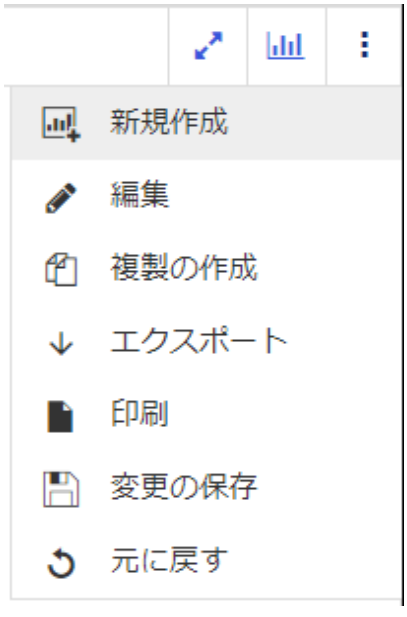
フルスクリーンモードは、レポートおよびグラフコンポーネントを左右に並べて表示する機能も備えています。Ctrl キーを押しながらコンポーネントボタンをクリックして、一度に複数のコンポーネントを画面に表示することもできます。選択したコンポーネントがすべて表示されるように、画面が均等に分割されます。タスクバーで項目をクリックすると、下図のように、対応するコンポーネントが最大化 (フルスクリーン) モードで表示され、画面全体を占有します。



オプションメニューを使用した一般的なタスクの実行

Analytic Document を使用するインタラクティブレポートまたはグラフには、[オプションメニュー] が表示され、コンポーネントを編集して、高度なデータ分析を行うことができます。コンポーネントの最小化および最大化が行えるほか、使用するグラフのタイプを変更したり、編集、複製、印刷などのその他のオプションにアクセスすることもできます。

下図は、[オプションメニュー] を示しています。メニューが展開され、インタラクティブグラフコンポーネントで使用可能なオプションが表示されています。



[オプションメニュー] には、次のコマンドがあります。

新規作成　デザインキャンバスを開き、データを対応するバケットに配置して新しいコンポーネントを作成することができます。

編集　デザインキャンバス上でコンポーネントを開き、コンポーネントを編集することができます。

複製の作成　コンポーネントの複製を作成し、編集することができます。

エクスポート　レポート、テーブル、またはグラフのデータを、[ダウンロード] フォルダにエクスポートします。グラフでサポートされるエクスポートオプションは、[データから Excel]、[CSV (カンマ区切り)]、[PNG (イメージ)] です。レポートでサポートされるエクスポートオプションは、[Excel]、[CSV (カンマ区切り)]、[HTML] です。また、インタラクティブコンポーネントの実行時にフィルタを設定した場合は、すべてのレコードをエクスポートするか、フィルタが設定されたレコードのみをエクスポートするかを選択することができます。さらに、異なるエクスポートオプションを複数選択することもできます。

印刷　コンポーネントを印刷するオプションが表示されたウィンドウを開きます。インタラクティブコンポーネントの実行時にフィルタを設定した場合は、コンポーネント全体を印刷するか、フィルタが設定されたレコードのみを印刷するかを選択することができます。[印刷] ボタンを押すと、ブラウザの [印刷] ダイアログボックスが開き、印刷用ページの設定を行うことができます。

変更の保存　現在のグラフ出力を現時点の状態で、使用中のマシンの [ダウンロード] フォルダに保存します。ファイルのデフォルト名は、「ARsave.html」に協定世界時 (UTC) の日付時間スタンプが追加された名前になります。

元に戻す　コンポーネントを元の状態に戻します。

[オプションメニュー] を閉じるには、このメニューを再度クリックします。

別の項目からレポートやグラフを複製または新規作成した場合、下図のように、複製された項目の [オプションメニュー] にコンポーネントを閉じるためのオプションが表示されます。

手順　新しいコンポーネントを作成するには

1. インタラクティブコンポーネントの [オプションメニュー] から [新規作成] を選択します。
2. メジャーをコンポーネントタイプに対応するバケット (例、[縦]) にドラッグします。
3. ディメンションをコンポーネントタイプに対応するバケット (例、[横]) にドラッグします。
4. コンポーネントへの使用可能なメジャーおよびディメンションの追加を続行します。コンポーネントは、次のようにカスタマイズすることもできます。
   - ❏ 新しい一時項目 (COMPUTE) を作成し、このフィールドをコンポーネントに追加する。
   - ❏ バケット上部の対応するオプションを使用して、グラフを編集する。
   - ❏ キャンバス上でデータをフリーハンド (ラッソ) 選択し、フィルタを作成する。
5. チェックマークのボタンをクリックしてコンポーネントを保存し、元のレポートまたはグラフに戻ります。

   作成済みの新しいコンポーネントが [分析] パネルに表示されます。

手順　コンポーネントを編集するには

1. 編集するコンポーネントを選択します。
2. [オプションメニュー] をクリックし、[編集] を選択します。これにより、デザインキャンバスに戻り、フィールドの選択を変更したり、グラフタイプを変更したり、その他の操作を行うことができます。

3. チェックマークボタンをクリックし、変更を保存します。

手順　コンポーネントの複製を作成するには

1. 複製を作成するコンポーネントを選択します。
2. [オプションメニュー] をクリックし、[複製の作成] を選択します。[分析] パネルに、元のコンポーネントの複製が表示されます。
3. 必要に応じて、複製されたコンポーネントに対して、ロック、グラフタイプの変更、データのエクスポート、印刷を行います。

手順　インタラクティブコンポーネントからデータをエクスポートするには

1. データをエクスポートするコンポーネントを選択します。
2. [オプションメニュー] をクリックし、[エクスポート] を選択します。コンポーネントが新しいウィンドウで開き、エクスポートのオプションが表示されます。
3. エクスポートファイルに使用するオプションを選択します。たとえば、[フィルタ設定レコードのみ] を選択してフィルタ設定済みのレコードのみを選択することができます。また、出力フォーマットを選択することもできます。グラフの場合、[データから Excel]、[CSV (カンマ区切り)]、または [PNG (イメージ)] を選択します。レポートの場合、[Excel]、[CSV (カンマ区切り)]、または [HTML] を選択します。
4. エクスポートオプションを選択後、[エクスポート] をクリックします。

   注意：エクスポート済みのデータは、すべて [ダウンロード] フォルダに送信されます。

手順　インタラクティブコンポーネントへの変更を保存するには

インタラクティブコンポーネントに加えた最新の変更を保存するには、[オプションメニュー] から [変更の保存] を選択します。

注意：保存済みの変更は、[ダウンロード] フォルダに自動的に保存されます。「ARsave.html」に協定世界時 (UTC) の日付時間スタンプが追加されたファイル名とともにデータが保存され、このファイルからデータにアクセスすることができます。グラフの場合、編集またはグラフタイプを変更すると、これらの変更は、出力ファイルに自動的に保存されます。

手順　インタラクティブコンポーネントを印刷するには

1. 印刷するコンポーネントを選択します。
2. [オプションメニュー] をクリックし、[印刷] を選択します。コンポーネントが新しいウィンドウで開きます。
3. [印刷] ボタンをクリックすると、ブラウザに標準の [印刷] ダイアログボックスが表示されます。

4. 送信先、ページの詳細設定、印刷部数、その他の設定を選択し、[印刷] をクリックします。

   使用可能なオプションおよび出力フォーマットは、コンテンツのアクセスに使用するブラウザによって決まります。また、カラー、白黒のどちらを選択するかによっても、結果は異なります。これには、線の太さとフォントの外観も含まれます。

   ブラウザに特化した考慮事項は、次のとおりです。

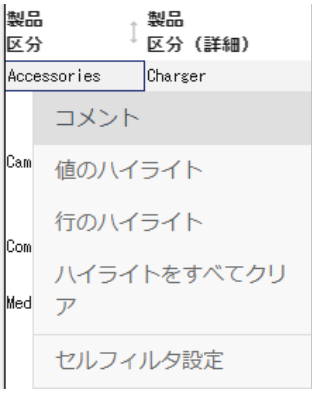
   - Microsoft Edge で横方向に印刷した場合、グラフの表示が狭くなります。
   - Microsoft Edge で縦方向に印刷した場合、[ページに合わせる] を使用してグラフのサイズを変更することができません。
   - Chrome ブラウザでは、横方向での印刷のみが可能です。

レポートの Analytic Document オプション

Analytic Document を使用したインタラクティブレポートの分析では、さまざまなメニューおよびオプションを使用することができます。これらのオプションは、使用するスタイルによって異なります。

デザイナスタイルレポートのセルメニューオプション

デザイナスタイルのインタラクティブレポートでは、セルメニューを使用して、フィルタをすばやく設定する機能を追加して、レポートの表示をカスタマイズすることができます。セルメニューは、レポート内の各セルをクリックすると表示されます。このメニューから、個々の値や行をハイライト表示したり、レポート内の各セルについてコメントを挿入したりできます。また、以前のハイライトをクリアすることもできます。下図は、セルメニューを示しています。



[セルフィルタ設定] オプションを使用して、レポート内の特定の行のみにレポートのフィルタを設定します。たとえば、[Accesories] を表示する場合、レポート内の [Accesories] をクリックしてセルメニューを有効にします。この場合、下図のように、リクエストで [Accesories] の値のみが返されます。



製品区分	製品区分（詳細）	値引	売上原価	希望小売価格	販売数量	収益	粗利益
Accessories	Charger	¥187,485.88	¥2,052,711.00	4,210,324.00	105,257	¥4,022,834.91	¥1,970,123.91
	Headphones	¥3,516,913.33	¥51,663,564.00	79,703,500.54	228,349	¥76,186,587.97	¥24,523,023.97
	Universal Remote Controls	¥2,310,446.31	¥36,037,623.00	51,709,358.83	178,061	¥49,398,915.65	¥13,361,292.65

3/21 件, 1/1 ページ

その後、下図のように、[セルフィルタ設定解除] をクリックしてフィルタを解除することができます。



これによって、レポートは、元のフィルタ設定されていない状態に戻ります。

レガシーレポートのセルメニューオプション

レガシースタイルを使用するインタラクティブレポートでは、次のデータセルメニューオプションが表示されます。

オプション	定義
ドリルダウン	データソース階層の 1 つ下のレベルにドリルダウンすることができます。このオプションは、[オートドリル] を有効にしたレポートで表示されます。

オプション	定義
ドリルアップ	データソース階層の 1 つ上のレベルにドリルアップすることができます。このオプションは、[オートドリル] を有効にしたレポートで表示されます。
元に戻す	レポートを、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。
オートリンク	[オートリンク] を有効にしたレポートにリンクされるターゲットレポートのリストを表示します。このオプションは、[オートリンク] を有効にしたレポートで表示されます。
コメント	レポートのデータに関するコメントを追加することができます。追加したコメントは、データセルの上にマウスポインタを置いた際に注釈として表示されます。
値のハイライト	レポートの特定の値をハイライト表示します。
行のハイライト	レポートで選択した行をハイライト表示します。
ハイライトをすべてクリア	レポートの値または行に適用したハイライト表示をすべて削除します。
セルフィルタ設定	出力にフィルタを適用し、選択したデータ行のみを表示します。
セルフィルタ設定解除	適用したセルフィルタ設定をすべて削除します。

レポートでの列タイトルメニューの使用

列タイトルメニューは、レポート内の列見出しをクリックすると表示されます。このメニューから、フォーマット設定ツール、グラフタイプオプション、フィルタにアクセスでき、レポートの表示をより細かく制御することができます。

下図のように、メジャー以外の列またはディメンション列では、列タイトルメニューには主に 3 つのセクションがあります。



レポートの各列は、カスタマイズすることができます。たとえば、特定の製品区分にフィルタを設定すると同時に他の製品区分の列合計を表示することができます。これによって、レポートを列ごとに作成し、カスタマイズすることができます。

次の情報を使用して、レポートを作成する際に列タイトルメニューのコンポーネントを識別することができます。

昇順　選択したフィールドを昇順にソートします。

降順　選択したフィールドを降順にソートします。

列合計の表示　現在選択している列の列合計を表示します。列合計はレポートの一番下に表示されます。

列の非表示　現在選択している列を非表示にします。これにより、現在選択している列が画面上から削除されます。

グラフ/集約　グラフタイプを選択し、必要に応じてデフォルト値の [集計] 以外の集計を指定します。グラフを作成する列を選択して、[作成] をクリックします。別のダイアログボックスに新しいグラフが作成され、このグラフの機能およびオプションを使用してグラフをインタラクティブに操作できます。

集約 [集約] オプションを使用して、現在選択している列の集計タイプを選択できます。また、[グループ] の値を選択することもできます。これは、レポート内の異なる列のリストを含めるオプションです。選択後、下図のように、[作成] をクリックして集約を作成します。



ピボット [ピボット] オプションを使用して、クロス集計のピボットテーブルを作成します。現在選択している列の集計タイプを選択できます。次に、レポートをグループ化する列の値を指定します。[ACROSS] の値を指定して、テーブルに ACROSS 値を作成します。下図のように、[作成] をクリックしてピボットテーブルを作成します。ピボットテーブルは、分析パネルに表示されます。



注意：使用可能なグループおよび ACROSS の値には、レポートのディメンション列の値が含まれます (例、製品区分)。

数値スライダ　メジャー値 (例、希望小売価格) の操作でこのスライダツールを使用し、表示する値を絞り込むことができます。下図のように、スライダには、メジャーの最小値から最大値までが表示されます。



テキストボックスに値を入力して、値の範囲を指定することもできます。これにより、特定のメジャーの値の範囲が指定できます。値がデータ値の範囲外にある場合、下図のように、値に取り消し線が引かれ、この値が無効であることが示されます。



フィルタ　フィルタオプションを使用して、レポート内のデータを絞り込みます。フィルタオプションでは、値を検索したり、チェックボックスを使用して 1 つまたは複数の値を選択したりできます。[選択] オプションを使用して、データ階層のすべての値を選択することができます。選択した値をクリアするには、[クリア] をクリックします。列にフィルタを設定すると、列見出しの横に表示されるじょうご型のアイコンを使用してフィルタをクリアすることができます。下図は、このアイコンを示しています。



日付フィールドでは、列タイトルメニューのフィルタコントロールを使用して、特定の日付にフィルタを設定することができます。フィルタコントロールを使用して、特定の日付または日付範囲にフィルタを設定できます。この日付または日付範囲を指定するには、Ctrl キーを押しながら開始日と終了日をクリックします。選択した日付範囲はハイライト表示されます。下図は、カレンダーフィルタを示しています。



注意：カレンダーフィルタを指定した場合、日付フィールド上部の [フィルタ設定解除] アイコンをクリックしてフィルタを削除することができます。

ハイライト　[ハイライト] を選択して、レポート内の選択したコンポーネントをハイライト表示することができます。たとえば、下図では、Camcorder、Media Player、Stereo Systems がハイライト表示されています。



製品区分	製品区分（詳細）	値引	売上原価	希望小売価格	販売数量	収益	粗利益
Accessories	Charger	¥187,485.88	¥2,052,711.00	4,210,324.00	105,257	¥4,022,834.91	¥1,970,123.91
	Headphones	¥3,516,913.33	¥51,663,564.00	79,703,500.54	228,349	¥76,186,587.97	¥24,523,023.97
	Universal Remote Controls	¥2,310,446.31	¥36,037,623.00	51,709,358.83	178,061	¥49,398,915.65	¥13,361,292.65
Camcorder	Handheld	¥1,959,624.28	¥20,576,916.00	43,930,191.91	250,167	¥41,970,570.97	¥21,393,654.97
	Professional	¥1,933,997.25	¥35,218,308.00	45,987,828.00	12,872	¥44,053,830.75	¥8,835,522.75
	Standard	¥3,214,786.74	¥49,071,633.00	71,656,083.17	192,205	¥68,441,300.52	¥19,369,667.52
Computers	Smartphone	¥2,790,775.51	¥44,035,774.00	62,661,241.48	205,049	¥59,870,476.15	¥15,834,702.15
	Tablet	¥2,018,134.59	¥25,771,890.00	45,464,131.72	146,728	¥43,446,005.97	¥17,674,115.97
Media Player	Blu Ray	¥10,895,633.29	¥181,112,921.00	243,779,705.05	679,495	¥232,884,116.13	¥51,771,195.13
	DVD Players	¥258,593.13	¥3,756,254.00	5,874,491.65	18,835	¥5,615,899.81	¥1,859,645.81
	DVD Players - Portable	¥26,356.05	¥306,576.00	598,083.06	5,694	¥571,726.77	¥265,150.77
	Streaming	¥338,559.94	¥5,064,730.00	7,339,880.90	67,910	¥7,001,316.65	¥1,936,586.65
Stereo Systems	Boom Box	¥62,739.39	¥840,373.00	1,449,536.30	9,370	¥1,386,796.99	¥546,423.99
	Home Theater Systems	¥3,943,920.23	¥56,428,589.00	88,303,579.08	399,092	¥84,359,685.22	¥27,931,096.22
	Receivers	¥2,643,045.39	¥40,329,668.00	59,528,535.81	150,568	¥56,885,503.56	¥16,555,835.56
	Speaker Kits	¥4,954,243.27	¥81,396,140.00	112,169,618.18	244,199	¥107,215,381.69	¥25,819,241.69
	iPod Docking Station	¥1,926,925.29	¥26,119,093.00	43,374,494.69	311,103	¥41,447,566.06	¥15,328,473.06
Televisions	CRT TV	¥118,654.68	¥1,928,416.00	2,649,489.98	4,638	¥2,530,835.65	¥602,419.65
	Flat Panel TV	¥3,478,828.52	¥59,077,345.00	78,441,669.61	92,501	¥74,962,843.71	¥15,885,498.71
	Portable TV	¥38,210.18	¥545,348.00	925,663.74	8,049	¥887,453.45	¥342,105.45
Video Production	Video Editing	¥2,695,890.76	¥40,105,657.00	60,749,161.51	199,749	¥58,053,276.62	¥17,947,619.62

21 / 21 件, 1 / 1 ページ

ハイライトフィルタを設定後、[クリア] フィルタアイコンをクリックしてハイライト表示を解除できます。

メジャー列では、さらに次の 2 つのオプションがあります。

- **ピアグラフ**　選択した列にピアグラフを追加したり、列からピアグラフを削除したりします。
- **合計に対するパーセント表示**　列の値の合計に対する現在の値の割合を計算します。

下図は、これらのオプションを示しています。



レポートでのソートフィールドインジケータの使用

インタラクティブレポートでは、レポート内のデータをソートする場合に、ソートフィールドインジケータの使用がサポートされます。フィールドを昇順または降順でソートし、レポート内の情報の表示を制御することができます。下図のように、前回の操作でフィールドがどのように調整されたかを示すインジケータが、フィールドの右側に表示されます。

製品 区分	売上原価	粗利益	収益	販売数量
Video Production	¥40,105,657.00	¥17,947,619.62	¥58,053,276.62	199,749
Televisions	¥61,551,109.00	¥16,830,023.81	¥78,381,132.81	105,188
Computers	¥69,807,664.00	¥33,508,818.12	¥103,316,482.12	351,777
Accessories	¥89,753,898.00	¥39,854,440.53	¥129,608,338.53	511,667
Camcorder	¥104,866,857.00	¥49,598,845.24	¥154,465,702.24	455,244
Media Player	¥190,240,481.00	¥55,832,578.36	¥246,073,059.36	771,934
Stereo Systems	¥205,113,863.00	¥86,181,070.52	¥291,294,933.52	1,114,332

7 / 7 件, 1 / 1 ページ

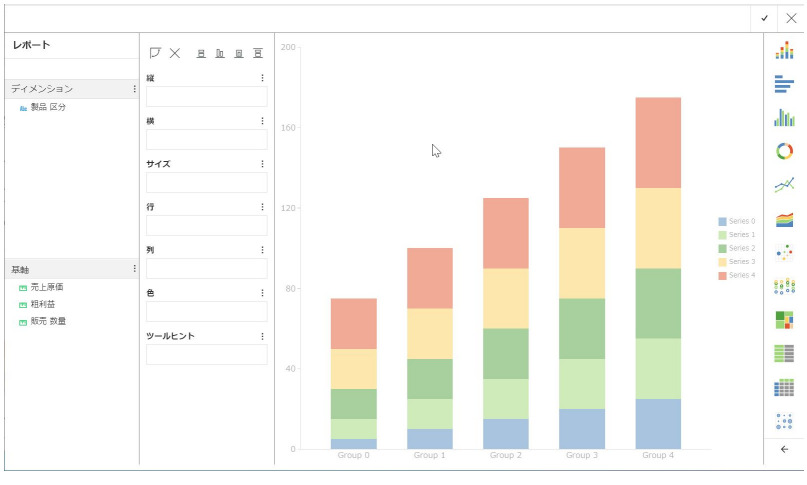
上図のように、選択したフィールドを昇順でソートすると、フィールドの値は小さい順にソートされます。矢印を再度クリックすると、フィールドは降順でソートされ、値は大きい順にソートされます。もう一度矢印をクリックすると、両方向を指すデフォルト設定の矢印に戻り、ソートが適用されていないことを示します。

グラフの Analytic Document オプション

インタラクティブレポートで使用可能なオプションと同じように、グラフ固有の Analytic Document メニューおよびオプションを利用して分析を行えます。

グラフ/集約ツールを使用したグラフの操作

グラフ/集約ツールを使用してグラフを操作し、グラフを新規作成する場合、新しいグラフの起動時にメタデータツリー、バケット、[グラフ] タブが表示されます。下図のように、この外観は、WebFOCUS DESIGNER の標準インターフェースに類似しています。



このインターフェースでは、最初に選択したフィールドがロードされます。これにより、実行時に異なるフィールドを選択して異なるタイプのグラフを作成することが簡単にできます。

項目をバケットに追加するには、項目をドラッグまたはダブルクリックします。このように、さまざまなシナリオをモデル化して、組織のニーズに合ったグラフを作成することができます。追加するフィールドを選択後、インターフェースの右側に表示される [グラフ] タブからグラフタイプを選択できます。

完了後、インターフェース右上のチェックマークをクリックすると、指定した変更がグラフに適用され、元のキャンバスに戻ります。

1 回のセッションで、さまざまなシナリオを試行し、その都度結果を確認することができます。

レガシースタイルのグラフオプション

下表は、レガシースタイルを使用したインタラクティブグラフのオプションを説明したものです。

注意：新しい属性構文を使用するグラフでは、[詳細オプション]、[詳細グラフ]、[元のグラフ]、[集計] の 4 つのアイコンのみ表示されます。フィルタを適用した場合は、[フィルタ設定解除] アイコンが表示されます。

オプション	定義
詳細オプション 	**新規作成** グラフの新しいインスタンスを作成します。このオプションは、表形式レポートの列タイトルメニューからグラフを作成した場合にのみ使用できます。
	グループ (X) 横方向ソートフィールドのグループを変更します。
	追加 (Y) 縦方向ソートフィールドを追加します。
	X 軸 メジャーまたはディメンションソートフィールドを指定します。散布図に適用されます。
	Y 軸 メジャーを指定します。散布図に適用されます。
	整列 マーカー色を指定します。マーカー色は、[色] 属性に割り当てられているフィールドに基づきます。この属性に割り当てられたフィールドが存在しない場合、すべてのマーカーが同一色になります。散布図に適用されます。
	エクスポート Excel、Word、PowerPoint のいずれかにエクスポートします。
	積み上げ ライザを別のライザの上に積み重ねます。各ライザの長さは、データ値を表します。棒グラフに適用されます。
	上位 上位の値を表示します。オプションには、[上位 3]、[上位 5]、[上位 10]、[上位のクリア] があります。円グラフに適用されます。
	傾向 シリーズごとに傾向線を描画し、数式ラベルを配置します。散布図に適用されます。
	グラフ/集約ツール グラフ/集約ツールを開いて、生成するグラフまたは集約テーブルに表示する複数のグループフィールドを選択することができます。グラフ/集約ツールには、レポートで使用可能なフィールドのリストと、[グループ] および [メジャー] ソートフィールドが表示されます。フィールドをクリックし、それぞれのソートフィールドにドラッグします。 **注意：** グラフ (具体的には新しいグラフ属性構文を使用するグラフ) のグラフ/集約ツールを使用する場合、[シリーズ] タブはサポートされません。[シリーズ] タブは、表形式レポートから作成されたグラフ、または新しいグラフ属性構文を使用しないグラフでサポートされます。
	元に戻す レポートを、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。

オプション	定義
縦棒 	データを縦棒グラフで表示します。
円 	データを円グラフで表示します。
折れ線 	データを折れ線グラフで表示します。
散布図 	データを散布図で表示します。
集約 	グラフを集約テーブルに変更します。
詳細グラフ 	グラフ/集約ツールを開きます。
元のグラフ 	グラフを、レポートプロシジャで指定したグラフタイプに戻します。
固定/固定解除 	グラフまたは集約テーブルを固定します。グラフの [固定] アイコンまたは集約テーブルの [固定] アイコンを使用して、レポートに適用したフィルタにグラフまたは集約テーブルを関連付けるか、関連付けを解除するかを切り替えることができます。このアイコンは、レポートがフィルタに関連付けられているか (グラフまたは集約テーブルの固定)、関連付けが解除されているか (グラフまたは集約テーブルの固定解除) を示します。 このオプションは、表形式レポートの列タイトルメニューからグラフを作成した場合にのみ使用できます。

オプション	定義
集計 Σ Sum	[メジャー] フィールドに [集計]、[平均]、[最小]、[最大]、[件数]、[固有値 (値の種類)] を適用します。デフォルト値は [集計] です。
フィルタ設定解除	グラフからフィルタを除外します。フィルタを適用するには、グラフのコンポーネント上にマウスポインタを置くか、グラフの特定の領域をフリーハンド (ラッソ) 選択で囲み、グラフのツールヒントから [グラフフィルタ設定] または [グラフから除外] を選択します。

グラフ/集約ツールを使用したコンテンツの作成

グラフ/集約ツールへは、[デザイナスタイル] のインタラクティブグラフまたはレポートを有効にした状態で、列タイトルメニューからアクセスできます。[グラフ]、[集約]、[ピボット] の 3 つのタブがあります。グラフ、集約、ピボットテーブルの作成時に、各アーティファクトが分析パネルに表示されます。

グラフ/集約ツールを使用して複数のグループフィールドを選択し、グラフ、集約またはピボットテーブルを生成することができます。

[グラフ] タブでは、下図のように、グラフタイプ、集計、グラフに使用するフィールドを選択することができます。

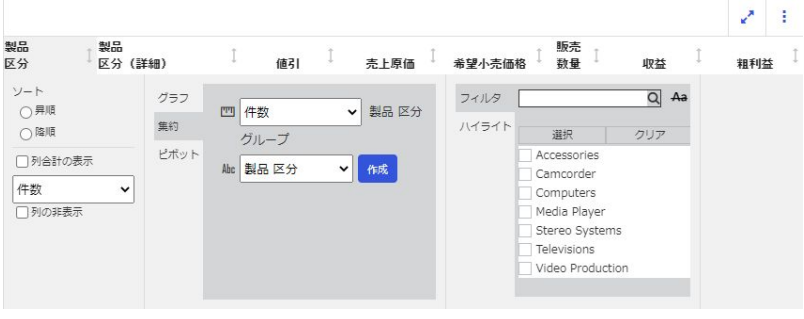


手順　グラフツールを使用するには

1. 複数のディメンションとメジャーを使用してレポートを作成します。
2. 第 1 ディメンションでクリックします。
3. グラフ/集約ツールの [グラフ] タブから、グラフタイプを選択します。
4. 必要に応じて、現在選択しているディメンションに集計を追加します。

5. フィールドリストから、ディメンションまたはメジャーを選択します。
6. [作成] をクリックします。
   グラフが分析パネルに表示されます。他のアーティファクトと同じようにグラフをインタラクティブ操作できます。

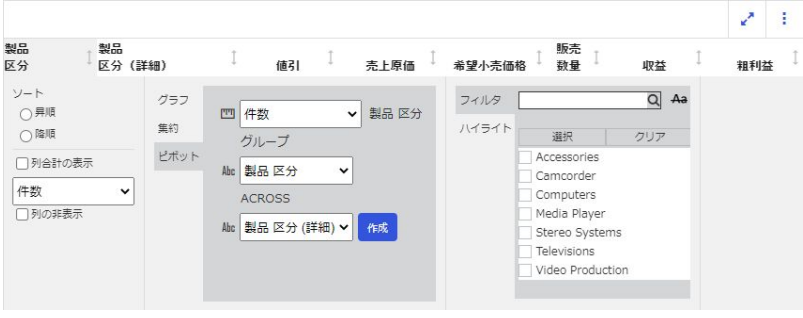
   [集約] タブでは、現在のレポートのフィールドで集計を実行することができます。また、下図のように、[グループ] の値を選択して、レポート内のすべてのフィールドを表示することもできます。



手順　集約ツールを使用するには

1. 複数のディメンションとメジャーを使用してレポートを作成します。
2. 第 1 ディメンションでクリックします。
3. グラフ/集約ツールから、[集約] タブを選択します。
4. 必要に応じて、選択したフィールドに適用する集計を選択します。
5. [グループ] フィールドでは、集約を実行するディメンションまたはメジャーを選択します。
6. [作成] をクリックします。
   集約が分析パネルに表示されます。

ピボットテーブルでは、レポートで現在選択しているフィールドの集計を同じように選択することができます。下図のように、[グループ] および [ACROSS] フィールドの値を既存のディメンションから選択できます。



手順　ピボットツールを使用するには

1. 複数のディメンションとメジャーを使用してレポートを作成します。
2. 第 1 ディメンションでクリックします。
3. グラフ/集約ツールから、[ピボット] タブを選択します。
4. 必要に応じて、選択したフィールドに適用する集計を選択します。
5. [グループ] フィールドで、テーブルのグループ化の基準となるディメンションを選択します。
6. [ACROSS] フィールドで、ACROSS フィールドとして表示する別のディメンションを選択します。
7. [作成] をクリックします。

   ピボットテーブルが、分析パネルに表示されます。

14

スライサの使用

スライサ機能は、レポート、グラフ、ドキュメントに動的なユーザコントロールを簡単に追加する手法の 1 つです。これらのコンテンツの作成時または実行時にスライサを使用することで、表示するデータの絞り込みが可能になります。スライサは、1 つまたは複数のフィールドのドロップダウンメニューから値を選択することで、条件を動的に変更できるフィルタです。スライサを使用してコンテンツをフィルタする例として、レポートまたはグラフの作成時に [スライサ] タブでスライサを操作し、フィルタを適用した上でレポートまたはグラフを実行する方法や、[スライサ] タブが表示されるよう設定された InfoMini アプリケーションを起動し、スライサを操作した上でアプリケーションを実行する方法があります。

トピックス

- スライサの作成
- スライサによるフィルタの適用
- スライサの編集ダイアログボックス

スライサの作成

スライサを作成するには、フィールドを [スライサ] タブにドラッグするか、フィールドのコンテキストメニューを使用します。

注意：App Studio のグラフモードで作業している場合、スライサ機能を使用することはできません。

スライサグループを作成すると、作成されたグループが下図に示す [スライサ] タブに表示されます。



スライサを使用すると、デザイン時に動的なフィルタをレポートに適用することができます。

InfoMini アプリケーションにスライサを追加しておくと、実行時のレポートに、動的なフィルタを設定することができます。詳細は、571 ページの 「 InfoMini アプリケーションの作成 」を参照してください。

手順　スライサを作成するには

1. [スライサ] タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、新しいスライサを作成します。
   - ❏ [新規グループ] ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

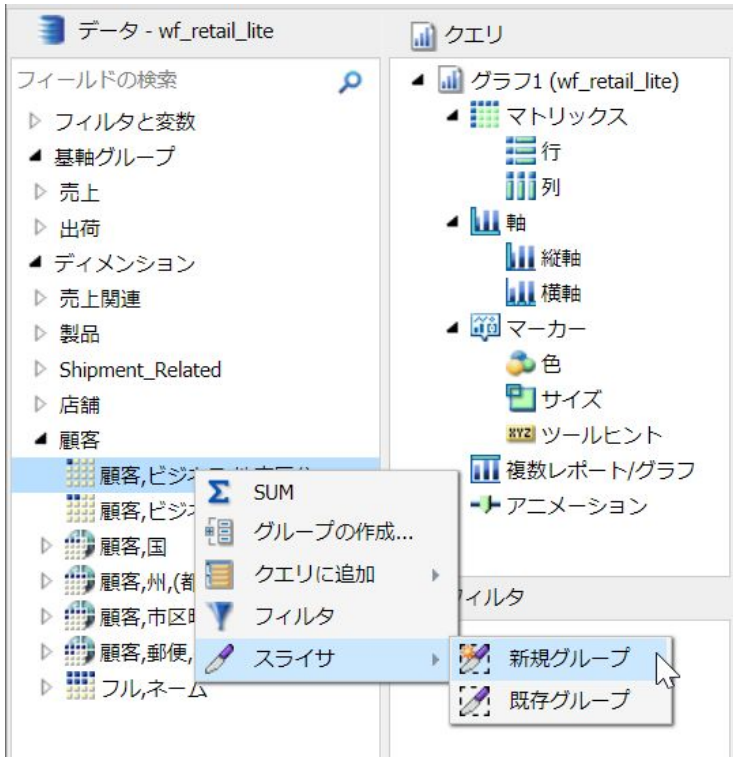
     [データ] ウィンドウでフィールドを選択し、[スライサ] タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

     注意：親子階層を [スライサ] タブにドラッグすることはできません。

     新しいグループに、フィールドが追加されます。

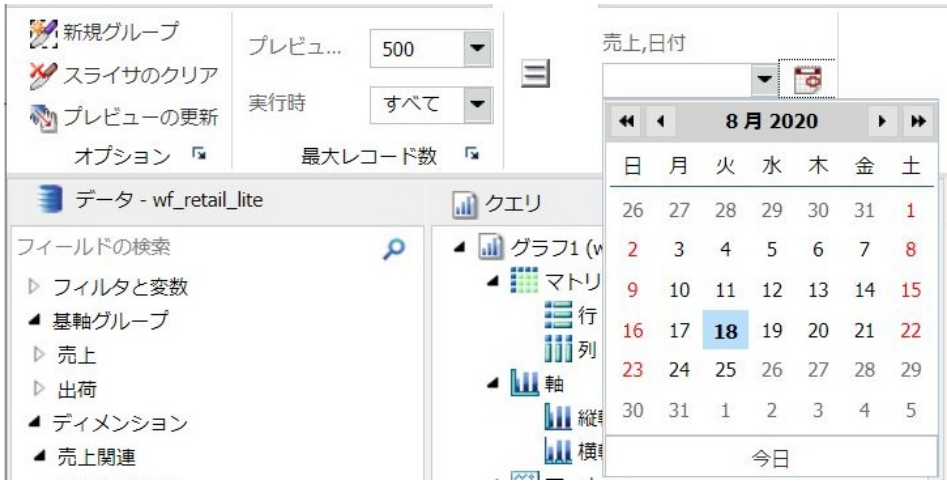
     または

❑ 下図のように、[データ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ]、[新規グループ] を順に選択します。



新しいグループに、フィールドが追加されます。

完全な日付フォーマットのフィールドでスライサを作成する場合、フィールドの横にカレンダーアイコンが表示されます。このアイコンを使用して、カレンダーコントロールから日付を選択することができます。



手順　既存のスライサグループにフィールドを追加するには

1. [スライサ] タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、既存のスライサグループにフィールドを追加します。
   - ❏ [データ] ウィンドウでフィールドを選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。

     または

   - ❏ [データ] ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ]、[既存グループ] を順に選択します。

     メニューから既存のグループを選択し、[OK] をクリックします。

     選択したフィールドが既存のグループに追加されます。詳細は、568 ページの 「 グループタブ 」 を参照してください。

手順　スライサグループとして階層を追加するには

注意：親子階層を [スライサ] タブにドラッグすることはできません。

1. [スライサ] タブをクリックします。

2. 次のいずれかの方法で、スライサグループとして、階層を追加します。

   - [データ] ウィンドウで階層を選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。

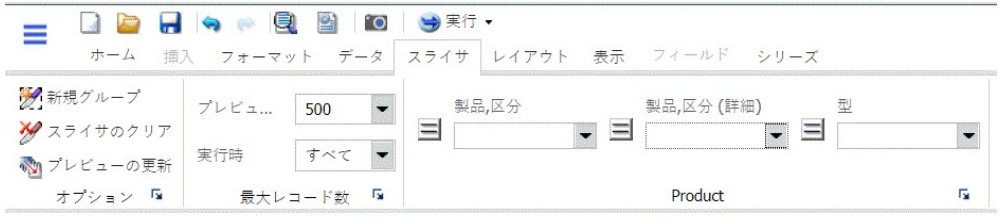
     階層は、既存グループのスライサとしてではなく、新しいグループとして追加されます。新しいグループには、階層と同一の名前が付けられます。

     または

   - [新規グループ] ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

     [データ] ウィンドウで階層を選択し、[スライサ] タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

     新しいグループに、フィールドが追加されます。新しいグループの名前は、自動的に階層名に変更されます。たとえば、[製品] 階層を使用してスライサグループを作成すると、そのスライサグループに [製品,区分]、[製品,区分 (詳細)]、[型] が追加され、グループ名が自動的に「製品」になります。



注意：既存のスライサグループに、階層を追加することはできまん。階層を既存のスライサグループにドラッグアンドドロップすると、新しいグループが自動的に作成されます。

この階層に、右クリックのコンテキストメニューはありません。階層をスライサグループとして追加するには、新しいスライサグループにドラッグする必要があります。

スライサによるフィルタの適用

InfoAssist レポートにスライサを追加した後、そのスライサを使用してレポートにフィルタを適用することができます。スライサメニューから値を選択することや、表示レコード数の変更、新しいグループの作成、既存スライサグループのクリア、レポートプレビューの更新が行えます。

値が選択されていないスライサには、選択済みスライサによってフィルタされた値が表示されます。次のスライサメニューには、前に選択したスライサの条件に一致する値のみが表示されます。スライサへのフィルタは、スライサグループの表示順ではなく、選択された順序で設定されます。スライサの連鎖は、階層の場合にのみ有効になります。

手順　スライサの関係演算子を変更するには

1. レポートに少なくとも 1 つのスライサを追加して、[スライサ] タブをクリックします。
2. スライサで変更する演算の演算子ボタンをクリックします。

   メニューに演算子のリストが表示されます (数値フィールドの場合)。

   注意：文字フィールドでは、[等しい] と [等しくない] の切り替えのみを行えます。
3. 使用する演算子をメニューから選択します。演算子の上にマウスポインタを置くと、演算の説明がポップアップ表示されます。

スライサの連鎖

階層 (キューブまたはディメンションベース) の場合、スライサの連鎖は、ユーザが操作した順序ではなく、階層内で設定されます。これにより、パフォーマンスの問題が回避されます。

手順　スライサを連鎖するには

同一階層の各フィールドのコントロールには、互いに連鎖が設定されます。

下図の例では、作成されたレポートに、製品の販売数量が製品区分別、年度別に表示されています。

製品区分	売上年	販売数量
Accessories	2016	31,396
	2017	46,735
	2018	63,836
Camcorder	2016	28,485
	2017	41,250
	2018	56,782
Computers	2016	12,239
	2017	19,820
	2018	34,626
Media Player	2016	47,132
	2017	66,307
	2018	92,435
Stereo Systems	2016	67,344
	2017	100,263
	2018	138,850
Televisions	2016	5,807
	2017	8,371
	2018	11,542
Video Production	2016	12,212
	2017	17,932
	2018	25,032

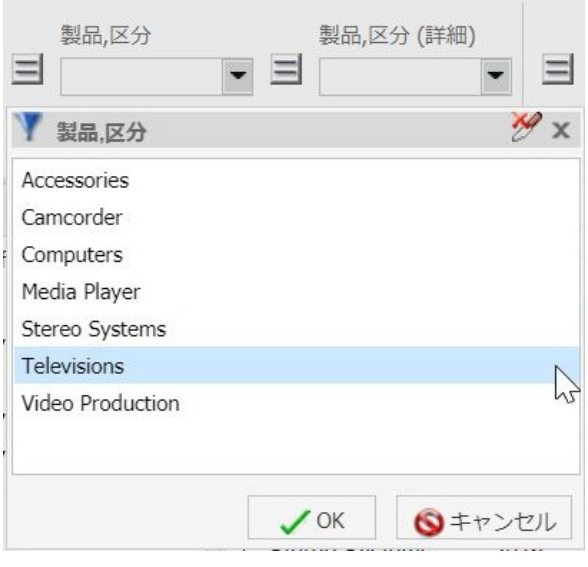
1. レポートを作成します。
2. 558 ページの 「 スライサを作成するには 」 の手順に従って、複数のスライサグループを作成します。

下図の例では、このレポートに 2 つのグループが作成されています。これらのグループは、[製品] と [取引日,簡略] です。これらは階層から作成されているため、互いに連鎖が設定されます。

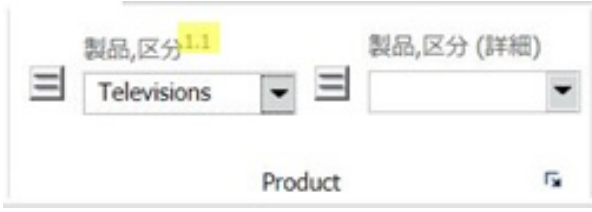


下図の例では、[製品] グループの最初のコントロールとして [Televisions] が選択されています。

注意：複数の値を選択するには、Ctrl キーを押しながらドロップダウンリストの値を順にクリックします。複数の値を選択した場合、ドロップダウンリストのラベルが [複数] に設定されます。選択した値を確認するには、ドロップダウンリストをクリックします。



[OK] をクリックすると、ドロップダウンリストに新しいコントロール値が表示されます。



小数点の左側の「1」は、ユーザが操作した連鎖の中で、これが最初の連鎖であることを示しています。小数点の右側の「1」は、その連鎖内のコントロールの中で、これが最初のコントロールであることを示しています。

下図の例では、[製品] グループの 2 つ目のコントロールとして [Flat Panel TV] が選択されています。フィルタが設定された結果、このメニューには [Televisions] のサブカテゴリのみが表示されています。



[製品,区分 (詳細)] ドロップダウンリストに [Flat Panel TV] が表示されます。

「1.2」という数字は、これが最初の連鎖の 2 つ目のコントロールであることを示しています。

一方、2 つ目のグループとして [時期 (売上)] が作成されています。このグループには 2 つのコントロールがあり、1 つ目が [売上,年]、2 つ目が [売上,四半期] です。

3. 作成したスライサグループのコントロールを使用して、レポートにフィルタを設定します。

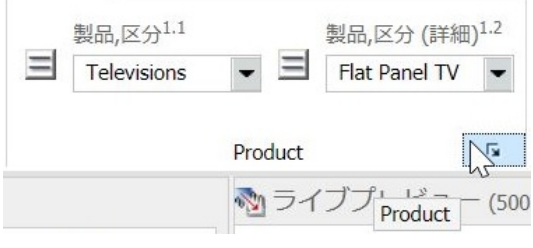
   下図の例では、レポートにフィルタが設定された結果、2019 年の第 1 四半期に販売された Flat Panel TV の数量のみが表示されています。



注意: 連鎖の順序は、動的に機能します。たとえば、最初に [製品] サブカテゴリから [Video Editing] を選択した場合、[製品] カテゴリのコントロール値は [Video Production] になります。

スライサの編集ダイアログボックス

下図のように、[スライサ] タブでグループラベル横の [編集] ボタンをクリックすることで、[スライサの編集] ダイアログボックスを表示することができます。



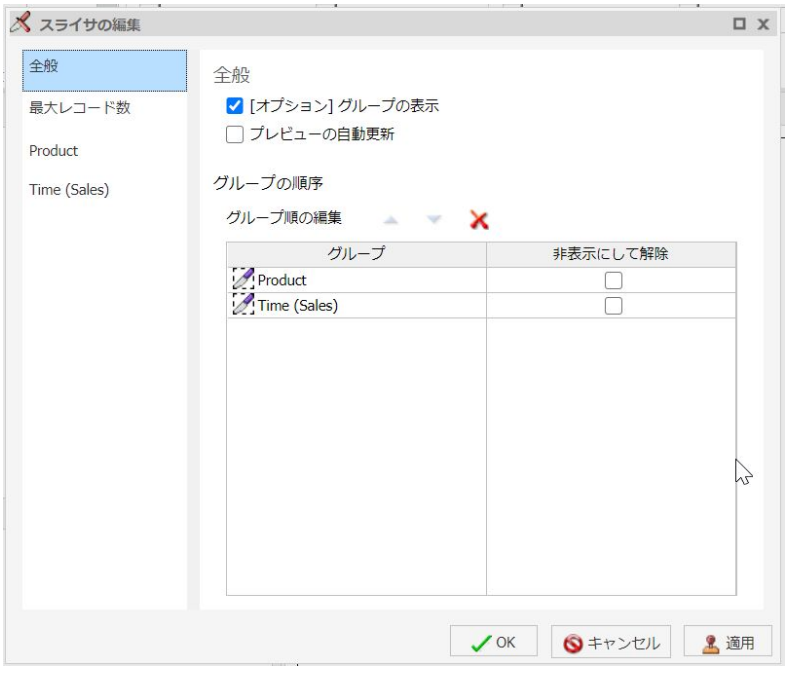
[スライサの編集] ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般
- 最大レコード数
- グループ # (各スライサグループのタブ)

全般タブ

[全般] タブでは、[オプション] グループの表示と非表示を切り替えたり、プレビューの自動更新を有効にしたりできます。また、このタブで既存グループの順序変更や削除も行えます。

下図は、[全般] タブを示しています。



[全般] タブには、次のオプションがあります。

- **[オプション] グループの表示**　このオプションを選択して、[スライサ] タブに [オプション] グループを表示します。

  [オプション] グループには、次のオプションがあります。

  - **新規グループ**　[スライサ] タブに新しいスライサグループを追加します。
  - **スライサのクリア**　既存のスライサから、選択済みの値をすべてクリアします。
  - **プレビューの更新**　レポート作成時のキャンバスを更新し、それまでに加えた変更をすべて適用します。
- **プレビューの自動更新**　キャンバスの自動更新を有効にします。

- **グループ順の編集**　グループを選択し、上下の矢印を使用してグループの位置を変更します。グループを選択し、x アイコンを使用してグループを削除します。
- **非表示にして解除**　グループを選択し、このオプションのチェックをオンにすると、そのグループが非表示になり、スライサから除外されます。

注意：グループを完全に削除するには、グループを選択し、[削除] をクリックします。

最大レコード数タブ

[最大レコード数] タブでは、[最大レコード数] グループ、[プレビュー] コントロール、[実行時] コントロールの表示と非表示を切り替えます。このタブでは、プレビュー時および実行時に表示するレコード数を選択することもできます。

[最大レコード数] タブには、次のオプションがあります。

- **[最大レコード数] グループの表示**　このオプションを選択して、[スライサ] タブに [最大レコード数] グループを表示します。

  [最大レコード数] グループには、次のメニューがあります。

  - **プレビュー**　このメニューを使用して、レポート作成時に表示するレコード数を制御します。
  - **実行時**　このメニューを使用して、レポート実行時に表示するレコード数を制御します。
- **プレビューコントロールの表示**　このオプションを選択して、[スライサ] タブの [最大レコード数] グループに [プレビュー] メニューを表示します。[プレビュー] セクションの件数メニューで、レポート作成時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。
- **実行時コントロールの表示**　このオプションを選択して、[スライサ] タブの [最大レコード数] グループに [実行時] メニューを表示します。[実行時] セクションの件数メニューで、レポート実行時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。

グループタブ

[グループ] タブでは、グループ名の変更、グループ内のスライサの順序変更、各スライサの必須オプションの設定を行います。スライサを選択し、[削除] ボタンをクリックすると、選択したスライサが削除されます。

[グループ] タブには、次のオプションがあります。

- **グループ名**　このテキストボックスで、スライサグループの名前の入力と編集を行います。
- **スライサ順の編集**　スライサを選択し、上下の矢印を使用してスライサの位置を変更します。
- **必須**　このオプションを選択して、必須のスライサとして設定します。必須として設定されたスライサの値を選択しない場合、レポートを実行することはできません。必須のスライサは、アスタリスク (*) で示されます。

15

InfoMini アプリケーションの作成

InfoMini アプリケーションは、InfoAssist レポートから作成します。このアプリケーションには、実行時に使用可能な InfoAssist 機能の一部が組み込まれます。

InfoMini アプリケーションを作成すると、このアプリケーションを実行するユーザに、レポートの操作と編集に関するオプションを提供することができます。

トピックス

- InfoMini アプリケーションの概要
- InfoMini アプリケーションの作成

InfoMini アプリケーションの概要

InfoAssist でレポートを作成する際は、InfoMini をアクティブにするオプションが提供されます。InfoMini をアクティブにしてレポートを実行すると、InfoMini アプリケーションが作成されます。InfoMini アプリケーションには、完全バージョンのレポートまたはグラフインターフェースで使用可能な機能の一部が組み込まれます。InfoAssist でレポートまたはグラフを作成する際に、InfoMini アプリケーション実行時にユーザに提供する機能を制限したり拡張したりできます。

InfoMini アプリケーションを InfoAssist から実行した場合、InfoMini アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きます。

InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist レポートで有効なコンポーネントの多くを使用することができますが、次の例外があります。

- メインメニューにアクセスすることはできません。
- クイックアクセスツールバーの [新規作成]、[開く]、[コードの表示] ボタンは使用不可になります。
- タブやグループには、無効になるものや、機能が制限されるものがあります。
- ステータスバーにアクセスすることはできません。
- ナビゲーションタスクバーにアクセスすることはできません。
- InfoMini で既存のプロシジャを参照することはできません。

使用可能なコンポーネントについての詳細は、22 ページの 「 InfoAssist アプリケーションウィンドウ 」 を参照してください。

InfoMini ボタンの使用

[InfoMini] ボタンは、[フォーマット] タブの [対象] グループにあります。[InfoMini] ボタンをクリックして、InfoMini を有効にすることができます。[InfoMini] ボタンがアクティブな場合は、レポートを実行して InfoMini アプリケーションを開くことができます。

InfoMini を無効にするには、[InfoMini] ボタンを再度クリックします。InfoMini を有効にするには、[InfoMini] ボタンのメニューから、少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。

[InfoMini] ボタンのメニューからオプションを選択することで、実行時にユーザに提供するオプションを設定することができます。[InfoMini] ボタンが無効な場合に、このメニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。次のオプションがあります。

- [ホーム] タブ
- [フォーマット] タブ
- [スライサ] タブ
- [データ] タブ
- [スライサ] タブ (編集)
- [レイアウト] タブ
- [シリーズ] タブ
- [リソース]/[フィールド] タブ
- 即時実行
- ディファード実行
- 保存

メニューからオプションを選択すると、そのオプションの横にチェックマークが表示されます。このチェックマークは、実行時にユーザが InfoMini アプリケーション内で、そのオプションの使用が可能になることを示しています。チェックマークの付いたオプションを選択すると、選択が解除されてチェックマークが非表示になり、このオプションは、InfoMini アプリケーションで使用不可になります。メニューからすべてのオプションの選択を解除すると、InfoMini は無効になります。

[即時実行] オプションを選択すると、InfoMini アプリケーションの起動と同時にレポートが即時実行されます。ユーザがレポートを実行する前にフォーマットを選択したり、スライサを指定したりできるようにするには、このオプションの選択を解除します。

InfoMini レイアウトの理解

InfoMini レイアウトは、InfoAssist レイアウトに類似しています。InfoMini アプリケーションで使用可能なオプションは、InfoAssist で [InfoMini] メニューから選択したオプションに応じて異なります。InfoMini リボンには、InfoAssist リボンの一部が表示されます。

InfoMini アプリケーションには、インタラクティブモードと編集モードの 2 種類があります。

インタラクティブモードはコンテンツのフォーマット設定に使用し、編集モードはコンテンツ自体の編集に使用します。

インタラクティブモード

インタラクティブモードは、InfoMini アプリケーション実行時のデフォルト設定のモードです。編集モードへは、InfoMini アプリケーションのクイックアクセスツールバーからアクセスすることができます。 インタラクティブモードでは、リソースパネルにアクセスすることはできません。

InfoAssist で [InfoMini] メニューのオプションをいずれも選択せずに InfoMini を有効にしようとすると、エラーメッセージが表示され、少なくとも 1 つのタブを選択するよう要求されます。次のオプションは、インタラクティブモードで有効にすることができます。

- [ホーム] タブ
- [フォーマット] タブ
- [スライサ] タブ

InfoMini アプリケーション実行時のインタラクティブモードでは、InfoAssist で [InfoMini] メニューの上段グループで選択されたタブが表示されます。

リボンの特定エリアについての詳細は、574 ページの 「 リボン 」 を参照してください。

編集モード

編集モードでは、InfoMini の構成時に有効にした追加タブが表示されます。編集モードでは、追加タブのオプションおよびリソースパネルを使用してコンテンツを編集することができます。InfoAssist で [InfoMini] メニューのオプションをいずれも選択せずに InfoMini を有効にしようとすると、エラーメッセージが表示され、少なくとも 1 つのタブを選択するよう要求されます。

注意：InfoAssist で [InfoMini] メニューの中段グループ (編集セクション) のオプションをいずれも選択しなかった場合、InfoMini アプリケーションの実行時に編集モードは表示されません。

編集モードとインタラクティブモードを切り替えるには、InfoMini アプリケーションのクイックアクセスツールバーを使用します。

編集モードでは、インタラクティブモードで使用可能なタブ以外に、次のオプションの一部またはすべてを使用することができます。

- [挿入] タブ (ドキュメントのみ)
- [データ] タブ
- [スライサ] タブ
- [レイアウト] タブ
- [リソース]/[フィールド] タブ (リボン上に [フィールド] として表示される)
- [シリーズ] タブ (グラフのみ)

リボン

ここでは、InfoMini リボンに表示されるタブの種類について説明します。

InfoAssist で有効にしたオプションに応じて、InfoMini アプリケーションで使用可能なタブオプションが異なります。

ホームタブ

InfoMini アプリケーションでは、[ホーム] タブに次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [ホーム] タブの [フォーマット] グループで使用可能な [レポート] および [グラフ] ボタンは使用できません。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [ホーム] タブで使用可能な [デザイン] グループは使用不可になります。
- [ファイル] (データファイルの作成) オプションは使用できません。

[ホーム] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、37 ページの 「 ホームタブ 」 を参照してください。

挿入タブ

[挿入] タブでは、[ページ]、[レポート]、[オブジェクト]、(インタラクティブダッシュボードの) [入力フォーム] グループ (AHTML、Analytic PDF、Analytic Document のみ) にアクセスすることができます。[挿入] タブは、ドキュメントモードでのみ使用可能です。

InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [レポート] グループで使用可能な [取り込み] ボタンは使用できません。

[挿入] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、38 ページの 「 挿入タブ 」 を参照してください。

フォーマットタブ

レポートの場合、[フォーマット] タブに表示されるグループには、[出力] および [オートリンク] があります。グラフの場合、追加のグループとして [グラフ]、[ラベル]、[インタラクティブ] も表示されます。

InfoMini アプリケーションでは、[フォーマット] タブに次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [フォーマット] タブで使用可能な [対象] および [機能] グループは使用できません。[ナビ] グループは、グラフの場合にのみ表示されます。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [フォーマット] タブの [グラフ] グループで使用可能な [その他] ボタンは使用不可になります。

[出力] グループのコマンドを使用して、サポートされるフォーマットのいずれかで出力することができます。

レポートおよびグラフでは、[オートリンク] グループにアクセスすることもできます。このグループのオプションを使用してオートリンク機能を有効にし、社内で参照可能な一連のレポートやグラフを関連付けたコンテンツを作成することができます。

[フォーマット] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、39 ページの 「 フォーマットタブ 」 を参照してください。

データタブ

編集モードで [データ] タブに表示されるグループには、[演算]、[フィルタ]、[表示]、[データソース] があります。

InfoMini アプリケーションでは、[データ] タブに次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [データ] タブで使用可能な [JOIN] グループは使用不可になります。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [データ] タブで使用可能な [データソース] グループの [追加] は利用できません。[データ] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、40 ページの 「 データタブ 」 を参照してください。

スライサタブ

編集モードで [スライサ] タブに表示されるグループには、[オプション]、[最大グループ数]、[グループ 1] があります。

InfoMini アプリケーションでは、[スライサ] タブに次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、 InfoAssist の [スライサ] タブの [オプション] グループで使用可能な [プレビューの更新] オプションは使用できません。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [スライサ] タブの [最大レコード数] グループで使用可能な [プレビュー] リストは使用不可になります。

[スライサ] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、41 ページの 「 スライサタブ 」 参照してください。

レイアウトタブ

レポートの場合、[レイアウト] タブに表示されるグループには、[ページ設定] および [レポート] があります。グラフの場合、[レポート] グループの代わりに [サイズと整列] グループが表示されます。[レイアウト] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、42 ページの 「 レイアウトタブ 」 を参照してください。

フィールドタブ

[フィールド] タブに表示されるグループには、[フィルタ]、[ソート]、[区切り]、[スタイル]、[フォーマット]、[表示]、[リンク] があります。[フィールド] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、44 ページの 「 フィールドタブ 」 を参照してください。

シリーズタブ

[シリーズ] タブに表示されるグループには、[選択]、[スタイル]、[プロパティ]、[折れ線] があります。[シリーズ] タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、45 ページの「 シリーズタブ 」 を参照してください。

InfoMini アプリケーションの作成

InfoAssist で InfoMini アプリケーションを作成するには、通常の方法でレポートを作成してから、InfoMini を有効にし、実行時にユーザに提供する機能を追加します。InfoMini アプリケーションで使用可能な機能についての詳細は、571 ページの 「 InfoMini アプリケーションの概要 」 を参照してください。

手順　InfoMini を有効にするには

1. レポートまたはグラフを開き、[フォーマット] タブをクリックします。
2. [対象] グループで、[InfoMini] をクリックします。

   注意：InfoMini を有効にするには、[InfoMini] メニューから少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、[InfoMini] メニューのデフォルトオプションとして、[フォーマット] タブおよび [スライサ] タブが選択されています。InfoMini のオプションを有効にする方法についての詳細は、577 ページの 「 InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには 」 を参照してください。

   [InfoMini] ボタンがハイライト表示され、InfoMini モードがアクティブになります。InfoMini アプリケーションの実行についての詳細は、578 ページの 「 InfoMini アプリケーションをテストするには 」 を参照してください。

手順　InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには

InfoMini アプリケーションでは、実行時に使用可能にするオプションを選択することができます。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、[InfoMini] メニューのデフォルトオプションとして、[フォーマット] タブおよび [スライサ] タブが選択されています。各オプションの機能についての詳細は、571 ページの 「 InfoMini アプリケーションの概要 」 を参照してください。

1. レポートまたはグラフを開き、[フォーマット] タブをクリックします。
2. [InfoMini] ボタン横の矢印をクリックします。メニューが開き、使用可能なタブおよびオプションのリストが表示されます。

InfoMini を有効にしていない場合でも、メニューを開くことができます。メニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。

3. このメニューから、InfoMini アプリケーションに表示するオプションを選択します。

手順　InfoMini アプリケーションをテストするには

1. InfoAssist レポートを開き、577 ページの 「 InfoMini を有効にするには 」 の説明に従って InfoMini を有効にします。
2. 577 ページの 「 InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには 」 の説明に従って、必要なオプションを有効にします。
3. レポートを実行します。

   新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。

手順　InfoMini アプリケーションを操作するには

InfoMini アプリケーションを開いた後、InfoAssist で有効にした機能を使用してアプリケーションを編集することができます。有効にしたオプションに応じて、アクセス可能な機能が異なります。

InfoMini アプリケーションは、実行時に変更することができます。アプリケーションに加えた変更はキャンバスに動的に反映されないため、更新を確認するには、レポートを実行する必要があります。

1. 578 ページの「 InfoMini アプリケーションをテストするには 」の説明に従って、InfoMini を有効にしたレポートを実行します。

   新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。
2. InfoMini アプリケーションのデフォルト設定では、リボンは非表示になります。リボンを表示するには、次のいずれかを実行します。

   ❏ インタラクティブモードで、タブのいずれかをクリックします。

   ❏ [ヘルプ] アイコン横の下向き矢印をクリックします。

   これらのタブで使用可能なオプションの機能は、InfoAssist で提供される機能と同一です。これらの機能を使用して、実行時にレポートを変更することができます。
3. 必要な変更を加えて [実行] をクリックし、更新されたレポートを確認します。

A

リボンのコマンドリファレンス

状況依存型のリボンは、現在作業中のファイルのタイプに応じて変化します。ここでは、InfoAssist の各ツールで使用されるリボンおよびコマンドの詳細について説明します。

トピックス

- レポートのリボンコマンド
- グラフのリボンコマンド
- ドキュメントのリボンコマンド
- ビジュアライゼーションのリボンコマンド

レポートのリボンコマンド

レポートモードでレポートを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してレポートをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	グラフモードに切り替えます。レポートで指定されているフィールド群を使用してレポートをグラフに変換します。
レポート	現在の作業モードがレポートモードであることを示します。
ファイル	レポートからデータファイルを作成します。
デザイングループ	

コマンド	説明
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してレポートを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のレポートを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、レポートのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	レポートをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。[件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。

コマンド	説明
レポートグループ	
テーマ	ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。 また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。
スタイル	[レポートスタイル] ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。レポートのスタイル設定についての詳細は、95 ページの 「 レポートのスタイル設定 」 を参照してください。
バンド	[色] ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。
行合計	レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。InfoMini の使用についての詳細は、571 ページの「 InfoMini アプリケーションの作成 」 を参照してください。
グラフ	グラフモードに切り替えます。レポートで指定されているフィールド群を使用してレポートをグラフに変換します。
レポート	現在の作業モードがレポートモードであることを示します。
ファイル	レポートからデータファイルを作成します。
ナビグループ	
テーブル	標準のブラウザ出力を生成します。これがデフォルト値です。
目次	生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。 レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。
固定	生成された出力で、レポートのページのスクロール時にタイトルを固定して表示します (タイトルを常時表示)。
Web ビューア	選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。

コマンド	説明
OLAP 分析	オンラインレポートの OLAP 機能を有効にします (例、OLAP パネルの表示、非表示)。分割ボタンのドロップダウンメニューから、さまざまなオプションを選択することができます。
機能グループ	
ポップアップ	レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。
アコーディオン	縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。
ソート値繰り返し	デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。
積み重ねメジャー	レポート出力列の数値メジャーフィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。積み重ねメジャーについての詳細は、『TIBCO WebFOCUS Language リファレンス』の「列の積み重ね」を参照してください。
Analytic Document オプション	[Analytic Document オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、インタラクティブレポートのオプションを構成することができます。詳細は、487 ページの「 インタラクティブコンテンツの作成 」 を参照してください。
アクセシビリティ	レポート、グラフ、ドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。
実行オプショングループ	

コマンド	説明
オートドリル	データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動を可能にします。この機能を有効にするには、[オートドリル] をクリックします。詳細は、361 ページの 「 オートドリルダウンの使用 」 を参照してください。
オートリンクグループ	
オートリンク有効	オートリンクを有効にします。詳細は、365 ページの 「 オートリンク機能によるコンテンツのリンク 」 を参照してください。
オートリンクターゲット	プロシジャをオートリンク先のターゲットとして設定します。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	

コマンド	説明
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
表示グループ	
ミッシングデータ	レポートの場合、このオプションは無効です。
データソースグループ	
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。このオプションは、HOLD ファイルを追加した際に有効になります。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。このオプションは、HOLD ファイルを追加した際に有効になります。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	

コマンド	説明
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスの [全般] タブを開き、スライサに適用する全般オプションを設定することができます。
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスの [最大レコード数] タブを開き、スライサに適用する最大レコード数を設定することができます。
グループ番号グループ	
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。スライサグループオプションにアクセスするには、[グループ n] をクリックして [スライサの編集] ダイアログボックスを開きます。ここで、スライサグループの名前変更や、グループ内のスライサの順序変更を行えます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	

コマンド	説明
マージン	[標準 (各辺 1.0 インチ)]、[狭く (各辺 0.50 インチ)]、[中間 (左/右 0.50 インチ)]、[広く (左/右 1.50 インチ)]、[カスタム] から、マージン値を選択することができます。必要に応じて、[カスタム] を選択して [マージン] ダイアログボックスを開き、特定のマージンを指定することができます。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。
単位	レポートの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
ページ番号	ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。 ❑ NOLEAD (見出しスペースなし) ❑ オン (ページ番号のみ) ❑ オフ (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし) ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。
レポートグループ	
セルパディング	[セルパディング] ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間の間隔を指定することができます。詳細は、105 ページの「 レポートでセルパディングを使用するには 」 を参照してください。

コマンド	説明
自動調整	レポートの列幅が、各フィールドの最大幅以内に収まるように調整されます。[自動調整] は、デフォルト設定で選択されています。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してレポートを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のレポートを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、レポートのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	レポートをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または [クエリ] ウィンドウを表示することができます。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。

コマンド	説明
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
クエリグループ	
縦横表示	データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。
縦表示	データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	

コマンド	説明
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアルのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	レポートからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
条件の設定	レポートから除外されたフィルタを元に戻します。

コマンド	説明
プロンプト	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。 ❏ **実行時に入力** テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 ❏ **静的** 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **動的** データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **オプション** 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。

コマンド	説明
ランキング	BY フィールドを選択した場合に、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドを挿入します。メジャーフィールドを選択した場合も、BY フィールドのすぐ左に順位付けフィールドが追加されます。メジャーフィールドで順位付けを行った場合、フィールドのコピーが 2 つ作成されます。1 つは元のメジャーフィールドで、もう 1 つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。このオプションは、メジャーまたはディメンションをクリックした際に有効になります。
区切りグループ	
改ページ	主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
改行	主ソートフィールドが変更されたところで、改行します。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
中間合計	主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに 1 行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。

コマンド	説明
中間見出し	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
中間脚注	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。このオプションは、ディメンションをクリックした際に有効になります。
スタイルグループ	
フォント	フォントリストを開き、フォントを変更することができます。
フォントサイズ	フォントサイズリストを開き、フォントサイズの数値を変更することができます。
文字色	[色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
デフォルトのスタイルに戻す	すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。
太字	選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
斜体	選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
下線	選択したテキストを下線付きにします。
左揃え	テキストを左端に揃えます。
中央揃え	テキストを中央に揃えます。
右揃え	テキストを右端に揃えます。
背景色	[色] ダイアログボックスを開き、フォントの背景色を選択することができます。

コマンド	説明
データスタイル	選択したフィールドのデータのみにスタイルを設定します。
タイトルスタイル	選択したフィールドのタイトルのみにスタイルを設定します。
データ + タイトル	選択したフィールドのデータとタイトルの両方にスタイルを設定します。
フォーマットグループ	
10 進コード	選択したメジャーフィールドに対して定義されているフィールドフォーマットが表示されます。フィールドフォーマットを変更するには、ドロップダウンメニューから [文字]、[整数]、[倍精度浮動小数点] のいずれかを選択するか、[詳細オプション] を選択して [フィールドフォーマットオプション] ダイアログボックスを開きます。
通貨オプションの変更	選択したフィールドの通貨オプションを変更します。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
パーセント	フィールドの値をパーセント表示にします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
カンマ	選択したフィールドにカンマ (,) を使用します。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
小数部を長く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を増やします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
小数部を短く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を減らします。このオプションは、メジャーをクリックした際に有効になります。
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。

コマンド	説明
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。
集計	レポートのフィールドに集計関数を適用することができます。ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]、[固有値]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。
ピアグラフ	選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートフィールドではなく、ソートグループで表示フィールドの値を合計する際に、その値を操作することができます。
列	レポートの場合、このオプションは無効です。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。

グラフのリボンコマンド

グラフモードでグラフを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してグラフをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	現在の作業モードがグラフモードであることを示します。
レポート	レポートモードに切り替えます。グラフで指定されているフィールド群を使用してグラフをレポートに変換します。
ファイル	グラフからイメージファイルを作成します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。HTML フォーマットの場合にのみ有効になります。
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してグラフを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のグラフを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、グラフのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます

コマンド	説明
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。[件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。
レポートグループ	
テーマ	ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。 また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。

コマンド	説明
スタイル	グラフの場合、このオプションは無効です。
バンド	グラフの場合、このオプションは無効です。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	グラフの場合、このオプションは無効です。
行合計	グラフの場合、このオプションは無効です。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。InfoMini の使用についての詳細は、571 ページの「 InfoMini アプリケーションの作成 」 を参照してください。
グラフ	現在の作業モードがグラフモードであることを示します。
レポート	レポートモードに切り替えます。グラフで指定されているフィールド群を使用してグラフをレポートに変換します。
ファイル	グラフからイメージファイルを作成します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。HTML フォーマットの場合にのみ有効になります。
グラフグループ	
棒	グラフタイプを棒グラフに変更します。
円	グラフタイプを円グラフに変更します。

コマンド	説明
折れ線	グラフタイプを折れ線グラフに変更します。
面	グラフタイプを面グラフに変更します。
散布図	グラフタイプを散布図に変更します。
コロプレス	グラフタイプをコロプレスマップに変更します。
プロポーショナルシンボル	グラフタイプをプロポーショナルシンボル (バブル) マップに変更します。
その他	[グラフの選択] ダイアログボックスを開きます。ダイアログボックスの左側では、グラフタイプがカテゴリ別に分類されています。デフォルト設定では、最上部の棒グラフカテゴリが選択されています。グラフタイプのカテゴリを選択すると、そのカテゴリでサポートされるグラフタイプのバリエーションが、サムネールイメージで表示されます。
マップグループ	
背景	さまざまな背景地図オプションが提供されます。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
人口統計レイヤ	1 つまたは複数の定義済み人口統計レイヤを適用することができます。これにより、これらの人口統計区分レイヤに基づいてデータ範囲の絞り込みが可能になります。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
参照レイヤ	1 つまたは複数の参照レイヤを定義することができます。参照レイヤを使用すると、選択した地理区分に基づいて境界が明確になります。このオプションは、グラフタイプとしてマップを選択した場合にのみ表示されます。
機能グループ	

コマンド	説明
3D 表示	3D 表示のオンまたはオフを設定します。[3D 表示] 機能は、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。これがデフォルト値です。このオプションは、マップでは使用できません。
回転	グラフ表示の縦向きと横向きを切り替えます。詳細は、264 ページの 「 グラフを回転するには 」 を参照してください。[回転] 機能は、円グラフ、散布図、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。
参照	ドロップダウンメニューを開いて、[Y 軸に参照線を追加] および [X 軸に参照線を追加] オプションを表示します。これらのオプションの 1 つを選択すると、対応する [参照線] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力、X 軸または Y 軸値の設定、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。詳細は、265 ページの「 静的な参照線を表示するには 」 を参照してください。[参照] 機能は、円グラフ、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。 参照線のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。

コマンド	説明
注釈 (コマンド)	ドロップダウンメニューを開いて、[注釈の追加] オプションを表示します。このオプションを選択すると、[注釈] ダイアログボックスが開いて、テキストの入力とグラフ注釈行の配置の設定を行うことができます。詳細は、268 ページの 「 グラフに注釈を表示するには 」 を参照してください。 注釈のオプションは、HTML5 では使用できません。このオプションは、マップでは使用できません。注釈のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
罫線	ドロップダウンメニューを開いて、[横罫線] と [縦罫線] のオプションを選択することができます。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] を選択すると、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。このオプションは、マップでは使用できません。詳細は、218 ページの 「 罫線のフォーマット設定 」 を参照してください。
フレームと背景	[フレームと背景] ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。選択したグラフタイプに応じて、このダイアログボックスには、異なるオプションが表示されます。詳細は、240 ページの 「 フレームおよび背景のフォーマット設定 」 を参照してください。
メータ	[メータ] ダイアログボックスを開いて、メータグラフを編集することができます。このボタンは、メータグラフを選択した場合にのみ使用可能になります。このオプションは、マップでは使用できません。詳細は、259 ページの「 メータ針のスタイルを設定するには (HTML5 選択時は設定できません。) 」 を参照してください。 メータのオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。

コマンド	説明
Analytic Document オプション	[Analytic Document オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、インタラクティブレポートのオプションを構成することができます。このボタンは、出力タイプが Analytic Document に設定されている場合に使用可能です。このオプションは、マップでは使用できません。
アクセシビリティ	レポート、グラフ、またはドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。このオプションは、出力タイプが HTML、HTML5 または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。これには、JS グラフも含まれます。つまり、定義済みデータセットと JSON (JavaScript Option Notation) 定義を使用して HTML 環境で描画されるグラフも対象になります。詳細は、『TIBCO WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス』を参照してください。 ドキュメントの場合は、出力タイプを PDF に設定する必要があります。 Analytic Document フォーマットでグラフを作成する場合、このグラフ機能は無効になります。
ラベルグループ	
軸	ドロップダウンメニューを開き、横軸および縦軸の [ラベルの表示]、[ラベルの回転]、および [ラベルを交互に表示] (横軸のみ) を選択することができます。また、[横軸詳細オプション] または [縦軸詳細オプション] を選択して、軸ラベルを編集することもできます。詳細は、257 ページの 「 軸ラベルのフォーマットを設定するには 」 を参照してください。このオプションは、マップでは使用できません。

コマンド	説明
凡例	ドロップダウンメニューを開き、[凡例の表示] オプションを選択してグラフに凡例を表示したり、選択を解除して凡例を非表示にしたりできます。また、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。詳細は、213 ページの「 凡例フォーマットダイアログボックス 」 を参照してください。
インタラクティブグループ	
インタラクティブオプション	[インタラクティブオプション] ダイアログボックスを開き、グラフでのアニメーションの表示、およびマウスオーバー効果を指定することができます。このオプションは、HTML5、Analytic Document 出力フォーマットでのみ使用できます。このオプションは、マップでは使用できません。
実行オプショングループ	
オートドリル	データソースのディメンション階層レベルの段階的な移動を可能にします。この機能を有効にするには、[オートドリル] をクリックします。 **注意：**[オートドリル] 機能を使用するには、リクエストで少なくとも 1 つのディメンションフィールドを指定する必要があります。 詳細は、361 ページの 「 オートドリルダウンの使用 」 を参照してください。
インサイト実行	インサイト機能を有効にします。インサイトは、メジャーとディメンションをインタラクティブに選択できる強力な視覚化ツールです。この機能を有効にすると、リアルタイムでの動的グラフの作成が可能になります。インサイトは、HTML5 グラフモードでのみ使用可能です。この機能を有効にするには、[インサイト] をクリックします。次に [実行] をクリックして インサイト を起動します。詳細は、128 ページの「 インサイトによる動的グラフの分析 」 を参照してください。

コマンド	説明
オートリンクグループ	
オートリンク有効	オートリンクを有効にします。
オートリンクターゲット	プロシジャをオートリンク先のターゲットとして設定します。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開き、フィルタオプションを設定することができます。フィルタオプションには、単一式の WHERE、WEHRE TOTAL、AND 論理積、OR 論理積があります。

コマンド	説明
表示グループ	
ミッシングデータ	グラフでのミッシング値の表示方法を指定するオプションを選択します。
データソースグループ	
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。このオプションは、グラフが HOLD ファイルから作成された場合にのみ有効になります。
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。アクティブにするデータソース、つまり新しいレポートの作成に使用するデータソースを選択することができます。このオプションは、グラフが HOLD ファイルから作成された場合にのみ有効になります。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスの [全般] タブを開き、スライサに適用する全般オプションを設定することができます。

コマンド	説明
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスの [最大レコード数] タブを開き、スライサに適用する最大レコード数を設定することができます。
グループ番号グループ	
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。スライサグループオプションにアクセスするには、[グループ n] をクリックして [スライサの編集] ダイアログボックスを開きます。ここで、スライサグループの名前変更や、グループ内のスライサの順序変更を行えます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	
マージン	[標準 (各辺 1.0 インチ)]、[狭く (各辺 0.50 インチ)]、[中間 (左/右 0.50 インチ)]、[広く (左/右 1.50 インチ)]、[カスタム] から、マージン値を選択することができます。必要に応じて、[カスタム] を選択して [マージン] ダイアログボックスを開き、特定のマージンを指定することができます。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。

コマンド	説明
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。
単位	レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
ページ番号	グラフの場合、このオプションは無効です。
サイズと整列グループ	
高さ	グラフの高さを設定します。
幅	グラフの幅を設定します。
オーバーフロー	グラフの場合、このオプションは無効です。
縦横比	高さと幅の比率を固定します。縦横比を固定した場合、幅を変更すると高さが自動的に変更され、コンポーネントの縦横比が保持されます。高さを変更すると、幅が自動的に変更されます。
自動調整	別のフィールドを追加すると、デザイン時にグラフが自動的に拡張されます。実行時は、グラフが配置されているコンテナ内に収まるようグラフサイズが自動的に変更されます。[自動調整] は、デフォルト設定で有効になっています。
整列	このオプションは、ドキュメントモードでのみ使用できます。
相対位置	このオプションは、ドキュメントモードでのみ使用できます。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	[ライブプレビュー] ウィンドウを非表示にし、[データ]、[クエリ]、[フィルタ] ウィンドウをキャンバス全体に表示します。これらのウィンドウを使用してグラフを作成する際の領域が拡張されます。
ライブビュー (デザインビュー)	キャンバス上に作成中のグラフを表示します。[ライブプレビュー] デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、グラフのスタイルを設定することができます。
ドキュメント (デザインビュー)	グラフをドキュメントに変換します。キャンバス上にドキュメントを開き、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加してドキュメントを作成することができます
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または [クエリ] ウィンドウを表示することができます。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。

コマンド	説明
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
クエリグループ	
縦横表示	データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ構文を使用するグラフでは、このオプションは無効です。
縦表示	データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ構文を使用するグラフでは、このオプションは無効です。
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

注意：グラフモードでは、[フォーマット] グループは無効です。

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	グラフからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
条件の設定	グラフから除外されたフィルタを元に戻します。
プロンプト	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、グラフを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。 ❏ **実行時に入力** テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 ❏ **静的** 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **動的** データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **オプション** 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	

コマンド	説明
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。
ランキング	グラフの場合、このオプションは無効です。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、ディメンションフィールドのみで使用できます。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。
フォーマットグループ **注意：**グラフの場合、これらのオプションは使用不可です。	
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。グラフの場合、このオプションは無効です。
集計	ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。このオプションは、メジャーフィールド、および数値フィールドコンテナに配置されたディメンション (文字フィールドのみ) でのみ使用できます。それ以外の場合、集計関数のメニューは表示されません。

コマンド	説明
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。このオプションは、メジャーフィールドでのみ使用できます。
ピアグラフ	グラフの場合、このオプションは無効です。
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートの列全体で集計するのではなく、ソートグループ単位で集計したように、表示フィールドの値を操作することができます。グラフの場合、このオプションは無効です。
列	複数のグラフを表示する列数を指定することができます。1 から 512 までの値を指定します。デフォルト値は 1 です。このオプションは、[クエリ] ウィンドウで [複数グラフ] コンポーネントを右クリックして選択することもできます。このオプションは、[複数グラフ] フィールドコンテナにフィールドを追加した場合にのみ有効になります。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。このオプションは、メジャーフィールドでのみ使用できます。PDF フォーマットの場合、このオプションは無効です。

シリーズタブ

コマンド	説明
選択グループ	
シリーズドロップダウンリスト	現在のグラフで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側、フィーラ線付き] です。 [データラベル詳細オプション] を選択すると、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開いて、データラベルをさらに編集することができます。
グラフ	ドロップダウンメニューを開き、別のグラフタイプを選択するオプションを表示し、[なし] (デフォルト)、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ] のいずれかを選択することができます。 **注意：**[シリーズ] タブの [グラフ] ボタンを使用してグラフタイプを変更すると、[フォーマット] タブで選択したグラフタイプが上書きされます。

コマンド	説明
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
数式	選択した傾向線に関連付けられた数式をグラフに表示します。 数式は、HTML5 では使用できません。 数式は、InfoAssist Basic では使用できません。
折れ線グループ	
スムース	スムージング線を使用してグラフを描画します。 スムーシング線のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。
マーカー	ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。詳細は、194 ページの 「 マーカーの外観を変更するには 」 を参照してください。 マーカーのオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
円グループ **注意：**次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。	
展開	円項目を切り離します。
非表示	円項目を非表示にします。

ドキュメントのリボンコマンド

ドキュメントモードでドキュメントを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してドキュメントをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
フォーマットグループ	
出力ファイルフォーマット	ドロップダウンメニューを開き、サポートされている出力フォーマットをすべて表示します。
グラフ	InfoAssist で使用する機能を、グラフに特化した機能にします。InfoAssist セッションで作成した新しいグラフごとに、「グラフ n (データソース)」というデフォルト名が付けられます。ここで、(データソース) は、レポート作成時に選択したデータソースの名前を表します。グラフの名前を変更するには、[クエリ] ウィンドウで [グラフ n] を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
レポート	InfoAssist で使用する機能を、レポートに特化した機能にします。InfoAssist セッションで作成した新しいレポートごとに、「レポート n (データソース)」というデフォルト名が付けられます。ここで、(データソース) は、レポート作成時に選択したデータソースの名前を表します。レポートの名前を変更するには、[クエリ] ウィンドウで [レポート n] を右クリックし、[名前の変更] を選択します。
ファイル	ドキュメント上のレポートコンポーネントからデータファイルを作成します。
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
ライブビュー (デザインビュー)	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。

コマンド	説明
ドキュメント (デザインビュー)	ドキュメントモードで作業を開始すると、[デザイン] グループでこのオプションがデフォルト設定で選択されています。キャンバス上にドキュメントが表示され、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加することができます
ライブデータ	選択したデータソースの実データを使用して、キャンバス上に出力のライブプレビューを表示します。
サンプルデータ	サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
件数	[ライブプレビュー] が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。[件数] テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて]、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	フィルタをオフにします。
条件の設定	フィルタをオンにします。
クリップボードグループ	
貼り付け	クリップボードにコピーまたは配置したテキスト、レポート、グラフオブジェクトをドキュメントに貼り付けます。
切り取り	ドキュメント上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトを切り取り、クリップボードに配置します。

コマンド	説明
コピー	ドキュメント上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトをコピーし、クリップボードに配置します。
複製の作成	ドキュメント上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトの複製を作成し、ドキュメントに配置します。
レポートグループ	
テーマ	ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。 また、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるレポートのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] をクリックし、[オプション] ウィンドウの [環境とスタイル] セクションを使用します。
スタイル	[レポートスタイル] ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。レポートのスタイル設定についての詳細は、95 ページの「 レポートのスタイル設定 」 を参照してください。
バンド	[色] ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。

コマンド	説明
総合計	レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。
行合計	レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。ドキュメントモードのグラフでは、このオプションは無効です。

挿入タブ

コマンド	説明
ページグループ	
ページ	ドキュメントに新しいページを追加します。
レポートグループ	
レポート	キャンバスにレポートのプレースホルダを挿入します。
グラフ	キャンバスにグラフのプレースホルダを挿入します。
取り込み	[開く] ダイアログボックスを開き、既存のレポートまたはグラフを選択してキャンバスの左上に挿入することができます。
オブジェクトグループ	
テキスト	キャンバスの左上にインラインテキストオブジェクトを挿入します。
イメージ	[開く] ダイアログボックスを開き、イメージを選択してキャンバスの左上に挿入することができます。
入力フォームグループ	
ドロップダウン	キャンバスの左上にドロップダウンリストコントロールのプレースホルダを挿入します。

コマンド	説明
リストボックス	キャンバスの左上にリストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
チェックボックス	キャンバスの左上にチェックボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
ラジオボタン	キャンバスの左上にラジオボタンコントロールのプレースホルダを挿入します。
テキストボックス	キャンバスの左上にテキストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。

フォーマットタブ

コマンド	説明
対象グループ	
InfoMini	InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。InfoMini の使用についての詳細は、「InfoMini アプリケーションの作成」を参照してください。
レポート	レポート固有の機能を使用可能にします。ドキュメントモードでレポートコンポーネントを選択すると、[ホーム] タブの [レポート] オプションが有効になり、リボンで使用可能なオプションが変更されます。詳細は、579 ページの 「 レポートのリボンコマンド 」 を参照してください。
グラフ	グラフ固有の機能を使用可能にします。ドキュメントモードでグラフコンポーネントを選択すると、[ホーム] タブの [グラフ] オプションが有効になり、リボンで使用可能なオプションが変更されます。詳細は、596 ページの 「 グラフのリボンコマンド 」 を参照してください。
ファイル	ドキュメント上のレポートコンポーネントからデータファイルを作成します。

コマンド	説明
ナビグループ	
テーブル	標準のブラウザ出力を生成します。これがデフォルト値です。このオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。
目次	生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。 レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。ドキュメントモードでは、このオプションはグラフには表示されず、レポートではデフォルト設定で無効になっています。
固定	生成された出力で、レポートのページのスクロール時にタイトルを固定して表示します (タイトルを常時表示)。ドキュメントモードでは、このオプションはグラフには表示されず、レポートではデフォルト設定で無効になっています。
Web ビューア	選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。このオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。
機能グループ	
ポップアップ	レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。ドキュメントモードのレポートでは、このオプションは無効です。
アコーディオン	縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。

コマンド	説明
ソート値繰り返し	デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。
積み重ねメジャー	レポート出力列の数値メジャーフィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。積み重ねメジャーについての詳細は、『TIBCO WebFOCUS Language リファレンス』の「列の積み重ね」を参照してください。
Analytic Document オプション	[Analytic Document オプション] ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、インタラクティブレポートのオプションを構成することができます。詳細は、487 ページの「 インタラクティブコンテンツの作成 」 を参照してください。
アクセシビリティ	レポート、グラフ、ドキュメントに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。
実行オプショングループ	
オートドリル	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
インサイト実行	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。

データタブ

コマンド	説明
演算グループ	

コマンド	説明
一時項目 (DEFINE)	[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを開き、フィールド名とフォーマットを入力して一時項目 (DEFINE) を作成することができます。オプションの DEFINE 属性を使用して、レポートの作成時に使用する一時項目 (DEFINE) を作成します。一時項目 (DEFINE) の値は、データソースに存在する情報、つまり永続フィールドから取得することができます。
一時項目 (COMPUTE)	[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。
JOIN グループ	
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。
フィルタグループ	
フィルタ	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開き、フィルタオプションを設定することができます。フィルタオプションには、単一式の WHERE、WEHRE TOTAL、AND 論理積、OR 論理積があります。
表示グループ	
ミッシングデータ	グラフでのミッシング値の表示方法を指定するオプションを選択します。
データソースグループ	
追加	[開く] ダイアログボックスを表示し、ドキュメントに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一ドキュメントに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。

コマンド	説明
切り替え	ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。現在アクティブなデータソース、および新しいレポート作成に使用するデータソースを選択することができます。

スライサタブ

コマンド	説明
オプショングループ	
新規グループ	類似したスライサのグループを新規に作成します。
スライサのクリア	すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
プレビューの更新	スライサをプレビューに適用します。
オプション	[スライサの編集] ダイアログボックスにアクセスすることができます。詳細は、557 ページの 「 スライサの使用 」 を参照してください。
最大レコード数グループ	
プレビュー	プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。
実行時	実行時に取得するレコード数を設定します。
最大レコード数	[スライサの編集] ダイアログボックスにアクセスし、最大レコード数の設定を変更することができます。詳細は、557 ページの 「 スライサの使用 」 を参照してください。
グループ番号グループ	

コマンド	説明
グループ n	追加したスライサグループごとに番号付きグループが表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。

レイアウトタブ

コマンド	説明
ページ設定グループ	
マージン	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
方向	レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
サイズ	印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E (34 x 44 インチ)] から選択できます。
単位	レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ]、[センチメートル]、[ポイント] から選択できます。
ページ番号	ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。 ❏ NOLEAD (見出しスペースなし) ❏ オン (ページ番号のみ) ❏ オフ (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし) ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。
サイズと整列グループ	

コマンド	説明
高さ	選択したドキュメントコンポーネントの高さを設定します。
幅	選択したドキュメントコンポーネントの幅を設定します。
オーバーフロー	レポート領域を自動的に拡張してデータをすべて表示します。
縦横比	高さと幅の比率を固定します。
自動調整	ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。
整列	複数のドキュメントコンポーネントを選択した際に、ドロップダウンメニューを開き、使用可能な位置揃えオプションを選択することができます。
相対配置	ドキュメント上の 2 つのコンポーネントを選択した際に、最初に選択したコンポーネントの左上の位置と、次に選択したコンポーネントの左下の位置を相対的に固定します。
サイズと整列	[サイズと位置] ダイアログボックスを開き、ドキュメント上で選択したコンポーネントのサイズと位置のオプションを設定することができます。
レポートグループ	
セルパディング	[セルパディング] ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間の間隔を指定することができます。詳細は、105 ページの「 レポートでセルパディングを使用するには 」 を参照してください。
自動調整	レポートコンポーネントを作成、編集する際にこのオプションを選択すると、レポートの列幅が自動的に調整され、データの最大長が収まる幅まで圧縮されます。[自動調整] は、デフォルト設定で選択されています。

表示タブ

コマンド	説明
デザイングループ	
クエリ (デザインビュー)	このオプションは、ドキュメントモードでは使用できません。
ライブビュー (デザインビュー)	このオプションは、ドキュメントモードでは使用できません。
ドキュメント	デフォルト設定でドキュメントモードを有効にします。
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。キャンバスには、プレビュー、出力、または [クエリ] ウィンドウを表示することができます。
ルーラ	ドキュメントのキャンバスの上側および左側にルーラを表示します。
グリッド	ドキュメント内のオブジェクトを整列するための視覚的な補助線としてグリッドを表示します。
関係	複数のオブジェクト間の相対的な位置関係を表示します。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。

コマンド	説明
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
クエリグループ	
縦横表示	データを 2 列と 2 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ属性構文を使用するグラフの場合、このオプションは使用できません。
縦表示	データを 1 列と 4 行のグリッドで表示します。新しいフィールドコンテナ属性構文を使用するグラフの場合、このオプションは使用できません。
ツリー表示	データをツリー形式で表示します。これがデフォルト値です。
ウィンドウグループ	
整列	ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法を選択することができます。[重ねて表示]、[縦に並べて表示]、[横に並べて表示] から選択することができます。
出力方法	ドロップダウンメニューを開いて、新しい出力の表示先を選択することができます。[単一タブ] (デフォルト)、[新規タブ]、[単一ウィンドウ]、[新規ウィンドウ] から選択することができます。
出力切替	ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	レポートまたはグラフからフィルタを除外しますが、フィルタは削除されません。
条件の設定	レポートまたはグラフから除外されたフィルタを元に戻します。
プロンプト	[フィルタの作成] ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。[フィルタの作成] ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[タイプ] ドロップダウンリストから [パラメータ] を選択した場合のプロンプトオプションには、次のものがあります。 ❏ **実行時に入力** テキスト入力を要求する場合に使用します。これがデフォルト値です。 ❏ **静的** 値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **動的** データ値の選択を要求する場合に使用します。このオプションを使用すると、実行時に複数値の選択が可能になります。 ❏ **オプション** 単一選択または複数選択パラメータのプロンプトに使用します。
ソートグループ	

コマンド	説明
昇順	選択したフィールドを昇順にソートします。
降順	選択したフィールドを降順にソートします。
ランキング	BY フィールドを選択した場合に、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドを挿入します。メジャーフィールドを選択した場合も、BY フィールドのすぐ左に順位付けフィールドが追加されます。メジャーフィールドで順位付けを行った場合、フィールドのコピーが 2 つ作成されます。1 つは元のメジャーフィールドで、もう 1 つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。
制限	ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。
区切りグループ	
改ページ	主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。
改行	主ソートフィールドが変更されたところで、改行します。
中間合計	主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに 1 行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。
中間見出し	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。

コマンド	説明
中間脚注	ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。
スタイルグループ **注意：**このグループのオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。	
フォント	フォントリストを開き、フォントを変更することができます。
フォントサイズ	フォントサイズリストを開き、フォントサイズの数値を変更することができます。
文字色	[色] ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。
デフォルトのスタイルに戻す	すべての設定をテンプレートのデフォルト設定に戻します。
太字	選択したテキストに太字の書式設定を適用します。
斜体	選択したテキストに斜体の書式設定を適用します。
下線	選択したテキストを下線付きにします。
左揃え	テキストを左端に揃えます。
中央揃え	テキストを中央に揃えます。
右揃え	テキストを右端に揃えます。
背景色	[色] ダイアログボックスを開き、背景色を選択することができます。
データスタイル	選択したフィールドのデータのみにスタイルを設定します。
タイトルスタイル	選択したフィールドのタイトルのみにスタイルを設定します。

コマンド	説明
データ + タイトル	選択したフィールドのデータとタイトルの両方にスタイルを設定します。
フォーマットグループ **注意：**このグループのオプションは、ドキュメントモードのレポートでのみ使用できます。	
通貨オプションの変更	選択したフィールドの通貨オプションを変更します。
パーセント	フィールドの値をパーセント表示にします。
カンマ	選択したフィールドにカンマ (,) を使用します。
小数部を長く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を増やします。
小数部を短く	選択したフィールドに表示する小数点以下の桁数を減らします。
表示グループ	
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にすることができます。
ミッシングの非表示	値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。
集計	ドロップダウンメニューを開き、集計オプションのいずれかを選択します。これらのオプションには、[なし] (デフォルト)、[集計]、[平均]、[件数]、[件数 (種類)]、[件数に対するパーセント]、[固有値]、[最初の値]、[最後の値]、[最大]、[最小]、[合計]、[パーセント]、[行に対するパーセント]、[中央値]、[平方和の平均] があります。
条件スタイル	[条件付きスタイルルール] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、新しい条件付きスタイルを追加し、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用することができます。また、既存の条件付きスタイルを編集したり、条件付きドリルダウンを有効にしたりすることもできます。

コマンド	説明
WITHIN	レポート内で集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートフィールドではなく、ソートグループで表示フィールドの値を合計する際に、その値を操作することができます。
ピアグラフ	選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。
列	複数のグラフを表示する列数を指定することができます。1 から 512 までの値を指定します。デフォルト値は 1 です。このオプションは、[クエリデザイン] ウィンドウで [複数グラフ] コンポーネントを右クリックして選択することもできます。
リンクグループ	
ドリルダウン	[ドリルダウン] ダイアログボックスを開き、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。実行時のレポート出力でそのフィールドをクリックすると、指定した URL にリダイレクトされるか、指定したプロシジャが実行されます。ドキュメントモードでは、このオプションは無効です。

シリーズタブ

ドキュメントモードでは、[シリーズ] タブはグラフコンポーネントを選択した際に有効になります。

コマンド	説明
選択グループ	
シリーズドロップダウンリスト	現在のグラフで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	

コマンド	説明
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側、フィーラ線付き] です。 [データラベル詳細オプション] を選択すると、[ラベルフォーマット] ダイアログボックスが開いて、データラベルをさらに編集することができます。
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
数式	グラフの傾向線に関連付けられた数式を表示します。
折れ線グループ	
スムース	スムージング線を使用してグラフを描画します。 スムーシング線のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。

コマンド	説明
マーカー	ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。詳細は、194 ページの 「 マーカーの外観を変更するには 」 を参照してください。 マーカーのオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
円グループ	
注意：次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。	
展開	円項目を切り離します。
非表示	円項目を非表示にします。

ビジュアライゼーションのリボンコマンド

ビジュアライゼーションモードでビジュアライゼーションを作成、編集する際は、以下のタブおよびコマンドを使用してビジュアライゼーションをカスタマイズすることができます。

ホームタブ

コマンド	説明
クリップボードグループ	
貼り付け	クリップボードにコピーまたは配置したテキスト、レポート、グラフオブジェクトをビジュアライゼーションに貼り付けます。
切り取り	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトを切り取り、クリップボードに配置します。
コピー	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトをコピーし、クリップボードに配置します。

コマンド	説明
複製の作成	ビジュアライゼーション上のテキスト、レポート、グラフオブジェクトの複製を作成し、ドキュメントに配置します。
データグループ	
演算	ドロップダウンメニューからオプションを選択して、一時項目 (DEFINE) または一時項目 (COMPUTE) を作成することができます。
JOIN	[JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存 JOIN の編集と削除、JOIN へのデータソースの追加を行えます。また、データ混合を作成し、ローカルリソースまたはシステムリソースのデータを現在のデータソースに統合することもできます。
ビジュアルグループ	
挿入	新しいビジュアルを挿入します。[挿入] ボタンの左側をクリックすると、デフォルトビジュアルの積み上げ棒グラフが挿入されます。[挿入] ボタンの下向き矢印をクリックし、ビジュアルタイプ (グラフ、グリッド、テキスト) を指定して挿入することもできます。
変更	[ビジュアルの選択] メニューを開き、ビジュアライゼーションに追加したビジュアルのタイプ (グラフ、マップ、グリッド) を変更することができます。

コマンド	説明
入れ替え	ビジュアルに追加したデータの横方向と縦方向を入れ替えます。[入れ替え] オプションは、キャンバスに 1 つ以上のフィールドを追加した際に有効になります。[縦軸] および [横軸] フィールドコンテナにデータフィールドを追加した際に [入れ替え] をクリックすると、これらのデータフィールドの軸が入れ替わり、それぞれが反対の軸に表示されます。マトリックスグラフの場合も同様に、[入れ替え] をクリックすると、行と列が入れ替わります。[入れ替え] オプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、散布図、マトリックスマーカーグラフで使用できます。また、リストでも使用可能です。 **注意** ❏ キャンバスにフィールドを追加していない場合、[入れ替え] オプションは選択不可になります。 ❏ [入れ替え] オプションは、マップで使用できません。
クリア	現在のビジュアルをクリアします。分割ボタンを使用して、選択したコンポーネントをクリアするか、ビジュアライゼーション全体をクリアするかを選択することができます。ビジュアライゼーション全体の場合、キャンバス上のすべてのビジュアルがクリアされます。フィルタを作成している場合は、フィルタをクリアすることもできます。[クリア] ボタンは、キャンバス上でビジュアルを作成するまで有効になりません。
ストーリーボードグループ	
追加	現在のビジュアルまたはビジュアライゼーションのスナップショットを作成し、ストーリーボードに追加します。
表示	ストーリーボードを PowerPoint プレゼンテーションとして開き、ストーリーボードを表示するか、保存するかを選択することができます。すべてのストーリーボードは、Microsoft PowerPoint フォーマットで表示されます。

フォーマットタブ

コマンド	説明
レポートグループ	
テーマ	[テンプレート] ダイアログボックスを開き、リストのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。 また、リストに適用するスタイルテーマを選択することも、ドキュメントスタイルテーマ (アプリケーションテーマ) を選択して、作成されるビジュアライゼーションのすべてに適用するスタイルを指定することもできます。
見出し/脚注	[見出しと脚注] ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
総合計	リストオブジェクトの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。
行合計	このオプションは、ビジュアライゼーションモードではサポートされません。
機能グループ **注意：**これらのオプションは、リストまたはマップでは表示されません。ただし、[フレームと背景] は表示されます。	
参照	参照線メニューを開き、[Y 軸に参照線を追加] および [X 軸に参照線を追加] オプションを表示します。これらのオプションのいずれかを選択すると、[参照線] ダイアログボックスが開き、X 軸値または Y 軸値の設定、テキストの入力、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。

コマンド	説明
罫線	罫線メニューを開き、[横罫線] または [縦罫線] オプションを表示します。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] を選択すると、[罫線のフォーマット] ダイアログボックスが開きます。
フレームと背景	[フレームと背景] ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。このダイアログボックスには、選択したグラフタイプに応じてさまざまなオプションが表示されます。
ラベルグループ	
軸	軸ニューを開き、横軸および縦軸の [ラベルの表示]、[ラベルを交互に表示] (横軸のみ)、および [ラベルの回転] を選択することができます。また、[横軸詳細オプション] または [縦軸詳細オプション] を選択して、軸ラベルを編集することもできます。このオプションは、リストまたはマップでは表示されません。
凡例	凡例メニューを開き、[凡例の表示] オプションを選択してグラフに凡例を表示することができます。また、このオプションの選択を解除して凡例に非表示にすることもできます。さらに、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。このオプションは、マップでは表示されますが、リストでは表示されません。
インタラクティブグループ **注意：**リストおよびマップの場合、これらのオプションは表示されません。	
インタラクティブオプション	[インタラクティブオプション] ダイアログボックスを開き、グラフでのアニメーションの表示、マウスオーバー効果、およびスクロールを指定することができます。

表示タブ

コマンド	説明
表示グループ	
リソース	リソースパネルを最小化し、リソースパネルが表示されていた領域までキャンバスを拡張します。[リソース] ボタンを再度クリックすると、リソースパネルが再表示され、グラフ、マップ、リストのサイズもそれぞれ調整されます。
データグループ	
論理	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
リスト	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
構造	データソースファイルの階層構造を表示します。構造表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
レポートグループ	
レポート切替	現在開いているレポート、グラフ、ドキュメントのリストから、アクティブにする項目を選択します。

フィールドタブ

コマンド	説明
フィルタグループ	
注意：[フィールド] タブで使用可能なオプションは、選択したビジュアルタイプに応じて異なります。	
フィルタ	フィルタを作成するための [フィルタの作成] ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。
条件の解除	[フィルタ] ウィンドウで既存のフィルタを選択し、[条件の解除] をクリックすると、そのフィルタが削除されるのではなく、ビジュアルから除外されます。
条件の設定	[フィルタ] ウィンドウで既存のフィルタを選択し、[条件の設定] をクリックすると、ビジュアルから除外されていたフィルタが再設定されます。
ソートグループ	
昇順	一連のフィールドをタイプ別に表示します。これがデフォルト表示です。論理表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス] があります。
降順	一連のフィールドを表形式でリスト表示します。このリストには見出し行があります。列見出しのいずれかをクリックして、さまざまな方法でフィールドをソートすることができます。リスト表示のオプションには、[タイトル]、[説明]、[フィールド]、[エイリアス]、[フォーマット]、[セグメント]、[ファイル名]、[参照] があります。
グループ	[グループの作成] ダイアログボックスを開いて、複数の値を統合するためのグループを作成することができます。このオプションは、リストの作成時にディメンションをクリックした場合に有効になります。
表示グループ	

コマンド	説明
フィールドの非表示	選択したフィールドを非表示にします。
集計	指定したフィールドの集計オプションを指定します。よく使用するオプションとして、[集計]、[平均]、[件数]、[最小]、[最大] があります。
選択条件	選択したフィールドの条件付きスタイルを指定します。

シリーズタブ

コマンド	説明
選択グループ **注意：**リストの場合、このグループは表示されません。マップの場合、このグループは使用不可になります。	
シリーズドロップダウンリスト	現在のビジュアライゼーションで使用されているシリーズのリストを表示します。
スタイルグループ	
スタイル	[シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] を選択する方法でも開くことができます。
プロパティグループ	
データラベル	グラフにデータラベルを追加します。ドロップダウンメニューを開き、グラフ上でデータ値をラベルとして表示する位置を指定するオプションを選択します。これらのデータ位置オプションには、[上] (デフォルト)、[上端]、[上端の下]、[中央揃え]、[下] があります。円グラフの場合のオプションは、[円項目上]、[円項目の外側]、[外側、フィーラ線付き] です。

コマンド	説明
グラフ	ドロップダウンメニューを開き、別のグラフタイプを選択するオプションを表示し、[なし] (デフォルト)、[棒グラフ]、[折れ線グラフ]、[面グラフ] のいずれかを選択することができます。
傾向線	ドロップダウンメニューを開き、グラフに傾向線を追加するオプションを選択することができます。
折れ線グループ	
スムース	スムージング線を使用してグラフを描画します。 スムーシング線のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
接続線	折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。
マーカー	ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。詳細は、194 ページの 「 マーカーの外観を変更するには 」 を参照してください。 マーカーのオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
円グループ **注意：**次のオプションは、円グラフを作成、編集する場合にのみ使用できます。	
展開	円項目を切り離します。
非表示	円項目を非表示にします。

B

InfoAssist 警告メッセージの理解

ここでは、InfoAssist の警告メッセージについて説明します。

トピックス

- InfoAssist 警告メッセージ
- 未サポートの構文およびオブジェクト

InfoAssist 警告メッセージ

メッセージ	説明	OK	キャンセル
データソースを切り替えてよろしいですか? これにより、現在のレポートは削除されます。	この警告メッセージは、HOLD ファイルから作成したレポートを保存後、[データ] タブの [データソース] グループで [切り替え] をクリックし、ドロップダウンメニューから別のレポートを選択した際に表示されます。	現在のレポートが削除されます。	現在のレポートは保持されます。
データソースを追加してよろしいですか? これにより、現在のレポートは削除されます。	この警告メッセージは、HOLD ファイルから作成したレポートを保存後、[データ] タブの [データソース] グループで [追加] をクリックした際に表示されます。	現在のレポートが削除されます。	現在のレポートは保持されます。

メッセージ	説明	OK	キャンセル
プリンタ出力の構文が見つかりました。この機能はサポートされていません。レポートは PDF 出力に変換されます。	この警告メッセージは、HTML グラフアシスタントで作成されたプロシジャを開き、特定の条件に適合した場合に表示されます。	レポートが PDF フォーマットに変換されます。	プロシジャを開く処理が中断されます。
未サポートのグラフアプレット構文が見つかりました。サーバサイドグラフを使用するようレポートが変換されます。	この警告メッセージは、グラフアプレット構文が含まれたプロシジャを開く際に表示されます。	サーバサイドグラフを使用するようレポートが変換されます。	プロシジャを開く処理が中断されます。
未サポートのグラフエンジン OLD 構文が見つかりました。グラフエンジン NEW を使用するようレポートが変換されます。	この警告メッセージは、OLD グラフエンジン構文が含まれた既存のプロシジャを開く際に表示され、サポートされていない構文が検出されたこと、および NEW グラフエンジン構文を使用するようプロシジャが変換されることをユーザに提示します。	プロシジャの OLD グラフエンジンが NEW グラフエンジンに変換されます。	元のプロシジャはそのまま保持され、変更されずにプロシジャが閉じます。
未サポートのグラフタイプ構文が見つかりました。レポートはデフォルトグラフタイプに変換されます。	この警告メッセージは、既存のプロシジャを開き、特定の条件に適合した場合に表示されます。	デフォルトグラフタイプを使用するようレポートが変換されます。	デフォルトグラフタイプへのレポート変換はキャンセルされます。

メッセージ	説明	OK	キャンセル
このリクエストの [ユーザ選択] は、構成で許可されていません。レポートはデフォルト出力に変換されます。	この警告メッセージは、レポートを再度開く際に [ユーザ選択] オプションが使用できない場合や、グローバル設定で [ユーザ選択] オプションが無効になっている場合に、このオプションを有効にしたレポートを再度開く場合に表示されます。	デフォルト出力タイプを使用するようレポートが変換されます。	元のプロシジャはそのまま保持され、変更されずにプロシジャが閉じます。
ファイルは InfoAssist 以外で変更されています。続行しますか?	この警告メッセージは、InfoAssist で作成されたレポートの一部がテキストエディタで変更されている場合に表示されます。	変更されたプロシジャが InfoAssist で開きます。	警告メッセージを閉じ、WebFOCUS 開始ページに戻ります。

未サポートの構文およびオブジェクト

ここでは、サポートされない構文およびオブジェクトについて説明します。

- SUB-TOTAL 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャに SUB-TOTAL 構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、構文が SUBTOTAL に変換され、上位のすべてのソート区切りに変換後の構文が追加されます。
- SUMMARIZE 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャに SUMMARIZE 構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、構文が RECOMPUTE に変換されます。
- HTML FULL、FIXED、PAGED 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャにこれら 3 つの構文のいずれかが含まれており、そのプロシジャを InfoAssist で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、プロシジャが通常の HTML 出力に変換されます。

- COLUMN-TOTAL 構文はサポートされません。レガシーツールで作成された既存のプロシジャにこの構文が含まれており、そのプロシジャを InfoAssist で開くと、構文がサポートされていないことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、RECOMPUTE 構文を使用するようプロシジャが変換されます。
- レガシーツールからインポートされた複合ドキュメントの線オブジェクトはサポートされません。線オブジェクトが含まれた既存のプロシジャを開くと、構文がサポートされていなことを示す警告メッセージが表示されます。操作を続行すると、これらの線オブジェクトが削除されます。

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of TIBCO Software Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, FOCUS, iWay, Omni-Gen, Omni-HealthData, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of TIBCO Software Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. TIBCO SOFTWARE INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of TIBCO Software Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (https://www.tibco.com/patents) for details.

Copyright © 2021. TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.